



配筋標準図

1. 1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

- (1) 一般事項
  - (ア) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図1.4による。
  - (イ) 梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(1)(イ)による。

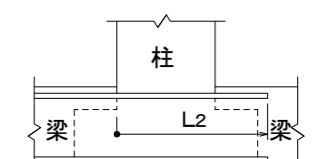


図1.1 梁筋の基礎梁内への定着

(2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長

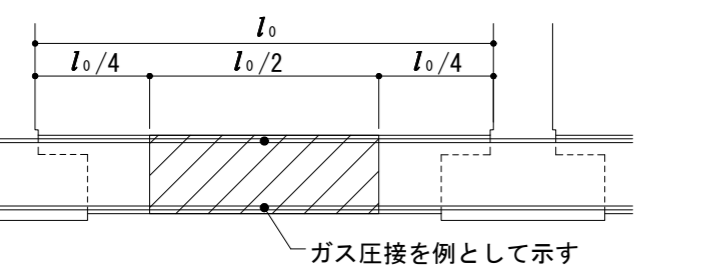
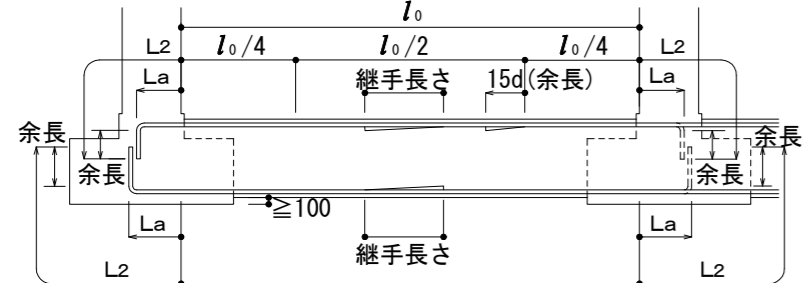


図1.2 主筋の継手、定着及び余長 (その1)

- 図示のない事項は、3.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- $L_a$  の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

(3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長

ただし、耐圧スラブが付く場合は、(4)による。

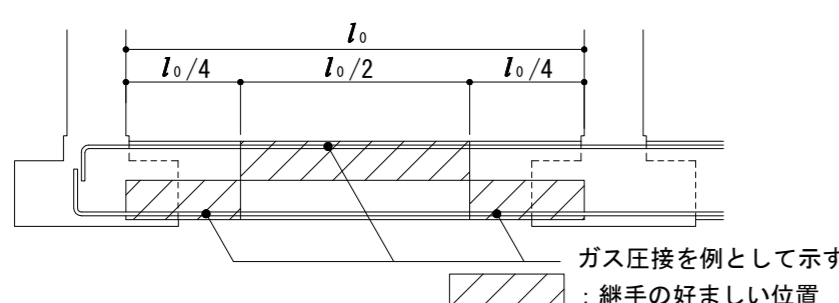
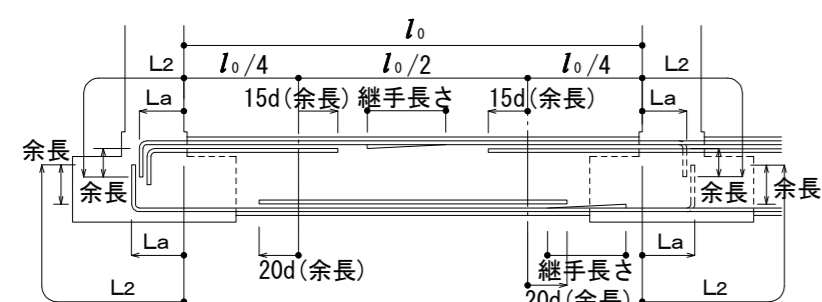


図1.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

- 図示のない事項は、3.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- $L_a$  の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長 (耐圧スラブがつく場合を含む)

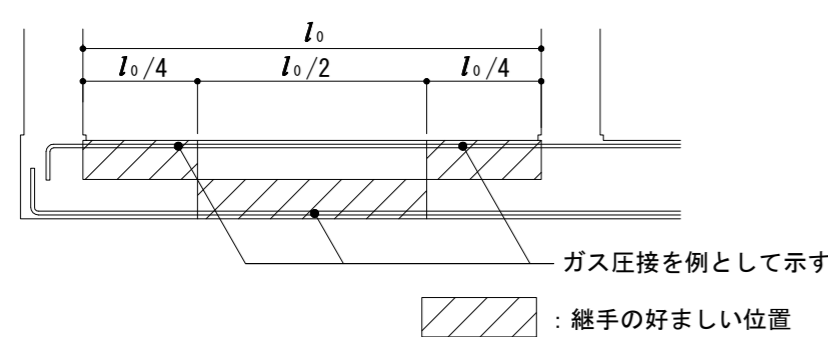
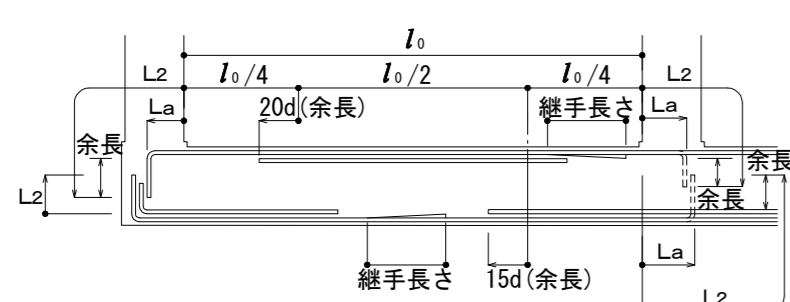


図1.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

- 図示のない事項は、3.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- $L_a$  の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

1. 2 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、3.2(1)による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図1.5によることができる。

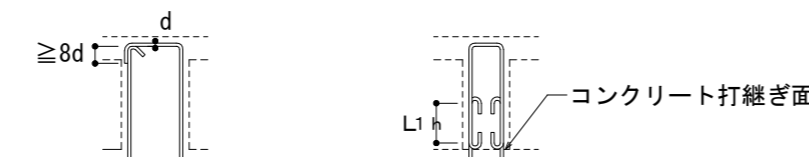


図1.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

2. 1 柱主筋の継手、定着及び余長

(1) 柱主筋の継手及び定着の一般事項

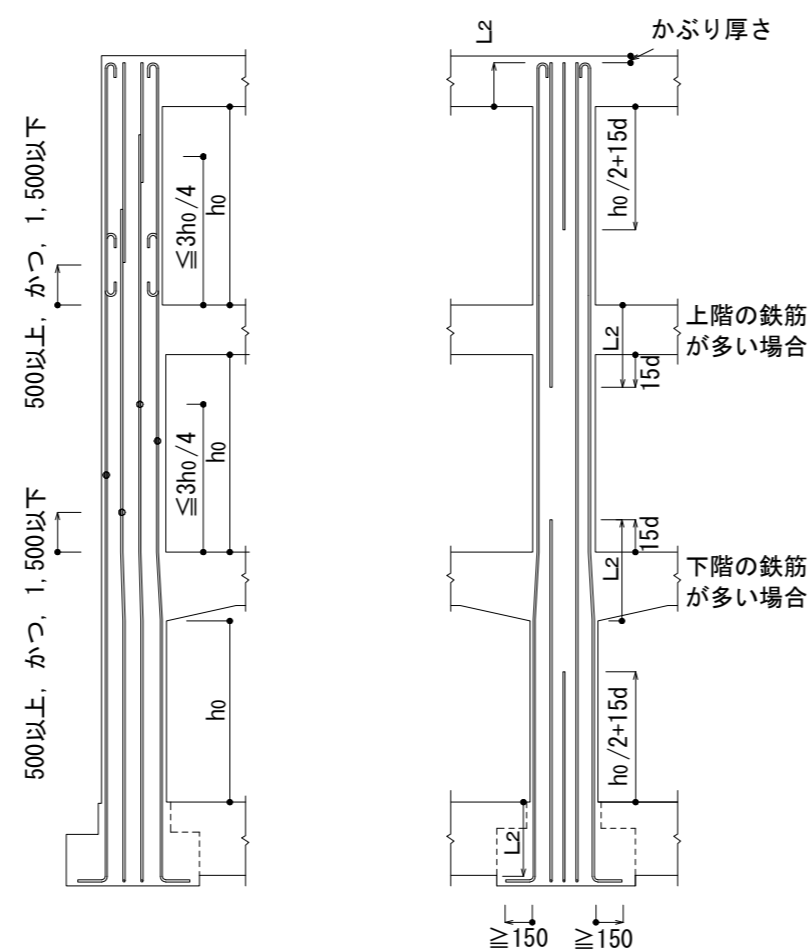


図2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 隣り合う継手の位置は、標準仕様書(表5.3.3)による。
- 柱頭定着長さ  $L_2$  が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
- 柱頭柱主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。

(2) 柱打増し部

- (a) 打増し部分に、壁、梁、スラブ筋等がとりつく場合は、壁、梁、スラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
- (b) 土に接する柱周囲の打増しは図2.2による。

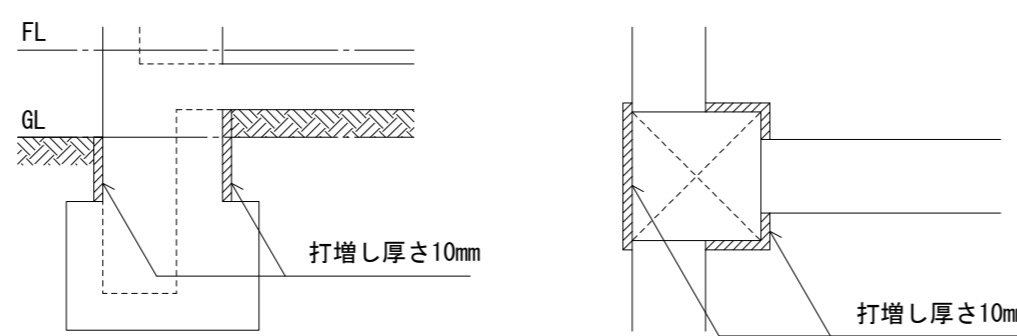
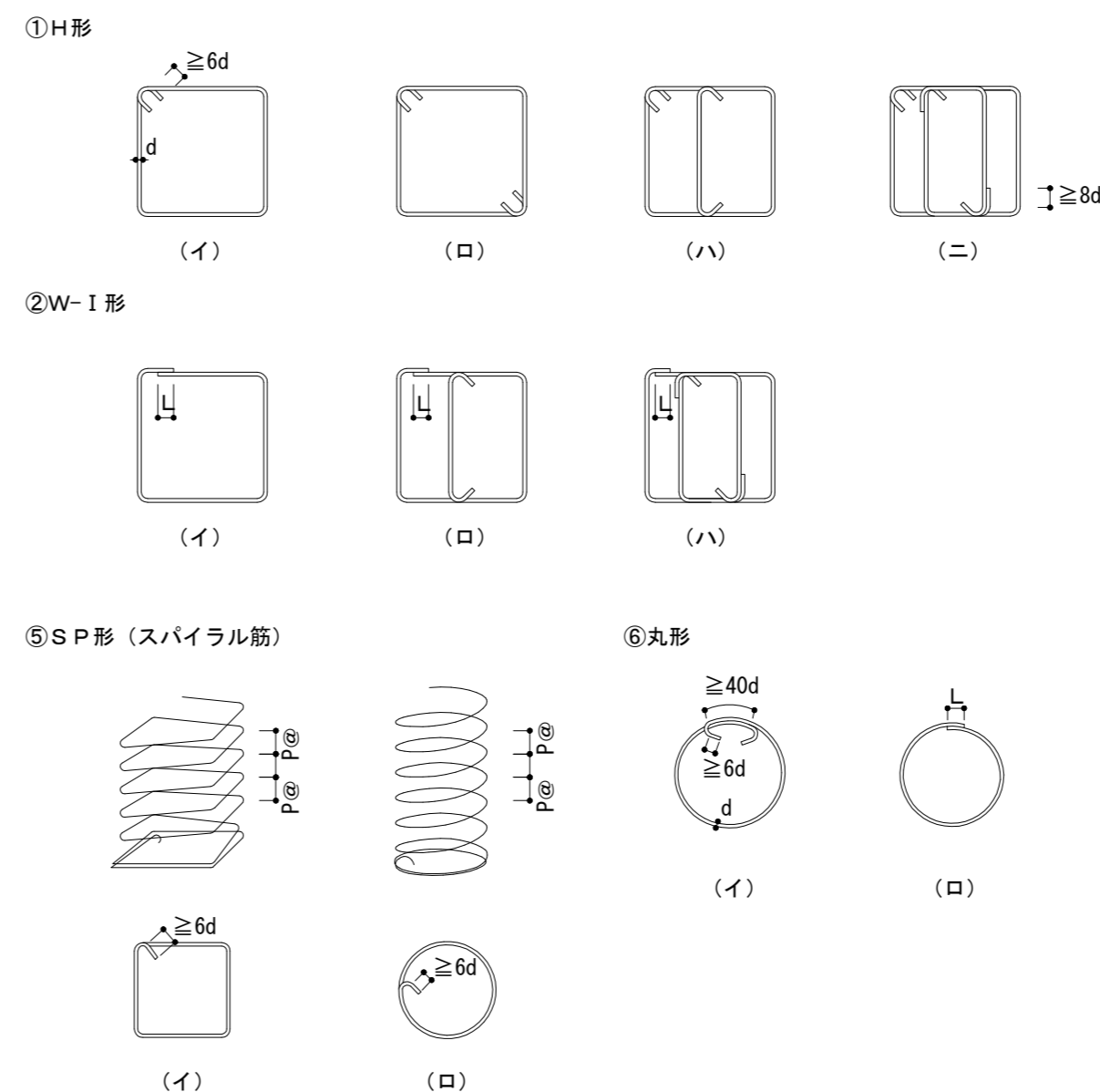


図2.2 柱打増し部

2. 2 帯筋組立の形及び割付け



- H形を標準とする。
- フック及び接手の位置は、交互とする。
- 溶接は、鉄筋の組立前に行う。
- 溶接する場合の溶接長さ  $L$  は、両面重ねアーク溶接(フレア溶接)の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接(フレア溶接)の場合は10d以上とする。
- SP形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の添巻を行う。
- H形の135° 曲げフックが困難な場合は、W-1形とする。

図2.3 帯筋組立の形

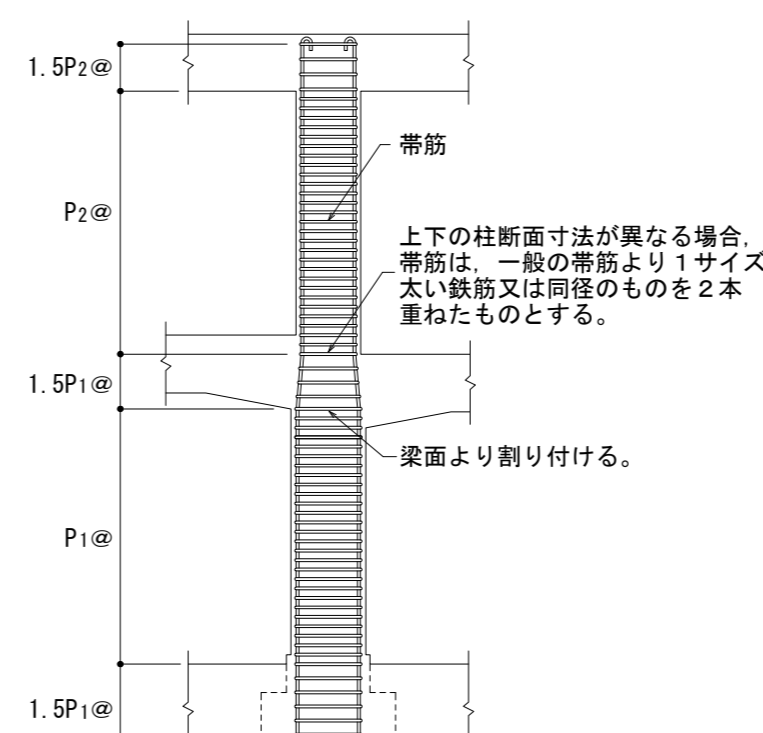


図2.4 帯筋の割付け

- 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@または1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

3. 1 大梁主筋の継手、定着及び余長

- (1) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
  - (ア) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(イ)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図3.1による。

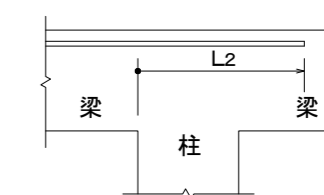


図3.1 梁主筋の梁内定着

- (イ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
  - なお、定着の方法は、標準仕様書(5.3.4(5)(イ))による。
  - 上端筋 : 曲げ際ろす。
  - 下端筋(一般) : 原則として曲げ上げる。
  - 下端筋(ハンチ付) : 原則として曲げ上げる。
- (ウ) 段違い梁は、図3.2による。

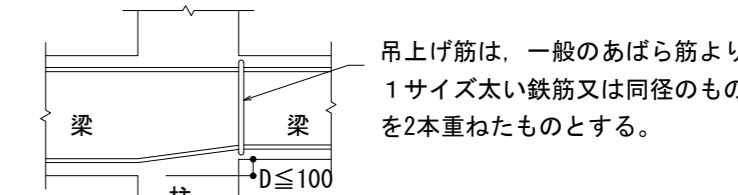


図3.2 段違い梁

(2) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長

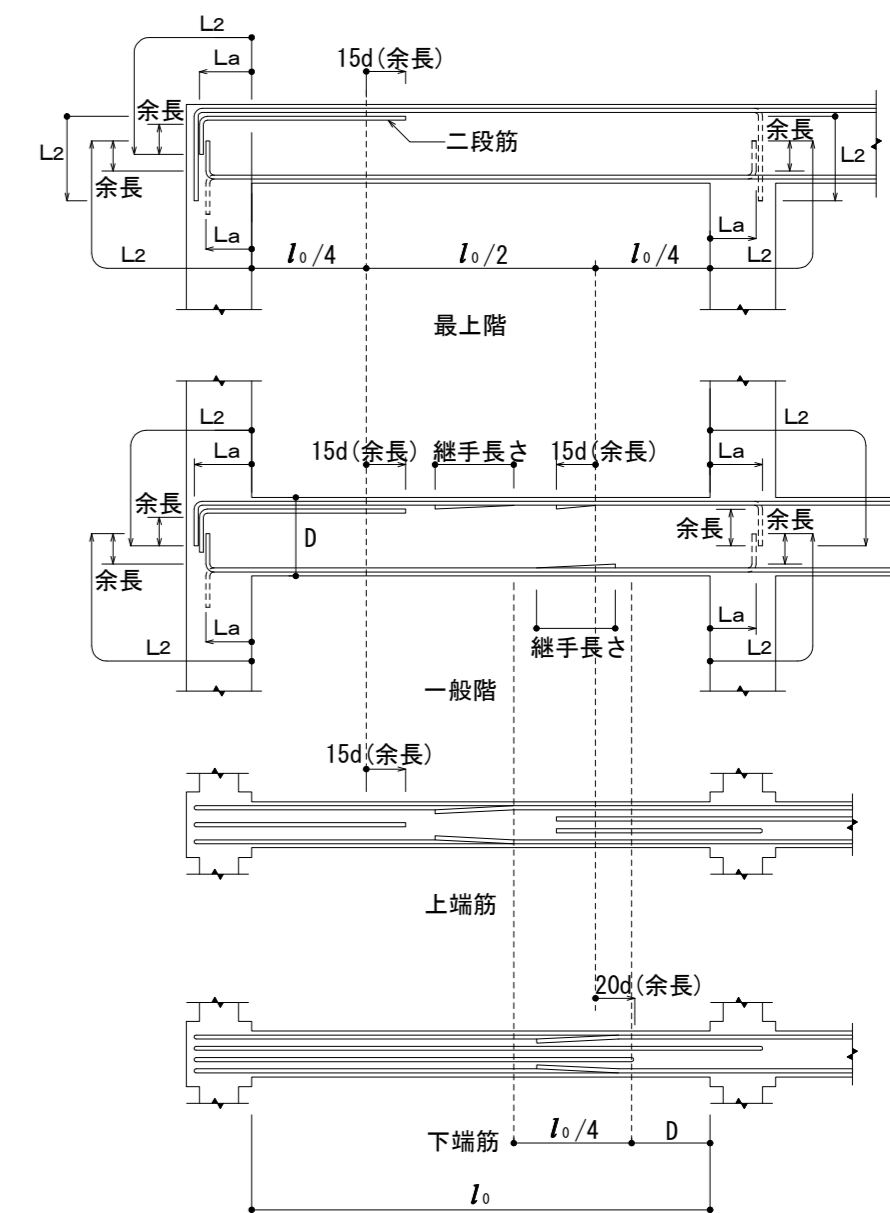


図3.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

- 継手中心位置は次による。
  - 上端筋 - 中央  $I_0/2$  以内
  - 下端筋 - 柱面より梁せい(D)以上離し、 $I_0/4$ を加えた範囲以内
- 標準仕様書(5.3.2(2)(イ))で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- $L_a$  の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

(3) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長

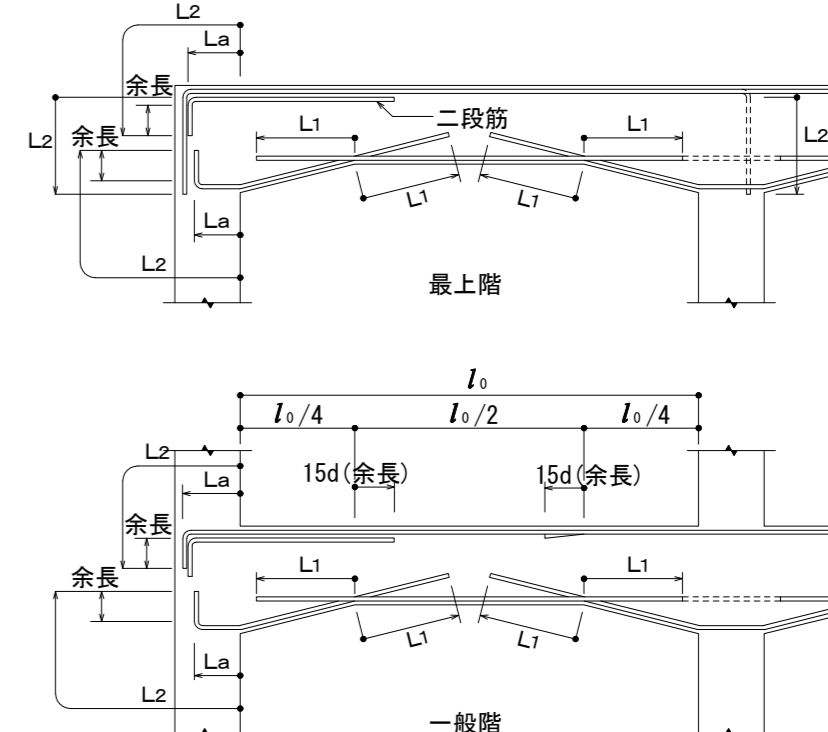


図3.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

- 標準仕様書(5.3.2(2)(イ))で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- $L_a$  の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

明石市政策局 企画・調整室

〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号  
南浦 琢磨  
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号  
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号  
田中 智

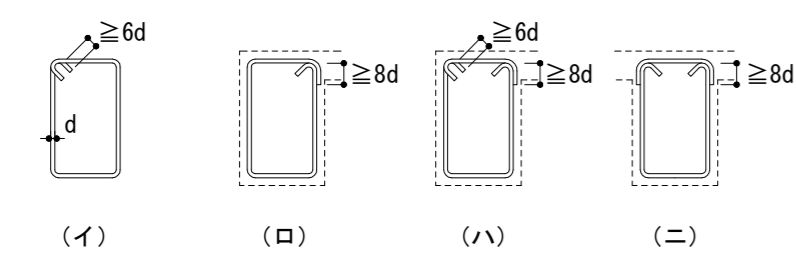
明石市役所新庁舎建設工事

B 建築工事  
02 配筋標準図(1)  
安井建築設計事務所

最終版 2024.3.25  
見積版 2024.3.25  
最終契約版

3.2 あばら筋（小梁、片持梁、基礎梁含む）の組立て形及び割付け等

(1) あばら筋組立の形及びフックの位置

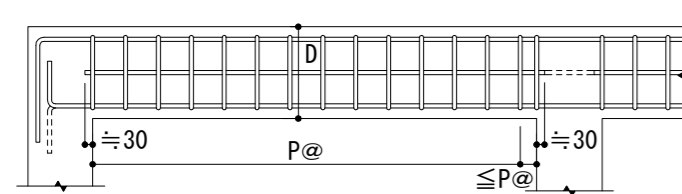


- (イ) 形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

図3.5 あばら筋組立の形

(2) あばら筋の割付け

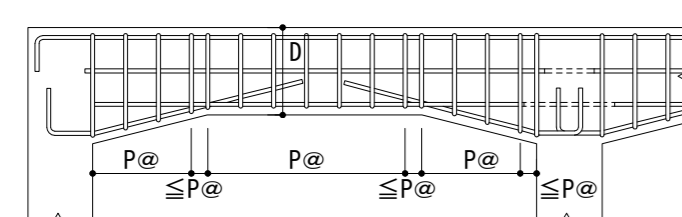
(ア) 間隔が一律でハンチのない場合



- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中P@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.6 あばら筋の割付け (その1)

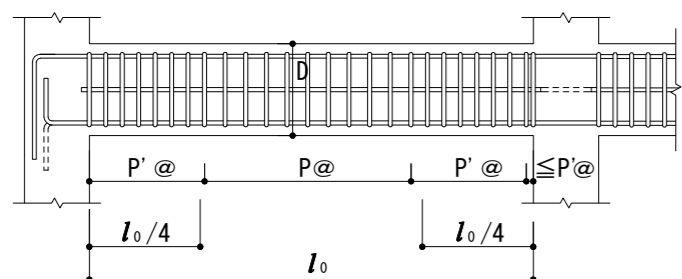
(イ) 間隔が一律でハンチがある場合



- あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
- 図中P@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.7 あばら筋の割付け (その2)

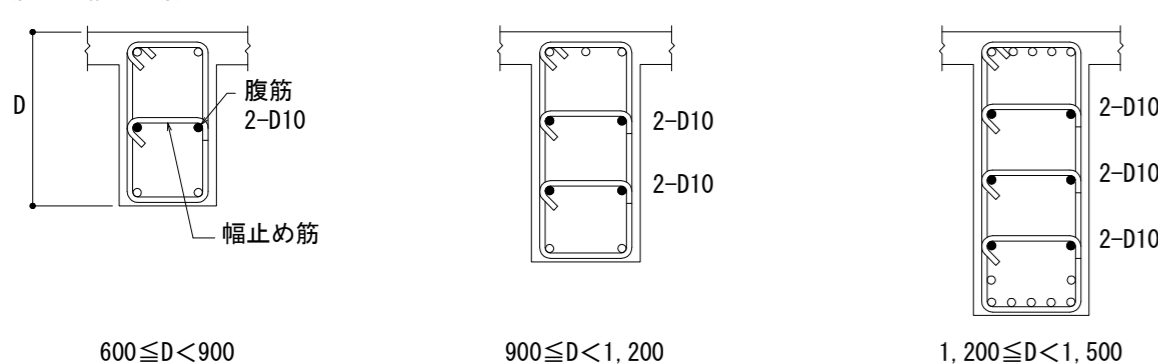
(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合



- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中P@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.8 あばら筋の割付け (その3)

(3) 腹筋及び幅止め筋



- 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図3.9 腹筋及び幅止め筋

3.4 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合

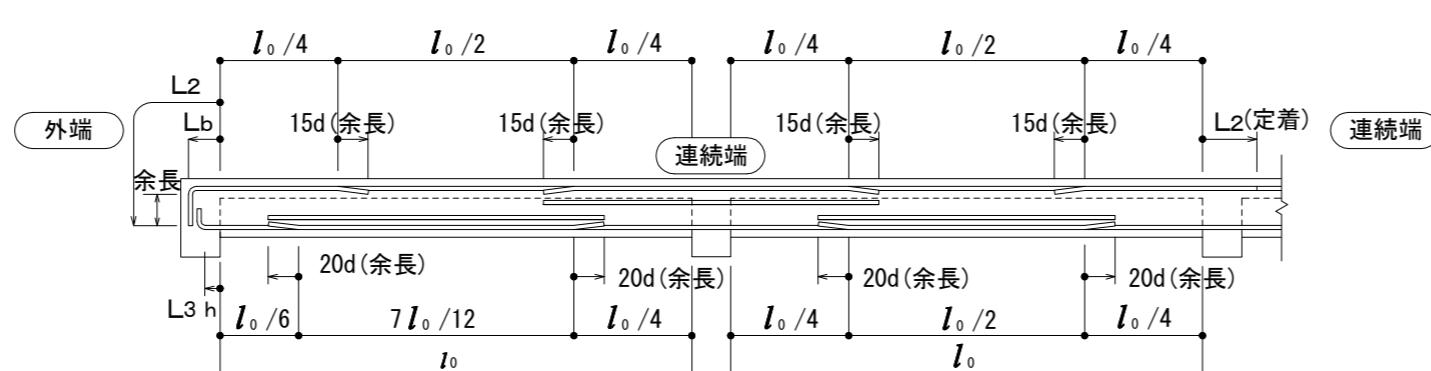
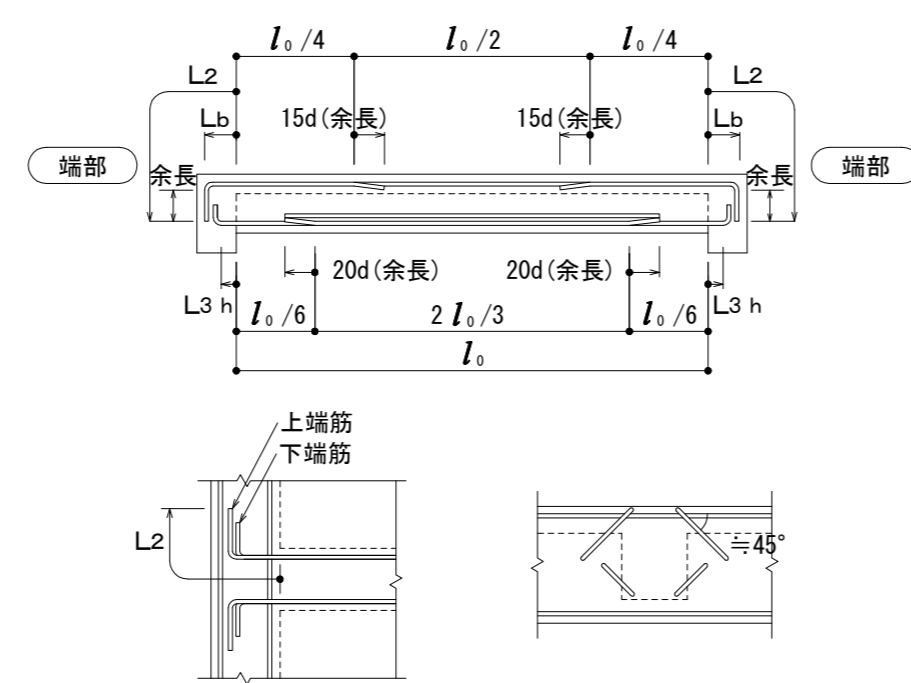


図3.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

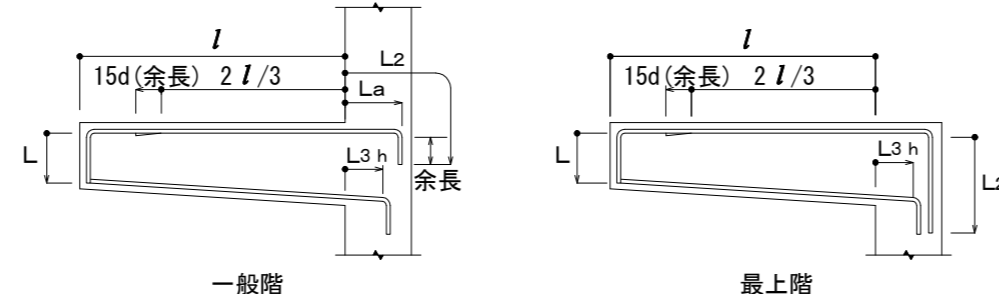
(2) 単独小梁の場合



- 印は、余長位置を示す。
- 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしても良い。
- 図示のない事項は、1.3及び3.11に準ずる。
- L3hを確保できない場合は、標準仕様書(5.3.4(5)(f))によることができる。

3.5 片持梁主筋の継手、定着及び余長

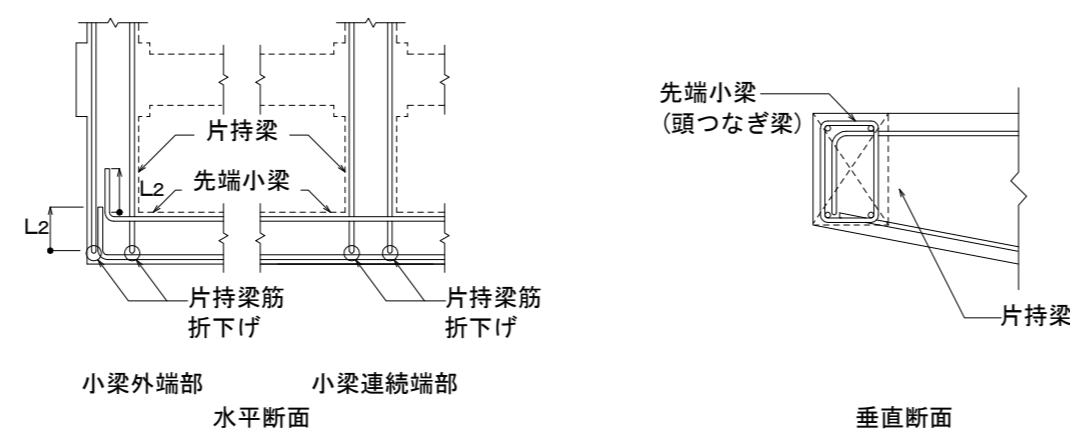
(1) 先端に小梁のない場合



- 印は、余長位置を示す。
- 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
- 図時のない事項は、3.11による。
- Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- L3hを確保できない場合は、標準仕様書(5.3.4(5)(f))によることができる。

図3.12 片持梁主筋の定着及び余長

(2) 先端に小梁がある場合



- 図示のない事項は、(1)による。
- 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図3.13 片持梁主筋の定着

4.1 壁の配筋

(1) 壁の配筋は表4.1による。

表4.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(2) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表4.2による。

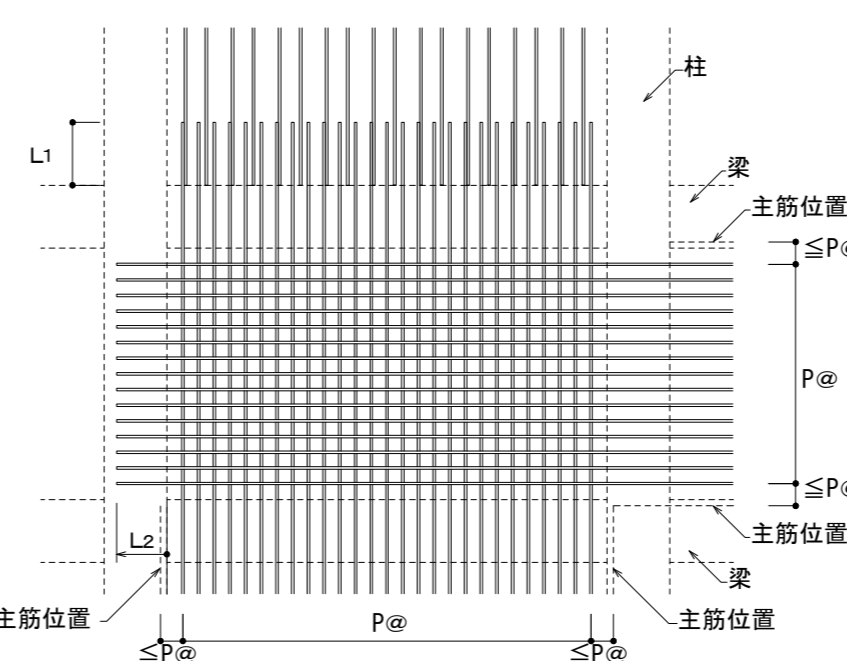
表4.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表6.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	KA1
	横筋	D10-200@ダブル	KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	KA2
	横筋	D10-200@ダブル	KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(3) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

4.2 壁の継手及び定着



- 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
- 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とし、鉄筋の継手位置は柱・梁以外とする。
- 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。

図4.1 壁の配筋

4.3 壁の交差部及び端部の配筋

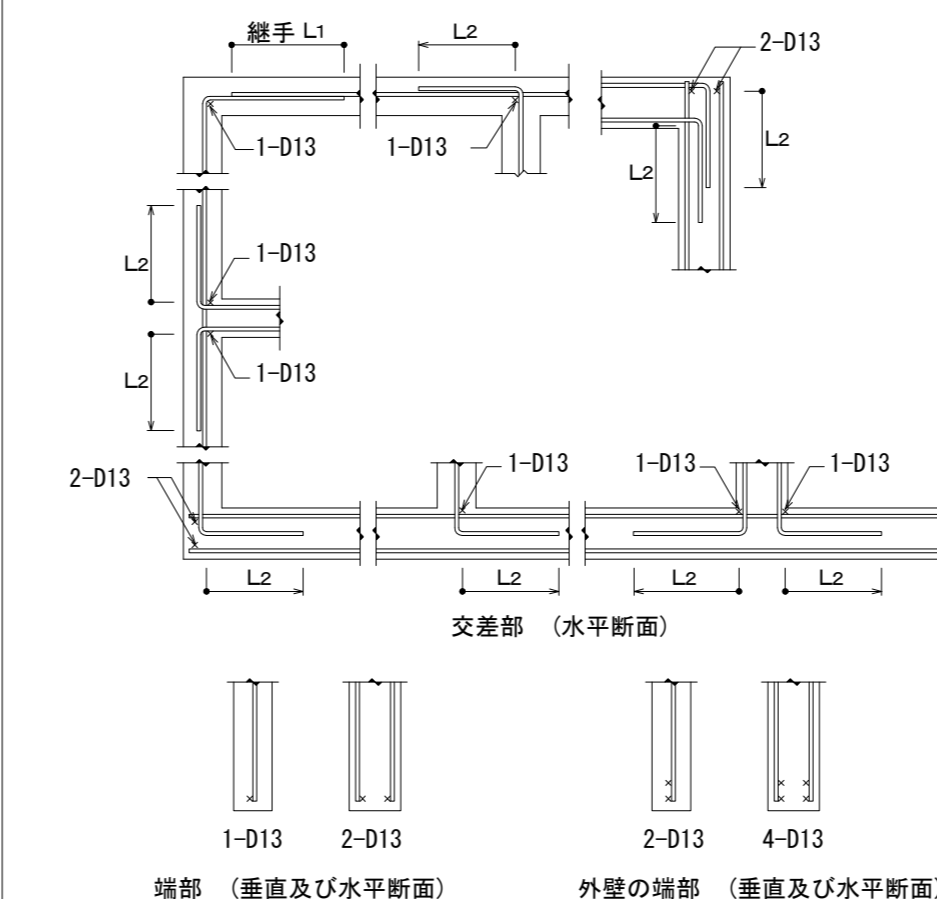


図4.2 壁の交差部及び端部の配筋

4.4 壁の開口部補強

(1) 耐震壁を除く開口部の補強筋は、A形は表4.3、B形は表4.4とする。

表4.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表4.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。

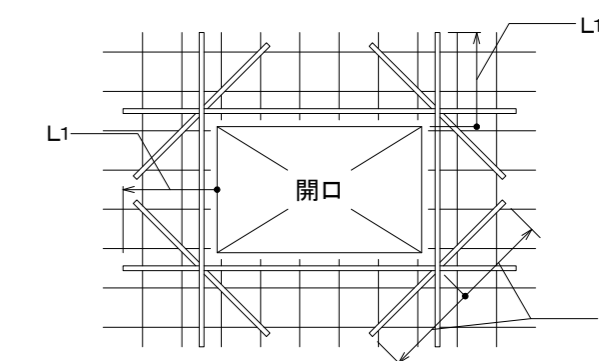


図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ

- 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

4.5 パラベット

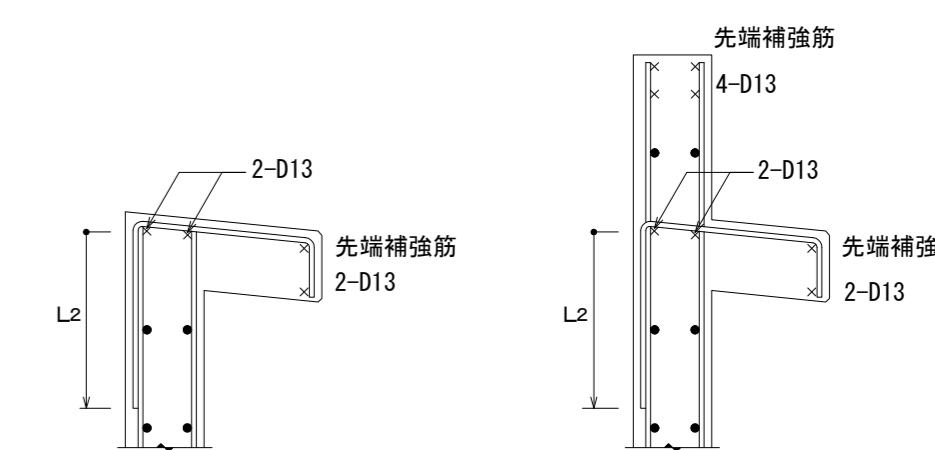


図4.4 パラベットの配筋

### 5.1 スラブの配筋

表5.1 スラブの配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150#	D10-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上	D10-200#
S 3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#	D10, D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上	D10-200#
S 5	同上	D10, D13-150#	S12	同上	D10-250#
S 6	同上	D10-150#	S13	D10-200#	D10-200#
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上	D10-250#

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。  
2. 鉄筋の重ね継手長さは、 $L_1$ とする。  
3. 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。

図9.1 スラブの配筋

### 5.2 スラブ筋の定着及び受け筋

図5.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

一般スラブの場合

耐圧スラブの場合

### 5.3 片持スラブの配筋

表5.2 CS形配筋

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100#	CS5	上 D10-200#
	下 D13-200#		下 D10-400#
CS2	上 D13-150#	CS6	上 D10, D13-200#
	下 D13-300#		下 —
CS3	上 D10, D13-150#	CS7	上 D10-200#
	下 D10, D13-300#		下 —
CS4	上 D10, D13-200#		
	下 D10-200#		

図5.4 片持スラブの配筋 (CS1 から CS5)

図5.5 片持スラブの配筋 (CS6 及び CS7)

1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。  
2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

### 5.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

図5.6 先端に壁が付く場合の配筋

垂れ壁のない場合

垂れ壁のある場合

### 5.5 スラブの開口部の補強

図5.7 スラブ開口部の補強配筋

1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ( $I=2L_1$ ) シングルを上下筋の内側に配筋する。  
2. スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。  
3. スラブ開口の最大径が700mm以下の場合に限る。

### 5.6 出隅部及び入隅部の補強

(1) 屋根スラブの出隅及び入隅部

1. 補強筋を上下筋の下側に配置する。

図5.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(2) 片持スラブの出隅部

1.  $I_1 \geq I_2$ とする。  
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に  $L_1$  定着する。

図5.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

### 5.7 スラブの打継ぎの補強等

(1) 土間スラブの打継ぎ補強 (基礎梁とスラブを一体打ちとしなくて、打継ぎを設ける場合の補強を示す。)

図5.10 打継ぎ補強配筋

1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。  
2.  $a$ が300mm以下の場合に限る。

(2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

図5.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。  
2.  $a$ が300mm以下の場合に限る。

### 5.8 段差のあるスラブの補強

図5.12 段差のあるスラブの補強配筋

1. 150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

6.1 片持スラブ形階段の配筋

表6.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

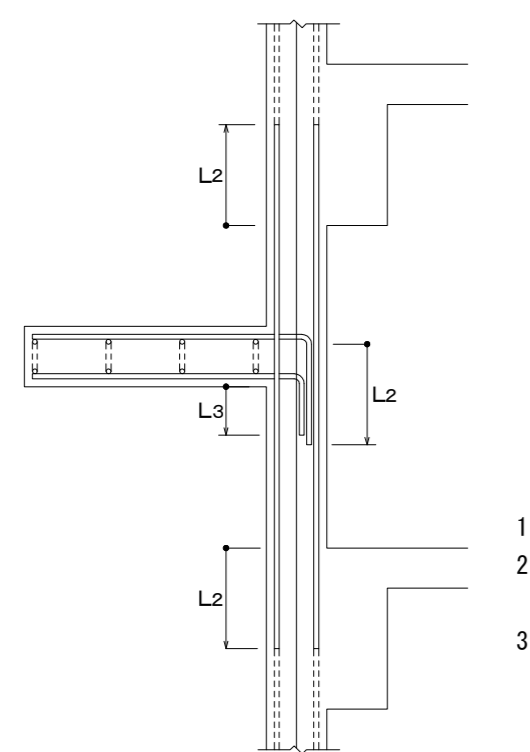


図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

1. 壁配筋は、4.1(2)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着長さは、標準仕様書(表5.3.4)のL<sub>3</sub>とする。

6.2 二辺固定スラブ形階段の配筋

表6.2 二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13、D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

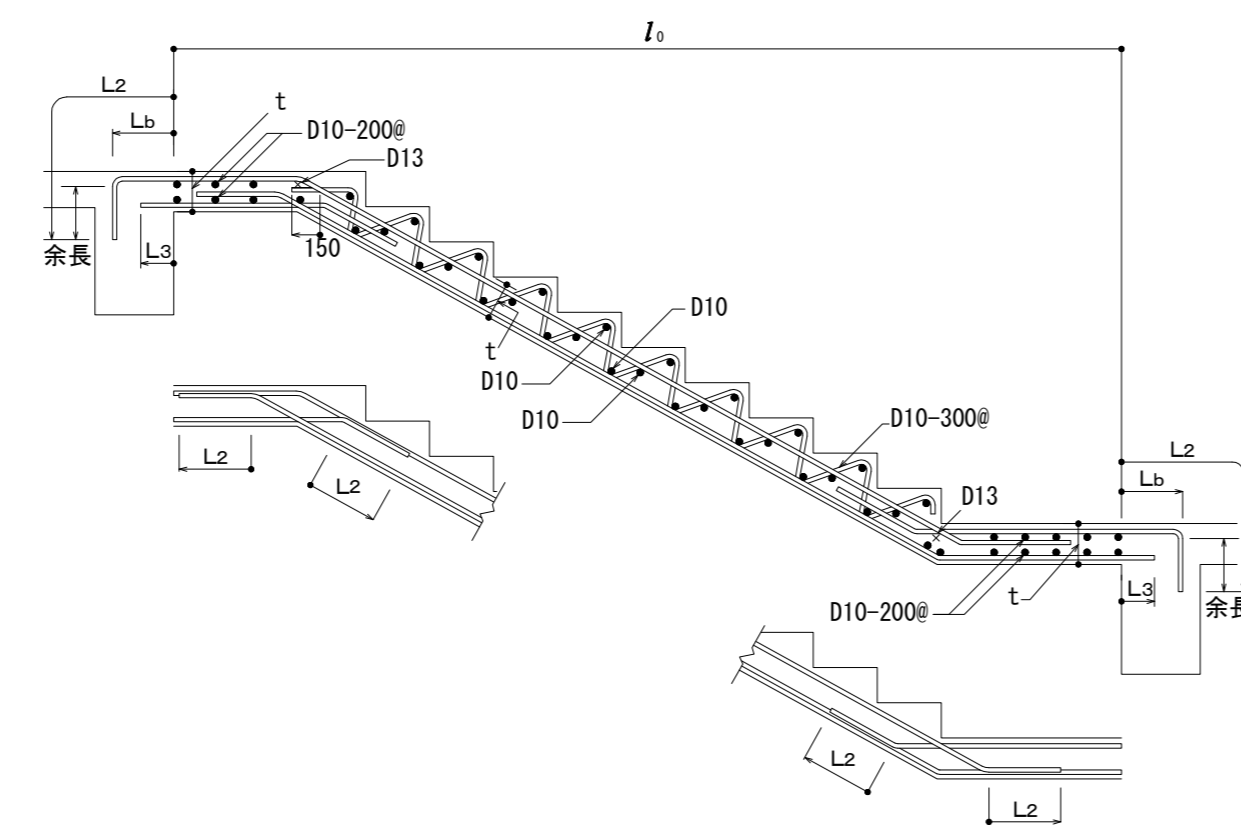
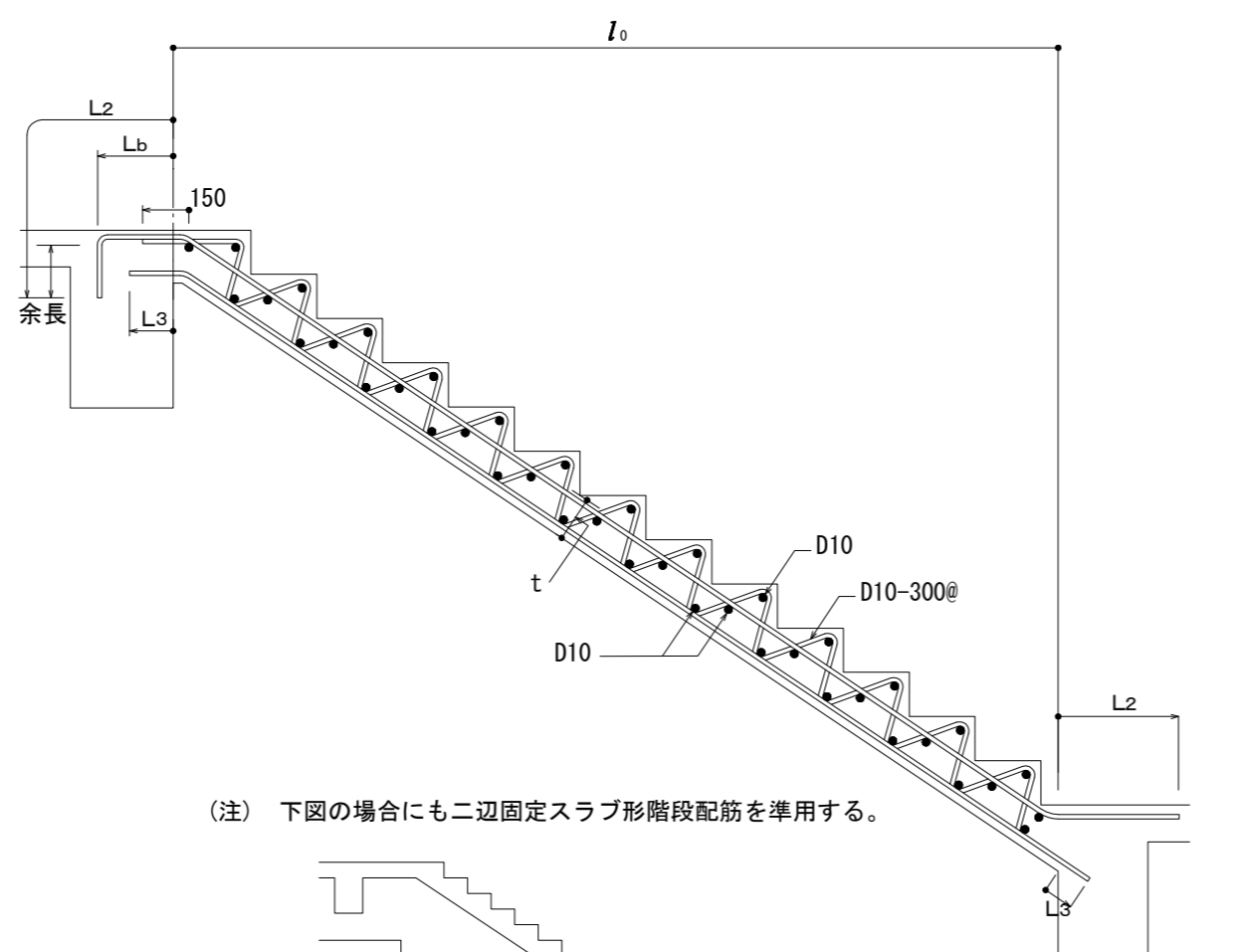


図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

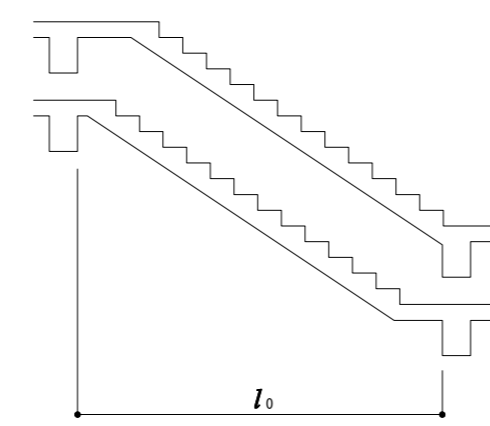


図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

7.1 梁貫通孔の配筋

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
- (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。
- (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- (12) 他の開孔を設けない範囲は、図7.3による。

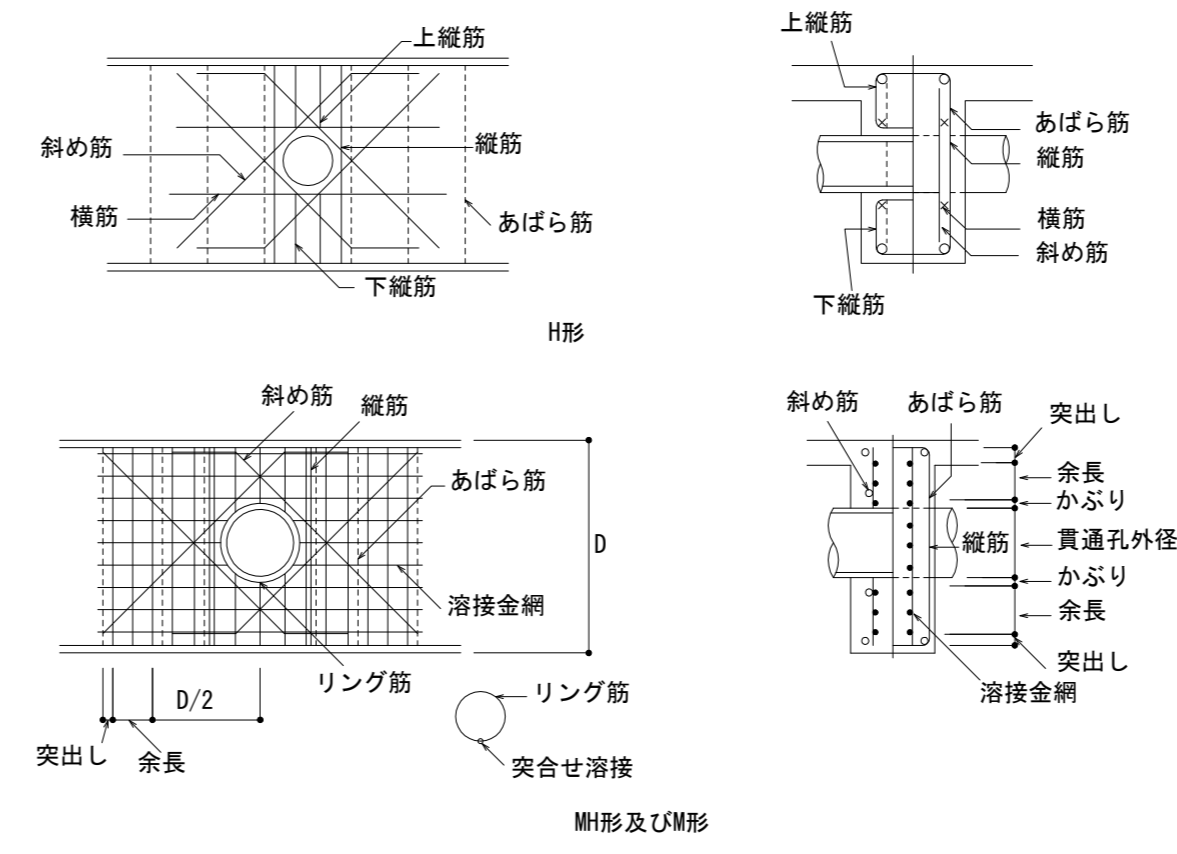


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

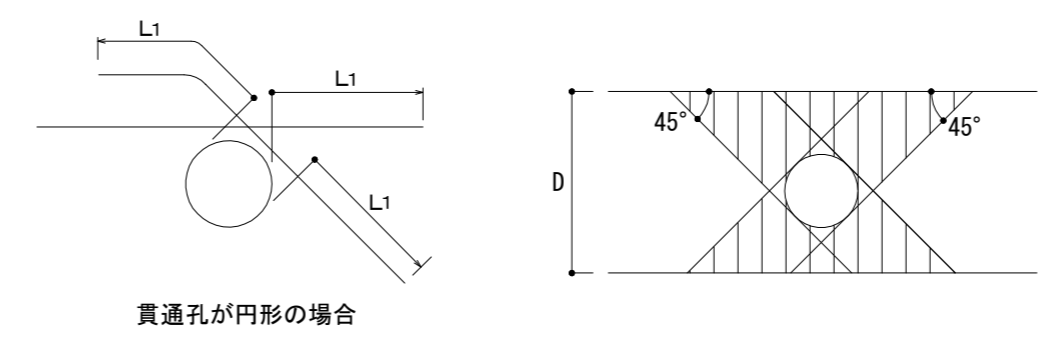


図7.2 補強筋の定着長さ 図7.3 他の開孔を設けない範囲

7.2 梁貫通孔の補強形式

表7.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

(注) ..... は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13	なし	
M3	4-2-D13	2-6φ-100#	
M4	6-2-D13	2-6φ-100#	

(注) ..... は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.3 M形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	なし	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH3	2-2-D13	なし	なし	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH5	4-2-D16	なし	なし	
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100#	

(注) ..... は、一般部分のあばら筋を示す。

7.3 コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配筋

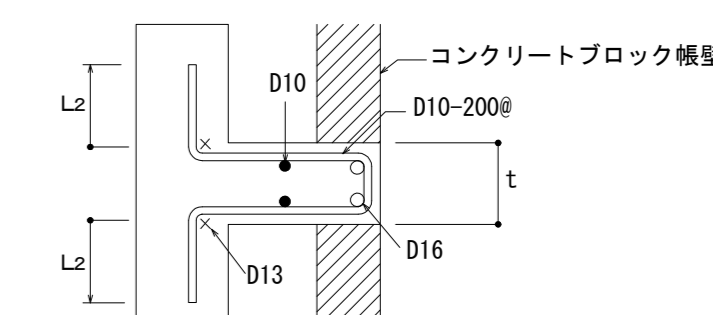


図7.3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

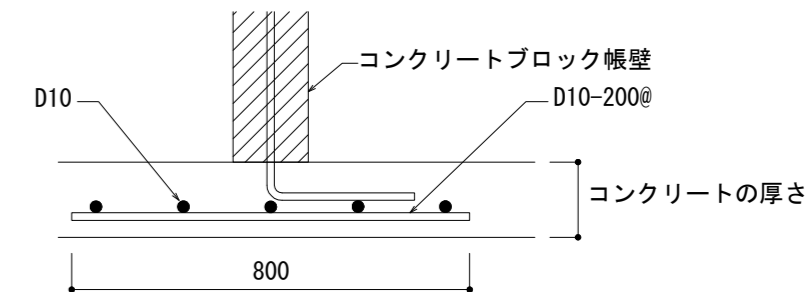


図7.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B 05	建築工事 配筋標準図(4) 安井建築設計事務所
		最終版	2024.3.25
		見積版	2024.3.25
		最終契約版	

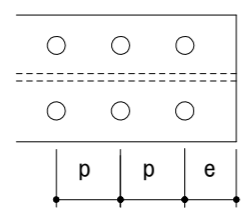
構造関係共通事項（鉄骨標準図）

1.1 縁端距離及びボルト間隔

(1) 縁端距離及びボルト間隔  
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。  
ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。  
また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

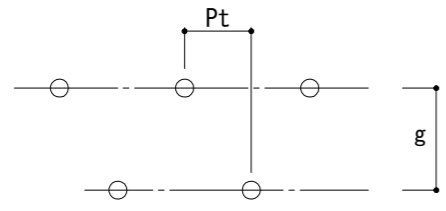


(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)

ゲージ	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	
g	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40



(3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

A又はB	g <sub>1</sub>		最大軸径	B		最大軸径	B		最大軸径
	g <sub>1</sub>	g <sub>2</sub>		g <sub>1</sub>	g <sub>2</sub>		g <sub>1</sub>	g <sub>2</sub>	
45	25		12	100	56	16	50	30	12
50	28		16	125	75	16	65	35	20
60	35		16	150	90	22	70	40	20
65	35		20	175	105	22	75	40	22
70	40		20	200	120	24	80	45	22
75	40		22	250	150	24	90	50	24
80	45		22	300	150	24	100	55	24
90	50		24	350	140	24	70	24	
100	55		24	400	140	24	90	24	
125	50	35	24						
130	50	40	24						
150	55	55	24						
175	60	70	24						
200	60	90	24						

※1 千鳥打ちとした場合

1.2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

T型継手の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	

部材が直交しない場合の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
6 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	

かど継手の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19	
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	

隅肉溶接の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16	
16 < t ≤ 40	

隅肉溶接のサイズ (単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準 (単位: mm)

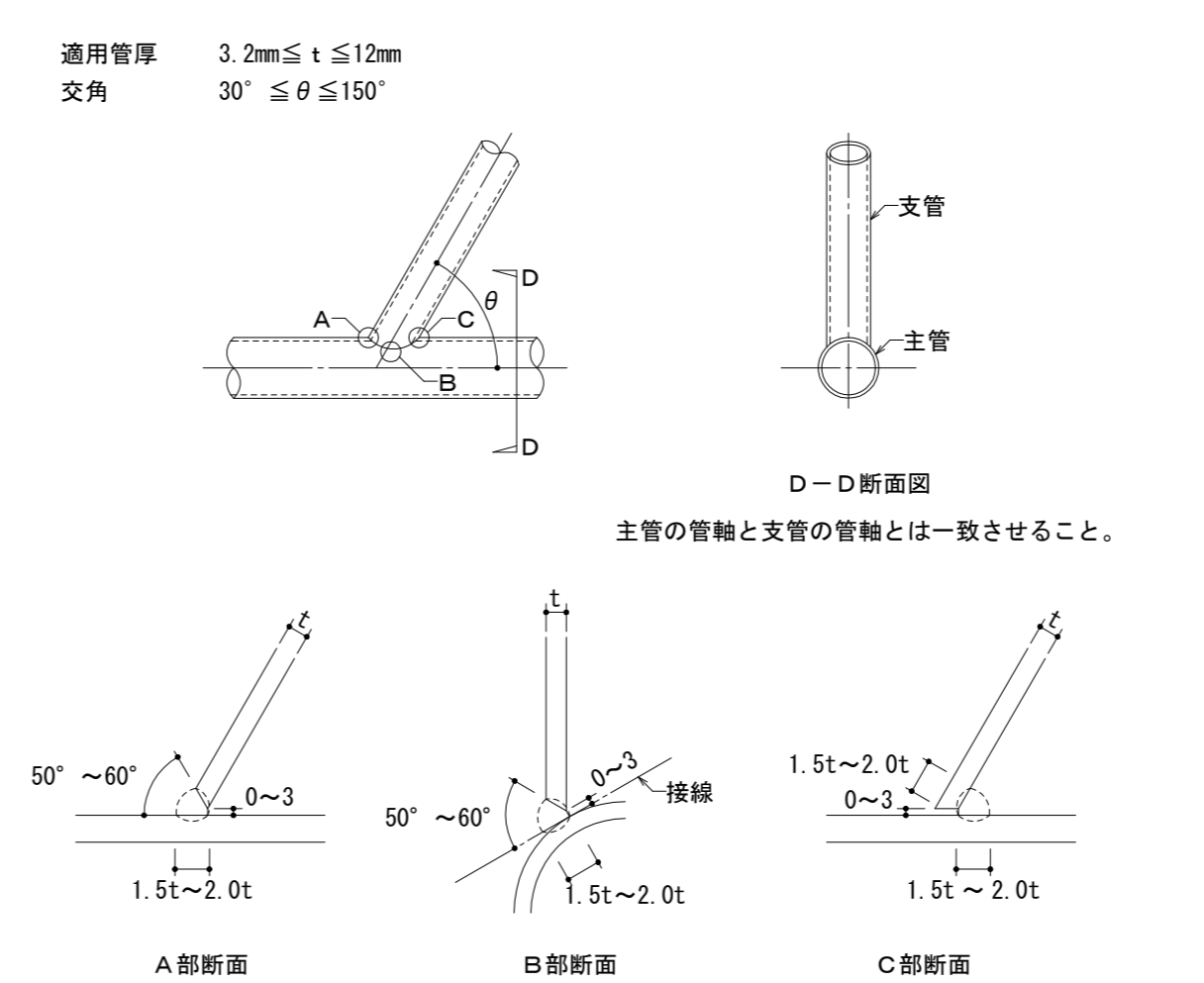
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40	
16 ≤ t ≤ 40	

重ねアーク溶接 (フレア溶接) の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)
t ≥ 3のとき S = t t < 3のとき S = 3			

1.3 鋼管分岐継手詳細

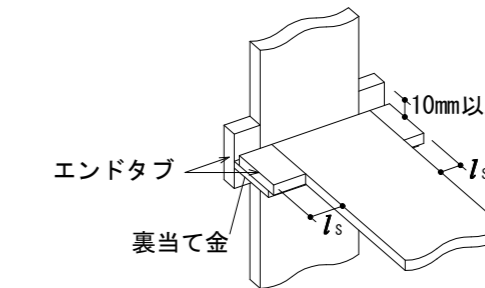
自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。 (単位: mm)



1.4 鉄骨溶接施工

(1) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。

(2) エンドタブ  
エンドタブの形状は母材と同厚、同開先のものとする。



エンドタブの長さ (単位: mm)

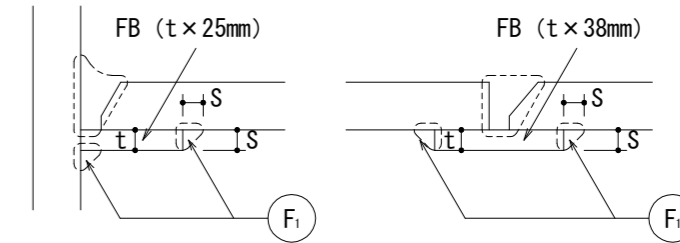
溶接方法	l <sub>s</sub>
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

(3) 裏当て金

裏当て金の溶接

(ア) 裏当て金の組立溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。

(イ) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ (単位: mm)

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)

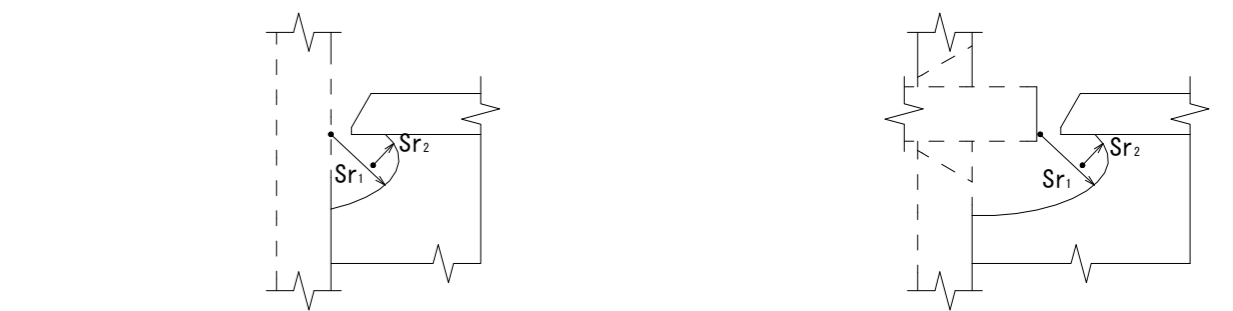
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

(4) スカラップ

改良型スカラップ

(ア) スカラップ半径 S<sub>r</sub> は35mmとする。S<sub>r</sub> は10mmとする。

(イ) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



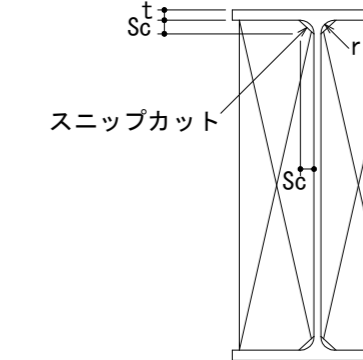
従来型スカラップ

スカラップ半径 S<sub>r</sub> は35mmとする。



(5) スニップカット

(ア) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



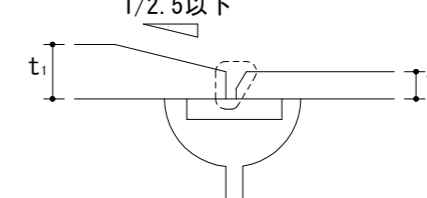
スニップカットの寸法 (単位: mm)

t	6	9	12	16以上
S <sub>c</sub>	10	12	14	15

ただし、既製形鋼のスニップカットについては、S<sub>c</sub> = r + 2により求めるものとする。

(6) 溶接部分の段差

(ア) 完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合又は低応力高サイクル疲労を受ける場合、1/2 S以下



(7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	パス間温度 (°C)
400N級炭素鋼 (STKR, BCR及びBCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15	40以下	350以下
		YGW-18, 19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	40以下	350以下
		T490Tx-yMA-U	30以下	450以下
		T550Tx-yCA-U		
T550Tx-yMA-U				
490N級炭素鋼 (STKR及びBCPを除く。)	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ	40以下	350以下
		G49AOU-NCC, NCCCT等		
	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15	30以下	250以下
YGW-18, 19		40以下	350以下	
JIS Z 3313		T490Tx-yCA-U	30以下	250以下
		T490Tx-yMA-U	40以下	350以下
T550Tx-yCA-U				
T550Tx-yMA-U				
JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	
	JIS Z 3315	G49AOU-CCJ	40以下	350以下
G49AOU-NCC, NCCCT等				
520N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U	30以下	250以下
JIS Z 3313	T550Tx-yMA-U	40以下	350以下	
	T550Tx-yCA-U			
400N級炭素鋼 (STKR, BCR及びBCPIに限る。)	JIS Z 3312	YGW-11, 15	30以下	250以下
		YGW-18, 19	40以下	350以下
JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	30以下	250以下	
	T490Tx-yMA-U	40以下	350以下	
T550Tx-yCA-U				
T550Tx-yMA-U				
490N級炭素鋼 (STKR及びBCPIに限る。)	JIS Z 3312	YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U		
T550Tx-yMA-U				

### 1.6 梁貫通孔補強

(1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。  
 (ア) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せい $H$ の1/2以下かつ鉄筋コンクリートの梁せい $D$ の1/3以下とする。  
 (イ) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)

H: 鉄骨せい  
 D: 梁せい  
 $\phi$ : 貫通孔内径寸法  
 ( $\phi \leq H/2$ , かつ,  $\phi \leq D/3$ )

(2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。  
 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。  
 補強プレート法  
 (ア) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。  
 (イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

$I_1$  は3 $\phi$ 又は $I_2$ のうち小さい方とする。(e $\geq H$ とする)  
 e: 材端と補強プレートの間隔

補強トラス法  
 スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。

$I_1$  は3 $\phi$ 又は $I_2$ のうち小さい方とする。(e $\geq H$ とする)  
 e: 材端と補強トラスの間隔

### 1.5 重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ (L) は、ビートの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた長さとする。

L: 片面フレア溶接の場合 10d  
 両面フレア溶接の場合 5d

La 及び Lb は1d (軽量形鋼については1S) 以上  
 d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値  
 S: 溶接のサイズ

### 1.7 その他

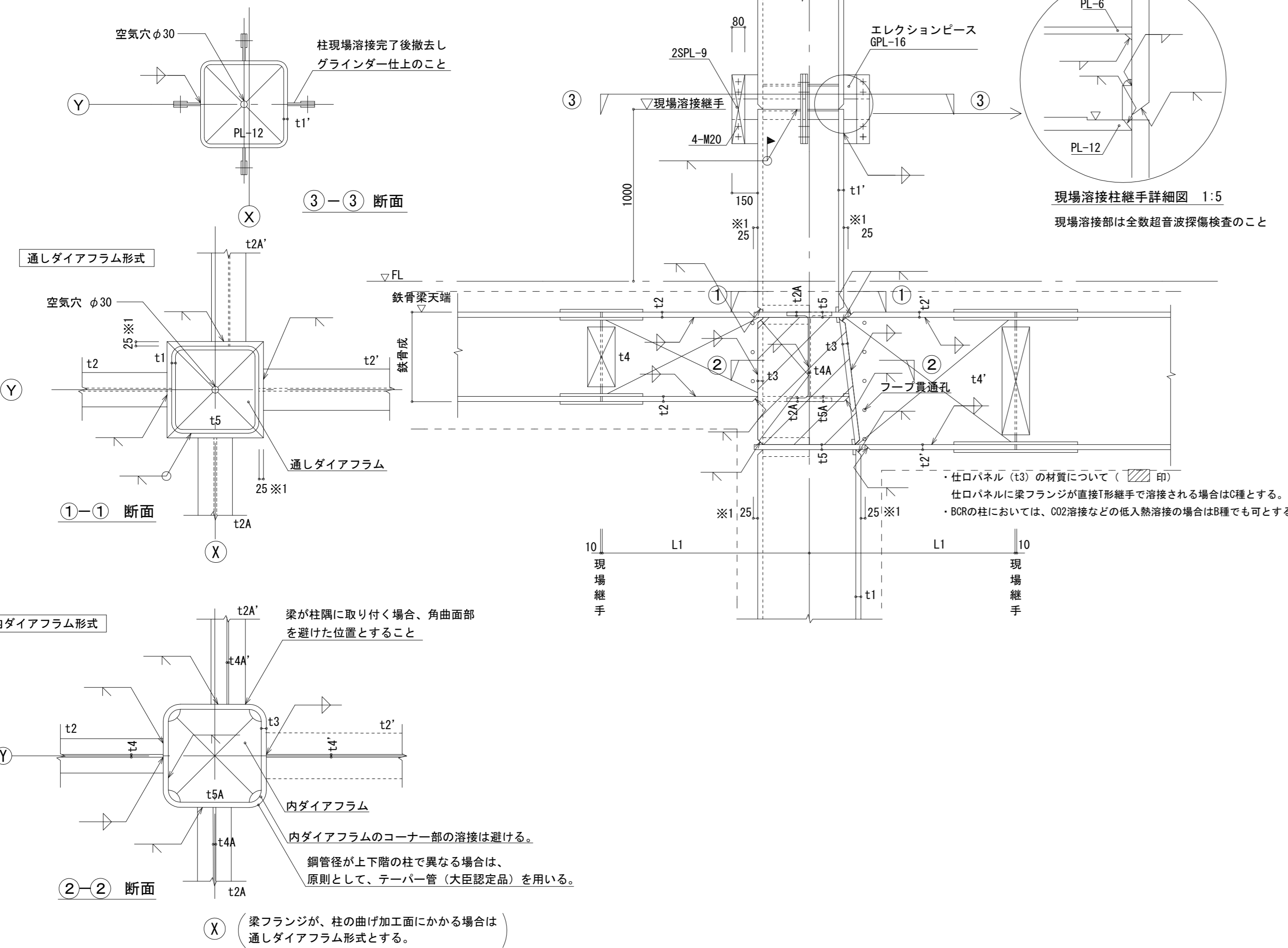
- 広幅平鋼の取扱い  
 BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
- フィラープレートの材質  
 フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。
- もや、胴縁類の取付け用ボルト  
 もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は、二重ナットとする。

明石市政当局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者>	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
<構造設計者>	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	07	鉄骨規準図 (2)
			安井建築設計事務所
			最終版 2024.3.25
			最終契約版

鉄骨標準図 (3) [SRC造]

仕口部の溶接 1:20

- (注) 仕口部にはスカーラップを設けないことを原則とする。
- 冷間成形角形鋼管の角部へのピースの取り付け要領は以下による。
  - 柱梁接合部から1.5D (D:柱成) へは取り付けない。
  - ショートビードとなる溶接は避ける。
- 柱梁仕口部の成は取付く大梁成の公差およびダイアフラムの歪折れ・溶接縮みなどを考慮して製作すること。
- 施工者はエリクシオンピース・仮設ピースに関する安全性およびディテールを検討し、確認、決定した上で施工を行うこと。その上で本規準と異なる場合は監理者に確認を得ること。



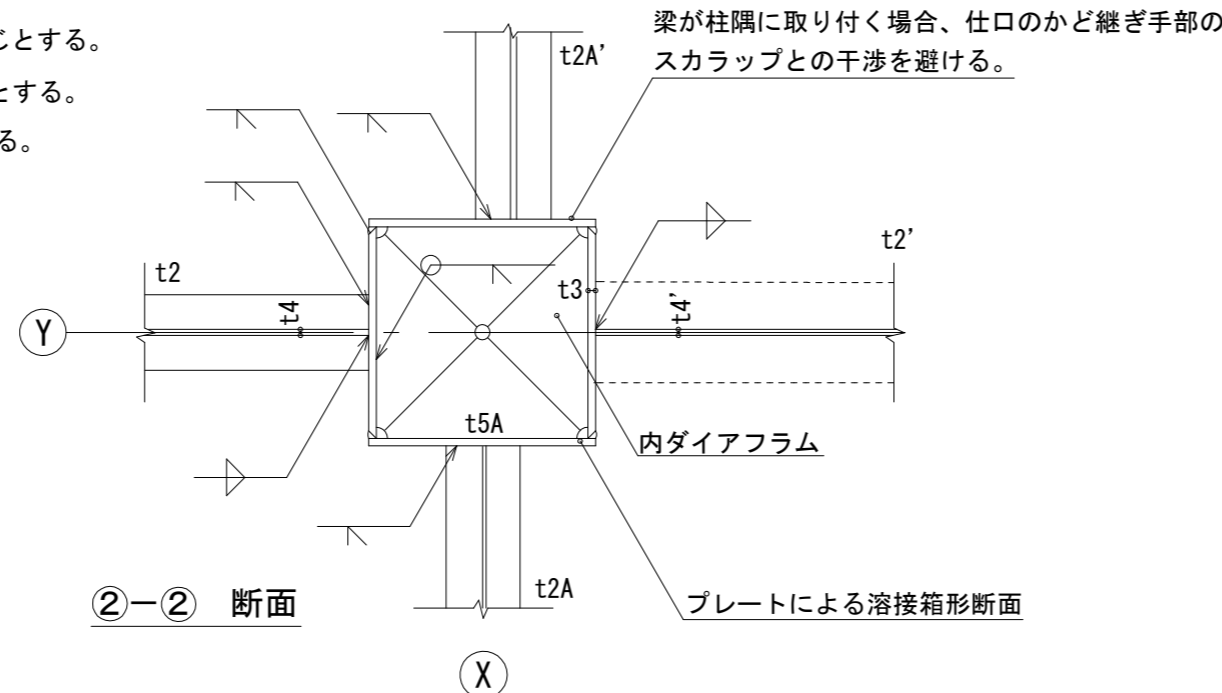
仕口部分の材質・板厚

ダイアフラム材質・強度 材質はC種とする。ただし、内ダイアフラムとなる場合はB種とする。強度は柱梁の鋼材のうち、最も高強度の材料と同じとする。  
 t5: 通しダイアフラムに取り合う梁フランジ (t2, t2A, t2', t2A') のうち最大の板厚の2サイズ (6mm以上) アップとする。  
 t5A: 内ダイアフラムに取り合う梁フランジ (t2, t2A, ...) のうち最大の板厚の2サイズ (6mm以上) アップとする。

仕口パネル部の材質・強度 上下の柱鋼管と同じB種とする。また、強度は上下柱と同強度以上のものを使用する。  
 ただし、仕口パネルに段違い梁のフランジが直接取り付く場合は、材質はC種とする。  
 t3: 上下の柱鋼管厚 (t1, t1') の厚い方とし、かつ、かつ寄り合う梁のウェブ板厚 (t4, t4A, ...) 以上とする。  
 ただし、仕口パネルを4面プレート加工により製作する場合の板厚は以下による。  
 1) 柱鋼管がBGR材の場合は上下の柱鋼管厚 (t1, t1') の厚い方の1サイズ以上とする。  
 2) 柱鋼管がBCP材の場合は上下の柱鋼管厚 (t1, t1') の厚い方の2サイズ以上とする。

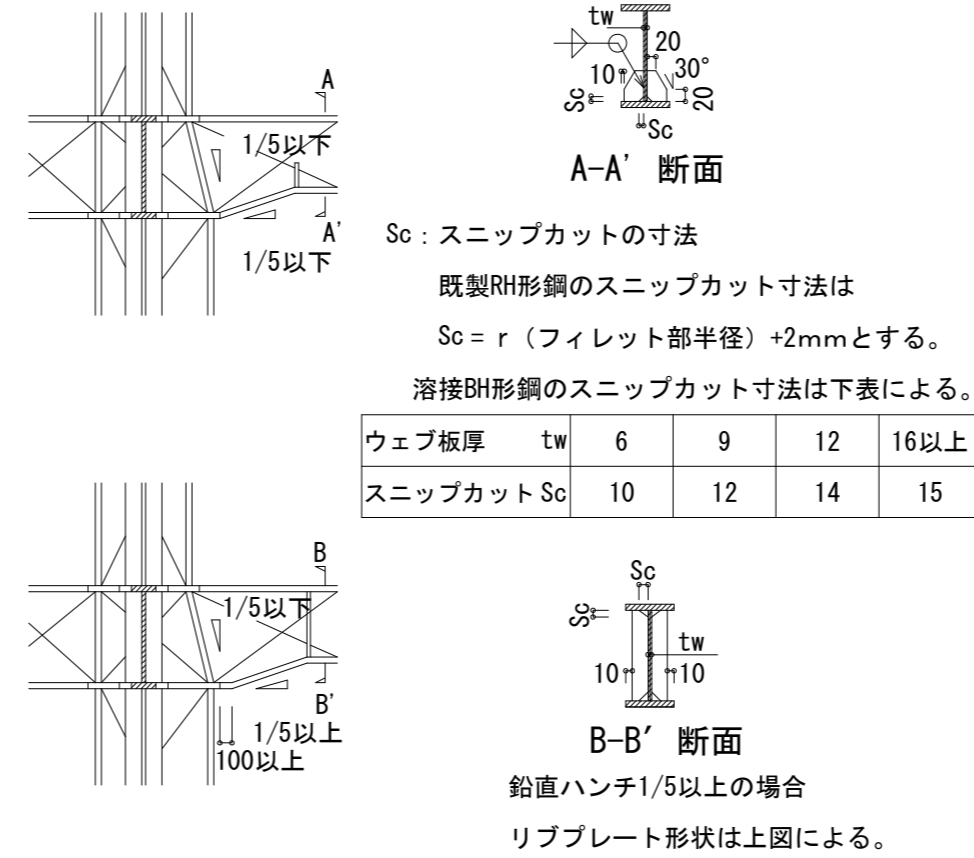
- (注) ※1. 通しダイアフラムの出寸法は25mmを標準とし、角形鋼管径が28mm以上の場合には30mmとする。
- ※2. 上下の柱鋼管径が異なる場合は原則として大臣認定取得したテーバー管 (大臣認定品) を用いること。
- ※3. ダイアフラム、仕口パネル共に板厚が40mmを超える場合はTMC鋼 (大臣認定品) を用いること。

仕口部をプレート溶接加工する場合



梁ハンチ要領

- 梁に鉛直ハンチを設ける場合は、下図に示すようなリブプレートを設ける。
- リブプレートは梁ウェブと同厚・同材質とする。



鉄筋貫通孔

- 鉄筋貫通孔位置は、工作図作成上、監理者の承認を得ること。

鉄筋径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
孔径	21.0φ	24.0φ	28.0φ	31.0φ	35.0φ	38.0φ	43.0φ	46.0φ

埋込み柱脚ウェブの梁主筋貫通補強要領

- 貫通鉄筋が水平に3個以上並ぶ場合、下記の補強をする。
- 補強プレートは柱ウェブと同厚・同材質とする。
- 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2以上の補強プレートを柱ウェブの両面に溶接する。

梁貫通孔の補強

- 梁貫通孔の限度
  - 梁貫通孔の内径寸法は、鉄骨成Hの0.45倍以下 かつ 鉄筋コンクリート部分の梁成Dの1/3以下とする。
  - 梁貫通孔の位置及び大きさ
    - H: 鉄骨成
    - D: 鉄筋コンクリート部分の梁成
    - φ: 貫通孔内径寸法 (φ ≤ H/2かつφ ≤ D/3)
  - スリブピッチは、隣り合うスリブ平均の3倍以上とする。
  - 梁端に貫通孔を設ける場合、原則として梁端部から貫通孔の中心まで1.5D以上、内部の鉄骨せい0.20H以上離すこと。
  - 梁継手部のウェブブライスプレート端部より1.0H以上離すこと。
- 梁貫通孔の補強要領
  - 梁貫通孔の補強方法は、補強プレート法とする。また、補強プレートの他に補強鋼管スリーブを溶接する。
  - 原則として、「1. 梁貫通孔の限度」以内にあるφ ≤ H/5かつφ ≤ 100の貫通孔は補強プレートは不要とし、補強鋼管スリーブのみ溶接する。

鉄筋コンクリート部分の補強要領は、「鉄筋コンクリート配筋規準図(2)」による。

- 補強プレートは、梁ウェブと同厚、同材質とし、補強プレートが16mm以上となるものについては、必要な厚さの1/2以上の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。
- L1は3φまたは、L2の小さい方とする。
- L2は3φまたは図寸法のうち小さい方とする。
- 補強鋼管スリーブは下表による。
- 小梁がセットや補強プレート同士が干渉する場合、監督職員の指示による。

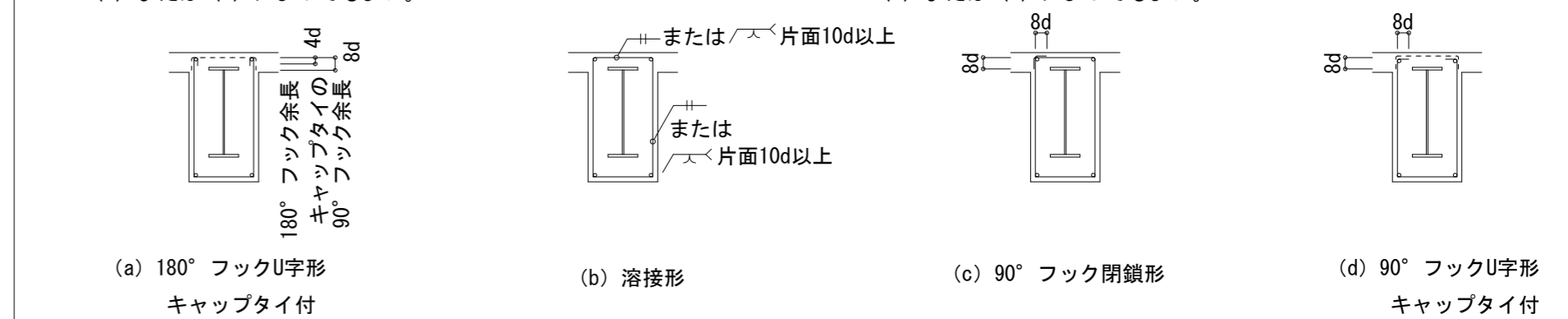
貫通孔φ	補強鋼管スリーブ (STK400)
100	φ-101.6 × 3.2
125	φ-139.8 × 3.6
150	φ-165.2 × 4.5
175	φ-190.7 × 4.5
200	φ-216.3 × 4.5
250	φ-267.4 × 6.0
300	φ-318.5 × 7.0
350	φ-355.6 × 8.0
400	φ-406.4 × 9.0
450	φ-457.2 × 9.0

SRC造の配筋要領

(注) SRC造の配筋要領として「鉄筋コンクリート配筋規準図」以外に下図による。

1. 大梁のあばら筋

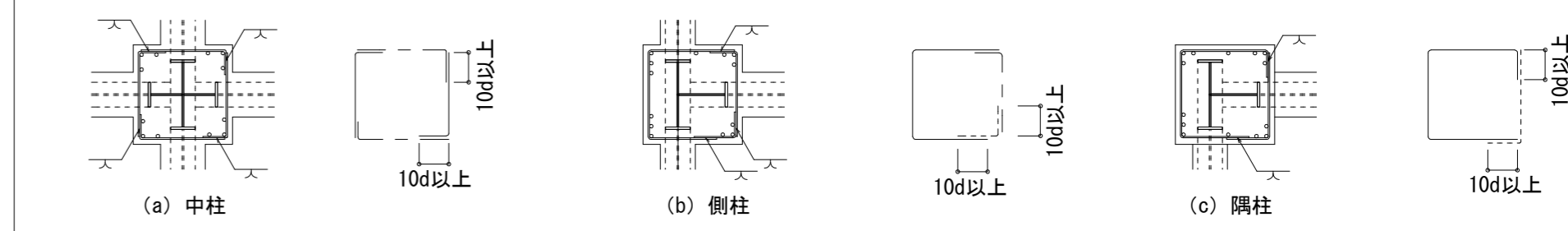
- 原則として「鉄筋コンクリート配筋規準図(1)・3. 梁・あばら筋」によるが、下図によってもよい。
- (1) 柱コンクリート面より Max (1.5D, 2.0H) までの範囲は (2) 柱コンクリート面より Max (1.5D, 2.0H) 以外の範囲は (a) または (b) によってもよい。 (c) または (d) によってもよい。



2. 柱梁接合部の帯筋

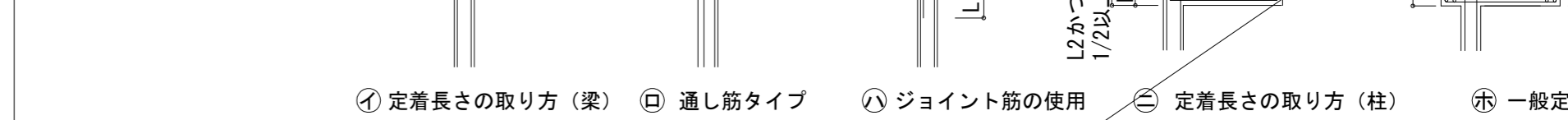
柱梁接合部の帯筋は割フープとして、片側10d以上のフレア溶接とする。

- (注) 梁の取付かない側には原則として溶接継手箇所を設けないこと。



3. 壁筋の定着

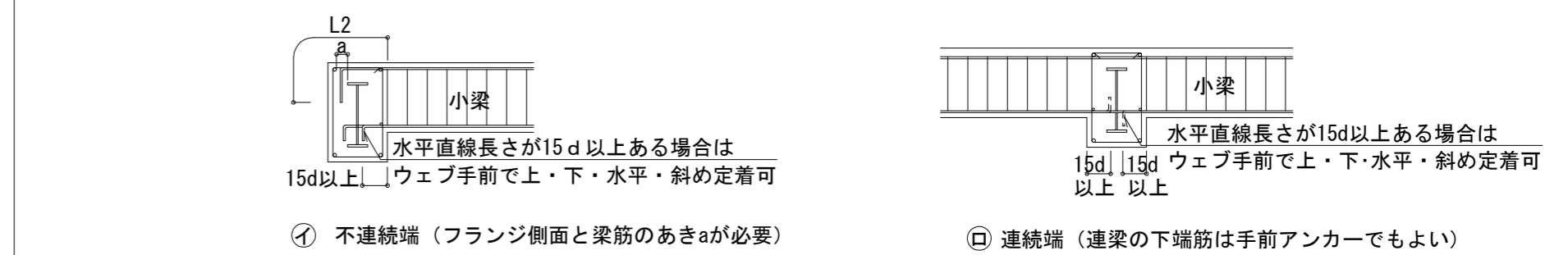
- コンクリート断面に定着する場合
  - 柱または梁内へ定着する場合は L2
  - 壁内で重ね継手をする場合は L1 とする。



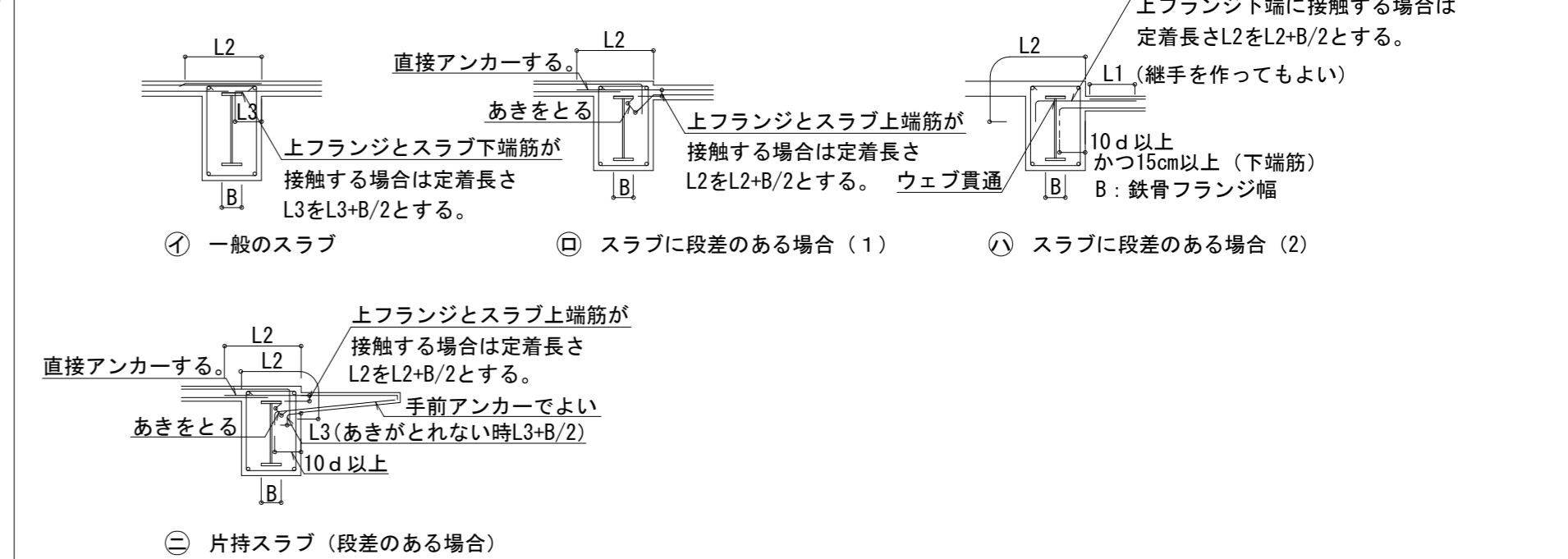
- 鉄骨に接合する場合
  - 壁筋と鉄骨フランジとが干渉する場合 (壁筋の直線部分定着長さが15d確保できない場合) は、右図のように鉄筋工用スタッドを鉄骨フランジにスタッド溶接の上、重ね継手 (L1) とする。スタッドは干渉する壁筋と同材種で同径・同ピッチとする。
  - ① スタッドタイプ, ② スタッド併用タイプ, ③ スタッド, ④ スタッド併用タイプ

- その他
  - 非耐力壁などにおいて、監理者の承認を得た場合は右図の定着を採用してもよい。
  - ① 手前折曲げタイプ, ② 鉄骨う回タイプ, ③ 鉄骨突当てタイプ, ④ 鉄骨う回タイプ

4. 小梁筋の定着



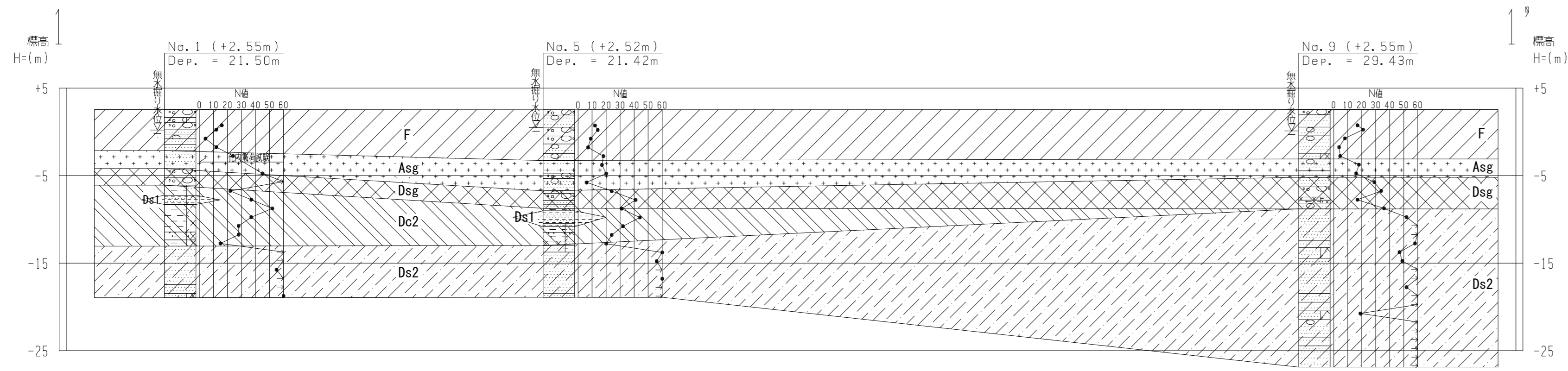
5. スラブ筋の定着



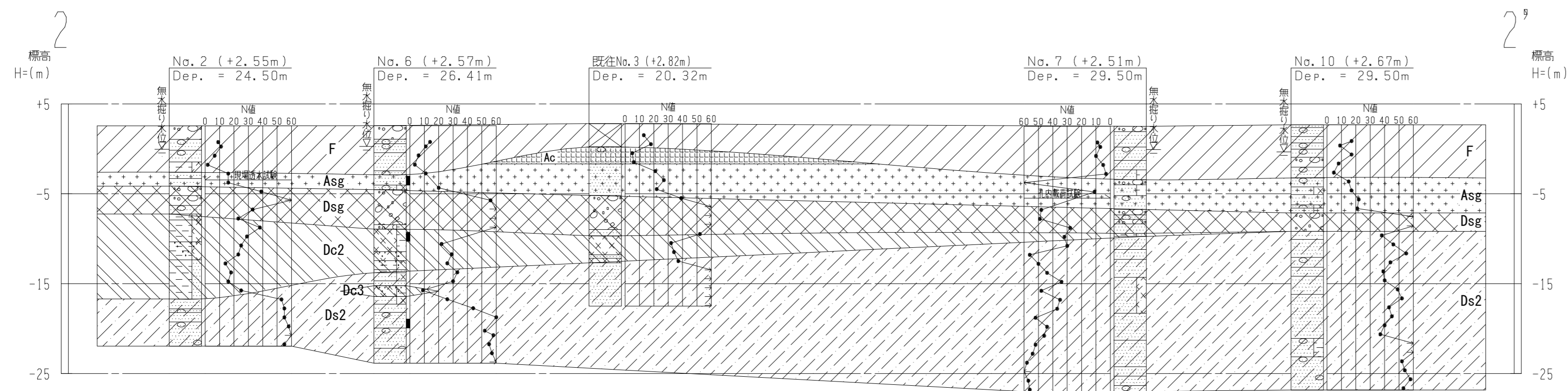
- (注) スラブ筋が鉄骨フランジと接触したり、コンクリート充填に懸念のある箇所等で定着する場合は、鉄筋の付着性能が劣るため、上記のように定着長さを変更すること。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者>	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
<構造設計者>	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	08	鉄骨標準図 (3)
			最終契約版

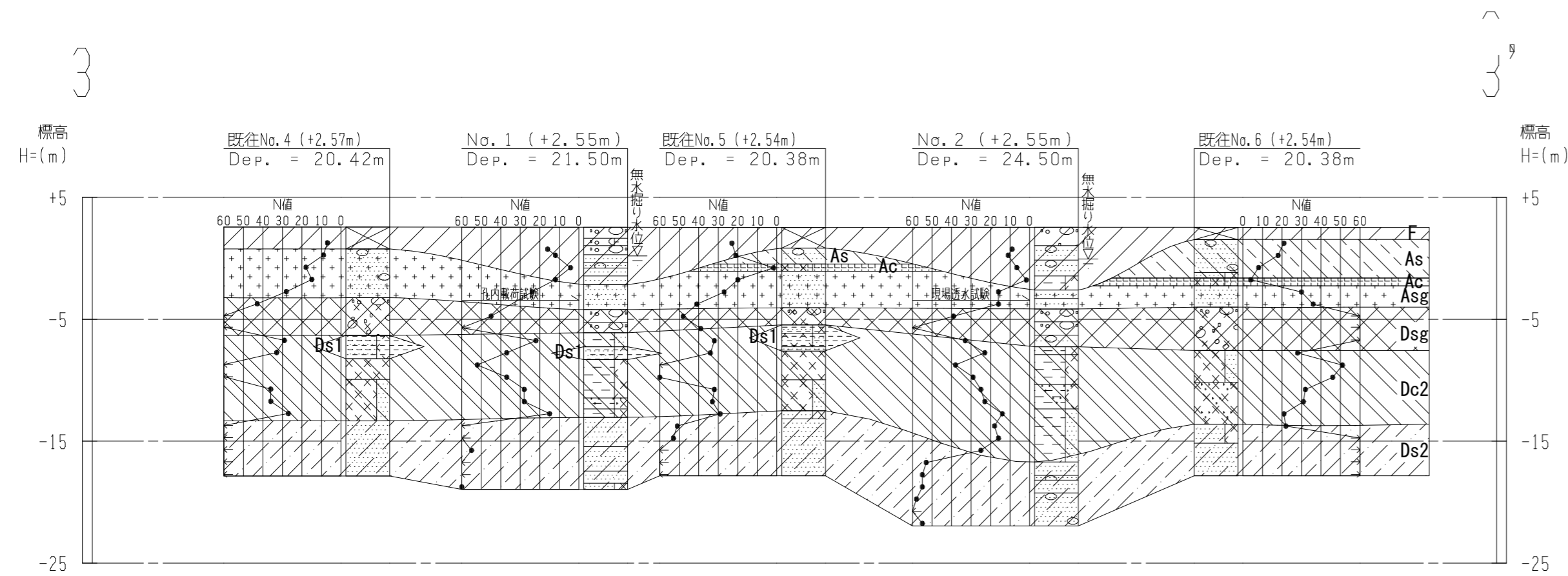




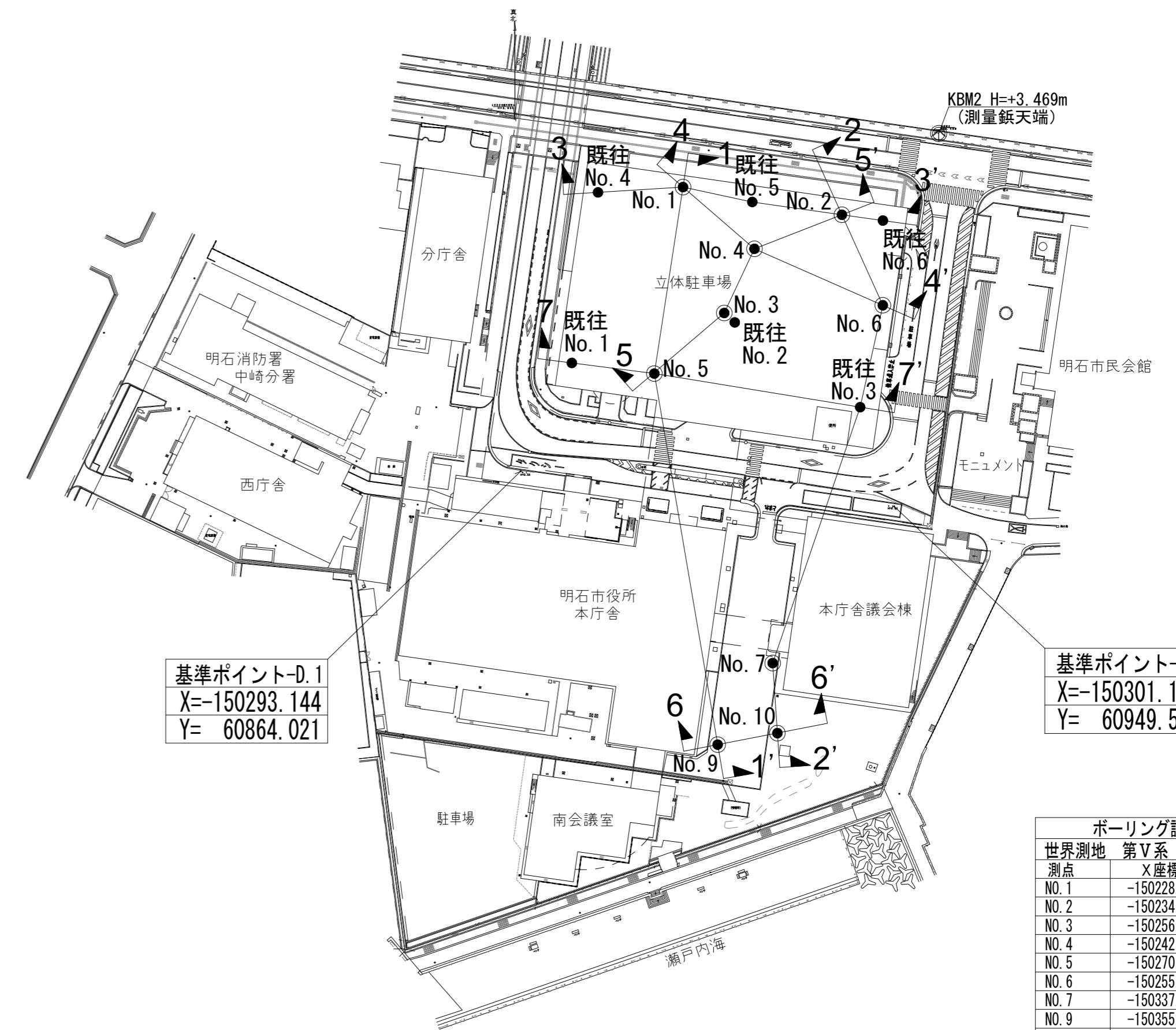
推定地層断面図 (1-1' 断面図) 1:400



推定地層断面図 (2-2' 断面図) 1:400



推定地層断面図 (3-3' 断面図) 1:400



基準ポイント-D.1  
X=-150293.144  
Y= 60864.021

基準ポイント-T.1  
X=-150301.179  
Y= 60949.519

ボーリング調査点座標一覧表		
世界測地 第V系		
測点	X座標	Y座標
NO.1	-150228.040	60901.175
NO.2	-150234.377	60937.558
NO.3	-150256.887	60910.614
NO.4	-150242.182	60917.529
NO.5	-150270.768	60894.609
NO.6	-150255.116	60946.933
NO.7	-150337.097	60921.706
NO.9	-150355.780	60909.104
NO.10	-150353.147	60922.789

凡例

- 今回調査位置
- 既往調査位置

調査位置図 1:1000

土層分類表

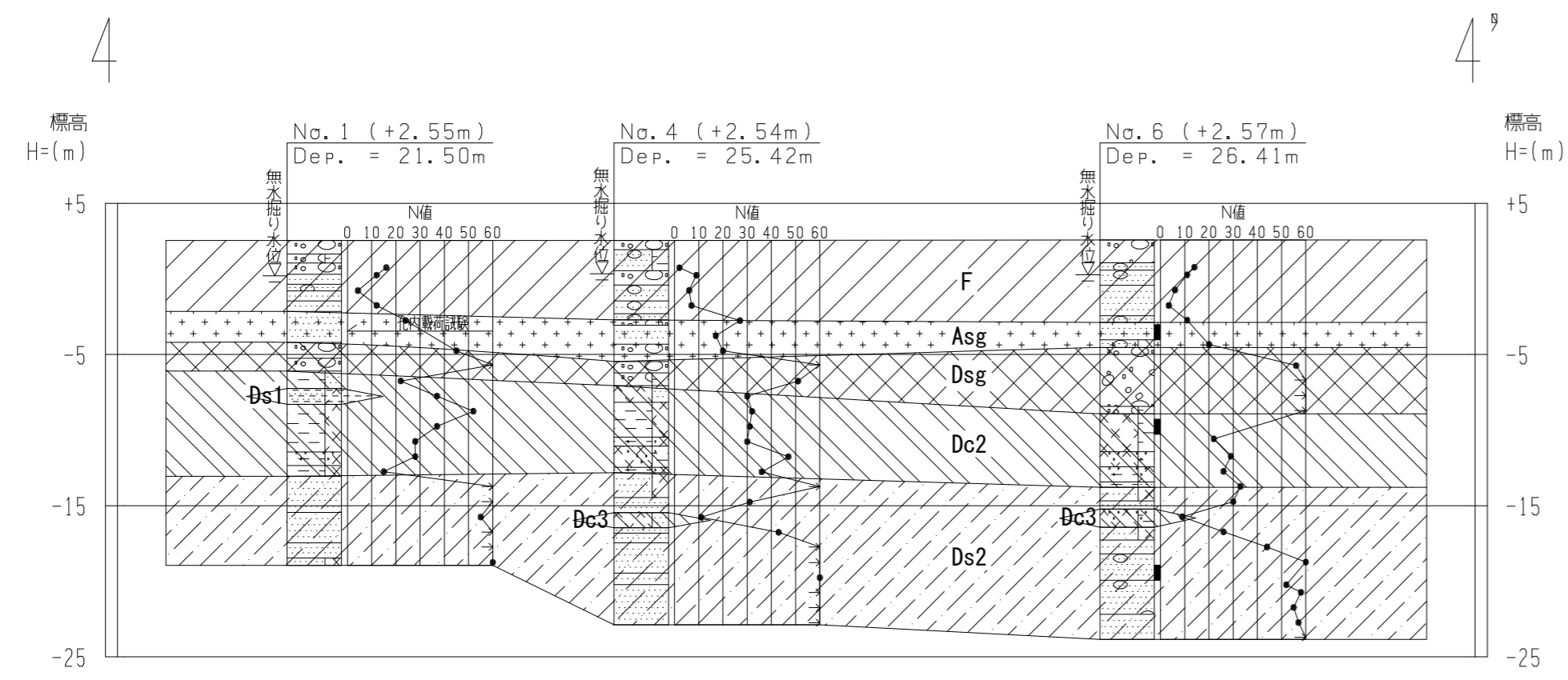
地質時代	地層区分	土層区分	記号
現世	埋土	埋土	F
		礫質土層	As
完新世	沖積層	粘性土層	Ac
		砂・礫質土層	Asg
		砂・砂質土層	Dsg
新生代第四紀	更新世	第2粘性土層	Dc2
		第1砂質土層	Ds1
		第2砂質土層	Ds2
		第3粘性土層	Dc3
		第2礫質土層	Dg2
		第5粘性土層	Dc5

明石市政策局 企画・調整室

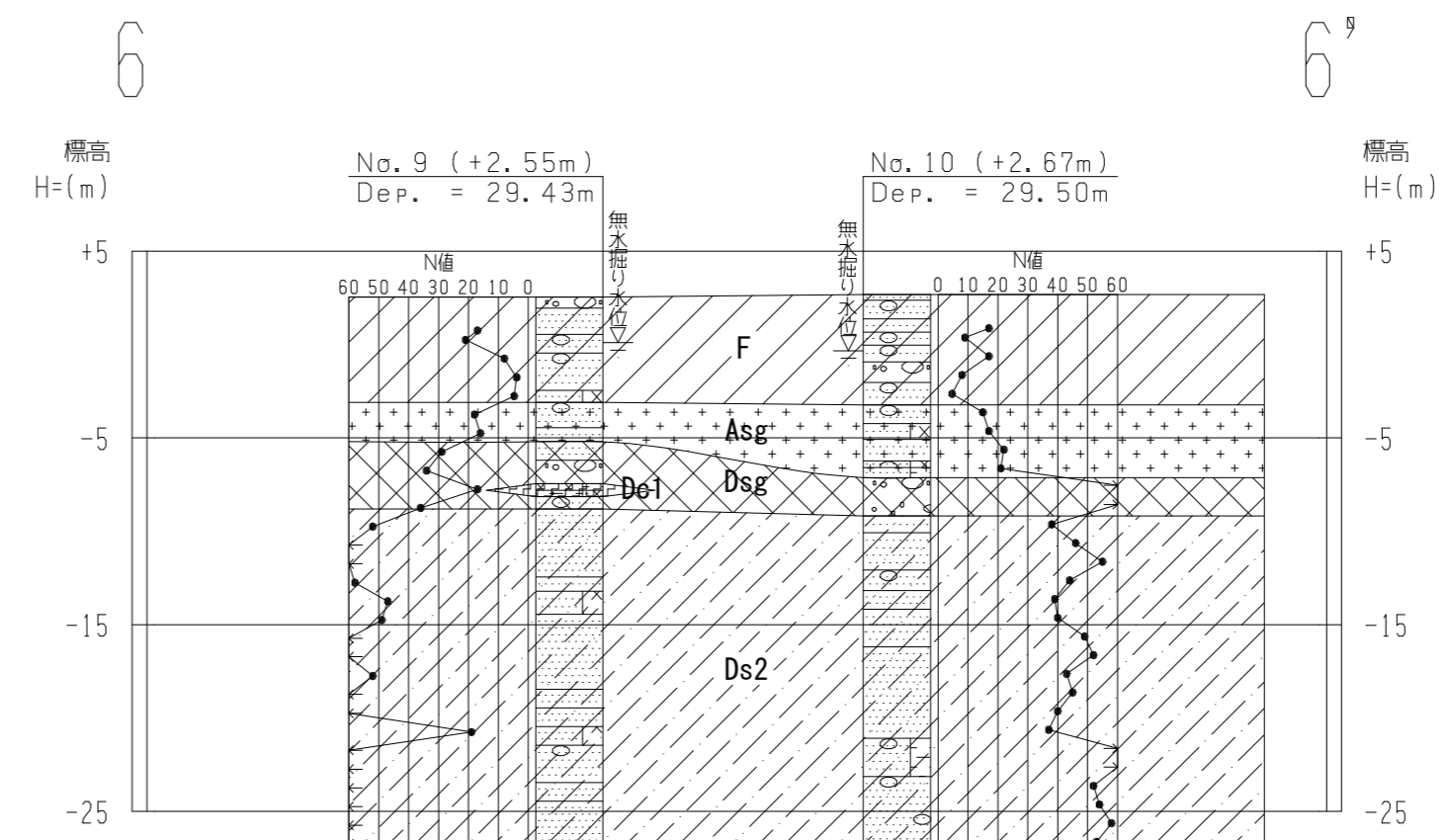
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号  
南浦 琢磨  
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号  
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号  
田中 智

明石市役所新庁舎建設工事

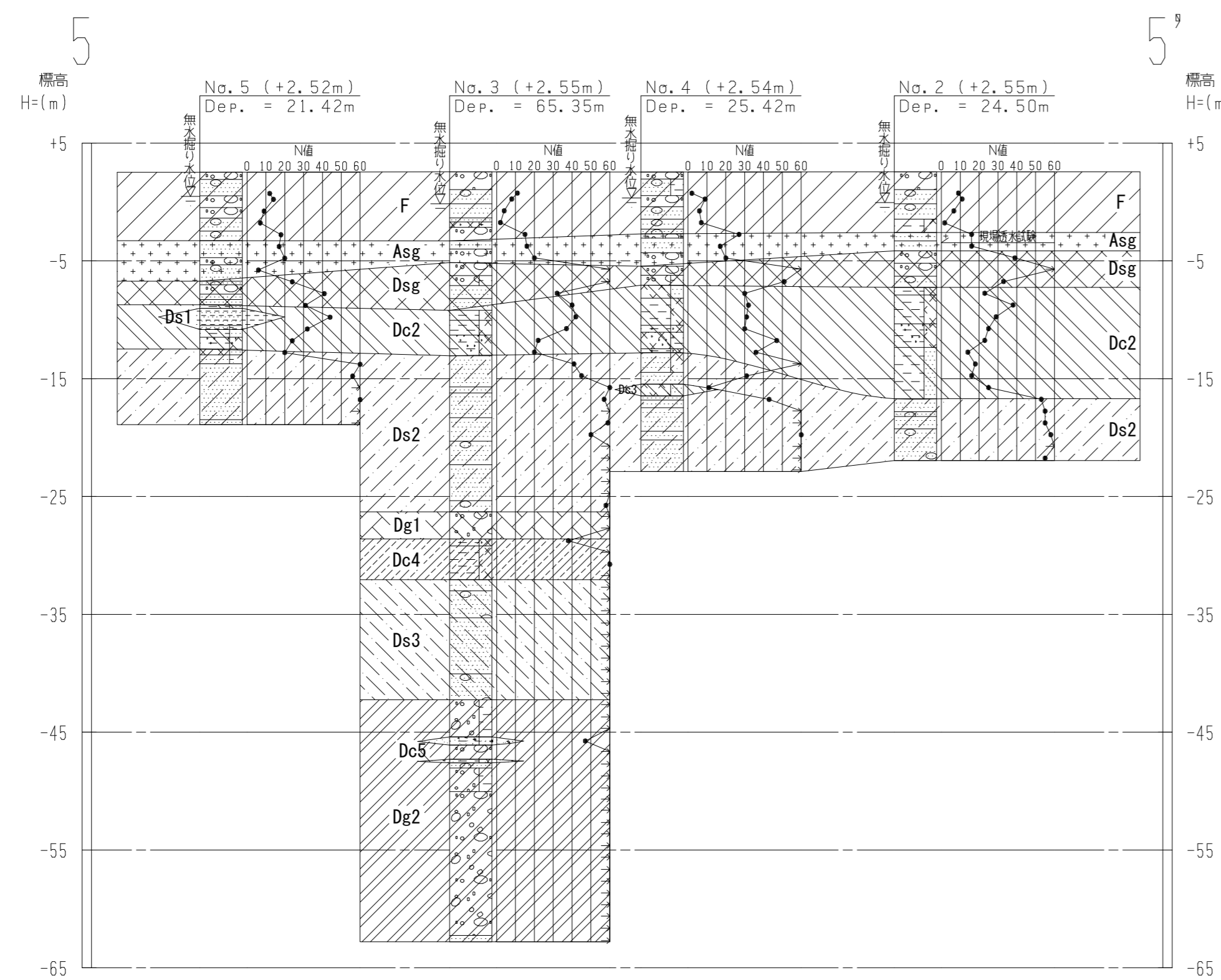
B	建築工事	最終版	2024.3.25
09	調査位置図・地層断面図 (1) 1:400,1000	見積版	2024.3.25
安井建築設計事務所		最終契約版	



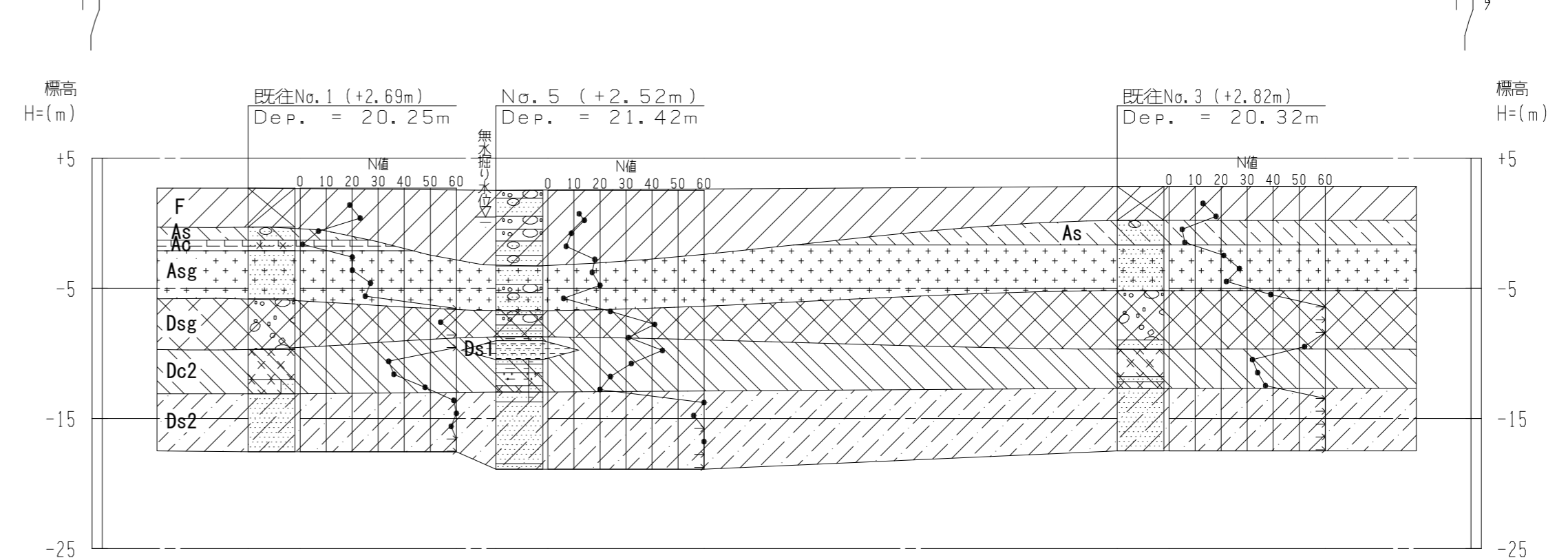
推定地層断面図 (4-4' 断面図) 1:400



推定地層断面図 (6-6' 断面図) 1:400



推定地層断面図 (5-5' 断面図) 1:400



推定地層断面図 (7-7' 断面図) 1:400

土層分類表

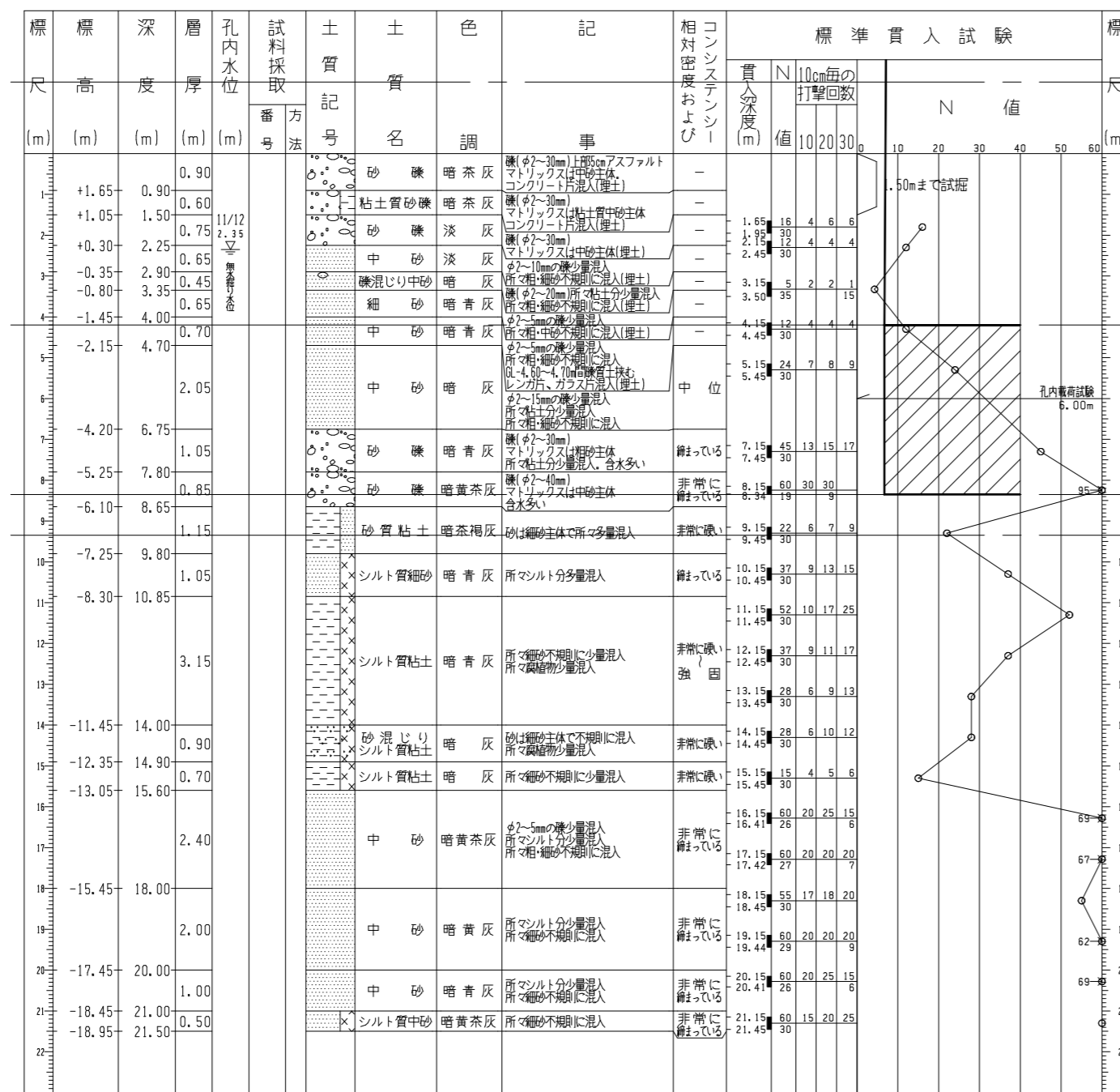
地質時代	地層区分	土層区分	記号
新生代第四紀	現世	埋土	F
		完新世	沖積層
	粘性土層 Ac		
	砂・礫質土層 Asg		
	更新世	洪積層	砂・砂質土層 Dsg
			第1粘性土層 Dc1
			第2粘性土層 Dc2
			第1砂質土層 Ds1
			第2砂質土層 Ds2
			第3粘性土層 Dc3
			第1礫質土層 Dg1
			第4粘性土層 Dc4
			第3砂質土層 Ds3
			第2礫質土層 Dg2
	第5粘性土層 Dc5		

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	10	地層断面図 (2) 1:400, 1000	最終版 2024.3.25
		安井建築設計事務所	最終契約版

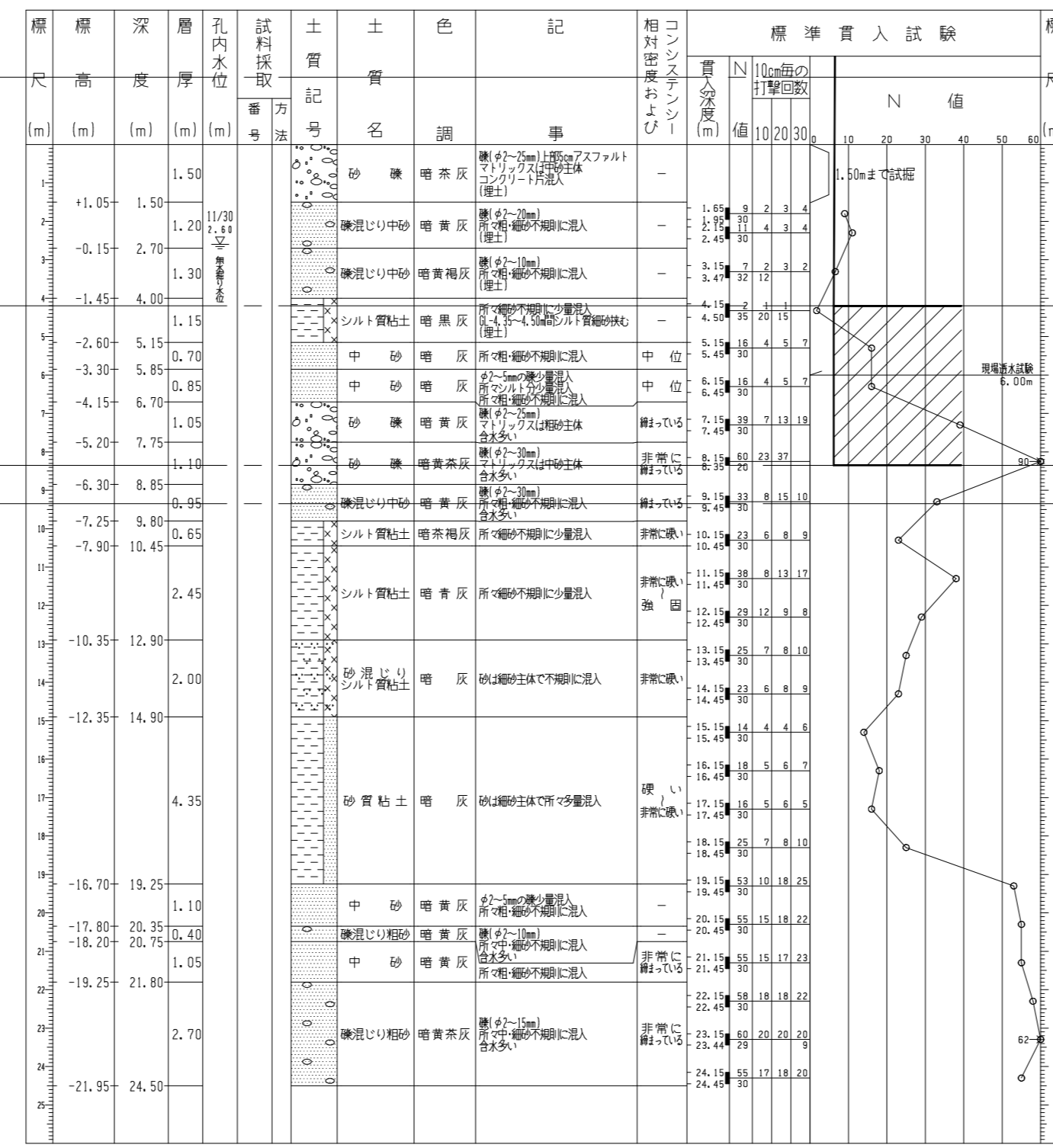
設計GL=TP+4.30m

基礎底=設計GL-5950

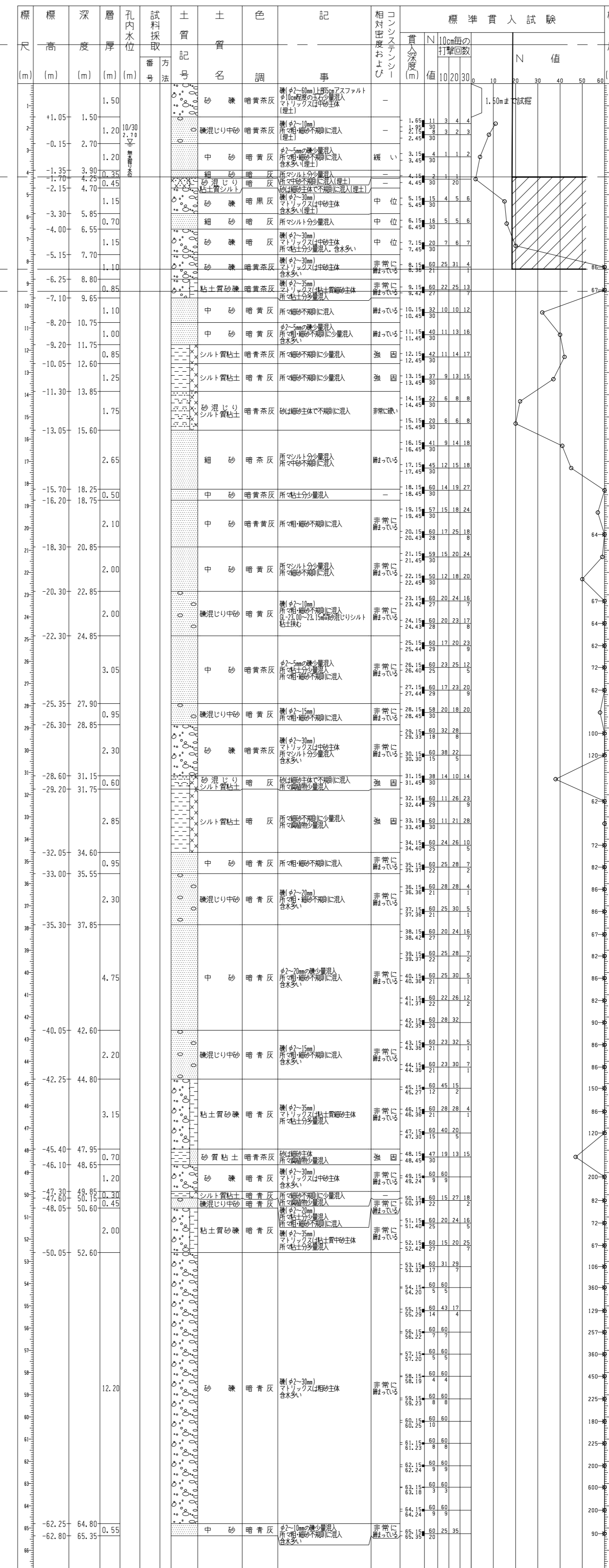
地盤改良底=設計GL-10100~11100



ボーリング柱状図NO.1 1:150 孔口標高 TP+2.55m



ボーリング柱状図NO.2 1:150 孔口標高 TP+2.55m



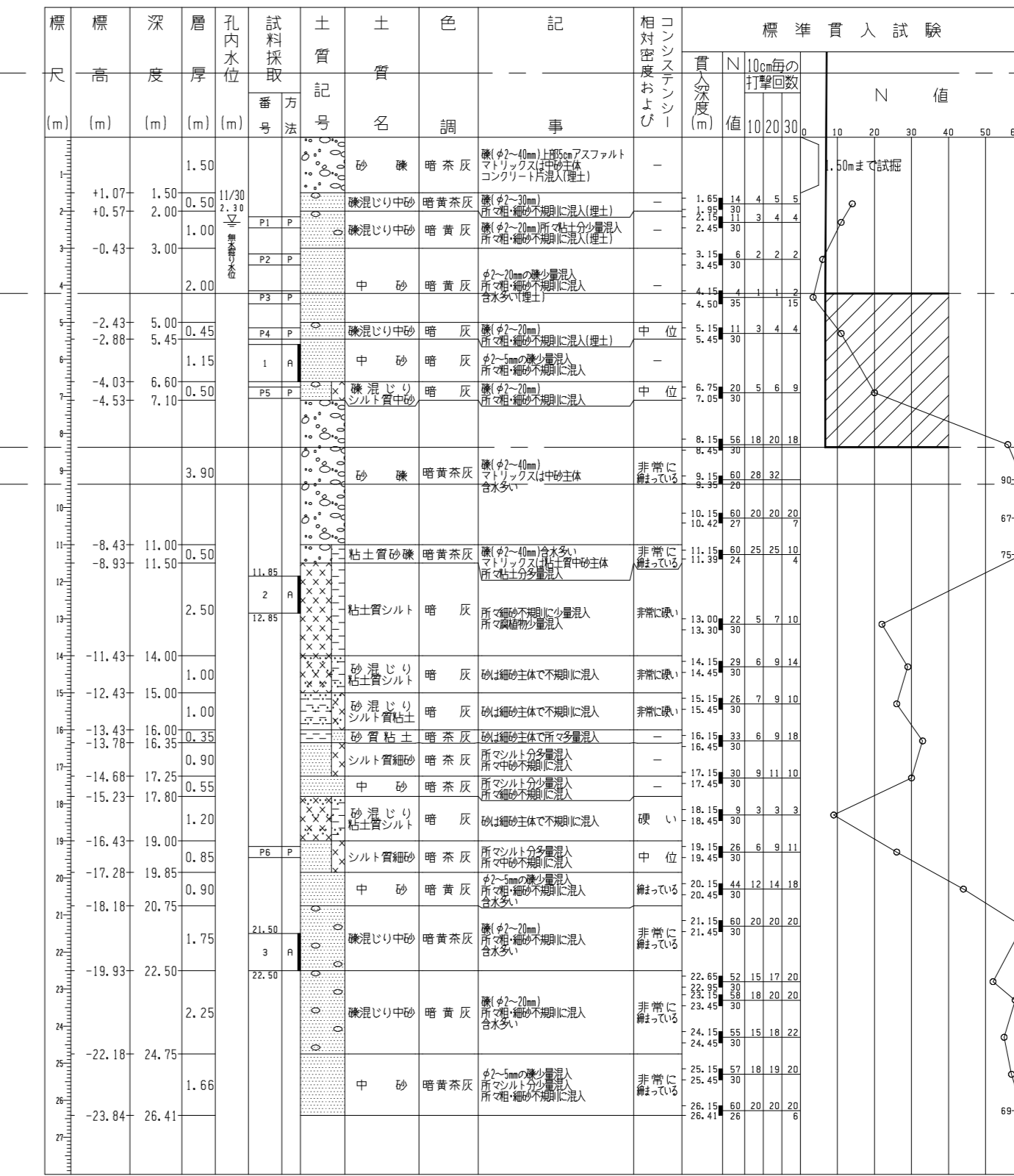
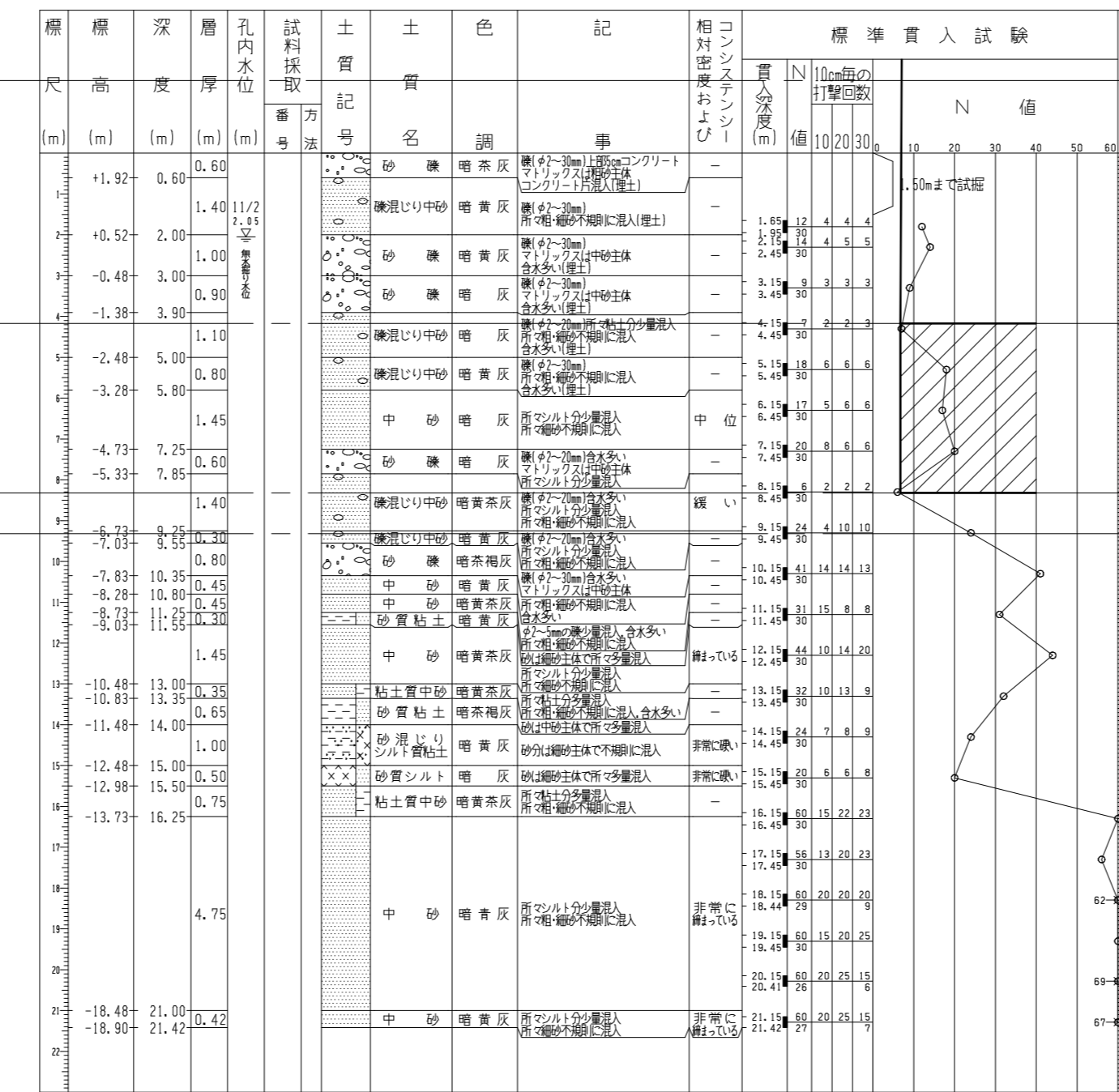
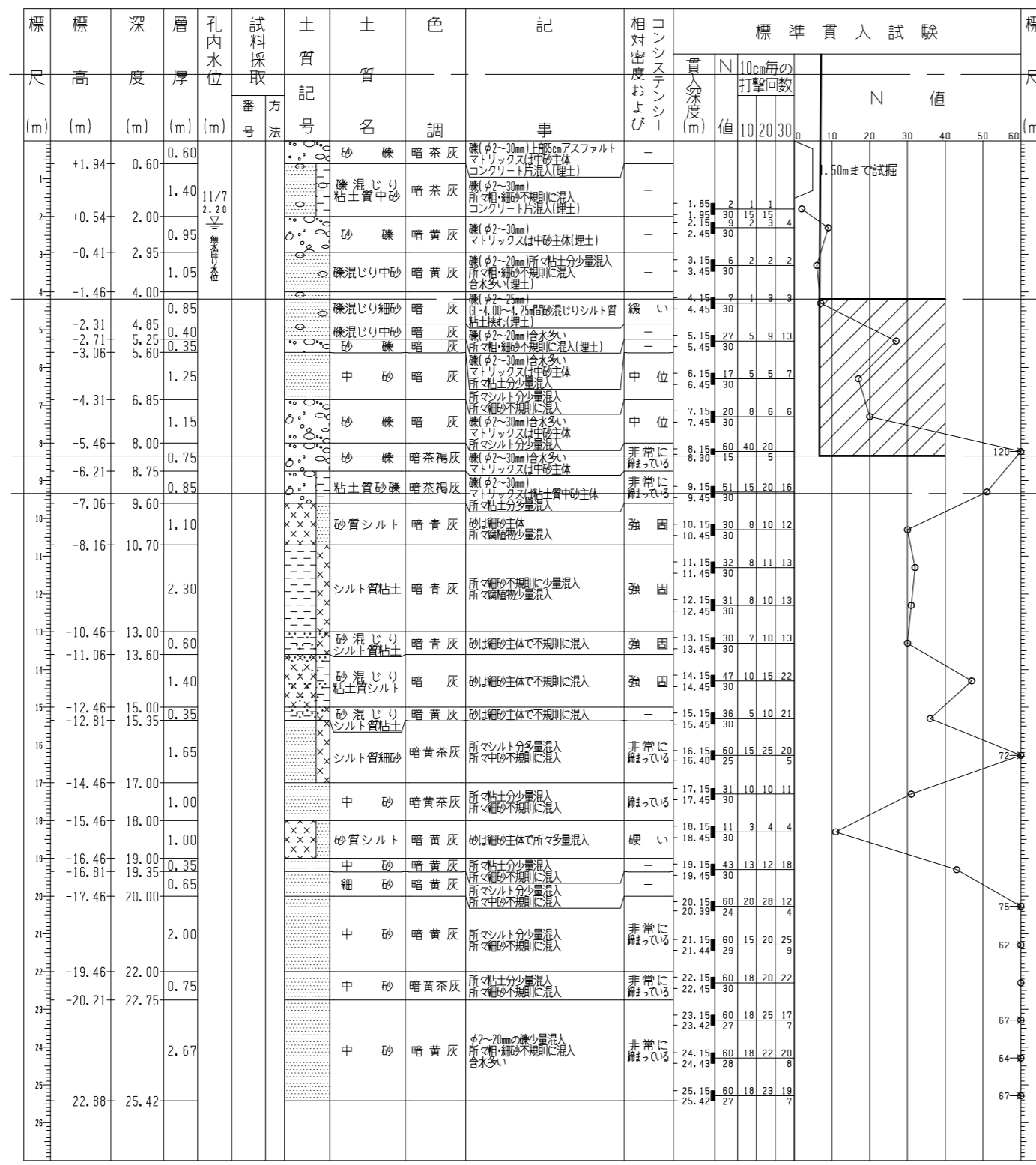
ボーリング柱状図NO.3 1:150 孔口標高 TP+2.55m

明石市政策局 企画・調整室 <代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	明石市役所新庁舎建設工事			
	B	建築工事		最終版 2024.3.25
	11	土質柱状図 (1)	1:200	見積版 2024.3.25
	安井建築設計事務所			最終契約版

設計GL=TP+4.30m

基礎底=設計GL-5950

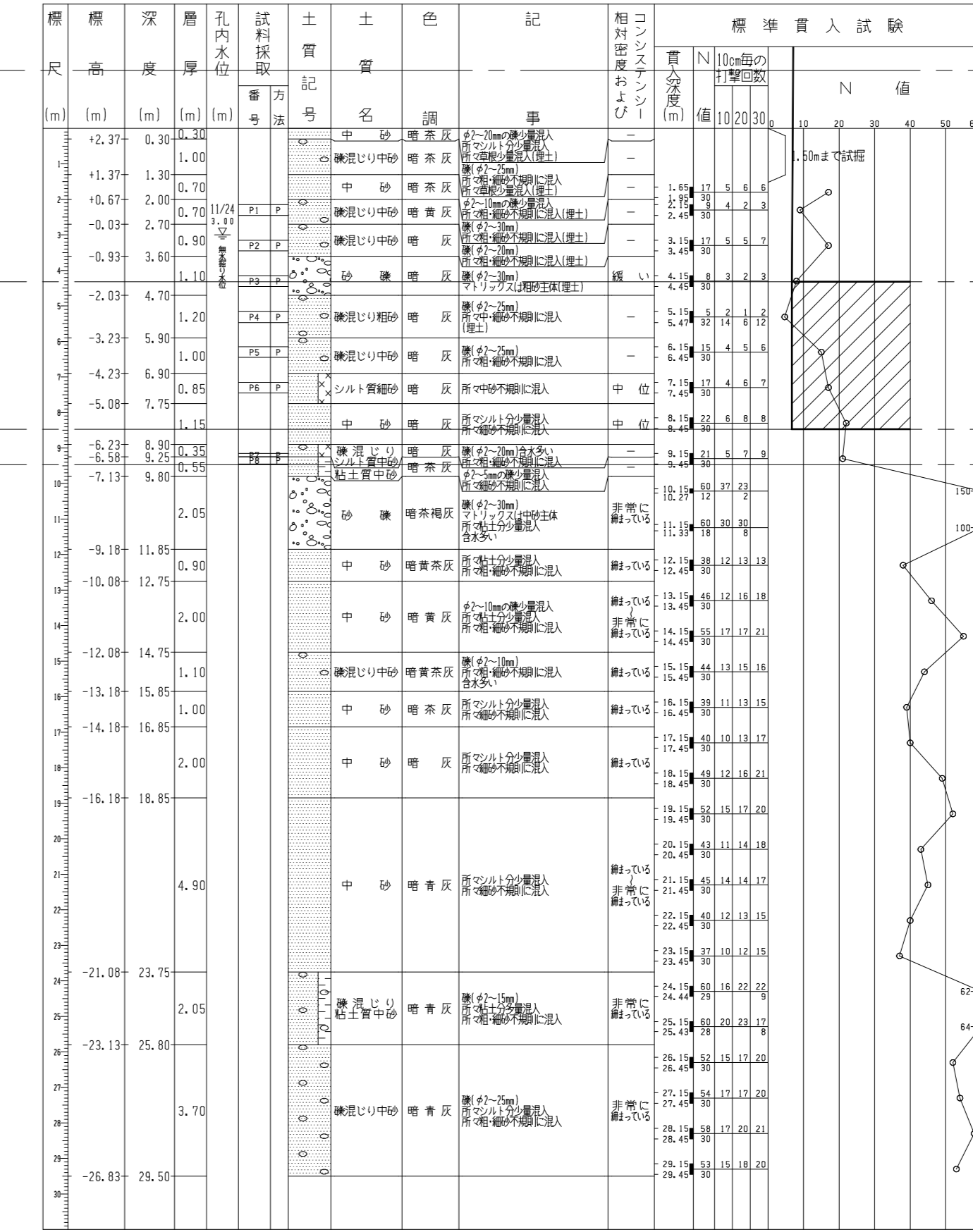
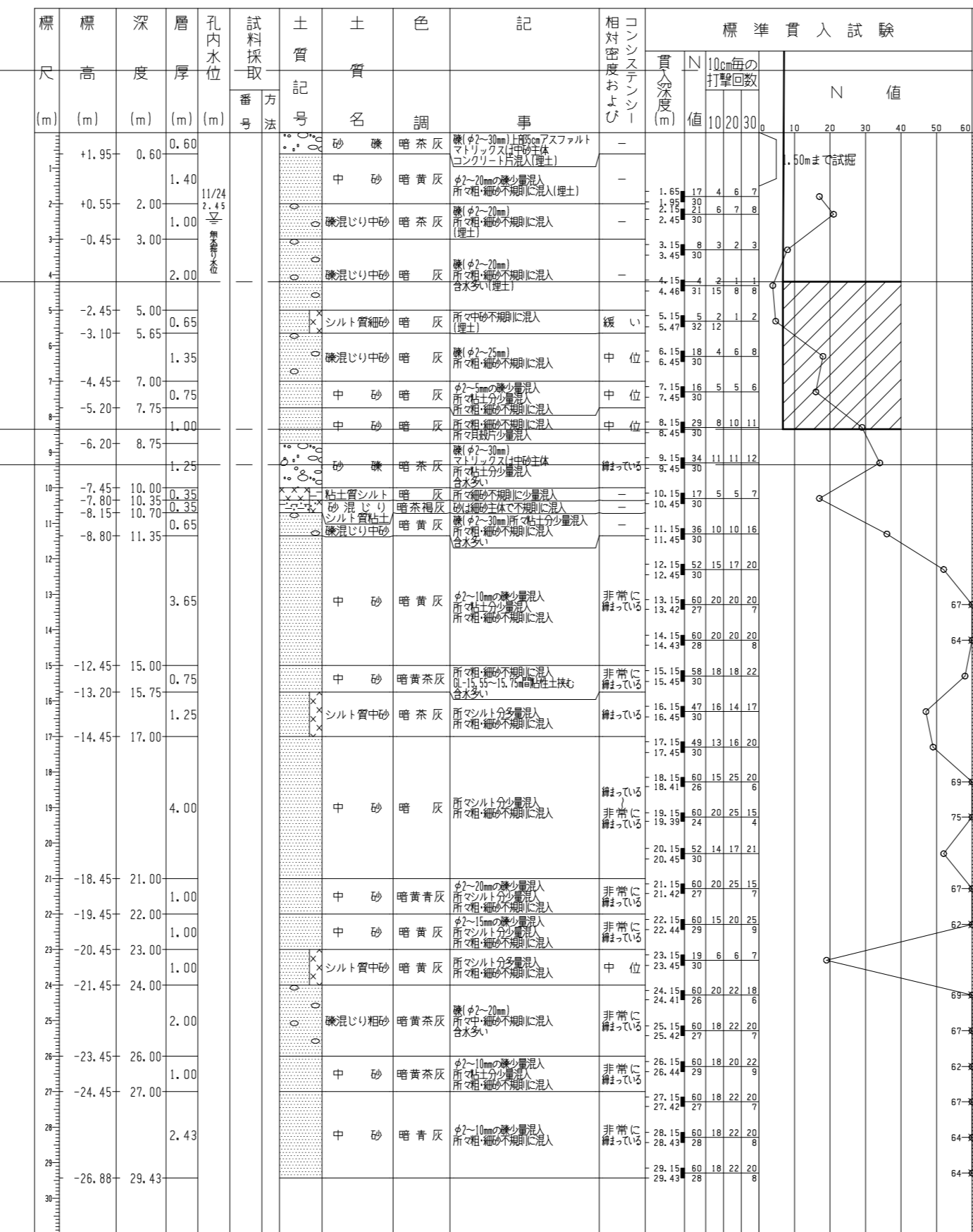
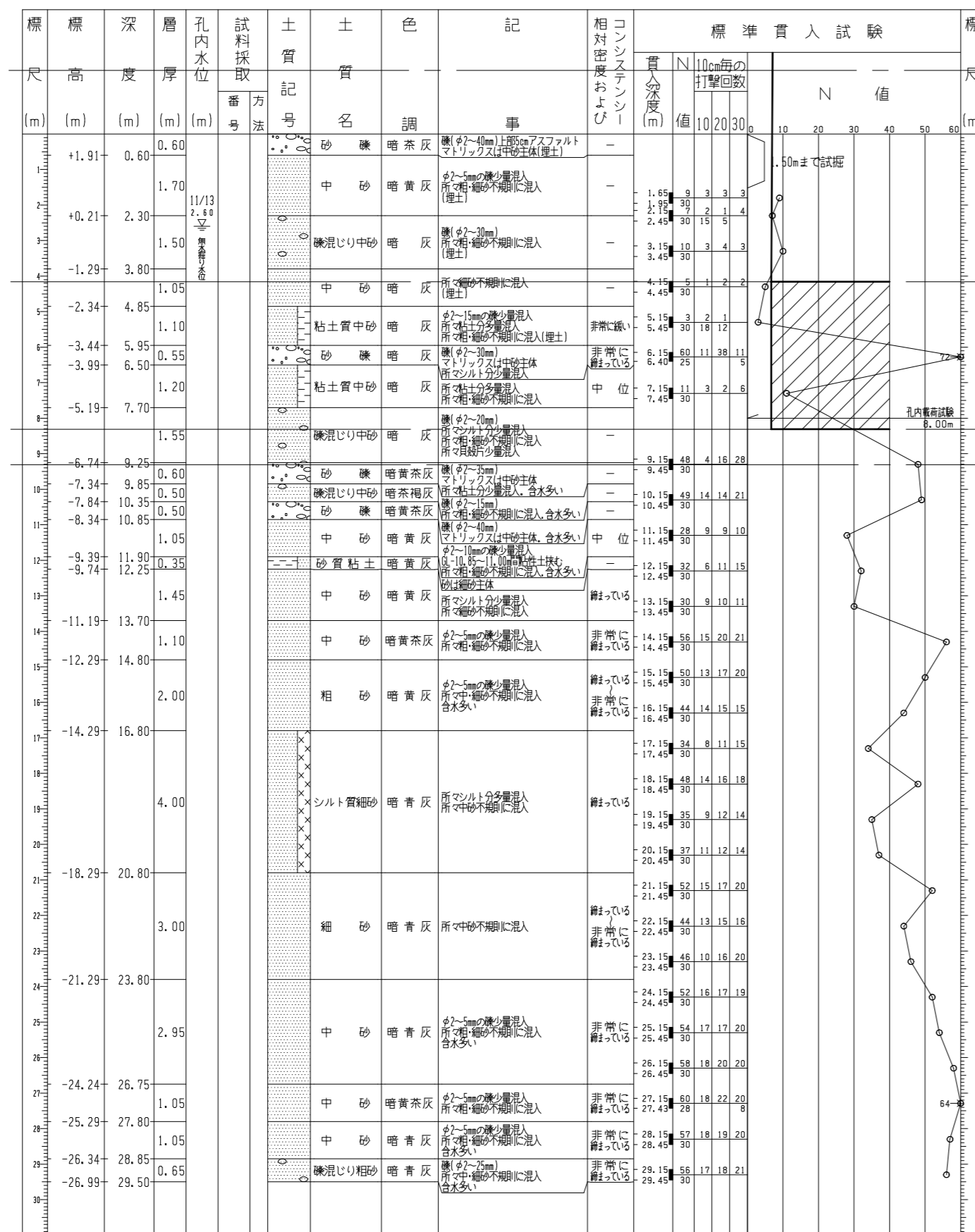
地盤改良底=設計GL-10100~11100



設計GL=TP+4.30m

基礎底=設計GL-5950

地盤改良底=設計GL-10100~11100



敷地境界線

地盤改良（深層混合処理工法）地業工事特記仕様書

1. 工法概要  
 本事業は、スラリー状の固化材を地盤に注入しながら併回り防止装置を装着した覆はん装置を用いて原地盤と機械的に混合覆はんし、固化材の化学反応により所要の強度を有する改良体を築造するものである。

2. 一般事項  
 (1) 本仕様書に特記のない事項は、公共建築工事標準仕様書（平成31年版）によるほか、「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター、2018年版（以下、センター指針）」による。

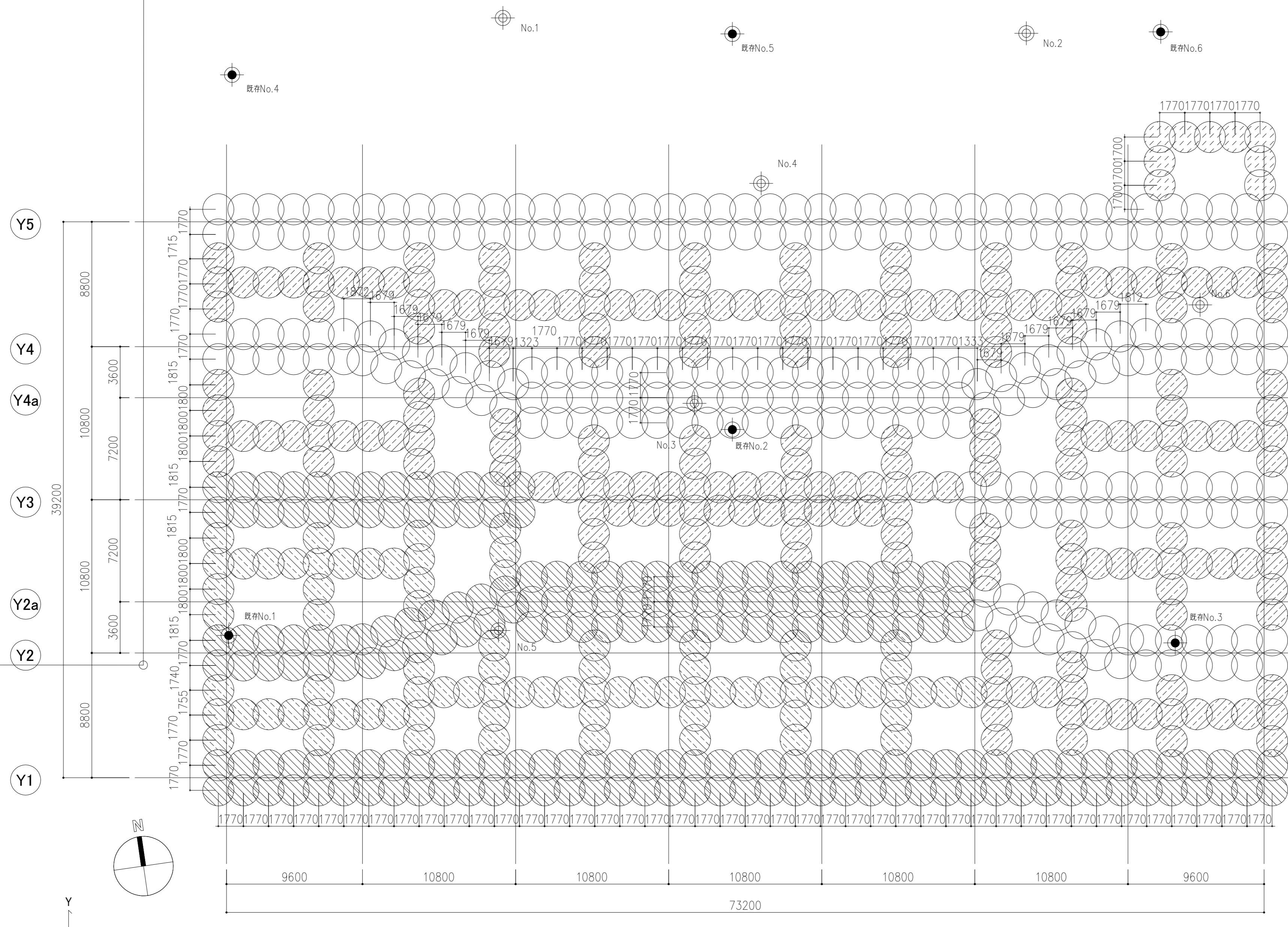
3. 固化材の配合及び使用量  
 (1) 改良体の設計基準強度  $F_c = 1600 \text{ kN/m}^2$  以上  
 (2) 掘削深度（改良長+空掘長）は図示により、改良率 68.3%程度とする。  
 (3) 固化材は、セメント系固化材としメーカーの仕様によるものとする。  
 (4) 固化材スラリーの配合 設計用固化材添加量  $C0 = 300 \text{ kg/m}^3$   
 設計用スラリー濃度  $W/C = 100\%$   
 (5) 施工に先立ち室内配合試験計画書及び施工計画書を作成する。計画書に基づき当該地盤土を採取し、室内配合試験を行った結果により上記配合を決定する。尚、配合試験に使用する固化材は、セメント系固化材とする。  
 また、供試体材齢は7日及び28日とする。  
 (6) 特殊な地盤や施工実績の少ない施工機械・施工方法を使用する場合は、試験施工を行ない、その施工性の調査、改良体の強度等の確認をする。  
 (7) 施工について疑義が生じた場合は、直ちに監理者・設計者と協議する。

4. 品質管理  
 (1) 支持層は覆はん装置の電流計の値や覆はん率などの施工データを確認する。  
 (2) 本工事施工終了後にコア抜き供試体を採取し、JIS A 1216 による一軸圧縮試験（材齢28日）及び六価コラム溶出試験を実施する。  
 ① コア抜き供試体の採取方法は改良コラム100本を1単位（端数切り上げ）として、1単位毎に1箇所とする。  
 ② コア抜き供試体の本数は、採取位置毎に3体とし、採取位置はコラム頭部及び想定地質毎に深さ方向のコア抜きを行なう。（地層・深度については、下表による。）

採取番号	深度	地層	備考
1	設計GL-6.0~10.0m	埋土、砂層	各深度よりまんべんなく採取する

③ 一軸圧縮強さが「センター指針」2編 6章 6.2検査方法 検査手法Aを満たす事を確認する。  
 (3) 六価コラム溶出試験は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価コラム」溶出試験実施要領（案）を適用する。  
 (4) コア抜き後の穴理めは、設計基準強度以上の改良土等により行なう。

5. 報告書  
 工事完了後、次の項目についてまとめ監理者に提出し、確認を受ける。  
 (1) 施工日、時間、混合状況及び締め固め状況  
 (2) 改良範囲、改良厚さ、仕上がり厚さ  
 (3) 固化材の配合と固化材使用量  
 (4) コアの強度試験結果・支持層確認結果・六価コラム溶出試験結果  
 (5) 工事写真  
 (6) その他施工報告（監理者・設計者からの指示等）



基礎伏図 1:200

共通事項（特記なき限り）  
 ・道路境界線、隣地境界線、建物位置は面図による。  
 ・KBMI=T.P.+3.634とする。KBMIの位置は面図による。  
 ・設計GL=T.P.+4.3 (KBMI+0.666)とする。  
 ・基礎底は設計GL-5950とする。  
 ・フーチング芯=通芯とする。  
 ・支持層は砂レキ層（深層地盤改良底）とする。  
 ・長期設計地耐力は400kN/m<sup>2</sup>とする。

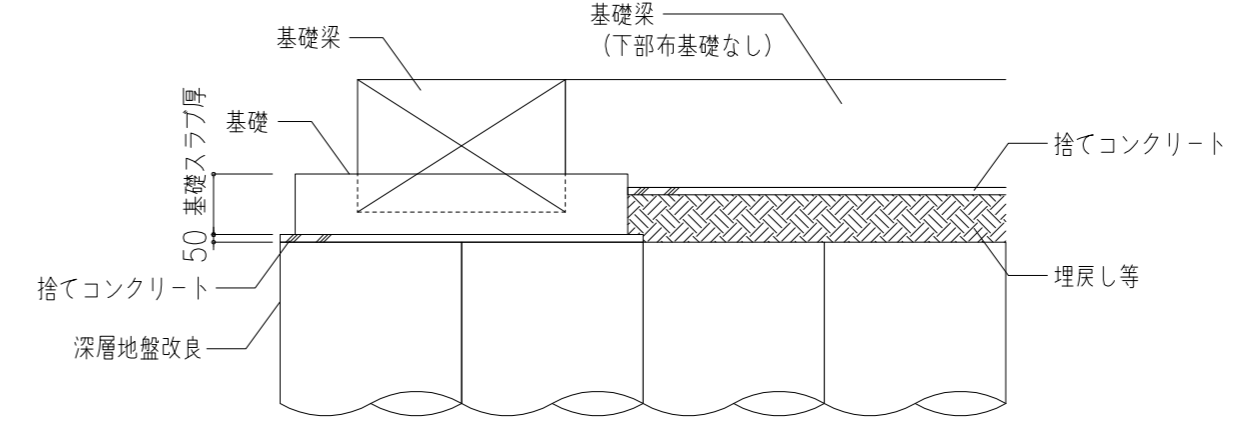
・建設に障害となる埋設物の存在が確認された場合、設計変更その他について別途協議を行うこと。  
 ・支持層を乱さないよう掘削を行うこと。支持層を乱した場合、支持層と認められる位置まで地盤改良を行うものとする。  
 ・印は今回ボーリング調査位置 (No.1~No.6) を示す。  
 ・印は既存ボーリング調査位置 (No.1~No.6) を示す。  
 (明石市庁舎新築敷地地質調査報告書 昭和43年8月21日~10月4日)

地盤改良仕様

共通事項（特記なき限り）  
 ・施工地盤面~改良天端まで空掘とする。  
 ・セメント系固化剤を使用する場合は、六価コラムの溶出について試験を行うこと。  
 ・液状化抑止の改良部分は躯体下に埋戻し等を設け、改良体と躯体の縁を切ること。

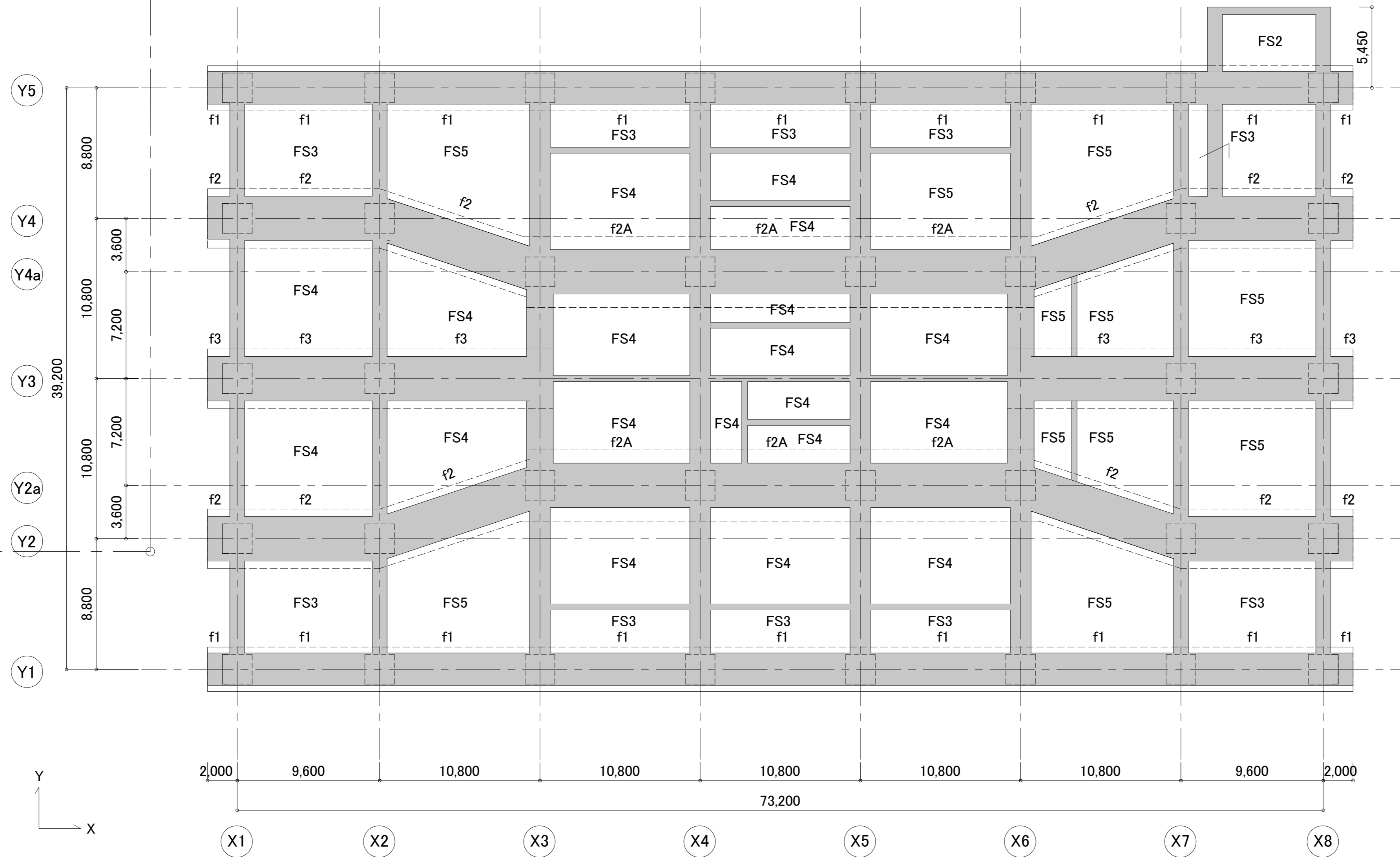
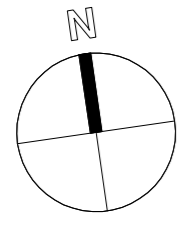
・地盤改良仕様

記号	改良径	改良天端	改良下端	本数	備考
○	2200φ	設計GL-6000	設計GL-10100	246	布基礎下改良
◐	2200φ	設計GL-6000	設計GL-11100	192	布基礎下改良
◑	2200φ	設計GL-5700	設計GL-10100	9	基礎梁下改良
◒	2200φ	設計GL-6000	設計GL-10100	213	液状化抑止改良
◓	2200φ	設計GL-6000	設計GL-11100	79	液状化抑止改良



明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	13	地盤改良伏図 A1 1:200 A3 1:400	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版

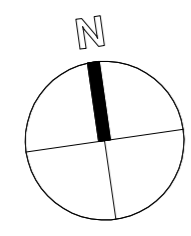
敷地境界線



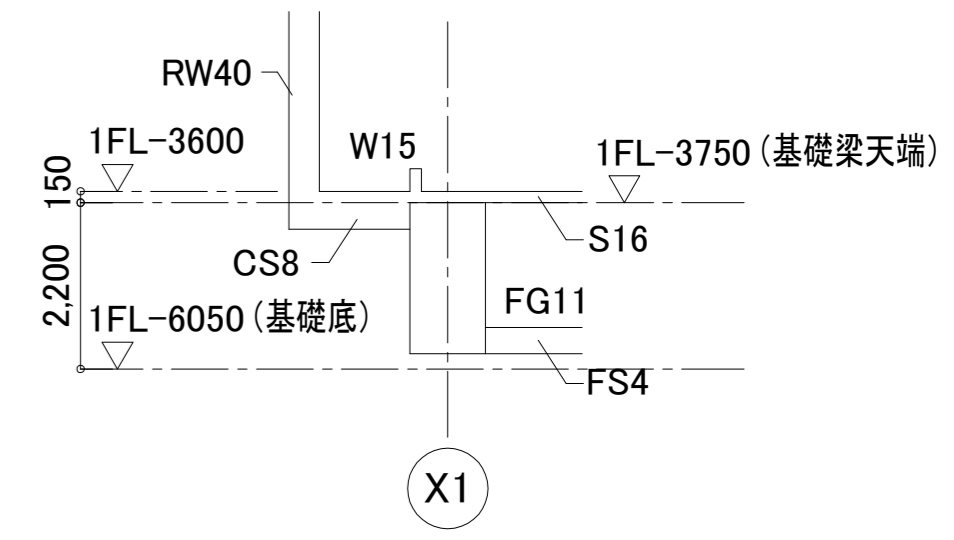
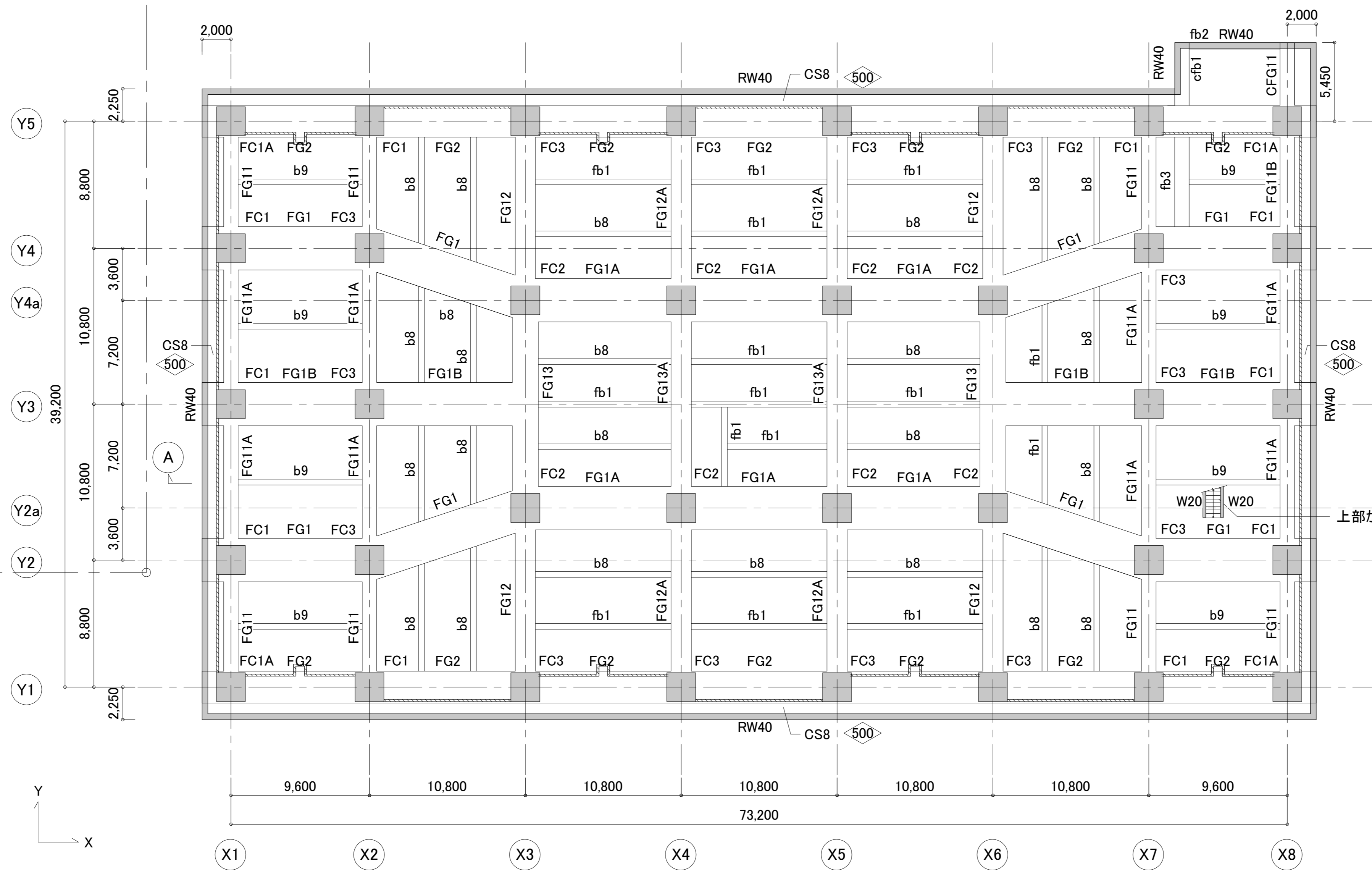
基礎・ピット伏図 1:200

- 共通事項(特記なき限り)
- 設計GLは T.P.+4.3mとする。
  - 底版下端は 設計GL-5650とする。
  - 基礎底は 設計GL-5950とする。
  - フーチング芯=通り芯とする。
  - ☒ 印は釜場を示し、サイズは意匠図による。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024. 3. 25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	14	基礎・ピット伏図 1:200	見積版 2024. 3. 25
安井建築設計事務所			最終契約版



敷地境界線



(A) 断面図 1:100

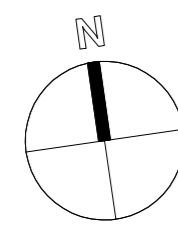
免震層伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 梁天端は 1FL-3750、スラブ天端は 1FL-3600 とする。
  - スラブは S16 とする。
  - ◻ 印は釜場を示し、サイズは意匠図による。
  - ◻ 印部分は W15 を示す。
  - 免震材料基礎芯=通り芯とする。

上部からの吊下げ躯体

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	1:100
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	15	免震層伏図	1:200
<b>安井建築設計事務所</b>			最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版

敷地境界線



上部からの吊下げ躯体

NRB:天然ゴム系積層ゴム支承

記号	符号	ゴム径	基数
○	NRB100	1000φ	4
計			4

HRB:高減衰ゴム系ゴム支承

記号	符号	ゴム径	基数
◎	HRB100	1000φ	10
⊗	HRB110	1100φ	14
⊗	HRB120	1200φ	8
計			32

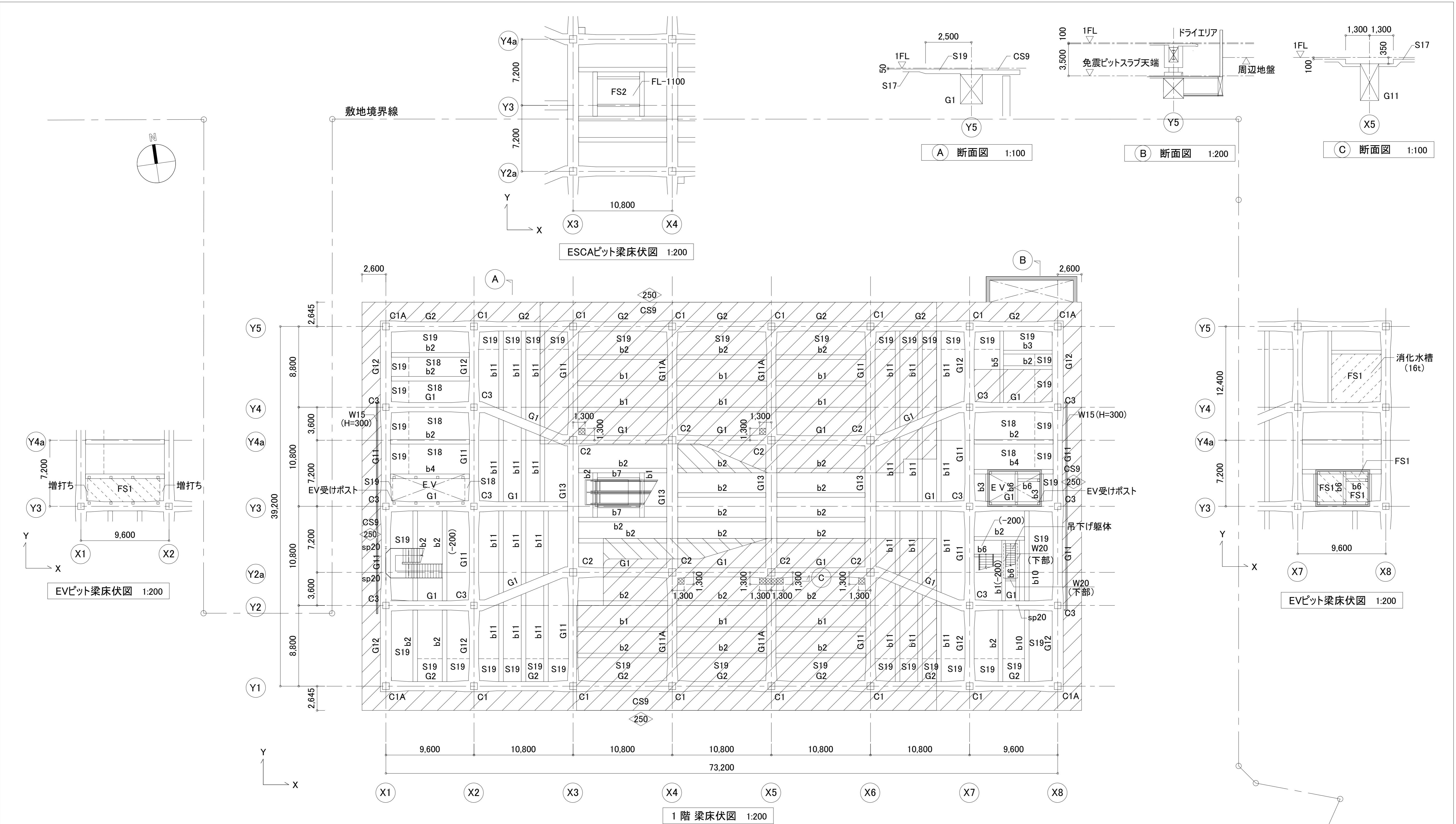
免震材料配置図 1:200

共通事項(特記なき限り)

・免震材料芯 = 通り芯とする。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	16	免震材料配置図 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版

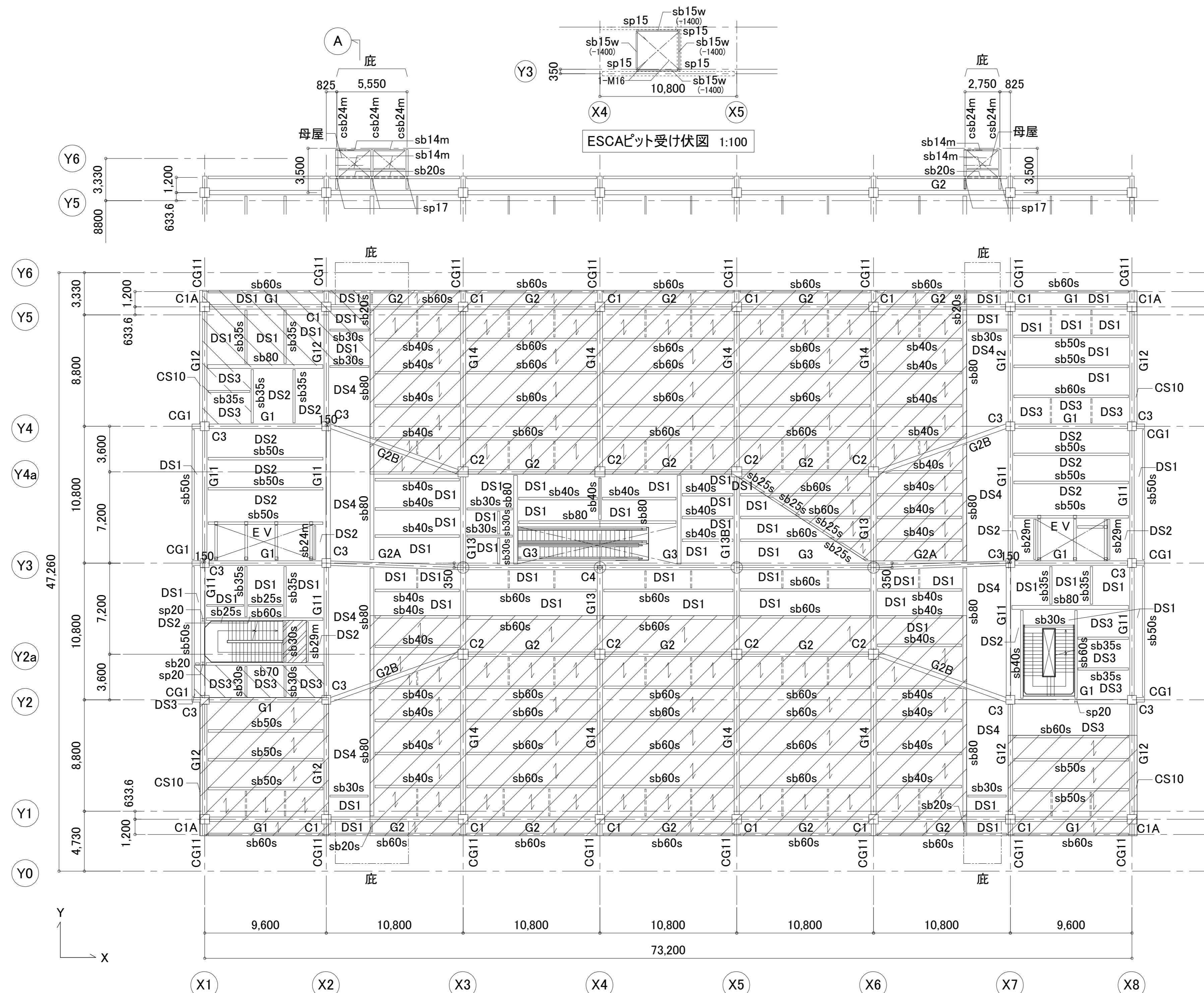
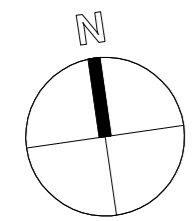




- 共通事項 (特記なき限り)
- 1FL= 設計GL+100とする。
  - 設計GLは T.P.+4.3mとする。
  - 大梁天端は FL-350とする。
  - 小梁天端、スラブ天端は FL-50とする。
  - スラブ符号は S17とする。
  - スラブ厚は 150mmとする。
  - 印部分の小梁天端は FL-250、スラブ天端は FL-100とする。
  - 印部分のスラブ天端は FL-300とする。
  - 印部分は スラブ上部打増し (ア)50とする。
  - 印部分のスラブ天端は FL-1850とする。
  - 印部分のスラブ天端は FL-1400とする。
  - ( ) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
  - スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁上(下)打増しを行うものとする。
  - FS1 スラブ天端は 1FL-1400とする。
  - FS2 スラブ天端は 1FL-1100とする。
  - EV受ポストは sp25とする。

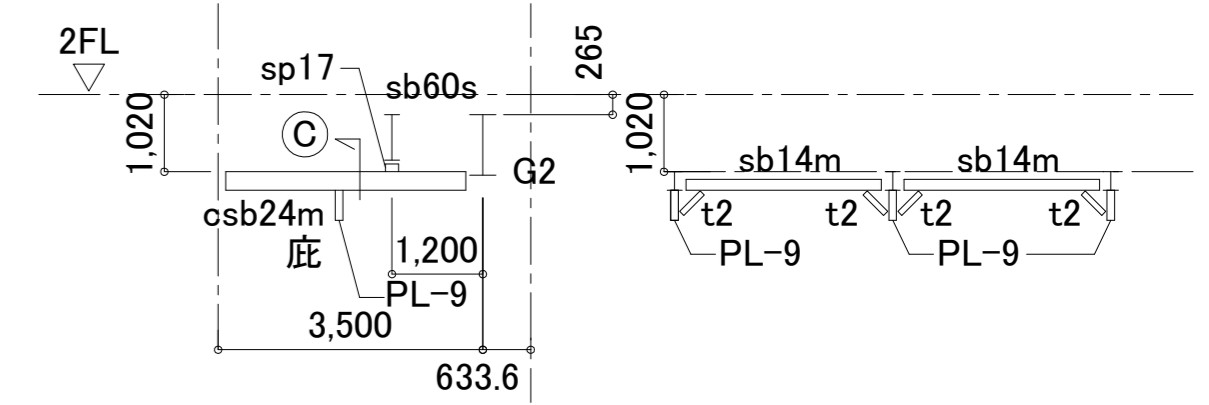
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	1:100
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	17	1階梁床伏図	1:200
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版

最終版 2024.3.25  
見積版 2024.3.25

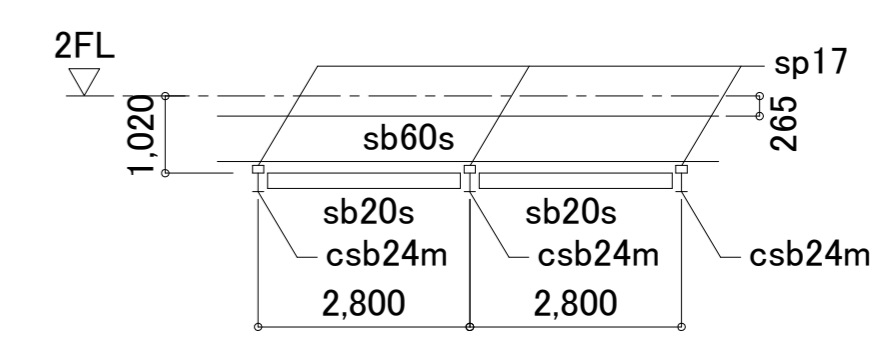


ESCALピット受け伏図 1:100

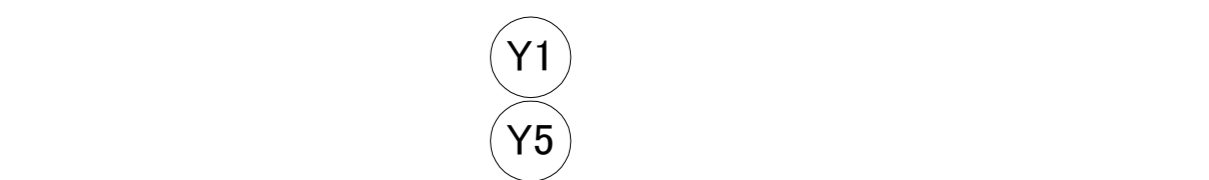
2階梁床伏図 1:200



断面図 A 1:100



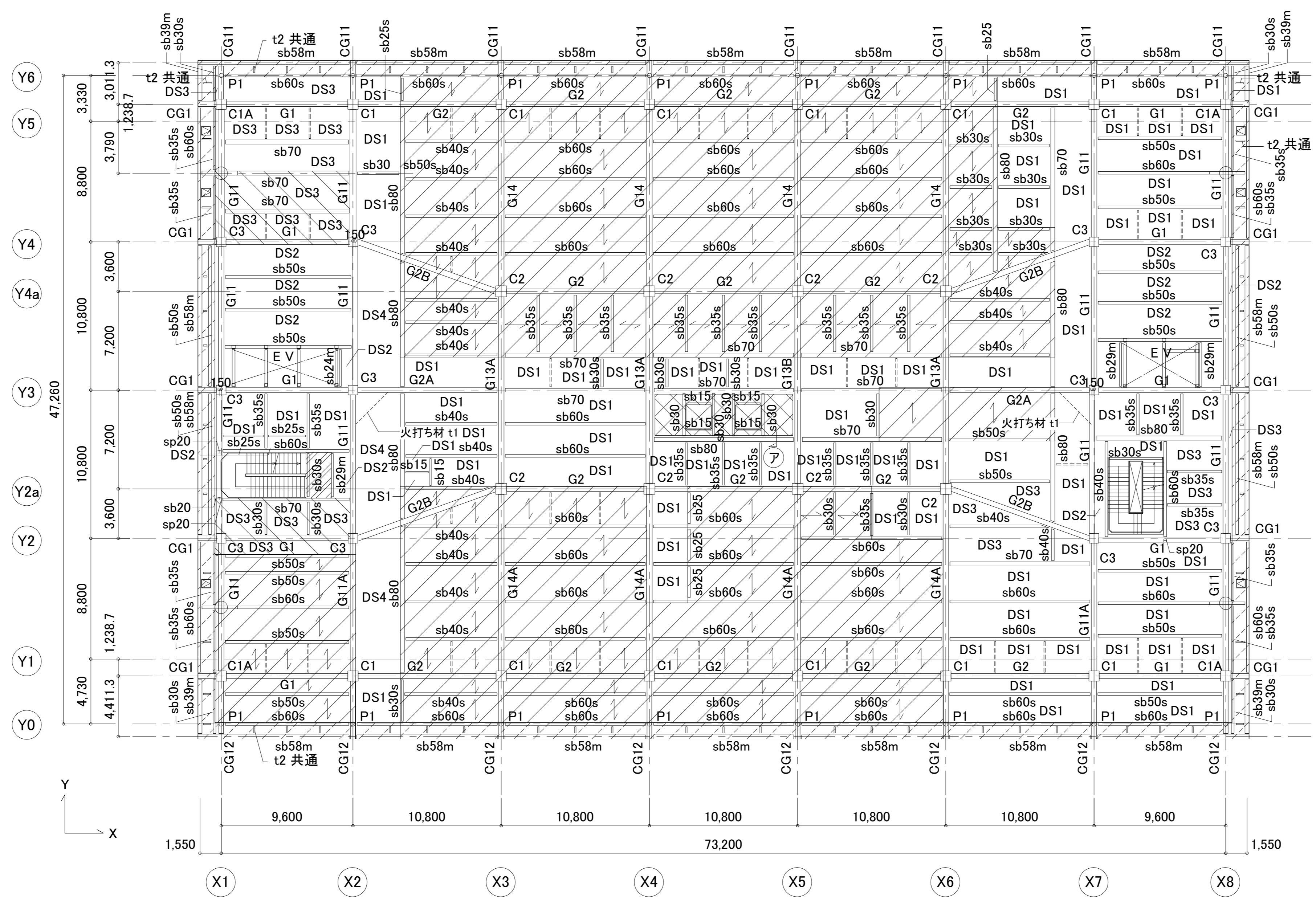
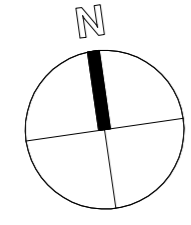
断面図 B 1:100



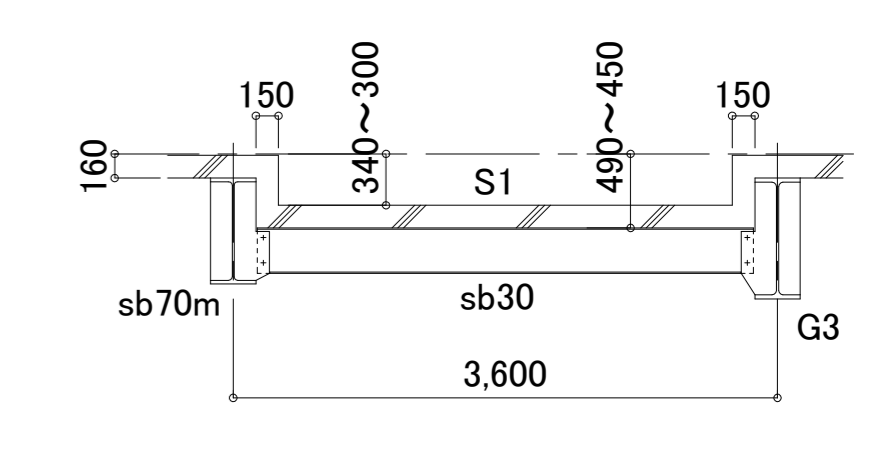
断面図 C 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 大梁天端は FL-265 とする。
  - 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
  - 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
  - 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
  - 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40 とする。
  - スラブ符号は DS11 とする。
  - ( ) 内寸法は FL からの梁天端レベルを示す。
  - スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
  - ----- 印は 大梁座屈止め t1 を示す。
  - 印は剛接合を示す。
  - 印はデッキ敷き方向を示す。
  - EV受ポストは sp25 とする。
  - 庇梁天端は 2FL-1020 とする。
  - 庇水平ブレースは HV16(1-M16ターンバックル) とする。
  - 庇母屋は C-100x50x20x2.3@600 とする。
  - エスカレーター脱落防止 上部架構の層間変形角は 1/200 以内とする。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事 1:100
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	18	2階梁床伏図 1:200
安井建築設計事務所			



3階 梁床伏図 1:200



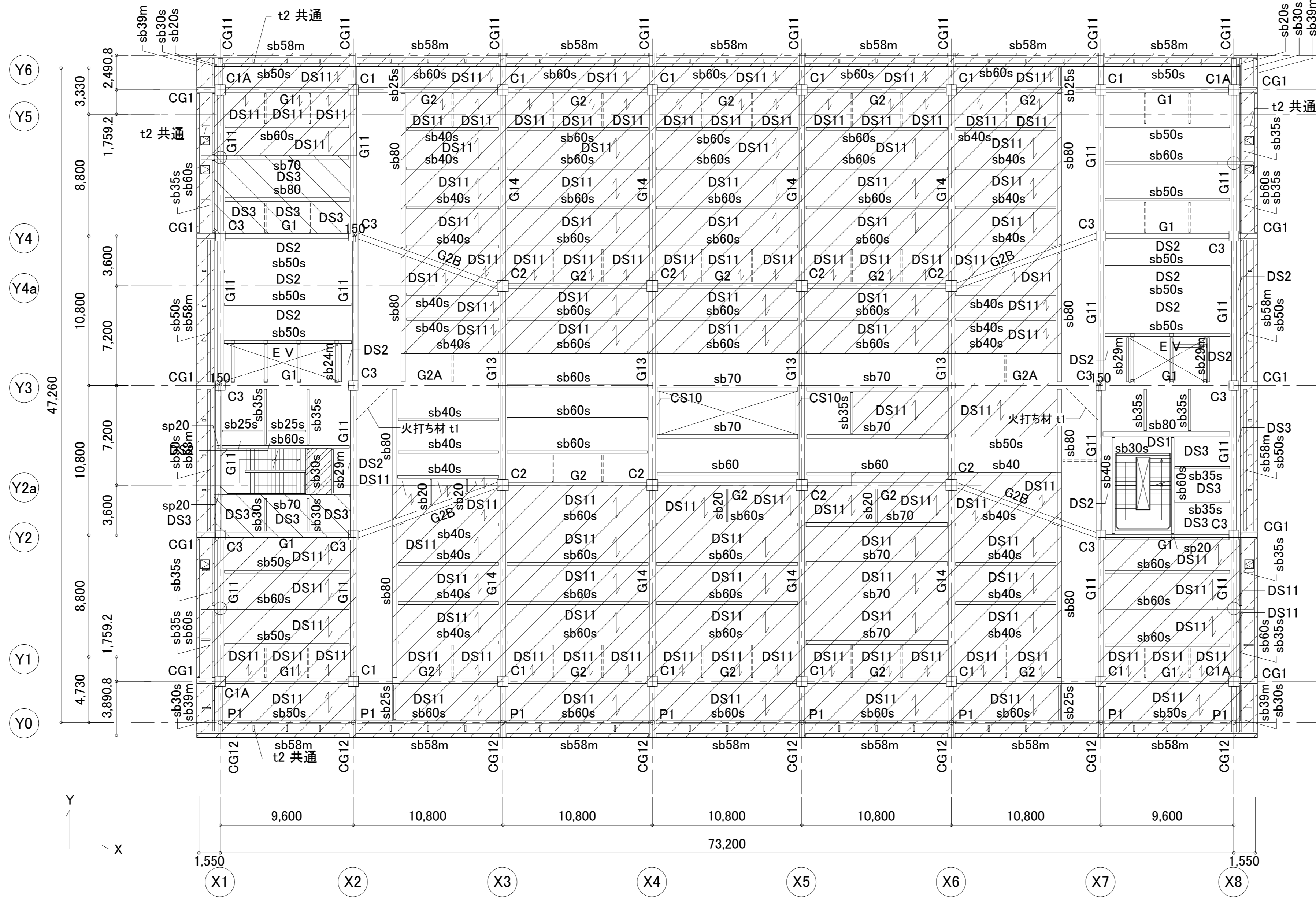
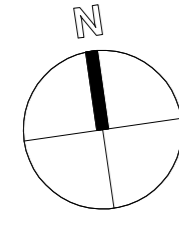
ア 断面詳細図 1:50  
B40の梁段差かさ上げ要領に倣うこと。

共通事項(特記なき限り)

- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS11 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
- 印部分のスラブ符号は S17、スラブ天端は FL-340~300 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250、スラブ天端は FL-100 とし、スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40 とする。
- ( ) 内寸法は FL からの梁天端レベルを示す。
- スラブ(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ---- 印は 大梁座屈止め t1 を示す。
- 印は剛接合を示す。

- 印はデッキ敷き方向を示す。
- 印は避難ハッチを示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- PCa版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	1:50
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	19	3階梁床伏図	1:200
		安井建築設計事務所	
		最終版	2024.3.25
		見積版	2024.3.25
		最終契約版	

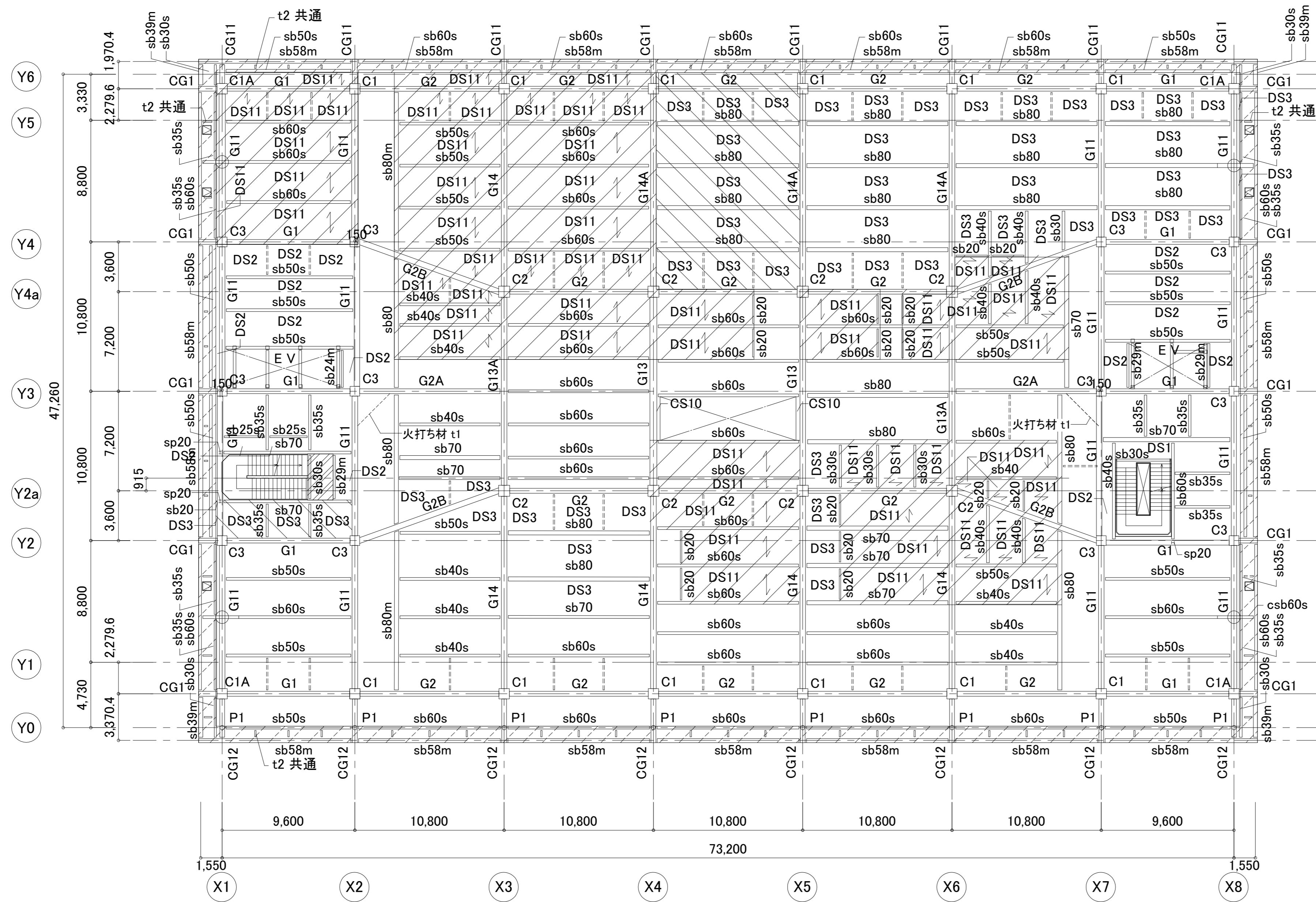


4階 梁床伏図 1:200

共通事項 (特記なき限り)

- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250、スラブ天端は FL-100 とし、スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40 とする。
- ( ) 内寸法は FL からの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ---- 印は 大梁座屈止め t1 を示す。
- 印は剛接合を示す。
- 印はデッキ敷き方向を示す。
- EV 受ポストは sp25 とする。
- PCa版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		明石市役所新庁舎建設工事	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	20	4階梁床伏図 1:200
		安井建築設計事務所	
			最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版



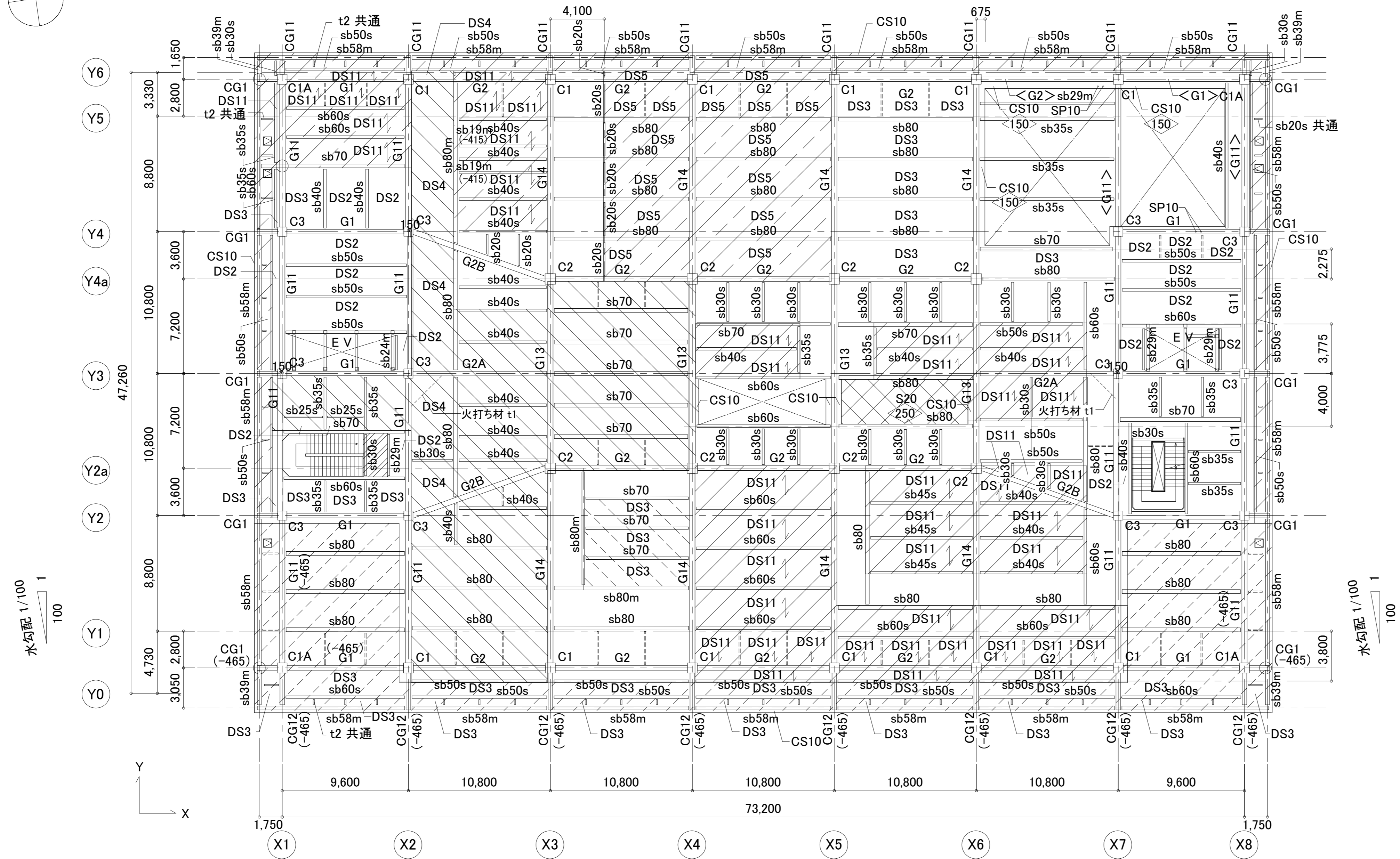
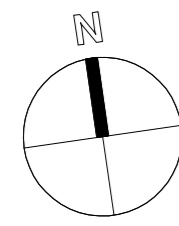
5階 梁床伏図 1:200

共通事項 (特記なき限り)

- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250、スラブ天端は FL-100 とし、スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40 とする。
- ( ) 内寸法は FL からの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ----- 印は 大梁座屈止め t1 を示す。

- 印は避難ハッチを示す。
- 印は剛接合を示す。
- 印はデッキ敷き方向を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- PC版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	21	5階梁床伏図 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



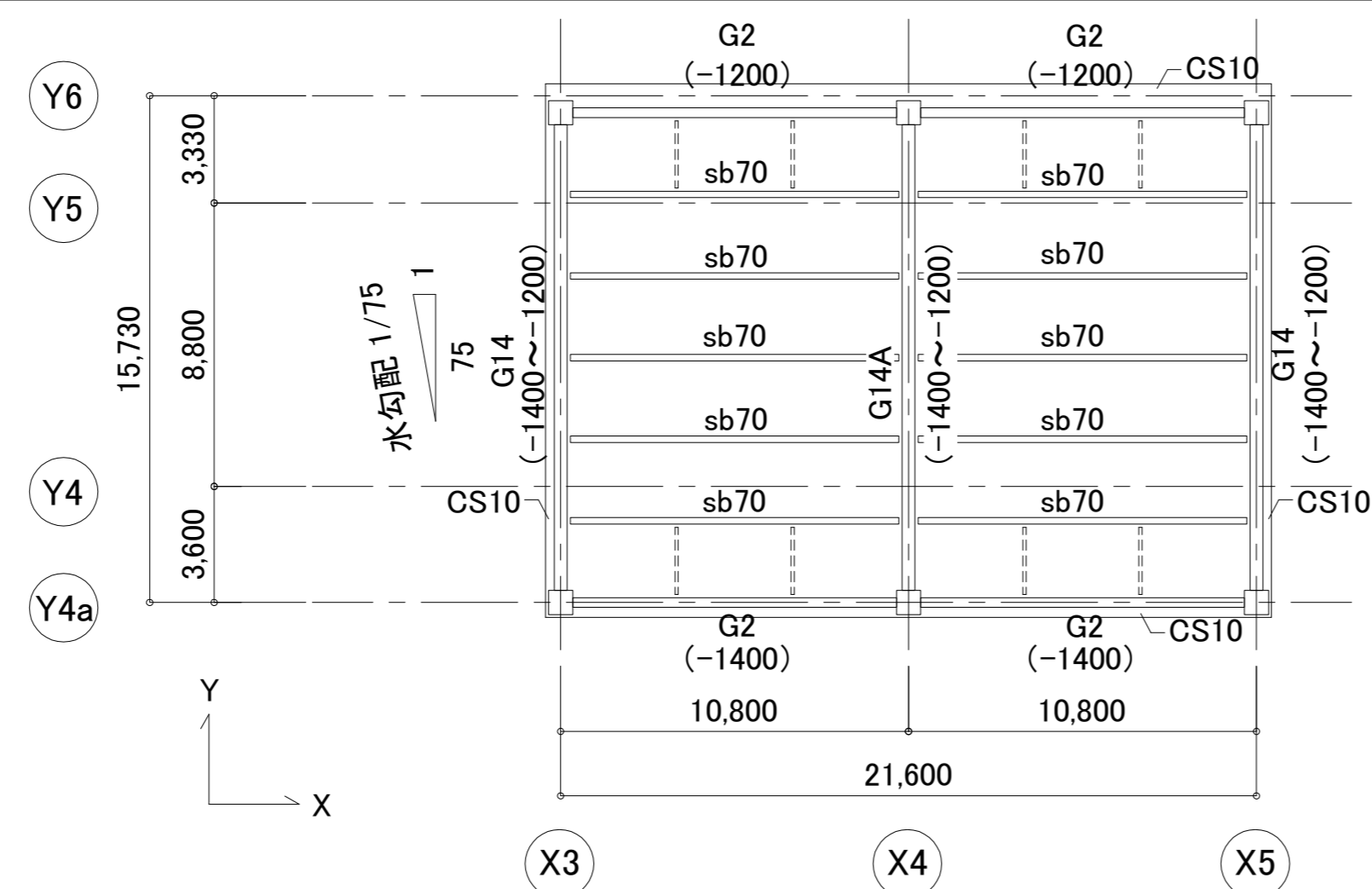
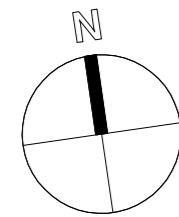
6階 梁床伏図 1:200

共通事項 (特記なき限り)

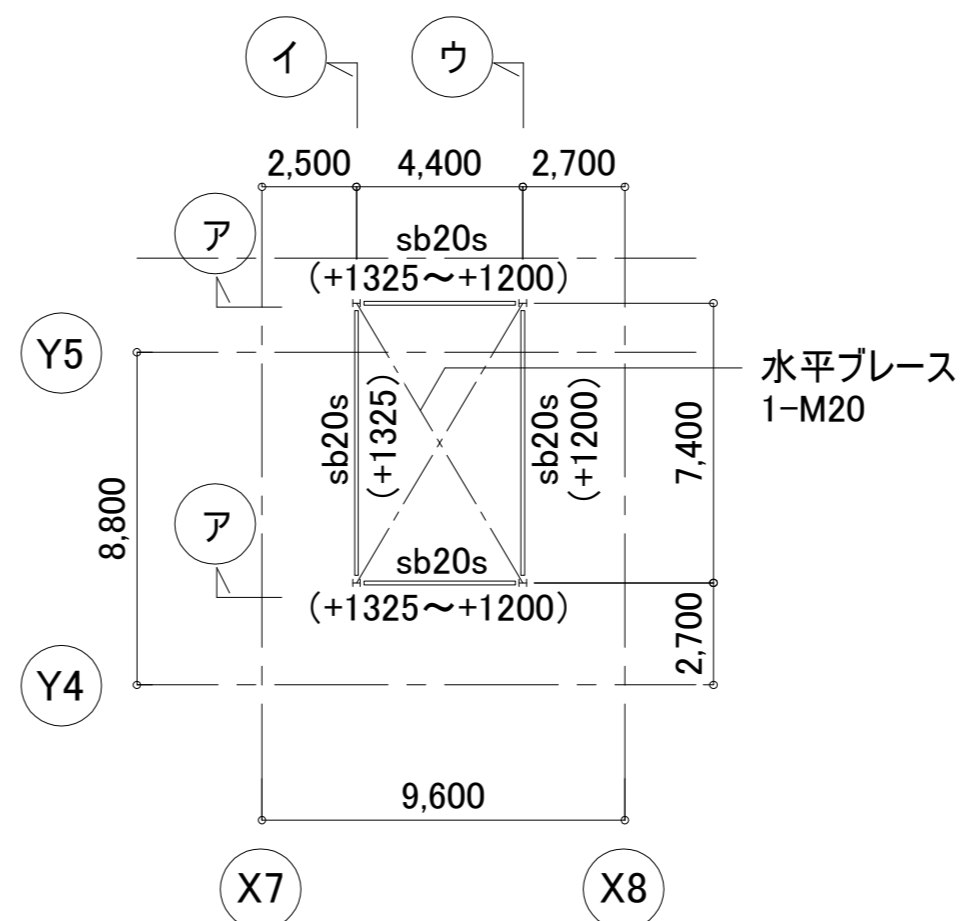
- 大梁天端は FL-265 とする。
- 小梁天端は FL-160、スラブ天端は FL-10 とする。
- スラブ符号は DS1 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-265、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-200、スラブ天端は FL-50 とする。
- 印部分のスラブ天端は FL-340~300 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-450、スラブ天端は FL-300 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-250、スラブ天端は FL-100 とする。
- 印部分の小梁天端は FL-280、PL-6天端は FL-40 とする。
- ( ) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、  
梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- ===== 印は 大梁座屈止めt1 を示す。

- ← 印はデッキ敷き方向を示す。
- < > 付大梁はカバーPL付きを示す。
- 印は剛接合を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。
- PCa版の取付に際して、床スラブコンクリートを先行打設すること。

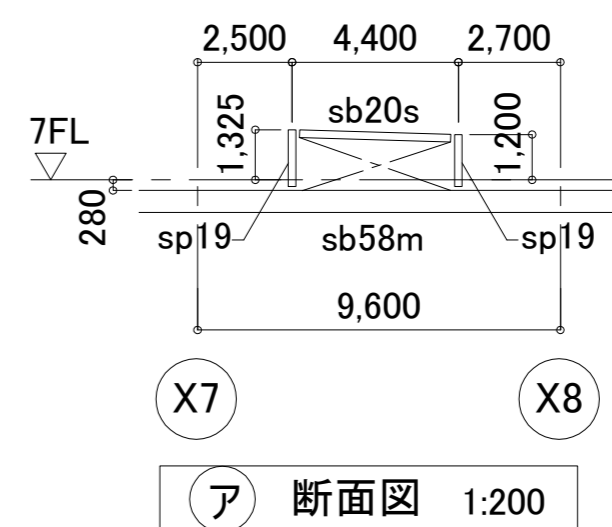
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築物	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	22	6階梁床伏図 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



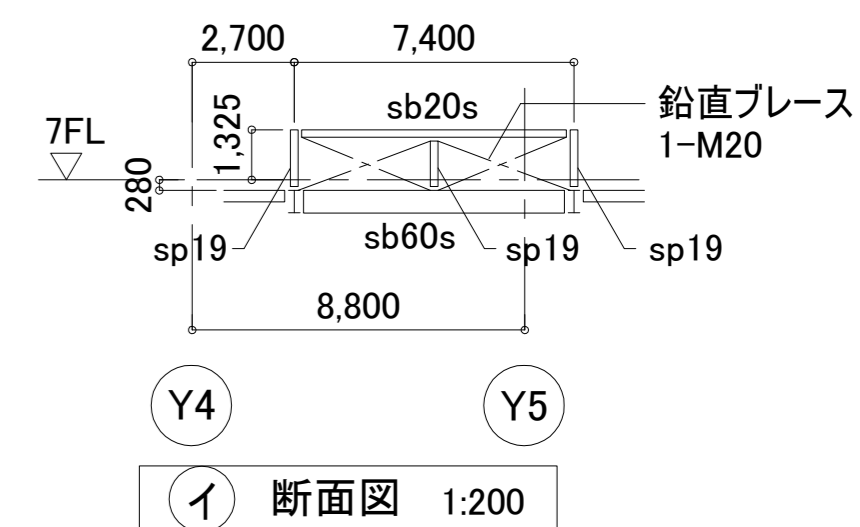
R階 梁床伏図 1:200



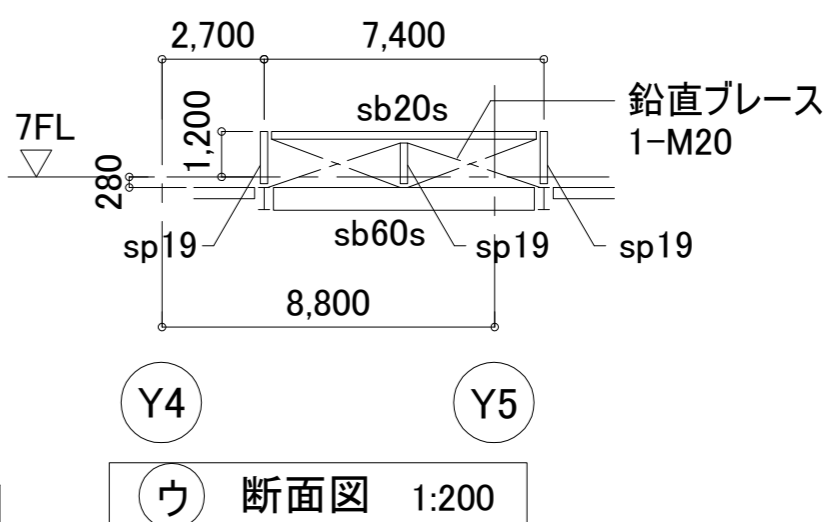
発電機搬入口上部梁伏図 1:200



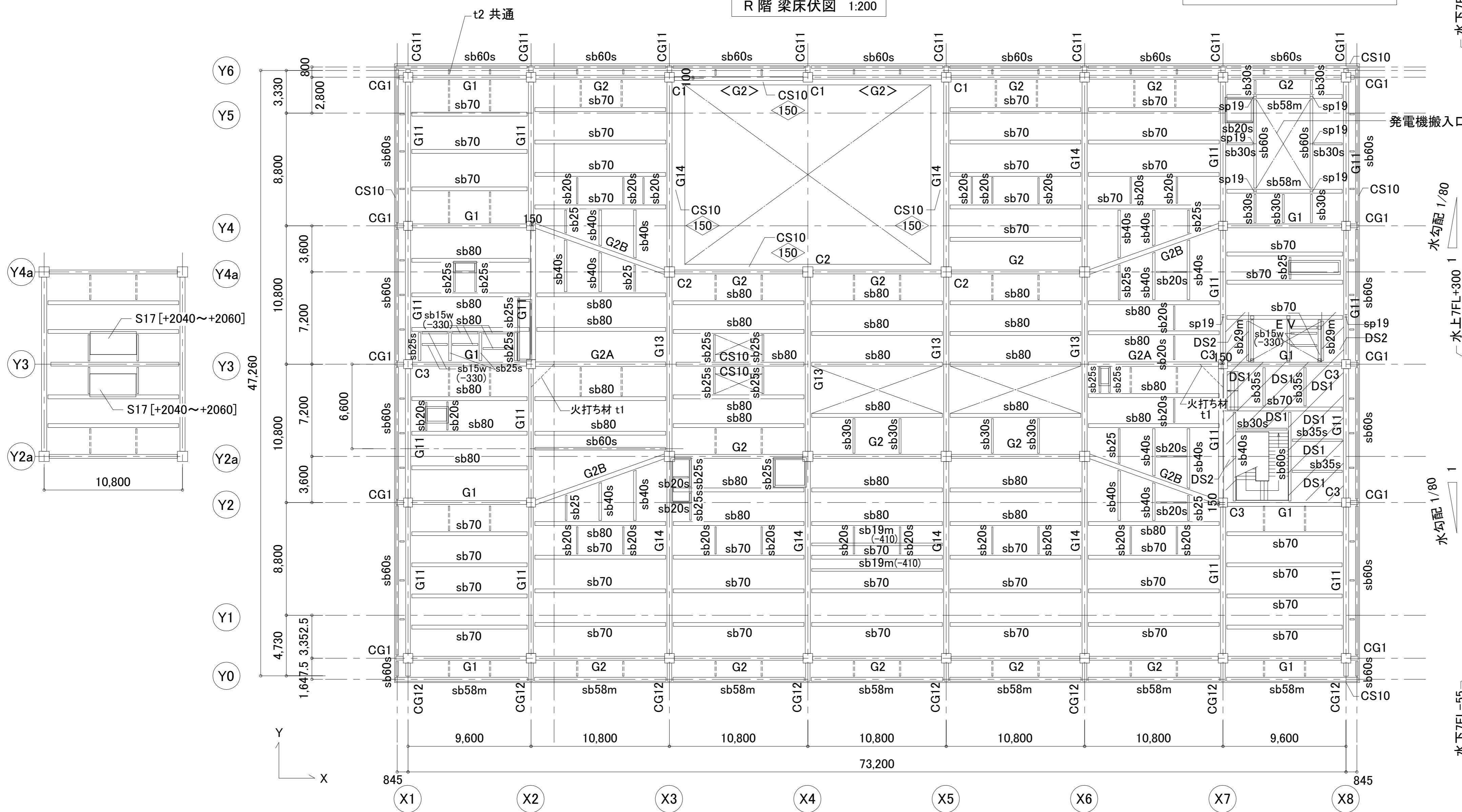
ア 断面図 1:200



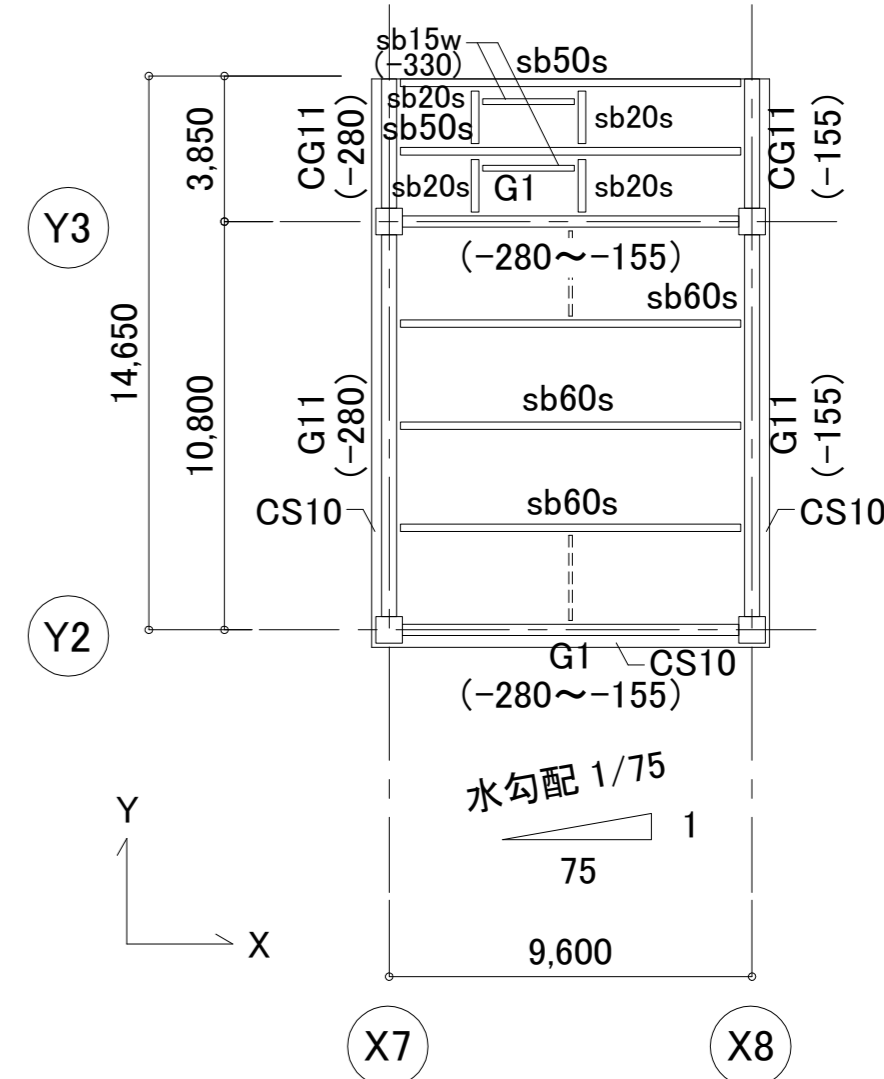
イ 断面図 1:200



ウ 断面図 1:200



7階 梁床伏図 1:200



R階 梁床伏図 1:200

7階 共通事項 (特記なき限り)

- 大梁天端は FL-280 とする。
- 小梁天端、スラブ天端は 水勾配による。
- 印部分の小梁天端は FL+140、スラブ天端は FL+290とする。大梁上はCTで嵩上げを行うものとする。
- スラブ符号は DS4 とする。
- ( ) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- [ ] 内寸法はFLからのスラブ天端レベルを示す。

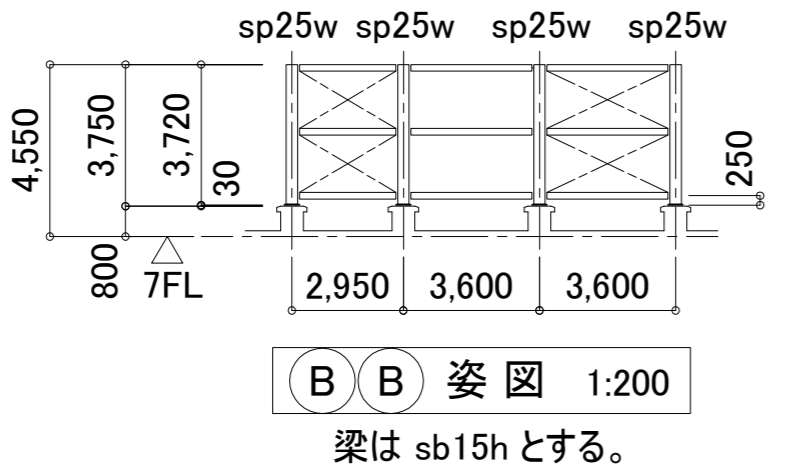
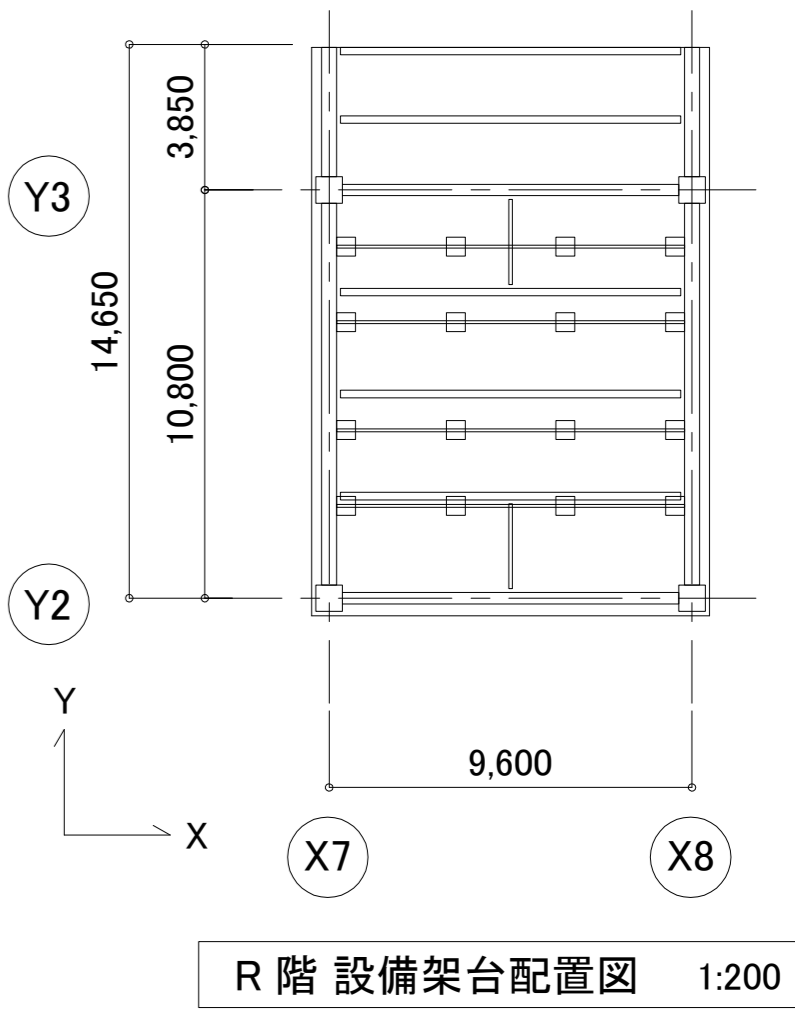
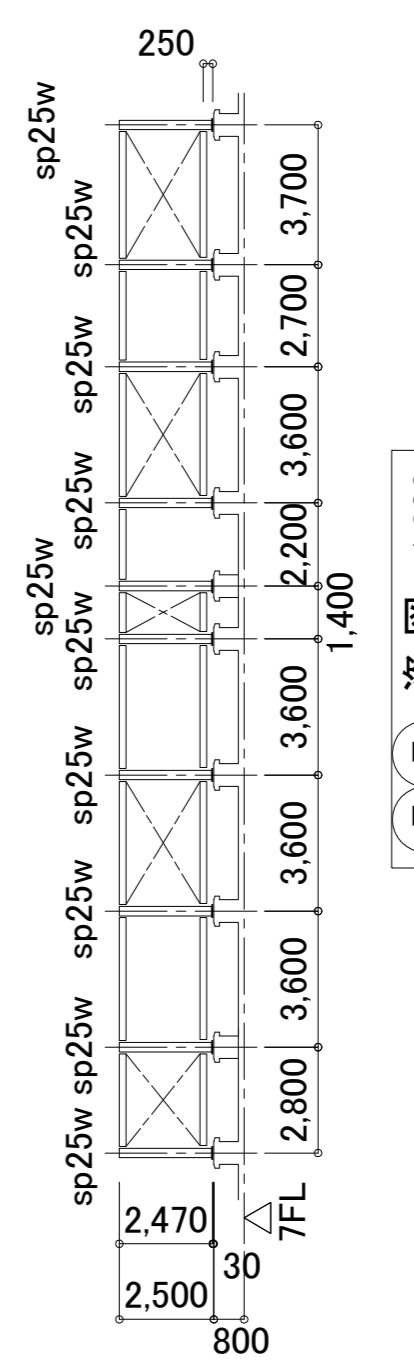
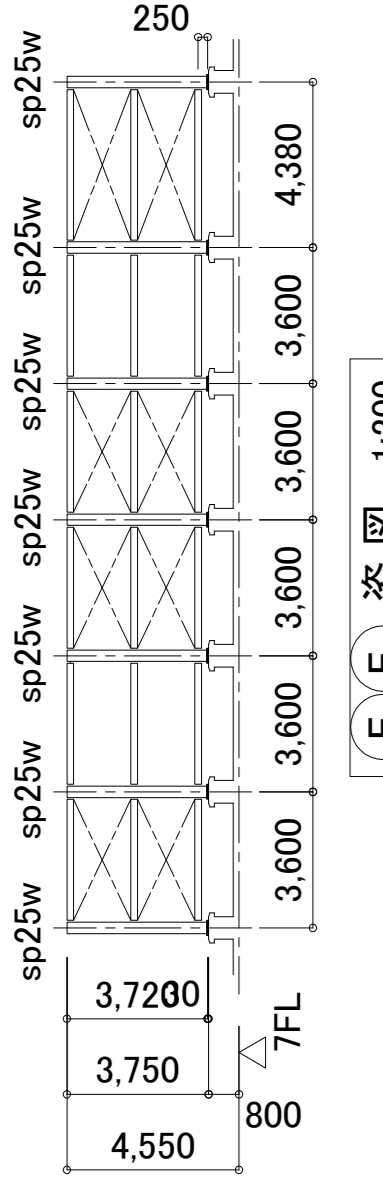
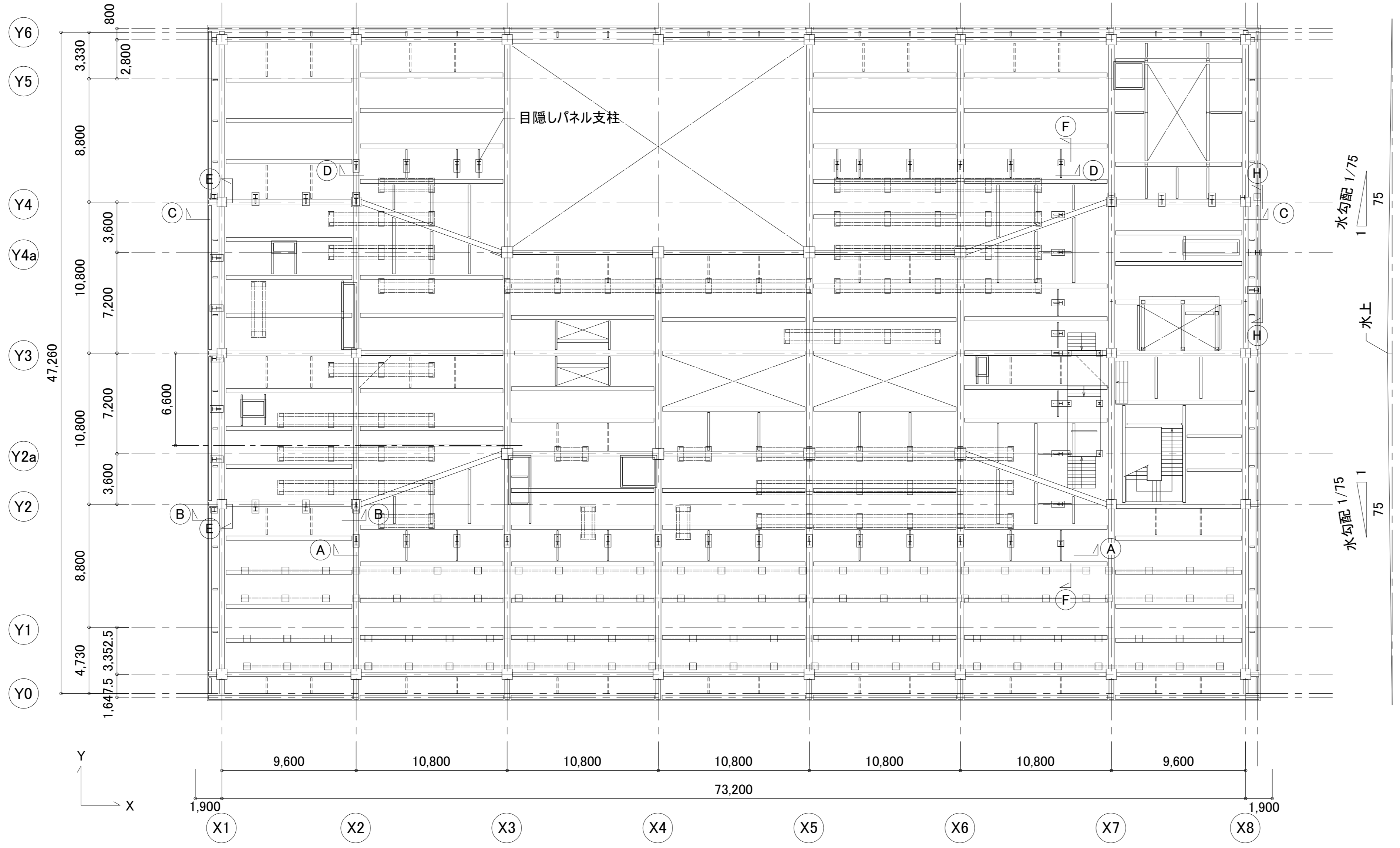
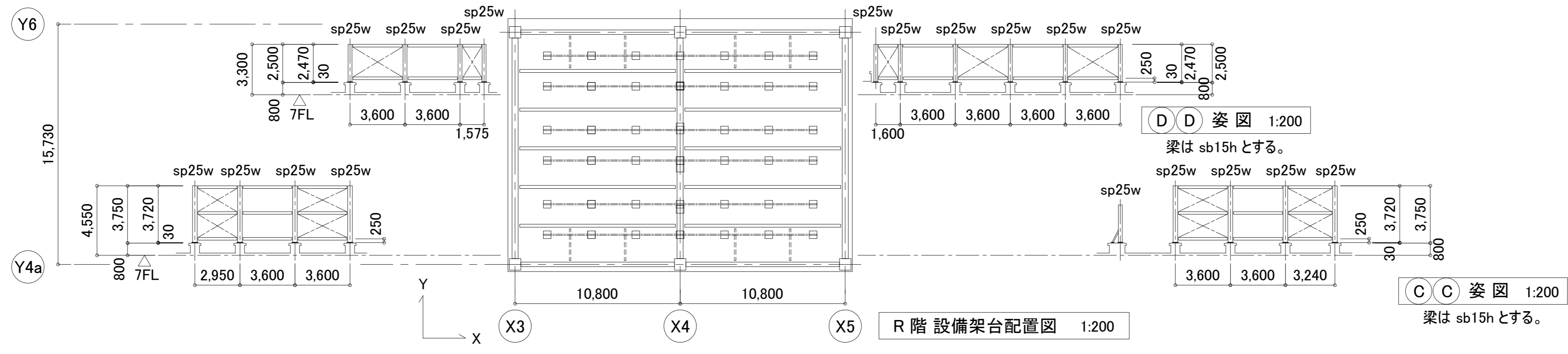
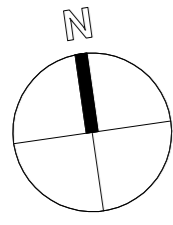
スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。

- 印は 大梁座屈止めt1 を示す。
- 印は剛接合を示す。
- 印はデッキ敷き方向を示す。
- EV受ポストは sp25 とする。

R階 共通事項 (特記なき限り)

- 大梁天端は FL-280 とする。
- 小梁天端、スラブ天端は 水勾配による。
- スラブ符号は DS1 とする。
- ( ) 内寸法はFLからの梁天端レベルを示す。
- スラブ天(下)端と梁(下)天端レベルに差異ある場合は、梁段差かさ上げ要領に倣うこと。
- 印は t1 を示す。

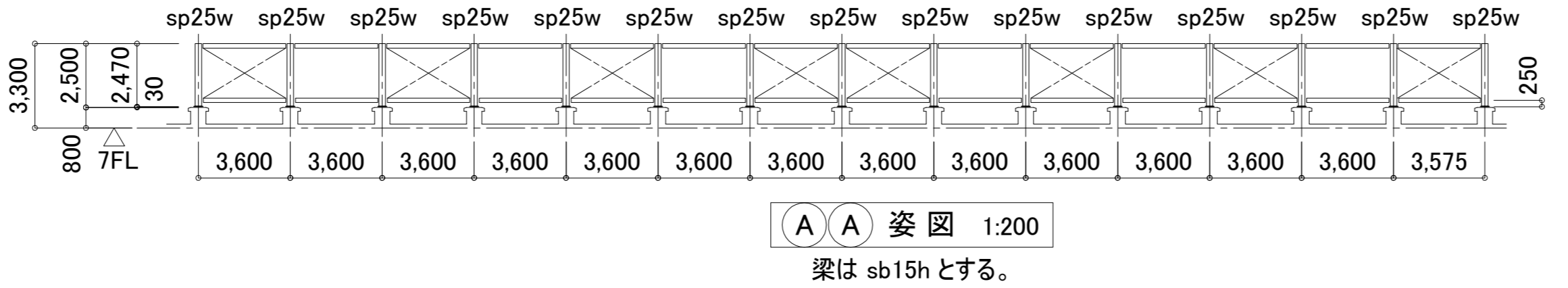
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	23	7階・R階 梁床伏図 1:200	見積版 2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版



**7階 設備架台配置図 1:200**

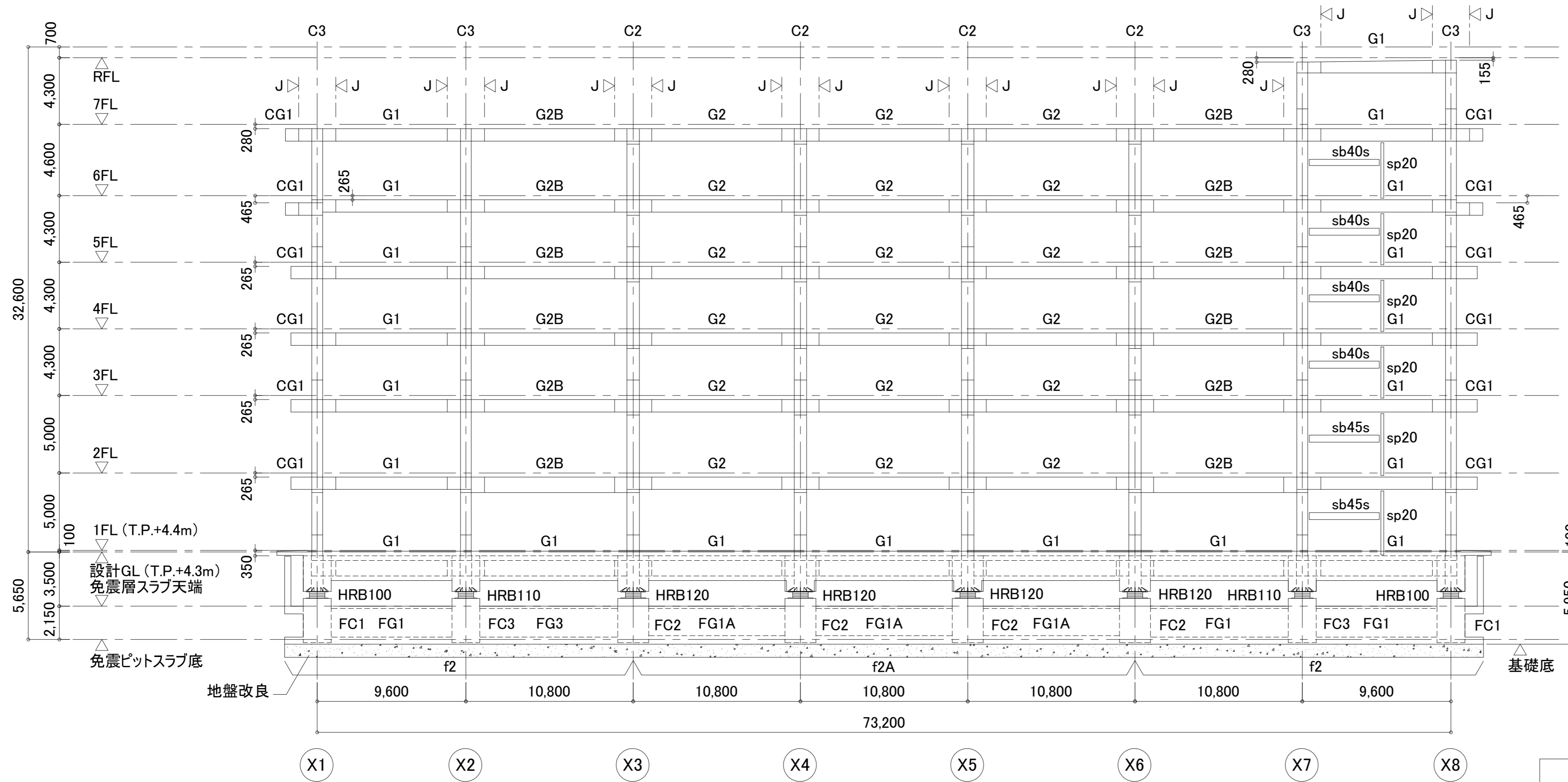
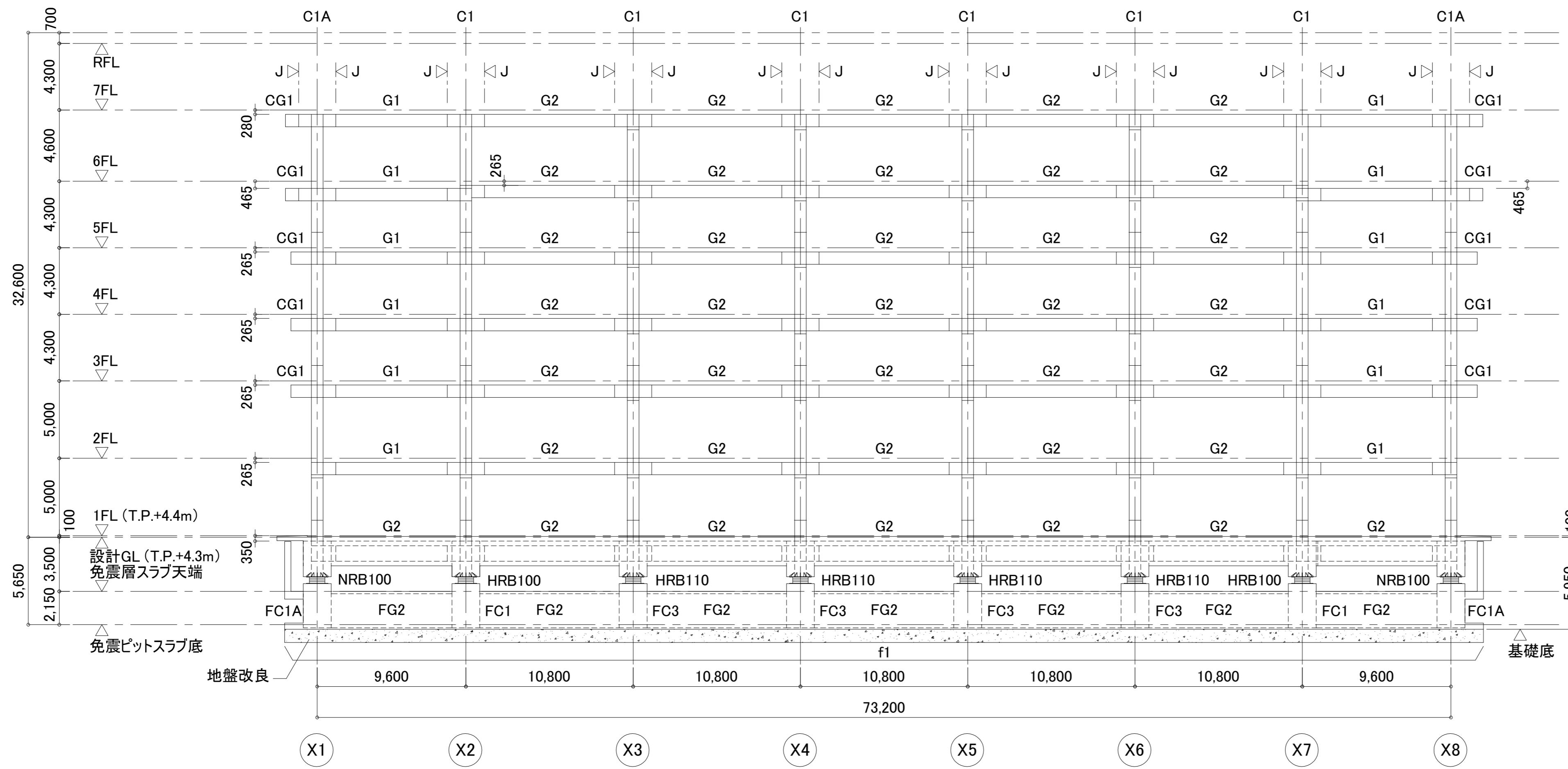
7・R階 共通事項(特記なき限り)

- 設備架台はH-150×150×7×10とする。
- 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキ(JIS H 8643)とする。



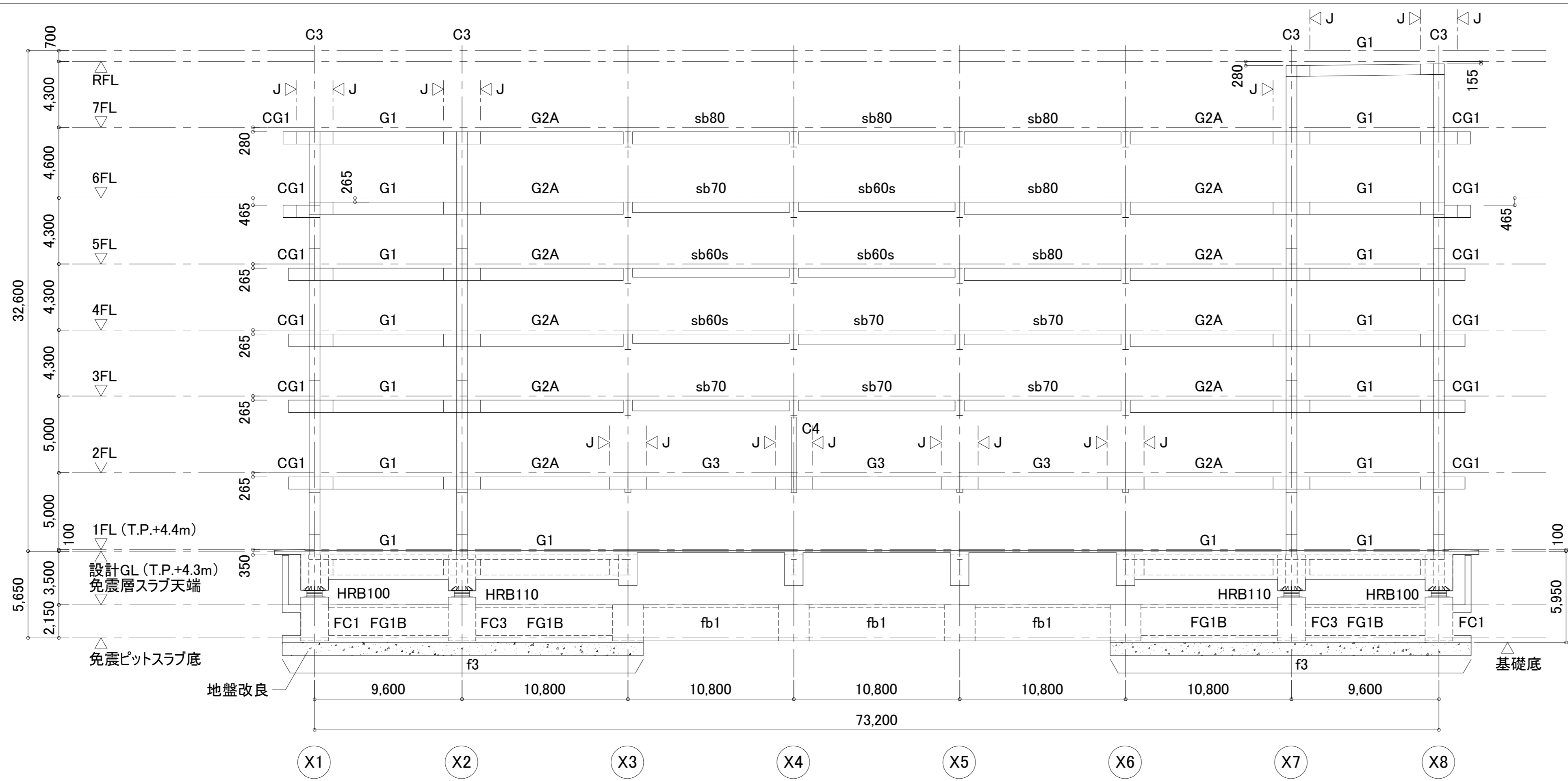
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	B <b>建築工事</b>	最終版	2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	24 <b>7.R階 設備架台配置図 1:200</b>	見積版	2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>		最終契約版	



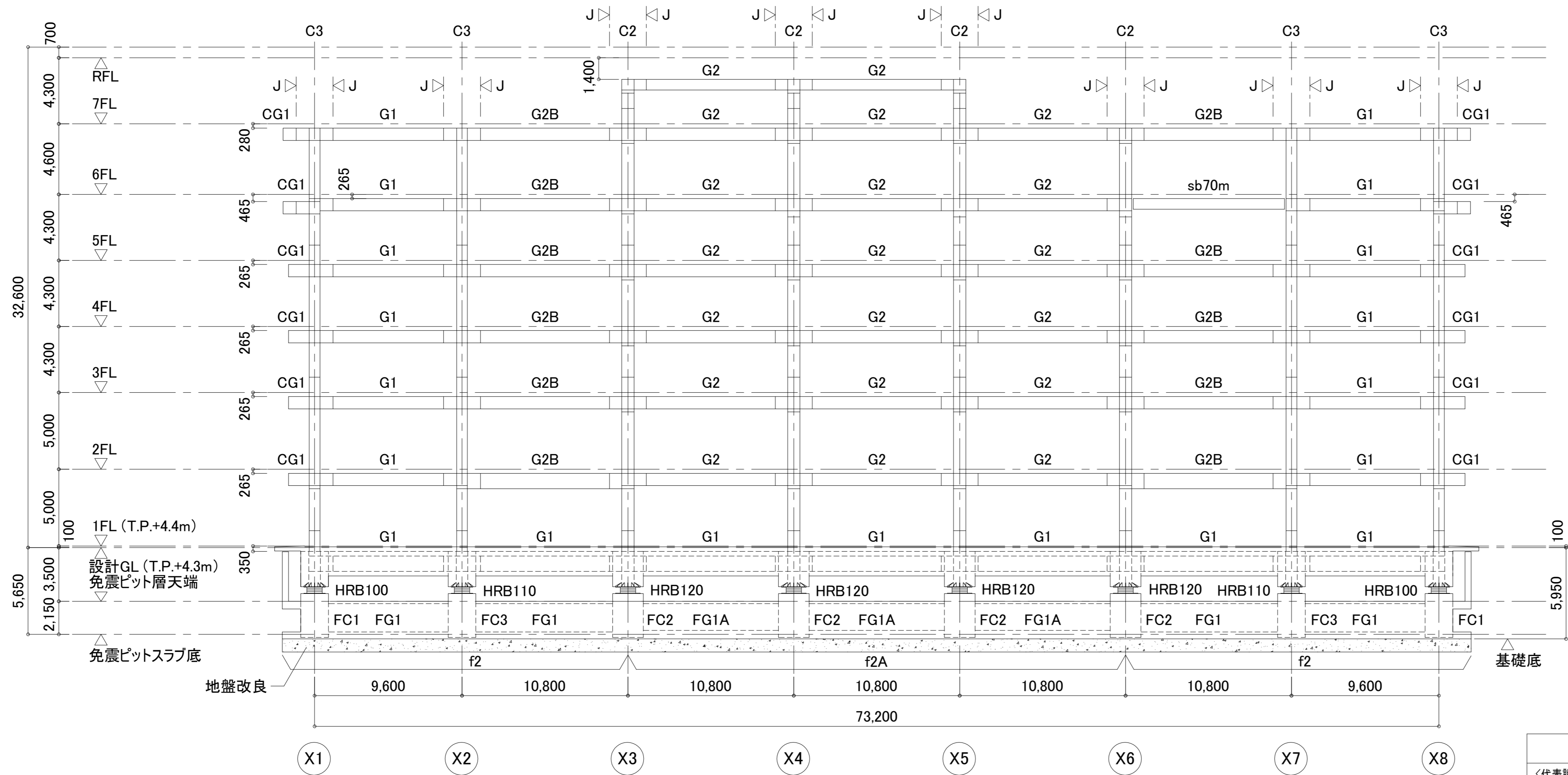


共通事項(特記なき限り)  
 ◦ ◁J 印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)  
 ◦ [ ] 印部分は地盤改良を示す。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	25	軸組図(1) 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



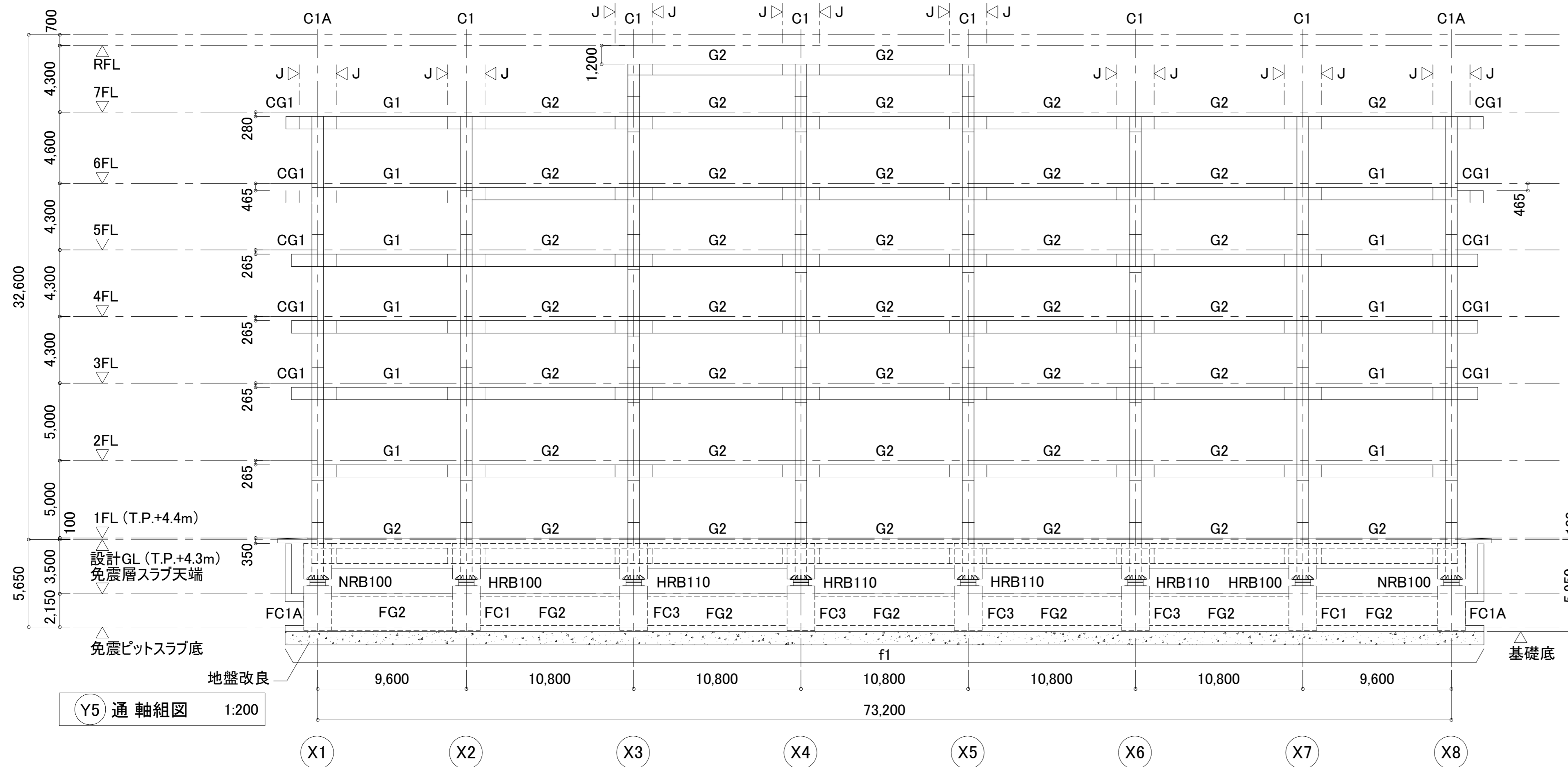
Y3) 通軸組図 1:200



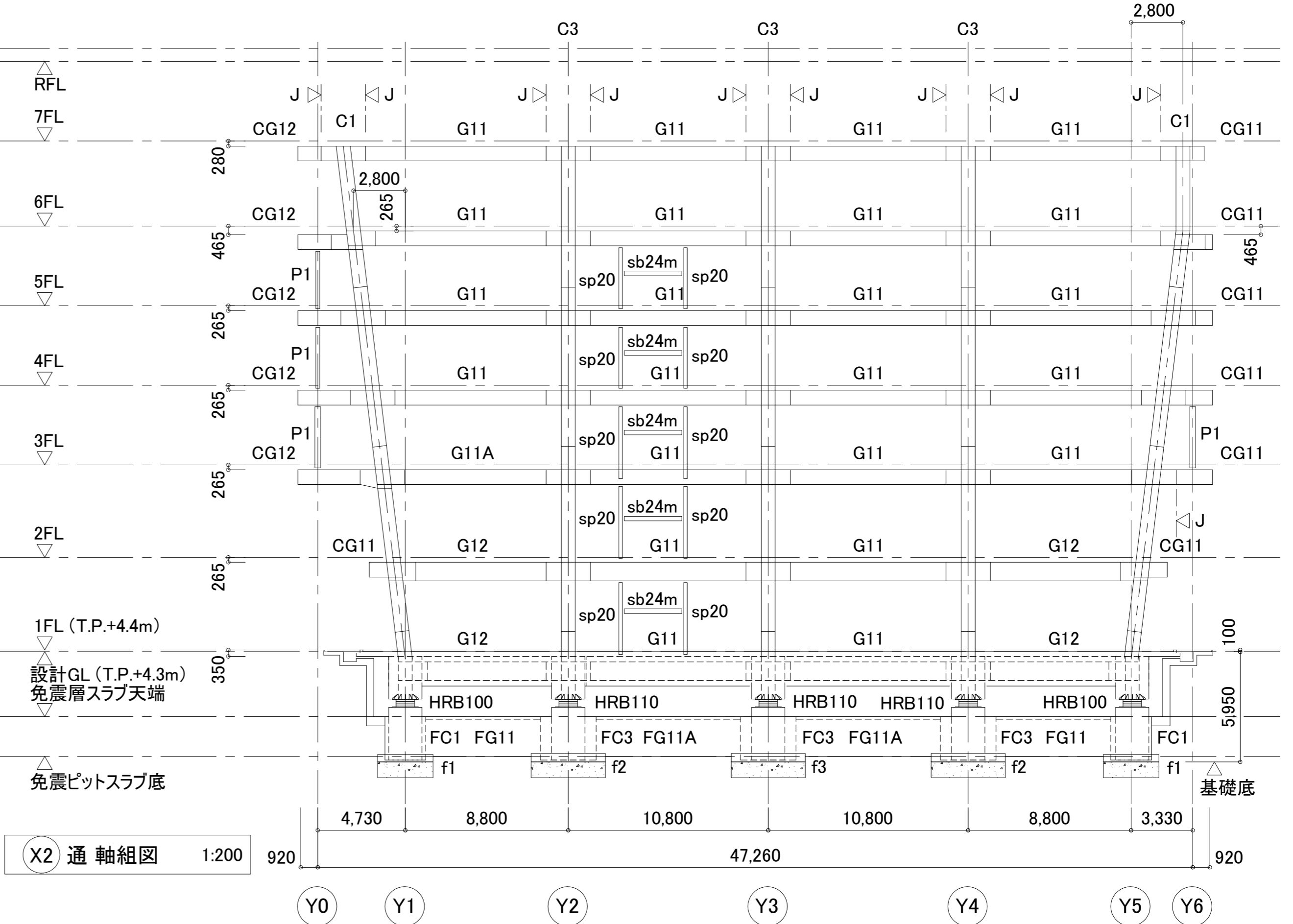
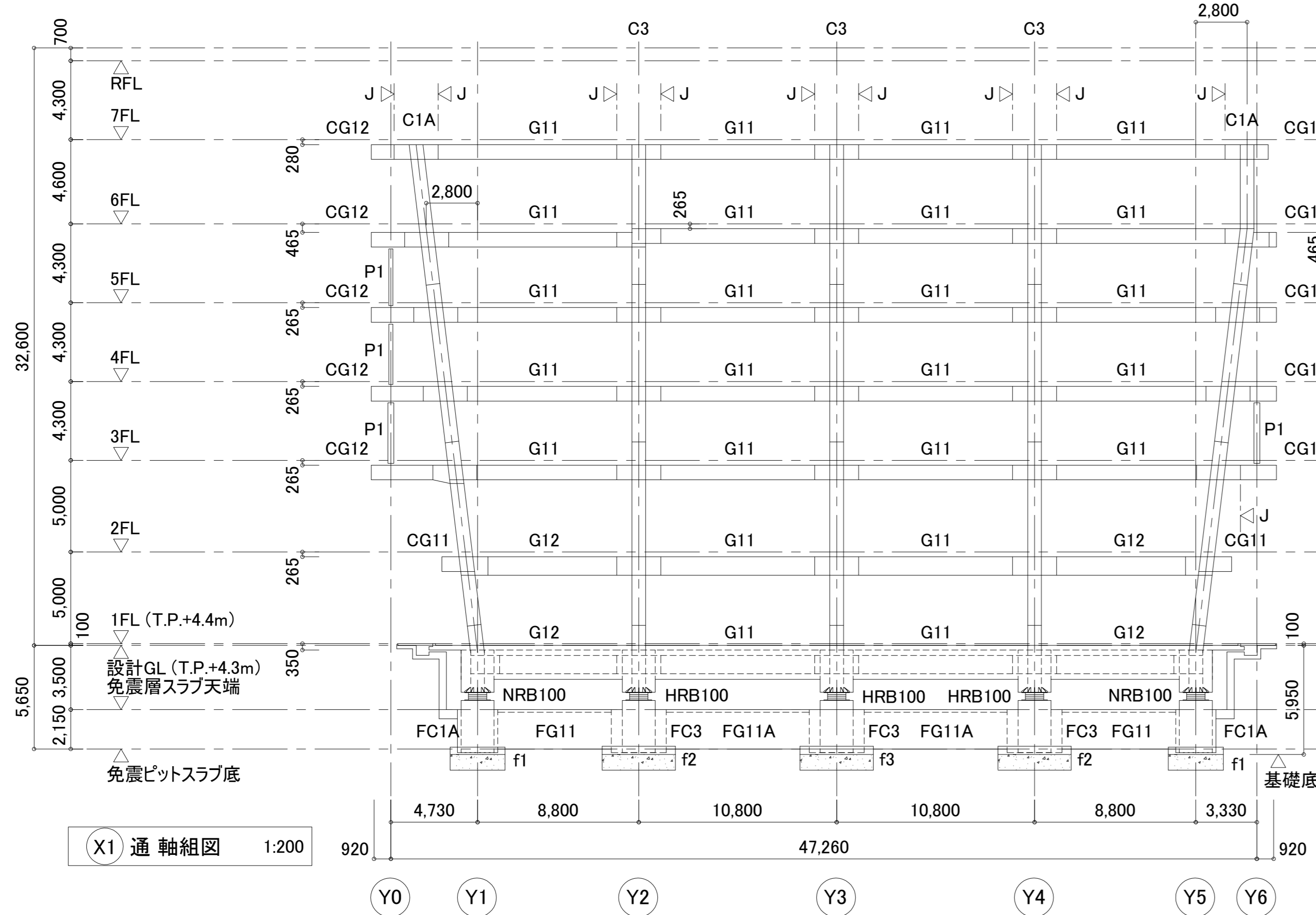
Y4) Y4a) 通軸組図 1:200

- 共通事項(特記なき限り)
- ◁J 印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)
  - [ ] 印部分は地盤改良を示す。
  - X4通りの2C4柱は、建方時に地組みを行うか、またはボルト本締めが終了するまで支保工にてサポートすること。

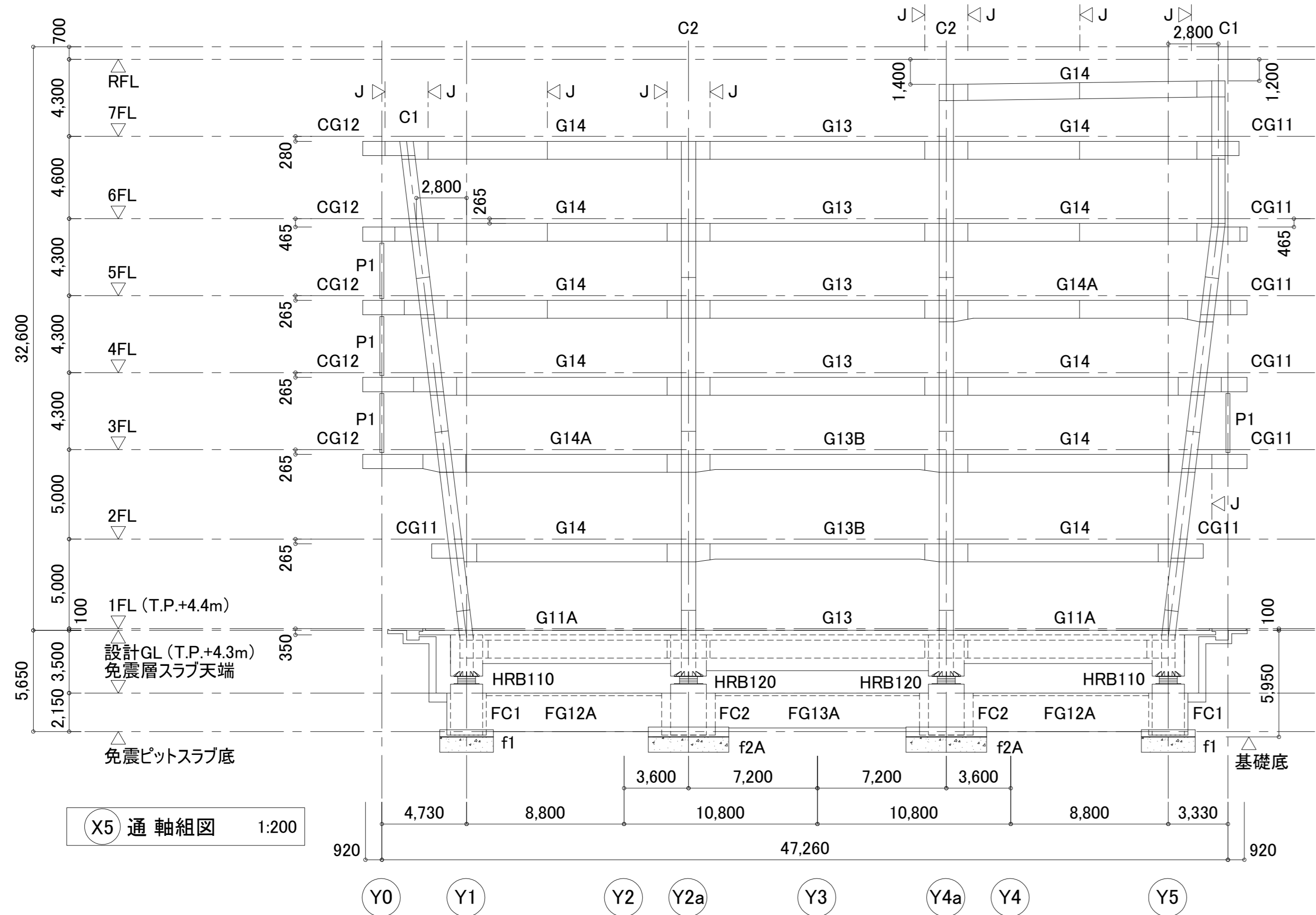
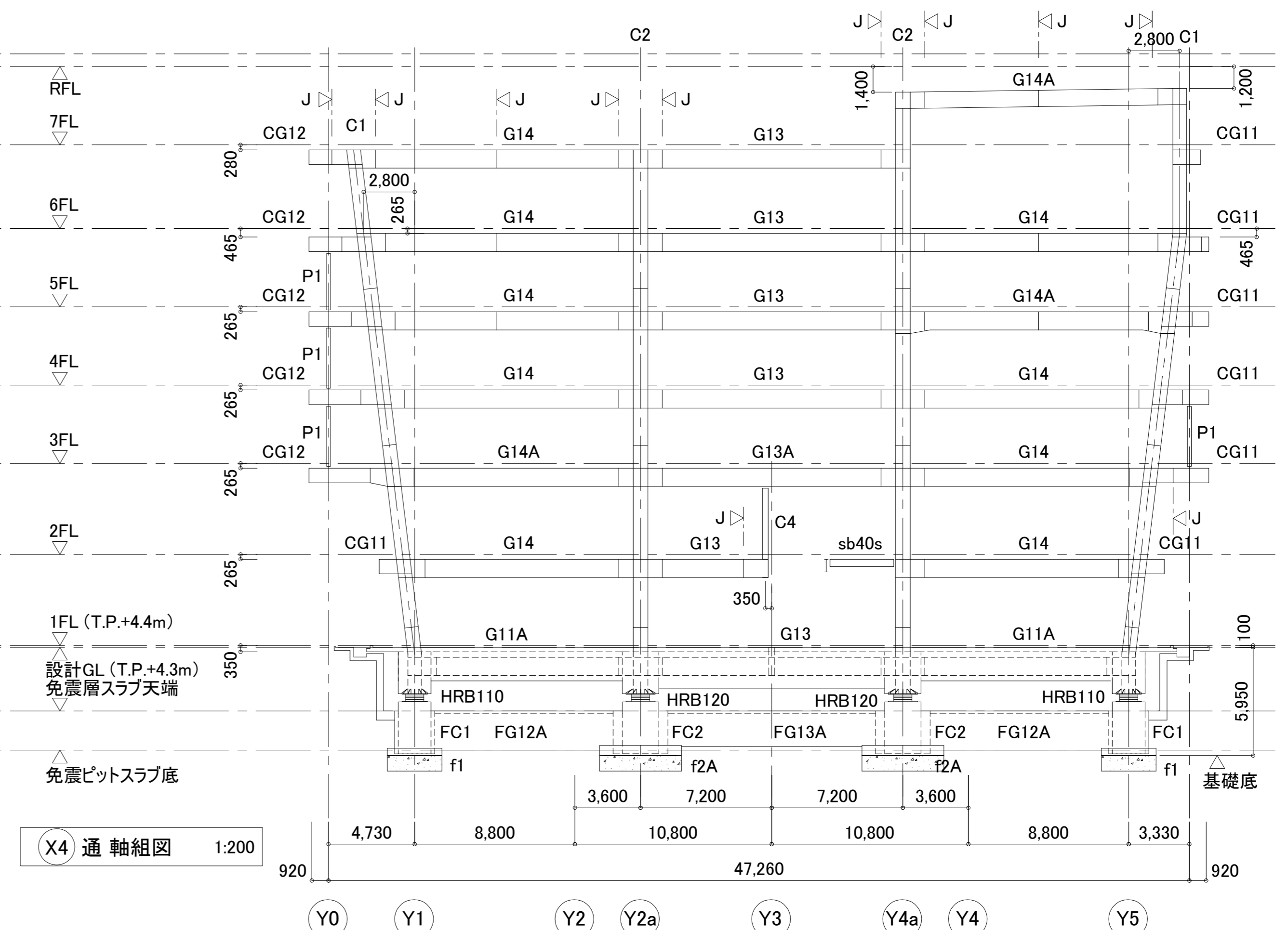
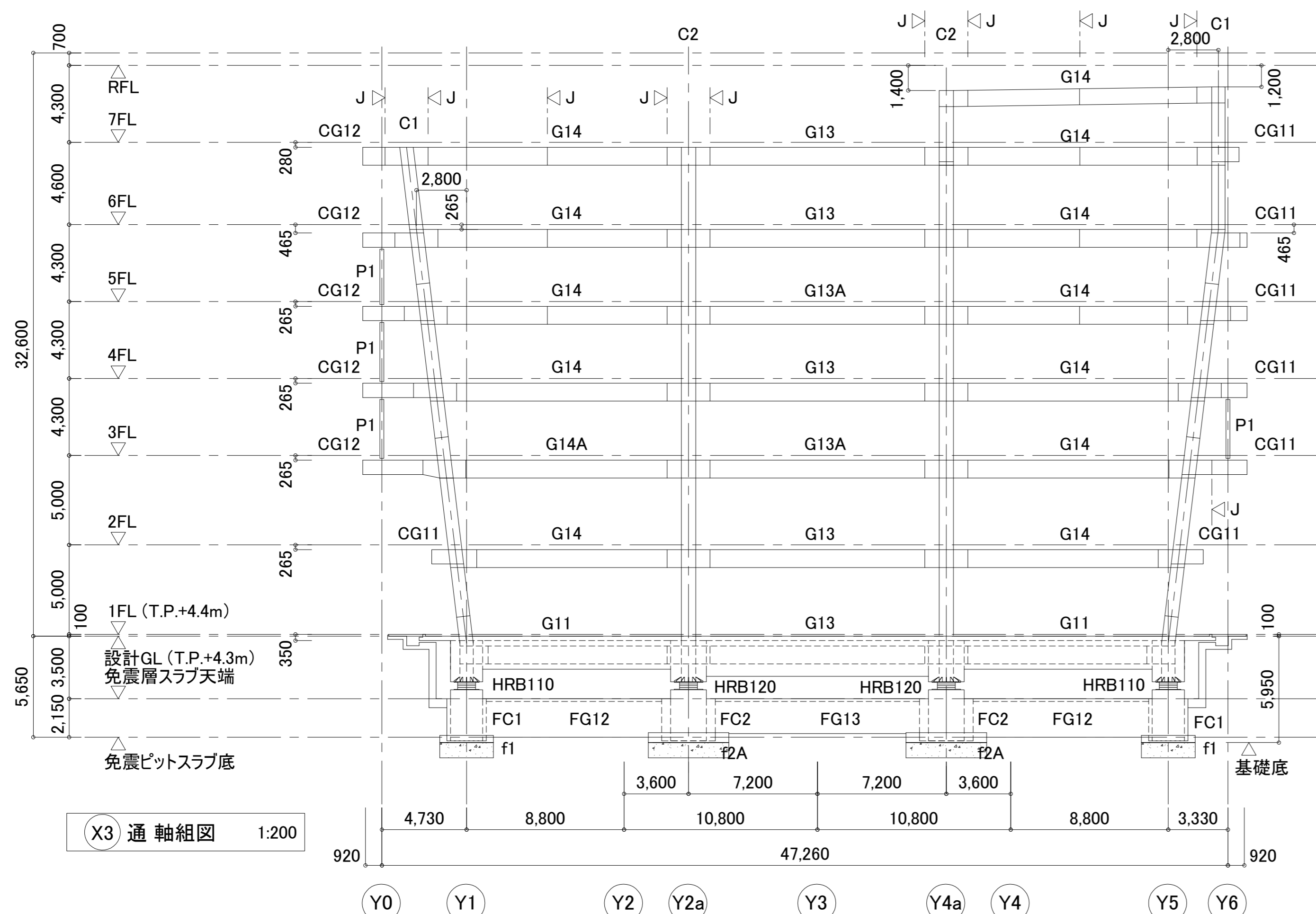
明石市政策局 企画・調整室 <代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智		明石市役所新庁舎建設工事				
		B	建築工事	最終版	2024.3.25	
		26	軸組図(2)	1:200	見積版	2024.3.25
		安井建築設計事務所		最終契約版		



共通事項(特記なき限り)  
 ◦ <J 印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)  
 ◦ [ ] 印部分は地盤改良を示す。

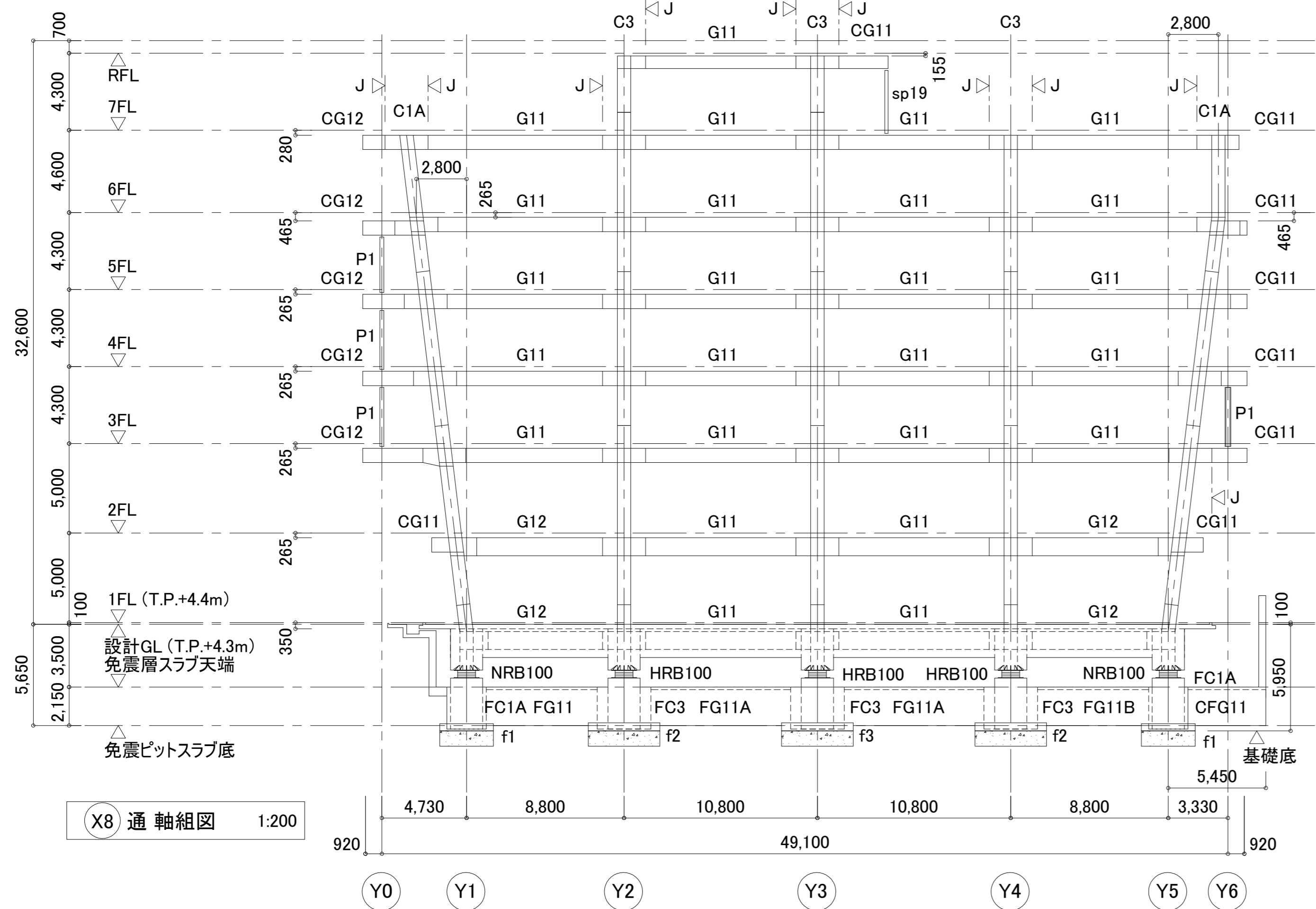
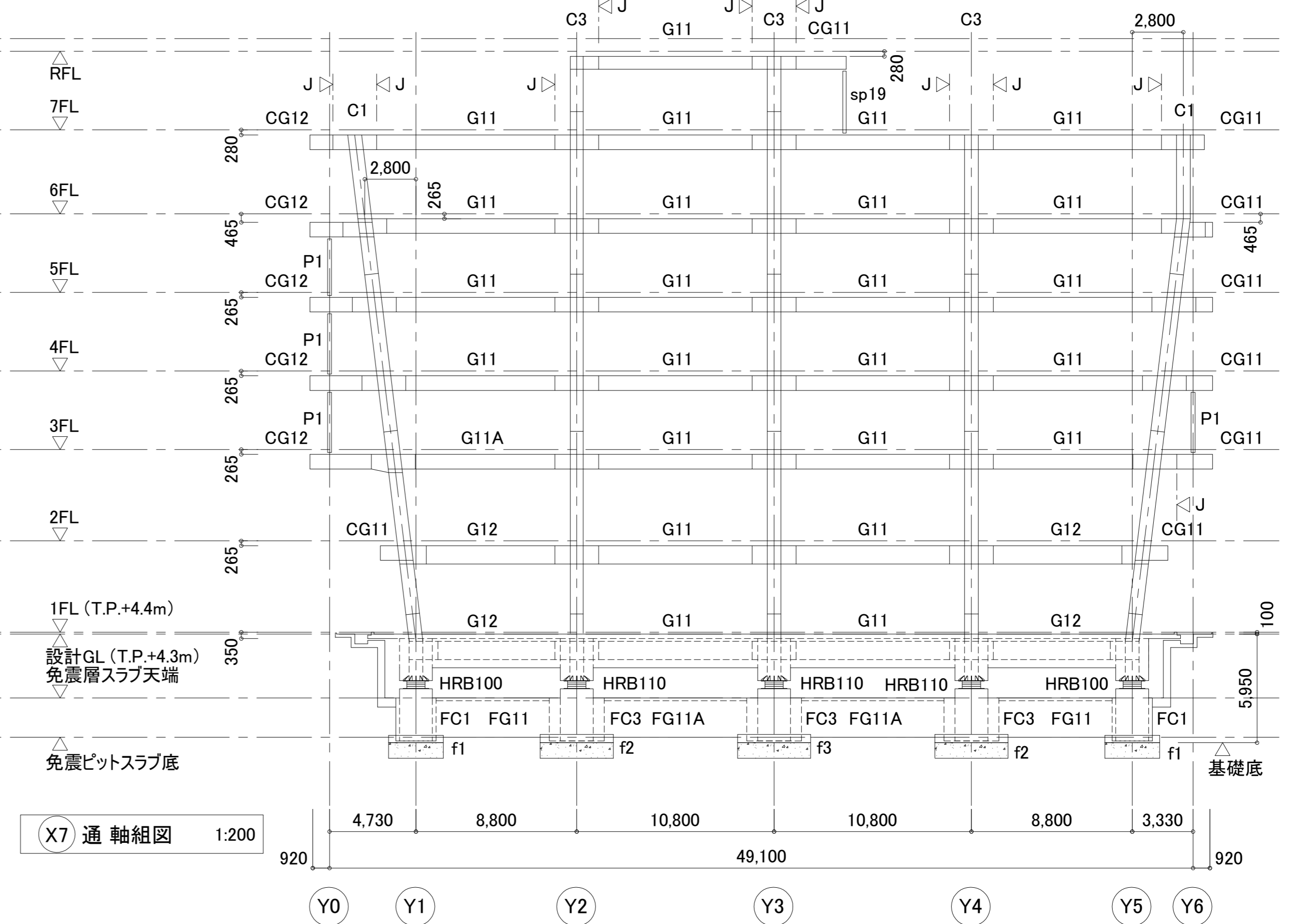
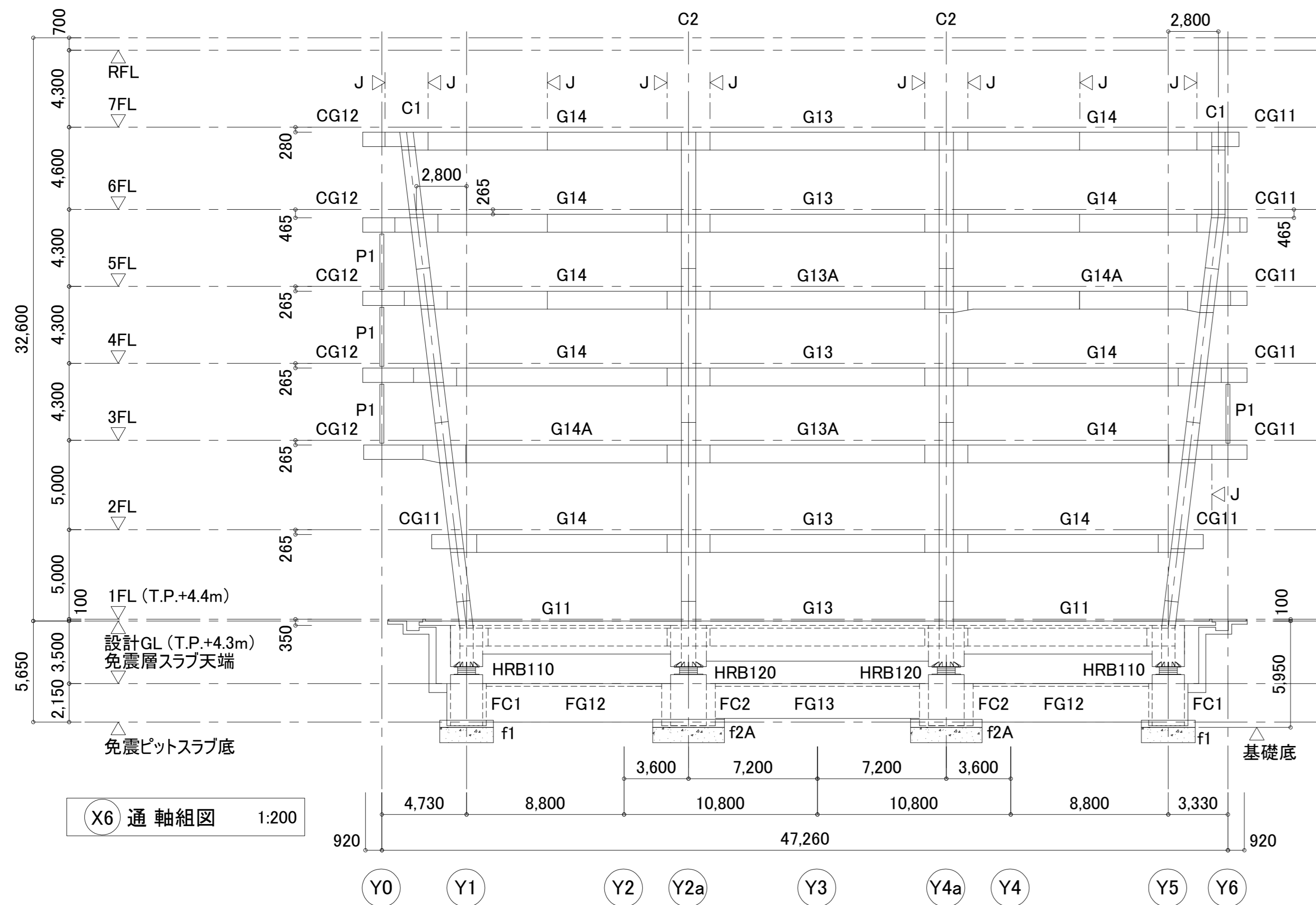


明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	27	軸組図 (3) 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



共通事項 (特記なき限り)  
 ◦ ◁J印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)  
 ◦ [影線]印部分は地盤改良を示す。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	28	軸組図 (4) 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



共通事項(特記なき限り)

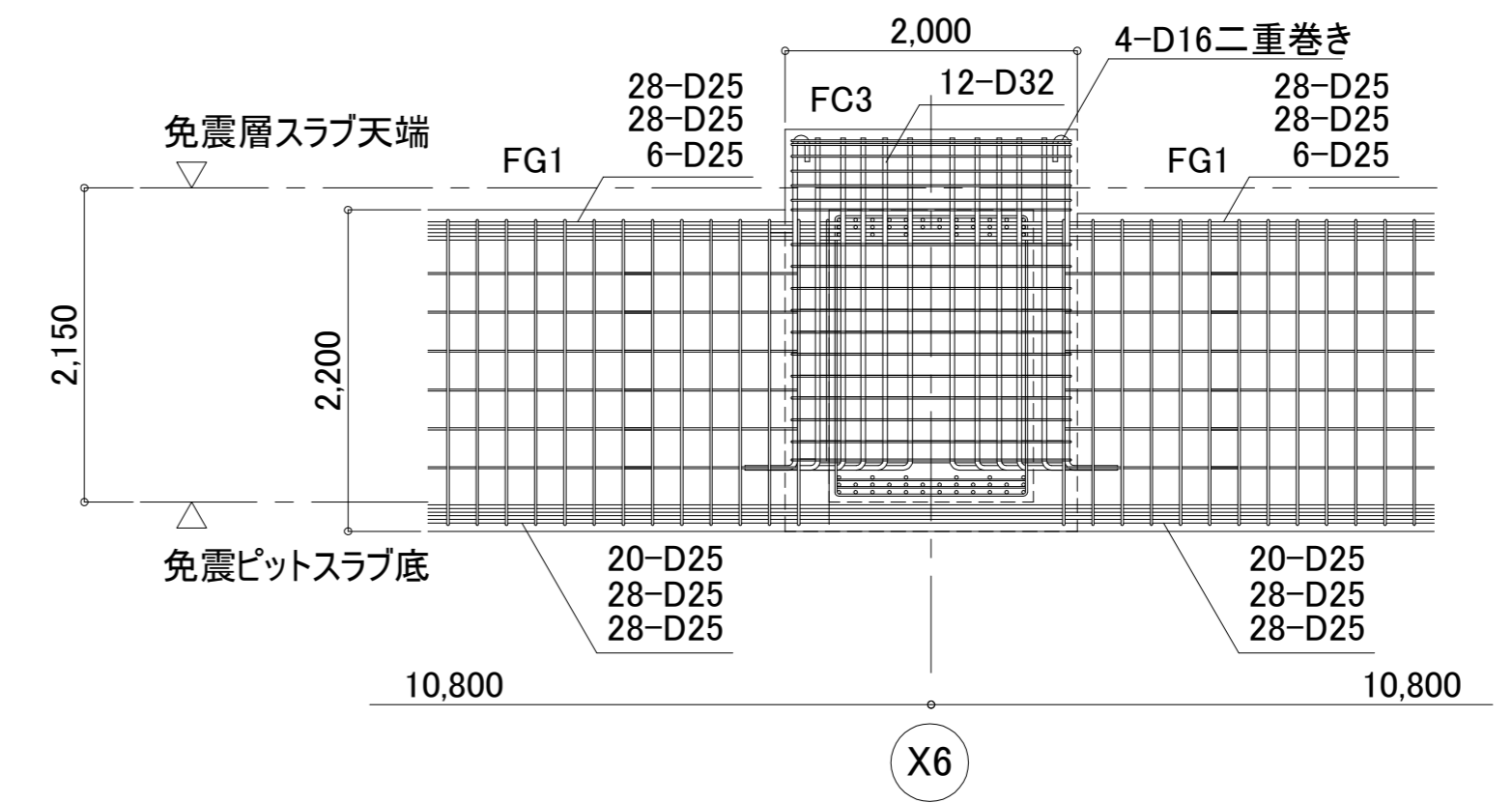
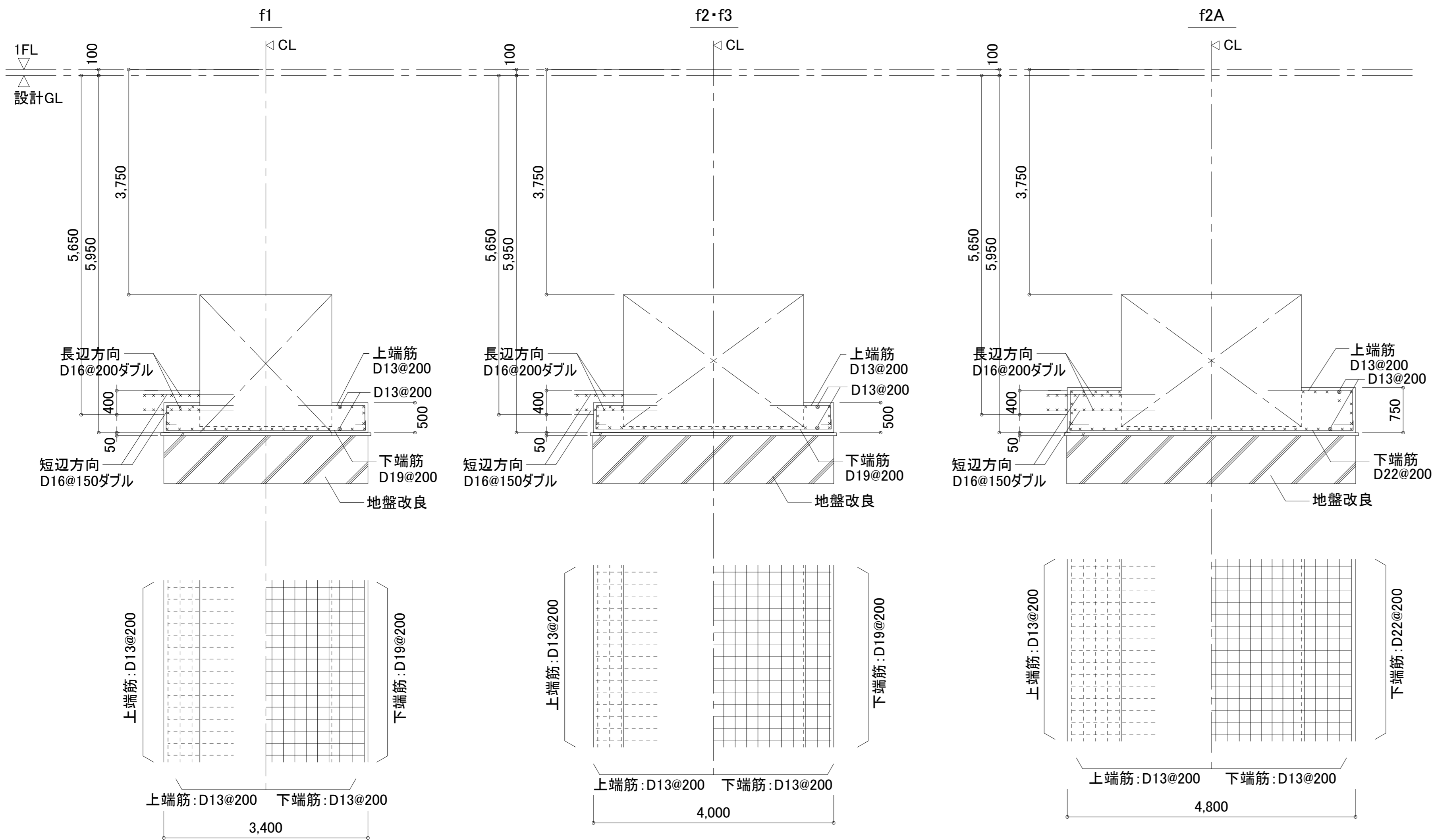
- ◁J印は現場継手位置を示す。(柱芯+1200とする。)
- 印部分は地盤改良を示す。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	29	軸組図(5) 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版

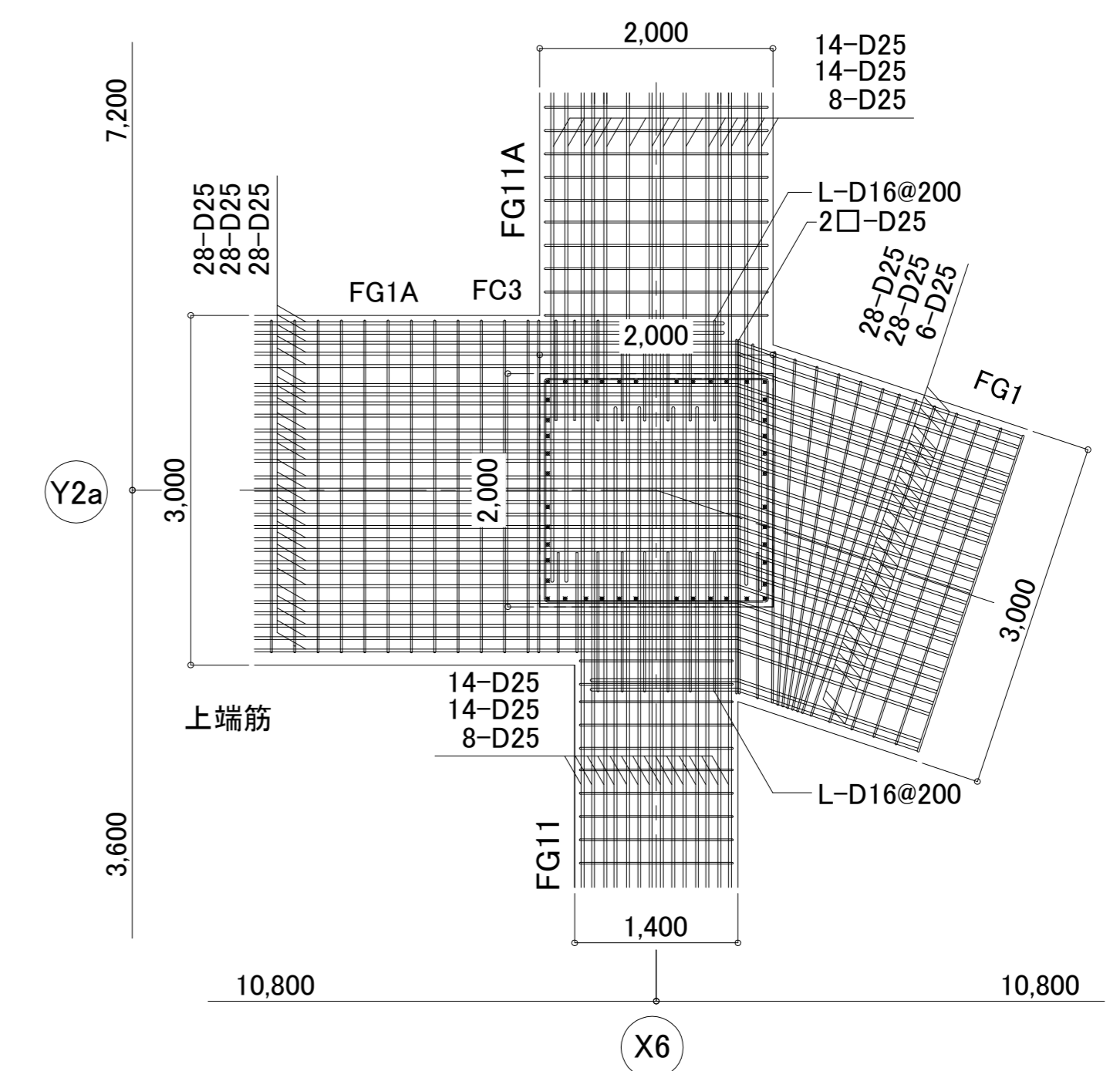
基礎リスト 1:50

共通事項(特記なき限り)

- 基礎下地業は 捨コンクリート 厚50とする。
- 基礎鉄筋は 溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。(HDZT77)
- 柱芯=通芯とする。
- ベース筋はフック付きとする。



基礎梁配筋要領図(側面図) 1:50

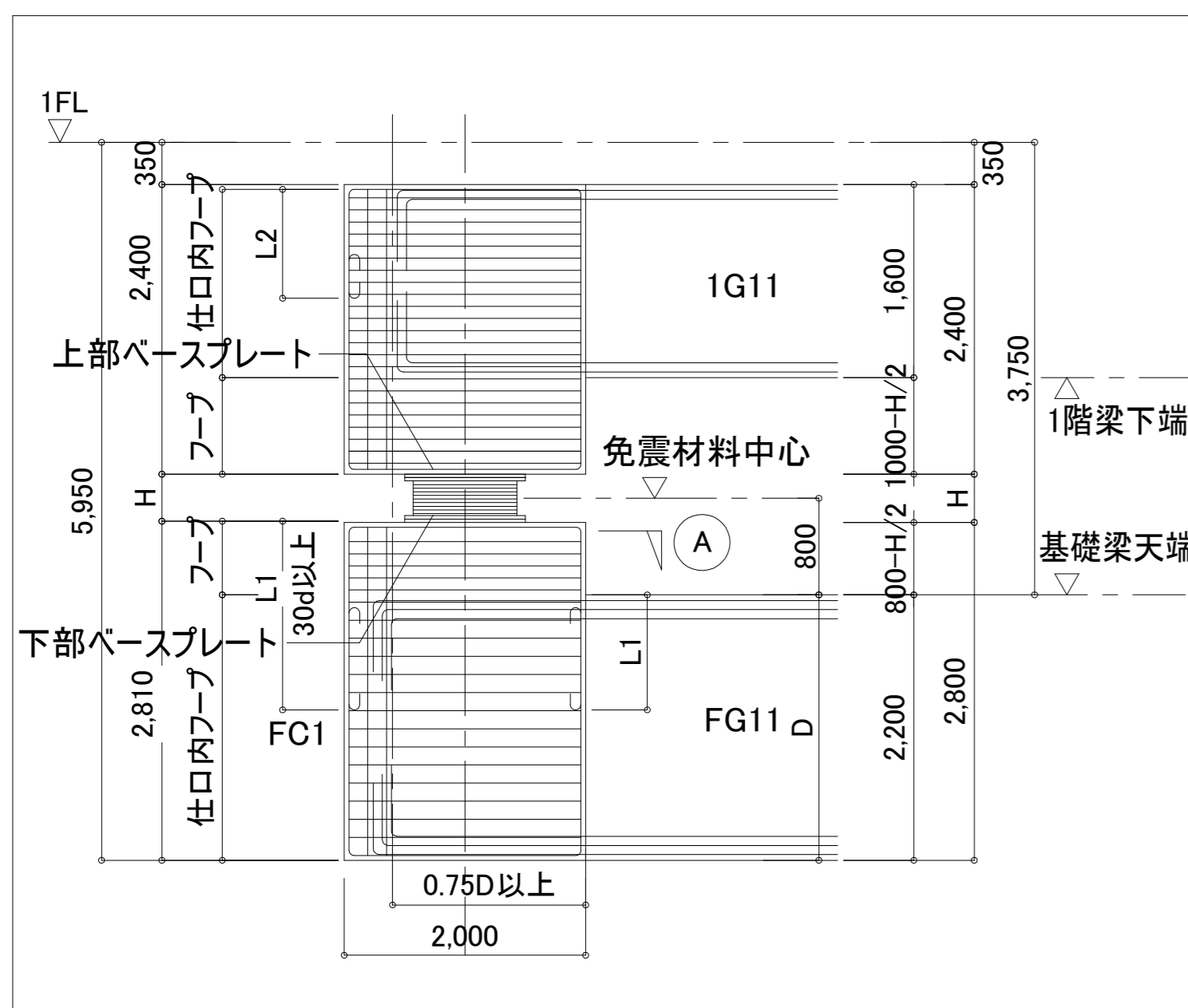


基礎梁配筋要領図(平面図) 1:50

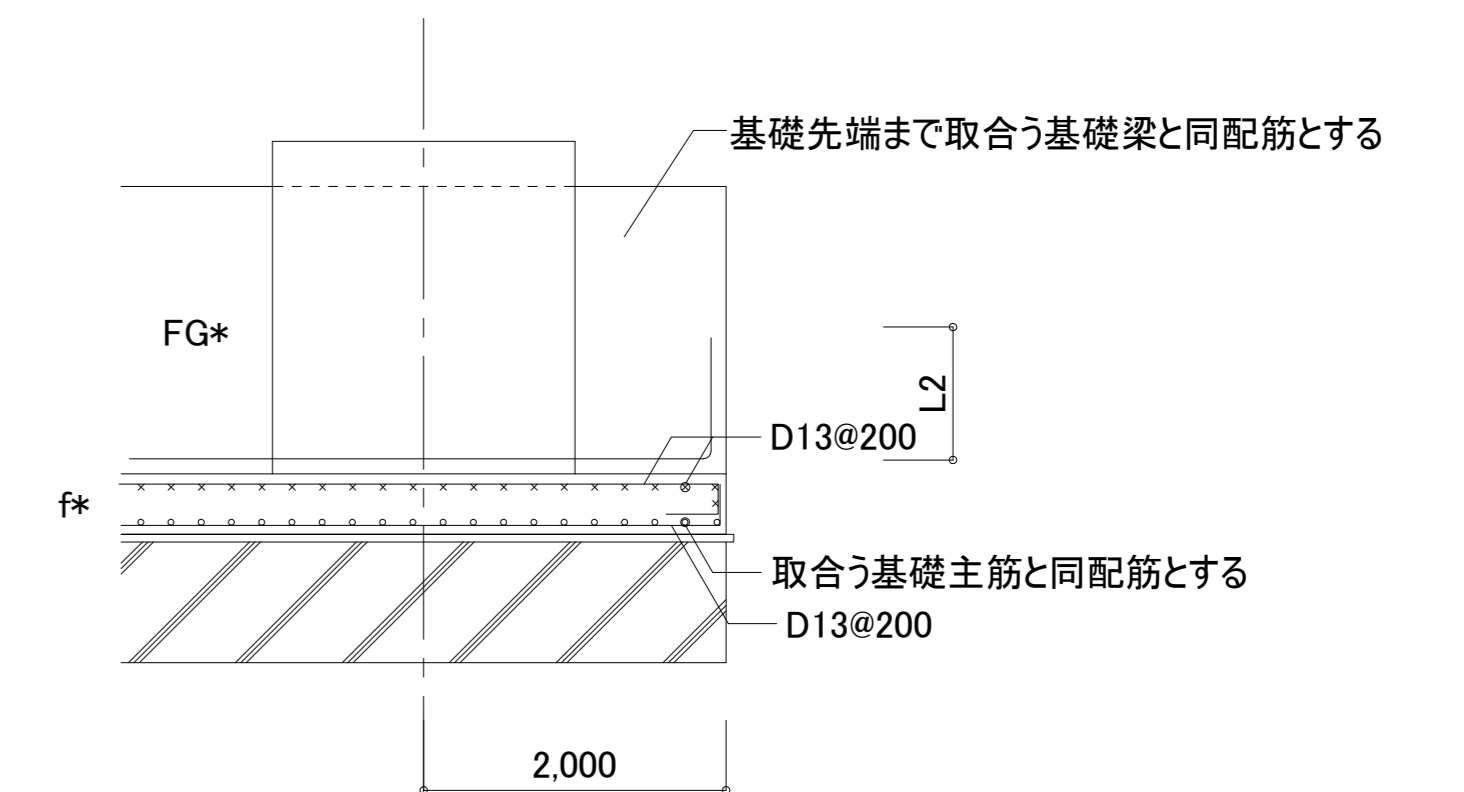
免震材料基礎リスト 1:50

共通事項(特記なき限り)

- 帯筋は 溶接閉鎖型帯筋 を原則とし、同等性能の仕様とする。
- また、接合部帯筋はタガ型帯筋も可とする。



符号	FC1	FC2	FC3	FC1A
免震材料符号	HRB100	HRB110	HRB120	NRB100
H	456.6	454.2	449.6	400.0~500.0
免震部材外径	1,000	1,100	1,200	1,000
(A) 断面				
主筋	36-D32	36-D32	44-D32	48-D32
フープ筋	4-D13@100 (2-D13@150)	4-D13@100 (2-D13@150)	4-D13@100 (2-D13@150)	4-D13@100 (2-D13@150)
備考	( )内は仕口内フープを示す	( )内は仕口内フープを示す	( )内は仕口内フープを示す	( )内は仕口内フープを示す



基礎片持ち部配筋要領図 1:50

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
代表設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事 A1 1:50 A3 1:100
構造設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	30	基礎リスト・基礎梁配筋要領図
		安井建築設計事務所	
		最終版	2024.3.25
		見直し版	2024.3.25
		最終契約版	

基礎梁リスト 1:50

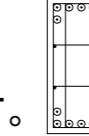
共通事項(特記なき限り)

- ・スターラップは □-D16@200 とする。
- ・腹筋は 10-D13, 幅止筋は D10@1000以内 とする。
- ・梁下地業は 捨てコンクリート(ア)50 とする。
- ・基礎梁下端筋及びスターラップは溶融亜鉛メッキ鉄筋(HDZT77)とする。

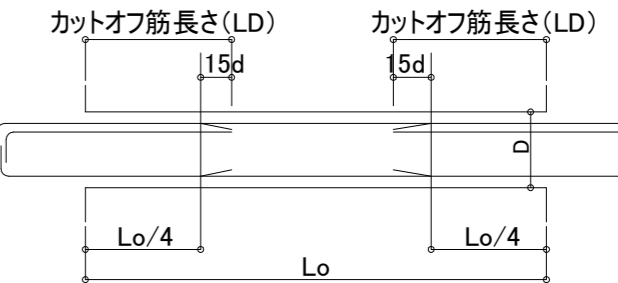
- ・ X方向の主筋を下側に配筋(先行筋)する。
- ・ カットオフ長さLdは  $L_0/4+15d$ 以上( $L_0$ :内法スパン)とする。
- ・ 溶融亜鉛メッキ鉄筋の継手は 重ね継手 とする。

- ・ 鉄筋継手位置は、下記の通りとする。
- ・ X方向梁(連続基礎と取り合う基礎梁):配筋標準図(1) 1.1(4)
- ・ Y方向梁(一般基礎梁):配筋標準図(1) 1.1(3)

凡例  
スターラップ 4-D13@200 は  
右図 □-D13@200 を示す。



・ カットオフ筋の定着要領



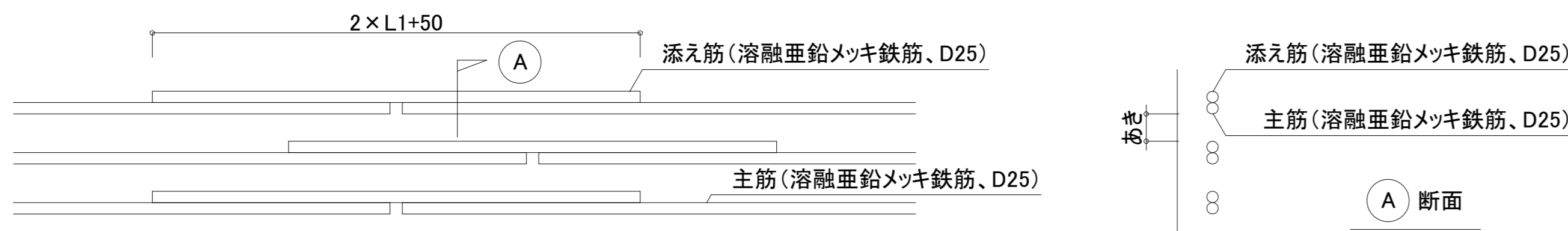
符号	FG1			FG1A		FG1B		
	X1・X8端	中央	他端	端部	中央	他端	中央	X2・X7端
断面								
上端筋	56-D25	60-D25	62-D25	66-D25	62-D25	60-D25	70-D25	60-D25
下端筋	66-D25	60-D25	76-D25	84-D25	66-D25	70-D25	60-D25	105-D25
スターラップ	8-D16@200	8-D16@200	8-D16@200	10-D16@200	10-D16@200	10-D16@200	10-D16@200	10-D16@200
腹筋	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13
カットオフ筋	Ld=3200(下端筋)		Ld=3200(下端筋)	Ld=3200(下端筋)		Ld=2700(下端筋)		Ld=4300(下端筋)
備考								

符号	FG2	CFG11		FG11			FG11A		FG11B	
	全断面	元端	先端	Y1・Y5端	中央	Y2・Y3端	端部	中央	Y5端	Y4端・中央
断面										
上端筋	32-D25	22-D25	12-D25	22-D25	18-D25	24-D25	22-D25	16-D25	32-D25	22-D25
下端筋	32-D25	12-D25	8-D25	22-D25	20-D25	20-D25	20-D25	16-D25	22-D25	22-D25
スターラップ	6-D16@200	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150	2-D16@150
腹筋	12-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13
カットオフ筋				Ld=2800(上端筋・下端筋とも)		Ld=2800(上端筋・下端筋とも)	Ld=3200(上端筋・下端筋とも)		Ld=3100(上端筋)	
備考										

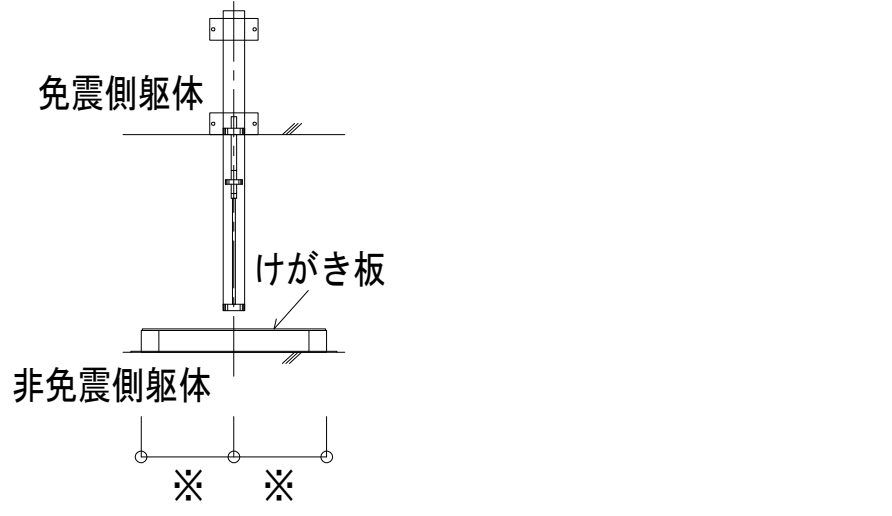
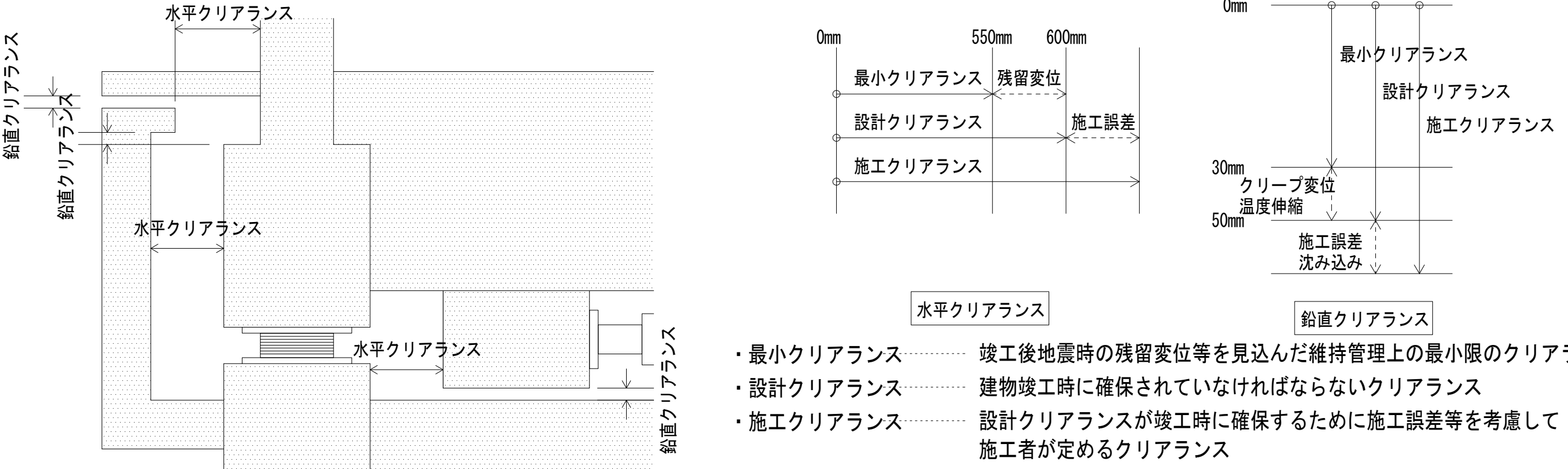
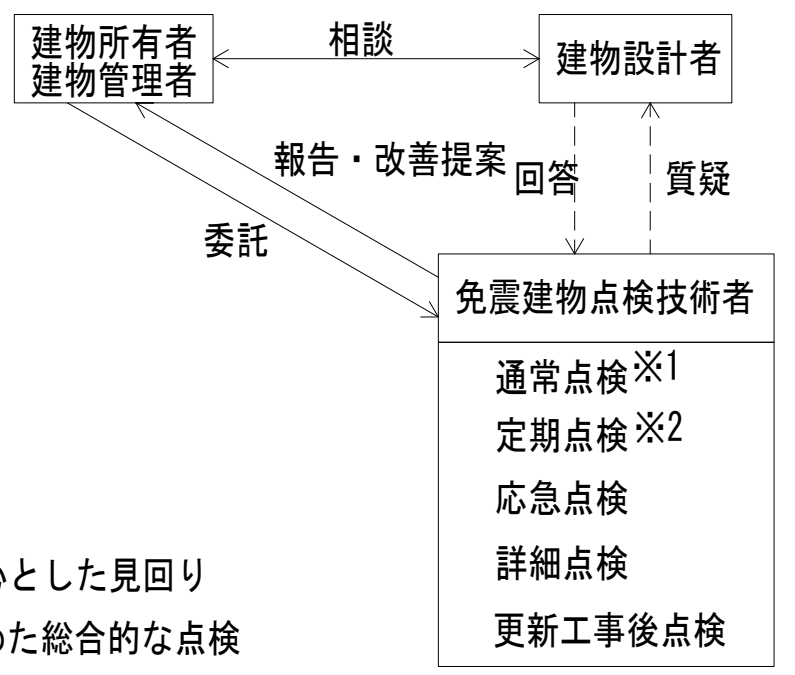
符号	FG12			FG12A			FG13		FG13A	
	Y1,Y5 端	中央	Y2a,Y4a 端	Y1,Y5 端	中央	Y2a,Y4a 端	両端	中央	端部	中央
断面										
上端筋	32-D25	28-D25	36-D25	34-D25	28-D25	40-D25	60-D25	60-D25	41-D25	28-D25
下端筋	32-D25	32-D25	32-D25	34-D25	32-D25	32-D25	40-D25	40-D25	32-D25	28-D25
スターラップ	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	3-D16@200	6-D16@200	6-D16@200	3-D16@200	3-D16@200
腹筋	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13
カットオフ筋			Ld=3200(上端筋)			Ld=3500(上端筋)			Ld=3900(上端筋)	
備考										

溶融亜鉛メッキ鉄筋の継手要領

・隣り合う鉄筋の継手位置は、構造関係共通事項 表5.3.3 による。



明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	31	基礎梁リスト
			A1 1:50 A3 1:100
			安井建築設計事務所
			最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版

<p>1. 一般事項</p> <p>(1) 用語の定義</p> <p>用語の定義は事業契約書に準じる。</p> <p>建物所有者 : 明石市</p> <p>建物設計者 : 安井建築設計事務所</p> <p>監督員 : 未定</p> <p>工事監理者 : 未定</p> <p>建物施工者 : 未定</p> <p>建物管理者 : 建物所有者もしくは 建物所有者に委託された者</p> <p>免震建物点検技術者 : 建物所有者により委託された、免震構造に対する深い知識があり免震建物の維持管理経験がある者 (原則として「免震建物点検技術者」の資格を有する者)</p> <p>(2) 免震材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震材料は国土交通省大臣認定品とする。</li> </ul> <p>(3) 免震材料製作メーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震材料の製作メーカーの選定においては、工事監理者の確認を受けること。</li> <li>次に示す記録、証明書、その他書類を提出し、監理者の確認を受けること。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>書類</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・製作要領書</td> <td>工場管理体制、製作工程、出荷管理、製品検査要領等</td> </tr> <tr> <td>・検査要領</td> <td>製品検査、受入検査、施工時検査、竣工時検査</td> </tr> <tr> <td>・施工要領書</td> <td>製作要領書に基づいた製造者作成のもの</td> </tr> <tr> <td>・材料検査記録</td> <td>ミルシート、製作要領書に基づいた製造者作成のもの</td> </tr> <tr> <td>・製品検査記録</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・製品検査成績表</td> <td>可撓継手、免震Exp. J含む</td> </tr> <tr> <td>・仮設計画</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 免震層設計クリアランス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震層設計クリアランスは下記とする。</li> <li>(仕上げ・設備全共通)</li> <li>水平方向 (全方向) : 最小クリアランス550mm、設計クリアランス600mm</li> <li>鉛直方向 : 最小クリアランス30mm、設計クリアランス50mm</li> </ul> <p>3. 設計条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各免震材料の特性のばらつきは材料リストに記載する値とする。</li> <li>※設計に採用するばらつき値は、各製品の合計値の最大値を上限値、最小値を下限値とする。</li> </ul> <p>4. 施工・検査 (建物竣工までの品質管理体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本建物に使用する免震材料の製造時における品質管理は、免震材料の製造者の責任において自主管理を行い、適宜、監督員、工事監理者、建物施工者が確認すること。</li> <li>免震材料の製造者は、材料の出荷前に「JSSI免震構造施工標準2021」に基づく製品検査を実施し、製品の形状・力学的性能について建物設計者の承認を受ける。</li> <li>更に、材料の寸法形状・外観等について監督員・工事監理者の確認を受けること。</li> <li>次に示す記録、証明書、その他書類を提出し、監理者の確認を受けること。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">試験項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">材料試験</td> <td>ベースプレート、長ナット、アンカーボルト</td> </tr> <tr> <td>ベースプレート下の充填材料試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">性能確認試験</td> <td>支承材の性能確認試験</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>性能検査は、本工事使用実機による全数検査を原則とする。</li> <li>性能検査では、所定のばらつき範囲内である事を確認し、建物設計者により免震層の偏心率を小さくする配置を検討した上で、協議して配置を決定すること。</li> <li>免震材料の現場受入検査は、建物施工者が実施すること。</li> <li>免震材料の現場受入後の保管、設置取付け工事の施工管理、材料据え付け後の施工中の養生及び維持管理は建物施工者の責任において行い、工事監理者が確認する。</li> <li>建物竣工時における免震材料及び、その他の免震構造の主要な部分について、本建物が設計意図に沿って竣工したことを示す施工報告書を作成し、監督員、工事監理者、建物施工者が確認する。更に、建物所有者の確認も受けること。</li> <li>次に示す報告書を提出すること。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>書類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・免震材料製品検査報告書</td> </tr> <tr> <td>・免震部施工時試験報告書</td> </tr> <tr> <td>・免震部竣工時検査報告書</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震層に関する施工報告書は竣工後の維持管理の初期値とする。</li> <li>その他免震材料の施工、検査基準等は日本免震構造協会 (JSSI) の『JSSI免震構造施工標準2021』に基づき協議することができる。</li> </ul>	書類	内容	・製作要領書	工場管理体制、製作工程、出荷管理、製品検査要領等	・検査要領	製品検査、受入検査、施工時検査、竣工時検査	・施工要領書	製作要領書に基づいた製造者作成のもの	・材料検査記録	ミルシート、製作要領書に基づいた製造者作成のもの	・製品検査記録		・製品検査成績表	可撓継手、免震Exp. J含む	・仮設計画		試験項目		材料試験	ベースプレート、長ナット、アンカーボルト	ベースプレート下の充填材料試験	性能確認試験	支承材の性能確認試験		書類	・免震材料製品検査報告書	・免震部施工時試験報告書	・免震部竣工時検査報告書	<p>5. 免震建物に付随する付属物の設置</p> <p>(1) 注意書きの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建物出入口その他の見やすい場所に、「免震建物であり、地震時に建物が可動すること及び可動部分に物を置かないこと」「建物の可動範囲に積雪した場合は、EXP. Jの動きを妨げないように速やかに除去すること」を示した注意書きを設置すること。設置場所は意匠図・構造図によるほか、工事監理者の指示による。</li> </ul> <p>(2) 維持管理用必要器具の設置</p> <p>地震時のオービット観測用ケガキの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震時の免震層変形および地震後の原点復帰の確認のためけがき変位記録計を計2箇所設置すること。けがき板 (PL-3.2) の材質はステンレス、その他構成部材はステンレスもしくは鉄骨部材の場合亜鉛メッキ相当の防食仕様とすること。</li> <li>施工時にけがき板の予備を6枚用意し、けがき変位記録計下に設置すること。</li> <li>地震後には、必要に応じてけがき板の取替えを行うこと。</li> </ul>  <p>※ 寸法は、設計クリアランス+100mm以上とする</p> <p>6. その他</p> <p>(1) 免震材料の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震材料据付用ジグ類、鉄骨建て方用ジグ、プレート類は適宜見込むこと。</li> </ul> <p>(2) 免震材料の取替え時の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何らかの理由で免震材料の改修・取替えを行う場合には、交換する免震材料の数・位置等によりジャッキアップの箇所や上下構造体の応力・変形等の検討を行うこと。必要に応じて適切な補強を施すこと。</li> <li>免震材料の取替えを行う場合は、事前に図面および現地確認に基づき適切な交換ルートを計画すること。</li> <li>免震材料の取替えに伴い、設備配管類を一時的に取り外し復旧する場合は、当該設備の機能停止について、建物の所有者または管理者と事前に調整して合意を得ること。</li> </ul> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震部材の納期等に配慮して、工事工程を計画すること。</li> <li>以下の項目については、試験施工を実施すること。</li> <li>各試験施工の可否基準は「JSSI免震構造施工標準2021」による。</li> </ul> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>試験施工</td> <td>可撓継手性能確認試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ベースプレート下の充填材料試験</td> </tr> </tbody> </table>	試験施工	可撓継手性能確認試験		ベースプレート下の充填材料試験	<p>共通事項 (特記なき限り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表記する免震材料以外の採用は原則不可とする。</li> <li>免震材料取付け部材 (アンカーボルトなど) は、施工者や各免震材料製造メーカーの材料調達その他を考慮して決定するものとする。ただし、免震層および免震材料の仕様を満足し、工事監理者の確認を得て最終決定すること。</li> <li>認定範囲内で、屋外仕様とする。(鉄骨は亜鉛めっき相当)</li> <li>同種別の免震材料 (天然ゴム系積層ゴム支承) の中で、数社の製品が混材することは不可とする。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">支承材</th> <th>符号</th> <th>種類</th> <th>装置径 (mm)</th> <th>ゴム層厚 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NRB100</td> <td>天然ゴム系積層ゴム</td> <td>1000</td> <td>192~201</td> <td>ゴム種別G4</td> </tr> <tr> <td>HDR100</td> <td rowspan="3">高減衰ゴム系積層ゴム</td> <td>1000</td> <td>201</td> <td rowspan="3">ゴム種別X4S</td> </tr> <tr> <td>HDR110</td> <td>1100</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>HDR120</td> <td>1200</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table>  <p>図1 クリアランスの構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最小クリアランス..... 竣工後地震時の残留変位等を見込んだ維持管理上の最小限のクリアランス</li> <li>設計クリアランス..... 建物竣工時に確保されていないと見込まないクリアランス</li> <li>施工クリアランス..... 設計クリアランスが竣工時に確保するために施工誤差等を考慮して施工者が定めるクリアランス</li> </ul>	支承材	符号	種類	装置径 (mm)	ゴム層厚 (mm)	備考	NRB100	天然ゴム系積層ゴム	1000	192~201	ゴム種別G4	HDR100	高減衰ゴム系積層ゴム	1000	201	ゴム種別X4S	HDR110	1100	200	HDR120	1200	200
書類	内容																																																							
・製作要領書	工場管理体制、製作工程、出荷管理、製品検査要領等																																																							
・検査要領	製品検査、受入検査、施工時検査、竣工時検査																																																							
・施工要領書	製作要領書に基づいた製造者作成のもの																																																							
・材料検査記録	ミルシート、製作要領書に基づいた製造者作成のもの																																																							
・製品検査記録																																																								
・製品検査成績表	可撓継手、免震Exp. J含む																																																							
・仮設計画																																																								
試験項目																																																								
材料試験	ベースプレート、長ナット、アンカーボルト																																																							
	ベースプレート下の充填材料試験																																																							
性能確認試験	支承材の性能確認試験																																																							
書類																																																								
・免震材料製品検査報告書																																																								
・免震部施工時試験報告書																																																								
・免震部竣工時検査報告書																																																								
試験施工	可撓継手性能確認試験																																																							
	ベースプレート下の充填材料試験																																																							
支承材	符号	種類	装置径 (mm)	ゴム層厚 (mm)	備考																																																			
	NRB100	天然ゴム系積層ゴム	1000	192~201	ゴム種別G4																																																			
HDR100	高減衰ゴム系積層ゴム	1000	201	ゴム種別X4S																																																				
HDR110		1100	200																																																					
HDR120		1200	200																																																					
<p>免震材料維持管理仕様書 (竣工時検査までを本工事範囲とする)</p> <p>特記なき限り時期、方法、点検箇所、管理値は日本免震構造協会「免震建物の維持管理基準-2022-」による。</p> <p>1. 建物竣工までの品質管理体制</p> <p>建物が竣工するまでの免震装置の製造および現場据え付け、建物竣工までの工事中の品質管理および施工監理は以下の体制で実施する。</p> <p>(1) 設計者、施工者、免震材料製造者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震材料仕様書 1. 一般事項による</li> </ul> <p>(2) 建物竣工までの品質管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免震材料仕様書 4. 施工・検査による</li> </ul> <p>2. 建物竣工後の維持管理体制</p> <p>(1) 点検の種別と実施時期</p> <p>点検は目的に合わせて以下のように分類され、必要な時期に実施する。</p> <p>各検査において、記録を残し、建物管理者が保管するものとする。</p> <p>a. 竣工時検査</p> <p>実施者 : 建物施工者</p> <p>b. 定期点検</p> <p>通常点検 : 異常の早期発見のための目視点検 (年1回)</p> <p>実施者 : 建物管理者 (もしくは免震建物点検技術者)</p> <p>定期点検 : 専門技術者による目視、計測 (竣工後5、10年、以後10年毎)</p> <p>実施者 : 免震建物点検技術者</p> <p>c. 応急点検 : 大きな地震や暴風を受けた場合の点検</p> <p>実施者 : 免震建物点検技術者</p> <p>実施時期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>概ね気象庁震度階v弱以上の地震。</li> <li>概ね平均風速30m/sを超える強風。</li> <li>水害や火災が免震層に及んだ場合。</li> </ol> <p>d. 詳細点検</p> <p>実施者 : 免震建物点検技術者</p>		<p>(2) 維持管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理は図2に示す体制で実施する。</li> <li>建物所有者は、建物設計者あるいは建物施工者から維持管理に関する提案を受け、建物管理者 (建物所有者が兼ねる場合もある。以下同様)、免震建物点検技術者へ委託し、『定期点検』異常時の『応急点検』『詳細点検』を行う。建物管理者、免震建物点検技術者からの点検結果の報告を受け、必要に応じて改善などの処置を実施する。</li> <li>建物管理者は、地震、火災、水害などの応急点検の必要が生じた場合、免震建物点検技術者に連絡する。</li> <li>建物設計者は、建物所有者からの依頼によって、その代理人として相談などを含め維持管理に協力する。</li> <li>免震建物点検技術者は、点検を実施した点検結果の判定を行い、結果を建物所有者・建物管理者に報告する。災害発生時には建物管理者からの連絡の有無にかかわらず応急点検の必要性を判断し、建物所有者・建物管理者の承認のもとに応急点検を実施し、必要に応じて詳細点検を実施し、改善処置を提案する。</li> </ul>  <p>図2 維持管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※1 目視を中心とした見回り</li> <li>※2 計測を含めた総合的な点検</li> <li>※3 → は建物所有者の承諾を得て建物設計者と免震建物点検技術者が直接やり取りする場合想定</li> </ul>																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">明石市政策局 企画・調整室</th> <th colspan="2">明石市役所新庁舎建設工事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〈代表設計者〉</td> <td>一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨</td> <td>B</td> <td>建築工事</td> </tr> <tr> <td>〈構造設計者〉</td> <td>一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智</td> <td>32</td> <td>免震材料特記仕様書 (1)</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td> <td>安井建築設計事務所</td> </tr> </tbody> </table>		明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事		〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	32	免震材料特記仕様書 (1)				安井建築設計事務所	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>最終版</td> <td>2024. 3. 25</td> </tr> <tr> <td>見積版</td> <td>2024. 3. 25</td> </tr> <tr> <td>最終契約版</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	最終版	2024. 3. 25	見積版	2024. 3. 25	最終契約版																																	
明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事																																																						
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事																																																					
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	32	免震材料特記仕様書 (1)																																																					
			安井建築設計事務所																																																					
最終版	2024. 3. 25																																																							
見積版	2024. 3. 25																																																							
最終契約版																																																								



(a)竣工時検査要領

位置		点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置	
免震材料	積層ゴム支承	NRB100 HDR100 HDR110 HDR120	被覆ゴムの外観	変色	目視	全数	異常がない 異物の付着がない	調査のうえ対処
				傷	目視 計測		深さd<被覆ゴム厚さ	管理値以内：補修 管理値以上：調査
			取付部状況	発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
				取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング
			取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処
			防塵カバー	損傷・はずれ	目視		損傷・はずれがない	調査のうえ対処
	積層ゴムの変位	鉛直・水平変位	計測	±5mm以下	調査のうえ対処			
		水平精度	計測	1/400以下	初期値計測			
	すべり支承		すべり板	汚れ、異物	目視	全数	摩擦面に有害な汚れ、異物の付着	汚れ、異物の除去
				発錆、傷	目視 計測		摩擦に影響を与える錆、傷の有無	錆、傷の除去
			鋼材部の状況	発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復
				ボルト・ナット	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング
			取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処
			防塵カバー	損傷・はずれ	目視		損傷・はずれがない	調査のうえ対処
	装置の変位	鉛直・水平変位	計測	±5mm以下	調査のうえ対処			
		水平精度	計測	1/500以下	初期値計測			
	転がり支承		転がり面	汚れ・異物付着	目視	全数	異常がない、異物の付着がない	調査のうえ対処
				発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない グリースの充填確認	塗装の修復
鋼材部の状況			傷	目視	損傷がない		補修・取替え	
			発錆	目視	浮錆、赤錆が見当たらない		塗装の修復	
取付部躯体			ボルト・ナット	目視	ボルト、ナットのマーキングにズレがない		締直し、再マーキング	
			損傷	目視	損傷がない		調査のうえ対処	
防塵カバー	損傷・はずれ	目視	損傷・はずれがない	調査のうえ対処				
装置の変位	鉛直・水平変位	計測	±5mm以下 可動長が設計クリアランス以上あること	調査のうえ対処				
	水平精度	計測	1/500以下	初期値計測				
ねじれ角度		計測	1/200以下					
履歴系ダンパー		鋼材ダンパーの外観	本体	目視	全数	形状の異常または傷が見当たらない	調査のうえ対処	
			発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	塗装の修復	
			取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング	
		鋼材ダンパーの外観	表面亀裂	目視		亀裂が見当たらない	調査のうえ対処	
		取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処	
		装置の変位	水平変位	計測		±5mm以下	調査のうえ対処	
水平精度	計測		傾き1/300以下 反り1/400以下かつ4mm以下	初期値計測				
可動範囲	躯体等との接触		目視	上下変位で躯体と接触しない	調査のうえ対処			
流体系ダンパー		ピストンロッドの外観	本体	目視	全数	形状の異常または傷が見当たらない	調査のうえ対処	
			発錆	目視		浮錆、赤錆が見当たらない	補修の修復	
			取付部	目視		ボルト、ナットのマーキングにズレがない	締直し、再マーキング	
		オイル	油漏れ	目視		滴下がない	メーカーへ問い合わせ	
		減衰	減衰係数	確認		製品検査時に数値確認		
		取付部躯体	損傷	目視		損傷がない	調査のうえ対処	
ピストンロッドの変位	鉛直・水平変位	計測	±5mm以下	調査のうえ対処				
	水平精度	計測	傾き1/300以下 反り1/400以下かつ4mm以下	初期値計測				

(a)竣工時検査要領 (つづき)

位置		点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置	
免震層・建物外周部	建物	周辺環境	クリアランス	計測 目視	外周 免震層	既定の寸法（設計クリアランス）を確保している 可動範囲内に障害物がない エキスパンション状況確認	整備・除去 初期値計測	
			位置確認	確認		建物	位置確認	位置確認
			建物位置	計測		建物	位置確認	初期値計測
	EXP.J	EXP.J	不同沈下	計測	建物	レベル確認	位置確認	
			位置確認	確認		可動範囲内に障害物がない 可動部にいびつな変形がない	調査のうえ対処	
			可動・作動状況	目視		取付部	目視	発錆・傷・亀裂・損傷がない
	設備配管 配線免震材料	周辺状況	障害物	目視	免震層	可動範囲内に障害物がない 可燃物がない	整備・除去	
			可燃物	目視		排水状況がよい	調査のうえ対処	
			排水状況	目視		異常がない 傷・亀裂がない 十分な余長がある	管理者に報告	
	設備配管 配線可トウ部	可トウ部	液体漏れ	目視	免震層	異常がない	管理者に報告	
継手部		傷・亀裂	目視	十分な余長がある				
電気配線	変位	余長	確認	免震層	設置確認			
	吸収部	アース	確認		設置確認			
その他	表示	表示板	確認	建物	設置確認	設置		
	けがき式変位計	けがき板・変位計	確認	建物	設置確認	設置		

(b)通常点検要領

位置		点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置	
その他	表示	表示板	確認	建物	設置確認	設置		
	けがき式変位計	けがき板・変位計	確認	建物	設置確認	設置		
免震層・建物外周部	建物	周辺環境	位置確認	確認	建物	位置確認	位置確認	
			建物位置	計測		建物	施工時より±50mm程度	計測
			不同沈下	計測		建物	施工時同等程度	必要に応じて計測

(c)定期検査要領

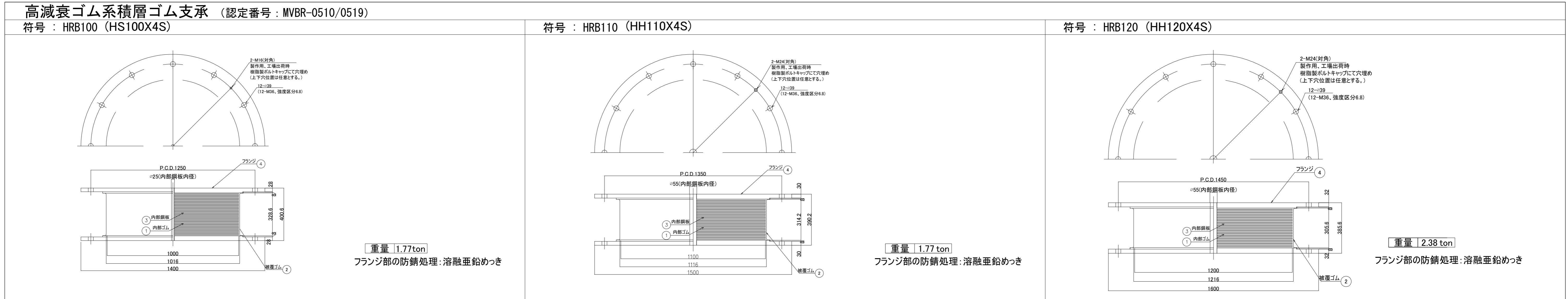
位置		点検項目		調査方法	箇所	管理値	処置	
免震材料	積層ゴム支承	NRB100 HDR100 HDR110 HDR120	積層ゴムの変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直-5%程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		1/400程度	
	すべり支承		装置の変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直-5%程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		1/500程度	
	転がり支承		装置の変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直±5mm程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		1/500程度	
				ねじれ角度	計測		1/200程度	
	履歴系ダンパー		装置の変位	水平変位	計測	全数	鉛直±5mm程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		傾き1/300程度 反り1/400程度かつ4mm程度	
	流体系ダンパー		ピストンロッドの変位	鉛直・水平変位	計測	全数	鉛直±5mm程度 水平±50mm以下	計測
				水平精度	計測		傾き1/300程度 反り1/400程度かつ4mm程度	
	免震層・建物外周部	建物	周辺環境	位置確認	確認	建物	位置確認	位置確認
建物位置				計測	建物		施工時より±50mm程度	計測
不同沈下				計測	建物		施工時同等程度	必要に応じて計測
その他	表示	表示板	確認	建物	設置確認	設置		
	けがき式変位計	けがき板・変位計	確認	建物	設置確認	設置		

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	33	免震材料特記仕様書 (2)
			安井建築設計事務所

最終版 2024.3.25

見積版 2024.3.25

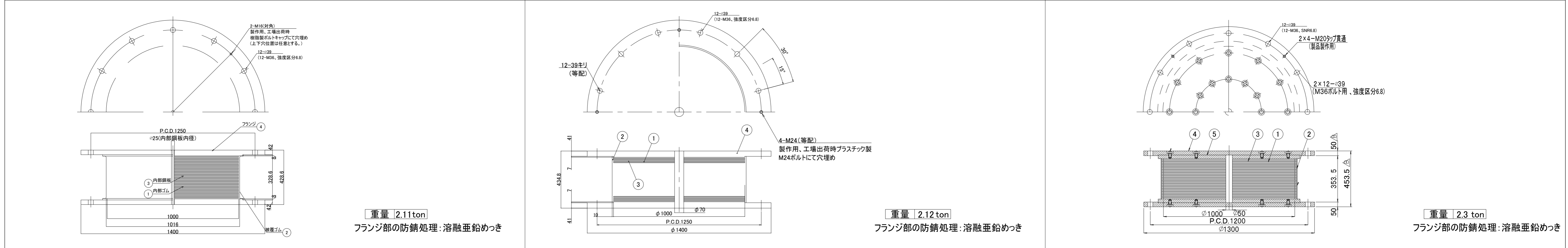
最終契約版



<table border="1"> <tr><th>符号</th><th>名称</th><th>数量</th><th>材質</th><th>備考</th></tr> <tr><td>①</td><td>内部ゴム</td><td>—</td><td>高減衰ゴム</td><td>6.7t×30層 プリチン規格: X0.4S</td></tr> <tr><td>②</td><td>被覆ゴム</td><td>—</td><td>合成ゴム</td><td>8.0t プリチン規格: 被覆ゴム</td></tr> <tr><td>③</td><td>内部鋼板</td><td>29</td><td>SS400</td><td>4.4t</td></tr> <tr><td>④</td><td>フランジ</td><td>2</td><td>SM490A</td><td>36.0t</td></tr> </table>	符号	名称	数量	材質	備考	①	内部ゴム	—	高減衰ゴム	6.7t×30層 プリチン規格: X0.4S	②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム	③	内部鋼板	29	SS400	4.4t	④	フランジ	2	SM490A	36.0t	<table border="1"> <tr><th>製品番号</th><th>HRB110</th></tr> <tr><th>記号</th><th>HH110X4S</th></tr> <tr><th>符号</th><th>名称</th><th>数量</th><th>材質</th><th>備考</th></tr> <tr><td>①</td><td>内部ゴム</td><td>—</td><td>高減衰ゴム</td><td>7.4t×27層 プリチン規格: X0.4S</td></tr> <tr><td>②</td><td>被覆ゴム</td><td>—</td><td>合成ゴム</td><td>8.0t プリチン規格: 被覆ゴム</td></tr> <tr><td>③</td><td>内部鋼板</td><td>26</td><td>SS400</td><td>4.4t</td></tr> <tr><td>④</td><td>フランジ</td><td>2</td><td>SM490A</td><td>38.0t</td></tr> </table>	製品番号	HRB110	記号	HH110X4S	符号	名称	数量	材質	備考	①	内部ゴム	—	高減衰ゴム	7.4t×27層 プリチン規格: X0.4S	②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム	③	内部鋼板	26	SS400	4.4t	④	フランジ	2	SM490A	38.0t	<table border="1"> <tr><th>製品番号</th><th>HRB120</th></tr> <tr><th>記号</th><th>HH120X4S</th></tr> <tr><th>符号</th><th>名称</th><th>数量</th><th>材質</th><th>備考</th></tr> <tr><td>①</td><td>内部ゴム</td><td>—</td><td>高減衰ゴム</td><td>8.0t×25層 プリチン規格: X0.4S</td></tr> <tr><td>②</td><td>被覆ゴム</td><td>—</td><td>合成ゴム</td><td>8.0t プリチン規格: 被覆ゴム</td></tr> <tr><td>③</td><td>内部鋼板</td><td>24</td><td>SS400</td><td>4.4t</td></tr> <tr><td>④</td><td>フランジ</td><td>2</td><td>SM490A</td><td>40.0t</td></tr> </table>	製品番号	HRB120	記号	HH120X4S	符号	名称	数量	材質	備考	①	内部ゴム	—	高減衰ゴム	8.0t×25層 プリチン規格: X0.4S	②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム	③	内部鋼板	24	SS400	4.4t	④	フランジ	2	SM490A	40.0t
符号	名称	数量	材質	備考																																																																																	
①	内部ゴム	—	高減衰ゴム	6.7t×30層 プリチン規格: X0.4S																																																																																	
②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム																																																																																	
③	内部鋼板	29	SS400	4.4t																																																																																	
④	フランジ	2	SM490A	36.0t																																																																																	
製品番号	HRB110																																																																																				
記号	HH110X4S																																																																																				
符号	名称	数量	材質	備考																																																																																	
①	内部ゴム	—	高減衰ゴム	7.4t×27層 プリチン規格: X0.4S																																																																																	
②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム																																																																																	
③	内部鋼板	26	SS400	4.4t																																																																																	
④	フランジ	2	SM490A	38.0t																																																																																	
製品番号	HRB120																																																																																				
記号	HH120X4S																																																																																				
符号	名称	数量	材質	備考																																																																																	
①	内部ゴム	—	高減衰ゴム	8.0t×25層 プリチン規格: X0.4S																																																																																	
②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム																																																																																	
③	内部鋼板	24	SS400	4.4t																																																																																	
④	フランジ	2	SM490A	40.0t																																																																																	

ばらつき	製造ばらつき	Keq(+側)	+10.0%	Keq(+側)	-10.0%	Keq(-側)	-10.0%	Keq(-側)	+10.0%
	経年変化		+10.0%		-10.0%				
	温度変化		+21.0%		+7.0%		-16.0%		-12.0%
	合計		+41.0%		-13.0%		-26.0%		-2.0%

**天然ゴム系積層ゴム支承** ※下記のいずれかによる  
認定番号: MVBR-0509/0518



<table border="1"> <tr><th>製品番号</th><th>NRB100</th></tr> <tr><th>記号</th><th>NS100G4</th></tr> <tr><th>符号</th><th>名称</th><th>数量</th><th>材質</th><th>備考</th></tr> <tr><td>①</td><td>内部ゴム</td><td>—</td><td>天然ゴム</td><td>6.7t×30層 プリチン規格: G0.40</td></tr> <tr><td>②</td><td>被覆ゴム</td><td>—</td><td>合成ゴム</td><td>8.0t プリチン規格: 被覆ゴム</td></tr> <tr><td>③</td><td>内部鋼板</td><td>29</td><td>SS400</td><td>4.4t</td></tr> <tr><td>④</td><td>フランジ</td><td>2</td><td>SM490A</td><td>50.0t</td></tr> </table>	製品番号	NRB100	記号	NS100G4	符号	名称	数量	材質	備考	①	内部ゴム	—	天然ゴム	6.7t×30層 プリチン規格: G0.40	②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム	③	内部鋼板	29	SS400	4.4t	④	フランジ	2	SM490A	50.0t	<table border="1"> <tr><th>製品番号</th><th>NRB100</th></tr> <tr><th>記号</th><th>RB-R-4100</th></tr> <tr><th>符号</th><th>名称</th><th>数量</th><th>材質</th><th>備考</th></tr> <tr><td>①</td><td>内部ゴム</td><td>—</td><td>天然ゴム</td><td>6.0t×33層 (G4)</td></tr> <tr><td>②</td><td>被覆ゴム</td><td>—</td><td>合成ゴム</td><td>10.0t</td></tr> <tr><td>③</td><td>内部鋼板</td><td>32</td><td>SS400</td><td>4.4t</td></tr> <tr><td>④</td><td>フランジ</td><td>2</td><td>SS400</td><td>48.0t</td></tr> </table>	製品番号	NRB100	記号	RB-R-4100	符号	名称	数量	材質	備考	①	内部ゴム	—	天然ゴム	6.0t×33層 (G4)	②	被覆ゴム	—	合成ゴム	10.0t	③	内部鋼板	32	SS400	4.4t	④	フランジ	2	SS400	48.0t	<table border="1"> <tr><th>製品番号</th><th>NRB100</th></tr> <tr><th>記号</th><th>R40-1000-7.5×26</th></tr> <tr><th>符号</th><th>名称</th><th>数量</th><th>材質</th><th>備考</th></tr> <tr><td>①</td><td>内部ゴム</td><td>—</td><td>天然ゴム</td><td>7.5t×26層 (G=0.39 N/mm<sup>2</sup>)</td></tr> <tr><td>②</td><td>被覆ゴム</td><td>—</td><td>合成ゴム</td><td>5.0t</td></tr> <tr><td>③</td><td>内部鋼板</td><td>25</td><td>SS400</td><td>4.5t</td></tr> <tr><td>④</td><td>フランジ</td><td>2</td><td>SS400</td><td>50.0t</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>連結鋼板</td><td>2</td><td>SS400</td><td>28.0t</td></tr> </table>	製品番号	NRB100	記号	R40-1000-7.5×26	符号	名称	数量	材質	備考	①	内部ゴム	—	天然ゴム	7.5t×26層 (G=0.39 N/mm <sup>2</sup> )	②	被覆ゴム	—	合成ゴム	5.0t	③	内部鋼板	25	SS400	4.5t	④	フランジ	2	SS400	50.0t	⑤	連結鋼板	2	SS400	28.0t
製品番号	NRB100																																																																																													
記号	NS100G4																																																																																													
符号	名称	数量	材質	備考																																																																																										
①	内部ゴム	—	天然ゴム	6.7t×30層 プリチン規格: G0.40																																																																																										
②	被覆ゴム	—	合成ゴム	8.0t プリチン規格: 被覆ゴム																																																																																										
③	内部鋼板	29	SS400	4.4t																																																																																										
④	フランジ	2	SM490A	50.0t																																																																																										
製品番号	NRB100																																																																																													
記号	RB-R-4100																																																																																													
符号	名称	数量	材質	備考																																																																																										
①	内部ゴム	—	天然ゴム	6.0t×33層 (G4)																																																																																										
②	被覆ゴム	—	合成ゴム	10.0t																																																																																										
③	内部鋼板	32	SS400	4.4t																																																																																										
④	フランジ	2	SS400	48.0t																																																																																										
製品番号	NRB100																																																																																													
記号	R40-1000-7.5×26																																																																																													
符号	名称	数量	材質	備考																																																																																										
①	内部ゴム	—	天然ゴム	7.5t×26層 (G=0.39 N/mm <sup>2</sup> )																																																																																										
②	被覆ゴム	—	合成ゴム	5.0t																																																																																										
③	内部鋼板	25	SS400	4.5t																																																																																										
④	フランジ	2	SS400	50.0t																																																																																										
⑤	連結鋼板	2	SS400	28.0t																																																																																										

ばらつき	製造ばらつき	Kh(+側)	+15.0%	Kh(-側)	-15.0%
	経年変化		+10.0%		+10.0%
	温度変化		+ 6.0%		- 5.0%
	合計		+31.0%		-20.0%

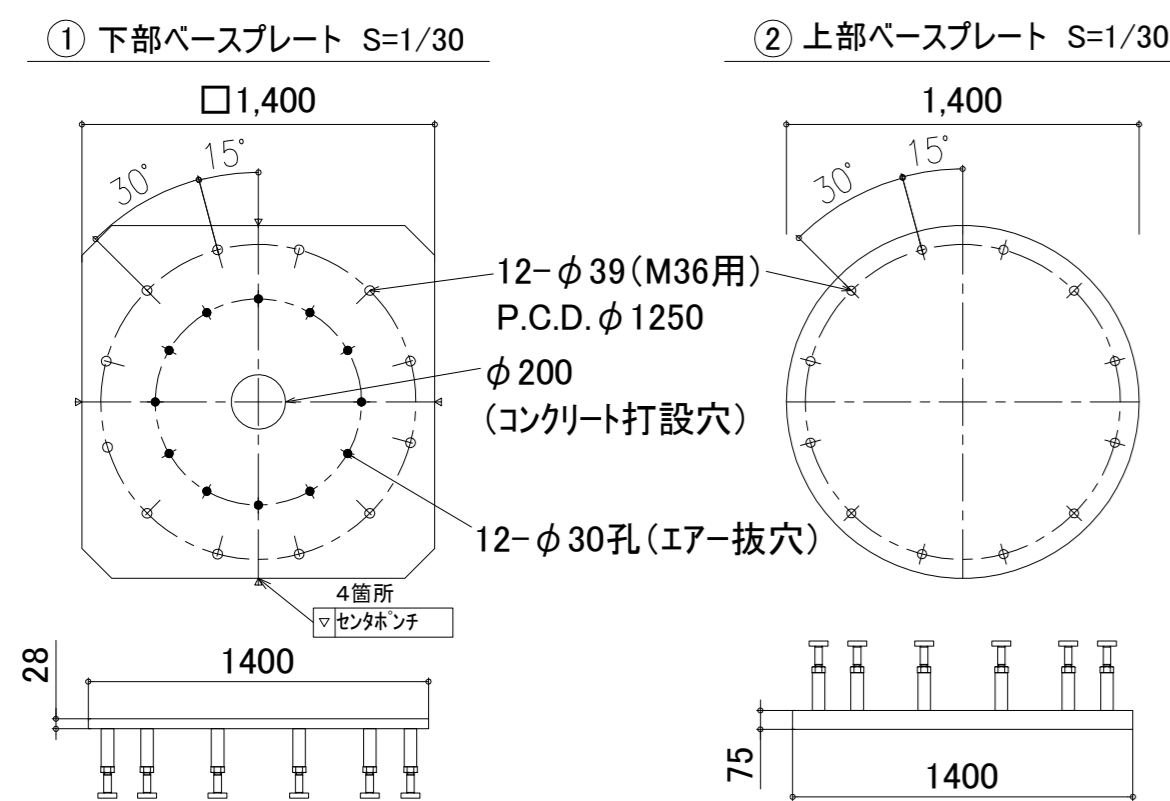
<p><b>明石市政策局 企画・調整室</b></p> <p>&lt;代表設計者&gt; 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨</p> <p>&lt;構造設計者&gt; 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智</p>	<p>明石市役所新庁舎建設工事</p> <p>B 建築工事</p> <p>34 免震材料リスト (1)</p> <p>安井建築設計事務所</p>	<p>最終版 2024.3.25</p> <p>見積版 2024.3.25</p> <p>最終契約版</p>
--	--	--

高減衰ゴム系積層ゴム支承 (認定番号 : MVBR-0510/0519)

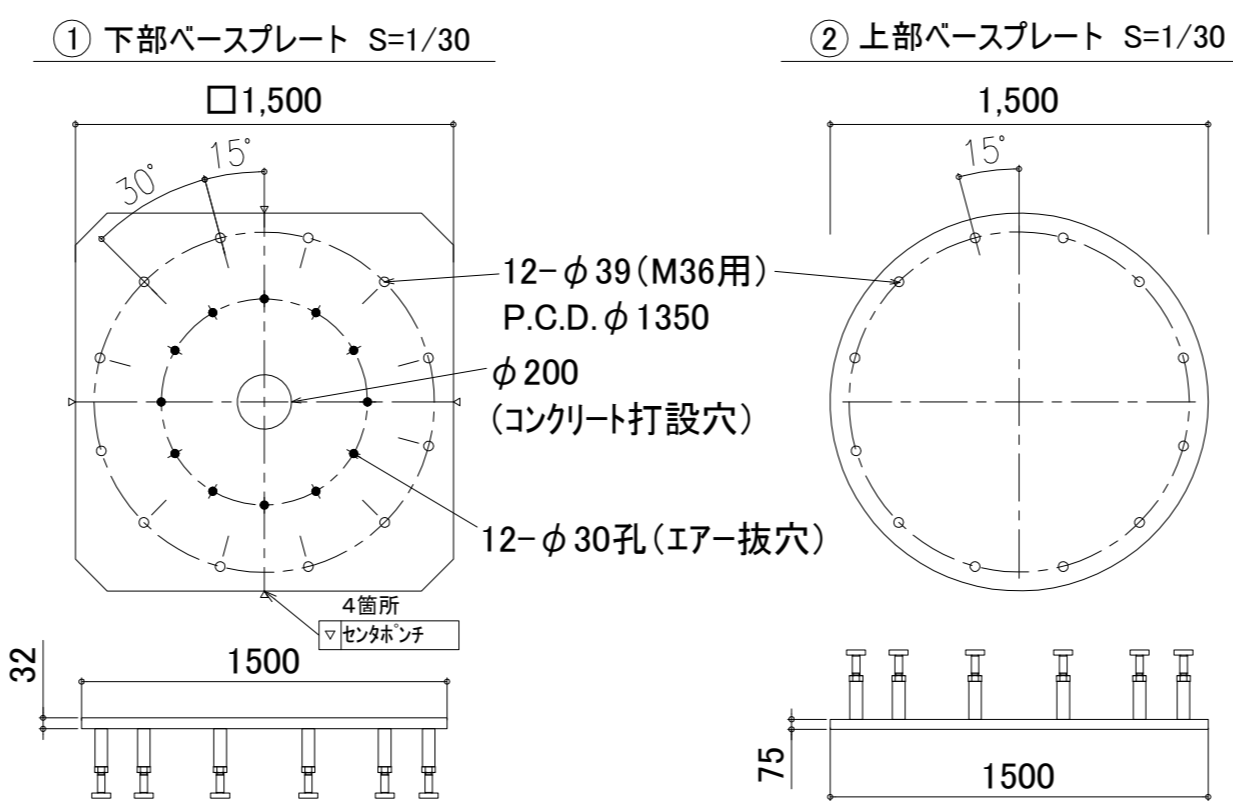
符号 : HRB100 (HS100X4S)

符号 : HRB110 (HH110X4S)

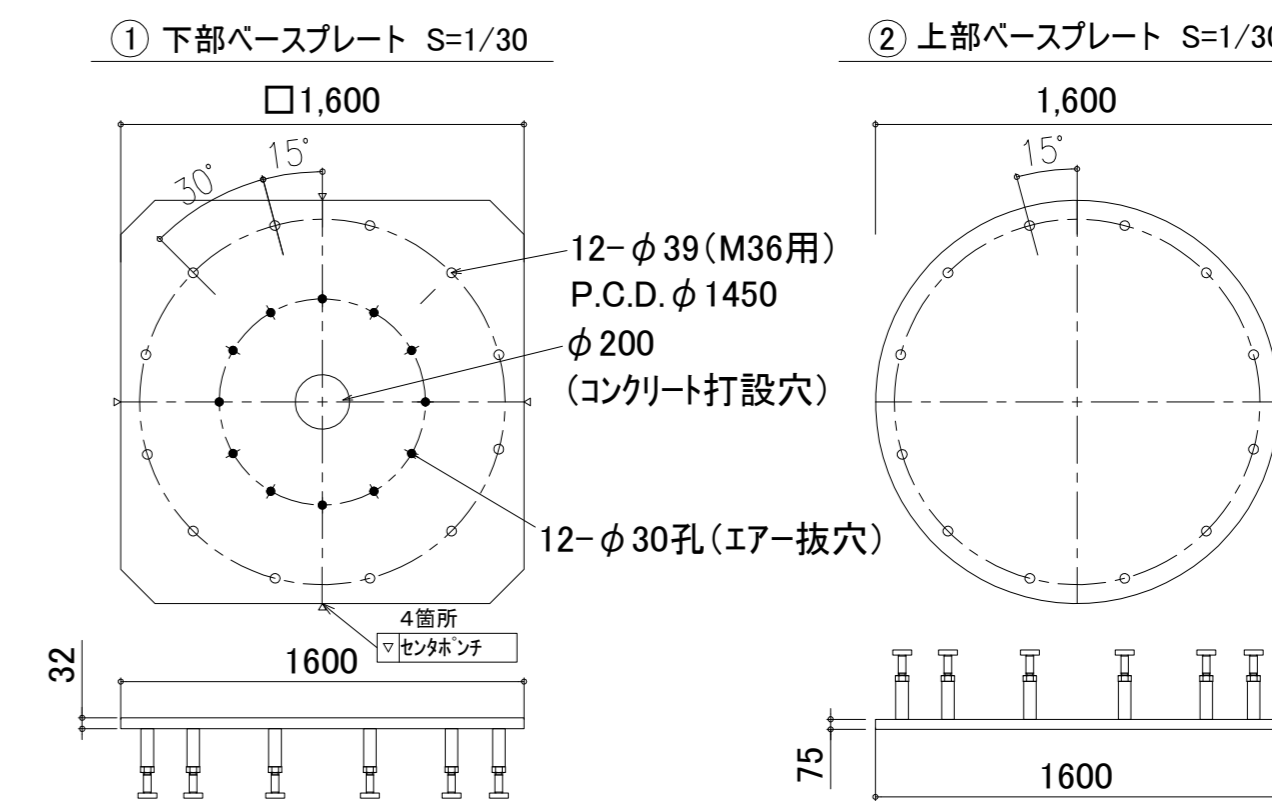
符号 : HRB120 (HH120X4S)



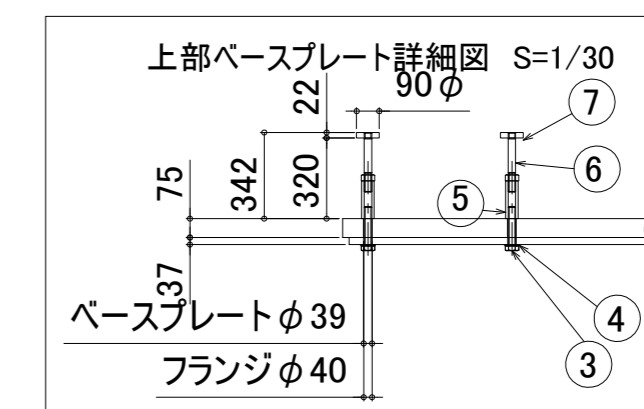
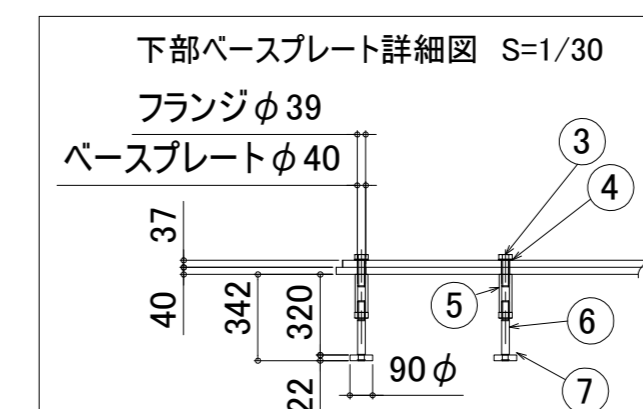
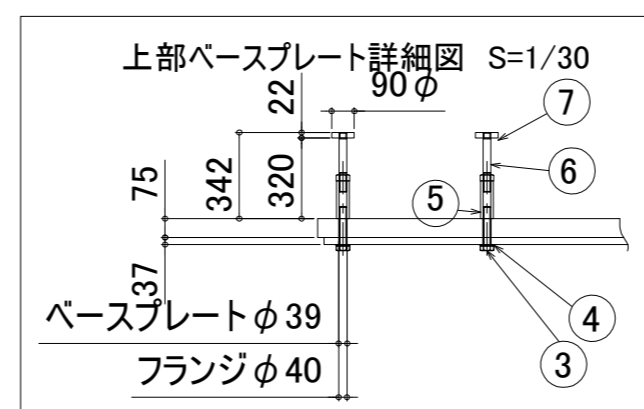
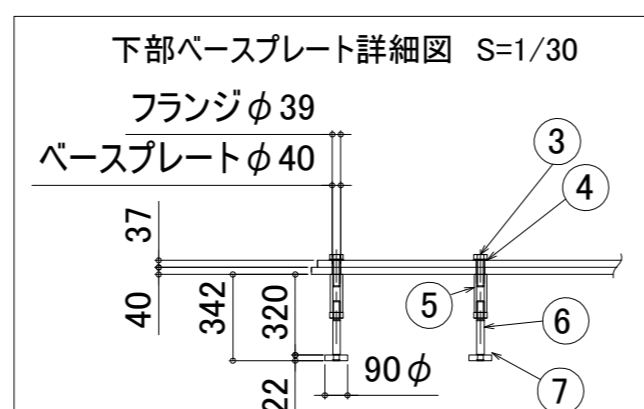
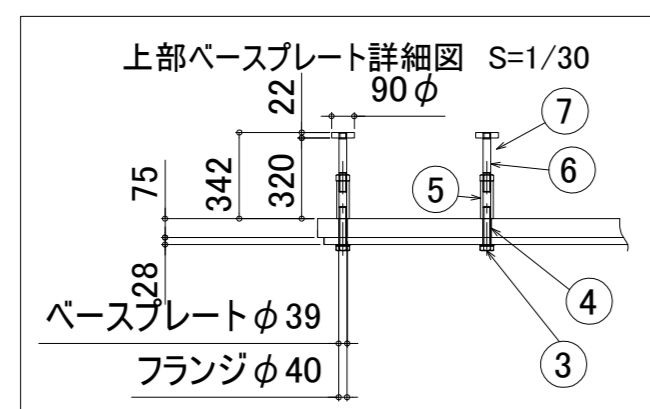
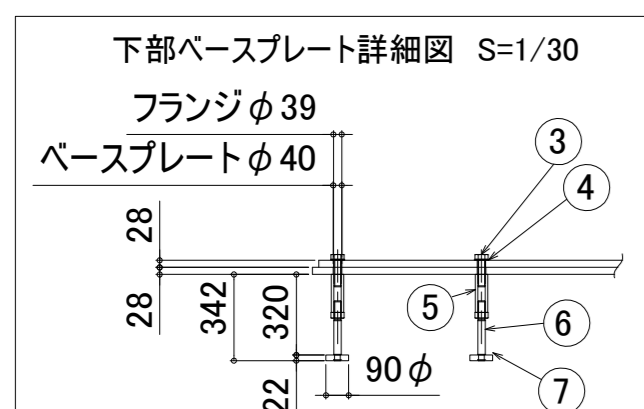
※塗装は溶融亜鉛メッキとする。



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。



符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36 × 100	12 (片側)	6.8	HDZ35
④	座金 M36用	12 (片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55 × 180 × M36	12 (片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36 × 320	12 (片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ × 22t × M36	12 (片側)	SM490	

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36 × 100	12 (片側)	6.8	HDZ35
④	座金 M36用	12 (片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55 × 180 × M36	12 (片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36 × 320	12 (片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ × 22t × M36	12 (片側)	SM490	

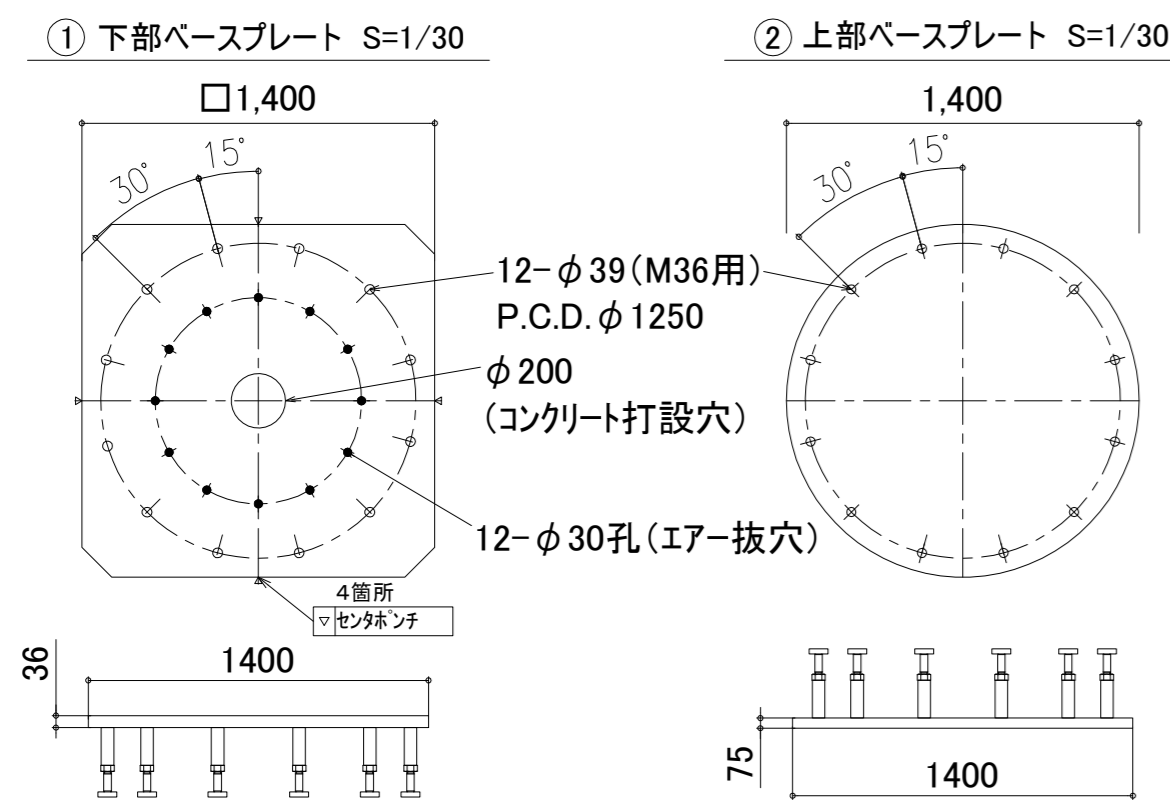
符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36 × 100	12 (片側)	6.8	HDZ35
④	座金 M36用	12 (片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55 × 180 × M36	12 (片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36 × 320	12 (片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ × 22t × M36	12 (片側)	SM490	

天然ゴム系積層ゴム支承 (NRB100)

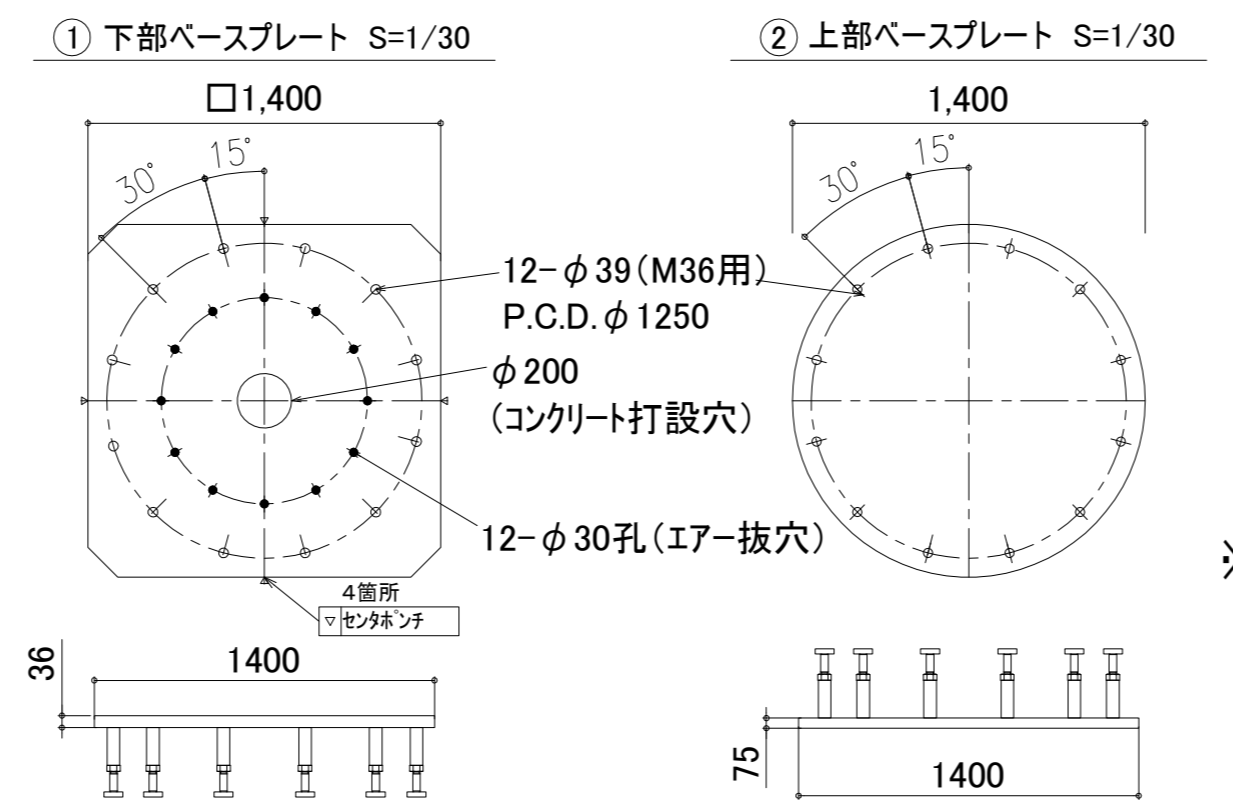
記号 : NS100G4

記号 : RB-R-4100

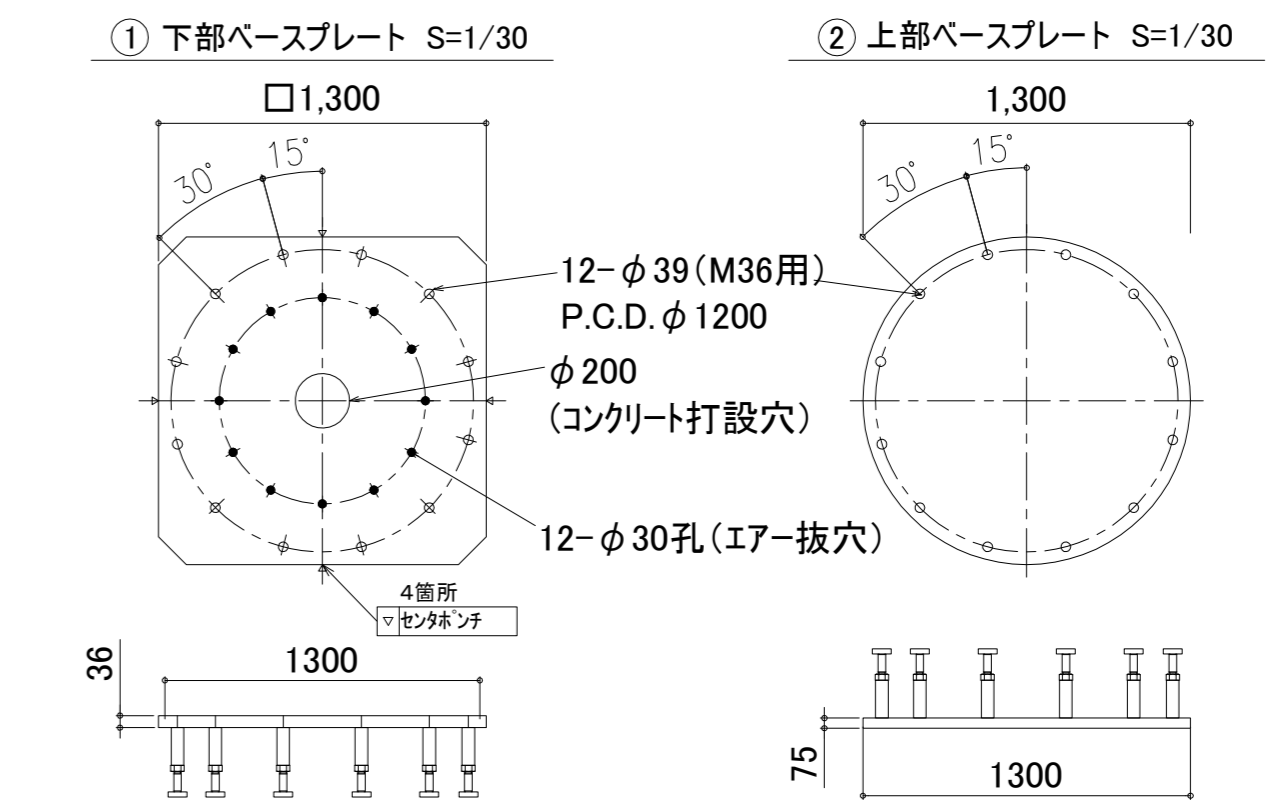
記号 : R40-1000-7.5 × 26



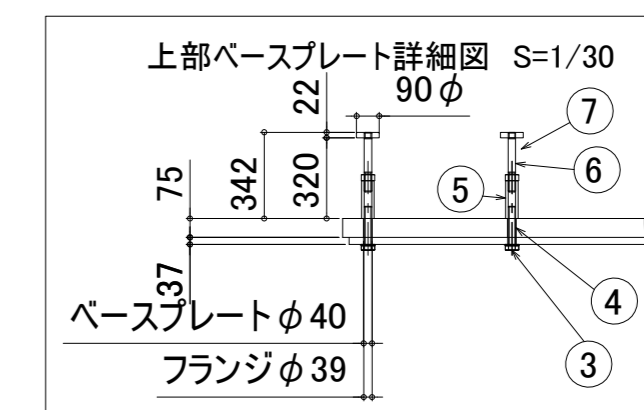
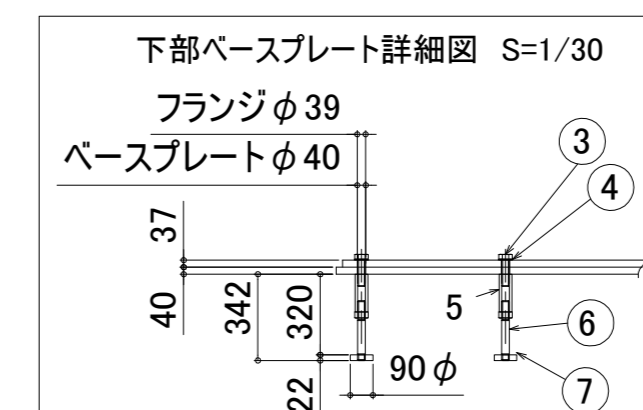
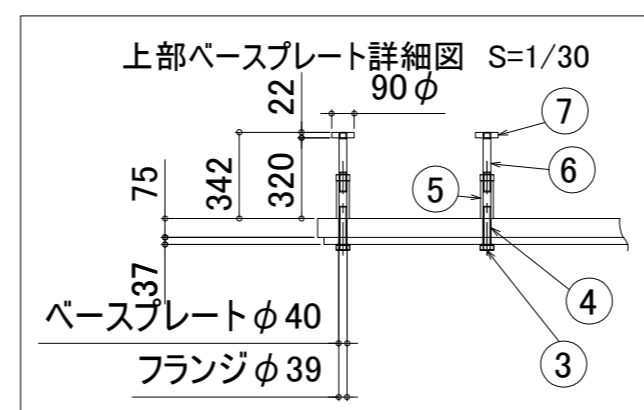
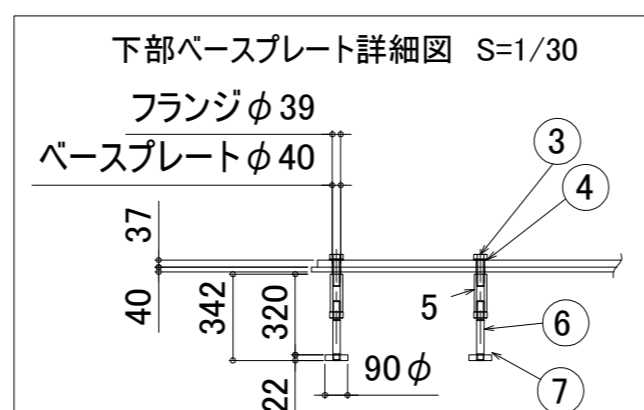
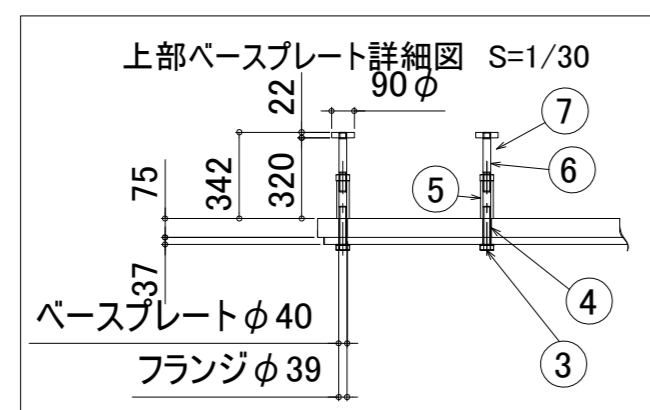
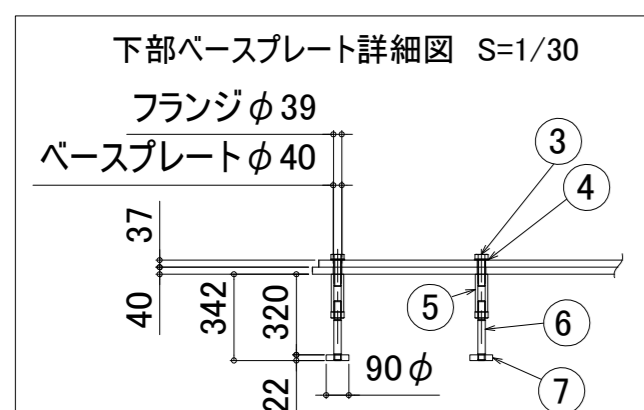
※塗装は溶融亜鉛メッキとする。



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。



※塗装は溶融亜鉛メッキとする。



符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36 × 100	12 (片側)	6.8	HDZ35
④	座金 M36用	12 (片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55 × 180 × M36	12 (片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36 × 320	12 (片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ × 22t × M36	12 (片側)	SM490	

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36 × 100	12 (片側)	6.8	HDZ35
④	座金 M36用	12 (片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55 × 180 × M36	12 (片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36 × 320	12 (片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ × 22t × M36	12 (片側)	SM490	

符号	名称	数量	材質	備考
①	上部ベースプレート	1	TMCP325	
②	下部ベースプレート	1	SN490C	
③	取付けボルト M36 × 100	12 (片側)	6.8	HDZ35
④	座金 M36用	12 (片側)	SS400	HDZ35
⑤	長ナットΦ55 × 180 × M36	12 (片側)	6	取付ボルトの強度区分と対応するナットとすること。
⑥	アンカーボルトM36 × 320	12 (片側)	SNR490	
⑦	定着板90Φ × 22t × M36	12 (片側)	SM490	

明石市政策局 企画・調整室

明石市役所新庁舎建設工事

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号  
南浦 琢磨  
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号  
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号  
田中 智

B 建築工事  
35 免震材料リスト (2)  
安井建築設計事務所

最終版 2024.3.25  
見直し版 2024.3.25  
最終契約版

大梁リスト 1:50

共通事項(特記なき限り)

- スターラップは □-D16@200 とする。
- 腹筋は 10-D13, 幅止筋は D10@1000以内 とする。
- Y方向の主筋を上側に配筋する。
- カットオフ長さは  $L_0/4+15d$ 以上 ( $L_0$ :内法スパン)とする。
- HYは外法一定H形鋼を、BHはビルドH形鋼を示す。
- 主筋間隔が300を超える場合、D16@300を追加する。

凡例  
 スターラップ 4-D13@200 は  
 右図 を示す。

符号	G1		G2		
	位置	端部	中央	端部	
1階	断面				
		上端筋	4-D32	2-D32	4-D32
		下端筋	4-D32	4-D32	4-D32
	スターラップ	6-D13		6-D13	
	腹筋	HY-1000x350x19x32 (SN490B)		HY-1000x350x19x32 (SN490B)	
	鉄骨梁				
	備考				

符号	G11		G11A		G12		G13		
	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央		
1階	断面								
		上端筋	4-D32	2-D32	4-D32	2-D32	4-D32	2-D32	4-D32
		下端筋	4-D32	4-D32	4-D32+3-D25(補助筋)	4-D32+3-D25(補助筋)	4-D32+3-D25(補助筋)	4-D32+4-D32(補助筋)	4-D32+8-D32(補助筋)
	スターラップ	6-D13							
	腹筋	HY-1000x350x16x32 (SN490B)		HY-1000x350x16x32 (SN490B)		BH-1000x500x22x36 (SN490B)		HY-1000x350x19x32 (SN490B)	
	鉄骨梁			3-D25(補助筋)はパネルゾーンへの定着不要とする。		3-D25(補助筋)はパネルゾーンへの定着不要とする。		4-D32(補助筋)はパネルゾーンへの定着不要とする。	
	備考								

小梁リスト 1:50

共通事項(特記なき限り)

- スターラップは □-D13@200 とする。
- 腹筋は 10-D13, 幅止筋は D10@1000以内 とする。
- 土に接する梁下地業は捨てコンクリート ⑦50、砕石 ⑦60とする。
- カットオフ長さは  $L_0/4+15d$ 以上 ( $L_0$ :内法スパン)とする。

符号	fb1			fb3		b1		b2		b3	b4	b5	b6	b7	
	連続端	中央	他端	Y5端	中央・他端	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断面															
	上端筋	7-D25	4-D25	4-D25	18-D25	8-D25	6-D25	4-D25	8-D25	5-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25	2-D22
	下端筋	4-D25	6-D25	4-D25	8-D25	8-D25	6-D25	6-D25	7-D25	5-D25	8-D25	8-D25	3-D25	2-D22	
	スターラップ	□-D16@150													
	腹筋	4-D13													
	備考	下端筋及びスターラップは溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。(HDZT77)			下端筋及びスターラップは溶融亜鉛メッキ鉄筋とする。(HDZT77)										

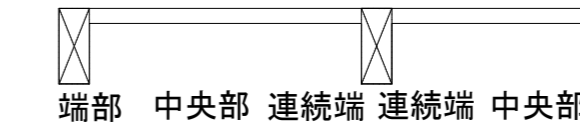
符号	b8			b9		b10		b11			cfb1		
	連続端	中央	他端	端部	中央	端部	中央	連続端	中央	他端	元端	先端	
断面													
	上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	8-D25	5-D25	3-D25	3-D25	18-D25	8-D25
	下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25	5-D25	8-D25	3-D25	5-D25	3-D25	8-D25	8-D25
	スターラップ	□-D10@200											
	腹筋	6-D13											
	備考	( )付き数値はfb1と連続する端部の配筋を示す。											

地中小梁位置凡例

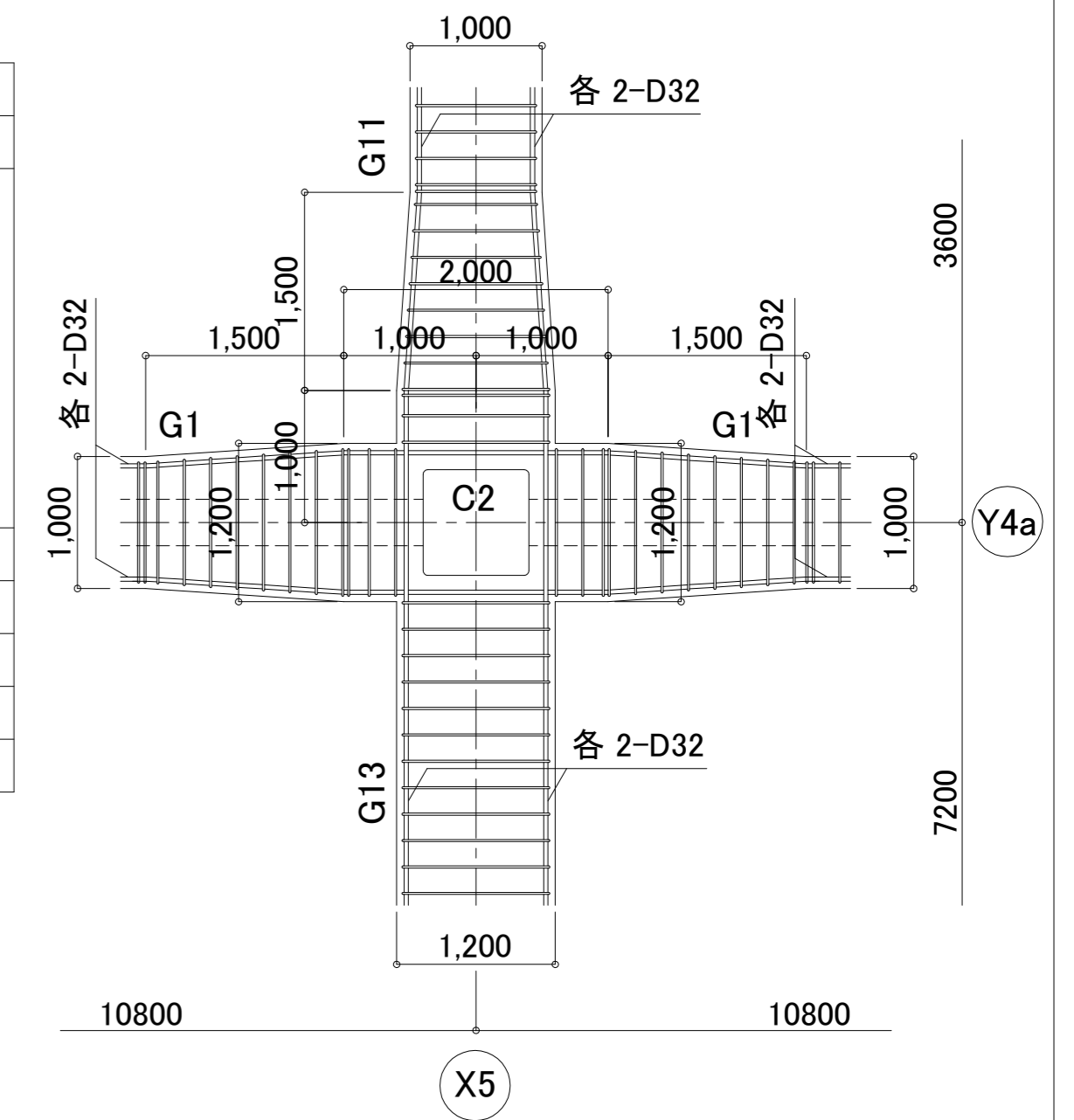
地中小梁リストに明記した位置は、下図による。



【単純梁】

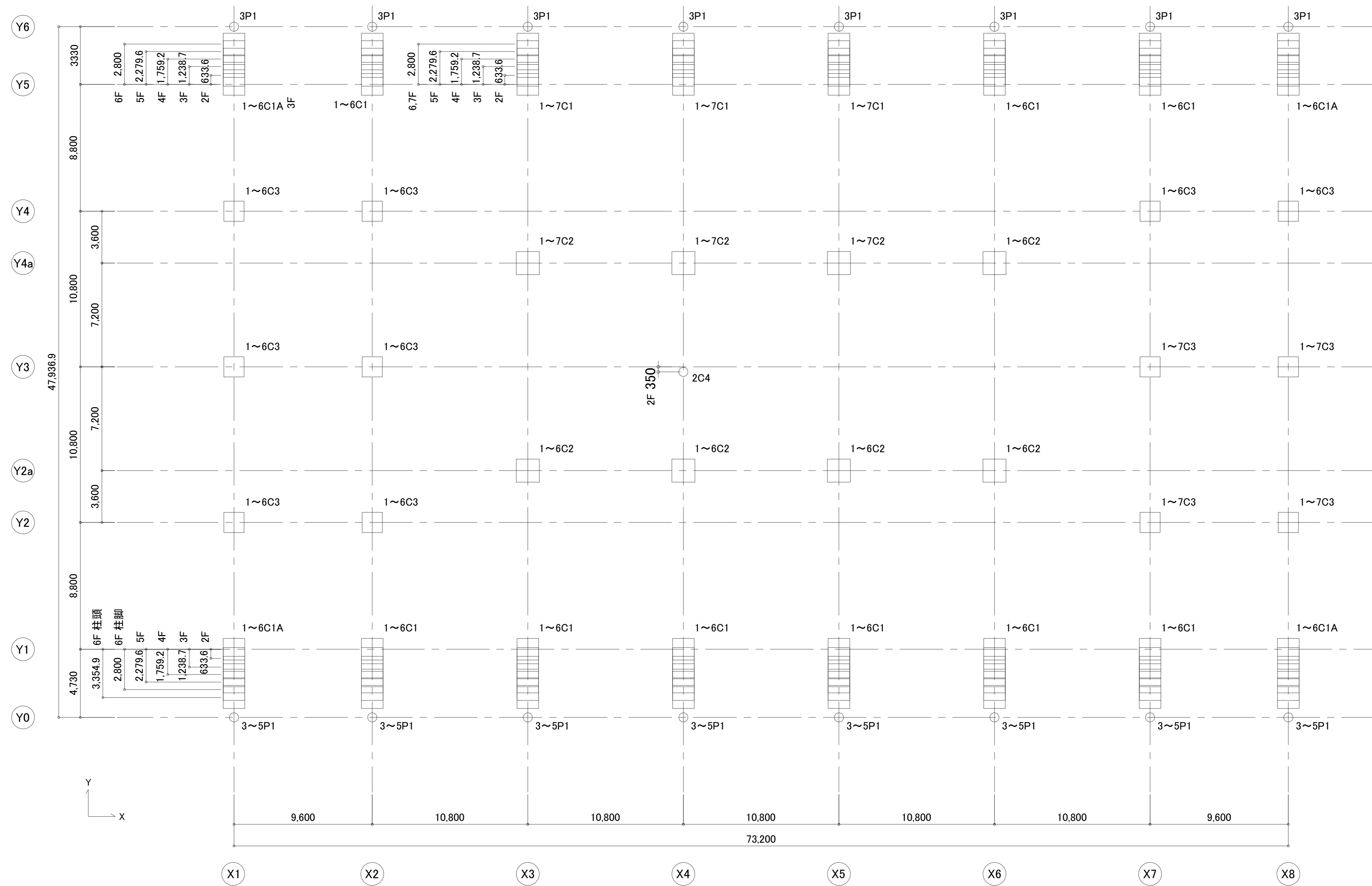


【連続梁】



1階梁配筋要領図 1:50

明石市政策局 企画・調整室 <代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	明石市役所新庁舎建設工事		
	B	建築工事	最終版 2024.3.25
	36	大梁・小梁リスト	A1 1:50 A3 1:100 最終版 2024.3.25
	安井建築設計事務所		最終契約版



柱芯線 1:75 1:150

共通事項(特記なき限り)  
 ・柱芯=通芯とする。  
 ・  
 ・  
 ・

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	A1 1:75 A3 1:150
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	37	柱芯線図	A1 1:150 A3 1:300
安井建築設計事務所			最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版

鉄骨柱 リスト 1:50

共通事項(特記なき限り)

- 角形鋼管は BCP325(大臣認定品)とする。
- 通しダイアフラム材質は SN490C、内ダイアフラム材質は SN490B とする。
- ダイアフラム等板厚が40mmを超える場合は TMCP鋼(大臣認定品)を用いる。
- 外部に面する部材は 溶融亜鉛メッキ 550 g/m 以上とする。

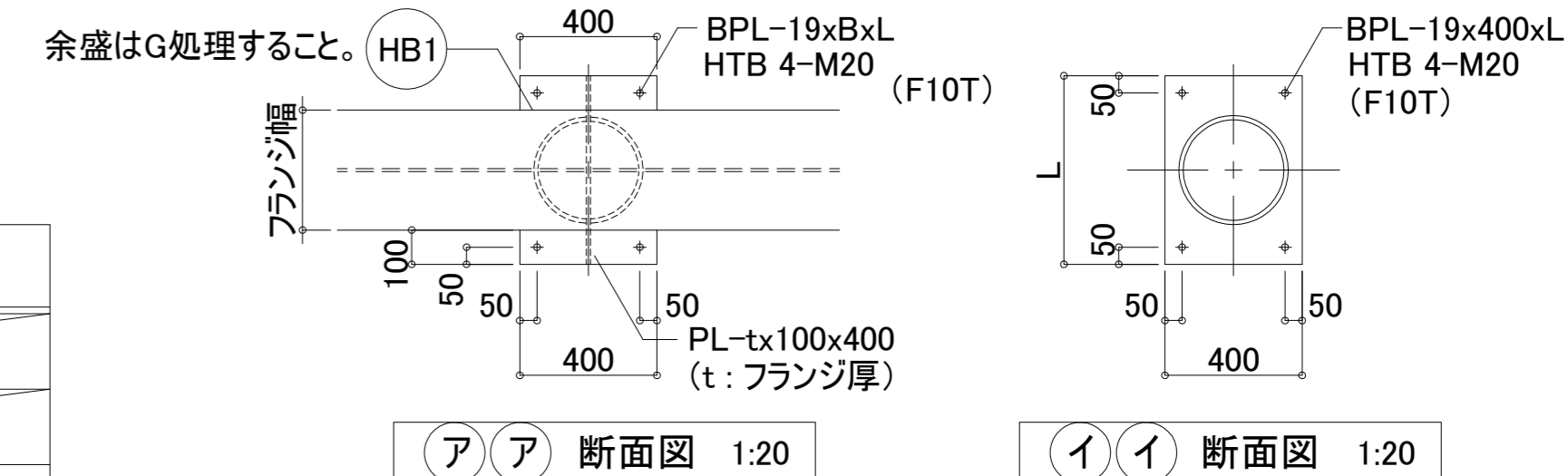
符号	C 1	C1A	C 2	C 3	C 4	P 1
7 階	□-750x750x25		□-800x800x32	□-700x700x25		
6 階	□-750x750x28	□-750x750x28	□-800x800x32	□-700x700x28		
5 階	□-750x750x28	□-750x750x28	□-800x800x32	□-700x700x28		○-216.3x12.7 (STKN400B)
4 階	□-750x750x32	□-750x750x32	□-800x800x32	□-700x700x32		○-216.3x12.7 (STKN400B)
3 階	□-750x750x32	□-750x750x32	□-800x800x36	□-700x700x36		○-318.5x12.7 (STKN400B)
2 階	□-750x750x36	□-750x750x36	□-800x800x36	□-700x700x36	○-318.5x12.7 (STKN400B)	
1 階	□-750x750x36	□-750x750x40	□-800x800x36	□-700x700x36		
備考						
ブラケット柱						
上部BPL (TMCP325C)	PL-75xΦ1400, PL-75xΦ1500	PL-75xΦ1400	PL-75xΦ1600	PL-75xΦ1400, PL-75xΦ1500		
下部BPL (SN490C)	PL-28xΦ1400, PL-32xΦ1500	PL-36xΦ1400	PL-32xΦ1600	PL-28xΦ1400, PL-32xΦ1500		
アンカーボルト	12-M36	12-M36	12-M36	12-M36		
リブPL	PL-22, h=250 (SN490B)	PL-22, h=250 (SN490B)	PL-25, h=250 (SN490B)	PL-22, h=250 (SN490B)		
柱脚根巻き						
立上り筋	36-D25	36-D25	44-D25	36-D25		
フープ筋	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100		
備考						

鉄骨間柱 リスト 1:50

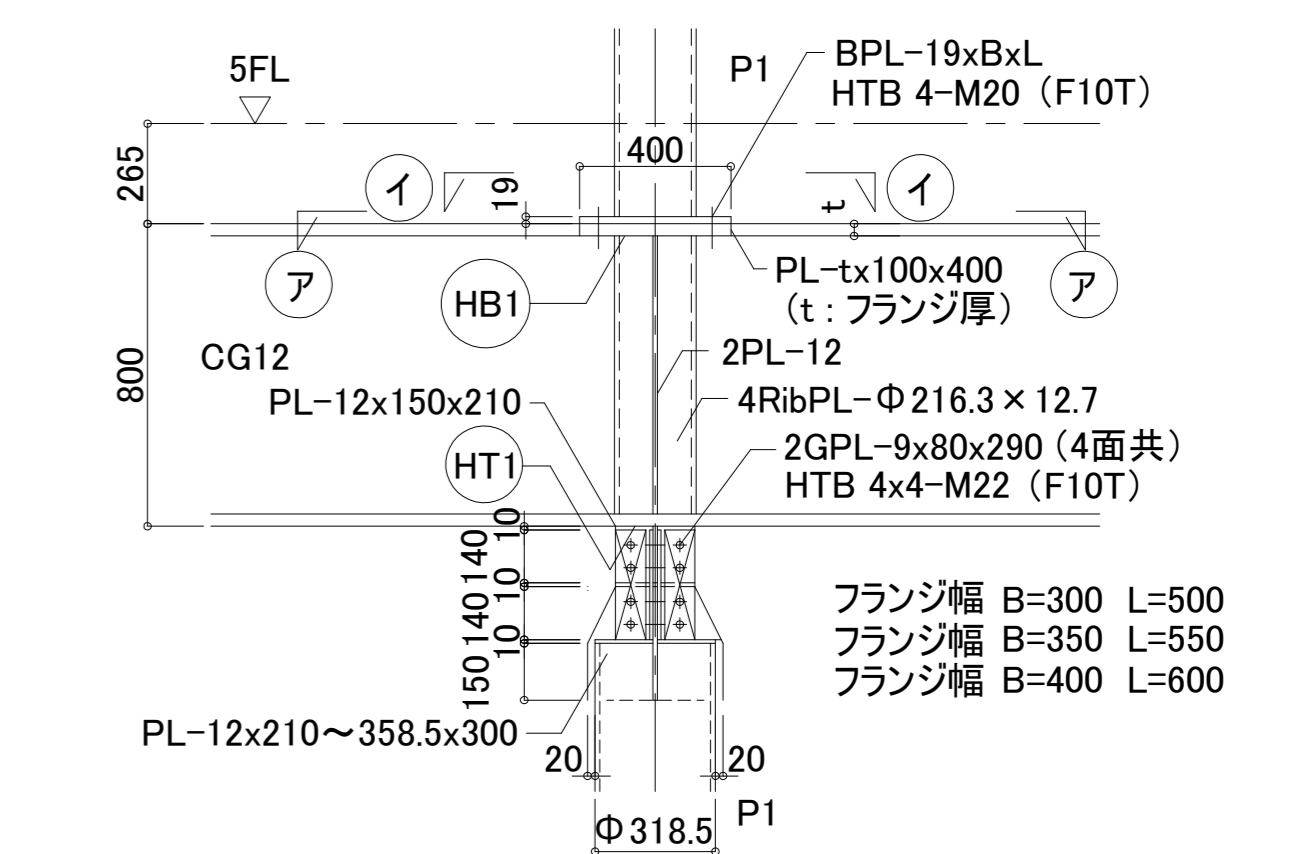
共通事項(特記なき限り)

- 鋼材種別は SN400A とする。
- ボルトは 高力ボルト(HTB)F10T、メッキボルトはF8Tとする。
- ガセットプレートは 母材と同材質とする。

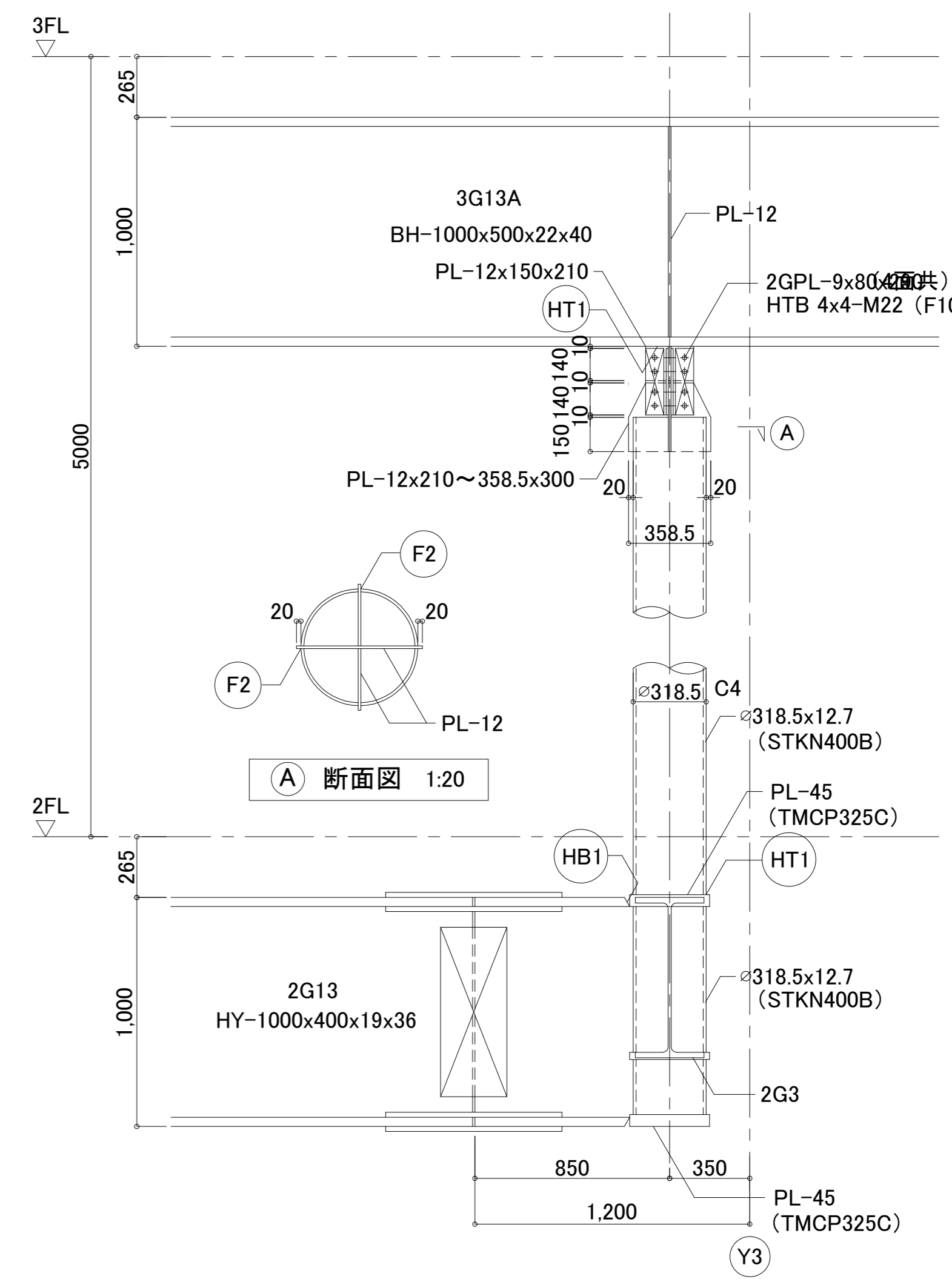
符号	sp17	sp19	sp25	sp20w
部材メンバー	H-175x175x7.5x11	H-194x150x6x9	□-250x250x6	H-200x200x8x12
鋼材種別			STKR400	
ガセットプレート (t x B x D)	PL-9x80x150	PL-9x140x150		PL-9x140x150
高力ボルト (m x n)	2-M20 (1 x 2)	4-M16 (2 x 2)		4-M20 (2 x 2)
柱脚			露出柱脚	
ベースプレート			BPL-16 x 300 x 410	
アンカーボルト			4-M20	
備考	上部アルミパネル支持材詳細図による	sp19取合い詳細図による	EV受けポスト	鉄骨階段詳細図による



アア 断面図 1:20      イイ 断面図 1:20



P1 支柱取付要領図 1:20



C4 支柱取付要領図 1:20

特記なき限り、鋼材種別は SN490B とする。

明石市政政局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
代表設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
構造設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	38	柱・間柱リスト・各部詳細図
			A1 1:20 最終版 2024.3.25 A3 1:40 A1 1:50 見積版 2024.3.25 A3 1:100
			安井建築設計事務所 最終契約版

鉄骨大梁リスト

共通事項(特記なき限り)

- 鋼材種別は SN490B とする。(※)付きはSN400Bとする。
外部に面する部材は 溶融亜鉛メッキ550 g/m²以上とする。
HはJISH形鋼、HYは外法一定H形鋼、BHはビルドH形鋼を示す。

Table with columns: 符号, G 1, G 2, G2A, G2B, G 3, G11, G11A, G12. Rows include floor levels (R階, 7階, 6階, 5階, 4階, 3階, 2階) and section types (全断面, 端部, 中央).

梁端部拡幅要領 1:30

共通事項(特記なき限り)

- 適用部位は下記の上フランジ部とする。
7階 G13
6階 G13
6階 G14
3階 G11A

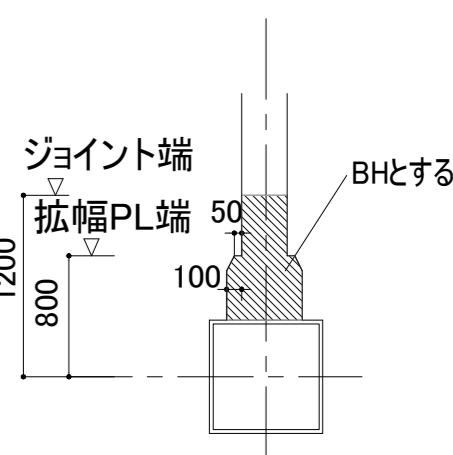


Table with columns: 符号, G13, G13A, G13B, G14, G14A, CG1, CG11, CG12. Rows include floor levels (R階, 7階, 6階, 5階, 4階, 3階, 2階) and section types.

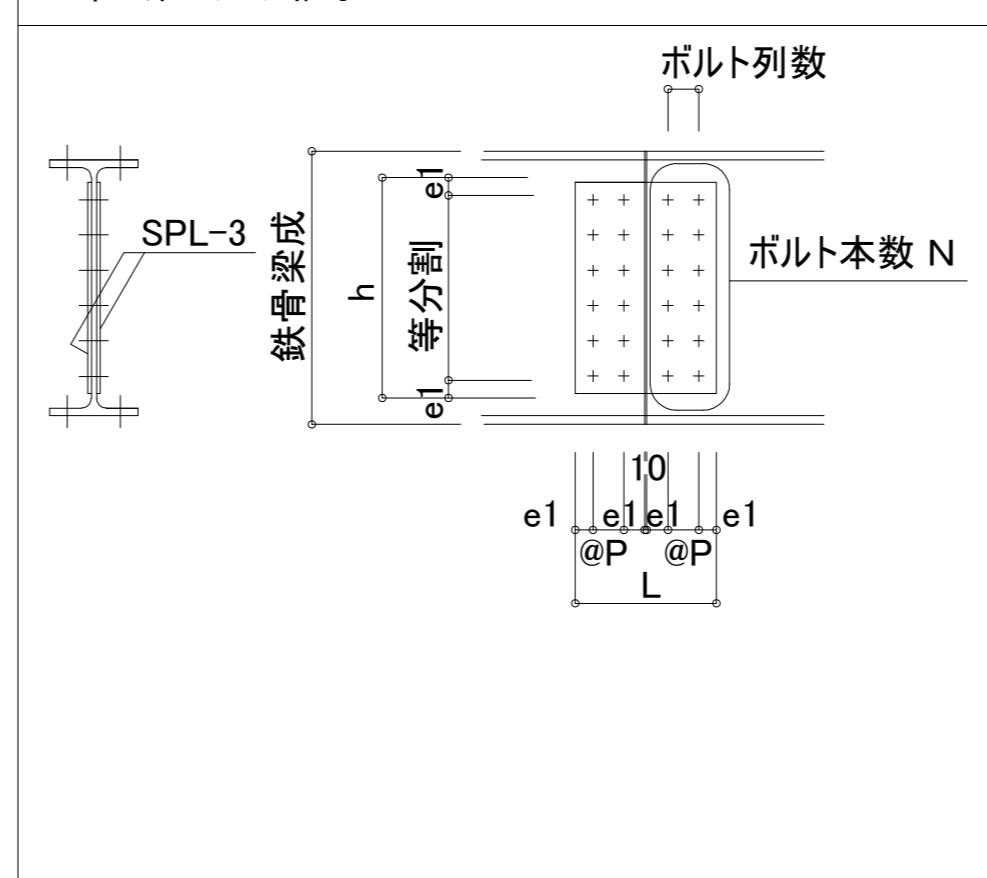
鉄骨継手リスト (フランジ・ウェブ)

共通事項(特記なき限り)

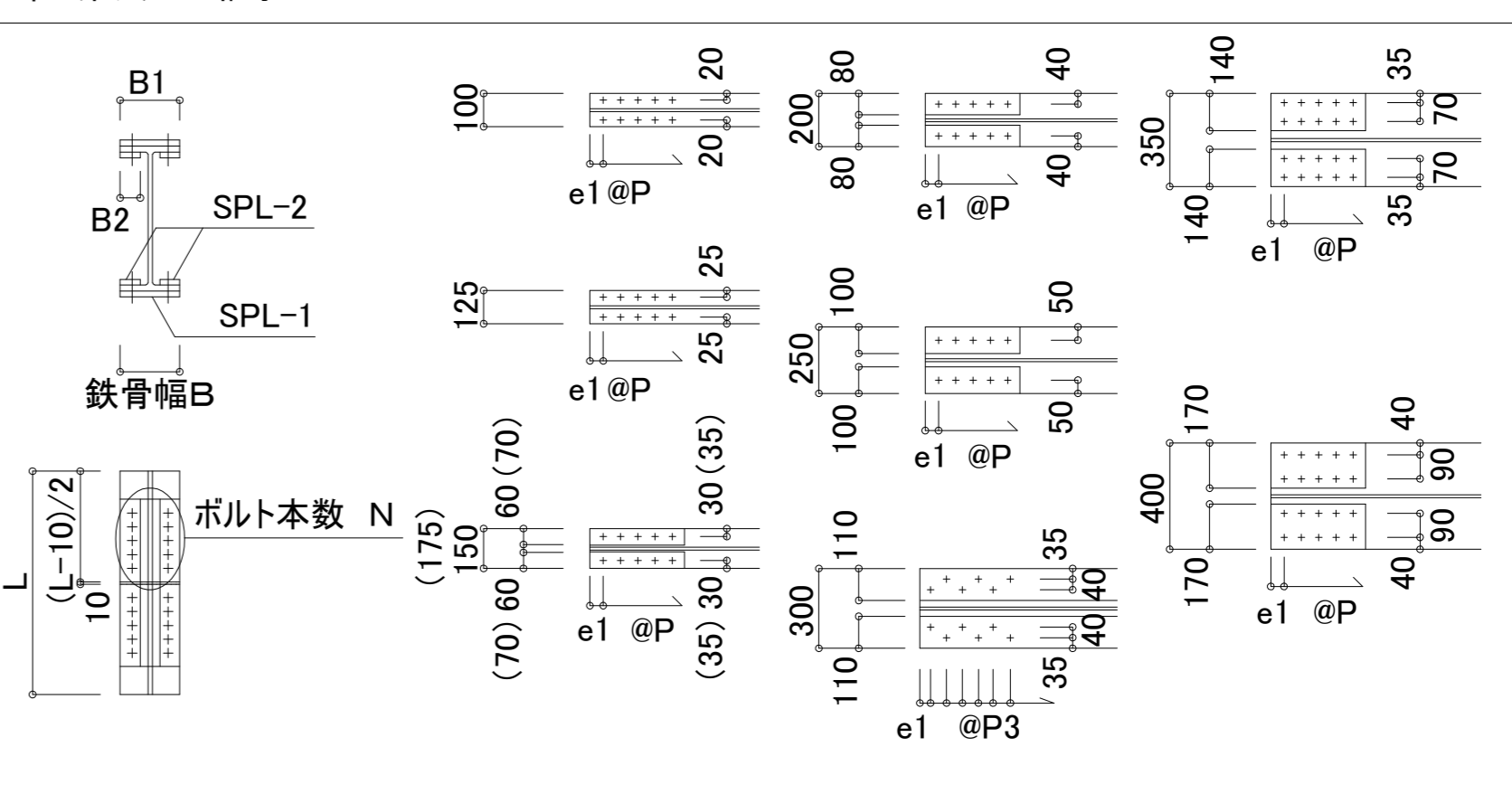
- スプライスプレートは 母材と同材質 とする。
継手は 原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」による。
高力ボルトは S10T, メッキ部材については メッキボルト F8T とする。
ファイラープレートは SS400 とする。

Table with columns: 材質, 部材メンバー (中央断面), フランジ継手 (SPL-1, SPL-2), ウェブ継手 (SPL-3), 備考. Lists various steel beam types and their connection specifications.

柱・梁 ウェブ継手



柱・梁フランジ継手



柱・梁・フランジ・ウェブ 共通

Table with columns: Bolt type (M16, M20, M22), e1, P, P3. Lists common specifications for bolts and plates.

Project information table including 明石市政策局 企画・調整室, 明石市役所新庁舎建設工事, and architect details like 南浦 琢磨, 田中 智.

鉄骨二次部材リスト

共通事項(特記なき限り)

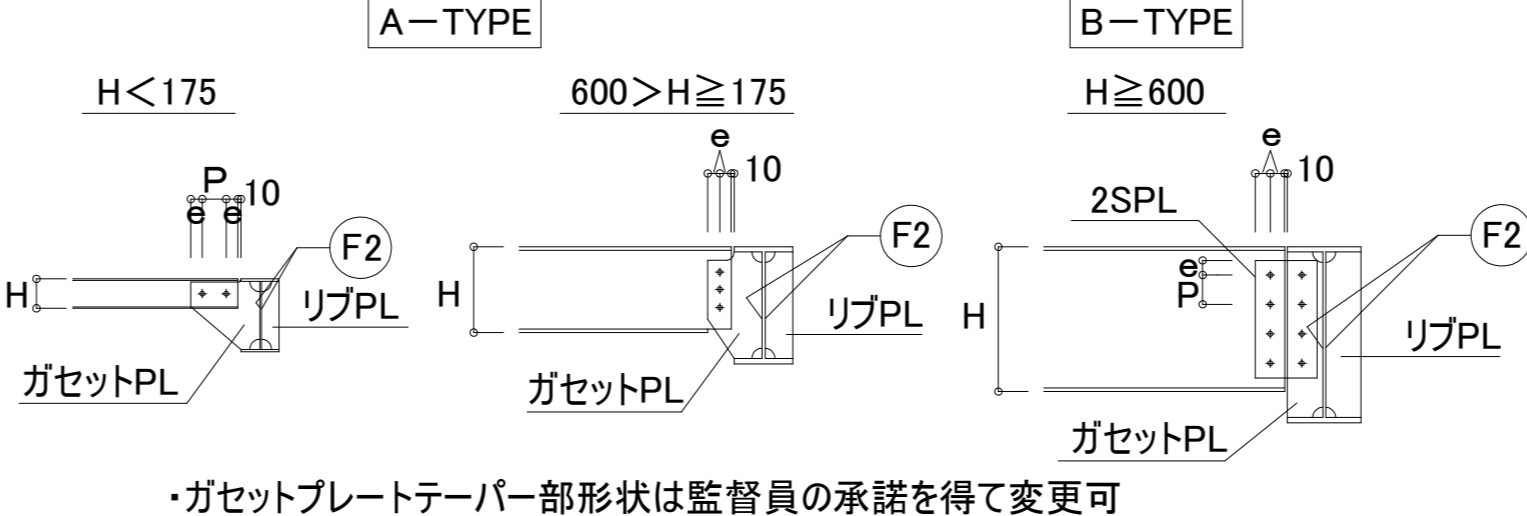
- 鋼材種別 SN400A とする。
- ボルト 特記なき限り 高力ボルト(HTB)F10T、メッキボルトは F8T とする。
- GPLは 母材と同材質とする。
- Hは JISH形鋼、HY-は 外法一定H形鋼を示す。
- 小梁継手TYPEは A-TYPE とする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキ 550 g/m<sup>2</sup> 以上とする。
- 雨水のたまる部分には 水抜き穴を設ける事。(20φ@1500以内)

符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート (GPL)	スライズプレート (2-SPL)	備考
sb14m	H-148x100x6x9	2-M16	PL-6		
sb15w	H-150x150x7x10	2-M20	PL-9		
sb15h	H-150x150x7x10	2-M20	PL-9		ヨコ使い
sb20s	H-200x100x5.5 x 8	2-M16	PL-6		
sb24m, csb24m	H-244x175x7x11	3-M20	PL-9		
sb25s	H-250x125x 6 x 9	2-M20	PL-9		
sb29m	H-294x200x 8x 12	3-M20	PL-9		
sb30s	H-300x150x6.5 x 9	2-M20	PL-9		
sb35s	H-350x175x 7 x11	4-M20	PL-9		
sb39m	H-390x300x10x16	4-M20	PL-12		
sb40s	H-400x200x 8 x13	4-M20	PL-9		
sb45s	H-450x200x 9 x14	5-M20	PL-12		
sb50s	H-500x200x10x16	5-M20	PL-12		2~6G11の片側のみ取付く場合、B-TYPEとする。
sb60s, csb60s	H-600x200x11x17	6-M20	PL-12		2~6G11の片側のみ取付く場合、B-TYPEとする。
sb58m, csb58m	H-588x300x12x20	6-M20	PL-16	PL-9	B-TYPE
sb70	HY-700x250x12x19	7-M22	PL-16	PL-9	B-TYPE
sb80	HY-800x250x14x22	8-M22	PL-16	PL-9	B-TYPE
sb80m	H-800x300x14x26	8-M22	PL-16	PL-9	B-TYPE
csb19m	H-194x150x6x9	-	-	-	上部アルミパネル受け詳細図参照
t1	C-150x75x6.5x10	3-M20	PL-9		大梁座屈止め部材
t2	2L-75x75x6	2-M20	PL-6		外周部ねじれ止め部材

小梁継手要領図 (リブプレートは GPLと同材質・同厚とする)

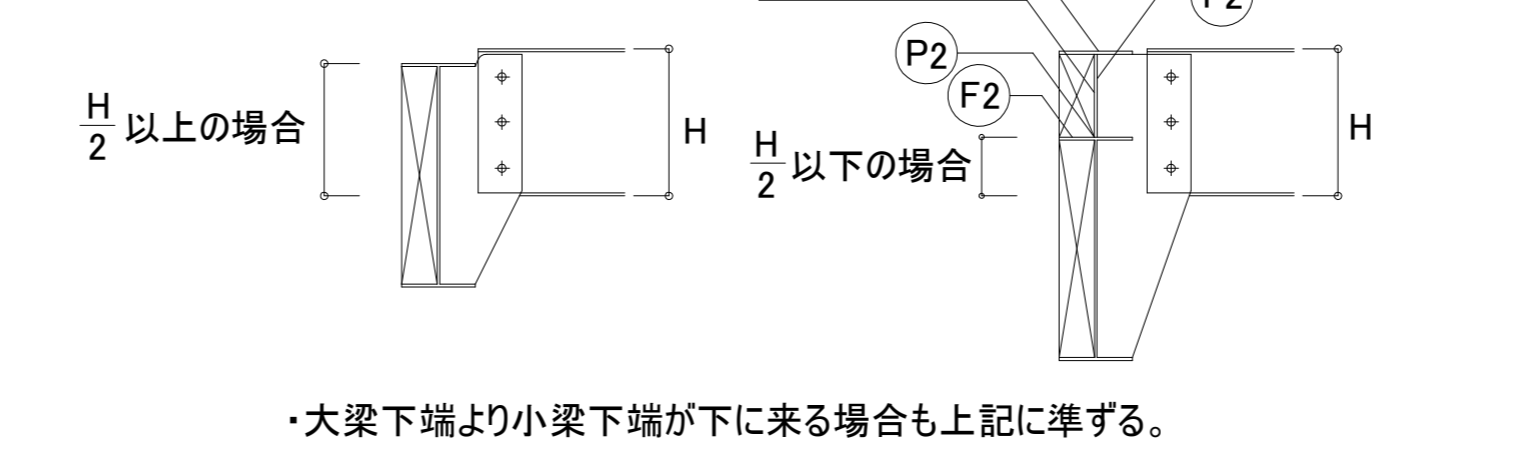
特記なき限り  
 ・リブプレートは GPLと同材質・同厚とする。  
 ・座屈止め要領と仕様が異なる場合は、座屈止め要領を優先する。  
 ・ガセットプレート形状については座屈止め要領を考慮して定める。

(1) 一般継ぎ手要領

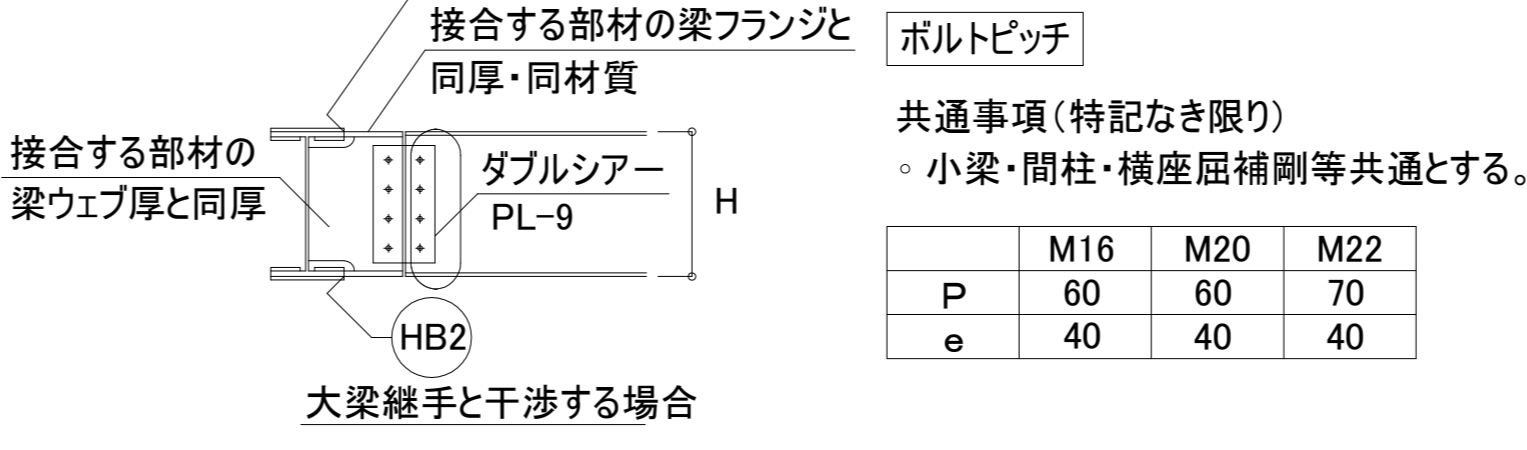


・ガセットプレートテーパ部形状は監督員の承諾を得て変更可

(2) 大梁と小梁に段差がある場合



・大梁下端より小梁下端が下に来る場合も上記に準ずる。

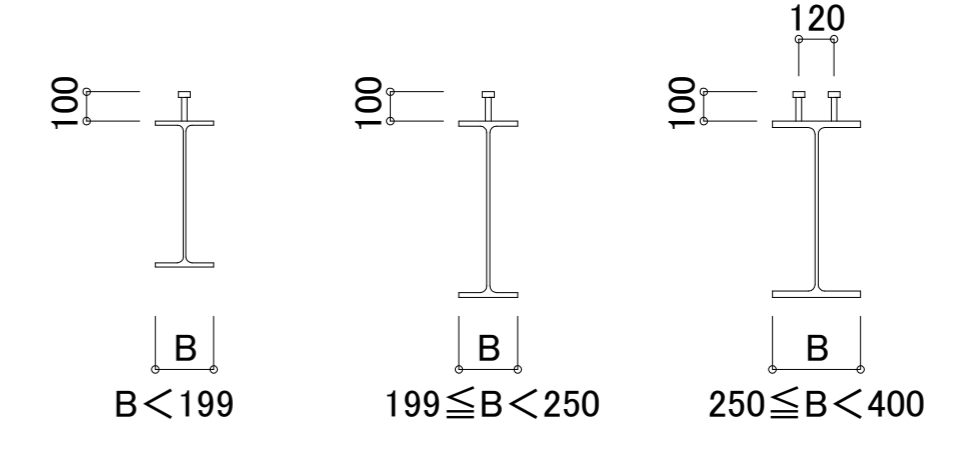


共通事項(特記なき限り)  
 ・小梁・間柱・横座屈補剛等共通とする。

	M16	M20	M22
P	60	60	70
e	40	40	40

梁上端スタッドボルト要領(大梁・小梁)

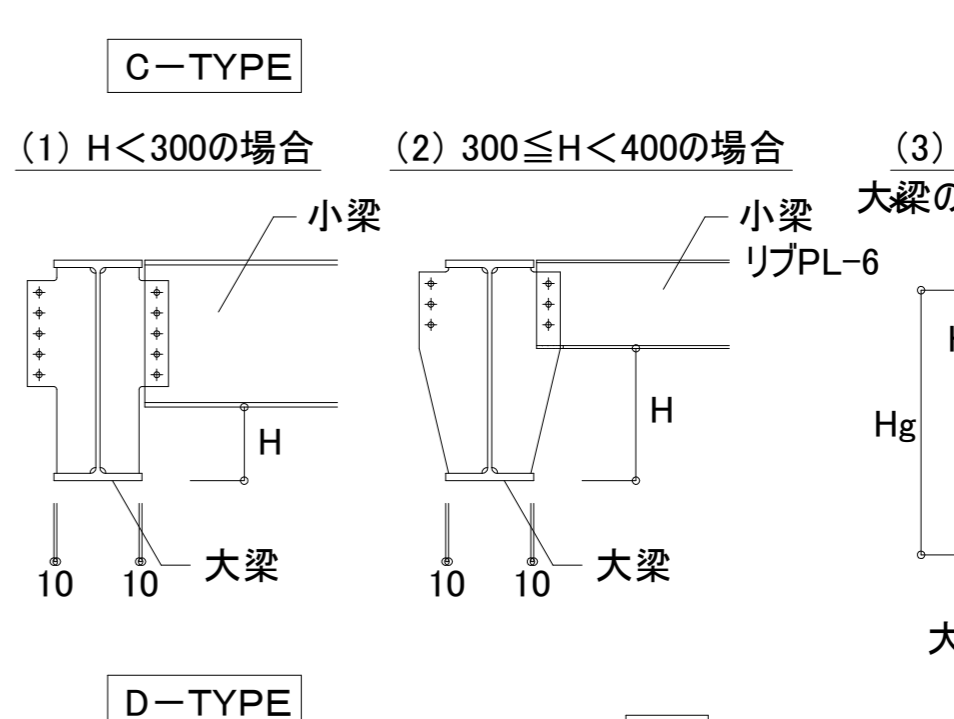
特記外 1.コンクリート床を支持する梁上共通  
 2.( )内は 小梁の場合を示す。



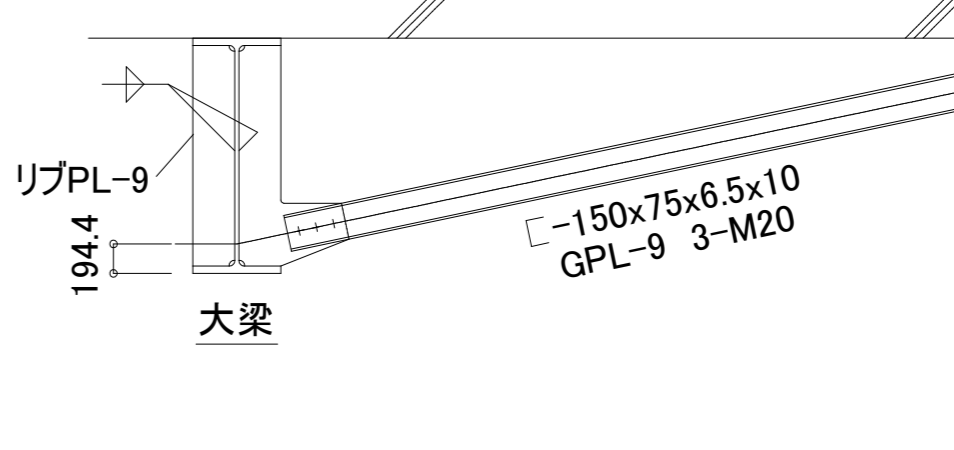
大梁座屈止め要領図

特記なき限り  
 ・リブプレートは GPLと同材質・同厚とする。  
 ・Hg:大梁せい, Hb:小梁せい とする。

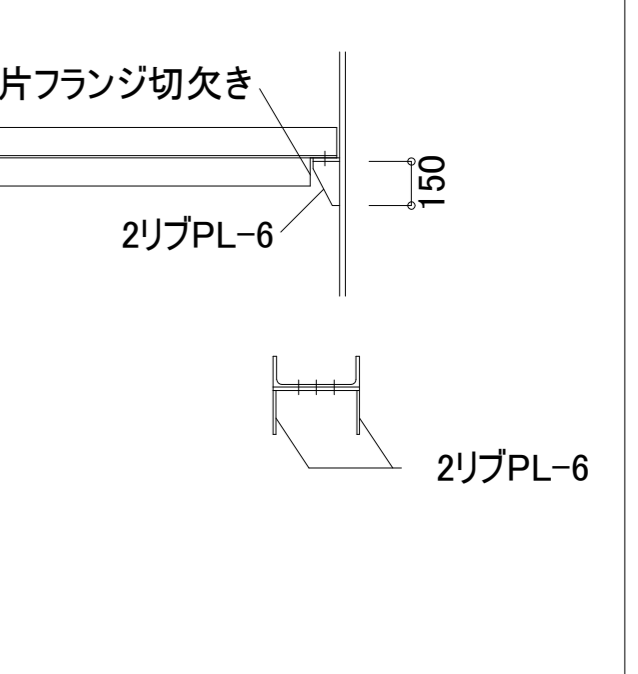
C-TYPE



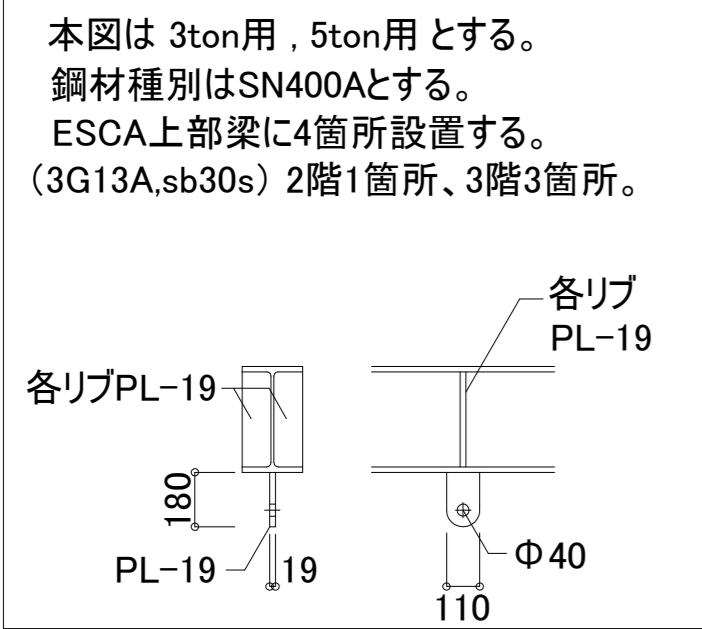
D-TYPE



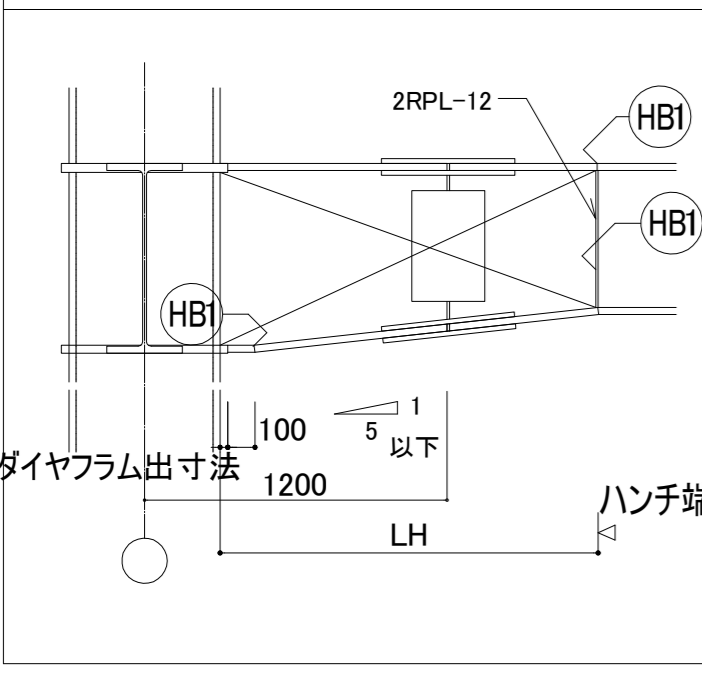
横使い小梁(wb)ガセットプレート要領



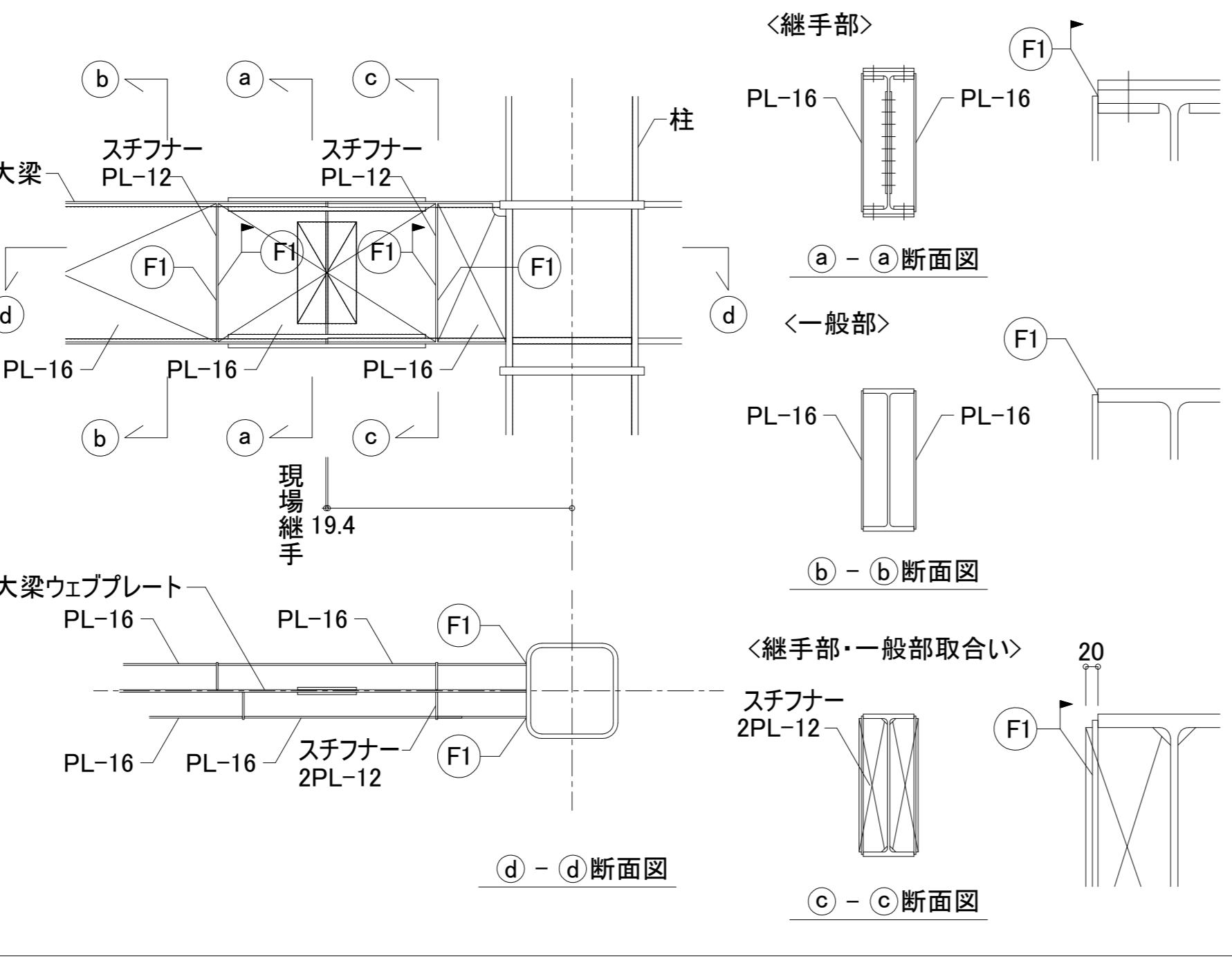
吊りフック要領図



ハンチ継手要領図



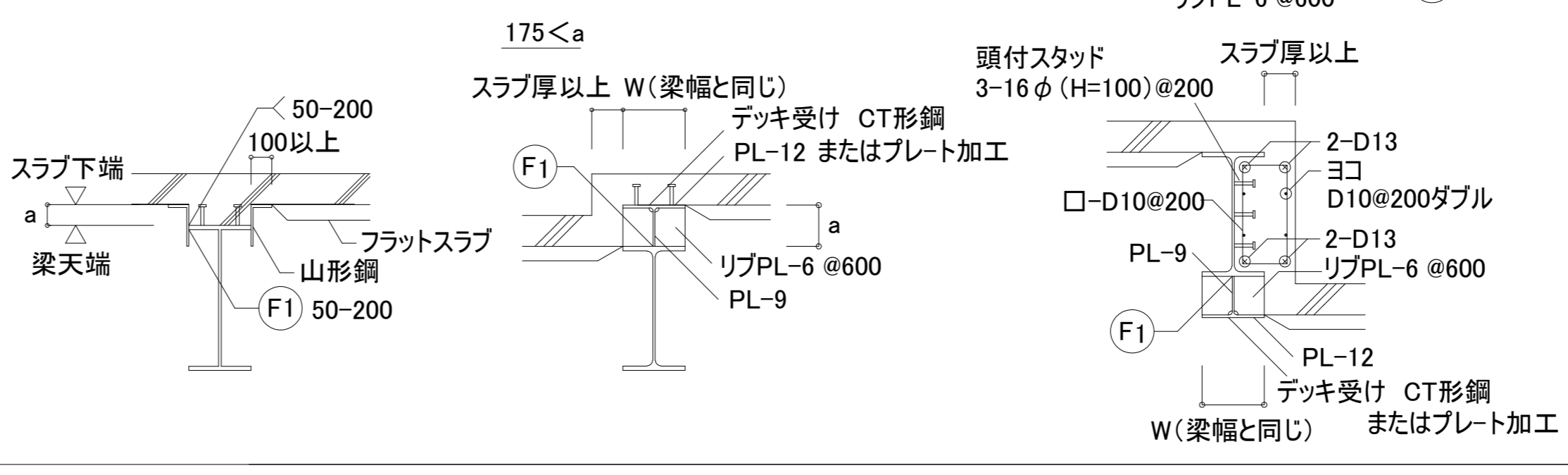
補強プレート要領図



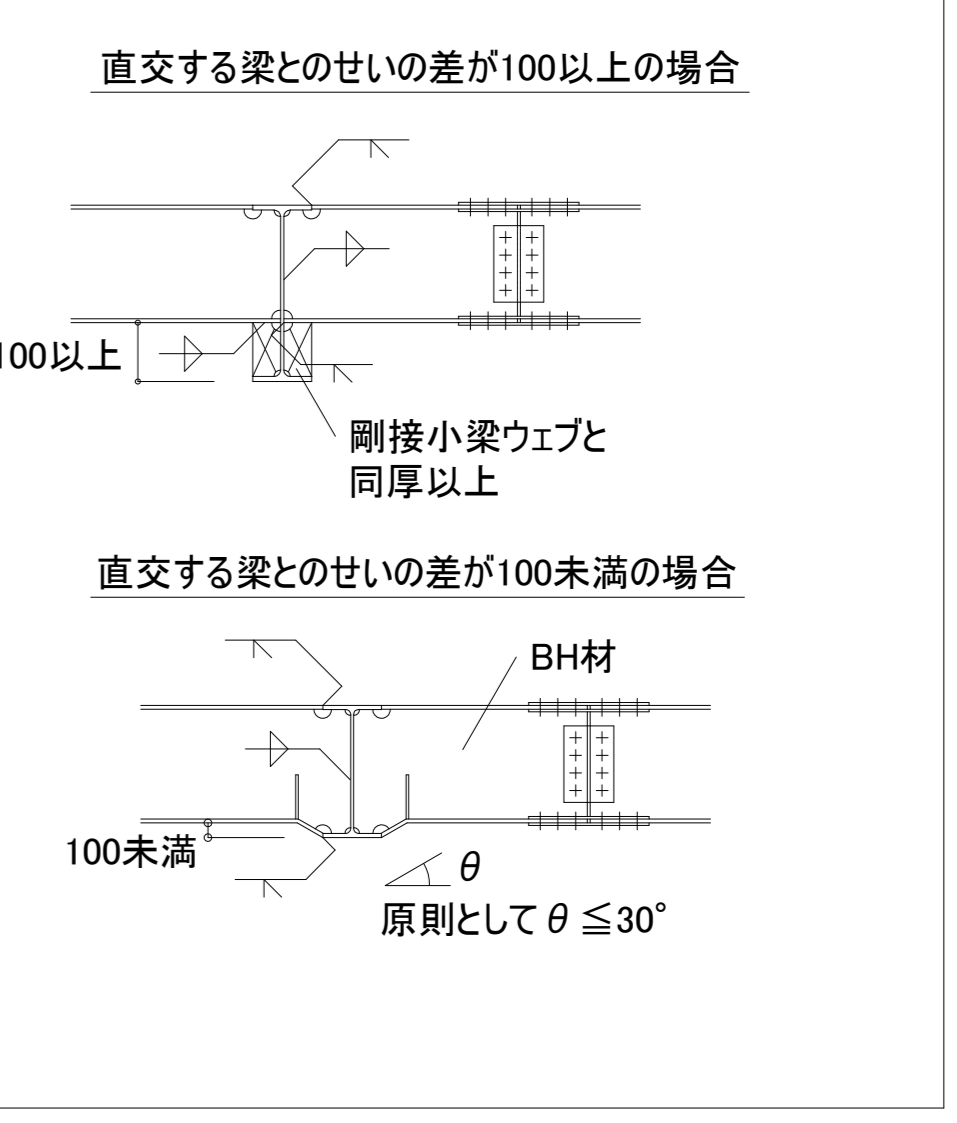
梁段差かさ上げ材要領

スラブ下端と梁天端との段差 a	デッキプレート受材
a ≤ 75	L-100x100x7
75 < a ≤ 125	L-150x150x12
125 < a ≤ 175	L-200x200x15
175 < a	CT形鋼またはプレート加工(図示)

a > 350 のときは係員の指示による



剛接小梁要領

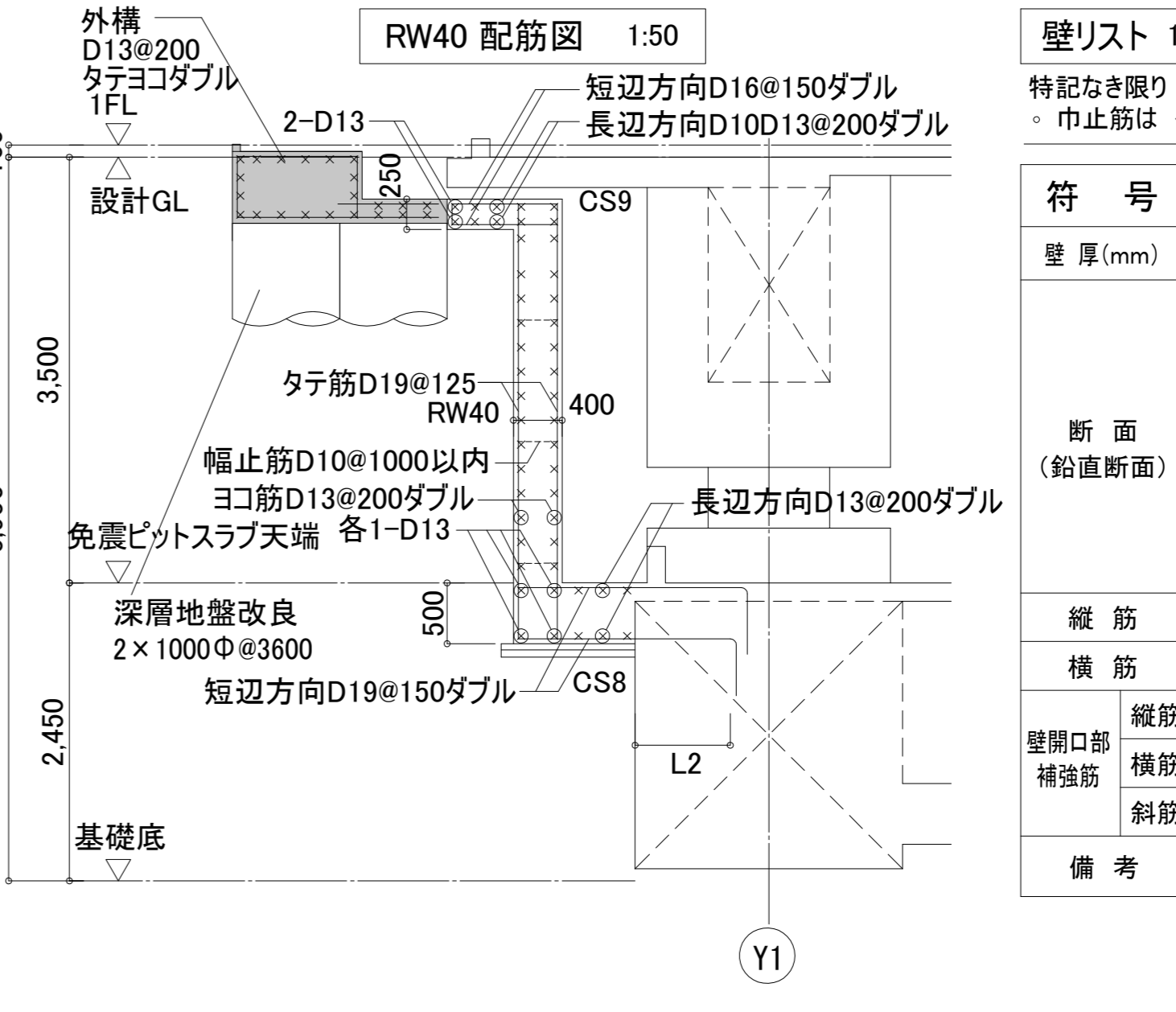
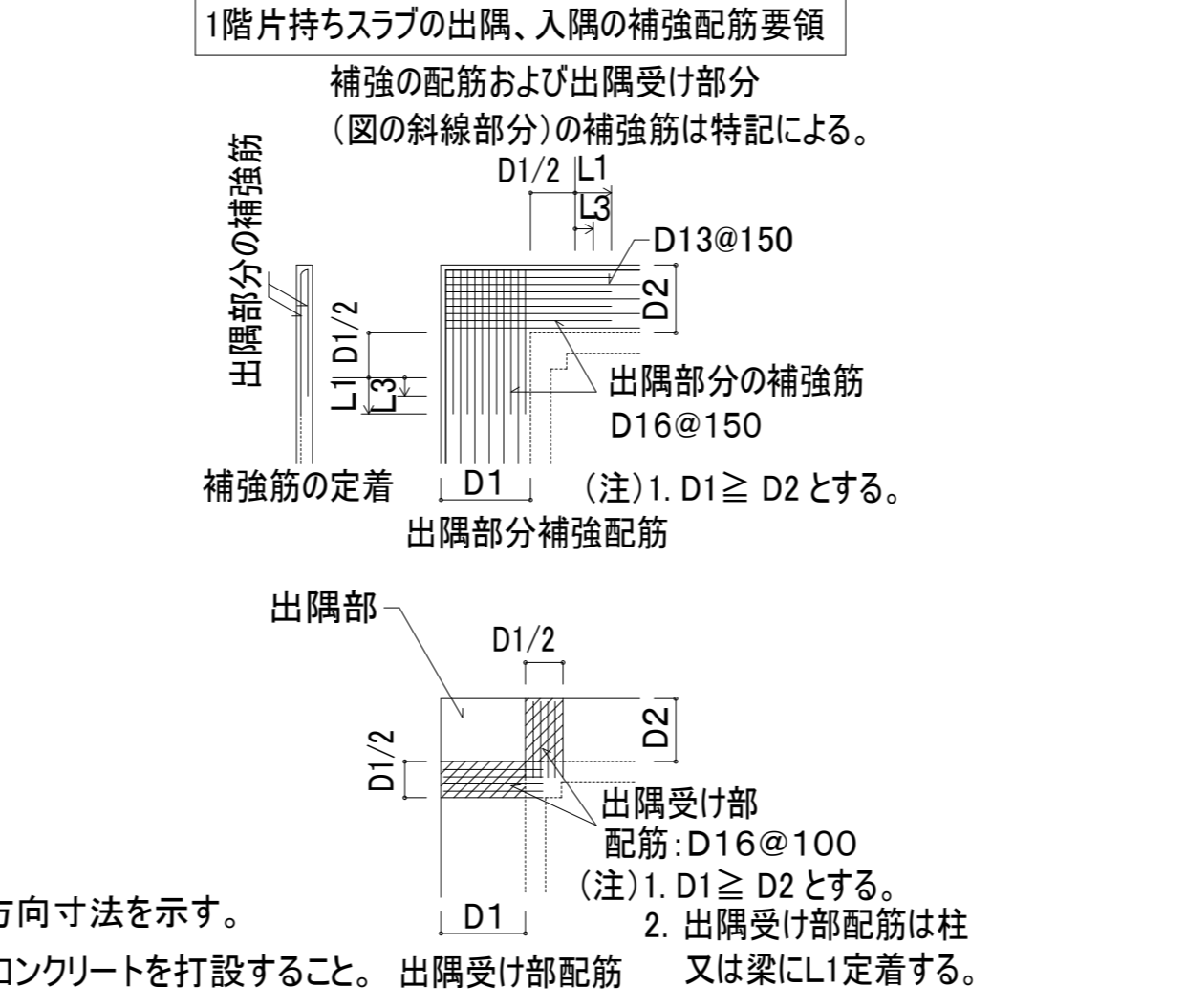
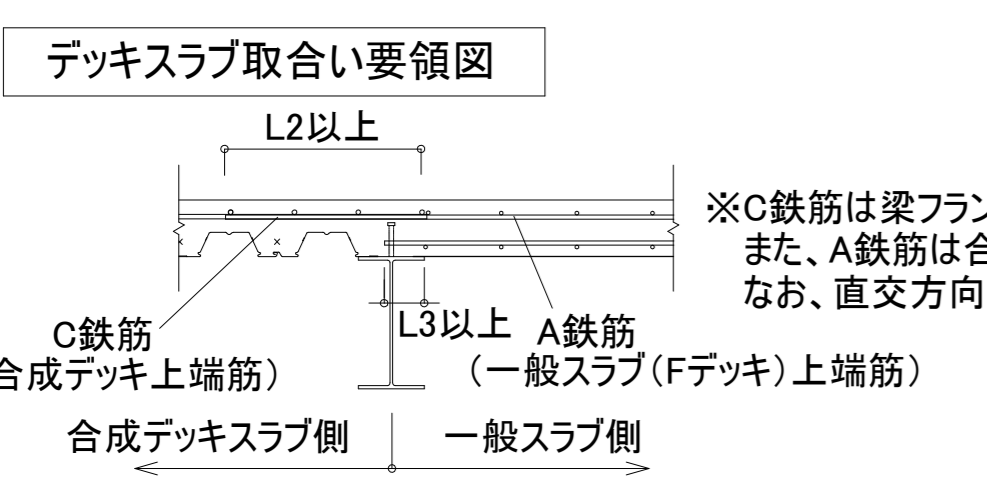
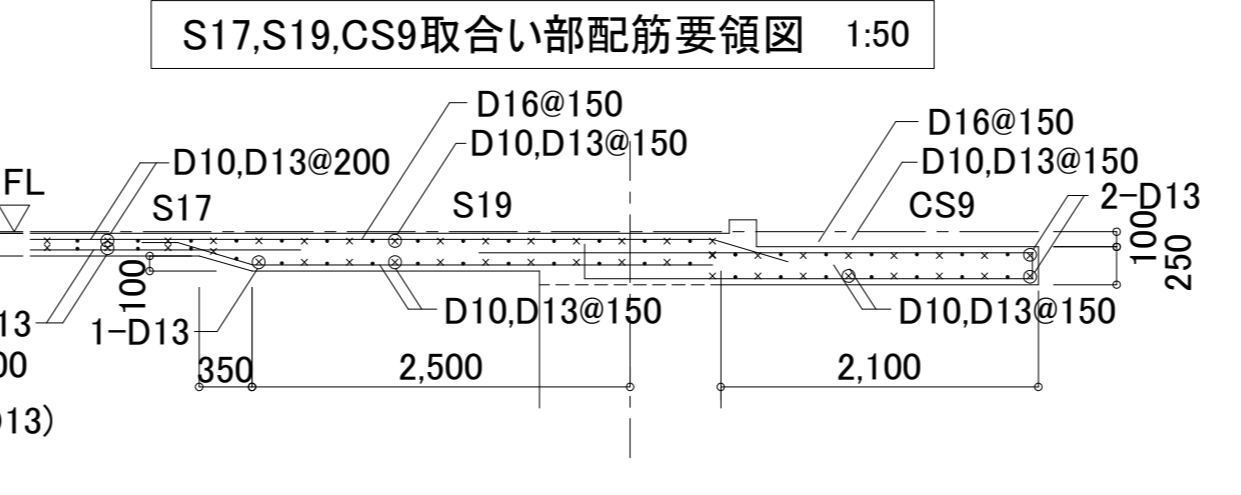
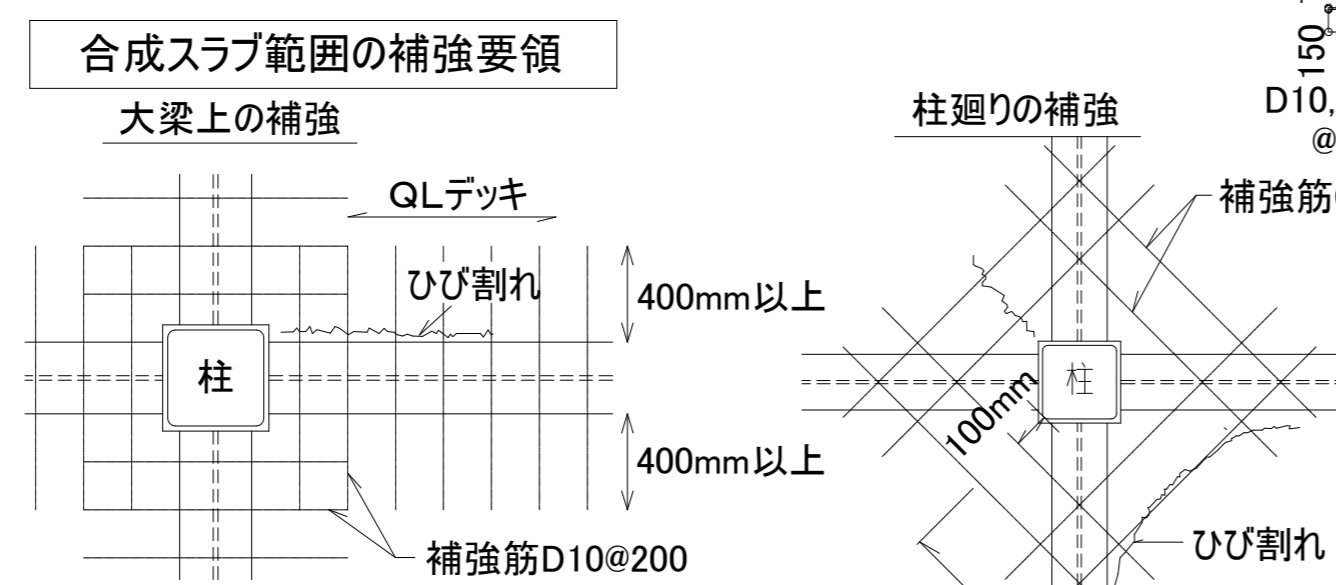
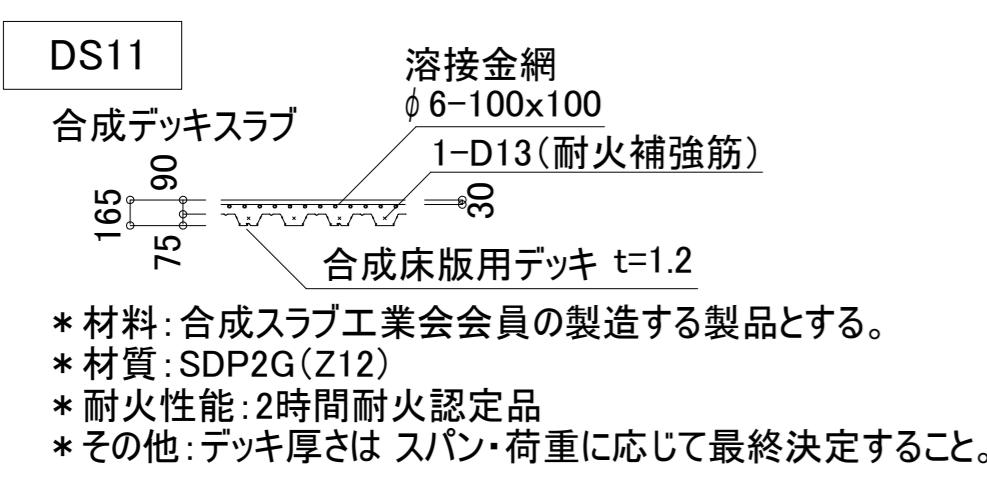
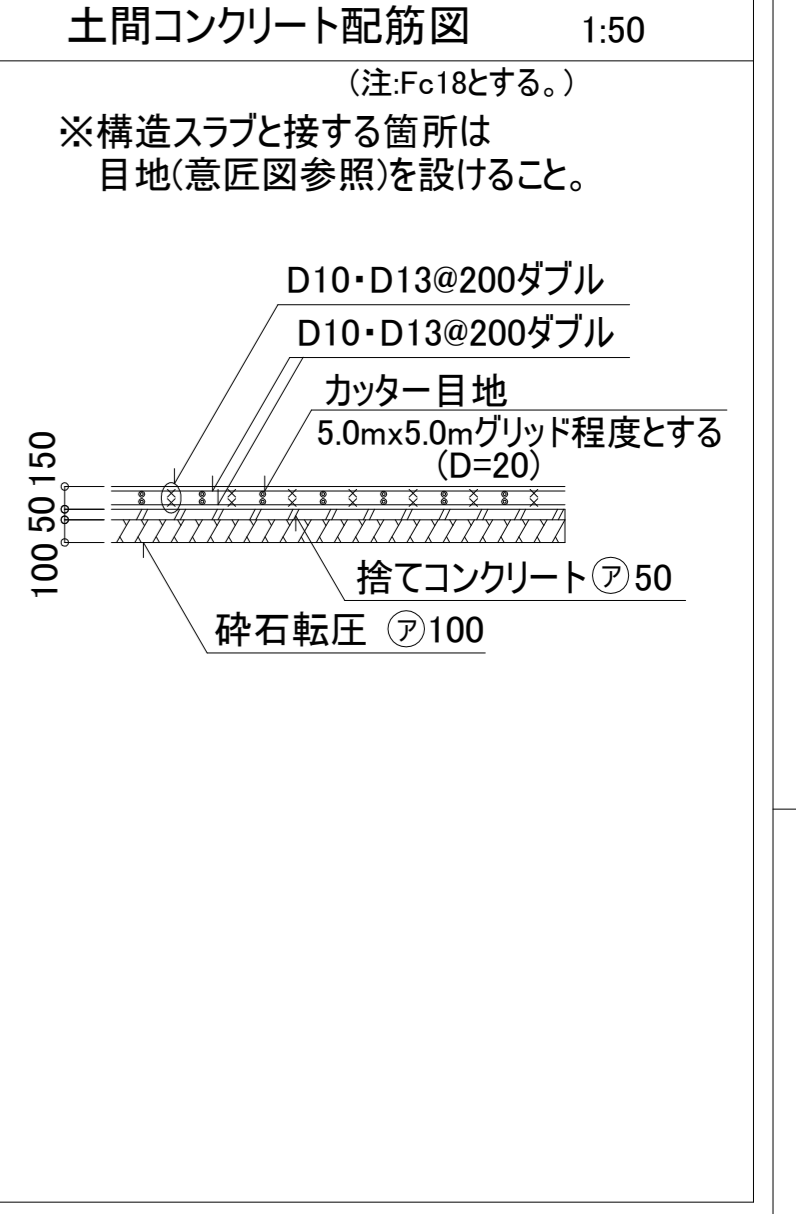
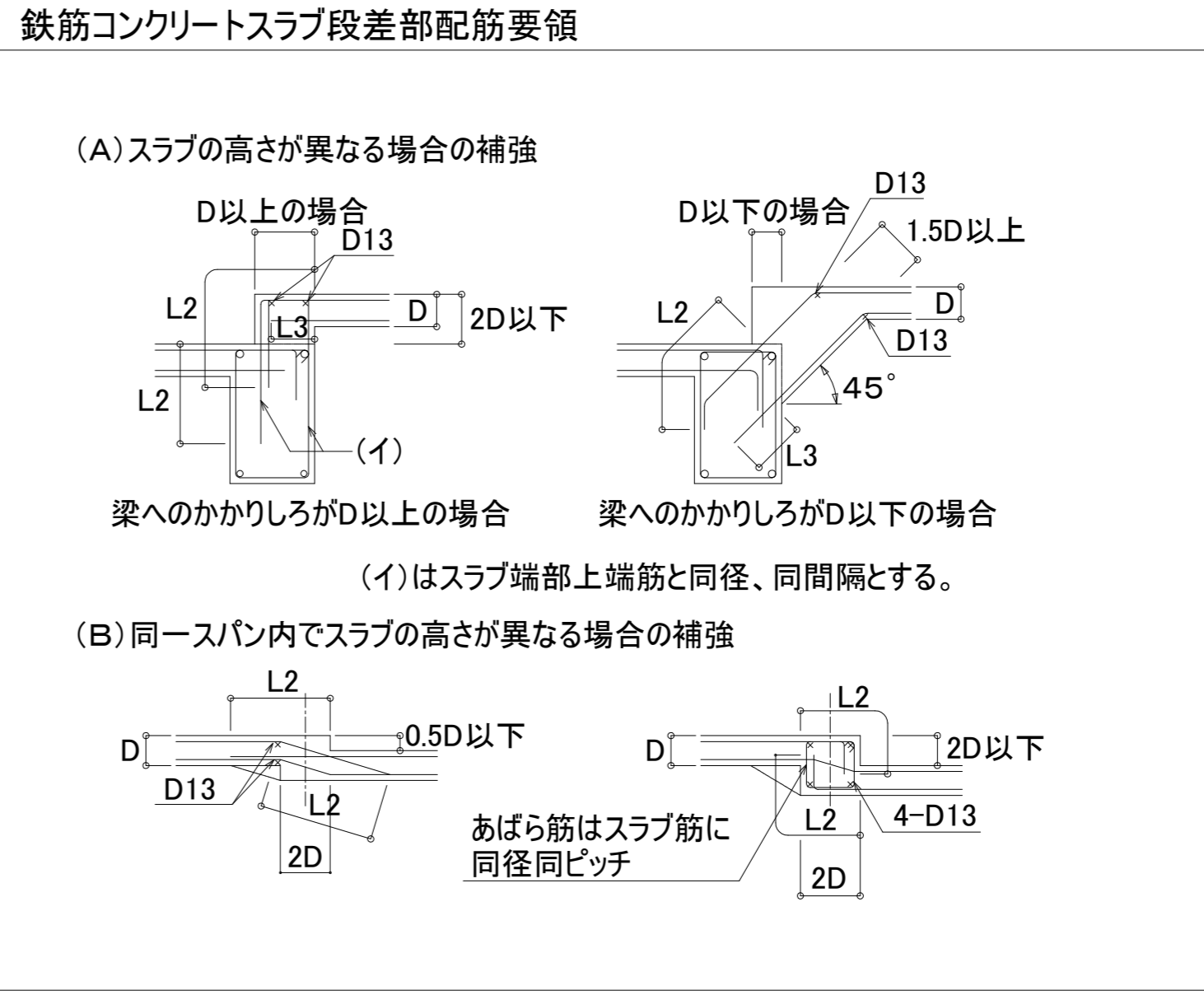
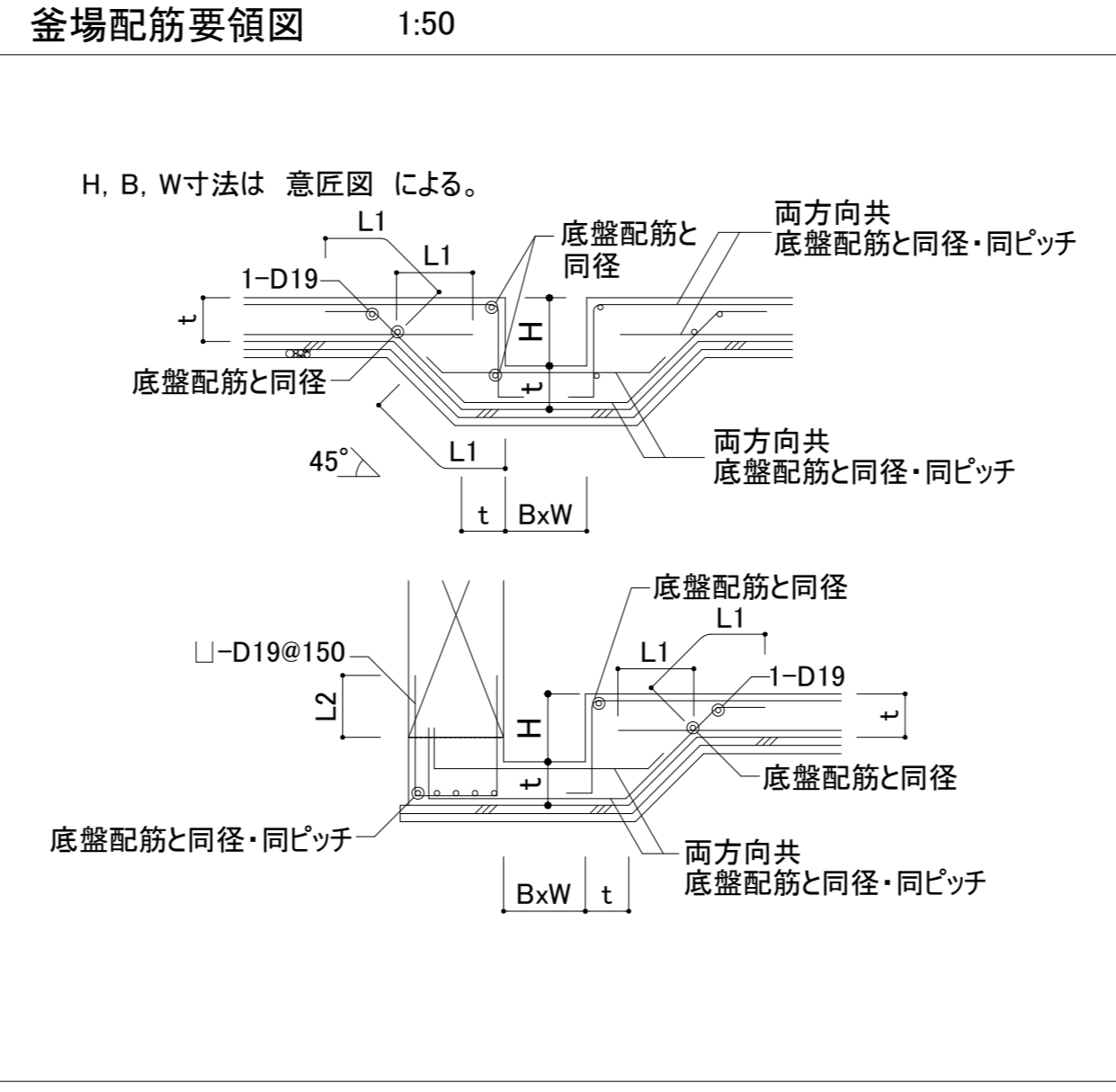
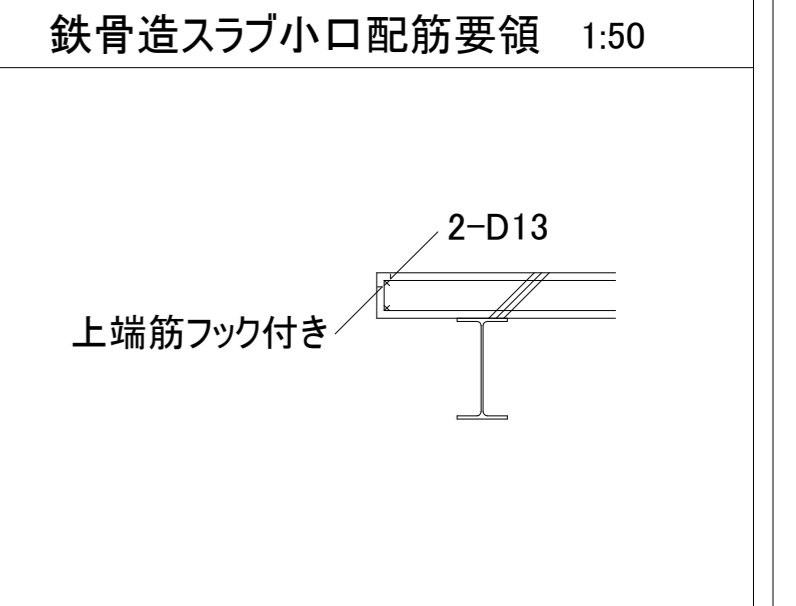
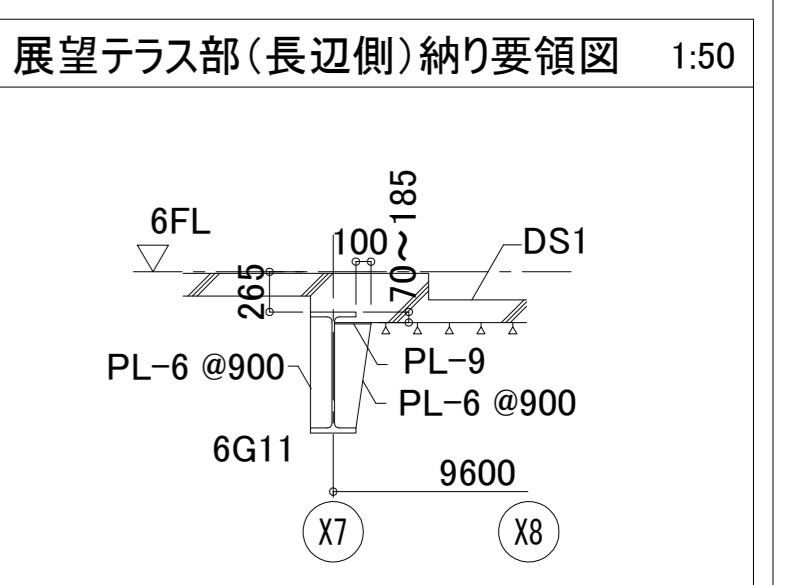
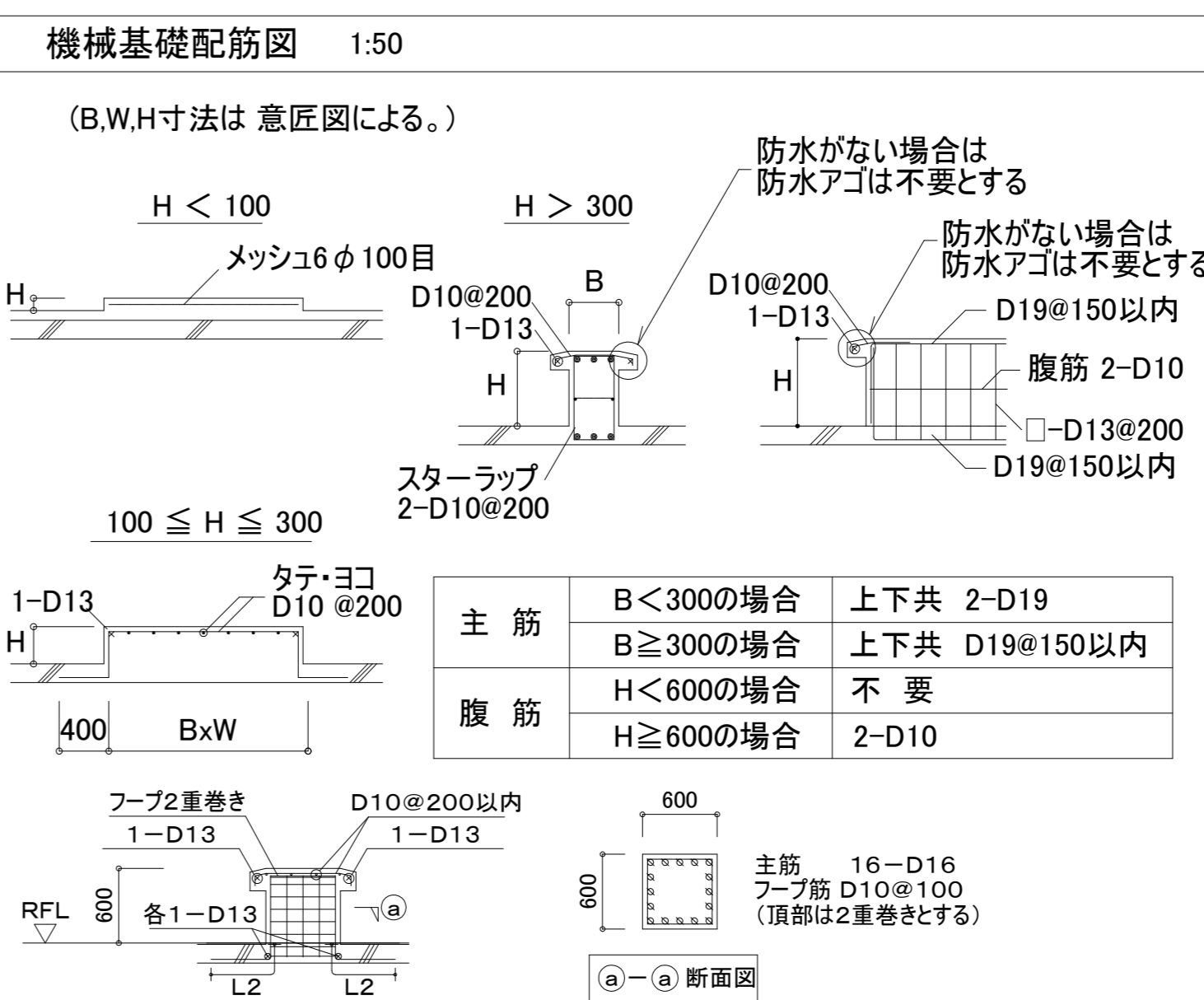
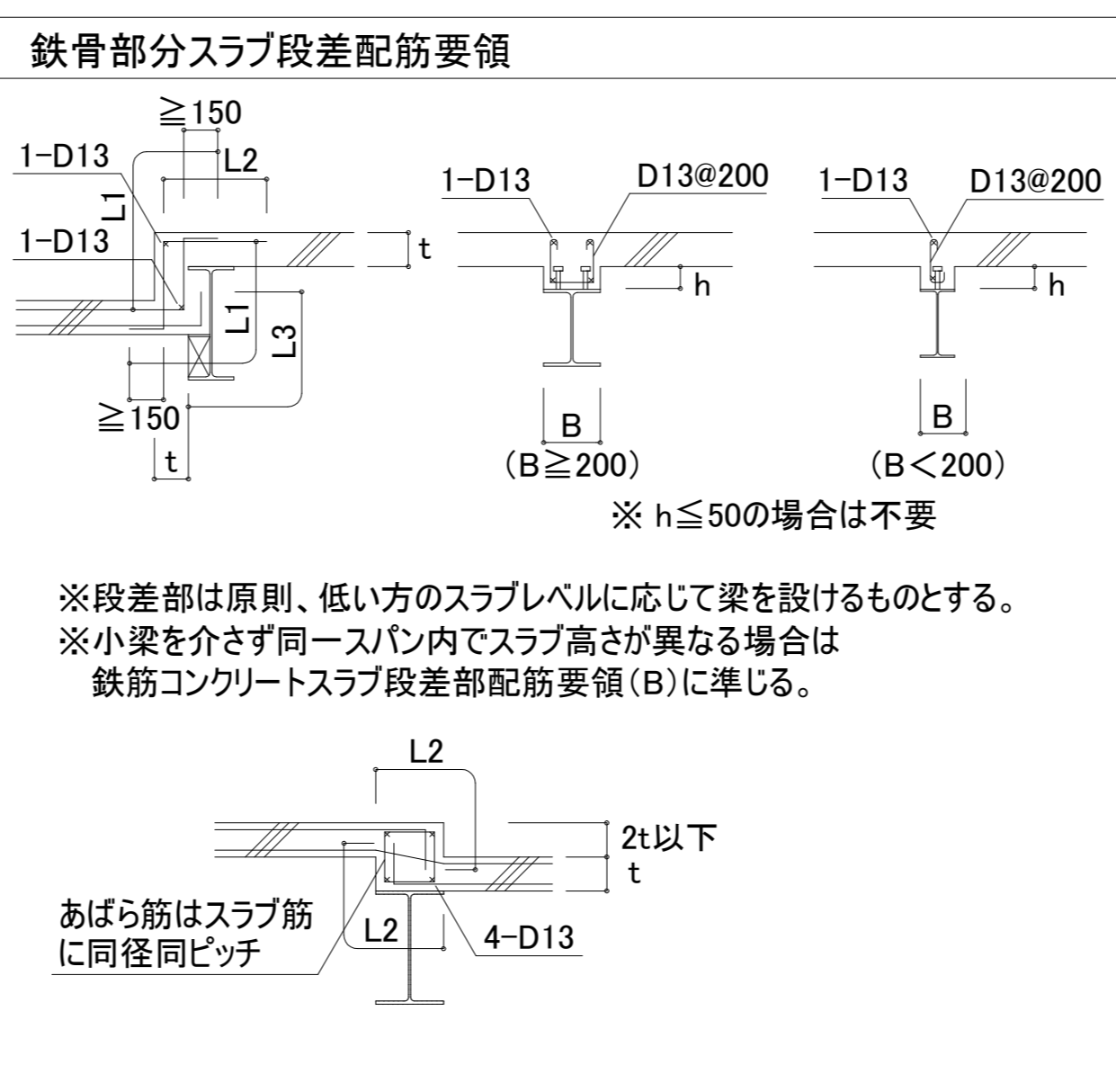


明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	40	鉄骨二次部材リスト
		安井建築設計事務所	



**床版リスト** 共通事項(特記なき限り)  
 ・直押え部分は スラブ天端増打 ⑦10 とする。  
 ・土に接するスラブ下地業は 捨コンクリート ⑦50、砕石 ⑦60 とする。  
 ・フロアヒンジ部については 部分については床を下げることで対応すること。

符号	版厚	層	短辺方向(主筋方向)	長辺方向(配力筋方向)	備考
FS1	250	上	D13 @150	D13 @150	
		下	D13 @150	D13 @150	
FS2	150	上	D10D13 @150	D10D13 @150	
		下	D10D13 @150	D10D13 @150	
FS3	300	上	D16 @150	D16 @200	鉄筋は溶融亜鉛メッキ鉄筋(HDZT77)とする。
		下	D16 @150	D16 @200	
FS4	350	上	D16 @150	D16 @200	鉄筋は溶融亜鉛メッキ鉄筋(HDZT77)とする。
		下	D16 @150	D16 @200	
FS5	400	上	D16 @150	D16 @150	鉄筋は溶融亜鉛メッキ鉄筋(HDZT77)とする。
		下	D16 @150	D16 @150	
S16	150	上	D13 @125	D13 @150	
		下	D13 @125	D13 @150	
S17	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S18	150	上	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
S19	250	上	D16 @150	D10・D13 @150	
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
S20	250	上	D13 @150	D10・D13 @150	
		下	D13 @150	D10・D13 @150	
CS8	500	上	D19 @150	D13 @200	
		下	D19 @150	D13 @200	
CS9	250	上	D16 @150	D10・D13 @150	
		下	D16 @150	D10・D13 @150	
CS10	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	CS10短辺方向鉄筋は左記配筋または隣接するスラブ配筋のうち鉄筋量が多いほうを採用する
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
DS1	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
DS2	150	上	D10・D13 @150	D10・D13 @150	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
DS3	150	上	D13 @150	D10・D13 @150	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D13 @150	D10・D13 @150	
DS4	150	上	D13 @200	D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D13 @200	D13 @200	
DS5	165	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	床型枠用鋼製デッキプレート使用
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	



**壁リスト 1:50**

特記なき限り  
 ・中止筋は タテヨコ共 D10@1000以下 とする。

符号	W15	W18	W20
壁厚(mm)	150	180	200
断面(鉛直断面)			
縦筋	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル
横筋	D13 @200 ダブル	D10D13 @200 ダブル	D10D13 @200 ダブル
壁開口部補強筋	縦筋 2-D13 横筋 2-D13 斜筋 6φ-100目シングル	縦筋 4-D13 横筋 4-D13 斜筋 6φ-100目シングル	縦筋 4-D13 横筋 4-D13 斜筋 6φ-100目シングル
備考			

**明石市政策局 企画・調整室**

明石市役所新庁舎建設工事

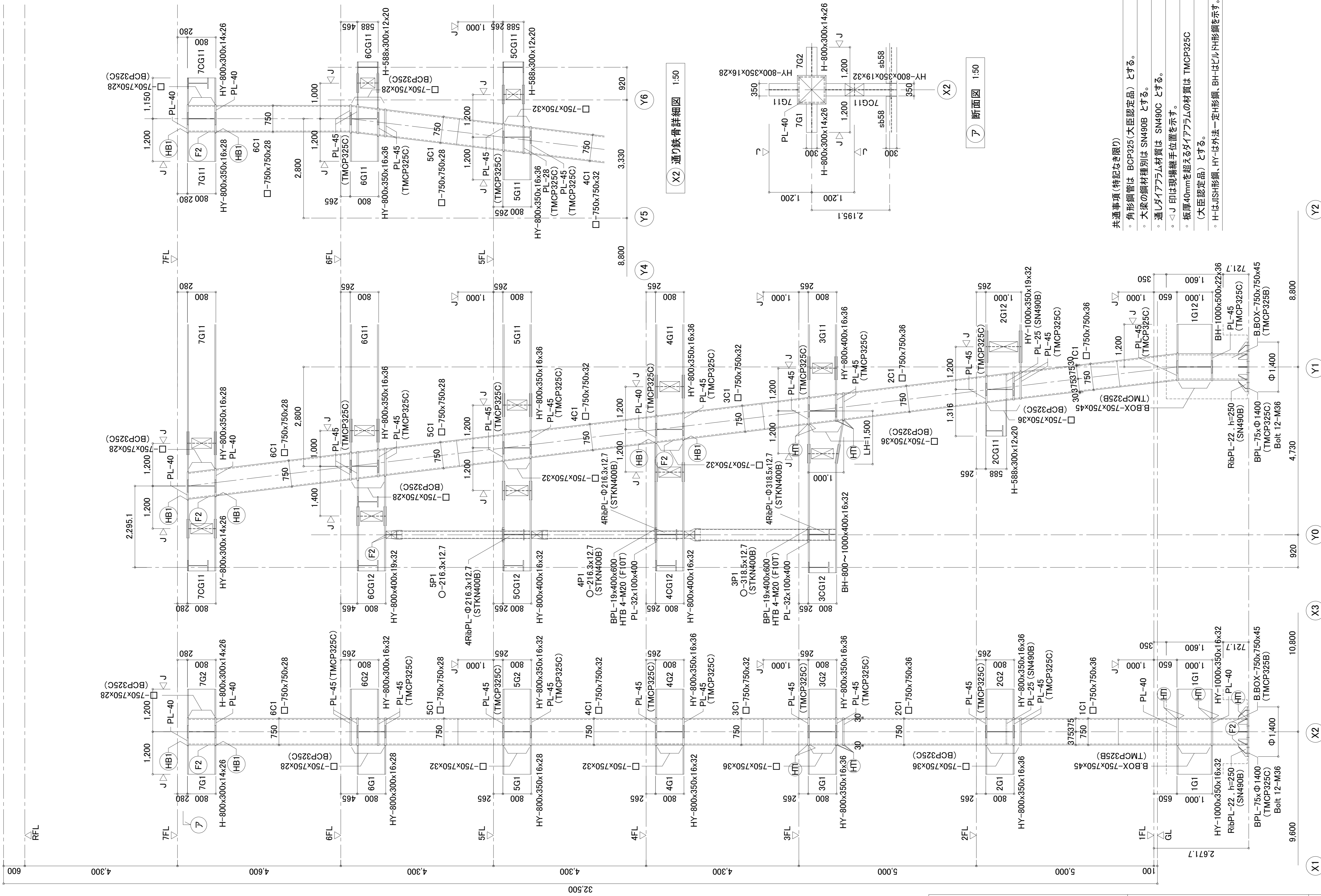
代表設計者: 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨

構造設計者: 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智

最終版: 2024.3.25

見積版: 2024.3.25

最終契約版



〔X2〕通り鉄骨詳細図 1:50

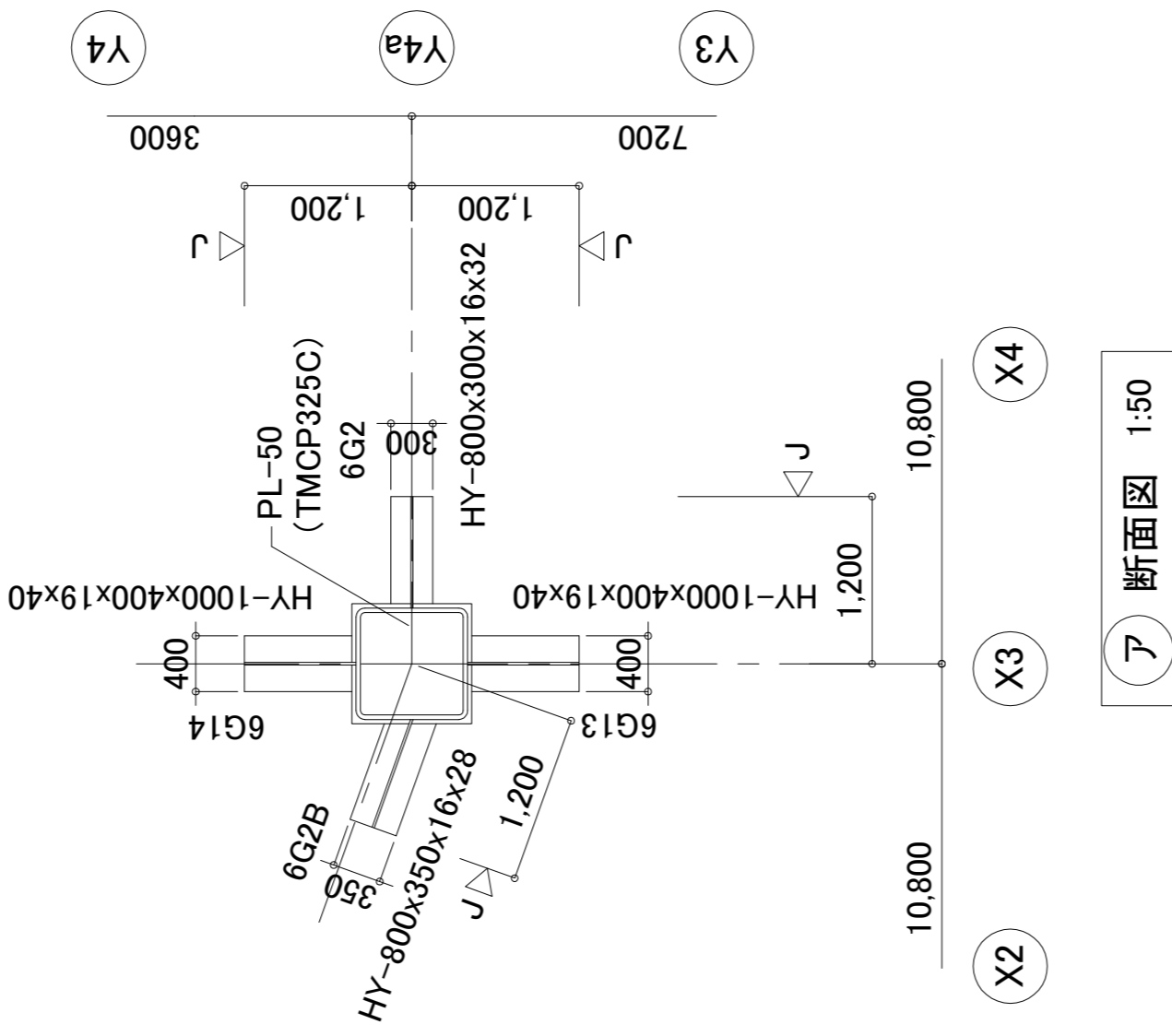
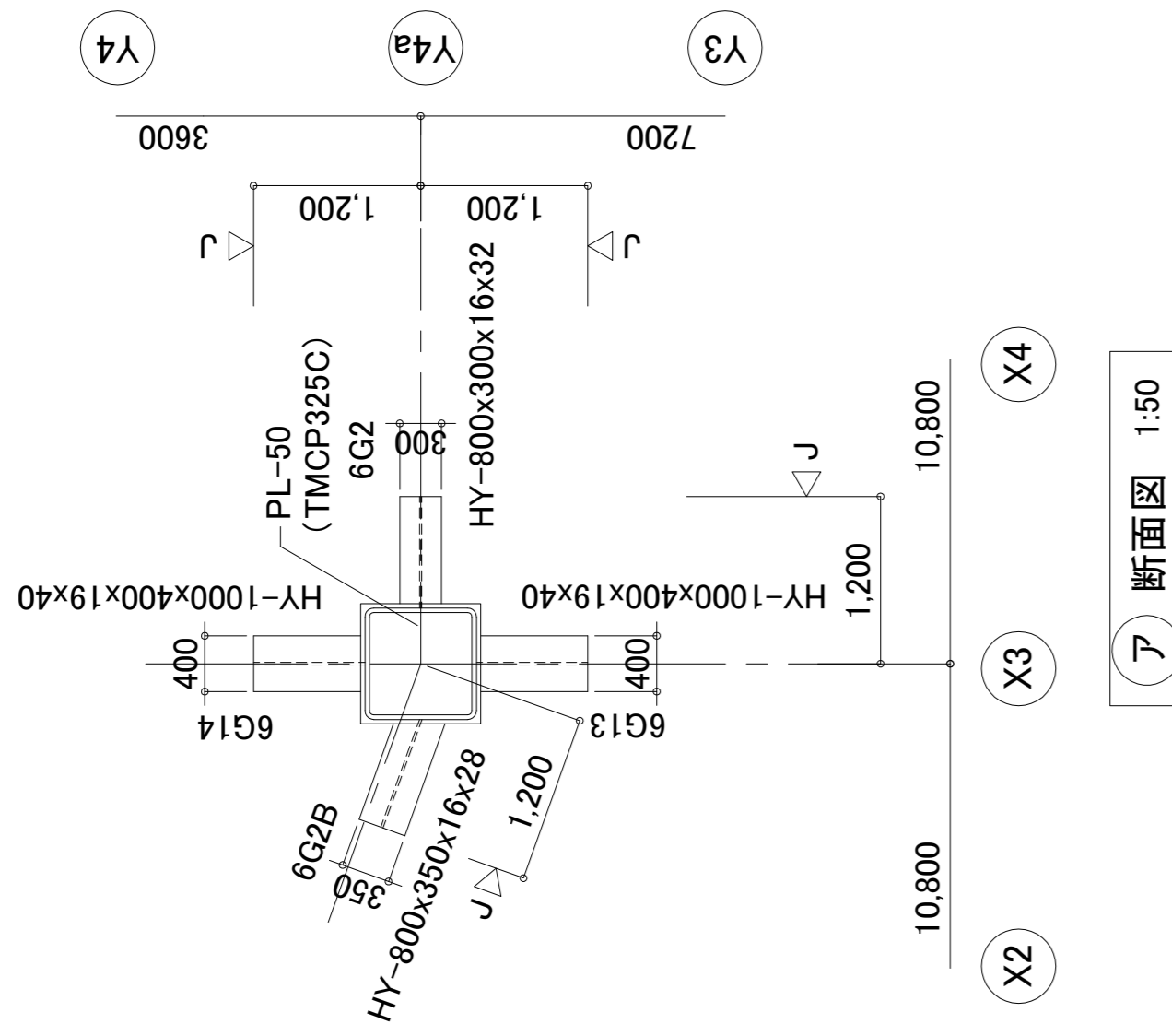
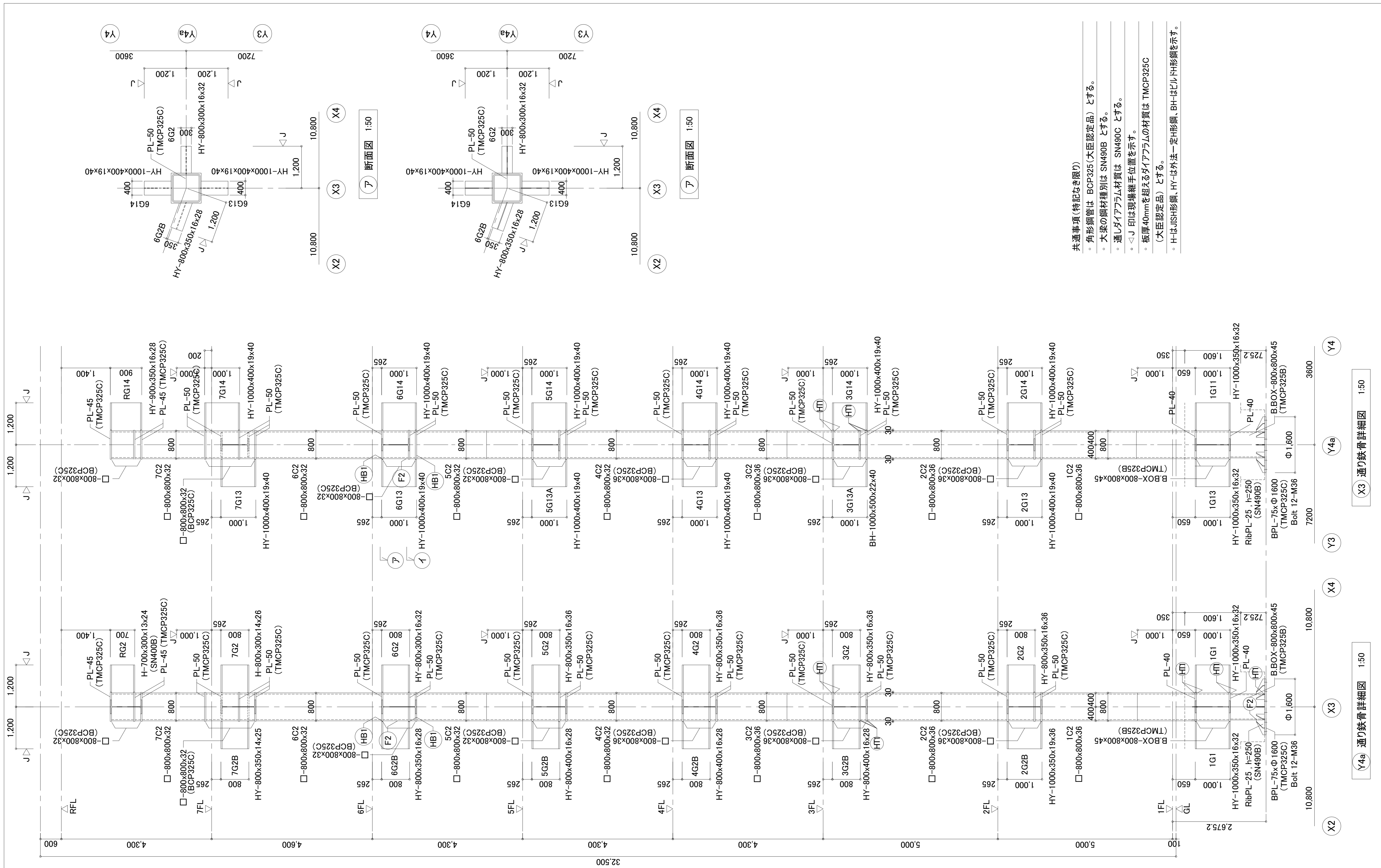
〔7〕断面図 1:50

〔X2〕通り鉄骨詳細図 1:50

〔Y0～Y1〕通り鉄骨詳細図 1:50

- 共通事項 (特記なき限り)
- 角形鋼管は BCP325 (大臣認定品) とする。
  - 大梁の鋼材種別は SN490B とする。
  - 通しダイアラム材質は SN490C とする。
  - ◁J印は現場継手位置を示す。
  - 板厚40mmを超えるダイアラムの材質は TMCP325C (大臣認定品) とする。
  - HはJISH形鋼、HYは外法一定H形鋼、BHはビルH形鋼を示す。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b> <代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第2700690号 <b>南浦 琢磨</b> <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b> B 建築工事 42 鉄骨架構詳細図 (1)		最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版
		A1 1:50 A3 1:100		
		安井建築設計事務所		

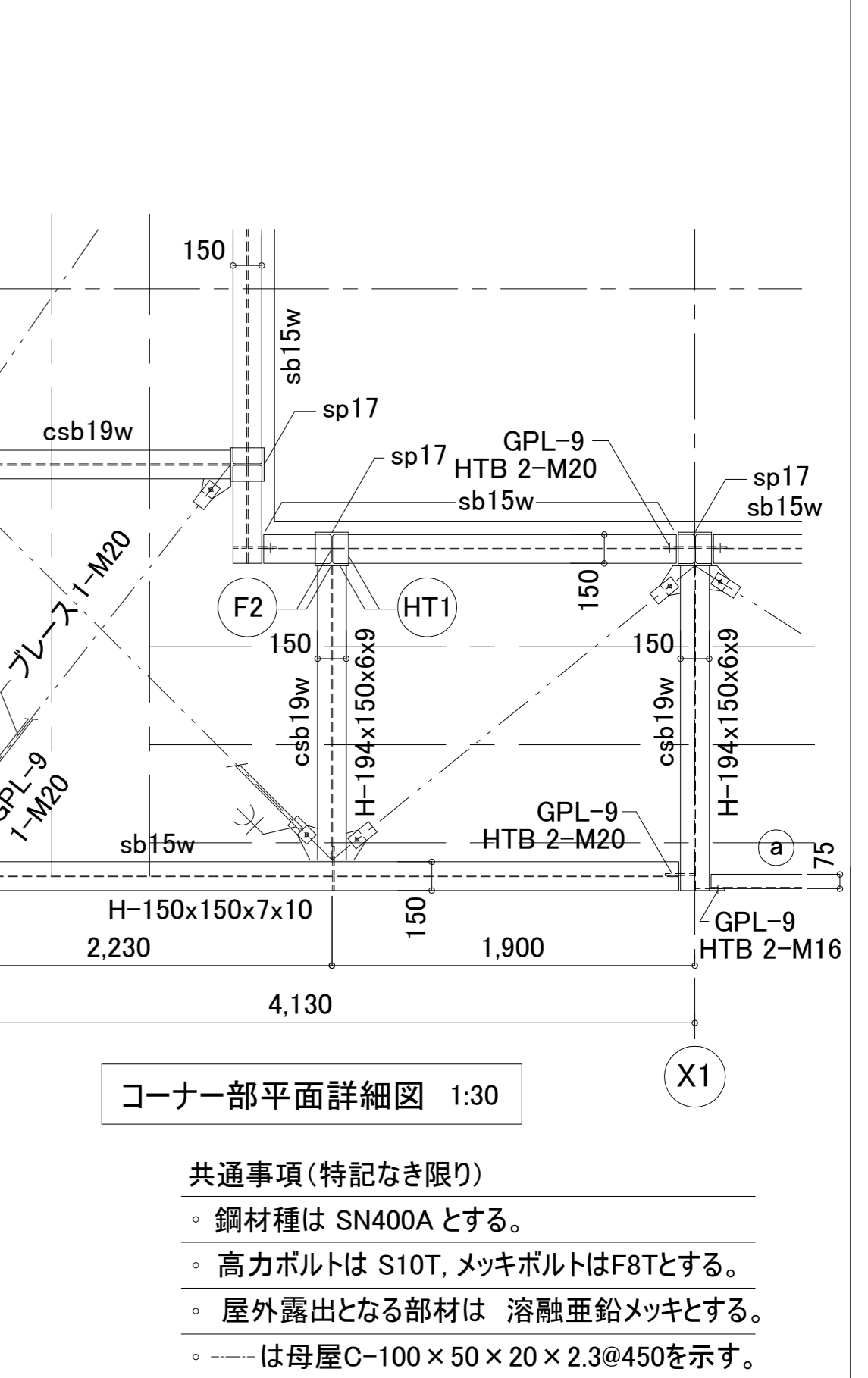
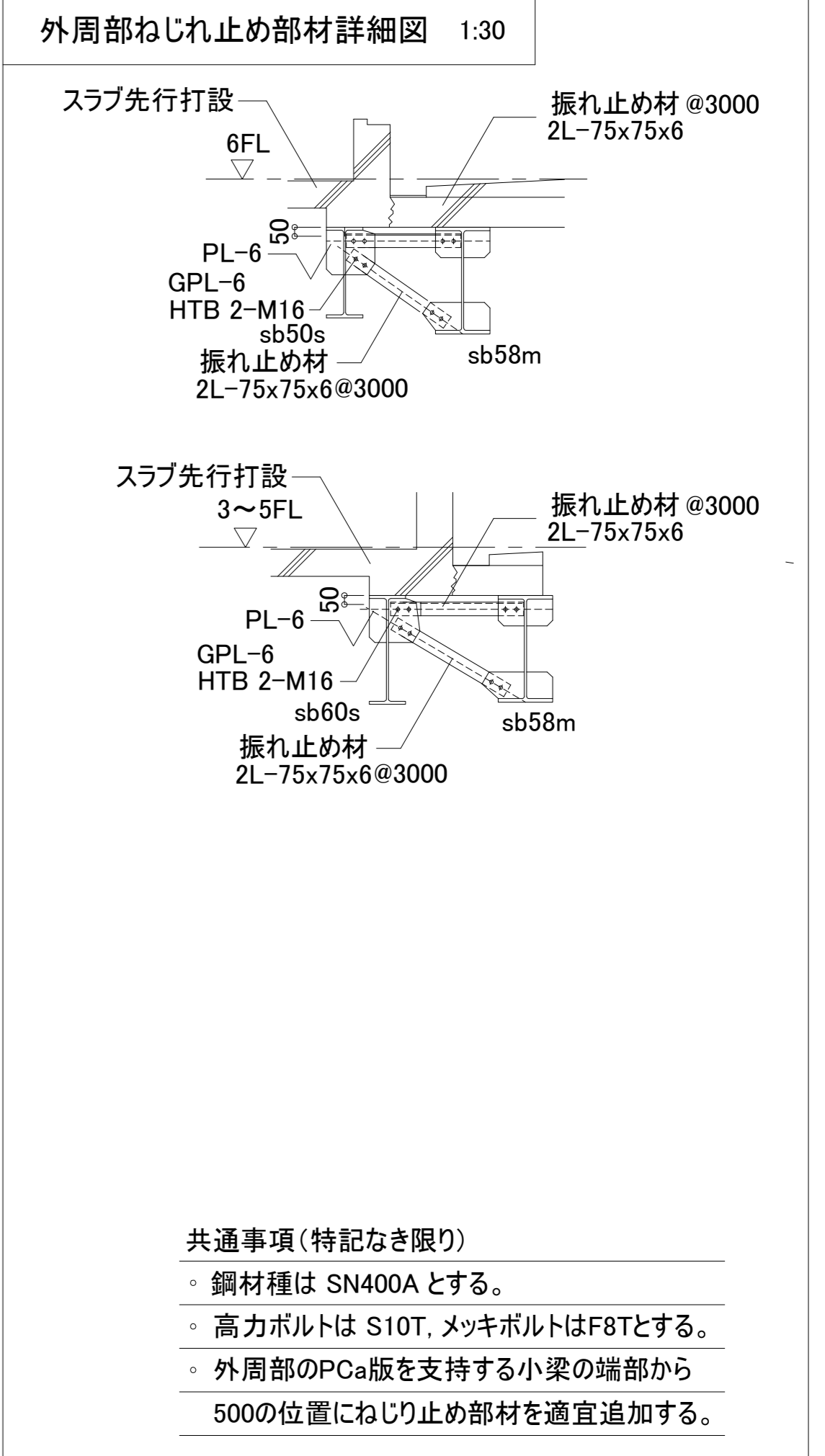
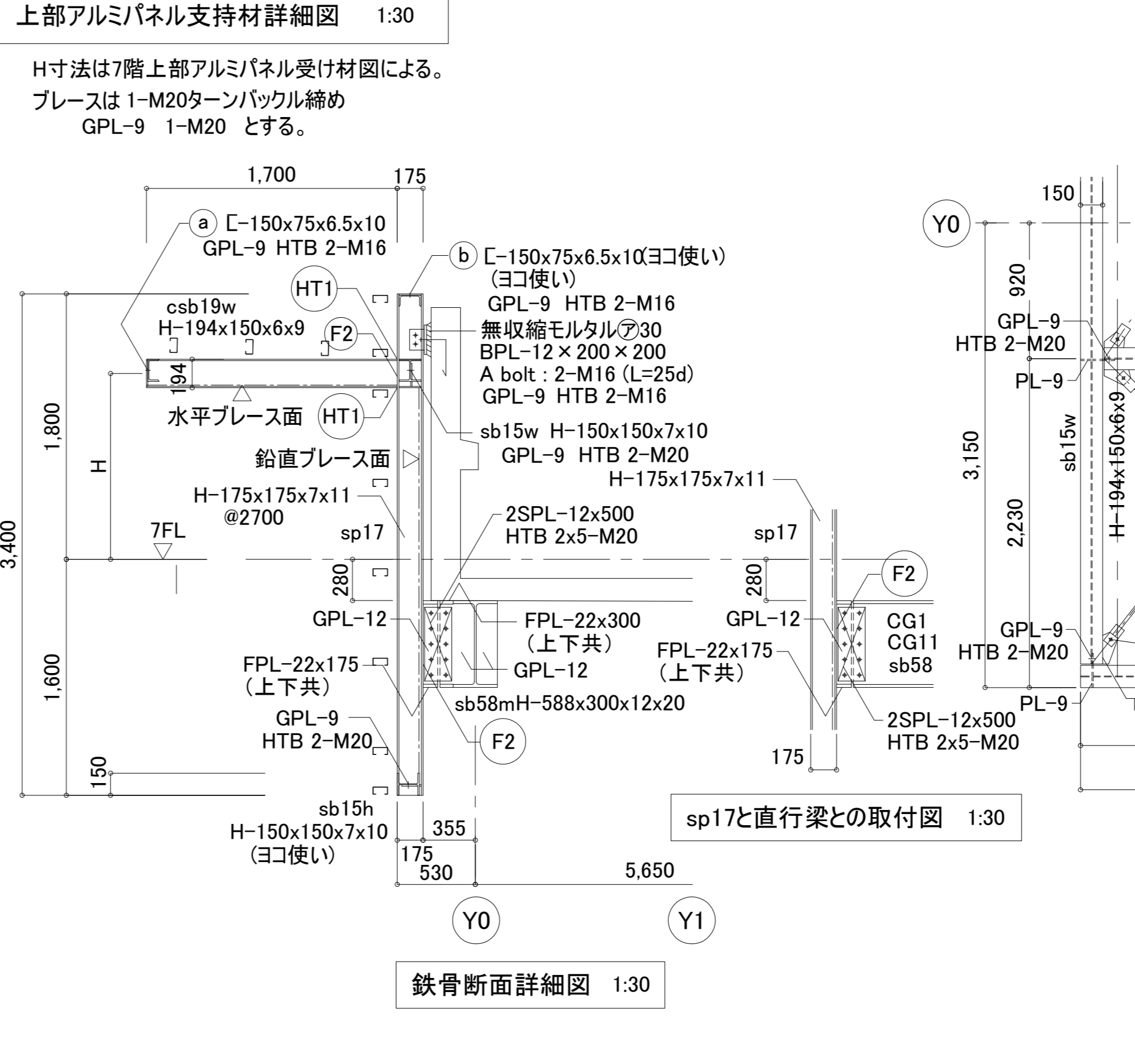
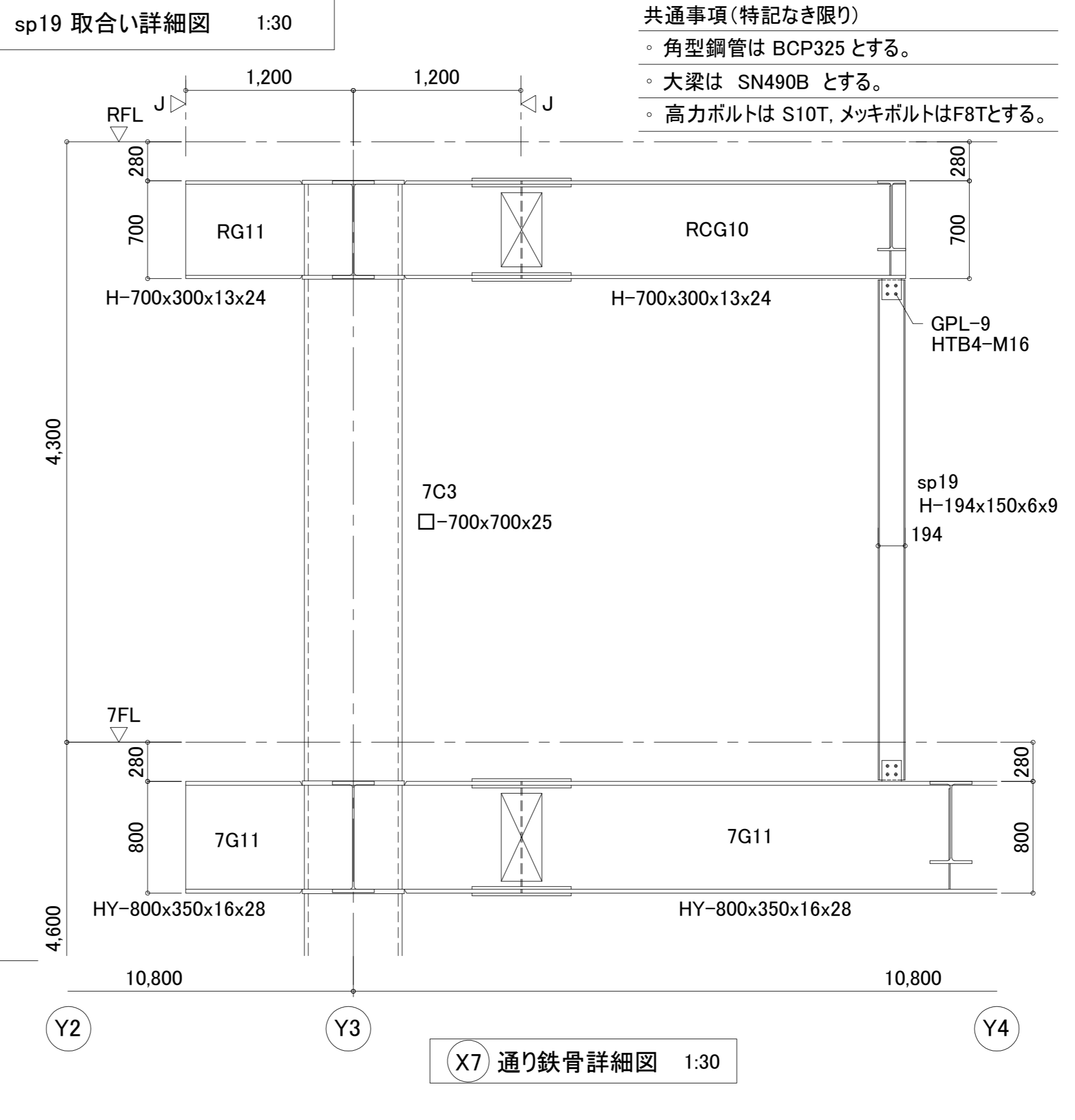
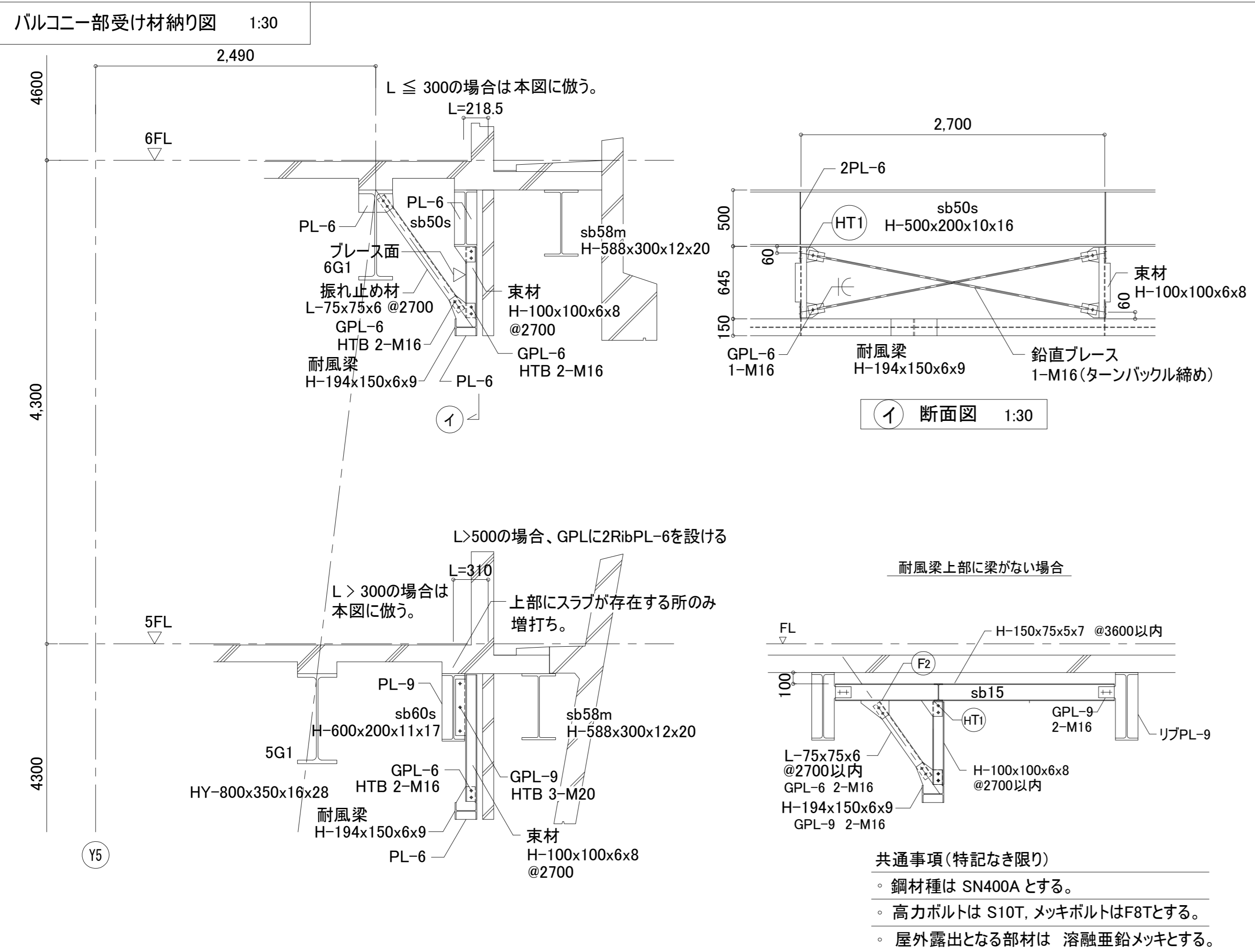
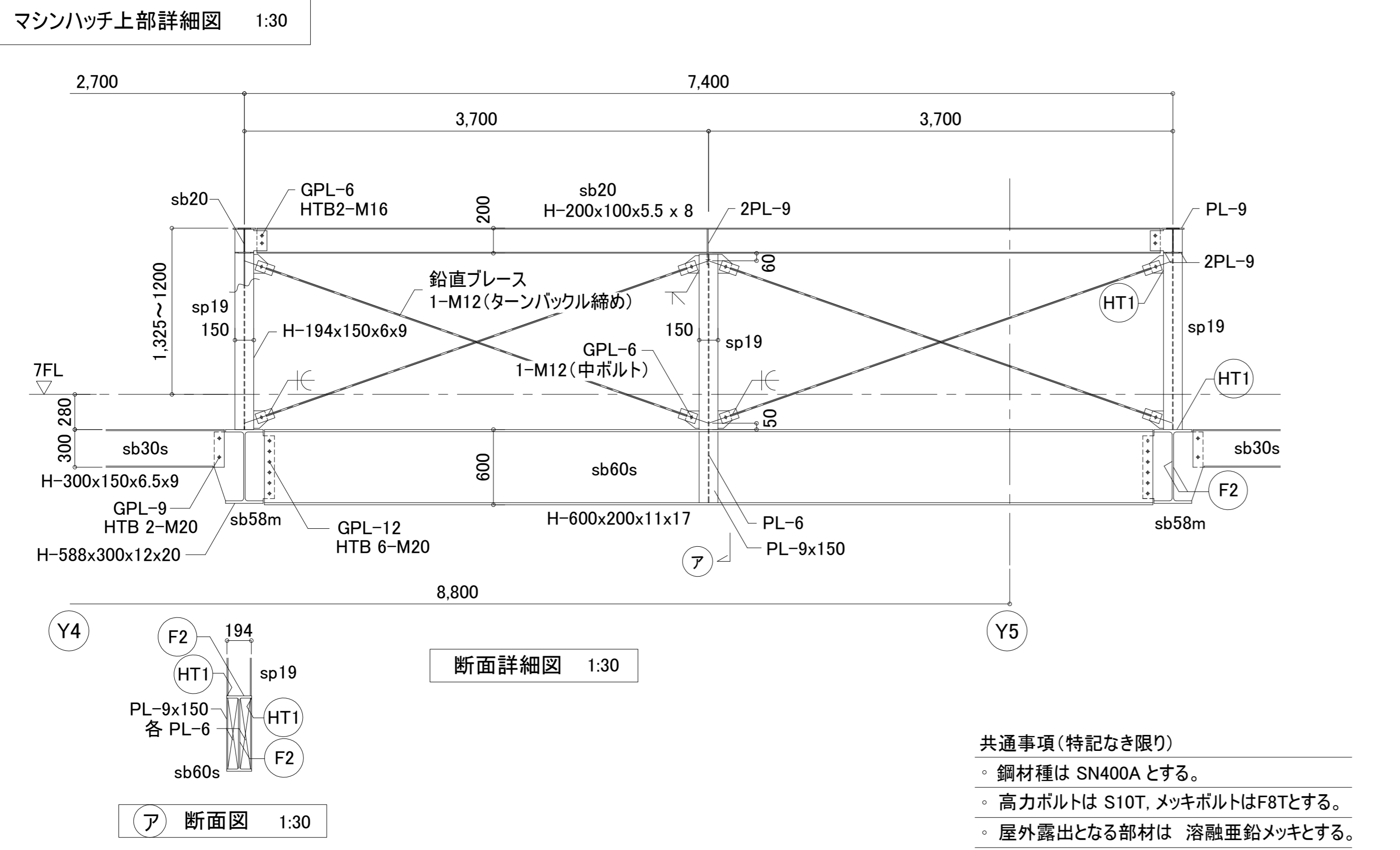


- 共通事項 (特記なき限り)
- 角形鋼管は BCP325 (大臣認定品) とする。
  - 大梁の鋼材種別は SN490B とする。
  - 通しダイヤフラム材質は SN490C とする。
  - <J 印は現場継手位置を示す。
  - 板厚 40mm を超えるダイヤフラムの材質は TMCP325C (大臣認定品) とする。
  - H は JISH 形鋼、HY は外法一定 H 形鋼、BH はビル H 形鋼を示す。

Y3 通リ鉄骨詳細図 1:50

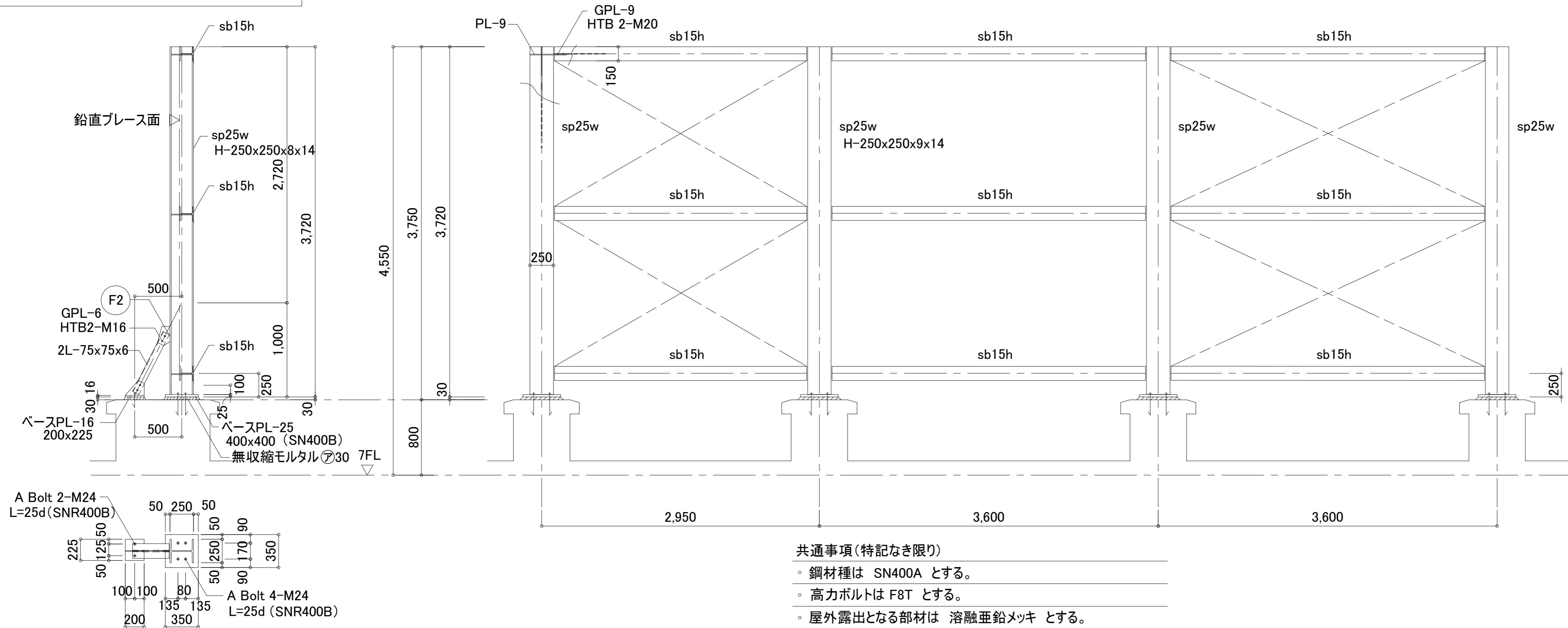
Y4a 通リ鉄骨詳細図 1:50

<b>明石市政務局 企画・調整室</b> <代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b> <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b> B 建築工事 43 鉄骨架構詳細図 (2) A1 1:50 A3 1:100		最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版
<b>安井建築設計事務所</b>				



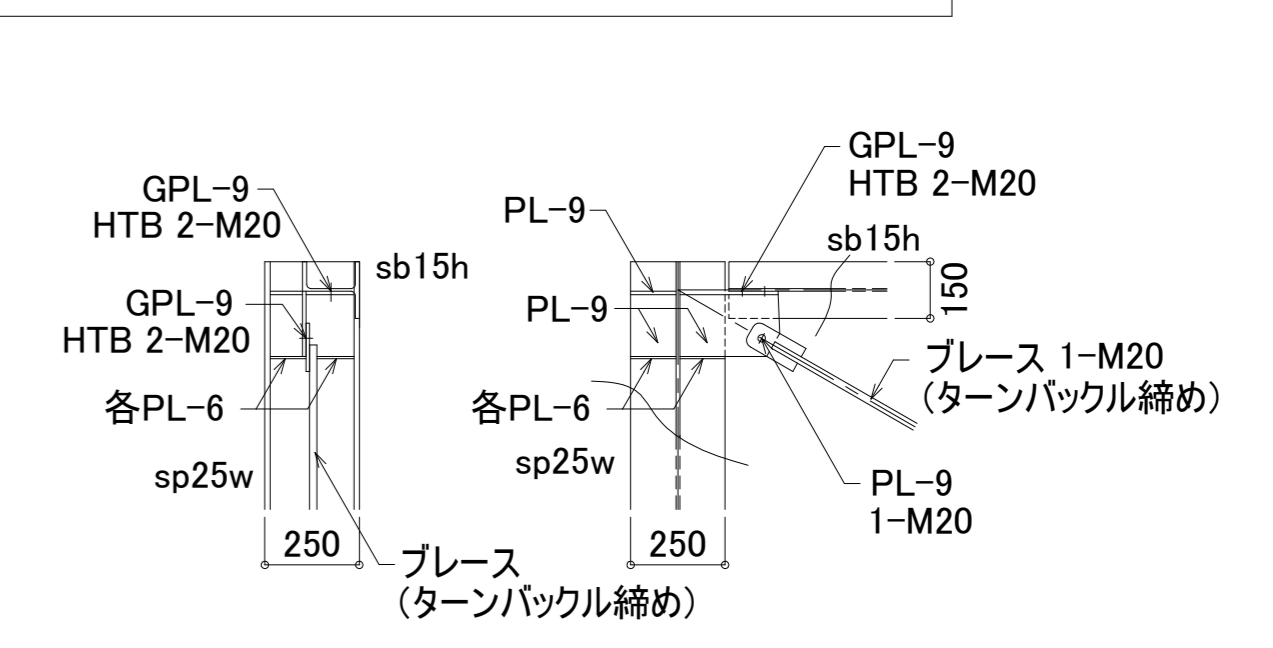
明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎 建設工事	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	44	各部鉄骨詳細図(1)
			最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版
		安井建築設計事務所	

屋上目隠し壁受け材納り図 H=4550 1:30

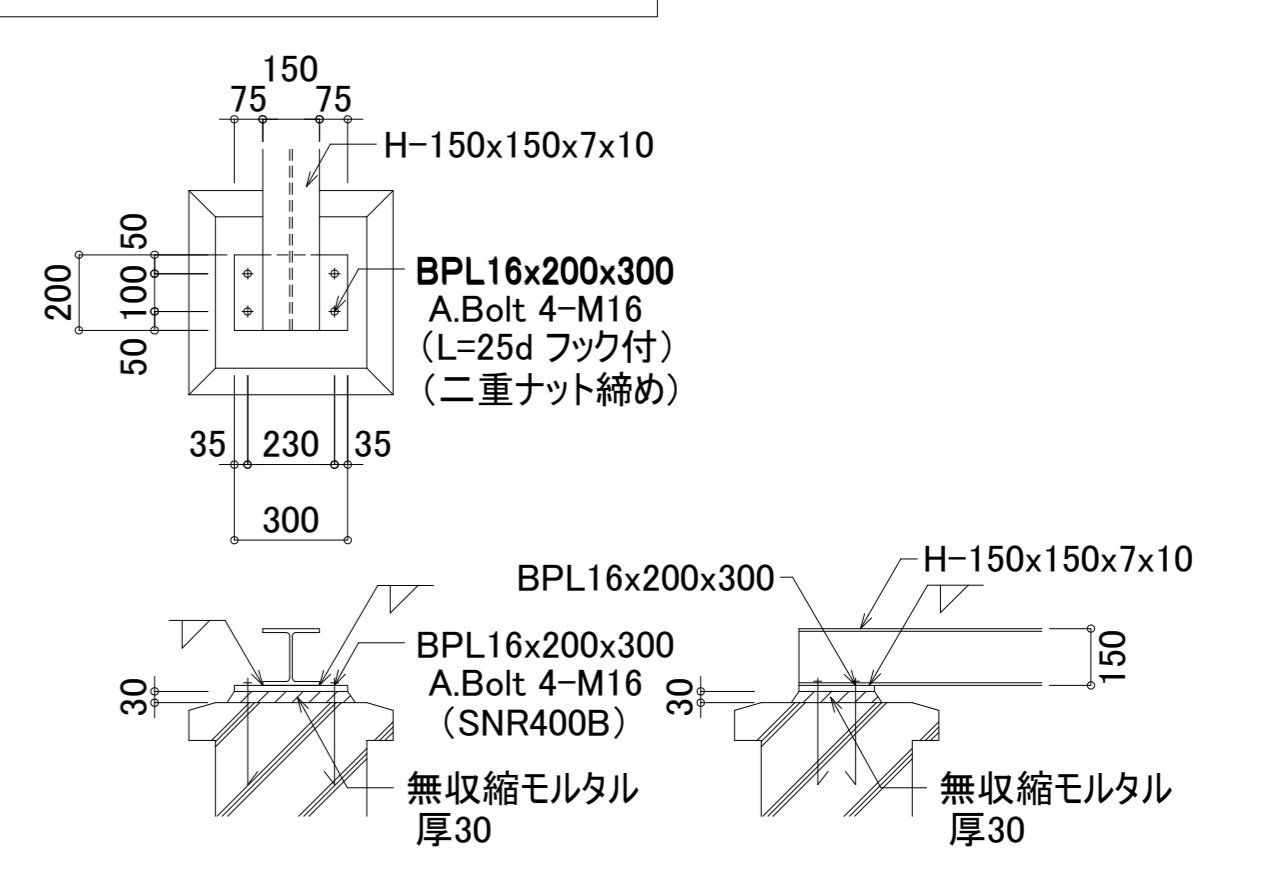


- 共通事項 (特記なき限り)
- 鋼材種は SN400A とする。
  - 高力ボルトは F8T とする。
  - 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキ とする。
  - 雨水のための部分には水抜き孔 (40Φ@900以内) を設けること。

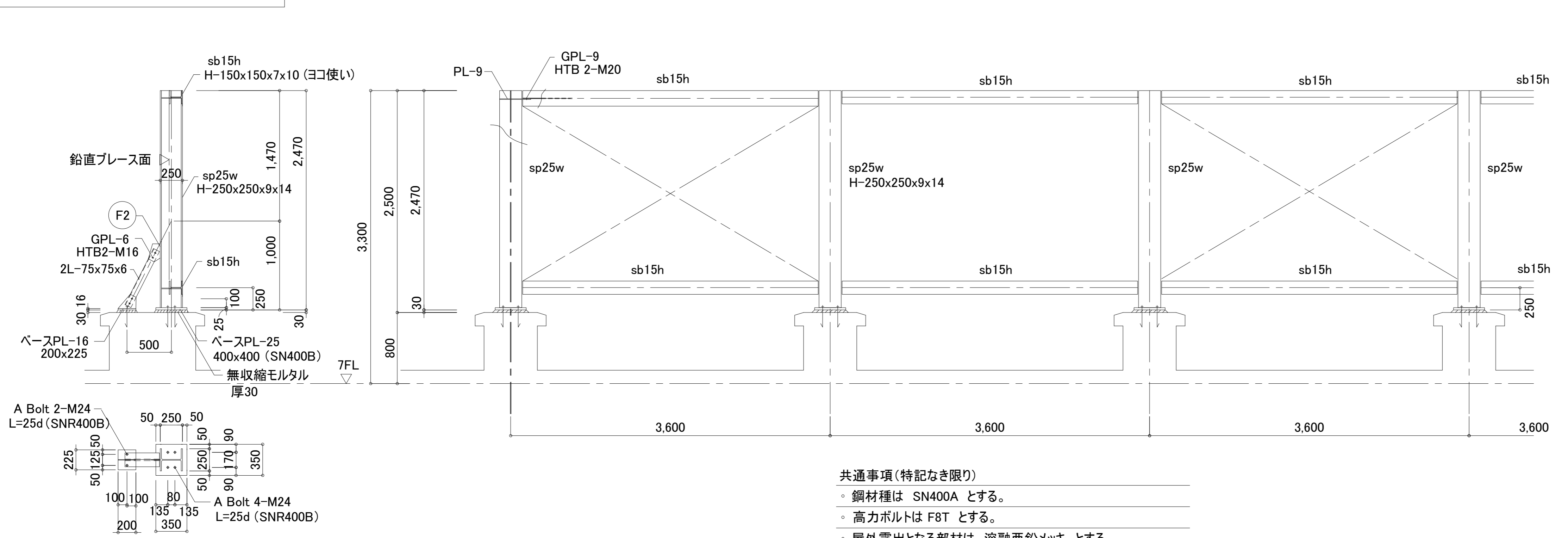
屋上目隠し壁 鉛直ブレース取付詳細図 1:20



設備架台取合い詳細図 1:20

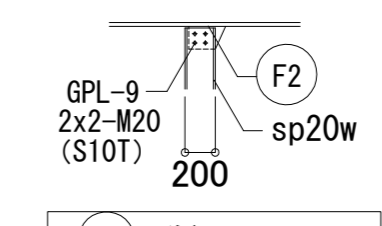
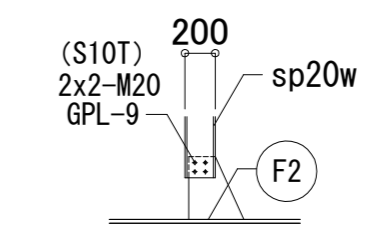
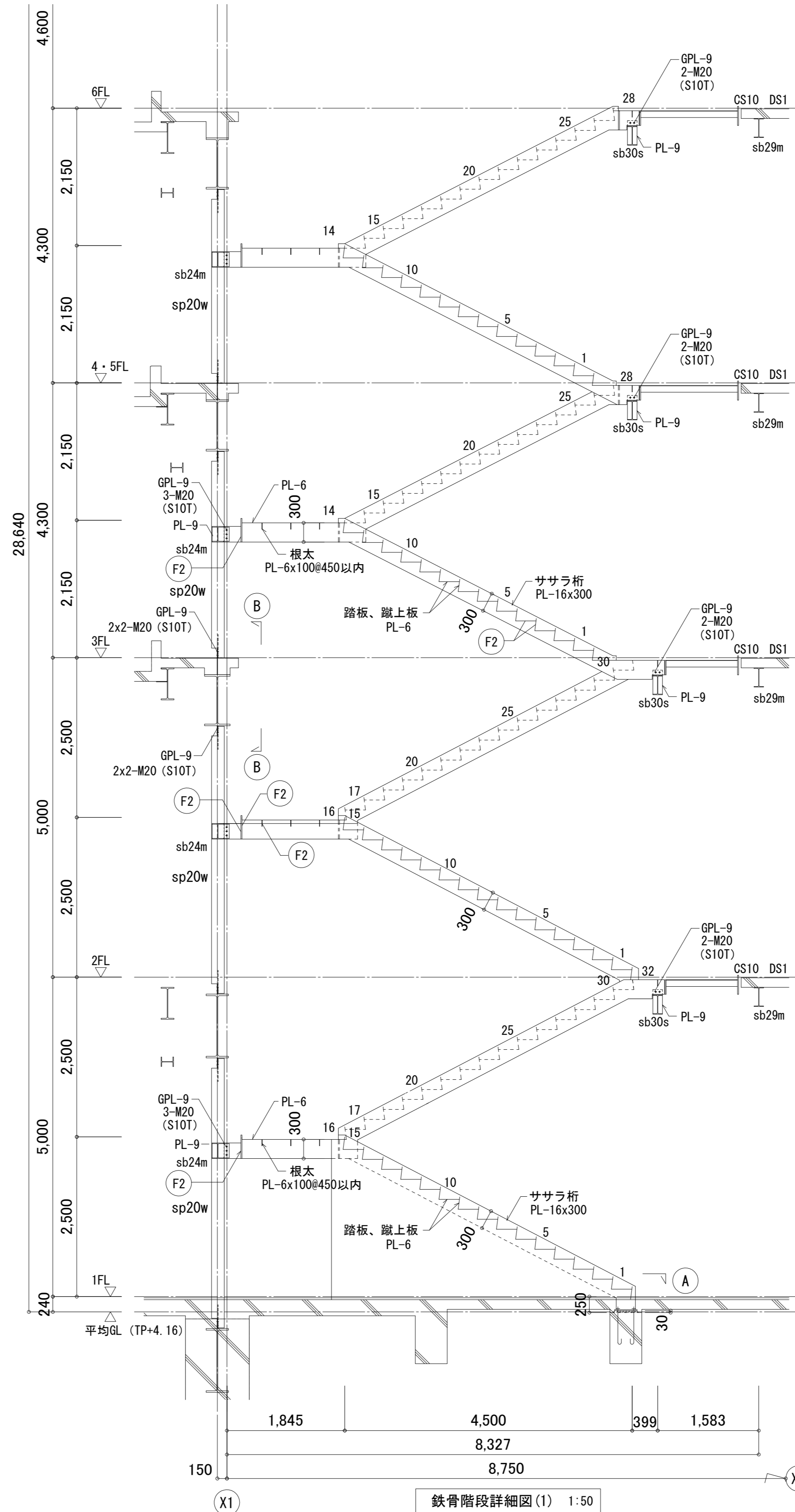
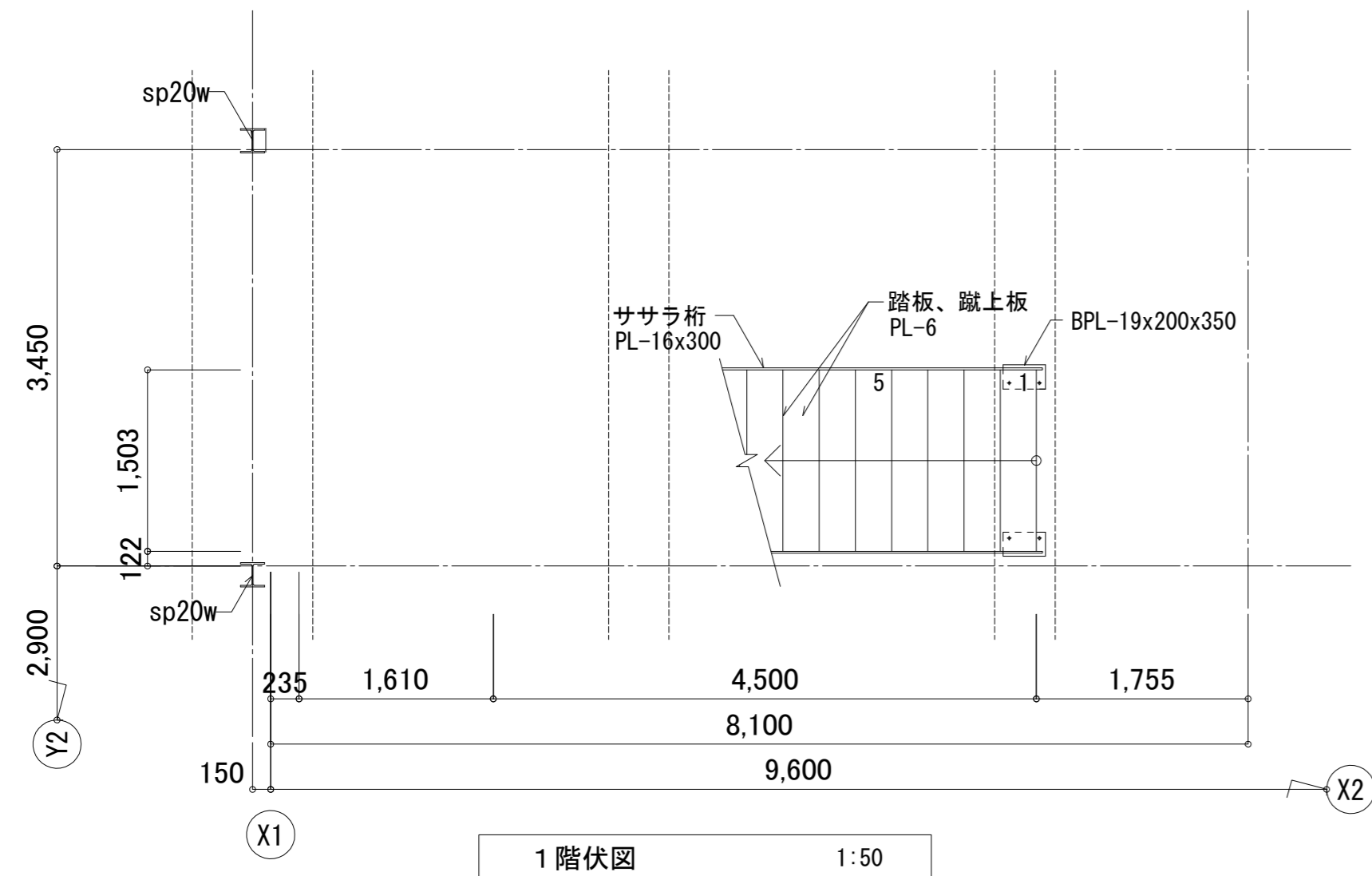
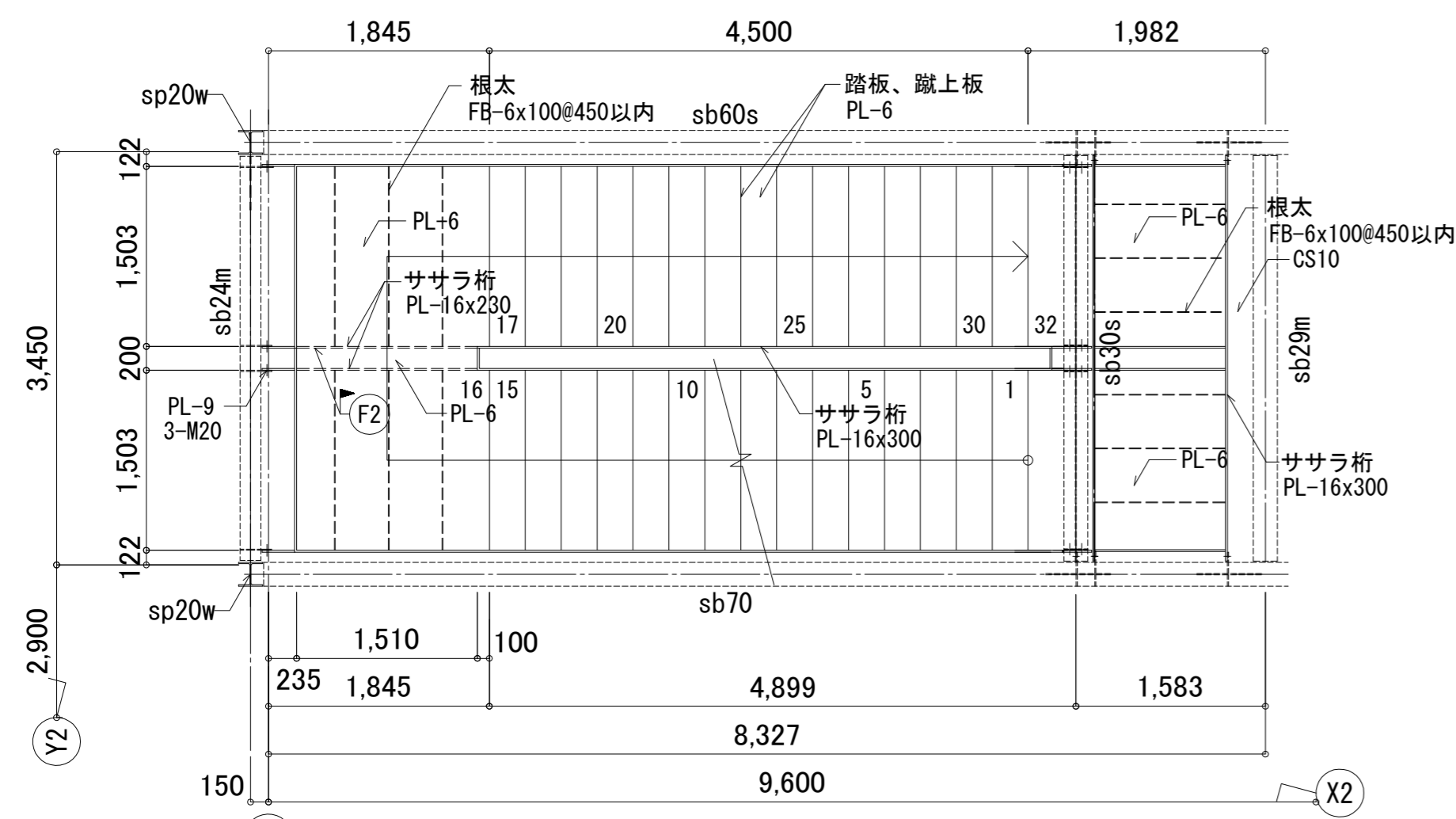
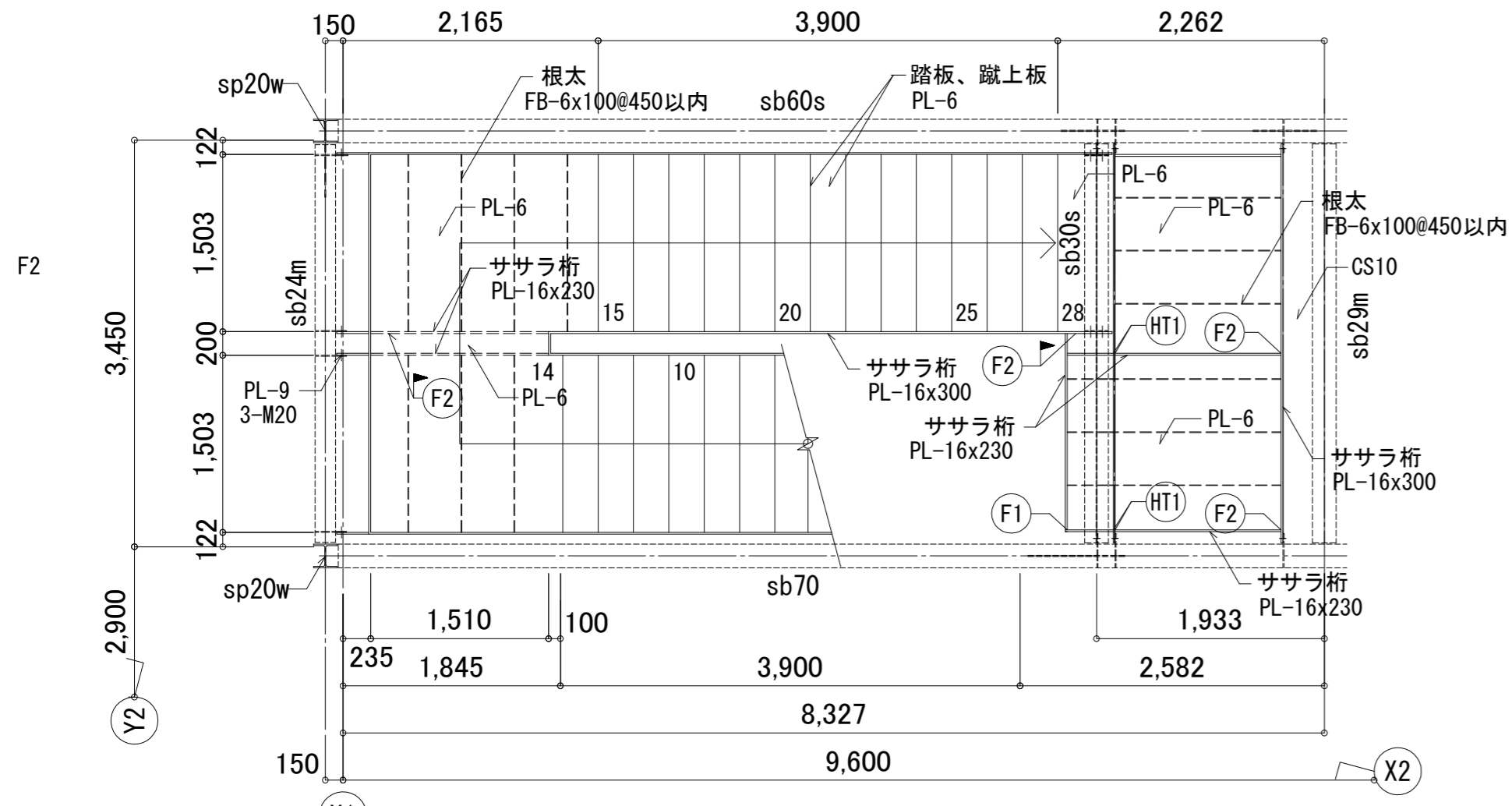


屋上目隠し壁受け材納り図 H=3300 1:30

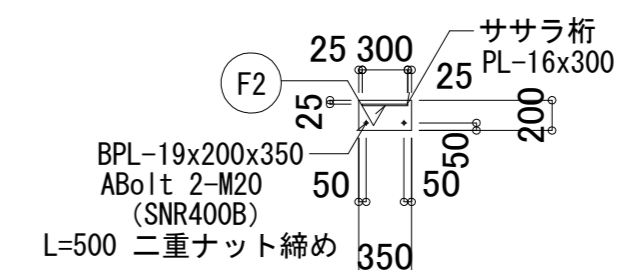


- 共通事項 (特記なき限り)
- 鋼材種は SN400A とする。
  - 高力ボルトは F8T とする。
  - 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキ とする。
  - 雨水のための部分には水抜き孔 (40Φ@900以内) を設けること。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B 建築工事	A3 1:60 A1 1:30	最終版 2024. 3. 25 見積版 2024. 3. 25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	45 各部鉄骨詳細図 (2)	安井建築設計事務所	最終契約版



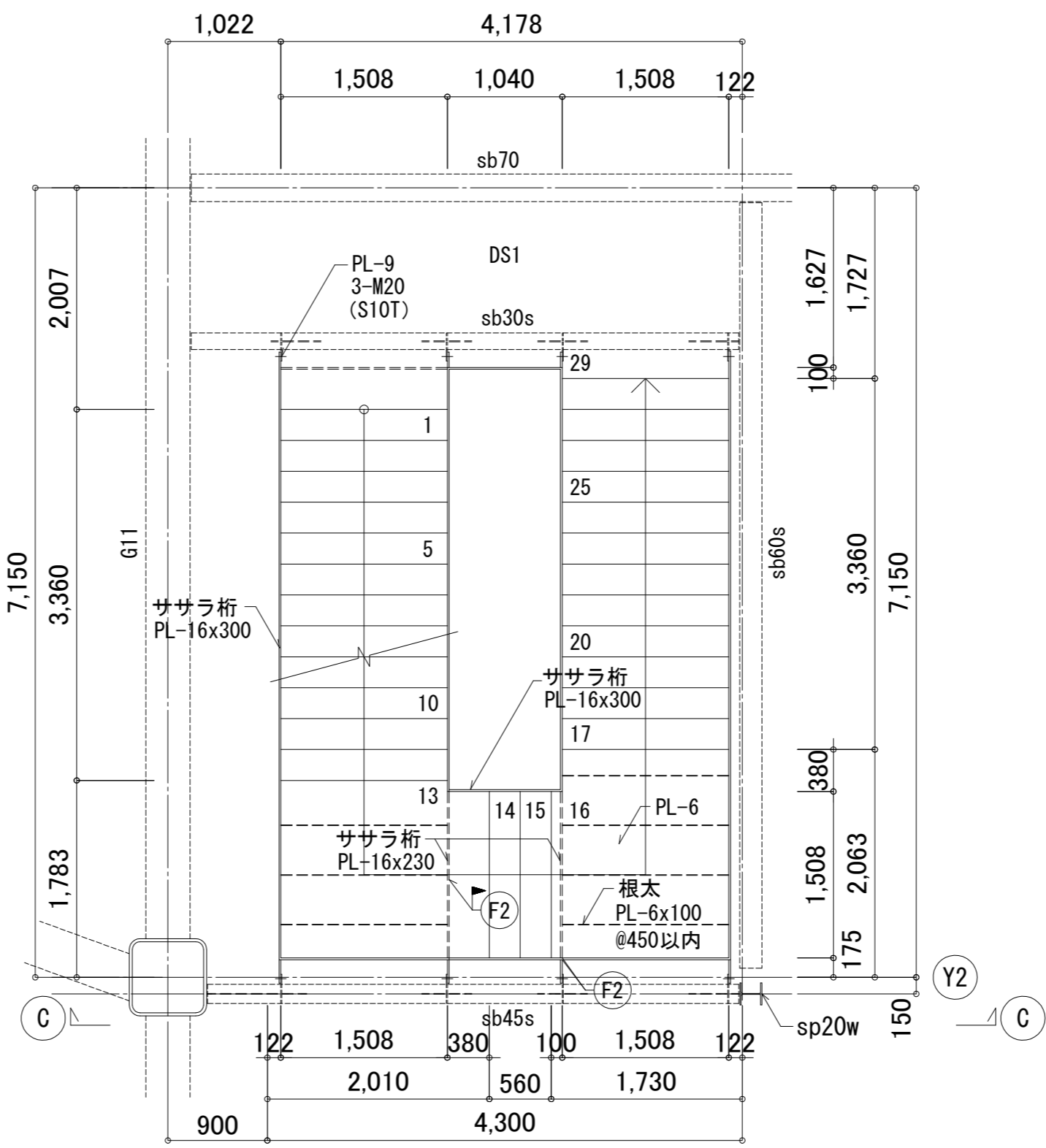
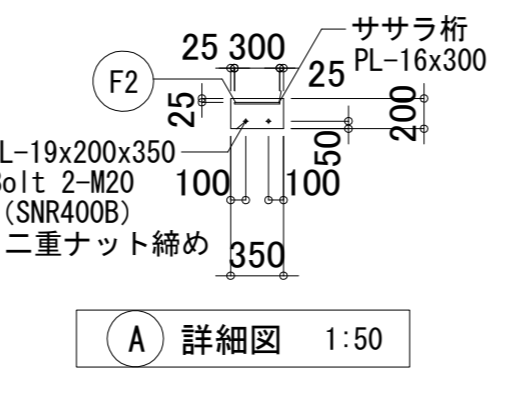
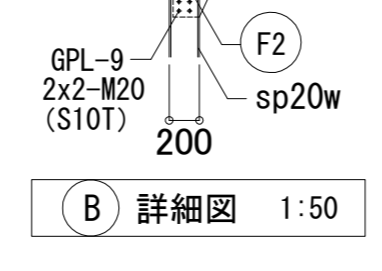
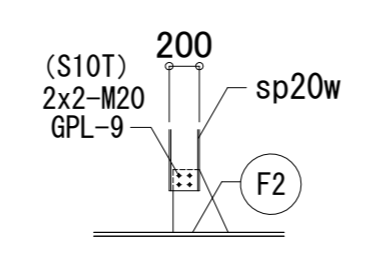
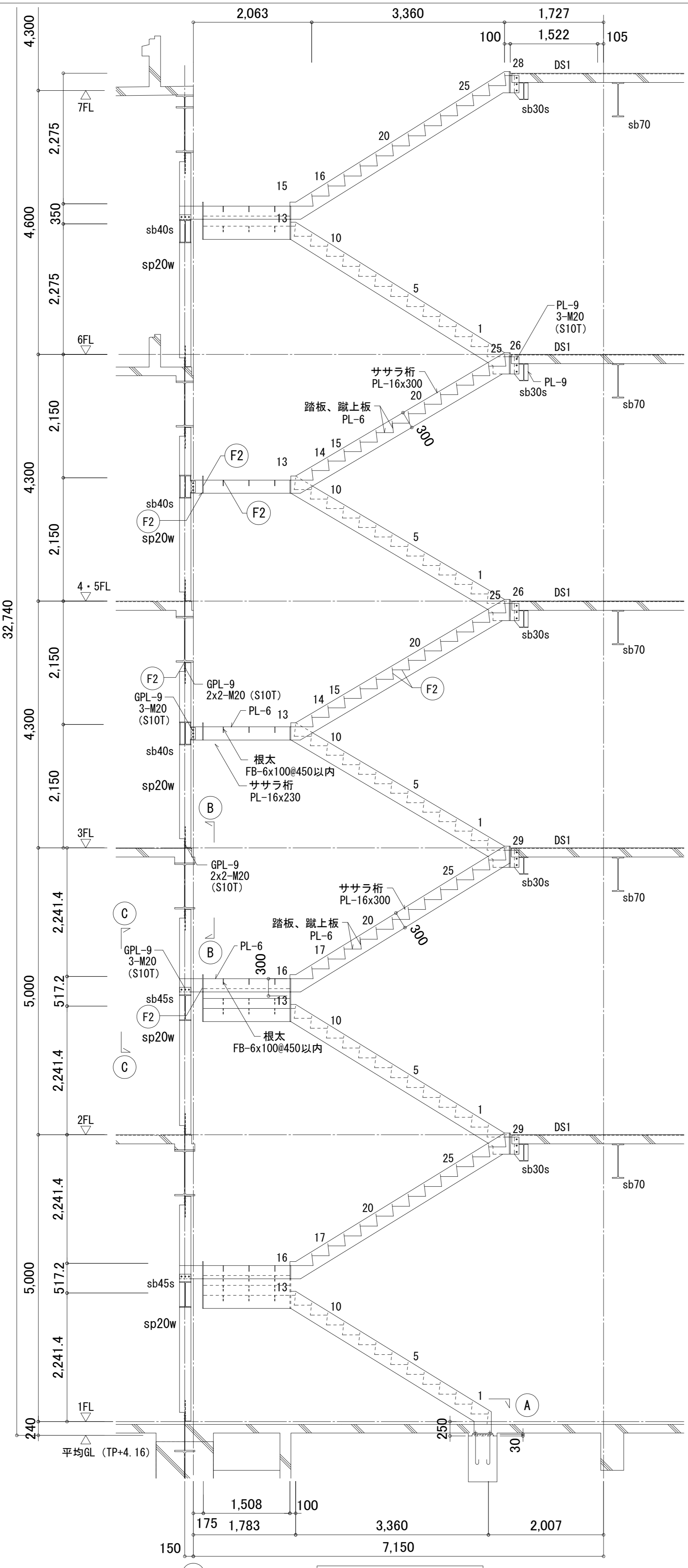
(B) 詳細図 1:50



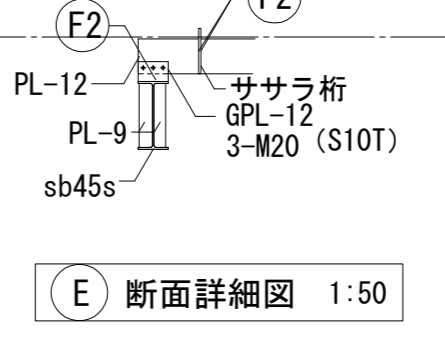
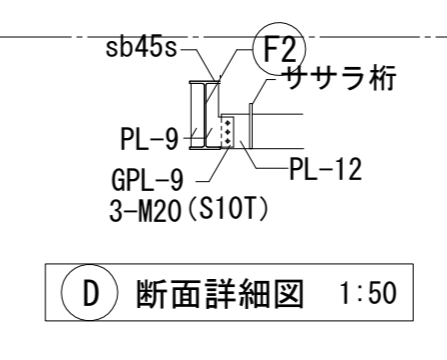
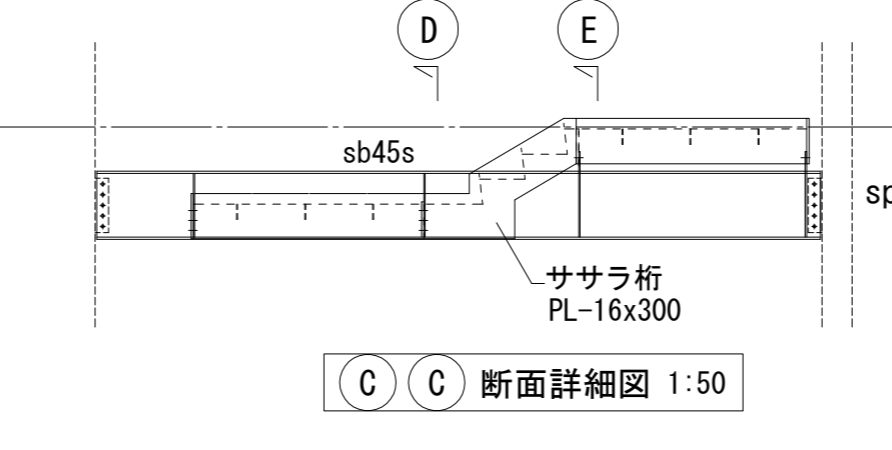
(A) 詳細図 1:50

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鋼材種は SM400A とする。
  - 高力ボルトは S10T とする。
  - アンカーボルト材質は SNR400B とする。

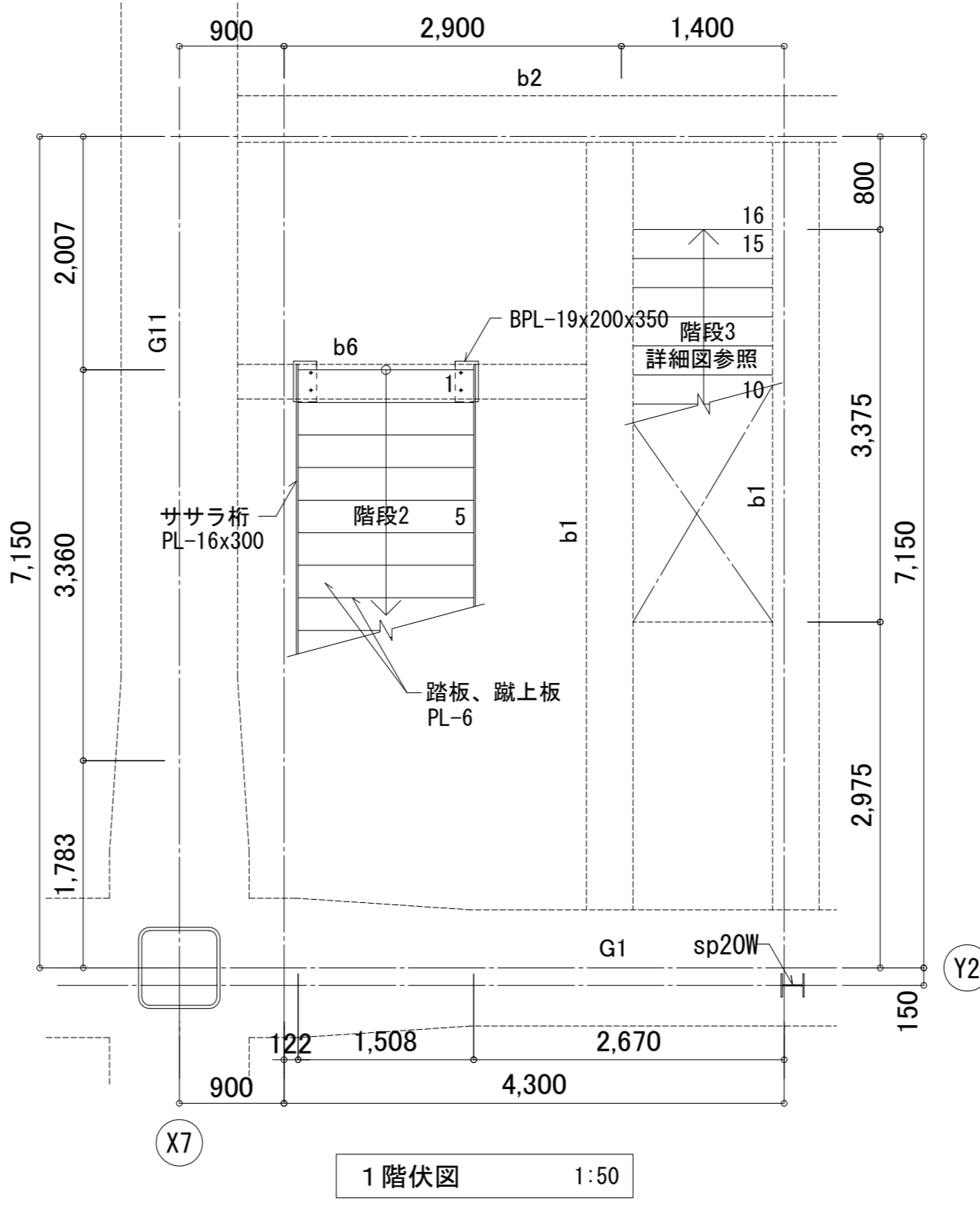
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	B 建築工事	A1 1:50 A3 1:100	最終版 2024.3.25 見直し版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	46 鉄骨階段詳細図(1)	安井建築設計事務所	最終契約版



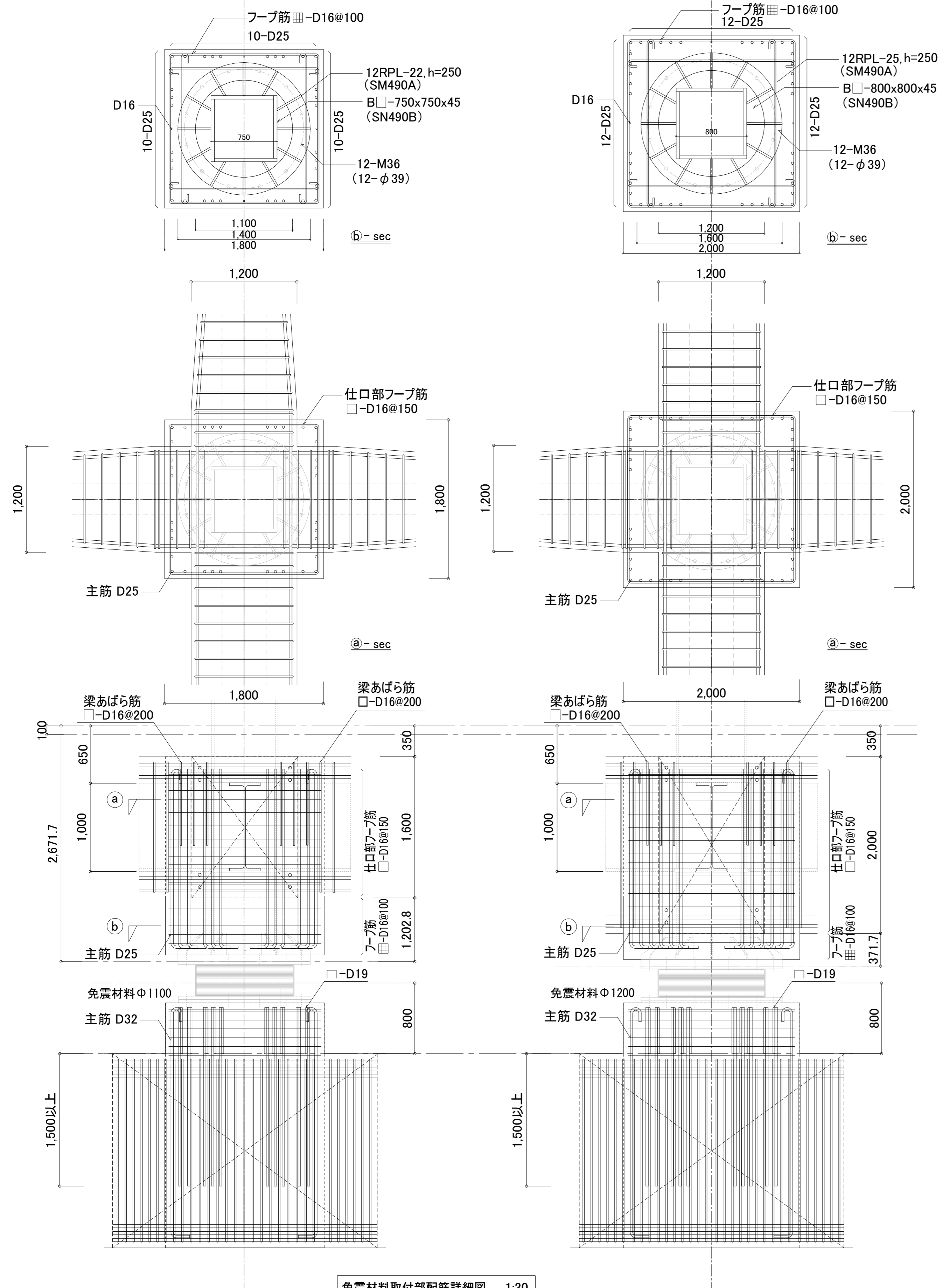
注) 各階の段割りは意匠図に倣う。



- 共通事項 (特記なき限り)
- 鋼材種は SN400A とする。
  - 高力ボルトは S10T とする。
  - アンカーボルト材質は SNR400B とする。



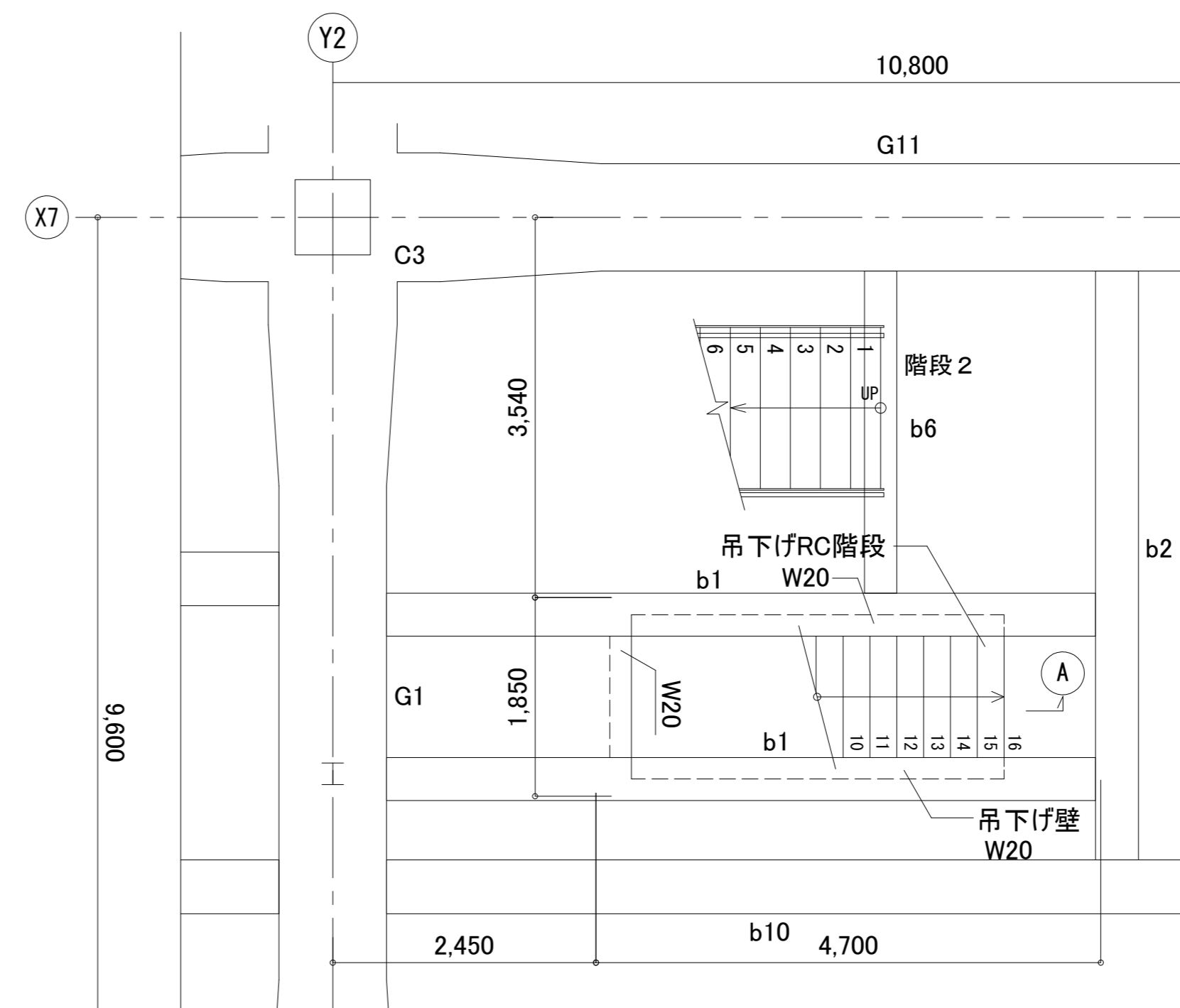
明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	47	鉄骨階段詳細図(2)	最終版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



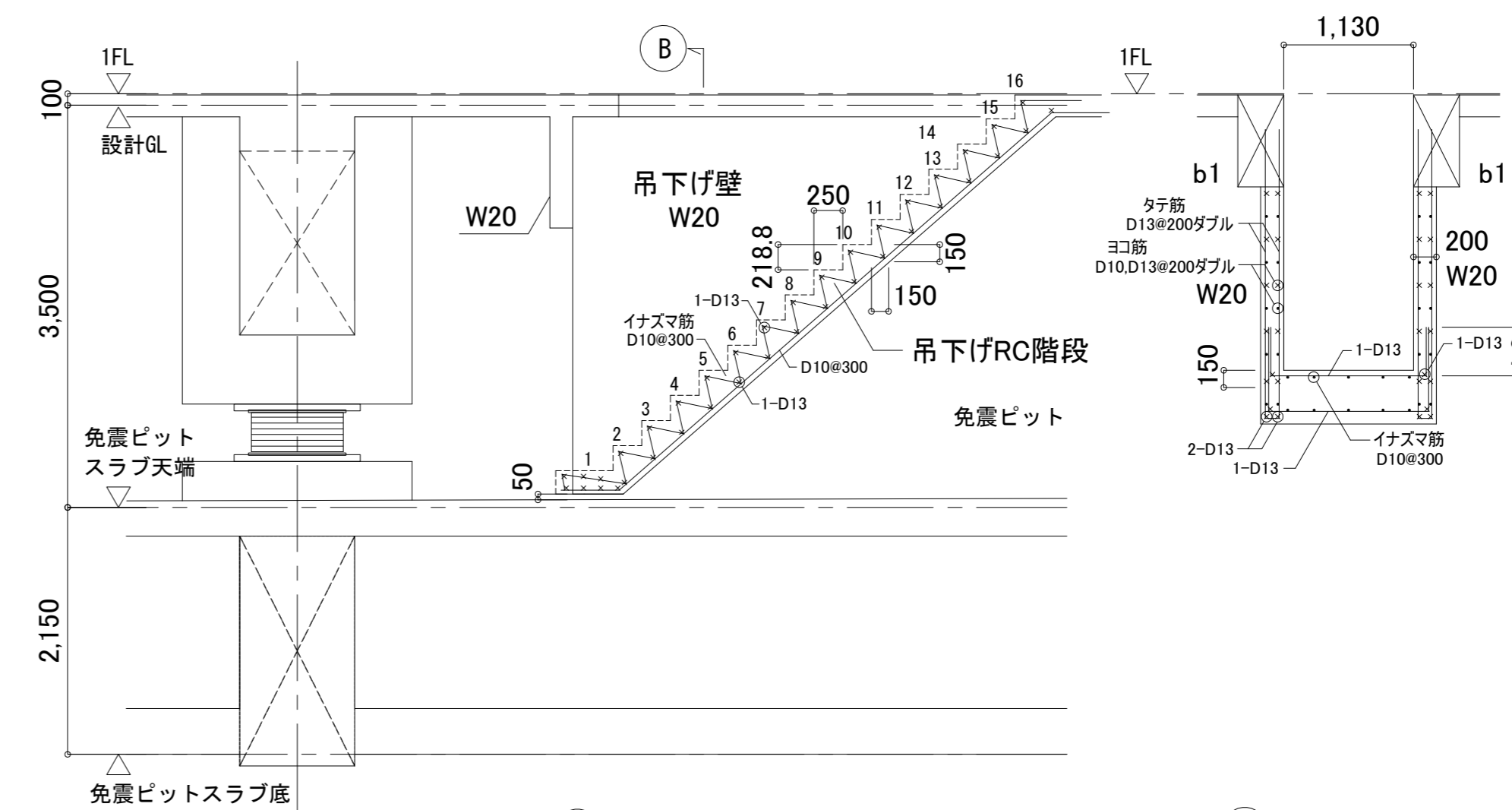
免震材料取付部配筋詳細図 1:30

共通事項 (特記なき限り)

- SRC梁のフープ貫通部には、ウェブ同材質かつウェブ同厚/2以上×100×900を両面に設ける。
- 主筋間隔@300を超える箇所にはひび割れ防止筋D16を配筋すること。
- 免震材料基礎頭部はかんざし筋 □-D19を設けること。



RC階段平面図 1:50



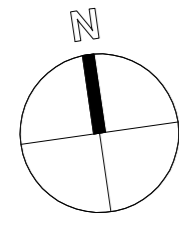
A 断面詳細図

B 断面詳細図

RC階段配筋詳細図 1:50

<b>明石市政政局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	B	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	48	<b>各部配筋詳細図</b>	1:30 見積版 2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版

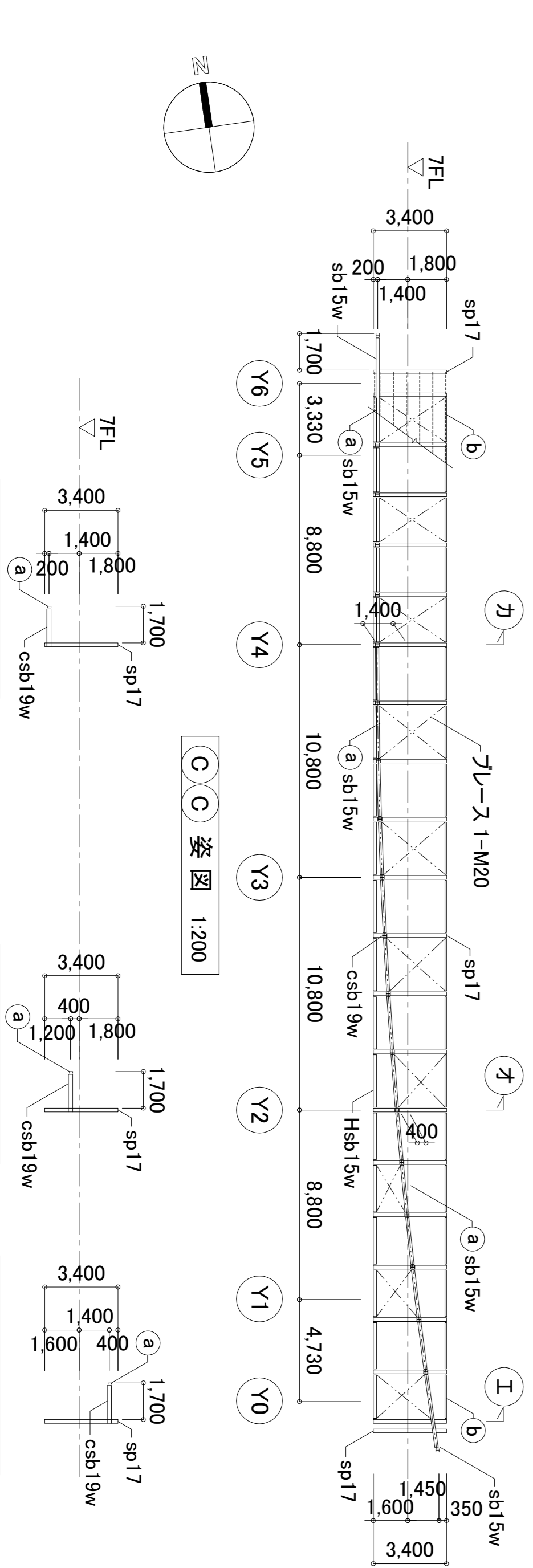




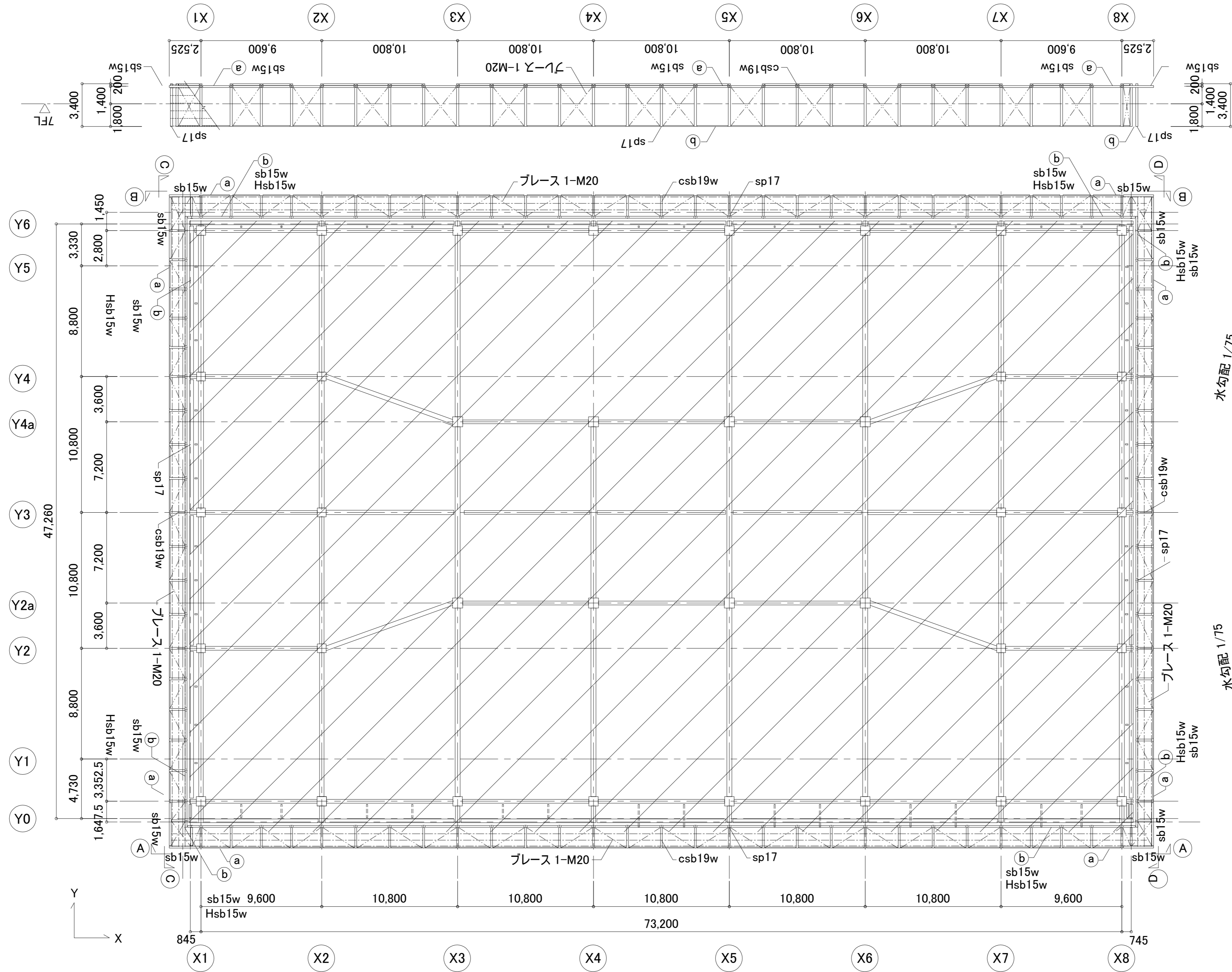
力 断面図 1:200

才 断面図 1:200

工 断面図 1:200



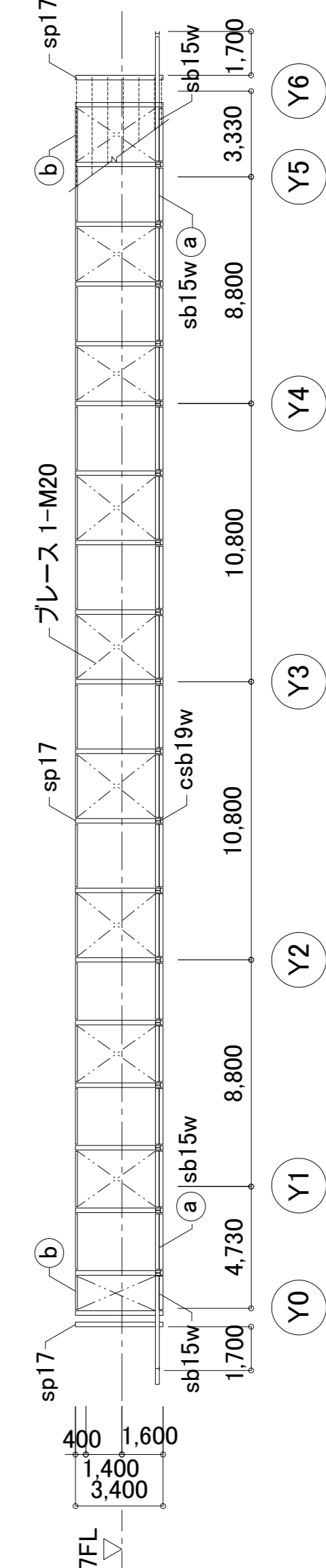
CC 姿図 1:200



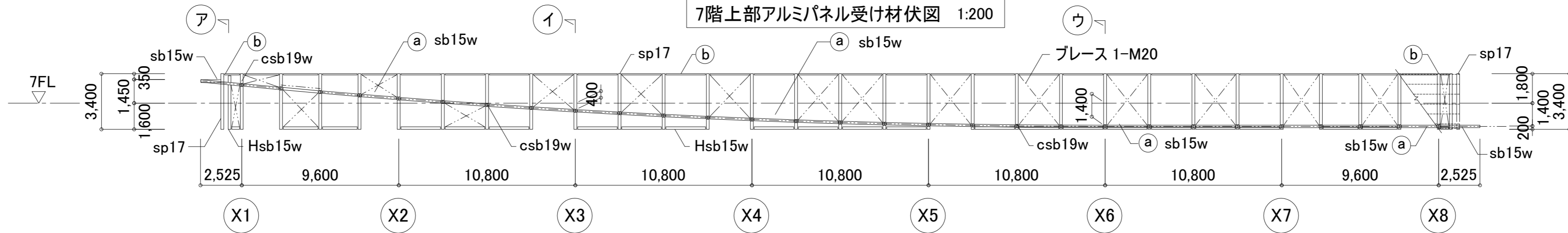
水勾配 1/75

水勾配 1/75

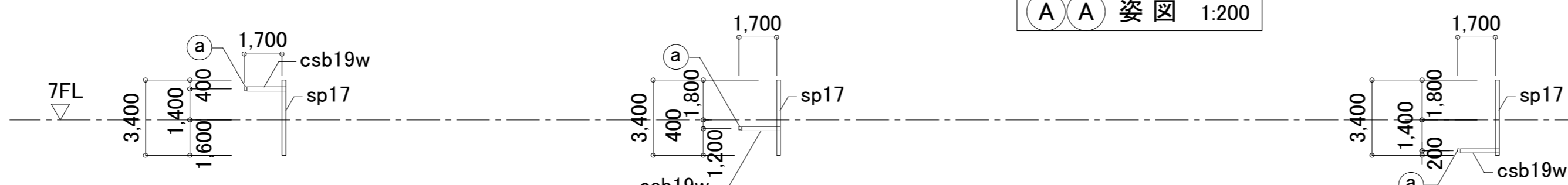
DD 姿図 1:200



7階上部アルミパネル受け材伏図 1:200



AA 姿図 1:200



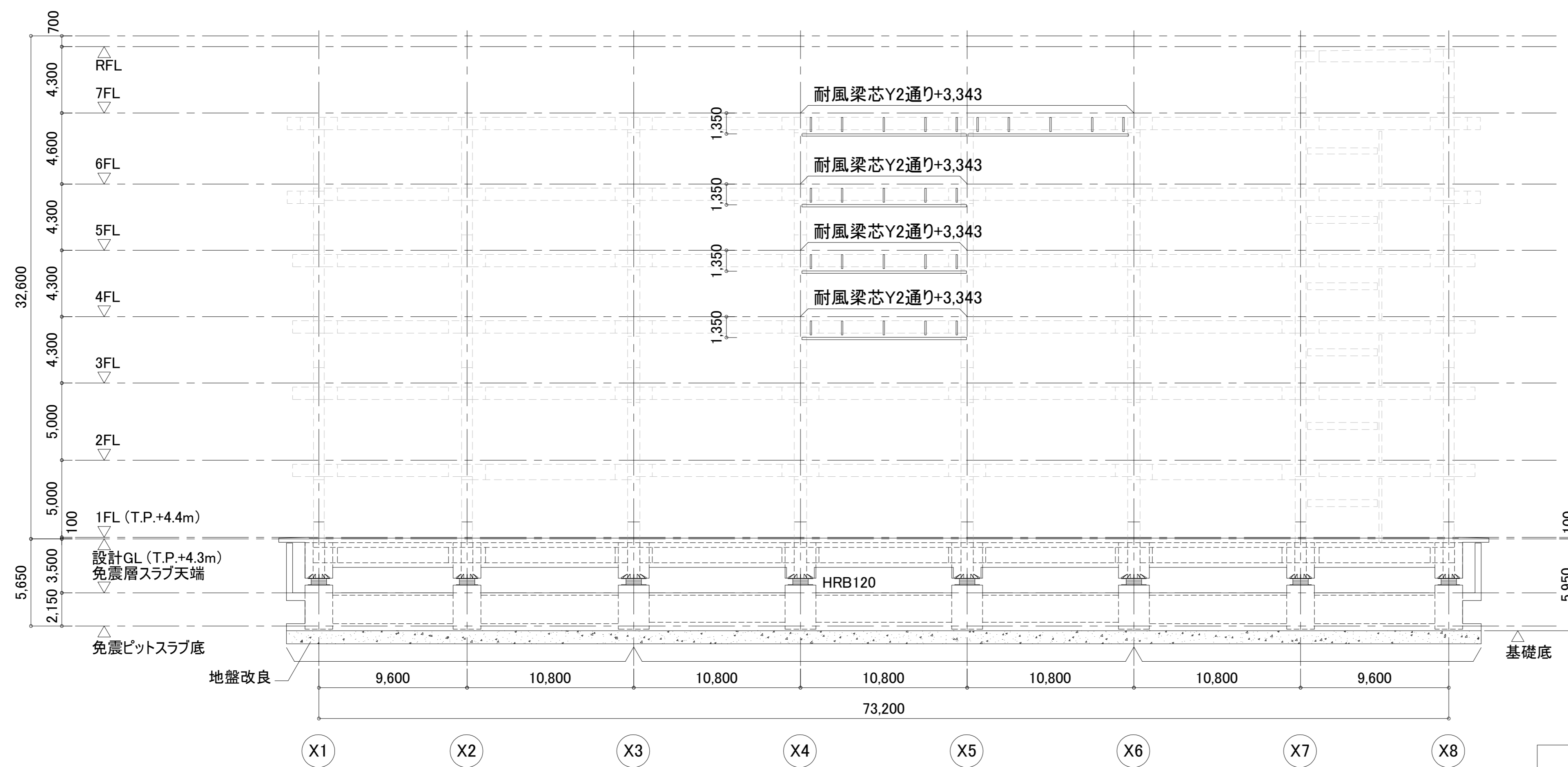
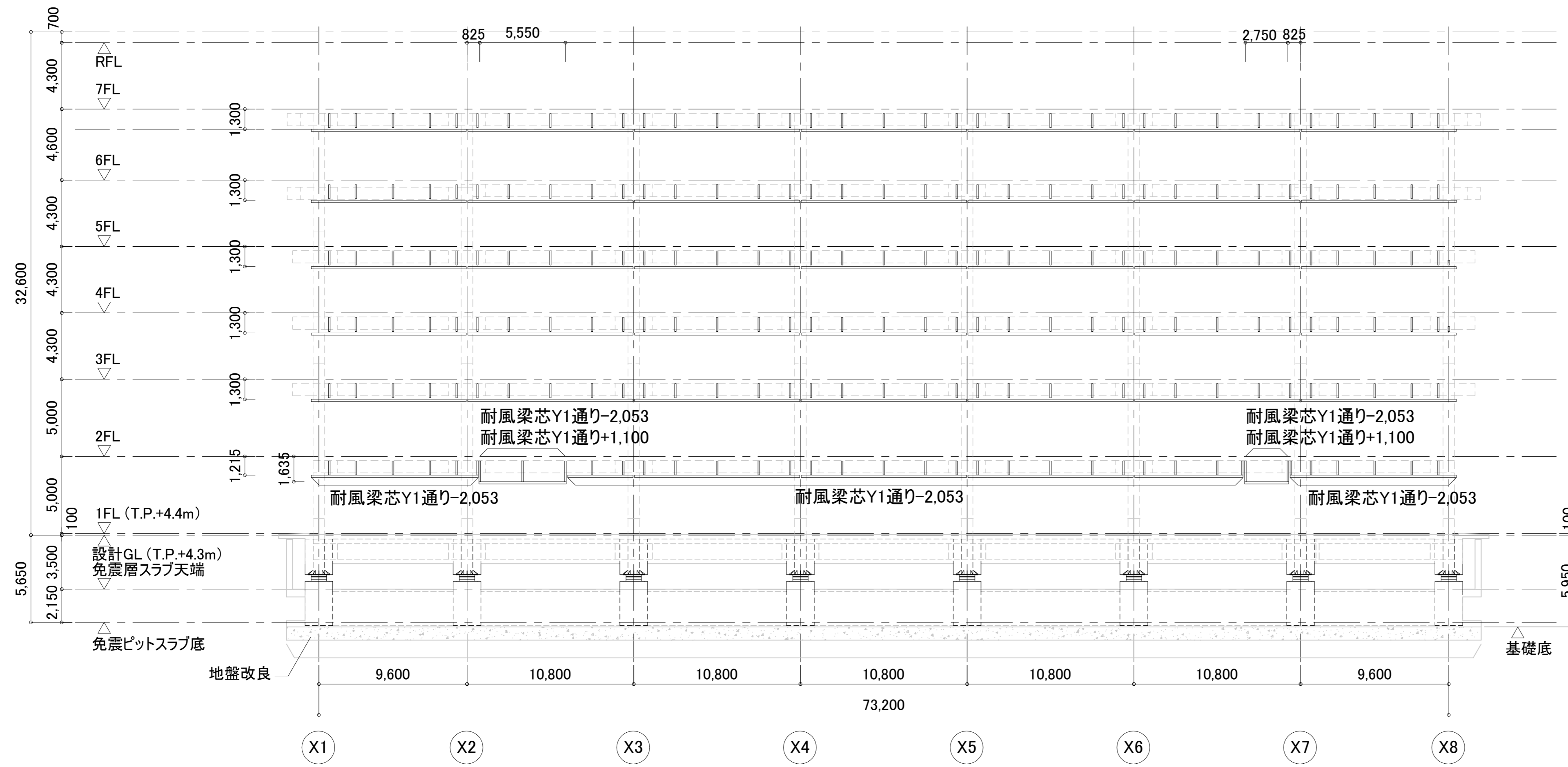
ア 断面図 1:200

イ 断面図 1:200

ウ 断面図 1:200

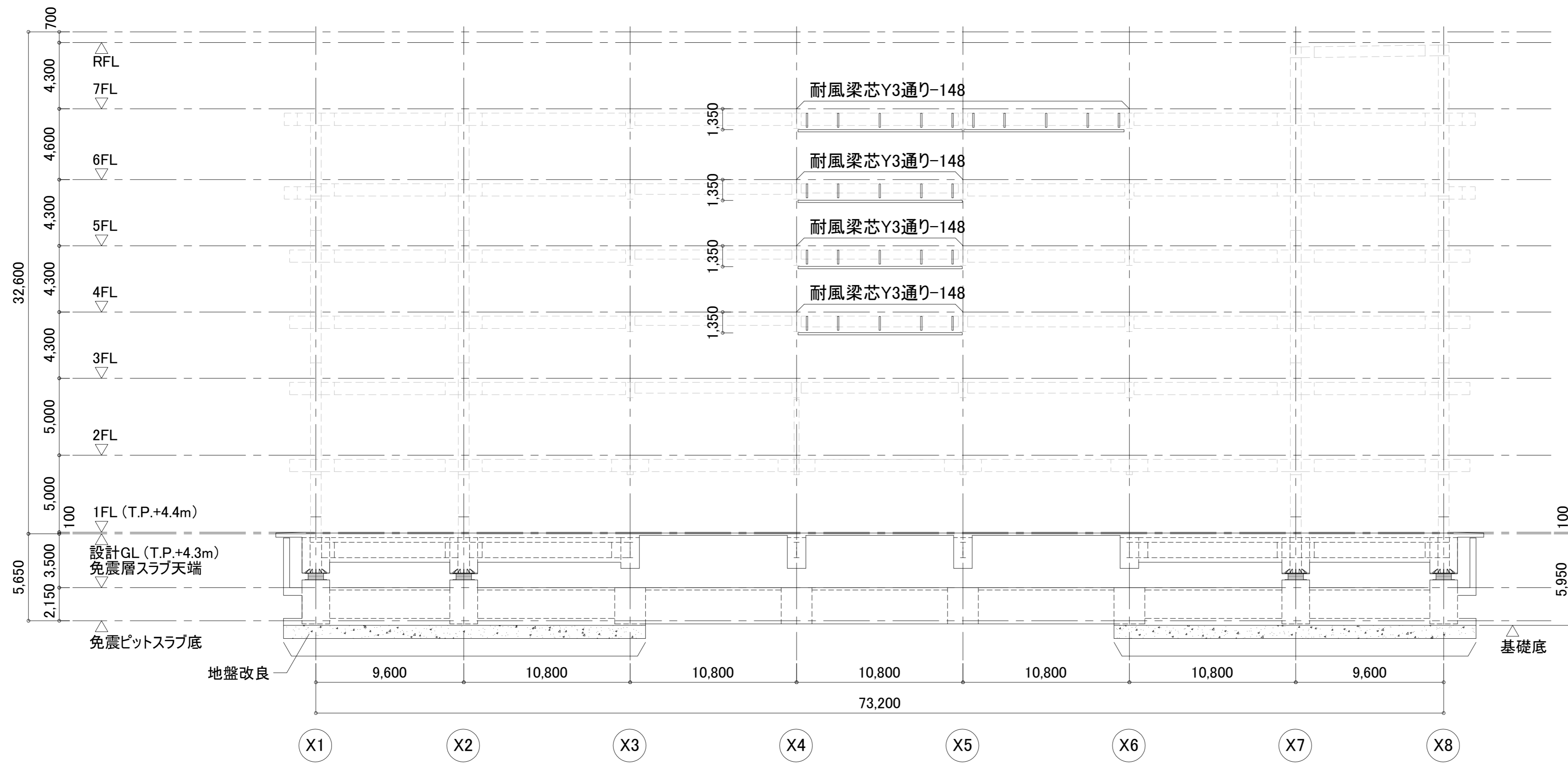
- 共通事項(特記なき限り)
- 印部分は建物本体を示す。
  - (a) C-150x75x6.5x10
  - (b) C-150x75x6.5x10 (ヨコ使い)
  - 印はブレースを示し、1-M20 ターンバックル締めとする。
  - 印は母屋C-100×50×20×2.3@450を示す。
  - 印は胴縁C-100×50×20×2.3@606を示す。

明石市政局 企画・調整室		明石市役所新庁舎 建設工事	
代表設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事 A3 1:400 A1 1:200
構造設計	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	49	7階上部アルミパネル受け材伏図
安井建築設計事務所			最終版 2024. 3. 25 見積版 2024. 3. 25 最終契約版

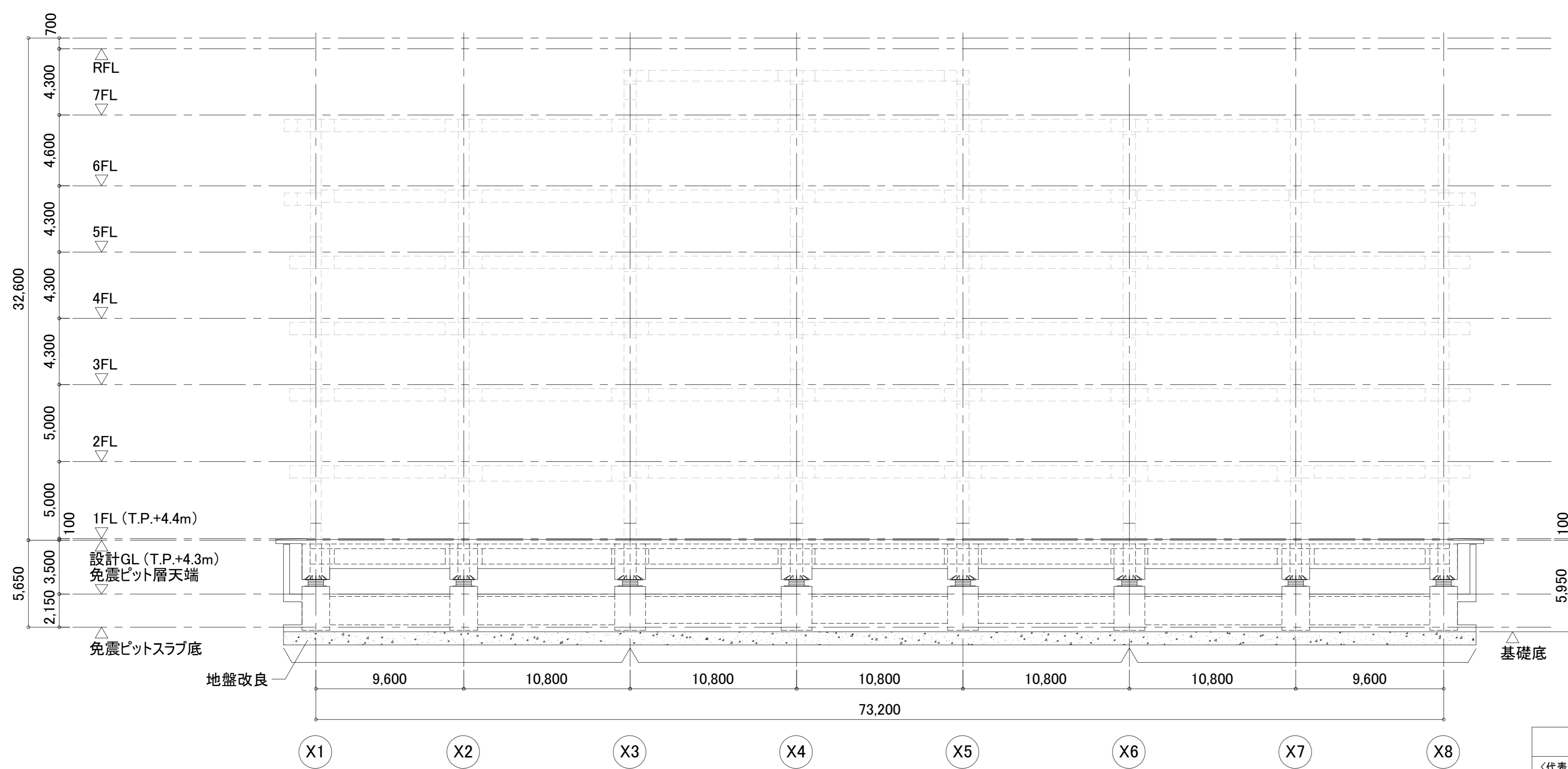


- 共通事項(特記なき限り)
- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い)とする。
  - 束材はsb10w (H-100×100×6×8)とする。
  - 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
  - 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
代表設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
構造設計	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	50	外装受け鉄骨軸組図(1) 1:200
			安井建築設計事務所
		最終版	2024.3.25
		見積版	2024.3.25
		最終契約版	



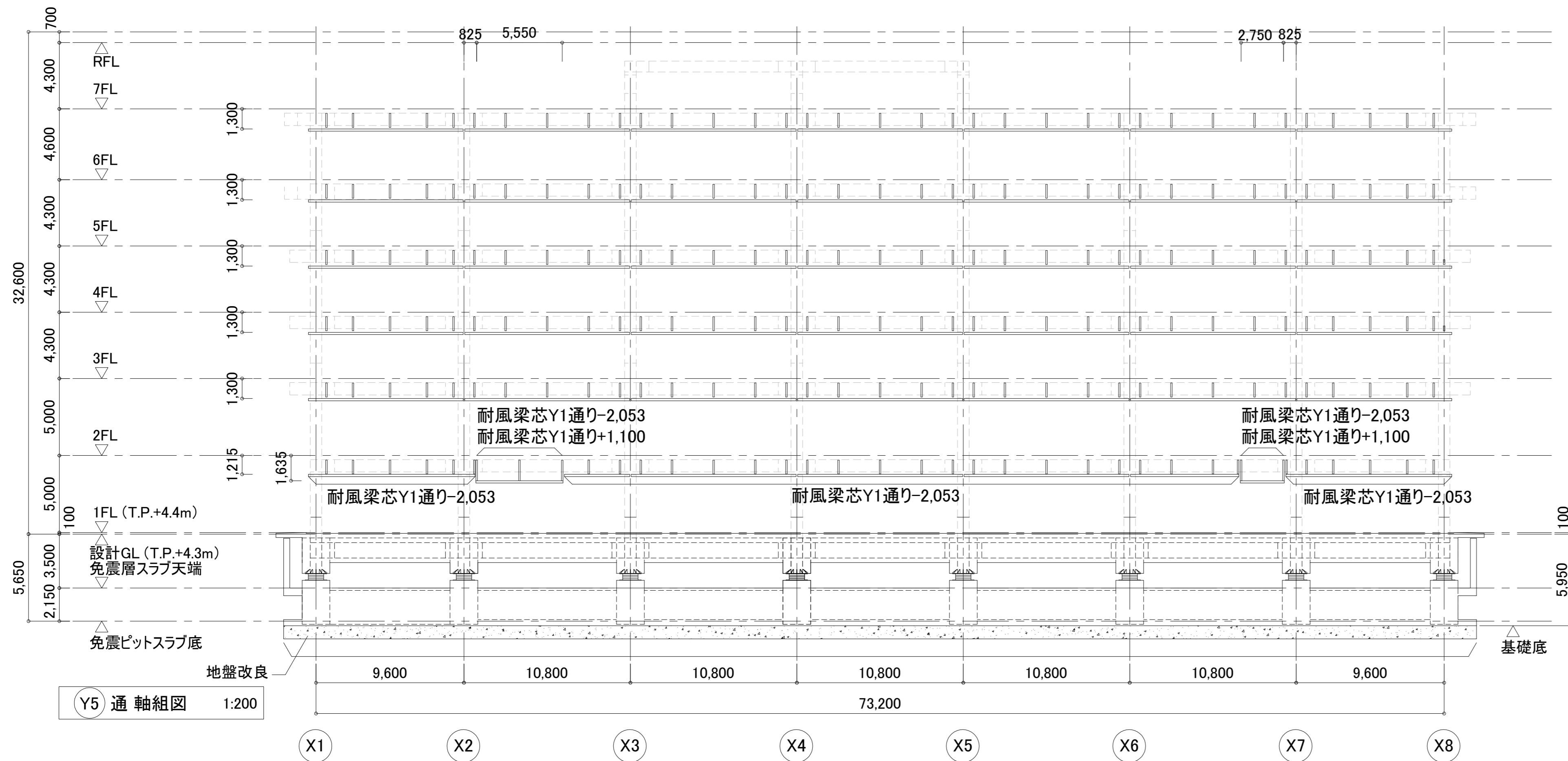
Y3 通 軸組図 1:200



Y4 Y4a 通 軸組図 1:200

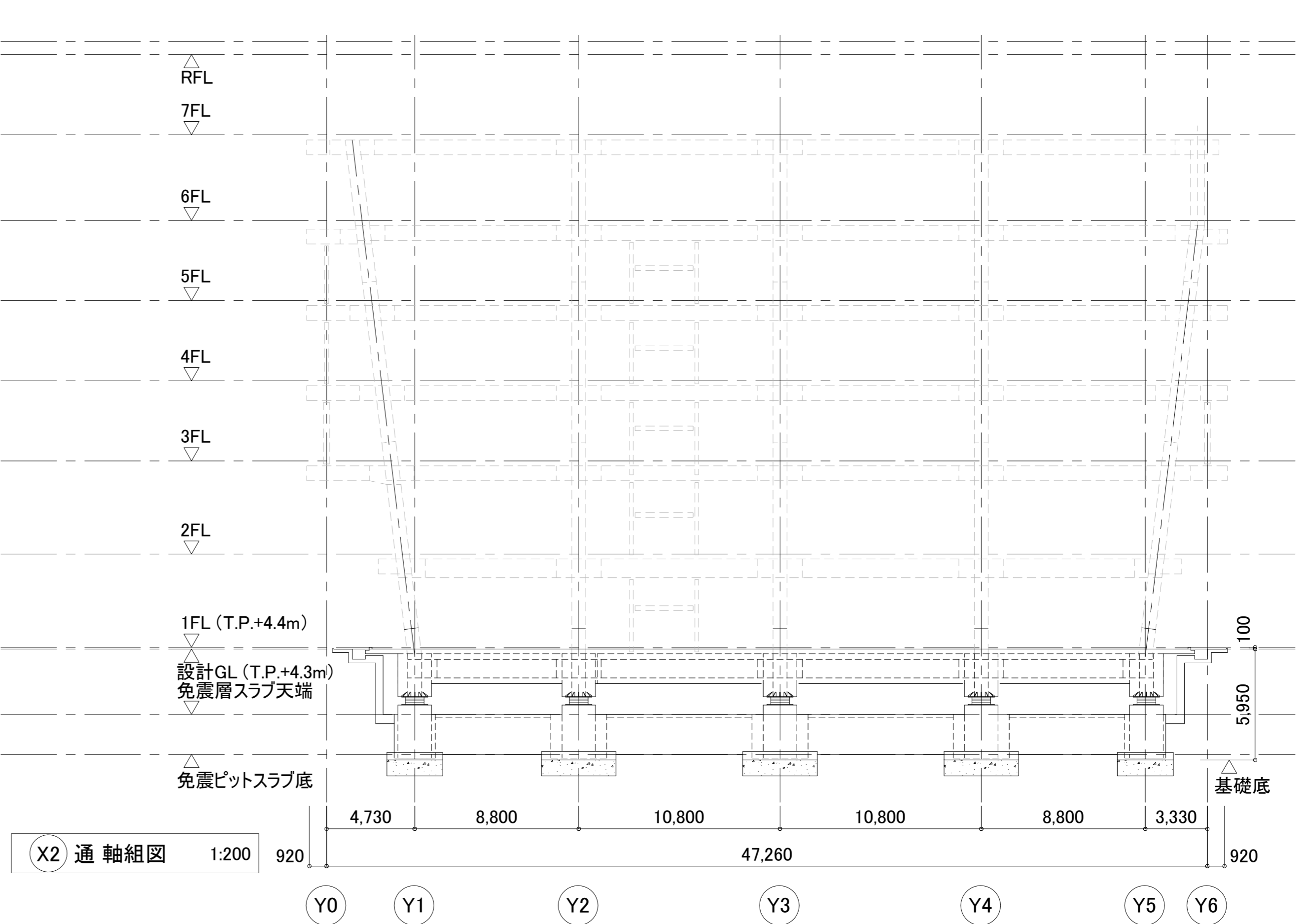
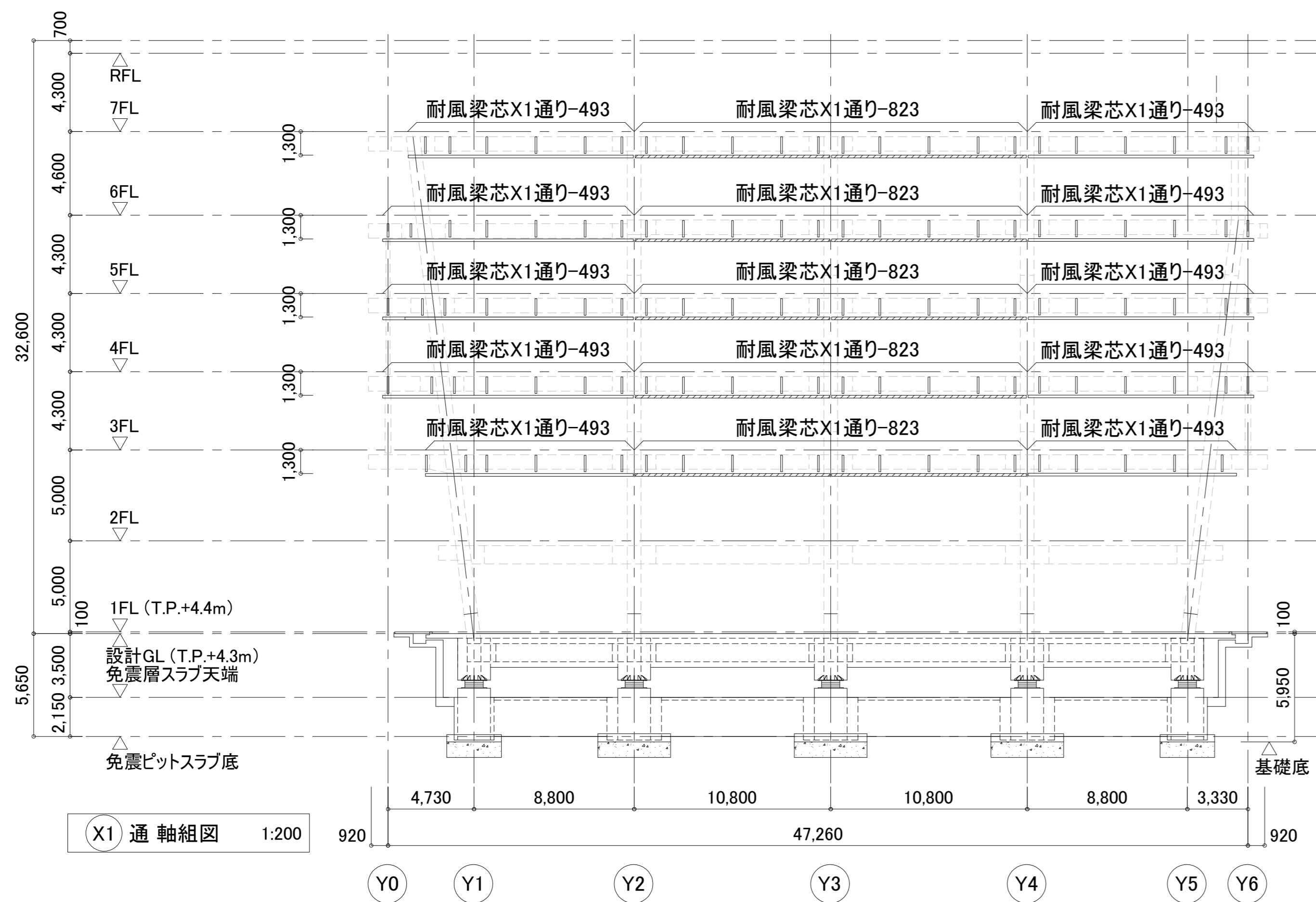
- 共通事項(特記なき限り)
- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い)とする。
  - 束材はsb10w (H-100×100×6×8)とする。
  - 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
  - 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	B	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	51	<b>外装受け鉄骨軸組図(2) 1:200</b>	見積版 2024.3.25
		<b>安井建築設計事務所</b>	最終契約版



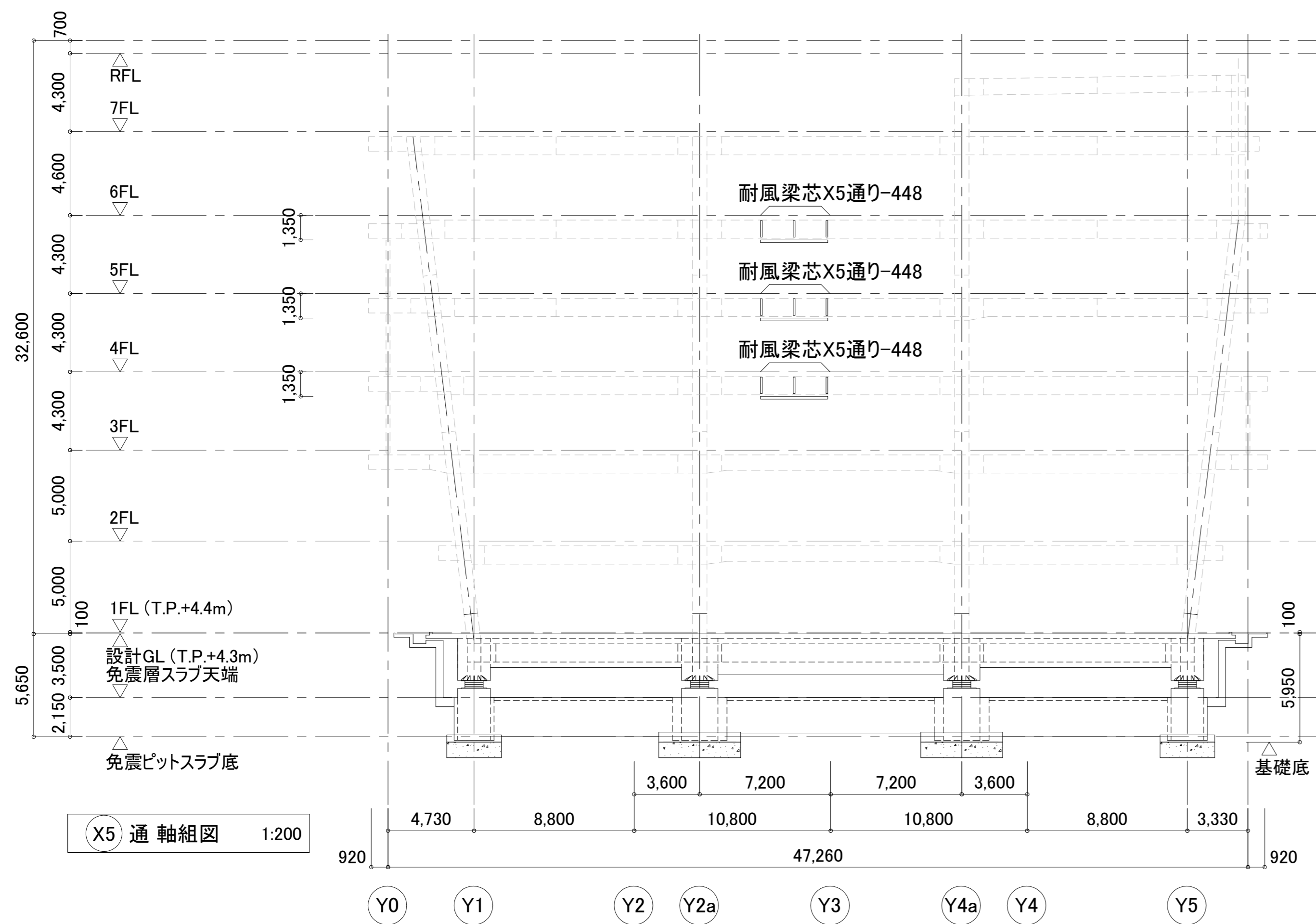
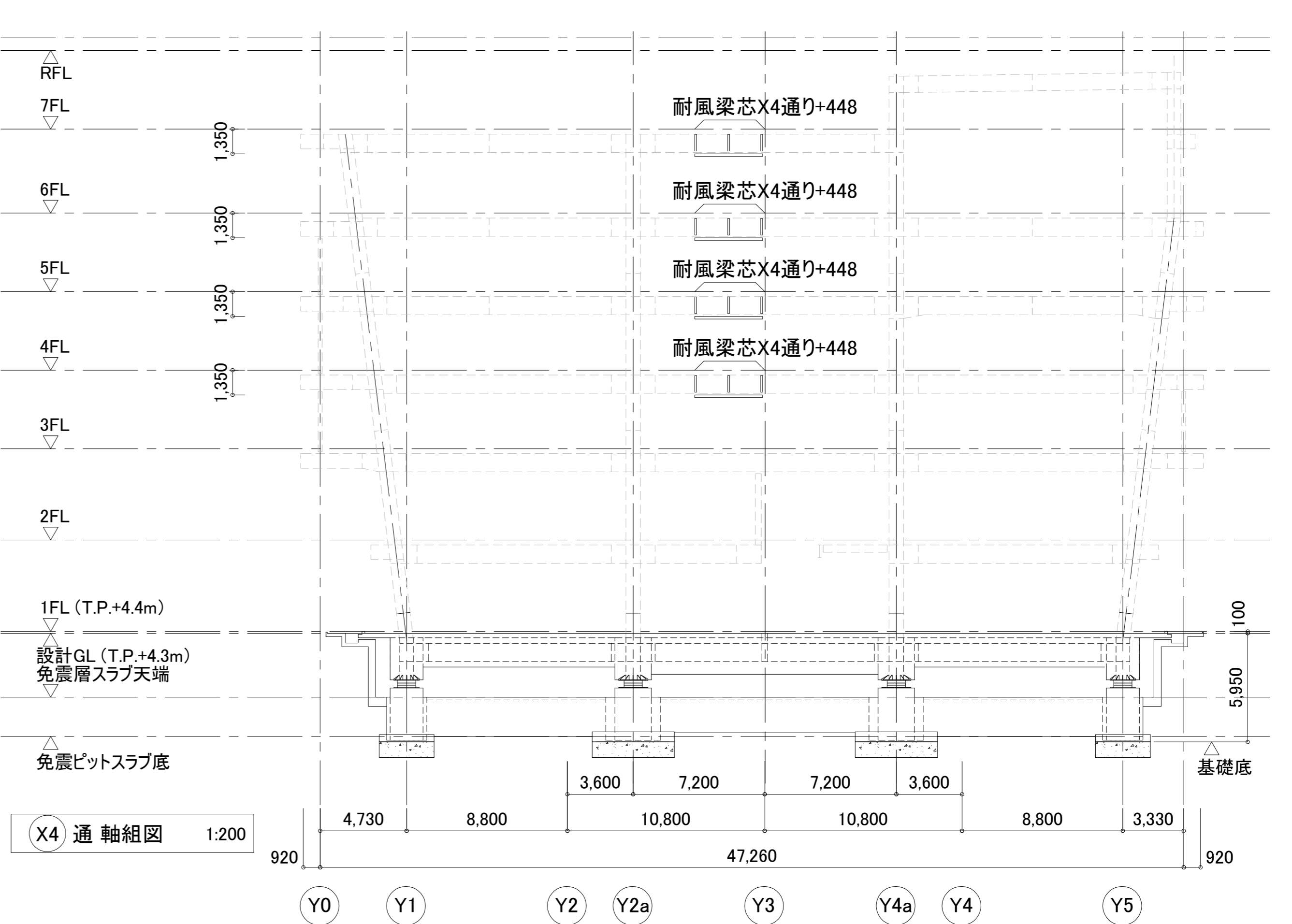
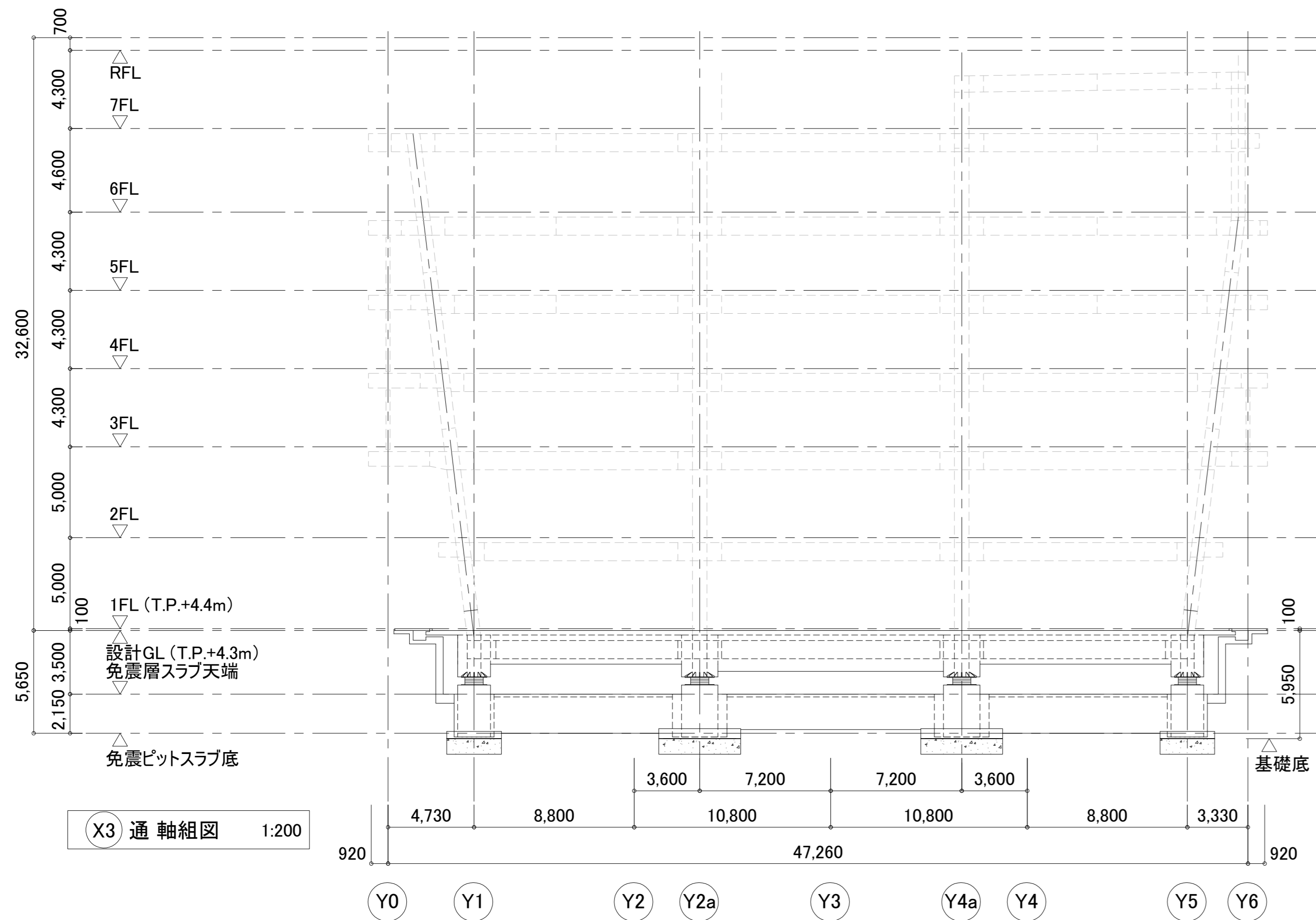
耐風梁芯Y5通り-3,623  
耐風梁芯Y5通り-5,023  
耐風梁芯Y5通り-5,023  
耐風梁芯Y5通り-5,023  
耐風梁芯Y5通り-2,673

- 共通事項 (特記なき限り)
- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い) とする。
  - 束材はsb10w (H-100×100×6×8) とする。
  - 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
  - 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。



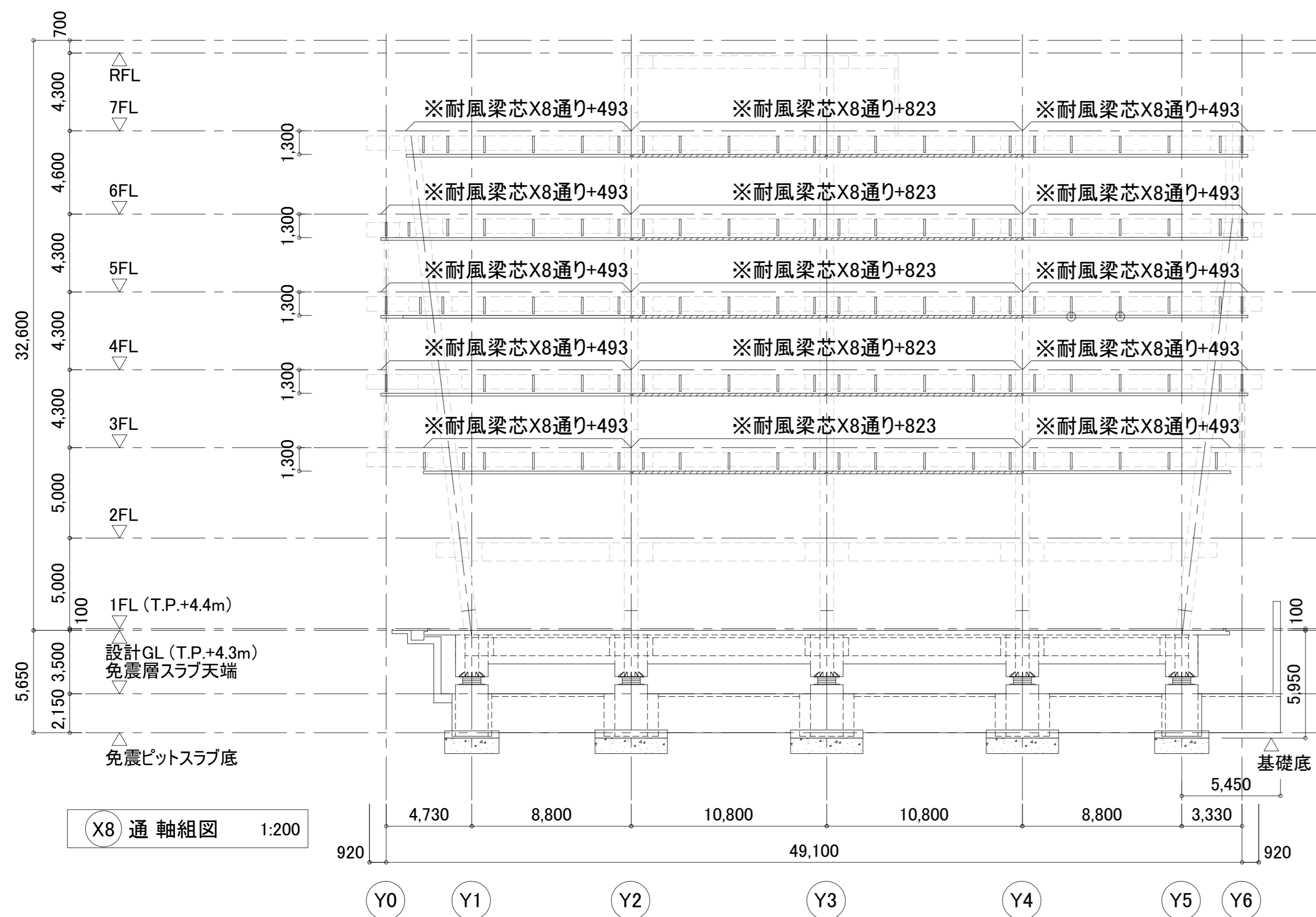
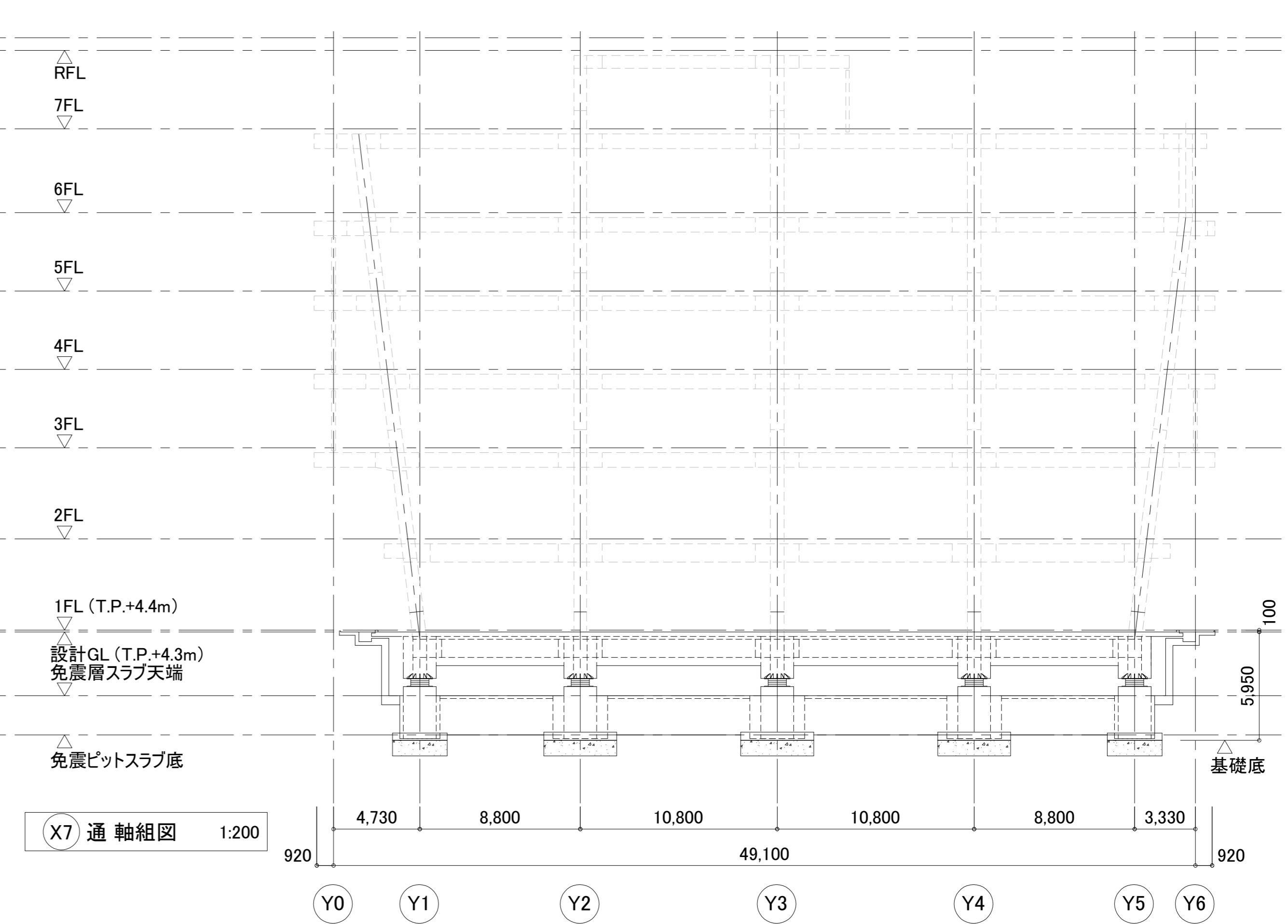
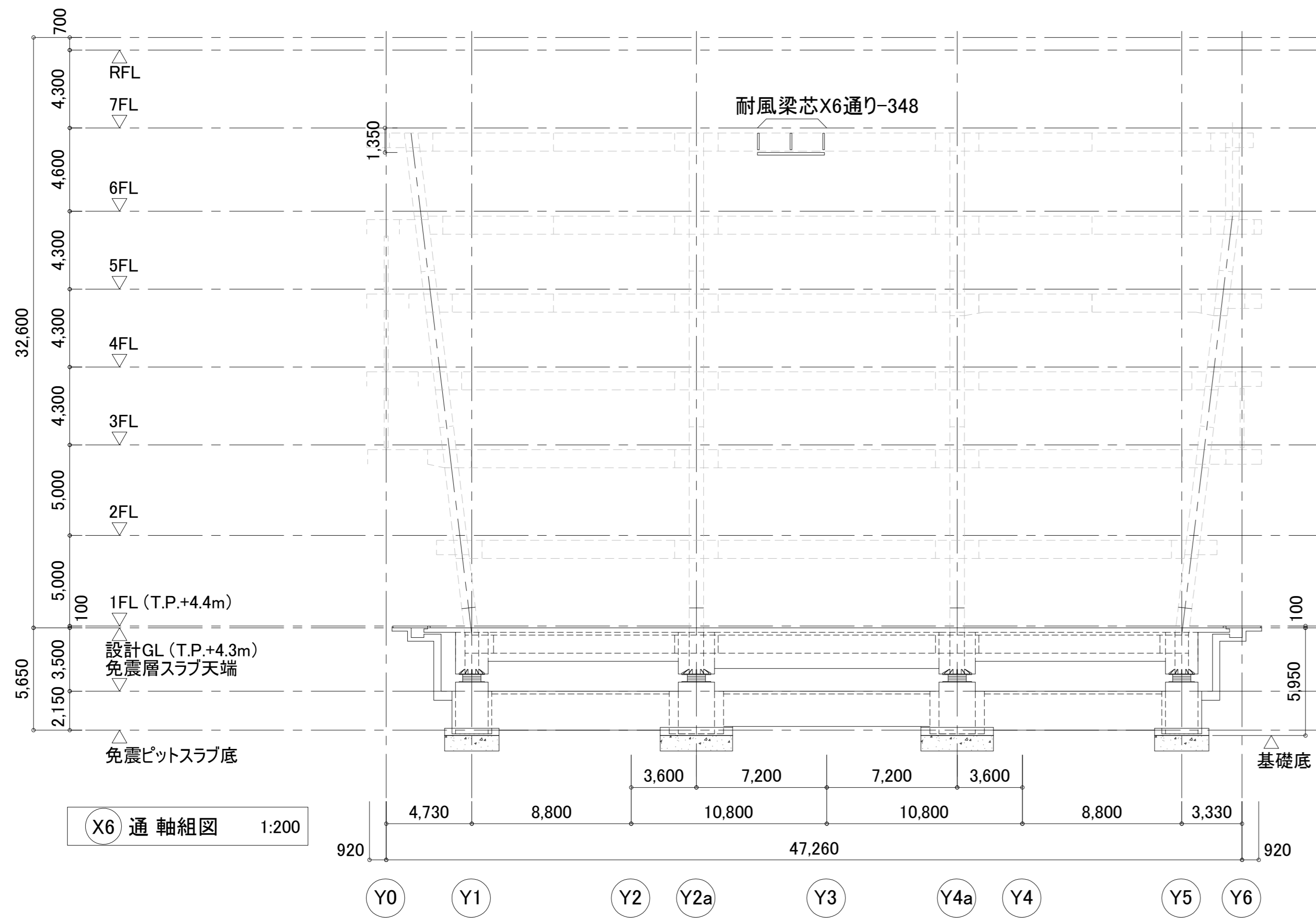
明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
代表設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
構造設計者	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	52	外装受け鉄骨軸組図(3) 1:200
			最終版 2024.3.25
			最終契約版

安井建築設計事務所



- 共通事項 (特記なき限り)
- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い) とする。
  - 束材はsb10w (H-100×100×6×8) とする。
  - 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
  - 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。

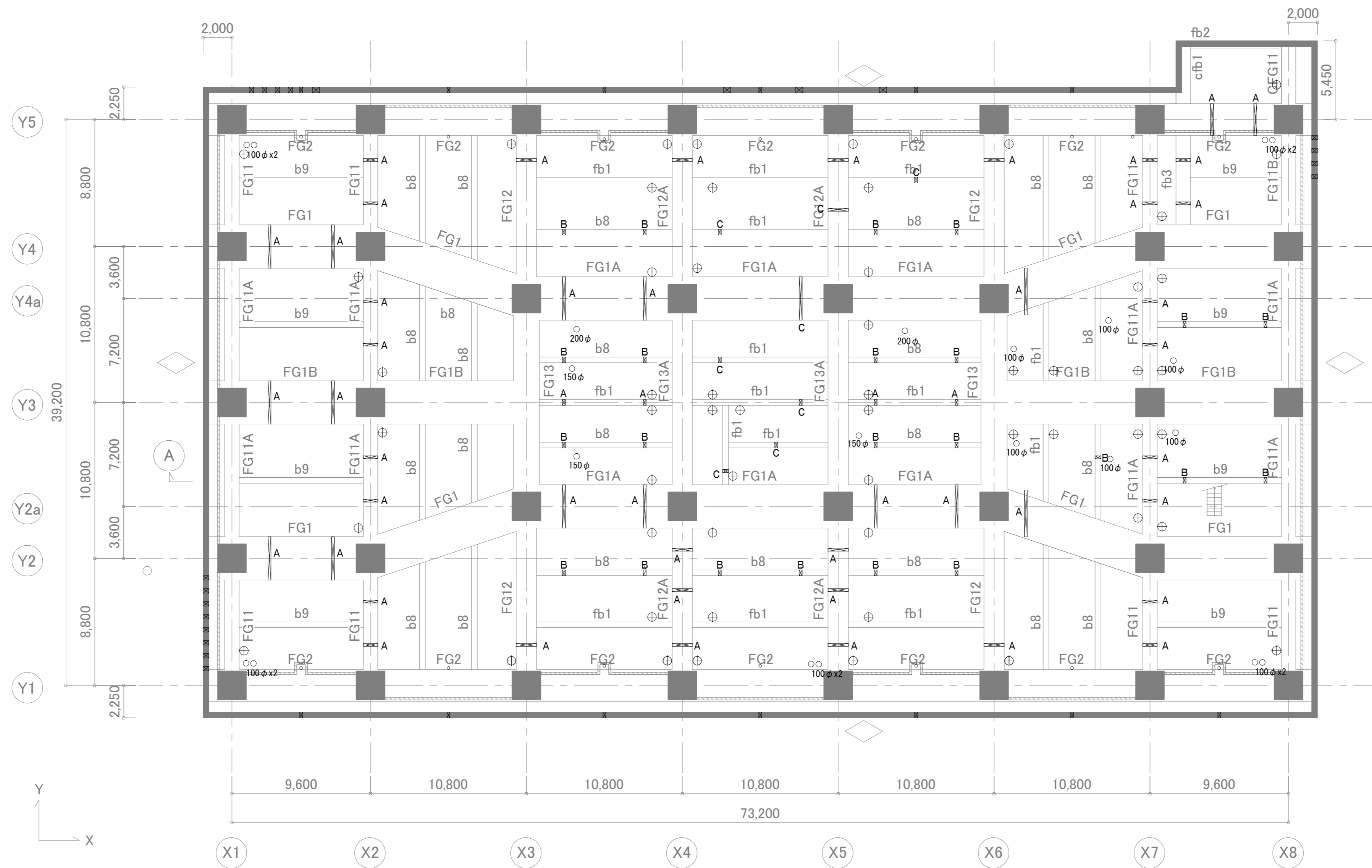
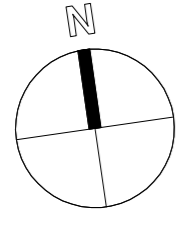
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	B	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	53	<b>外装受け鉄骨軸組図(4) 1:200</b>	見積版 2024.3.25
		<b>安井建築設計事務所</b>	最終契約版



共通事項(特記なき限り)

- 耐風梁はsb19h (H-194×150×6×9 ヨコ使い)とする。
- 束材はsb10w (H-100×100×6×8)とする。
- 接合部の仕様などは外装材受け材要領図に倣う。
- 鉛直ブレースは原則1スパンおきに設けること。
- ○印は剛接合を示す。

明石市政務局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	54	外装受け鉄骨軸組図(5) 1:200	見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



免震層伏図 1:200

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- RC梁の補強要領はH形配筋とし、本図による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ=50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- RC梁について、特記なき建築工事のスリーブ材は VU(硬質塩化ビニル管)とする。
- - 印は補強不要とする。
- ※ 印は貫通孔を中心とした1m範囲で当該梁のスターラップピッチを満足するよう配筋すること。
- RC立ち上がりRW15には各スパンΦ100を2箇所設けること。

免震ビット筋梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	配筋補強種別
FG1	100・200(半割)	6	*
FG1A	100・200(半割)	6	*
	100	1	*
	500	1	H18
FG1B	100・200(半割)	2	*
FG2	100・200(半割)	2	*
FG11	100・200(半割)	8	*
FG11A	100・200(半割)	8	*
FG12	100・200(半割)	4	*
FG12A	100・200(半割)	9	*
b8	100	19	-
b9	100	4	-
fb1	100・200(半割)	4	*
	100	6	*
	500	6	H8
fb3	100・200(半割)	1	*

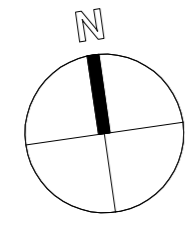
免震ビット筋床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
S16	100	16
	150	18
	200	4
	600	56

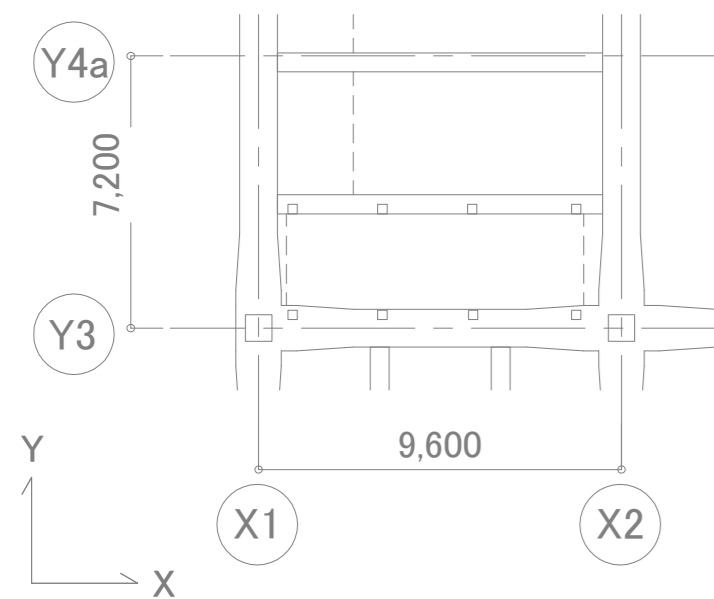
免震ビット筋壁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
RW40	100	14
	300	16
	500	4
W15	100	28

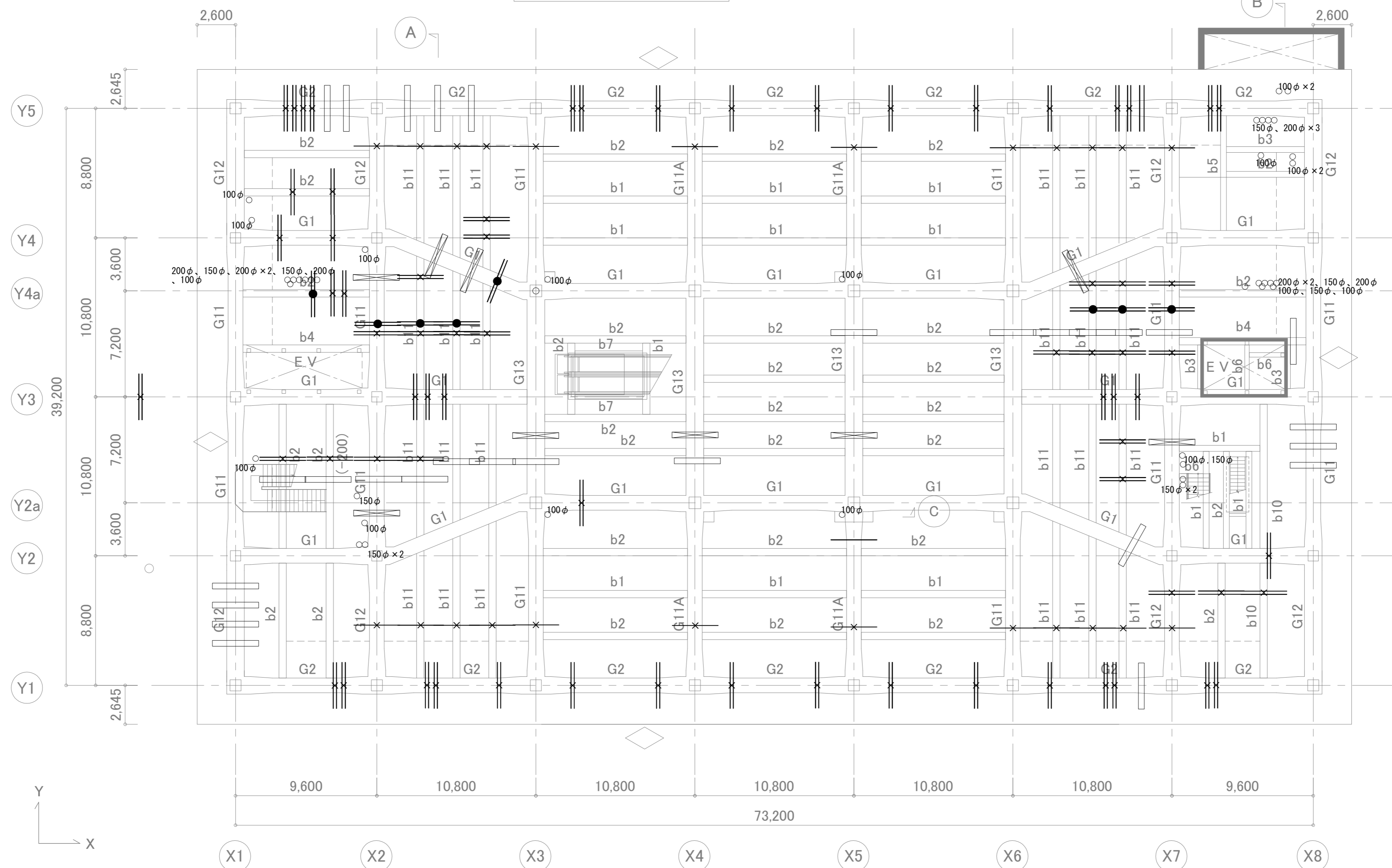
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	<b>B</b>	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	<b>55</b>	<b>梁貫通図(1)</b>	見積版 2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版



ESCAピット梁床伏図 1:200



EVピット梁床伏図 1:200



1階梁床伏図 1:200

梁貫通 径及び本数	径	本数
100φ	—	—
150φ	—	—
200φ	—	—
250φ	—	—
300φ	—	—
(500) 600φ	—	—
350φ	×	—
400φ	—	—
450φ	—	—

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- RC梁の補強要領はH形配筋とし、本図による。
- SRC梁のRC部の補強要領はMH形配筋とし、B-05による。
- SRC梁のS部の補強要領はプレート補強とし、B-08による。
- SRC梁貫通部には補強鋼管プレート进行のものとし、B-08による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ-50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- RC梁について、特記なき建築工事のスリーブ材は VU(硬質塩化ビニル管)とする。
- 印は補強不要とする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足しない場合、小梁追加にて補強すること。

1階梁貫通リスト

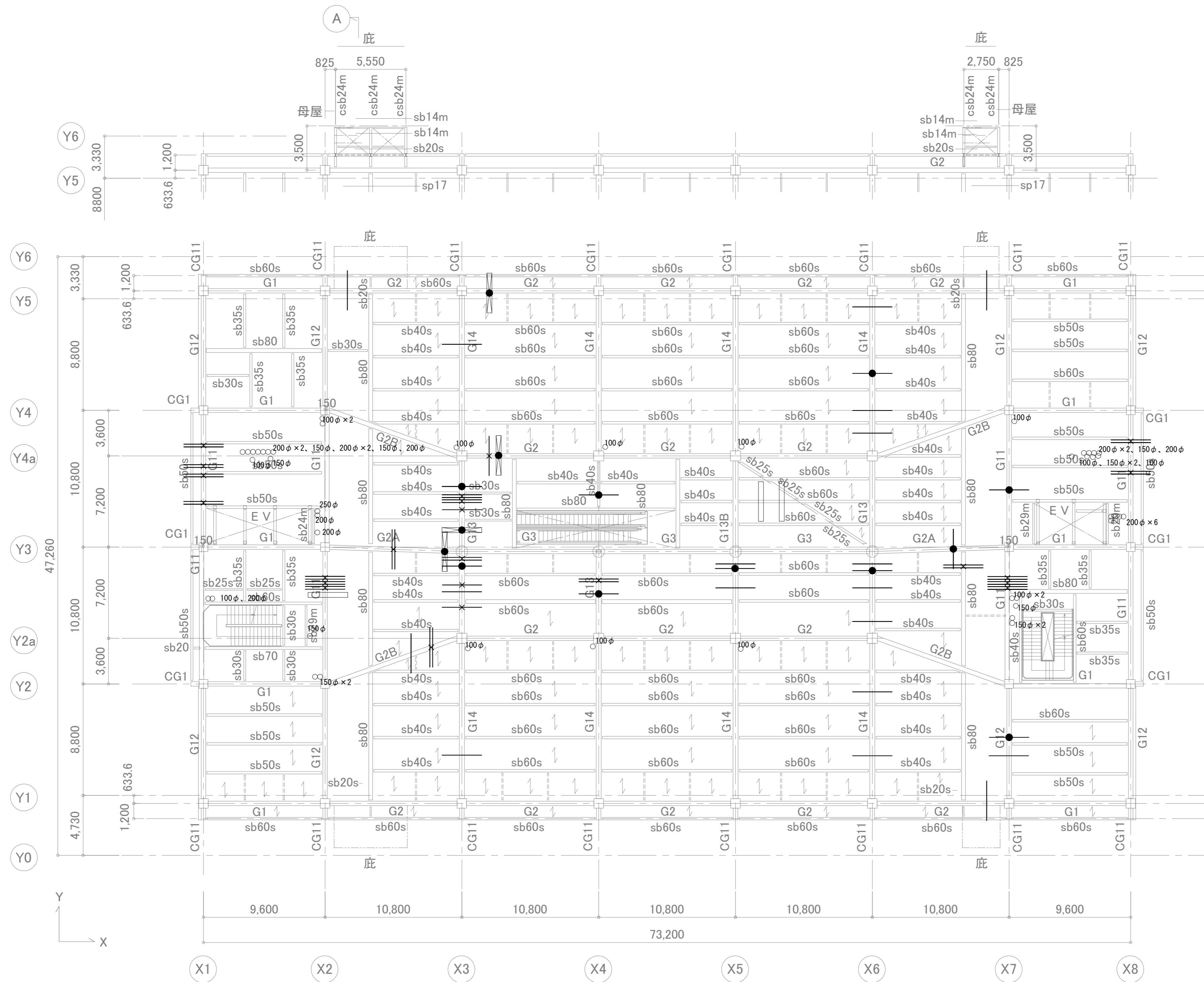
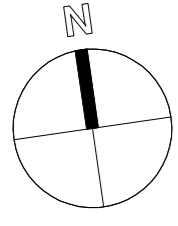
符号	スリーブ径 (mm)	箇所数	配筋補強種別	補強PL
G1	150	1	H6	PL-6
	200	10	H7	PL-9
	300	1	H8	2PL-9
	500	3	H9	2PL-16
G2	200	32	H7	PL-9
	300	7	H8	2PL-9
	500	1	H9	2PL-16
G11	150	2	H6	PL-6
	200	4	H7	PL-9
	300	5	H8	PL-12
	350	4	H8	2PL-9
	500	3	H9	2PL-16
G11A	100	1	-	PL-6
	350	4	H8	2PL-9
G12	200	1	H7	PL-9
	300	5	H8	2PL-9
	350	4	H9	2PL-9
G13	300	4	H8	2PL-9
	500	3	H9	2PL-16
	150	1	H4	
b2	200	2	H5	
	300	7	H6	
	300	1	H6	
b4	300	1	H6	
	200	1	H6	
b10	150	4	H4	
	200	14	H5	
	300	6	H6	
	350	12	H6	

1階床貫通リスト

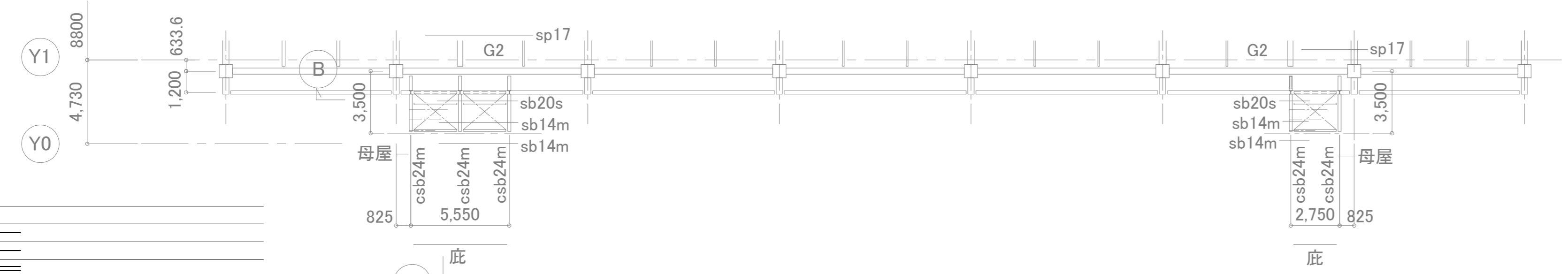
符号	スリーブ径 (mm)	箇所数
S19	100	5
	150	1
	200	3
S18	100	4
	150	4
	200	8
S17	100	7
	150	6
	200	0

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>		
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	<b>B</b>	<b>建築工事</b>	1:100	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	<b>56</b>	<b>梁貫通図 (2)</b>	1:200	見積版 2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版	





2階 梁床伏図 1:200



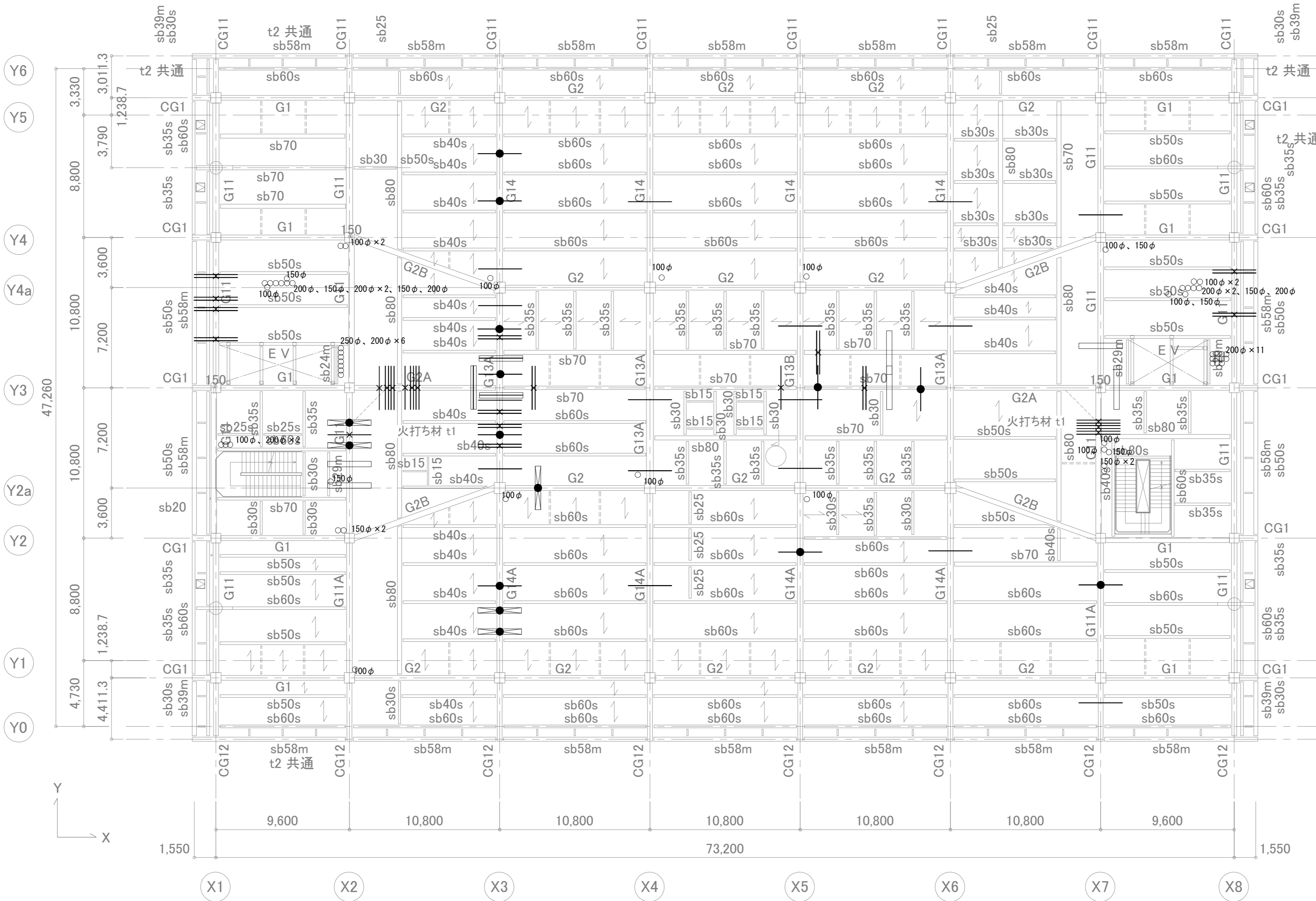
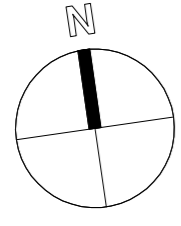
梁貫通	径及び本数
	径
	100φ
	150φ
	200φ
	250φ
	300φ
(500)	600φ
	350φ
	400φ
	450φ

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G2	100	3	PL-6
	350	1	2PL-12
	400	2	2PL-16
G2A	150	1	PL-6
	200	1	PL-9
	400	1	2PL-12
G2B	100	1	PL-6
	200	1	PL-9
G11	150	1	PL-6
	200	12	PL-9
	300	1	PL-12
G12	100	1	PL-6
	150	1	PL-6
	100	4	PL-6
	150	4	PL-6
G13	200	4	PL-9
	350	3	2PL-9
	400	1	2PL-12
	100	2	PL-6
G13B	150	1	PL-6
	100	7	PL-6
G14	150	1	PL-6
	150	1	2PL-9
sb40s	300	2	2PL-12
sb80	200	1	PL-9

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS11	100	6
	100	8
	150	10
DS2	200	17
	250	1
	150	2
DS3	150	2

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ=50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	<b>B</b>	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	<b>57</b>	<b>梁貫通図 (3)</b>	見積版 2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版



3階 梁床伏図 1:200

梁貫通 径及び本数

径	本数
100φ	1
150φ	1
200φ	1
250φ	1
300φ	1
(5.00) 600φ	1
350φ	1
400φ	1
450φ	1

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ=50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

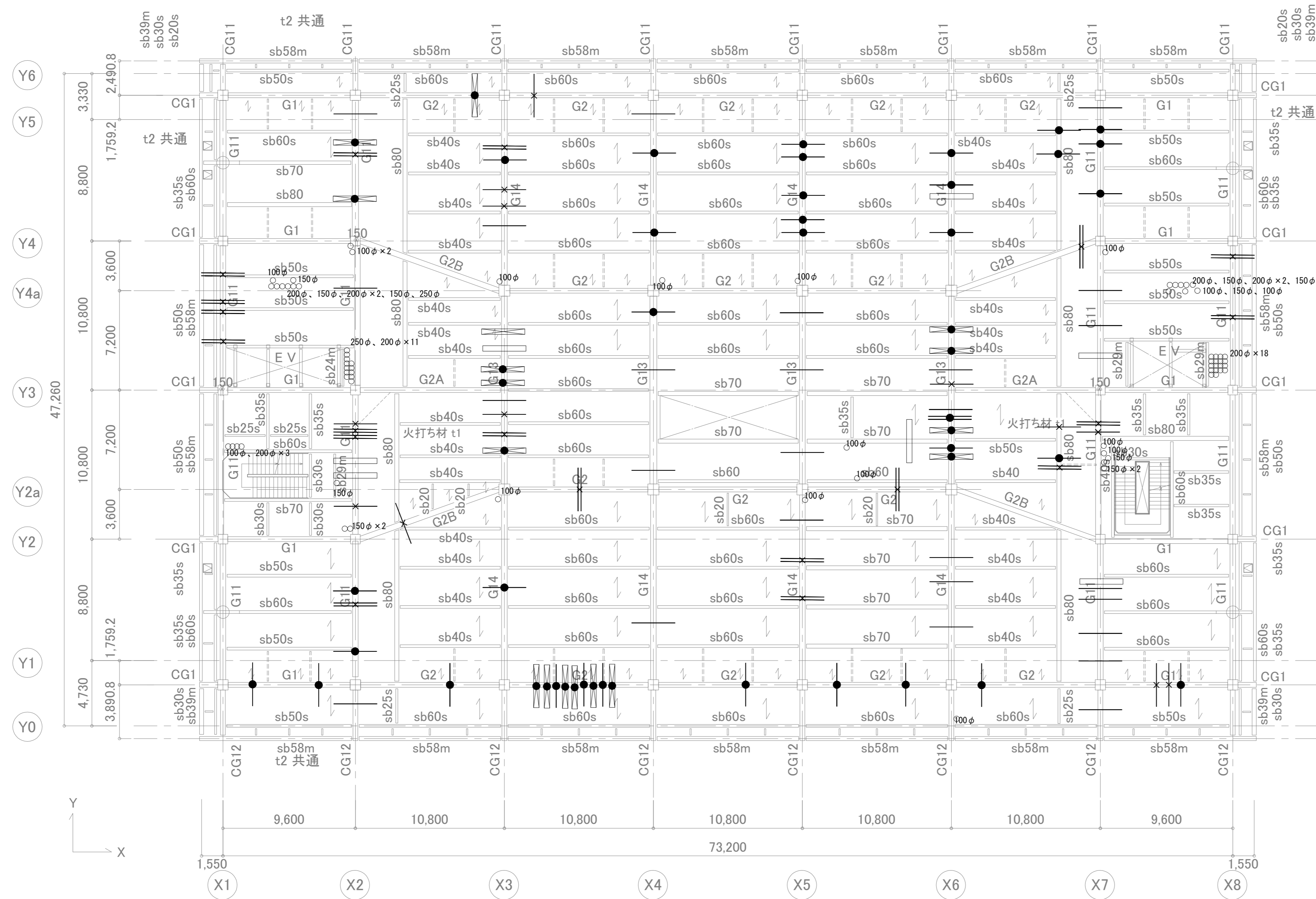
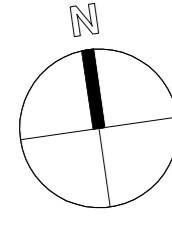
3階梁貫通リスト

符号	スリーブ径 (mm)	箇所数	補強PL
G1	300	1	既製品
G2	400	1	2PL-9
G2A	150	1	PL-6
	200	4	PL-9
	350	2	2PL-9
	400	1	2PL-12
G11	100	1	PL-6
	200	6	PL-9
	300	3	2PL-9
	350	1	2PL-12
	400	2	2PL-16
G11A	150	1	PL-6
	100	6	PL-6
G13A	150	3	PL-6
	200	4	PL-9
	450	2	2PL-16
G13B	100	3	PL-6
	100	3	PL-6
G14	150	2	PL-6
	100	2	PL-6
G14A	150	2	PL-6
	400	2	2PL-12
CG12	100	1	PL-6
	150	2	PL-6
sb70	200	5	PL-9
	300	2	2PL-9
	350	1	2PL-12

3階床貫通リスト

符号	スリーブ径 (mm)	箇所数
DS11	100	6
DS1	100	1
	100	10
	150	10
DS2	200	26
	250	1
DS3	150	2
DS4	100	1

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	<b>B</b> 建築工事 <b>58</b> 梁貫通図 (4)	1:50 1:200
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智		最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版
安井建築設計事務所			



4階 梁床伏図 1:200

7階梁貫通リスト

符号	スリーブ径 (mm)	箇所数	補強PL
G1	150	3	PL-6
	350	2	2PL-12
G2	150	8	PL-6
	200	2	PL-9
	350	1	2PL-12
	400	7	2PL-16
G2B	200	1	PL-9
	350	1	2PL-12
G11	100	9	PL-6
	150	5	PL-6
	200	10	PL-9
	300	4	2PL-9
	350	3	2PL-12
	400	2	2PL-16
	200φ、150φ、200φ×2、150φ		
G13	100	8	PL-6
	150	2	PL-6
	200	1	PL-9
	250	1	PL-9
	300	1	PL-12
	350	2	2PL-9
	400	7	2PL-12
G14	500	1	2PL-16
	100	5	PL-6
	150	10	PL-6
	200	1	PL-9
	300	1	PL-12
	350	4	2PL-9
	400	2	2PL-12
G14A	100	7	PL-6
	150	12	PL-6
	200	3	PL-9
	300	1	2PL-9
	350	2	2PL-9
CG12	100	2	PL-6
sb70	300	1	2PL-9
	150	3	PL-6
sb80	200	1	PL-9
	350	1	2PL-9

4階床貫通リスト

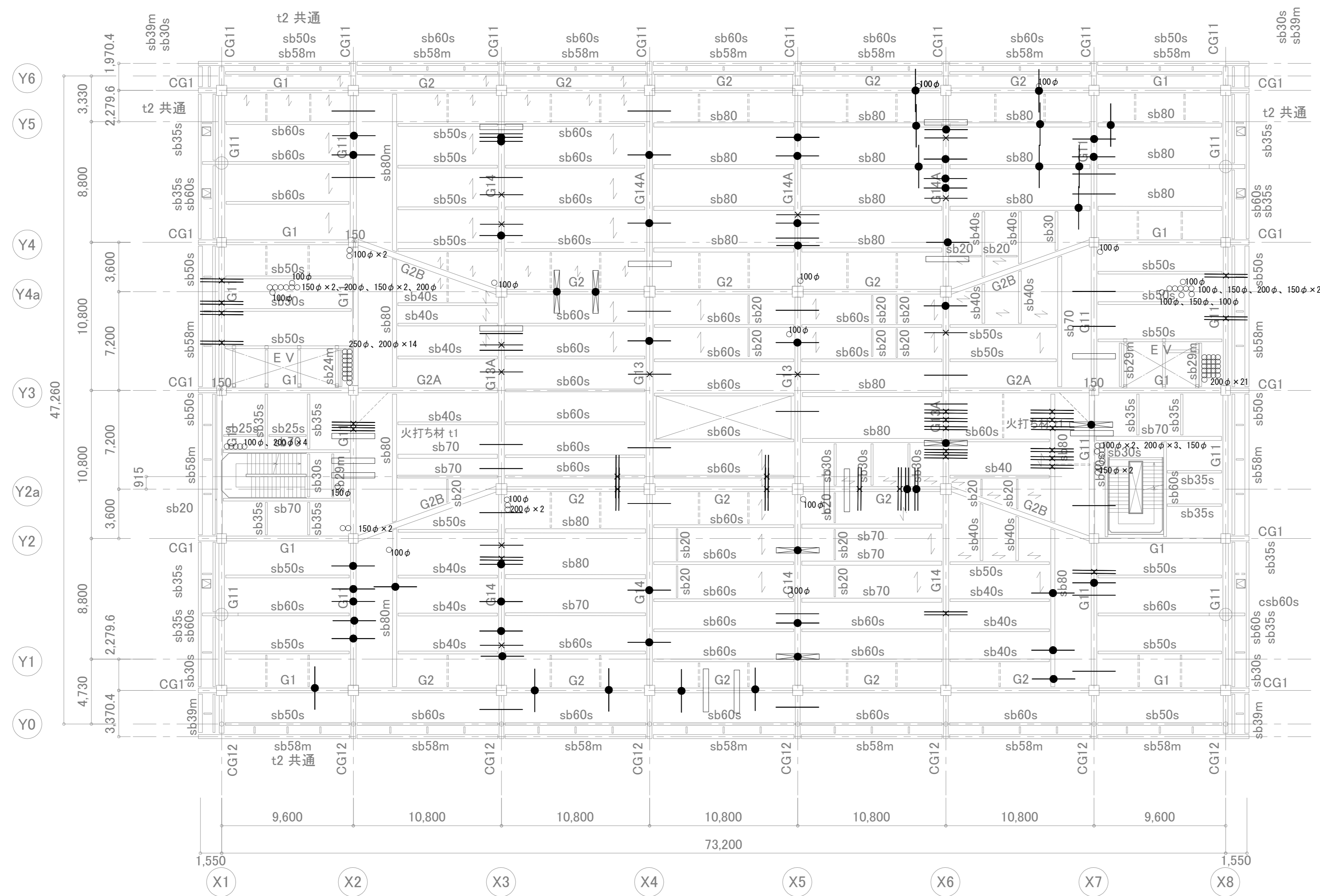
符号	スリーブ径 (mm)	箇所数
DS11	100	7
	100	2
DS2	100	9
	150	10
	200	38
	250	1
DS3	150	2

梁貫通 径及び本数

径	本数
100φ	7
150φ	2
200φ	9
250φ	10
300φ	38
(500) 600φ	1
350φ	1
400φ	1
450φ	2

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品 (大臣認定品) による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通については (スラブ鉄筋ピッチ-50) 以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

<b>明石市政政局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	<b>B</b> 建築工事	最終版 2024.3.25
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智		<b>59</b> 梁貫通図 (5) 1:200
		<b>安井建築設計事務所</b>	
		最終契約版	



5階 梁床伏図 1:200

梁貫通 径及び本数

径	本数
100φ	1
150φ	2
200φ	3
250φ	4
300φ	5
600φ	1
350φ	2
400φ	3
450φ	4

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ-50)以下となる径の開口は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

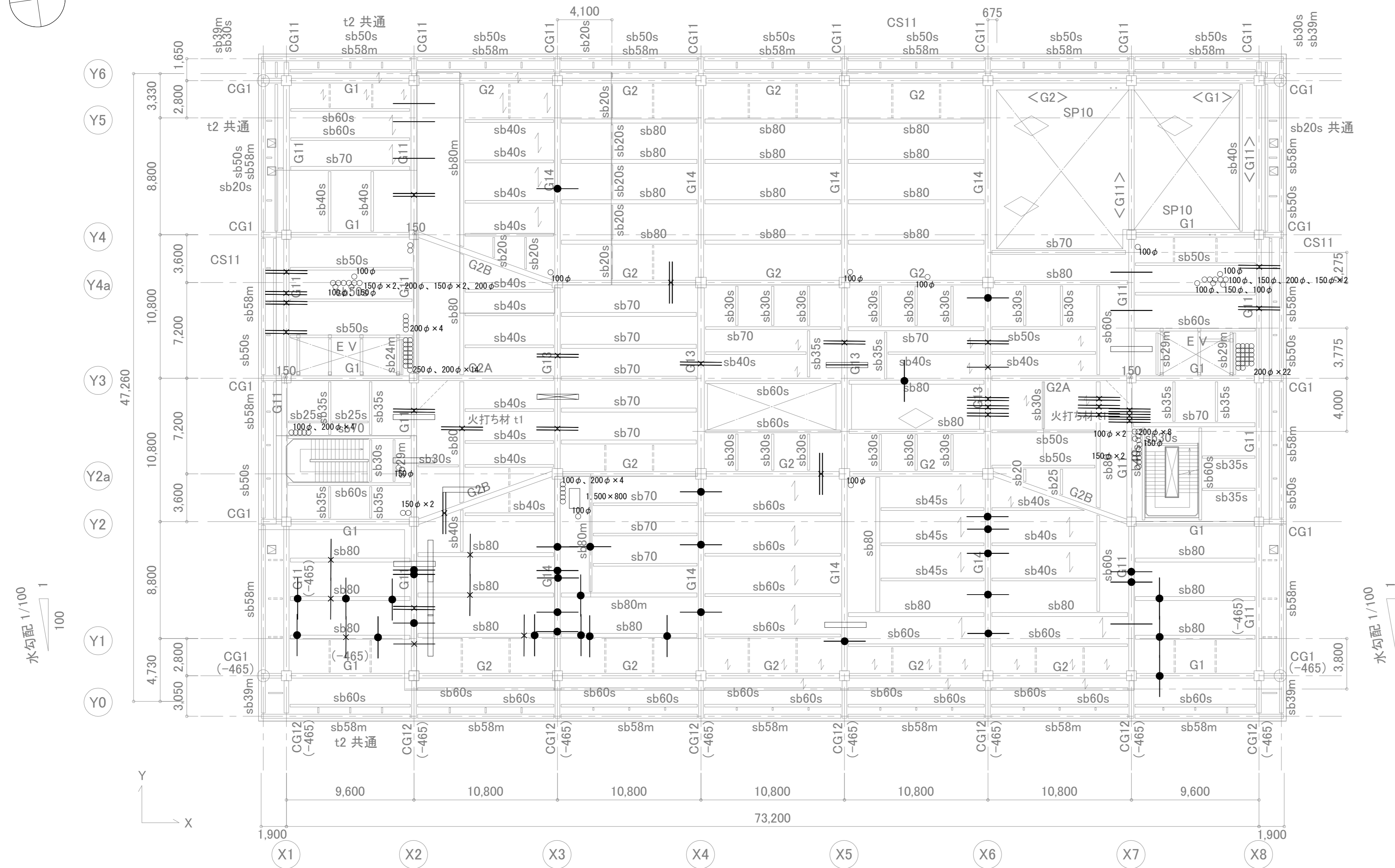
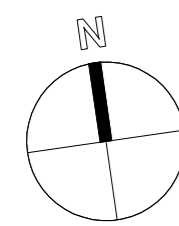
7階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G1	150	1	PL-6
	150	6	PL-6
	200	4	PL-9
	250	2	PL-12
	300	2	2PL-9
G2	400	2	2PL-16
	100	9	PL-6
	150	10	PL-6
	200	9	PL-9
	300	5	2PL-9
G11	400	1	2PL-16
	100	10	PL-6
	150	3	PL-6
	200	5	PL-9
	300	1	PL-12
G13	350	4	2PL-9
	400	1	2PL-12
	100	5	PL-6
	150	10	PL-6
	200	1	PL-9
G14	300	1	PL-12
	350	4	2PL-9
	400	2	2PL-12
	100	2	PL-6
	150	11	PL-6
G14A	300	3	2PL-9
	350	2	2PL-9
	100	2	PL-6
CG12	100	2	PL-6
sb60s	200	2	PL-9
sb80	150	10	PL-6
sb80m	200	6	PL-9
sb80m	150	1	PL-6

5階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS11	100	6
DS1	100	2
DS2	100	12
	150	12
	200	45
	250	1
	100	3
DS3	150	2
	200	2

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	<b>B</b> <b>60</b>	<b>建築工事</b> <b>梁貫通図(6)</b>	最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	<b>1:200</b>	<b>安井建築設計事務所</b>	



6階 梁床伏図 1:200

6階梁貫通リスト

符号	スリーブ径 (mm)	箇所数	補強PL
G1	150	1	PL-6
G2	200	1	PL-9
G2B	200	1	PL-9
G11	100	6	PL-6
	150	5	PL-6
	200	12	PL-9
	300	4	2PL-9
	350	1	2PL-12
G13	150	1	PL-6
	200	8	PL-9
	350	1	2PL-9
G14	400	1	2PL-12
	500	1	2PL-16
	150	15	PL-6
	300	1	PL-12
	150	11	PL-6
sb80	200	5	PL-9
	300	4	PL-12
	350	6	2PL-9
	150	2	PL-6
sb80m	150	2	PL-6

6階床貫通リスト

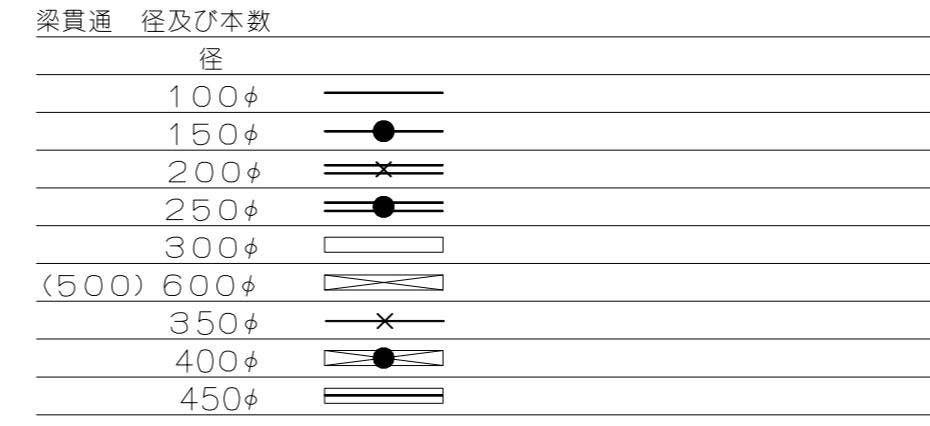
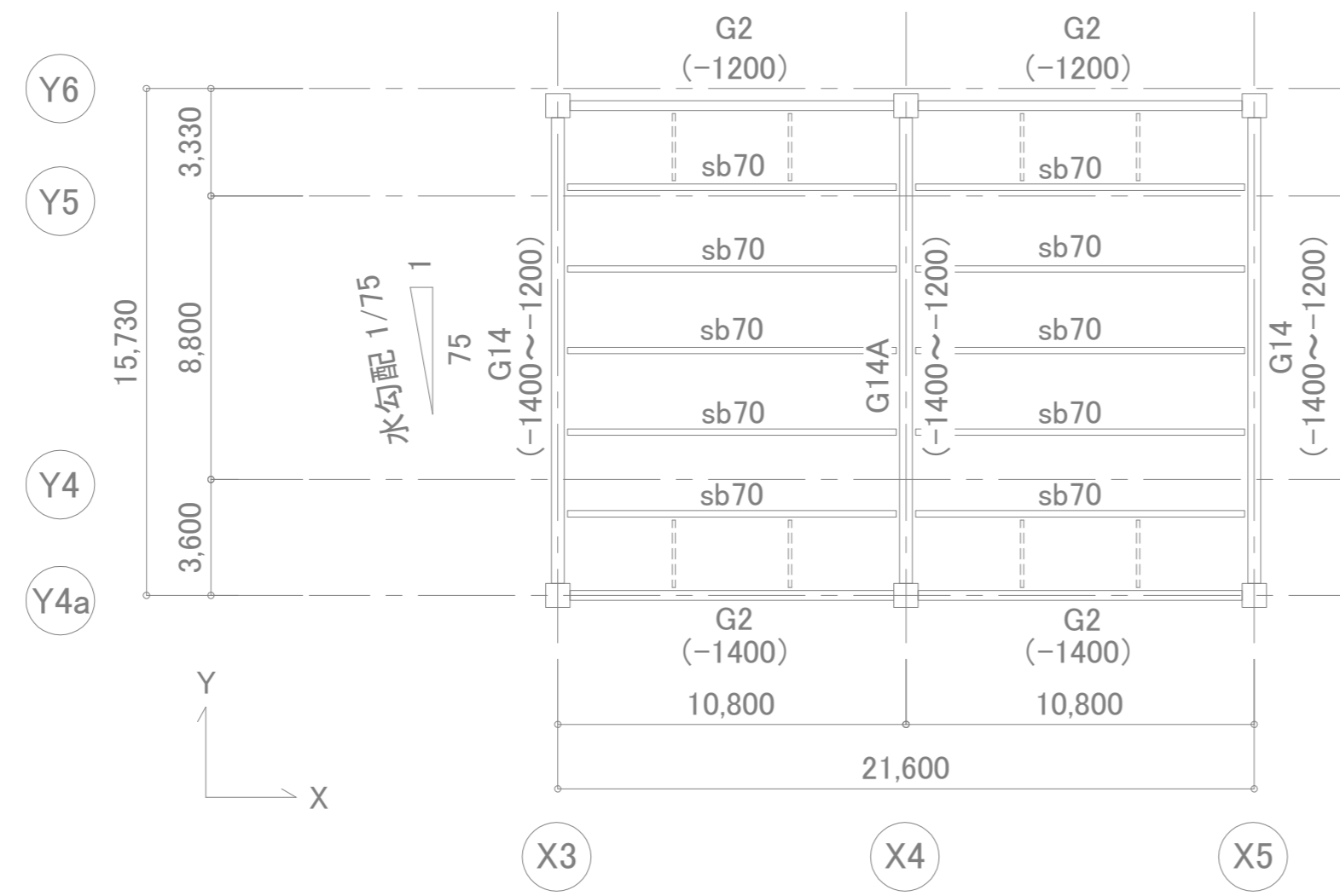
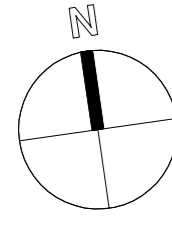
符号	スリーブ径 (mm)	箇所数
DS1	100	2
	100	14
	150	13
	200	59
DS2	250	1
	1500x800	1
DS3	100	2
	150	2

梁貫通 径及び本数

径	本数	記号
100#	1	○
150#	1	●
200#	1	×
250#	1	○
300#	1	○
(500) 600#	1	○
350#	1	×
400#	1	●
450#	1	○

- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- × 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ=50)以下となる径の開孔は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>				
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	<b>B</b>	<b>建築工事</b>			
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智					
		<b>61</b>	<b>梁貫通図 (7)</b>	1:200	最終版	2024.3.25
				<b>安井建築設計事務所</b>		最終契約版

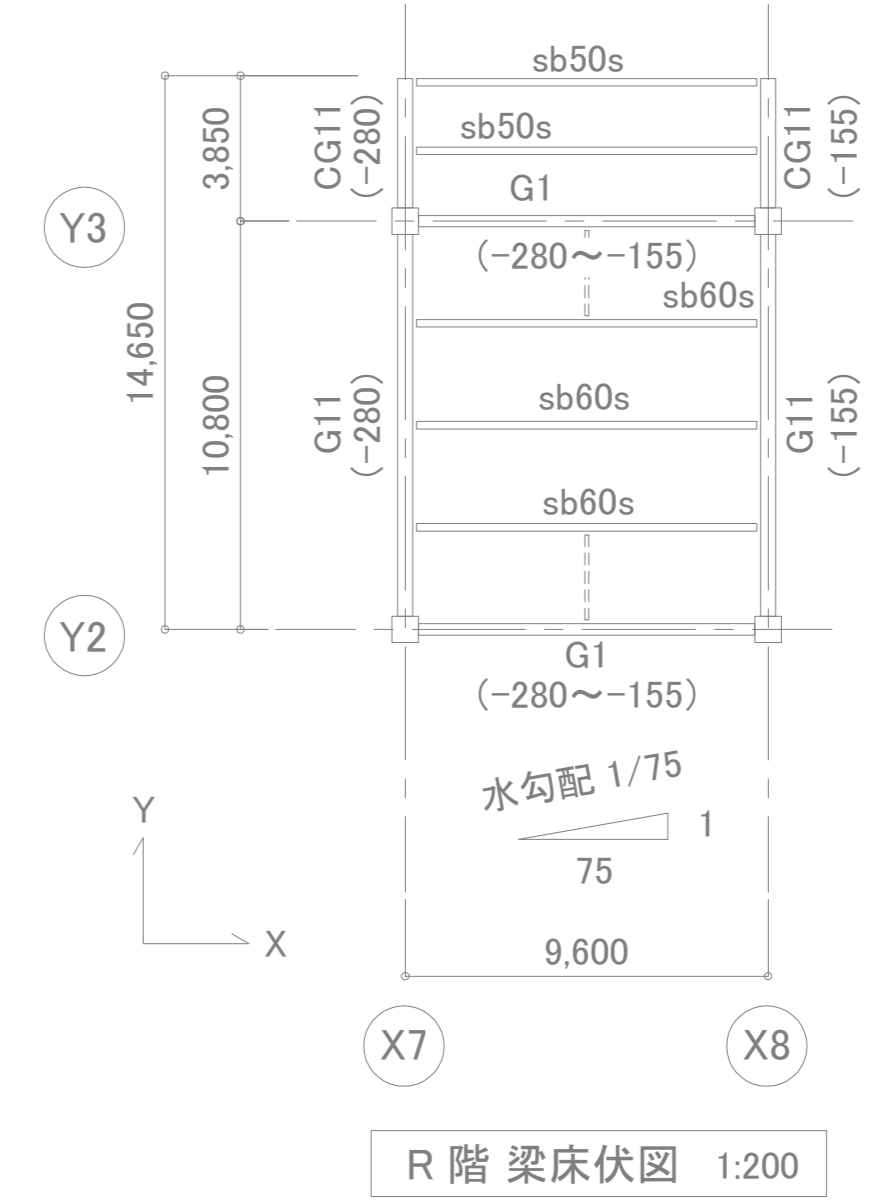
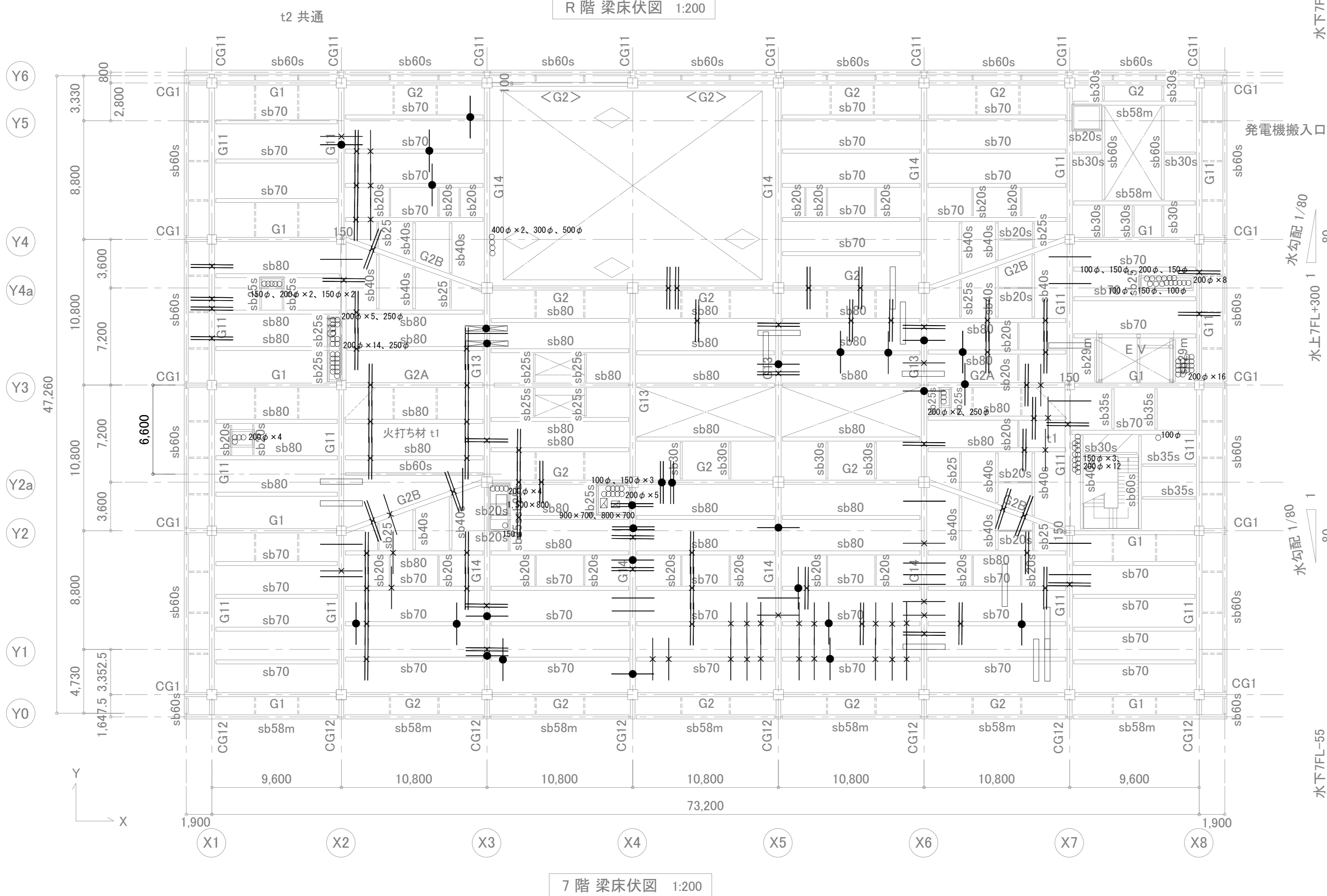


7階梁貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数	補強PL
G2	200	6	PL-9
	250	2	PL-9
	300	1	2PL-9
G2A	150	1	PL-6
	200	3	PL-9
	350	1	2PL-9
G2B	100	1	PL-6
	200	5	PL-9
G11	350	1	2PL-9
	400	2	2PL-16
	100	1	PL-6
	150	3	PL-6
	200	5	PL-9
G13	300	2	PL-12
	350	1	2PL-9
	400	2	2PL-12
	100	1	PL-6
	150	3	PL-6
	200	5	PL-9
G14	200	5	PL-6
	300	2	PL-12
	350	6	2PL-9
	200	9	PL-9
	250	12	PL-12
sb70	300	24	2PL-9
	200	3	PL-9
sb80	250	21	PL-12
	300	3	PL-12

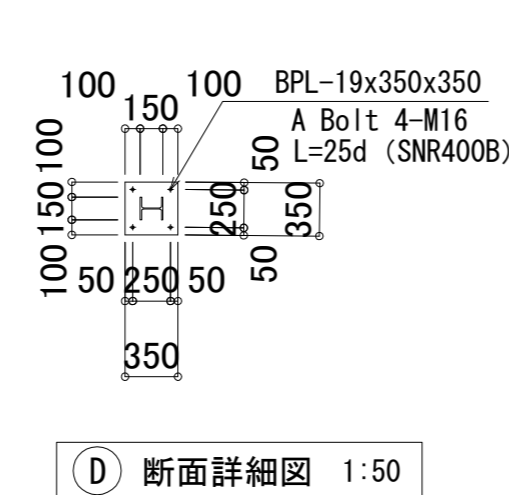
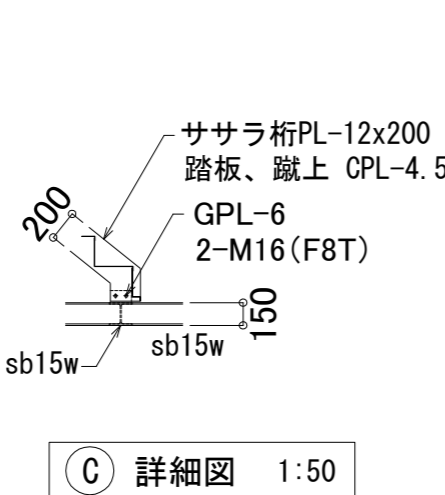
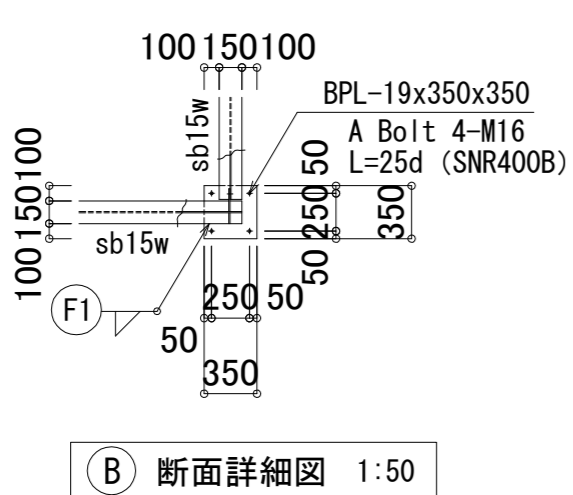
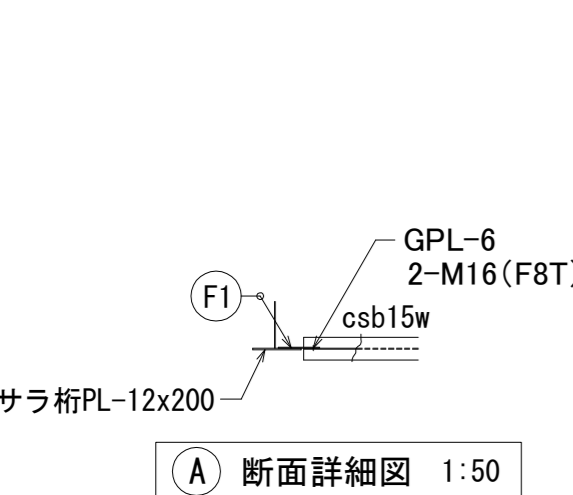
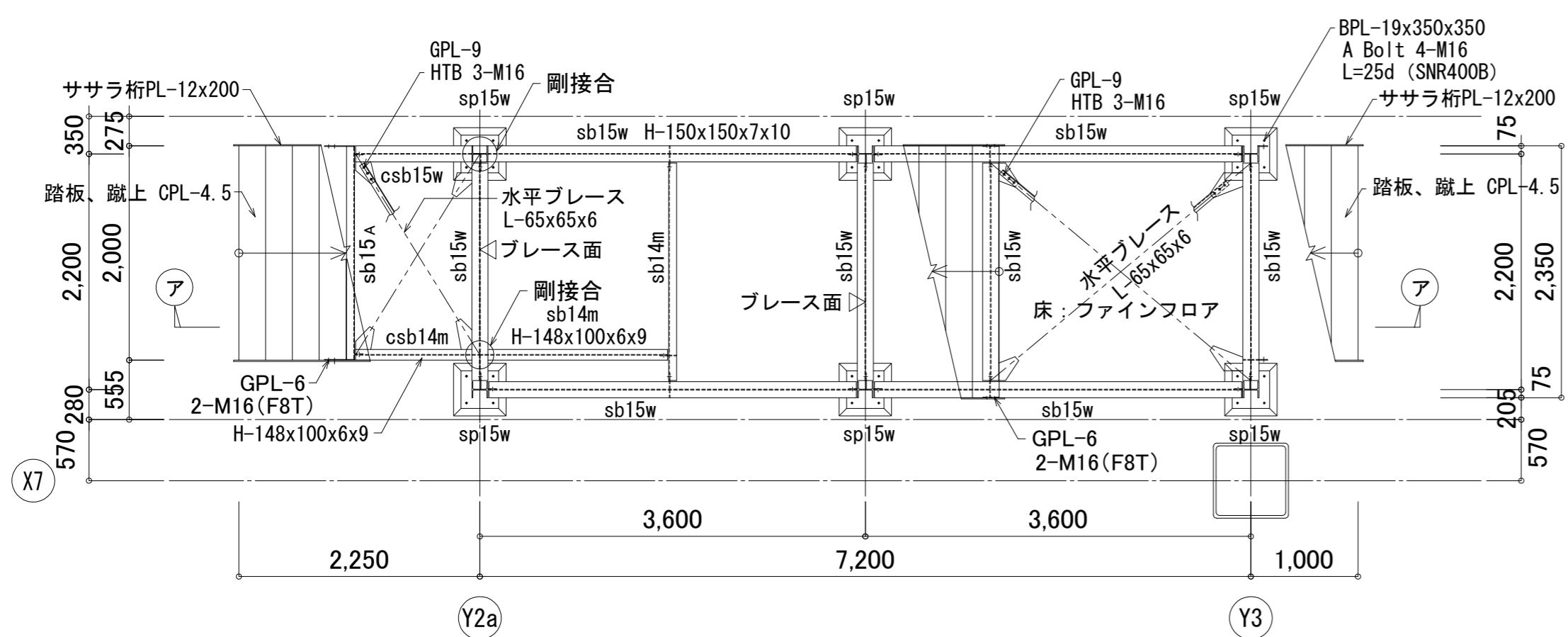
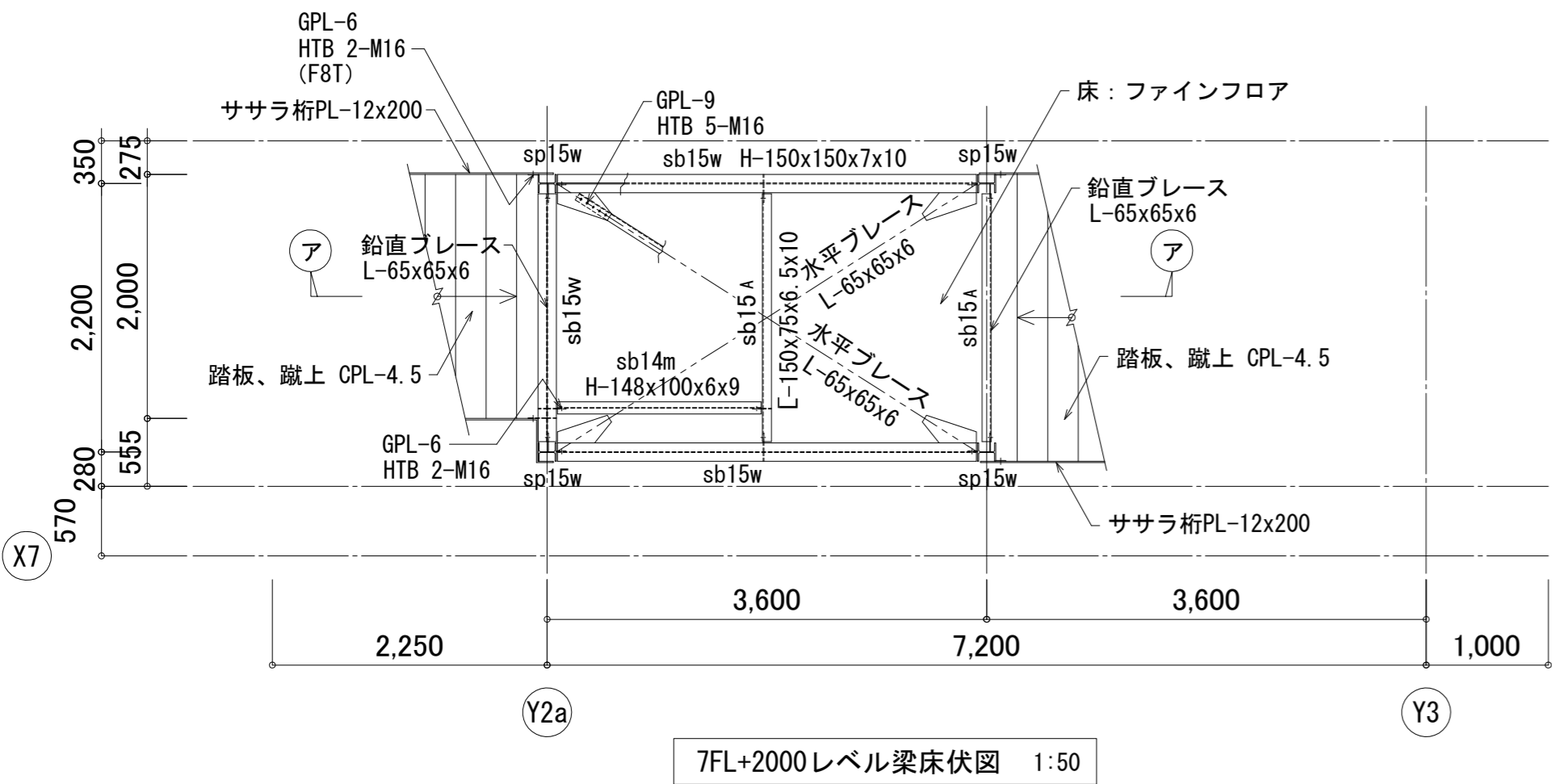
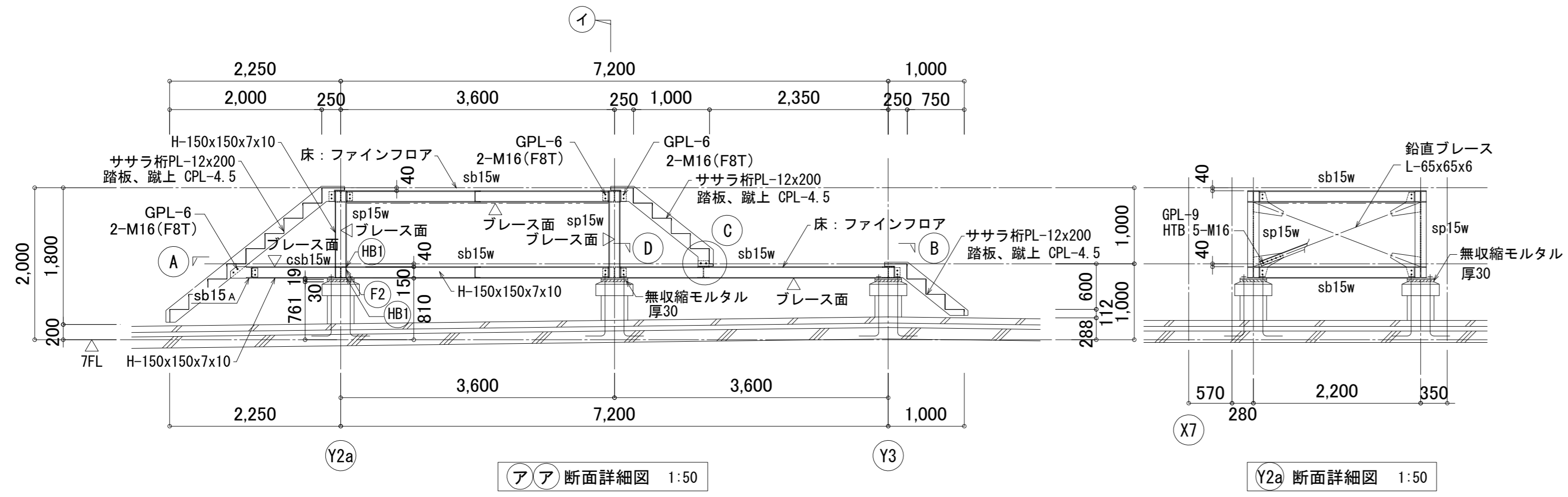
7階床貫通リスト

符号	スリーブ径(mm)	箇所数
DS1	100	1
	150	3
DS2	200	28
	100	4
DS4	150	10
	200	46
	250	3
	800×700	1
	900×700	1
CS10	1500×800	1
	300	1
	400	2
	500	1

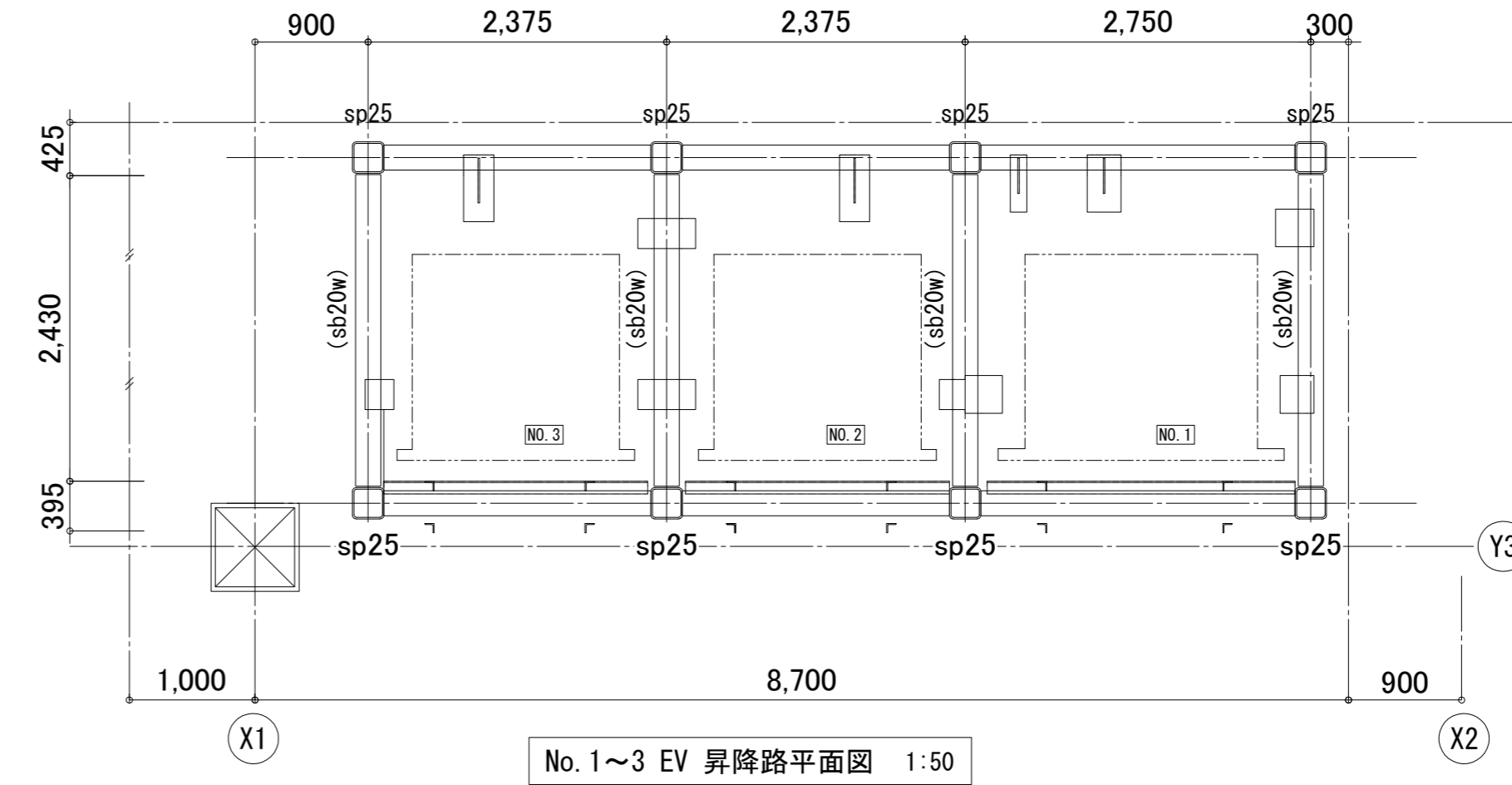


- スリーブ外径は 呼び径 とする。
- S梁の補強要領はプレート補強とし、B-07による。
- 梁貫通補強は監督員の承認を受け、既製品(大臣認定品)による補強とすることができる。
- 既製品による補強の計算書を掲示し監督員の承認を得ること。
- 梁貫通に関しては、リスト数量を正とし、伏図は参考とする。
- 床貫通について(スラブ鉄筋ピッチ=50)以下となる径の開孔は、鉄筋を切断しないものとする。
- 床スリーブ間隔が3Dを満足できない場合、小梁追加にて補強すること。

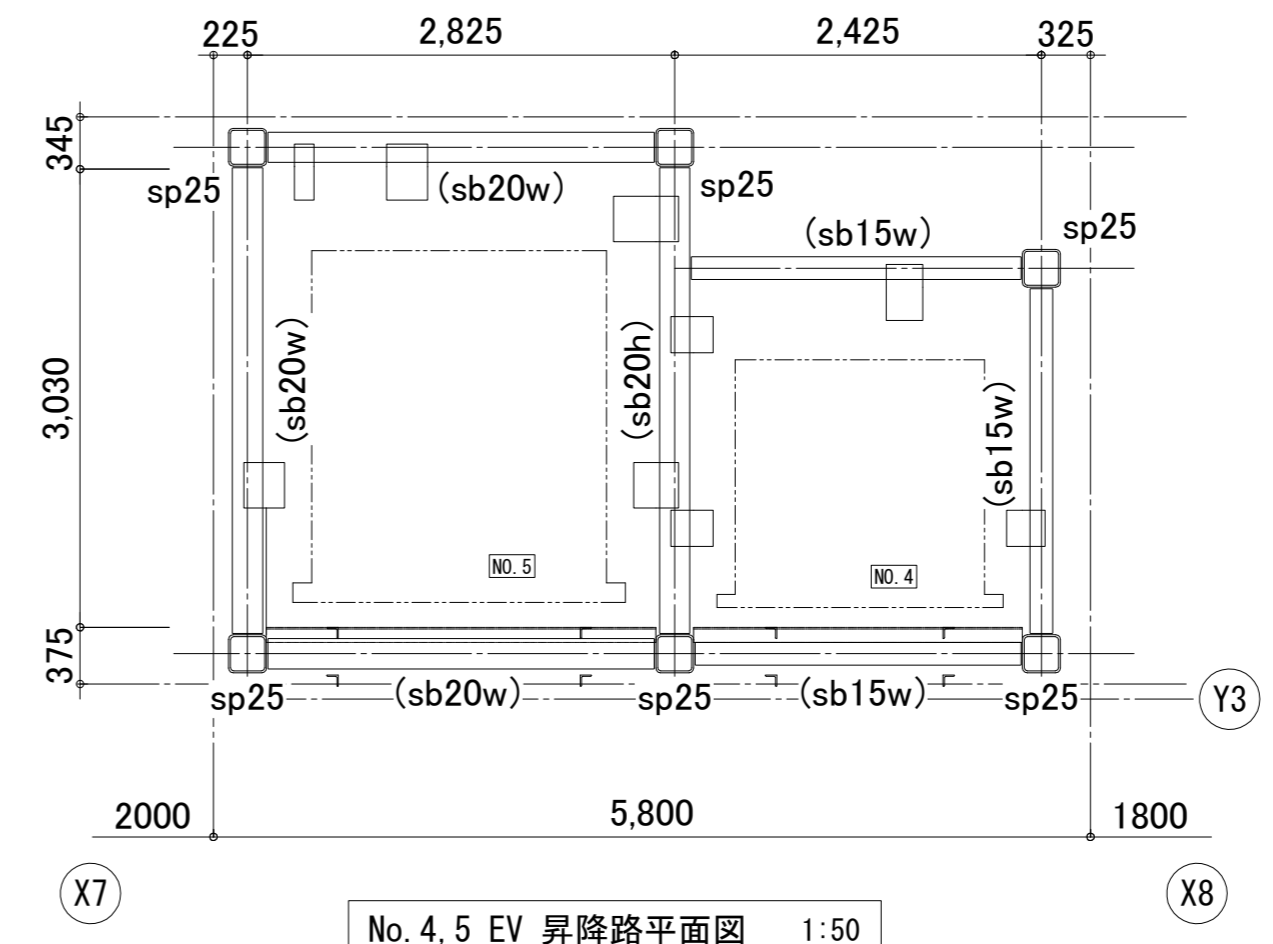
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	<b>B</b>	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	<b>62</b>	<b>梁貫通図 (8)</b>	見積版 2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版



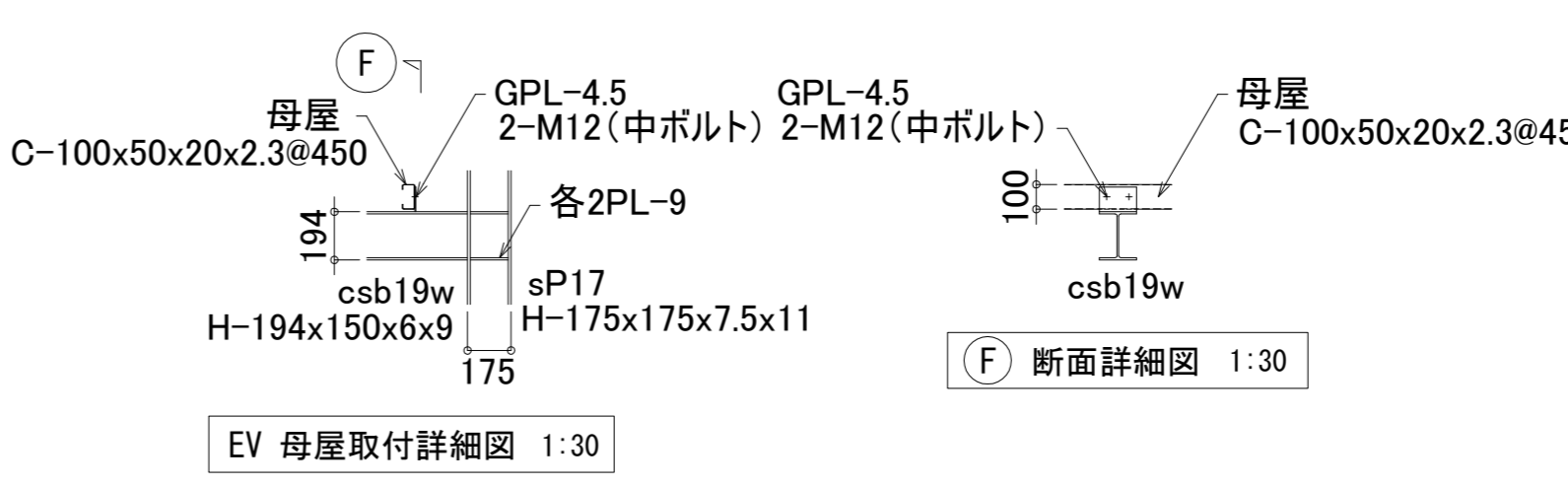
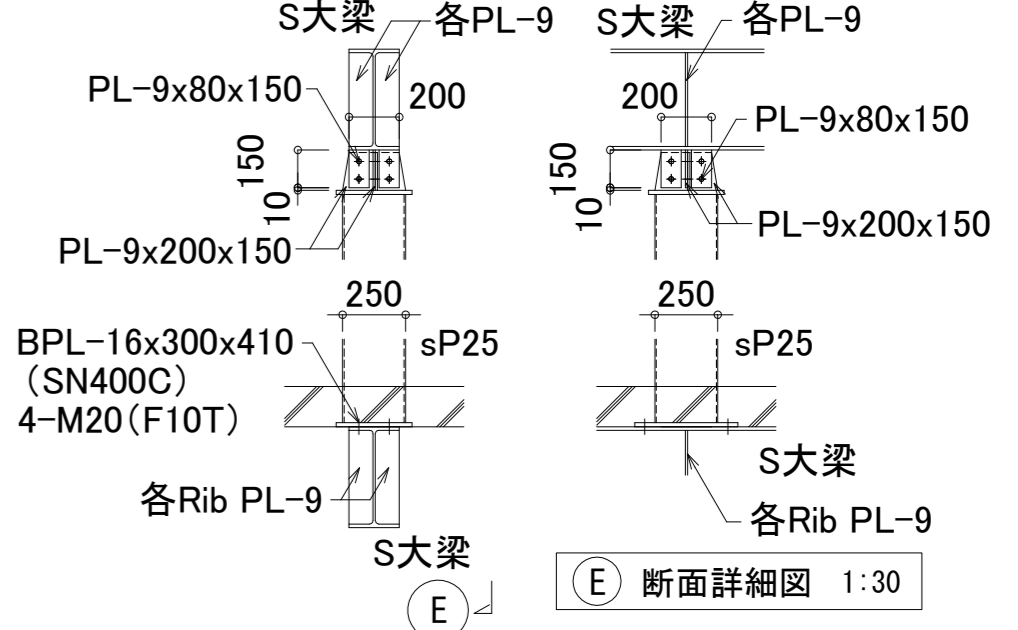
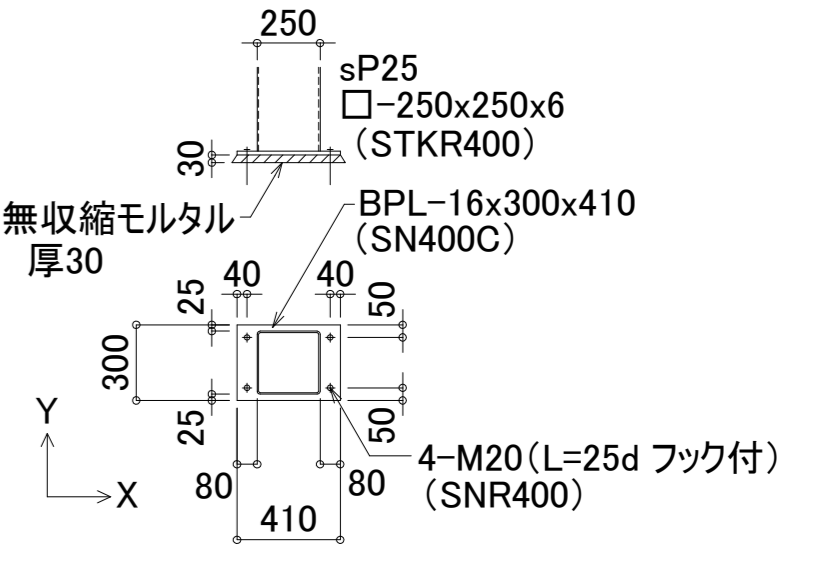
共通事項 (特記なき限り)  
 ○ 鋼材種は SN400A とする。  
 ○ 高力ボルトは F8T とする。  
 ○ 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキ (JIS H 8643) とする。  
 ○ アンカーボルト材質は SNR400B とする。



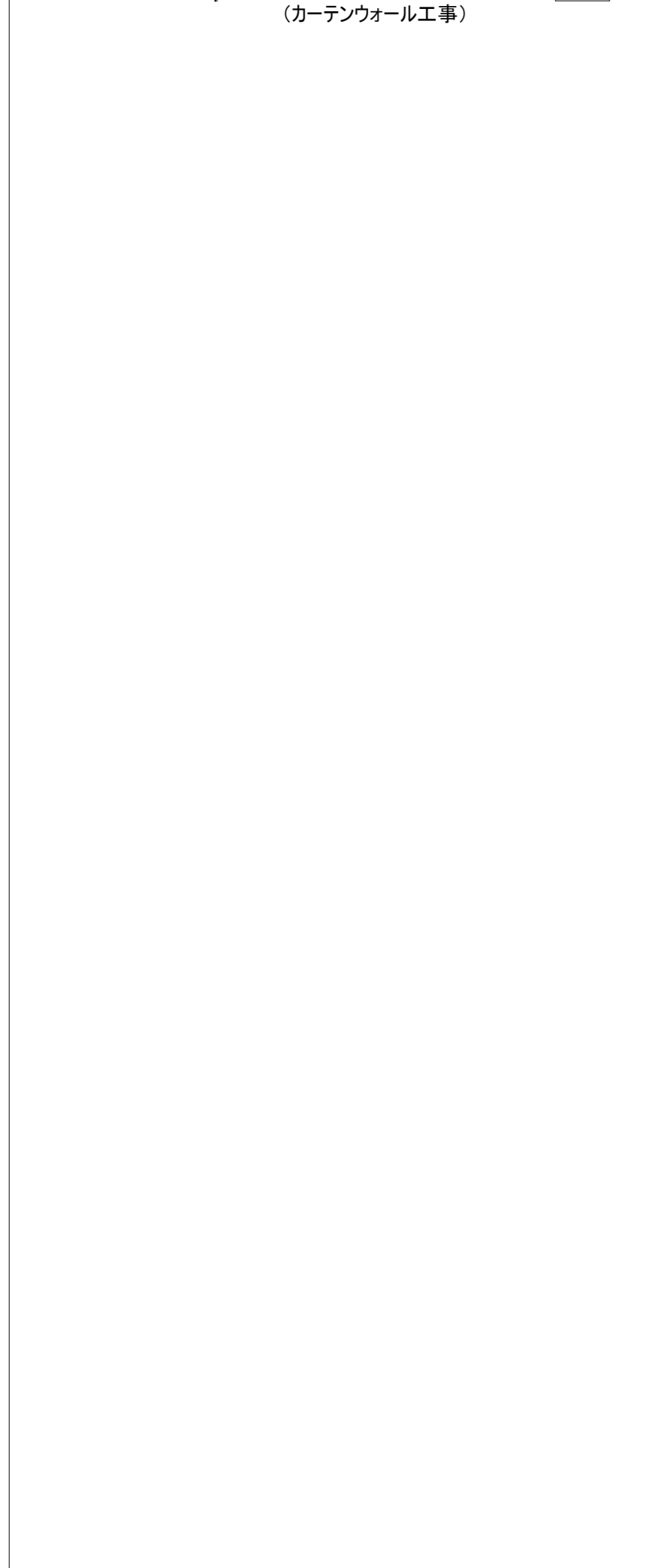
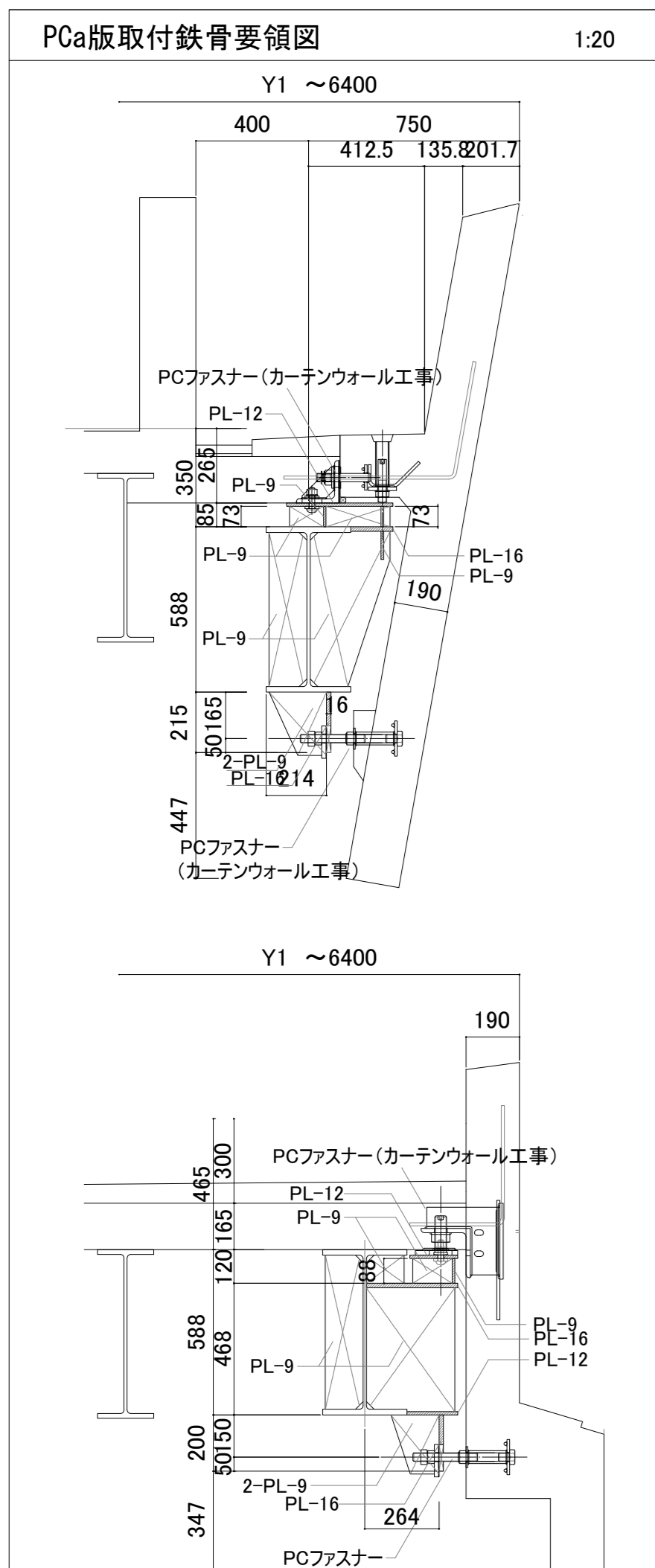
特記なき限り  
 ○ (sb20w) は中間ビーム H-200x200x8x12 とする。  
 ○ 中間ビーム取付け位置 (梁天端) は下記による。  
 6FL+3050, 5FL+2500, 4FL+2500, 3FL+2500, 2FL+2500, 1FL+3000, 1FL+1800 (共通)



特記なき限り  
 ○ (sb20w) は中間ビーム H-200x200x8x12 とする。  
 ○ (sb20h) は中間ビーム H-200x200x8x12 (横使い) とする。  
 ○ (sb15w) は中間ビーム H-150x150x7x10 とする。  
 ○ 中間ビーム取付け位置 (梁天端) は下記による。  
 7FL+3600 No. 5EVの場合のみ。  
 6FL+3000, 5FL+3000, 4FL+3000, 3FL+3000, 2FL+3000, 1FL+2350 (共通)



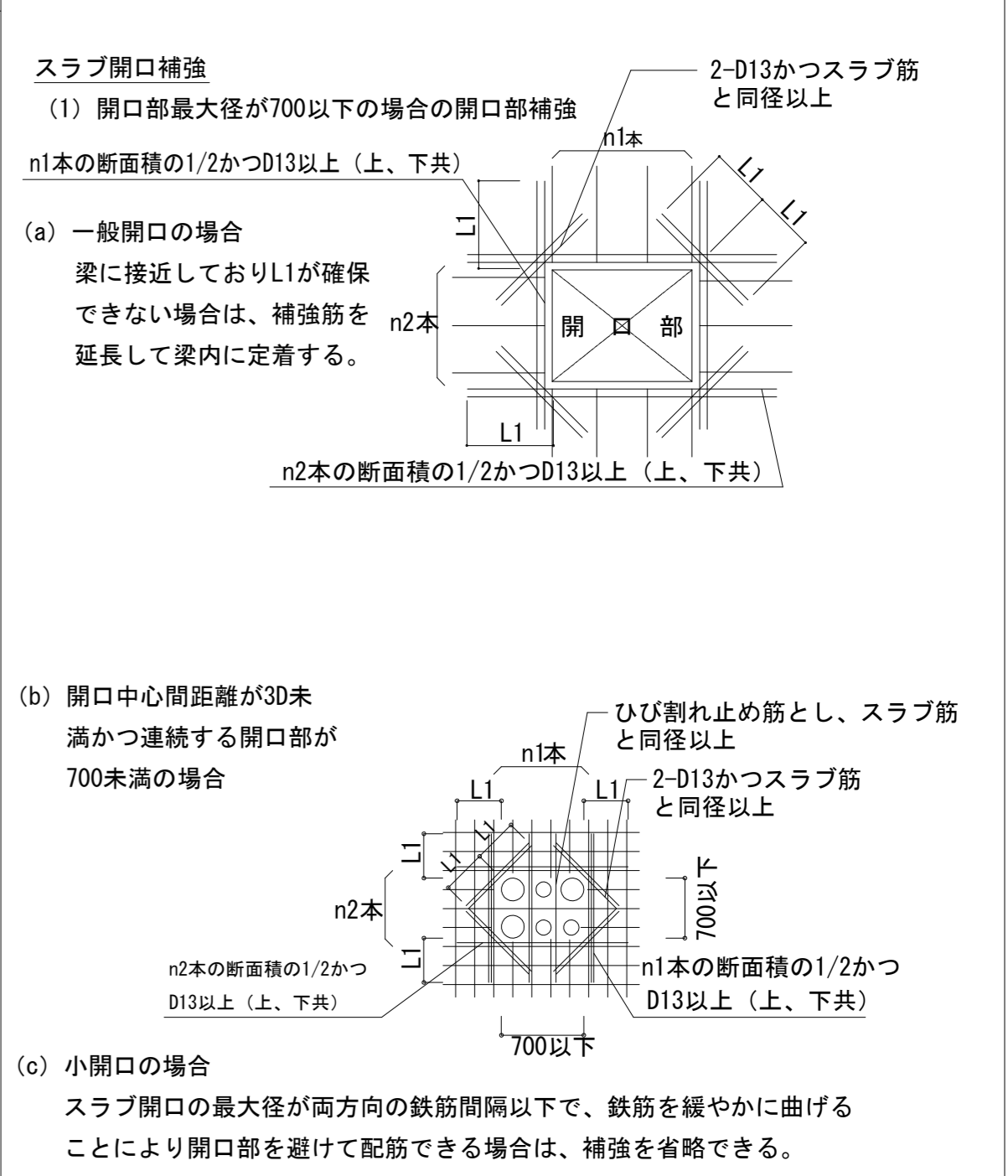
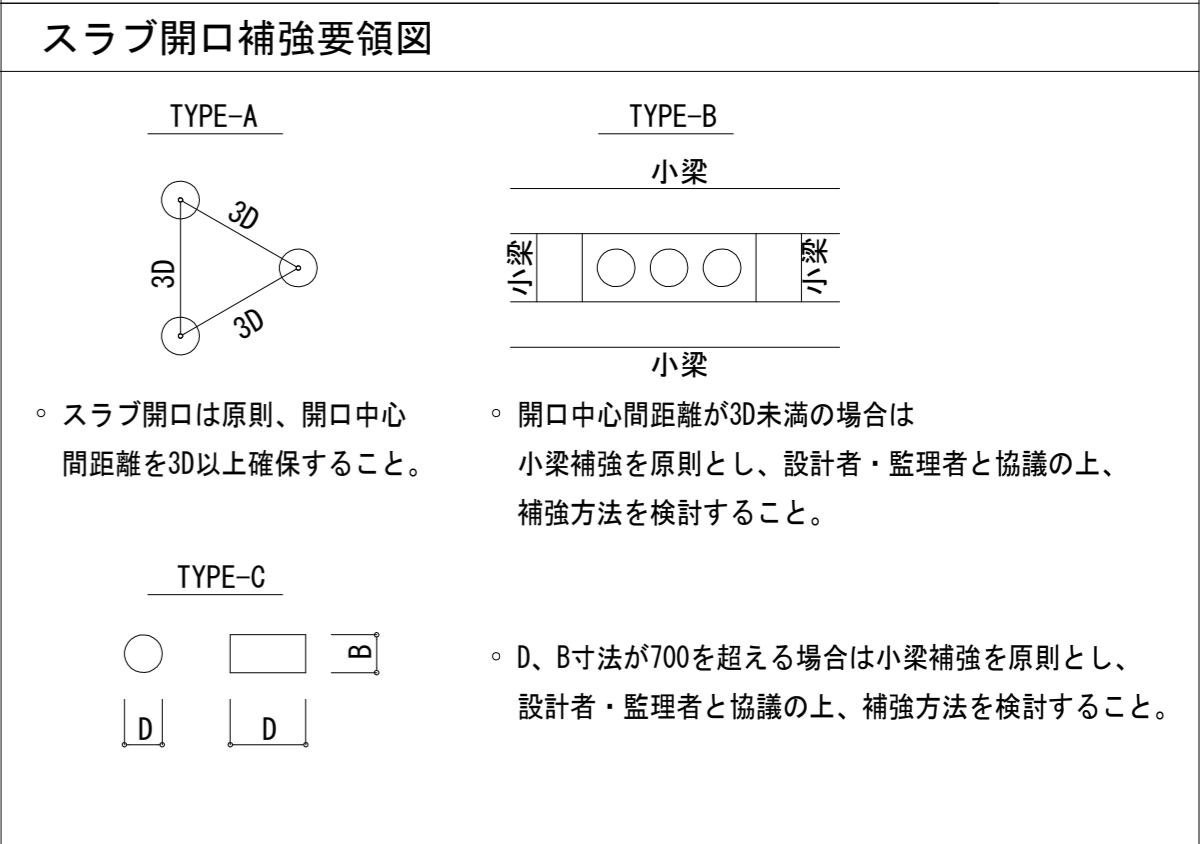
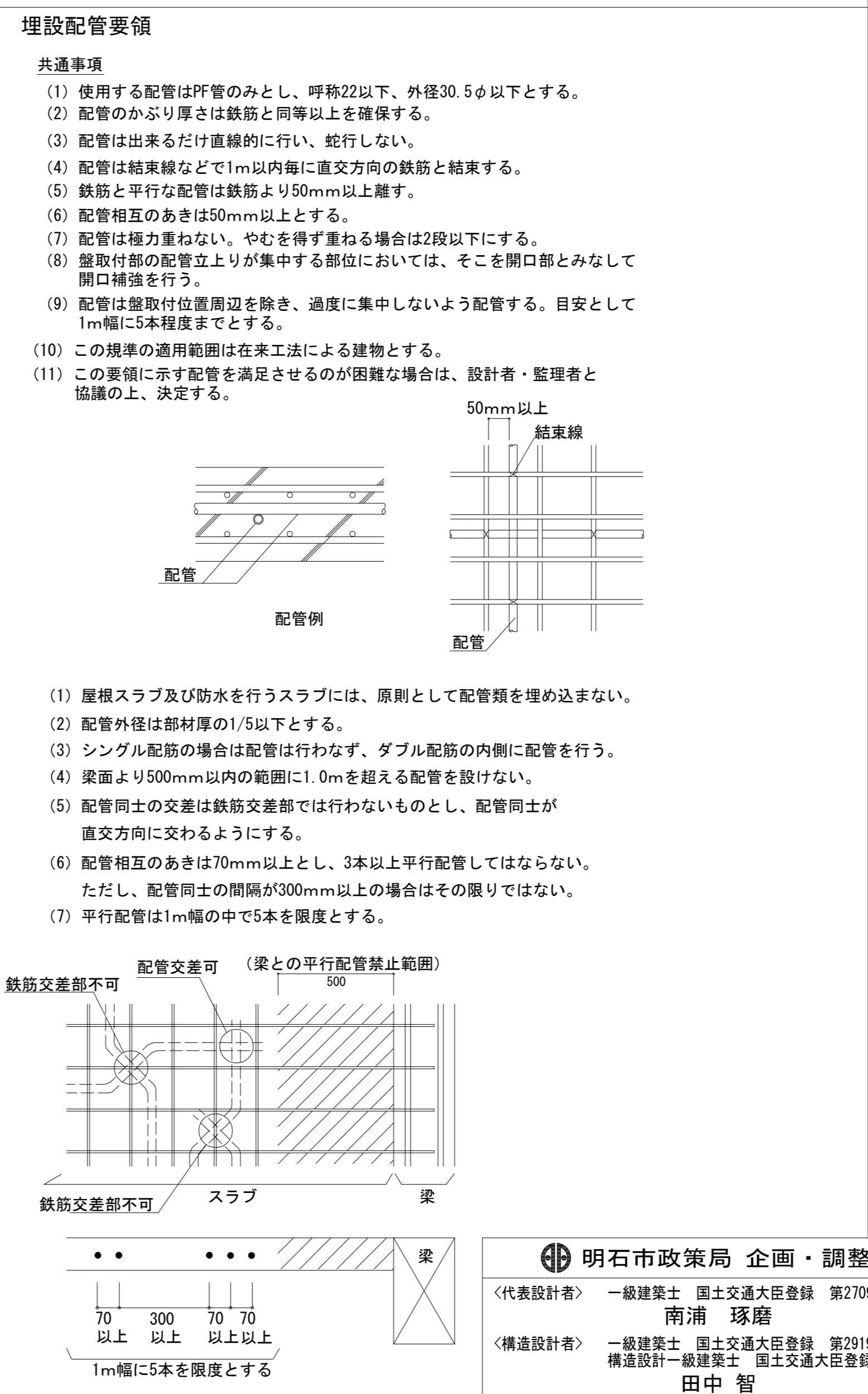
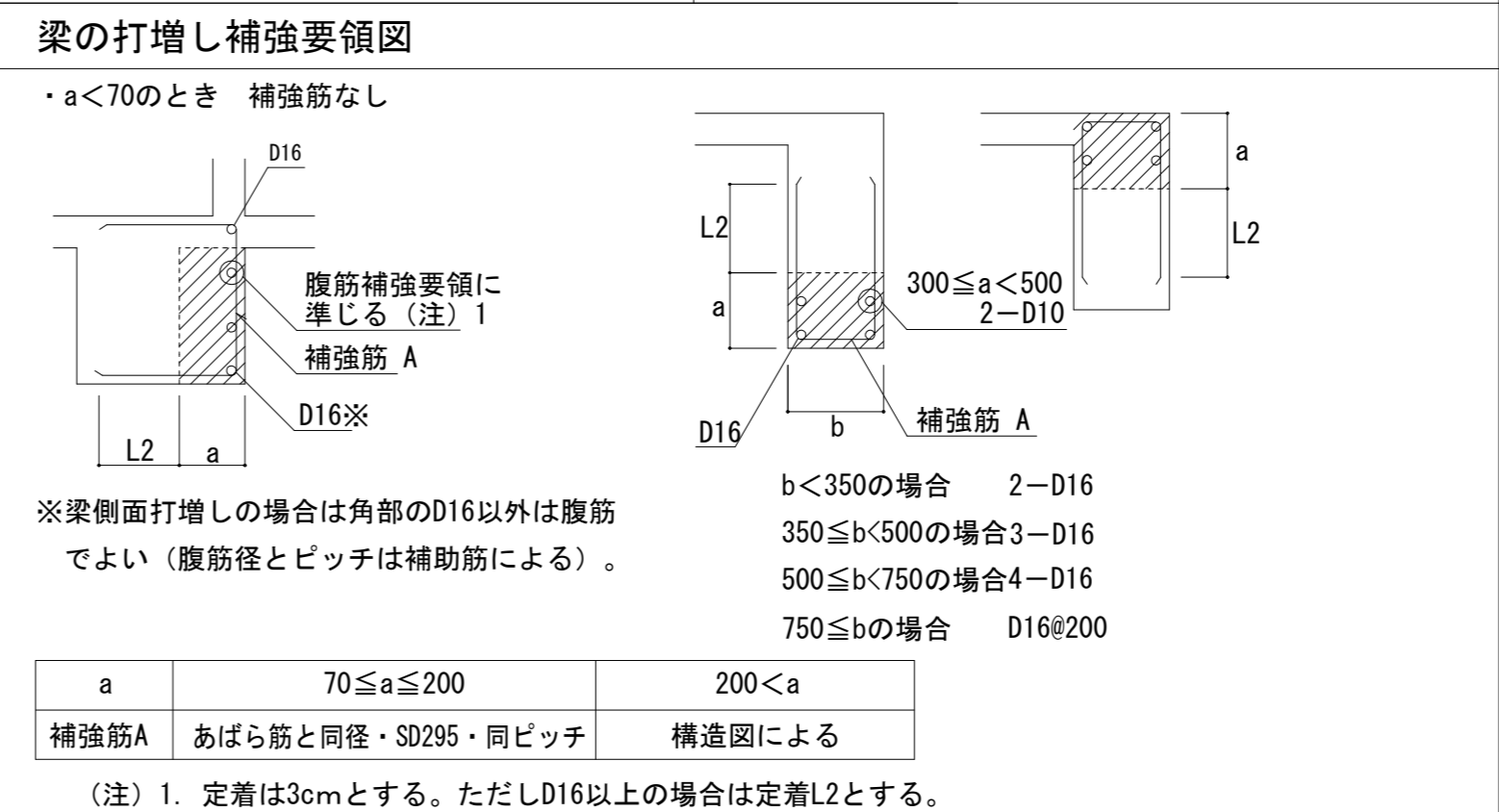
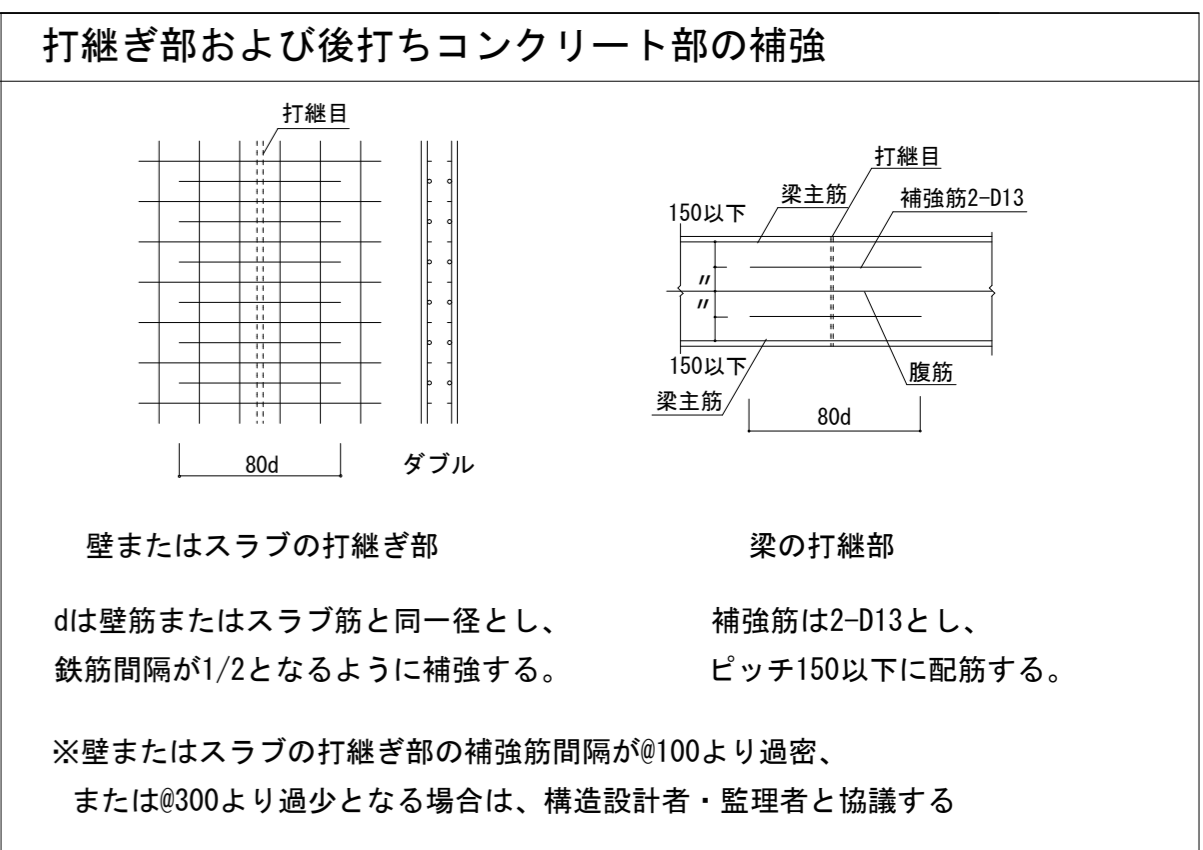
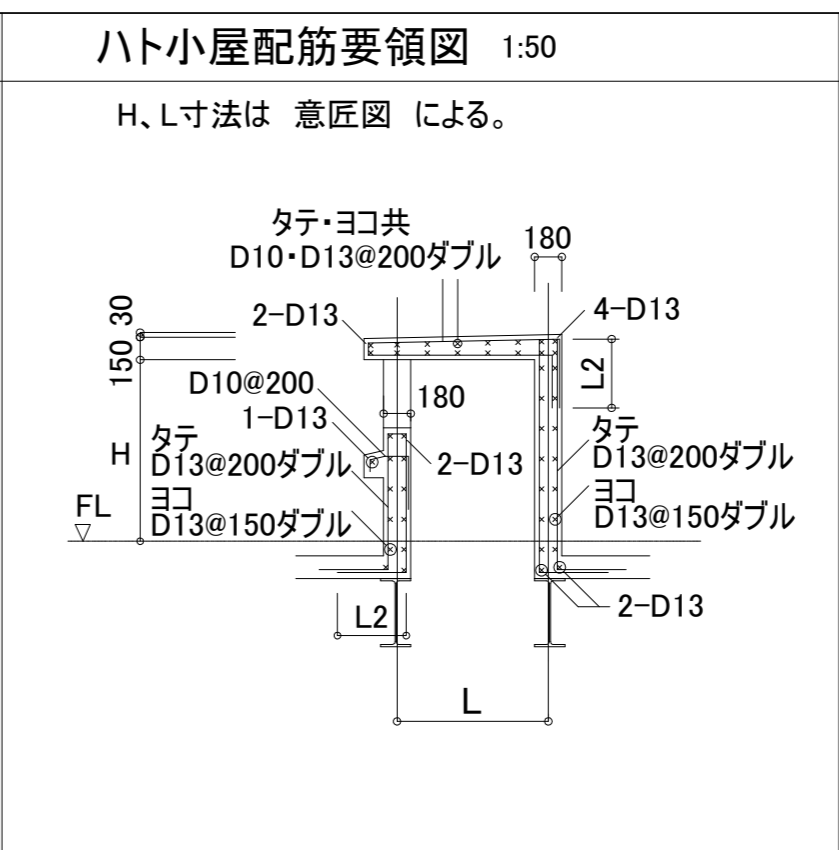
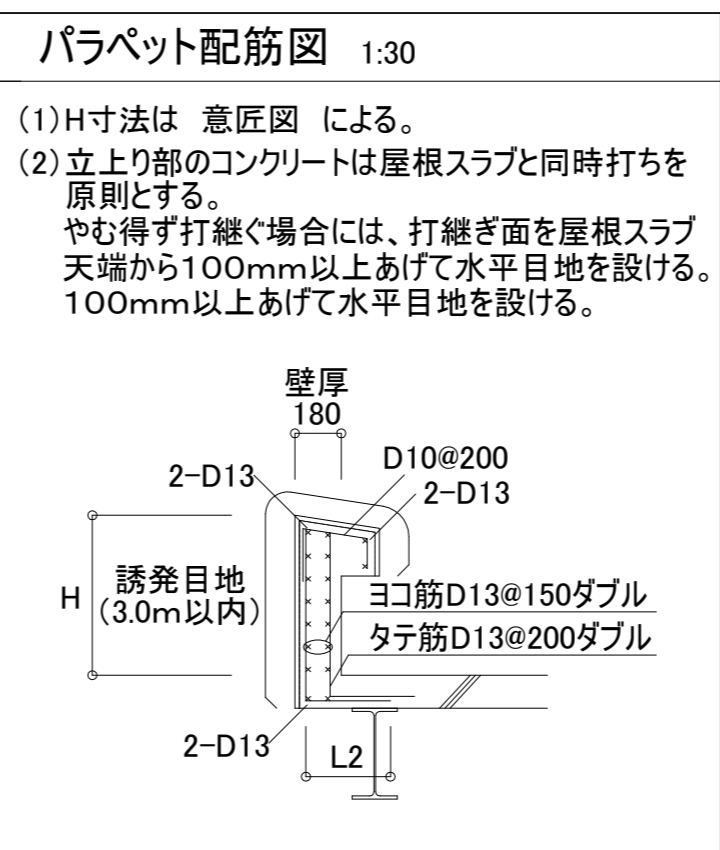
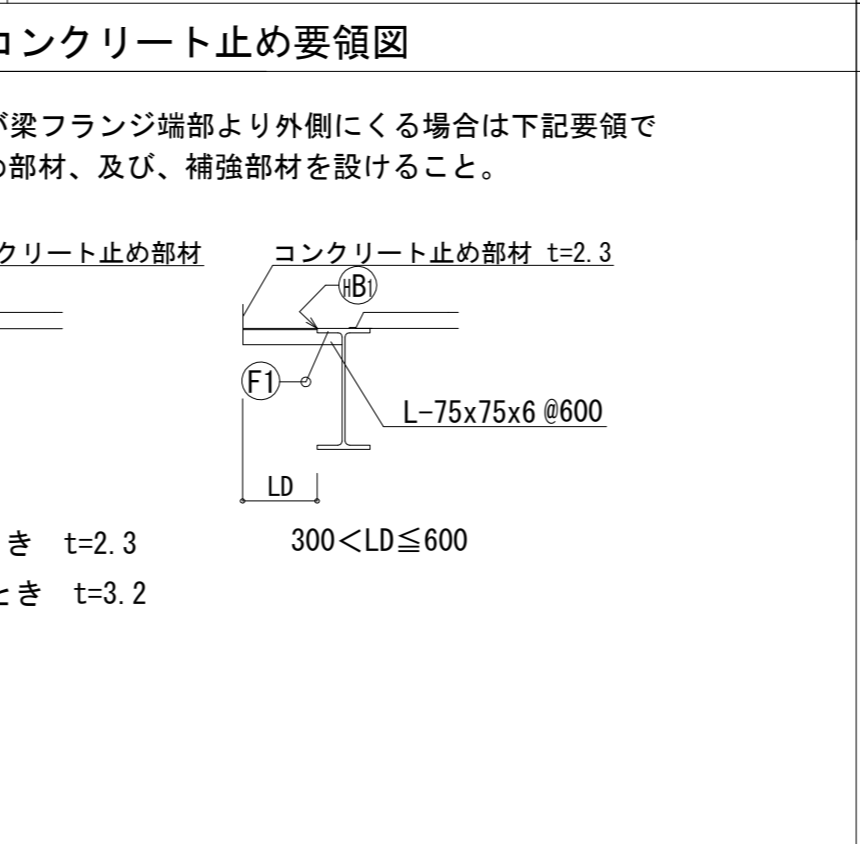
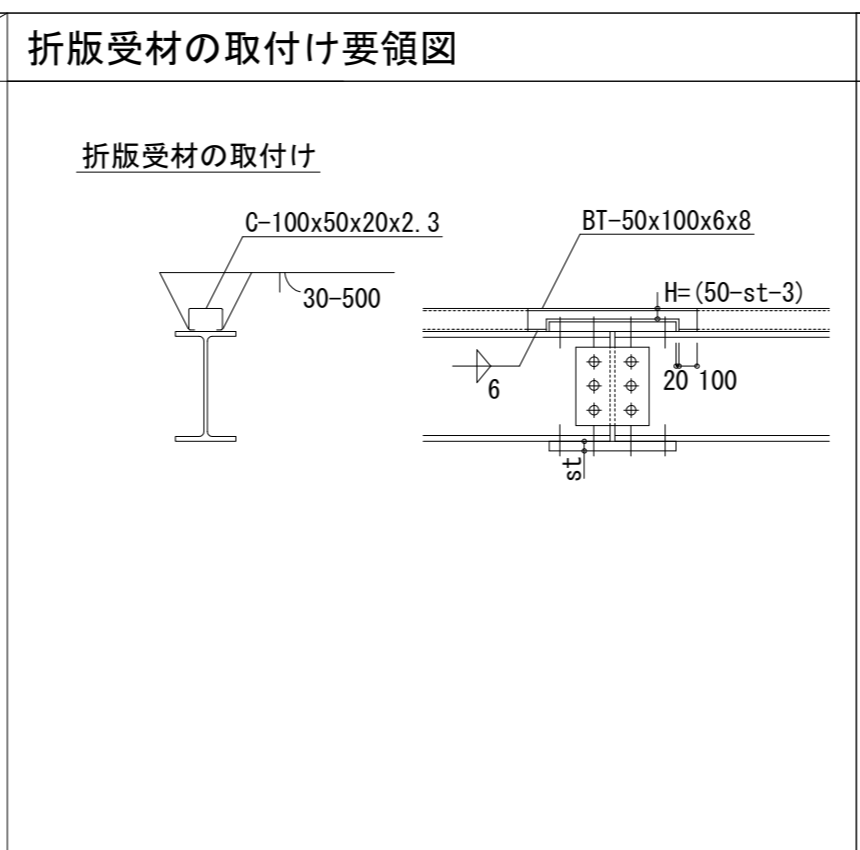
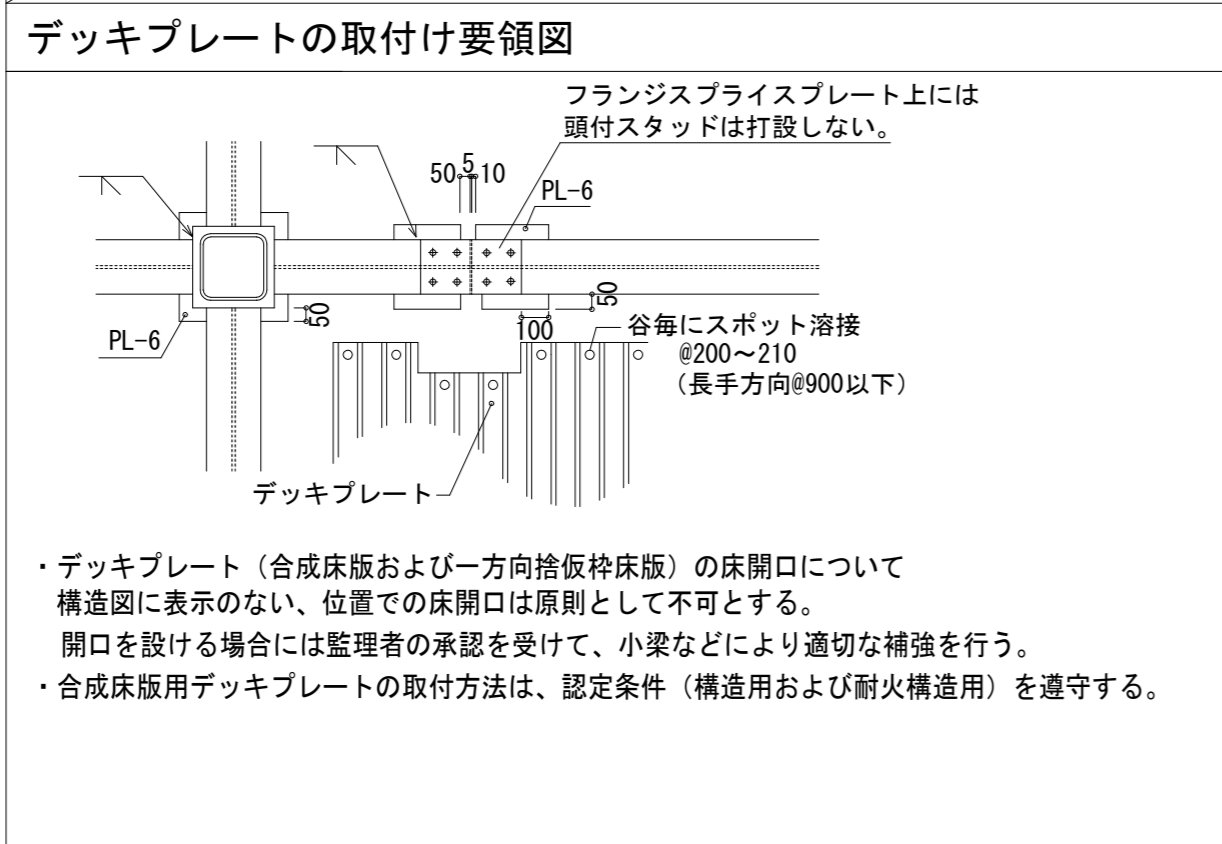
<b>明石市政局 企画・調整室</b> <代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智		明石市役所新庁舎建設工事 B 建築工事 屋外階段詳細図 A1 1:50 EV廻り鉄骨案内図 A3 1:100		最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25 最終契約版
		安井建築設計事務所		20230220



### EOP版開口補強材要領

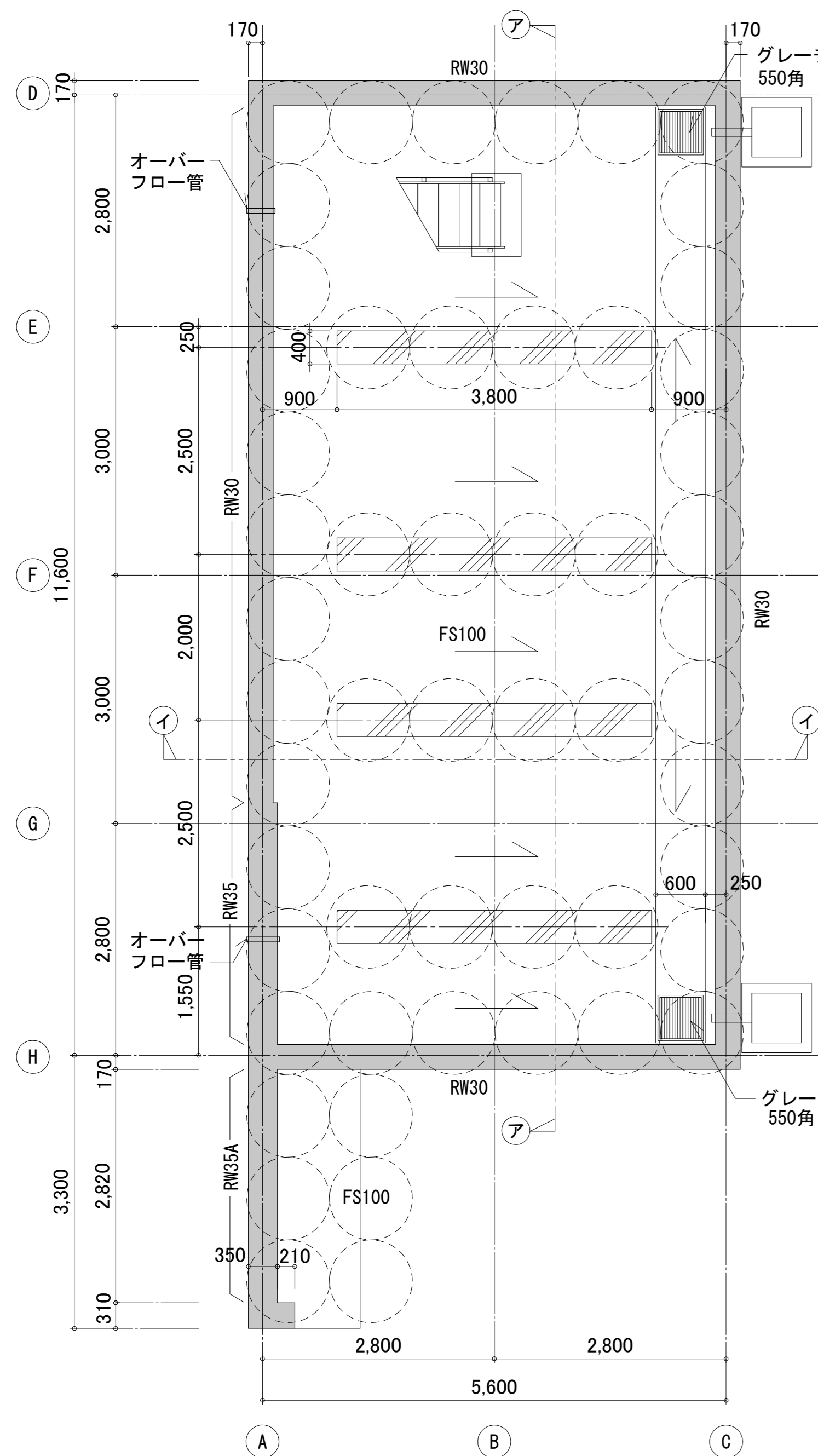
開口幅 (mm)	開口補強材
600	イ材 □-100x100x4. 5 (GPL-6, 2-M12 (中ボルト)) ロ材 L-50x50x6
1200	イ材 □-100x100x4. 5 (GPL-6, 2-M12 (中ボルト)) ロ材 L-50x50x6
1800	イ材 □-100x100x4. 5 (GPL-6, 2-M12 (中ボルト)) ロ材 L-65x65x6
2400	イ材 □-100x100x4. 5 (GPL-6, 2-M12 (中ボルト)) ロ材 L-75x75x6

共通事項 (特記なき限り)  
 ・補強材の鋼材種別は SS400、STKR400とする。  
 ・接合部は 溶接接合とする。  
 ・上記より開口幅が大きい場合、構造設計者・監理者と協議する。



明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
〈代表設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事
〈構造設計者〉	一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	64	雑要領図、雑配筋図 A1 1:50 A3 1:100
		安井建築設計事務所	

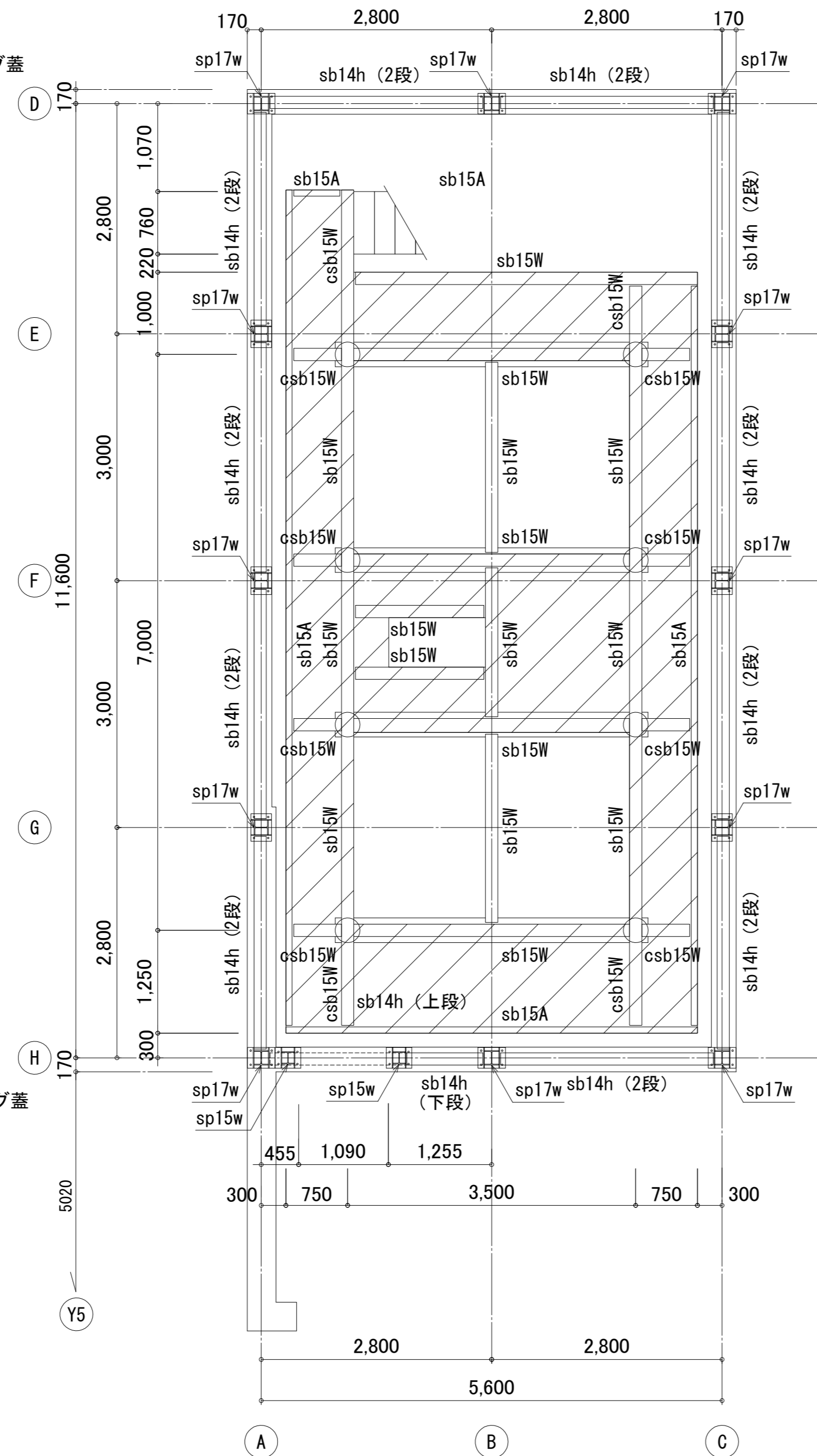




受水槽ピット部伏図 S=1:50

共通事項(特記なき限り)

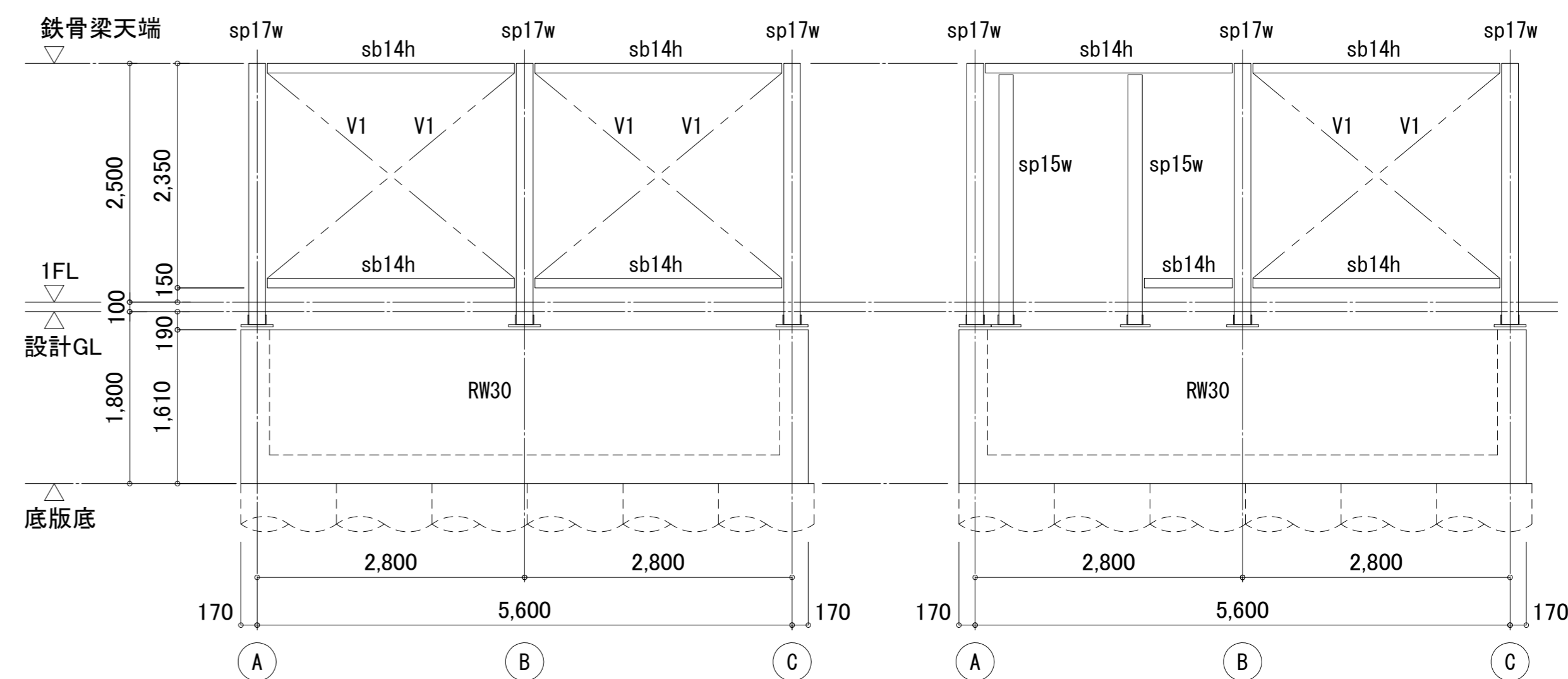
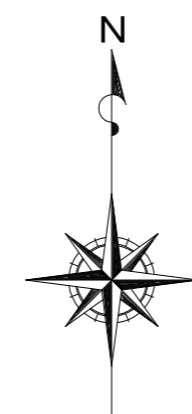
- 底版底 (FS100)はGL-1800とする。
- 印は深層地盤改良(Φ1000)を示す。
- 地盤改良深度:T.P.-2.6m。
- 地盤改良仕様は外構部と同様とする。



受水槽メンテナンス歩廊伏図 S=1:50

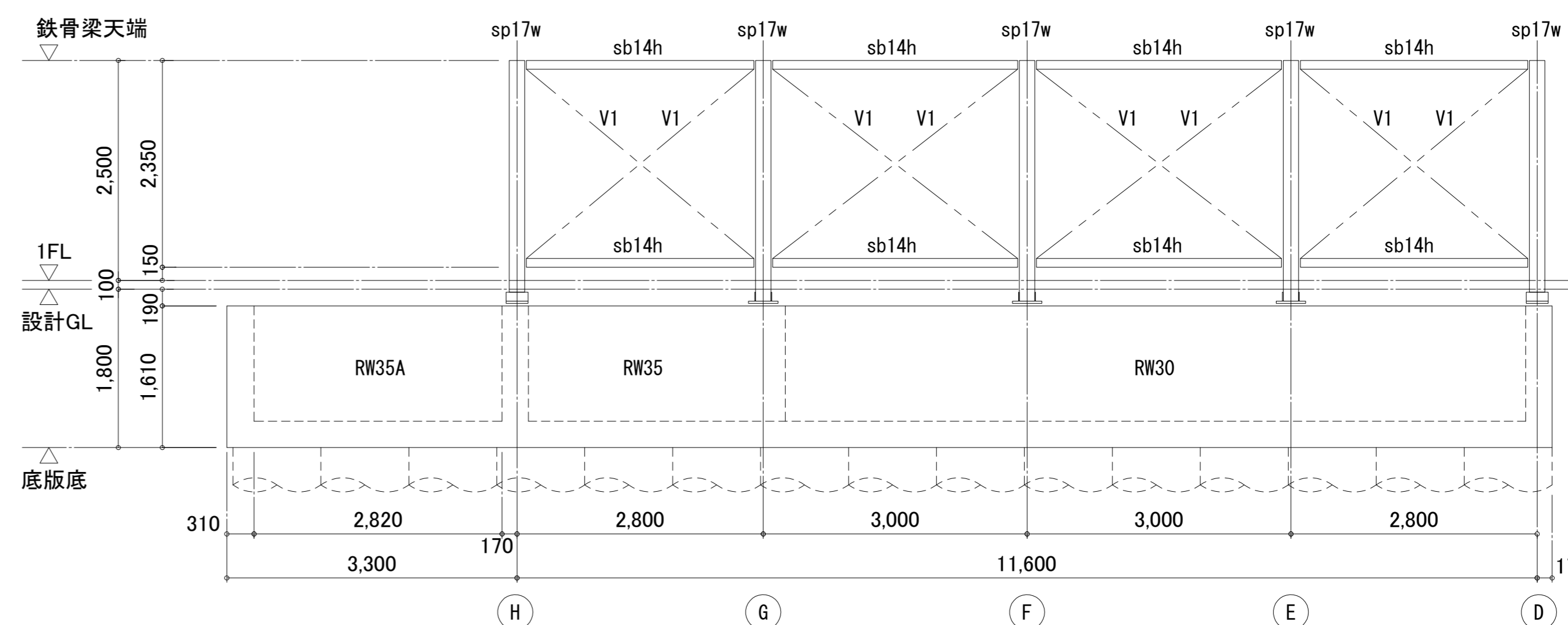
共通事項(特記なき限り)

- 鉄骨梁天端は1FL-40とする。
- 印は剛接合を示す。
- 印はファイナフロア t40 を示す。



D 通り軸組図 S=1:50

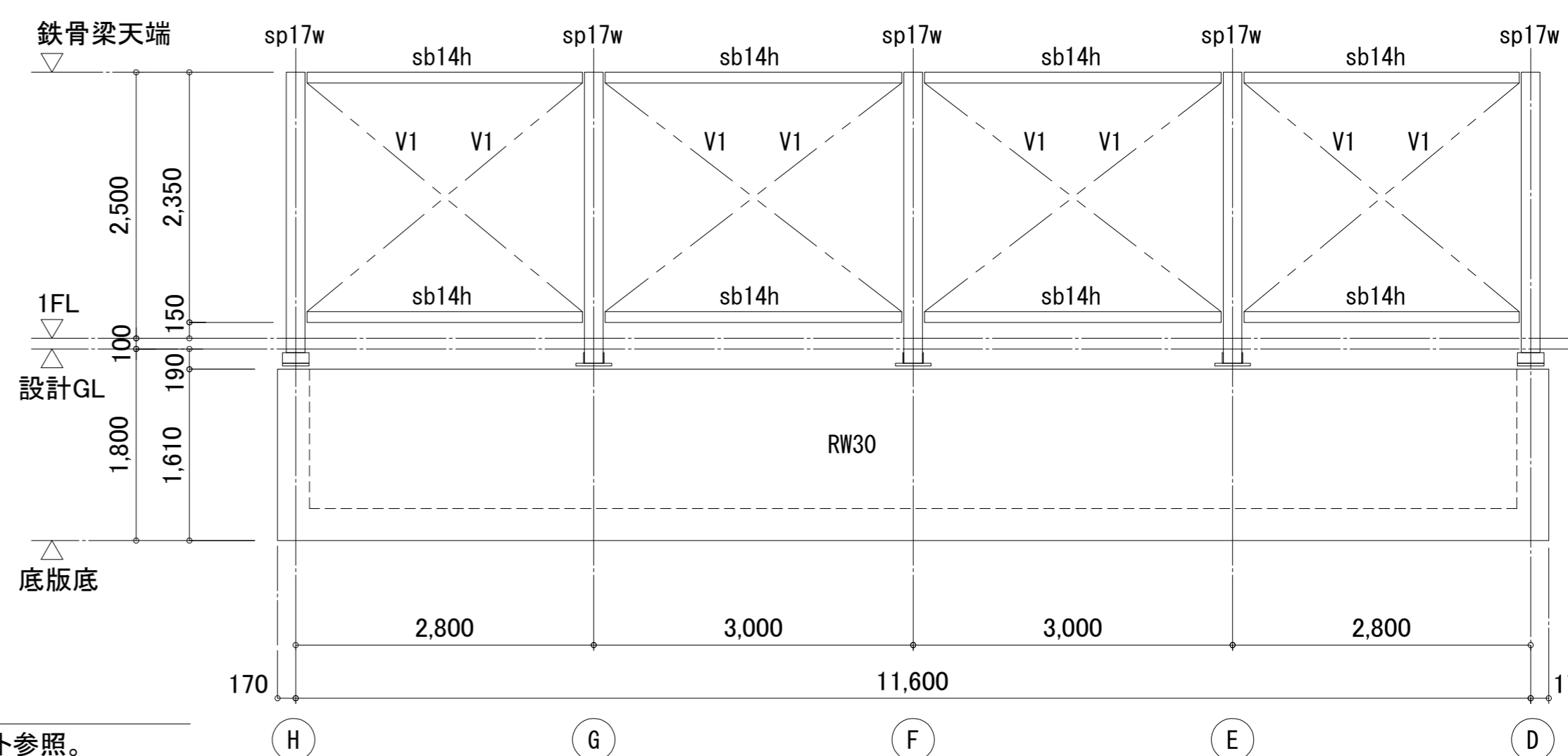
H 通り軸組図 S=1:50



A 通り軸組図 S=1:50

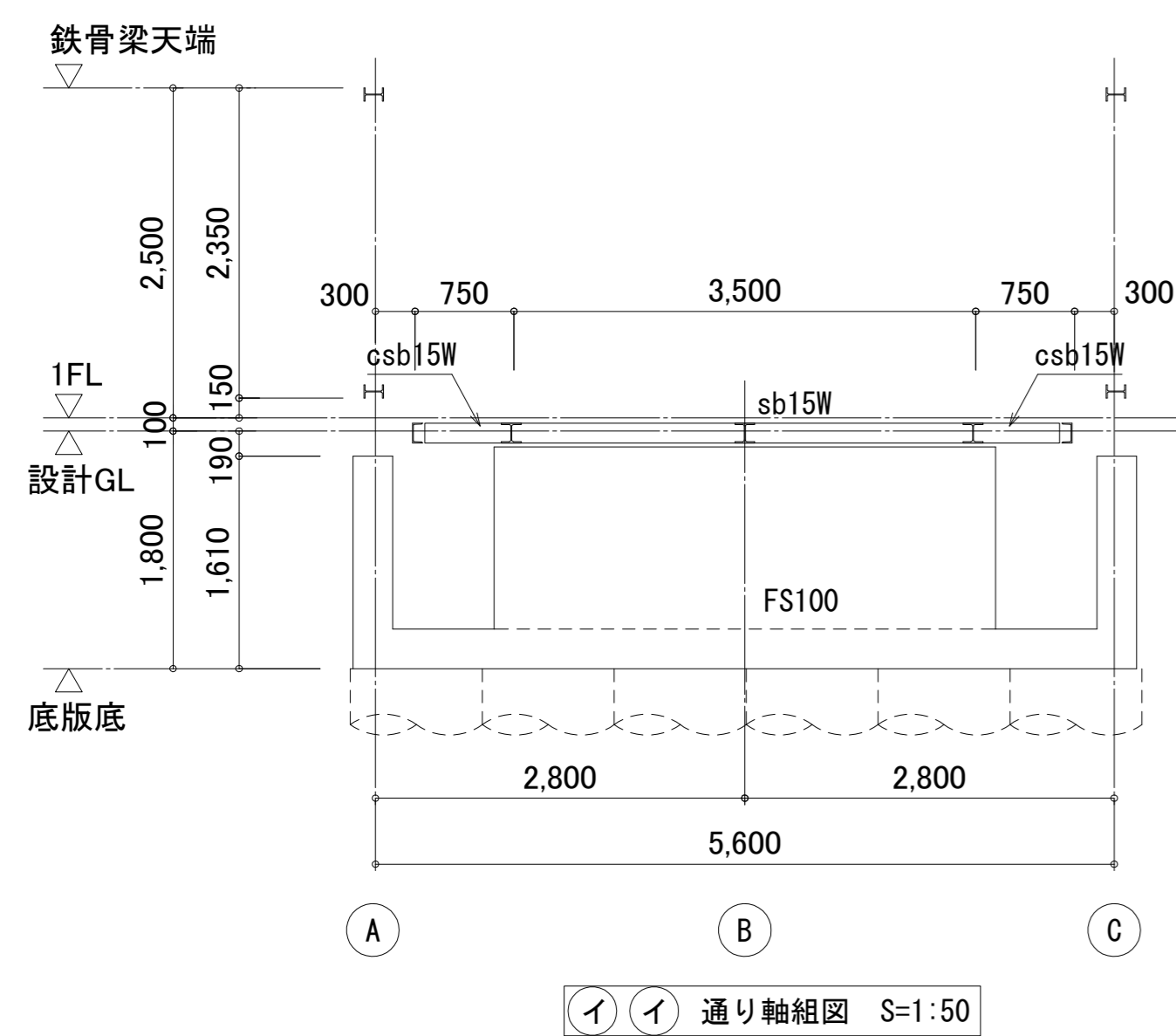
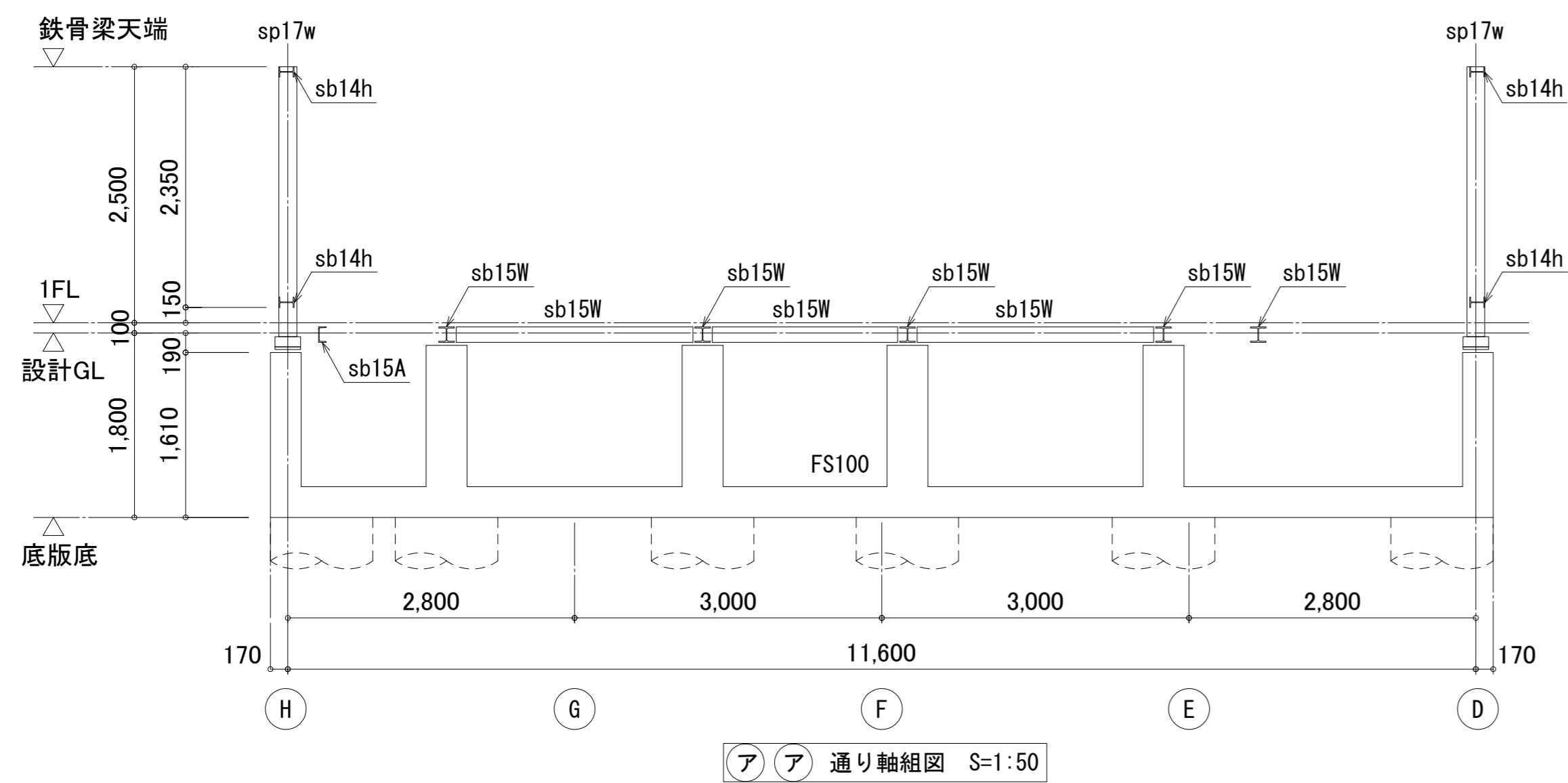
共通事項(特記なき限り)

- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。



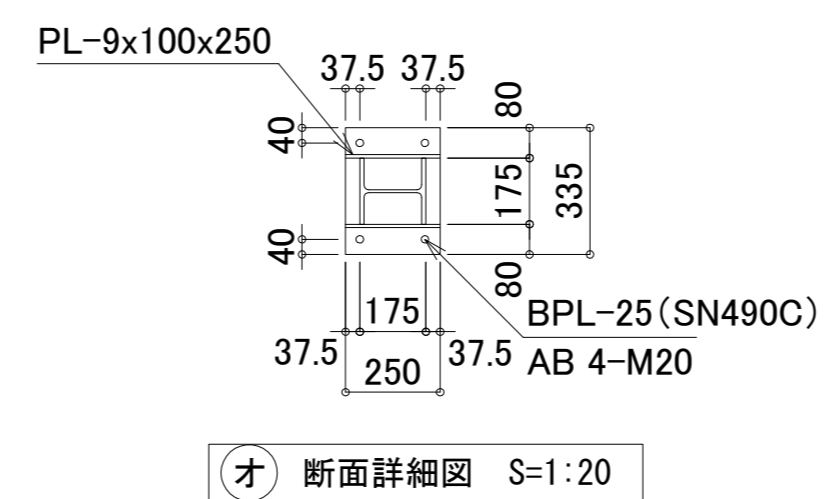
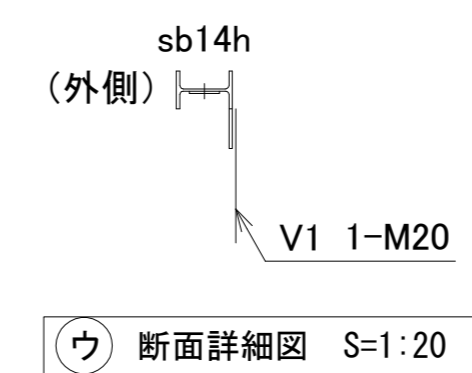
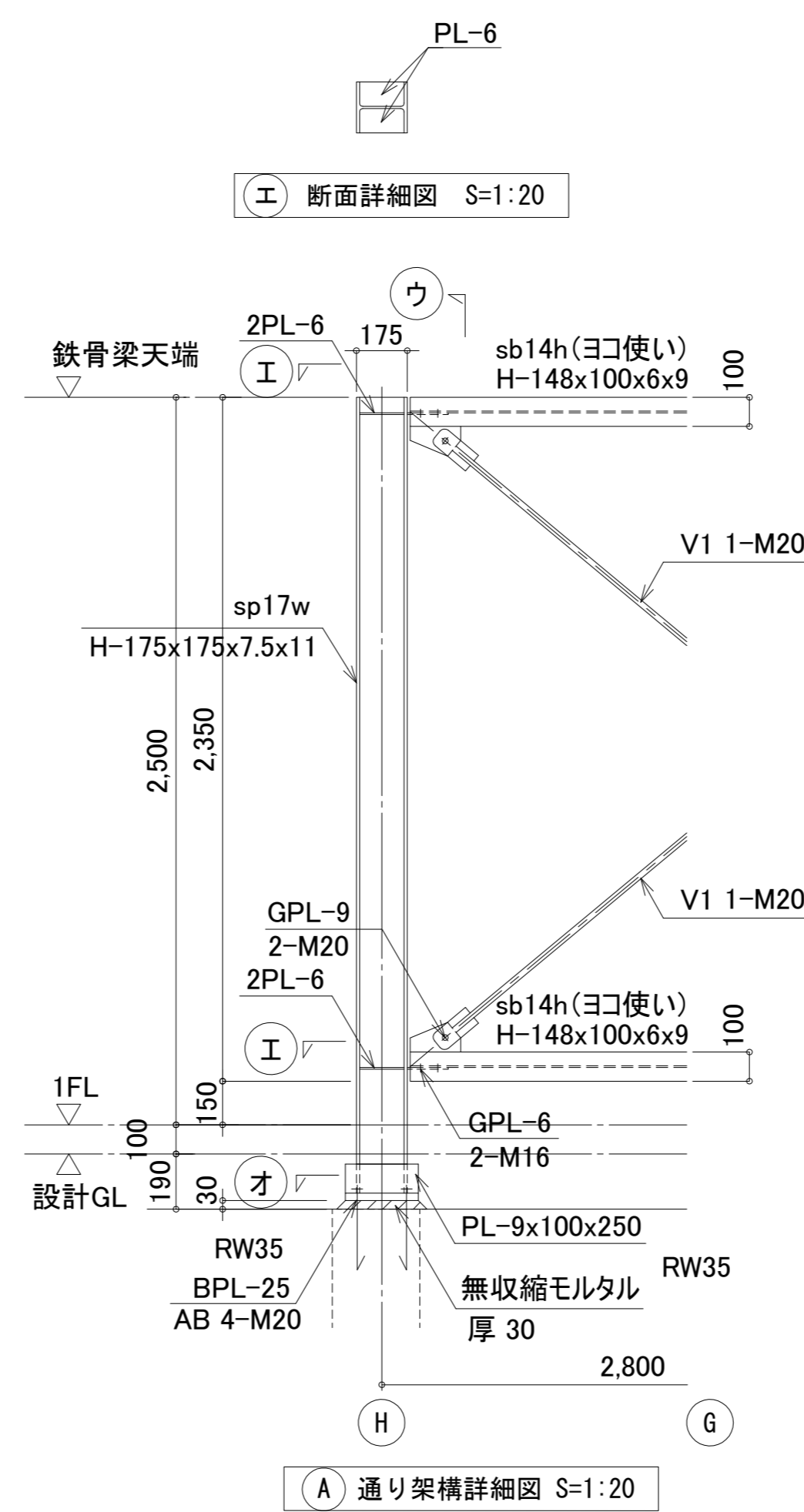
C 通り軸組図 S=1:50

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎 建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	<b>B</b>	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	<b>65</b>	<b>受水槽 構造図 (1)</b>	A3 1:100 A1 1:50 見積版 2024.3.25
<b>安井建築設計事務所</b>			最終契約版



共通事項(特記なき限り)

- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。



共通事項(特記なき限り)

- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトはF8Tとする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。

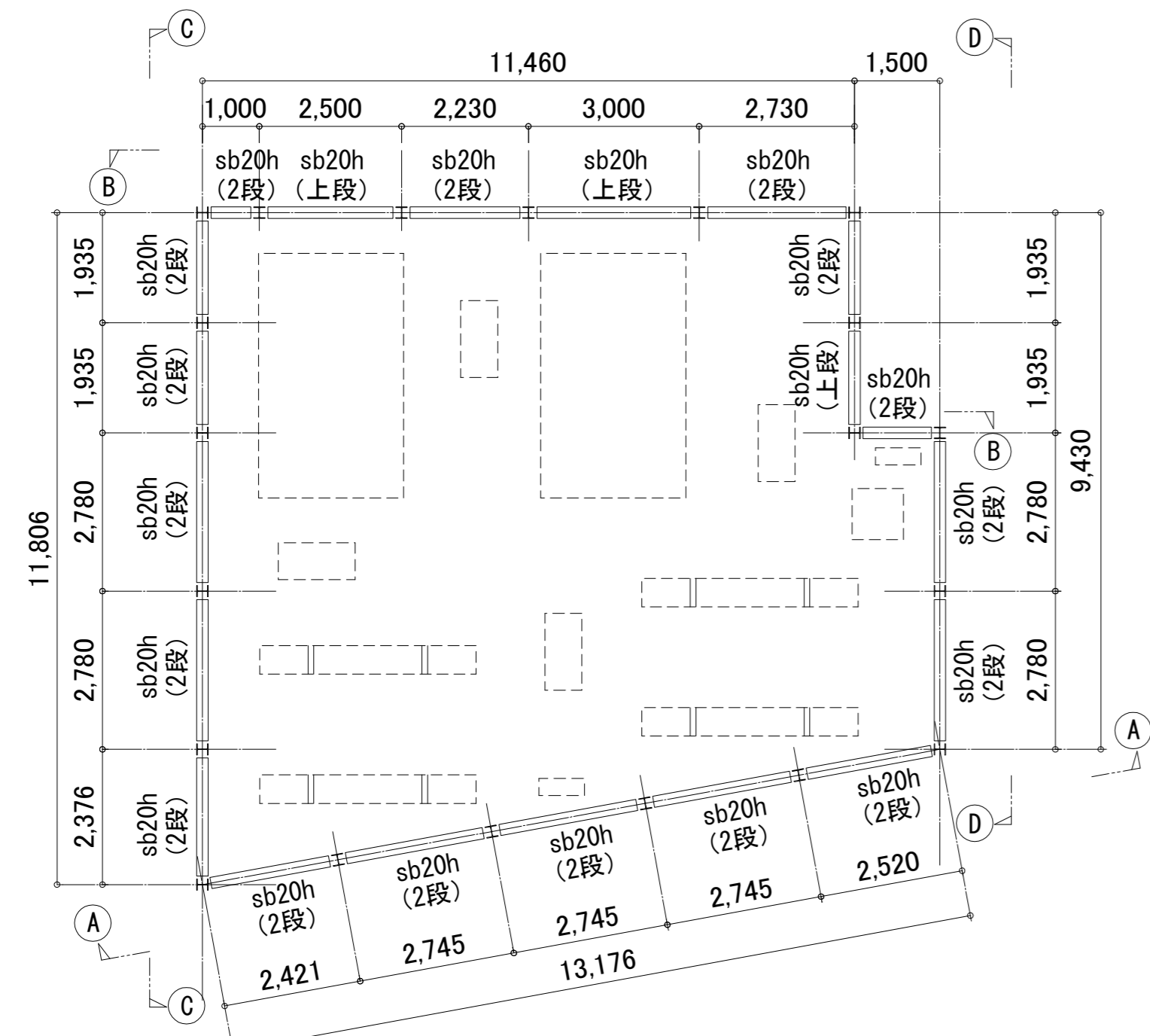
明石市政策局 企画・調整室

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号  
南浦 琢磨  
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号  
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号  
田中 智

明石市役所新庁舎 建設工事

B 建築工事  
66 受水槽 構造図(2) A3 1:100  
A1 1:50  
安井建築設計事務所

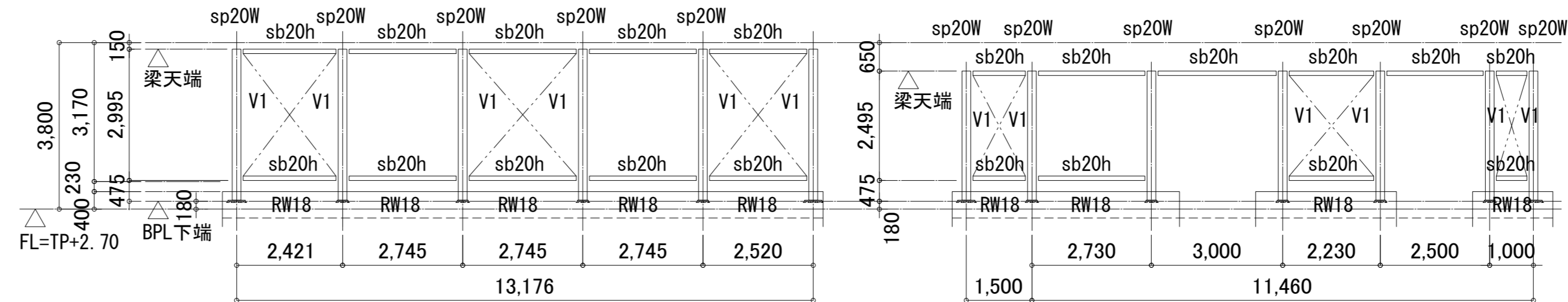
最終版 2024.3.25  
見積版 2024.3.25  
最終契約版



鉄骨梁伏図 S=1:100

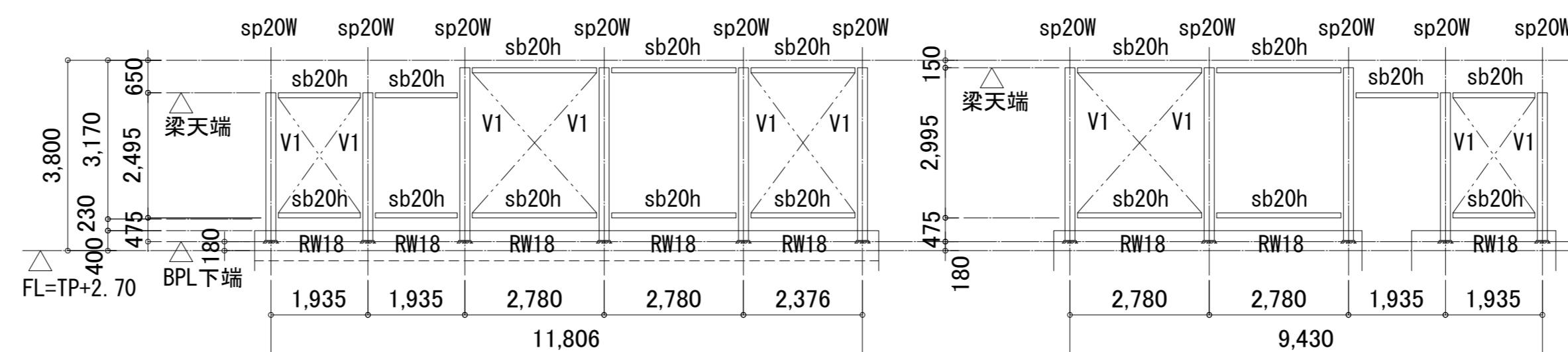
共通事項(特記なき限り)

- FL=TP+2.70とする。
- 梁天端はFL+3650,+3150とする。



(A) A 軸組図 S=1:100

(B) B 軸組図 S=1:100

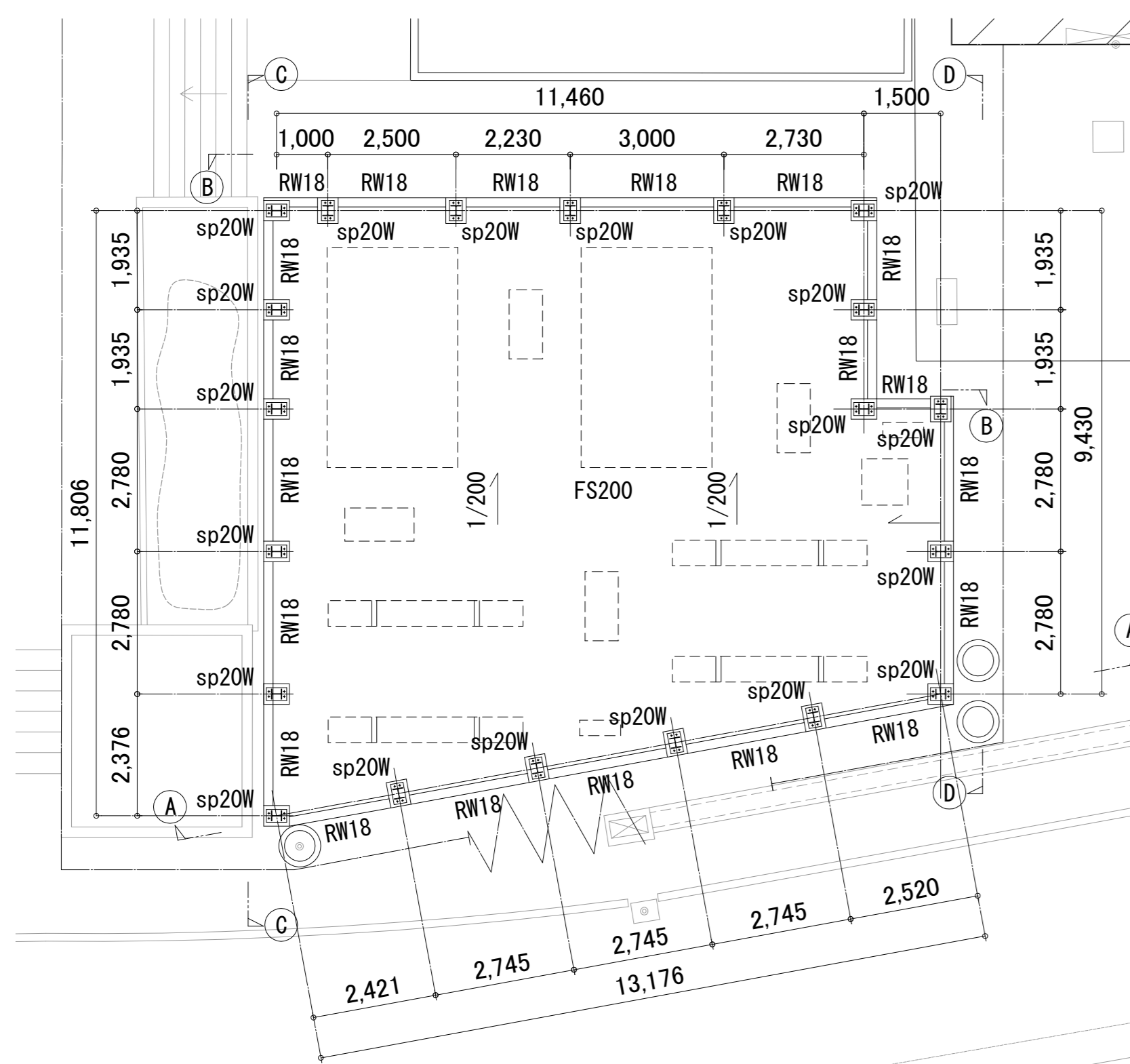


(C) C 軸組図 S=1:100

(D) D 軸組図 S=1:100

共通事項(特記なき限り)

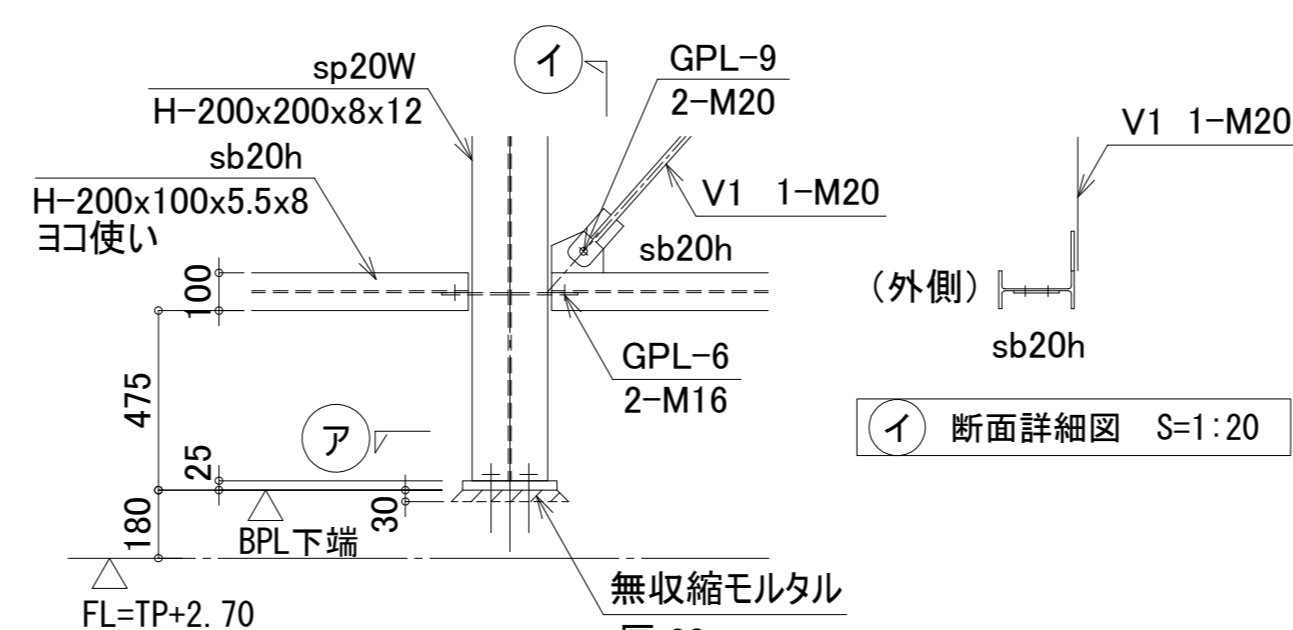
- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。



基礎伏図 S=1:100

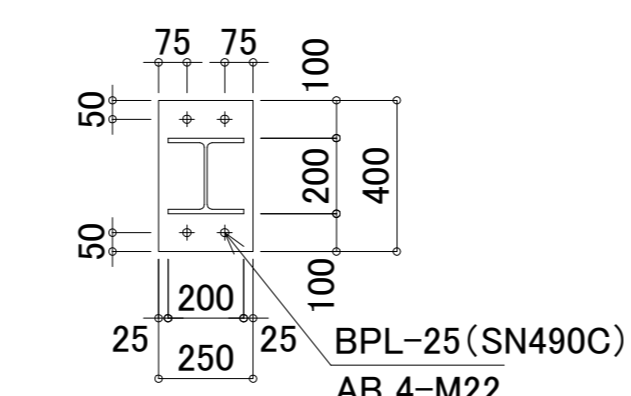
共通事項(特記なき限り)

- FL=TP+2.70とする。
- 底版底 (FS200)はFL-200とする。
- BPL 下端はFL+180とする。



架構詳細図 S=1:20

(イ) 断面詳細図 S=1:20



(ア) 断面詳細図 S=1:20

共通事項(特記なき限り)

- 各部材は鉄骨二次部材リスト参照。
- 鋼材種は SN400A とする。
- 高力ボルトは S10T, メッキボルトは F8T とする。
- 屋外露出となる部材は 溶融亜鉛メッキとする。

明石市政策局 企画・調整室

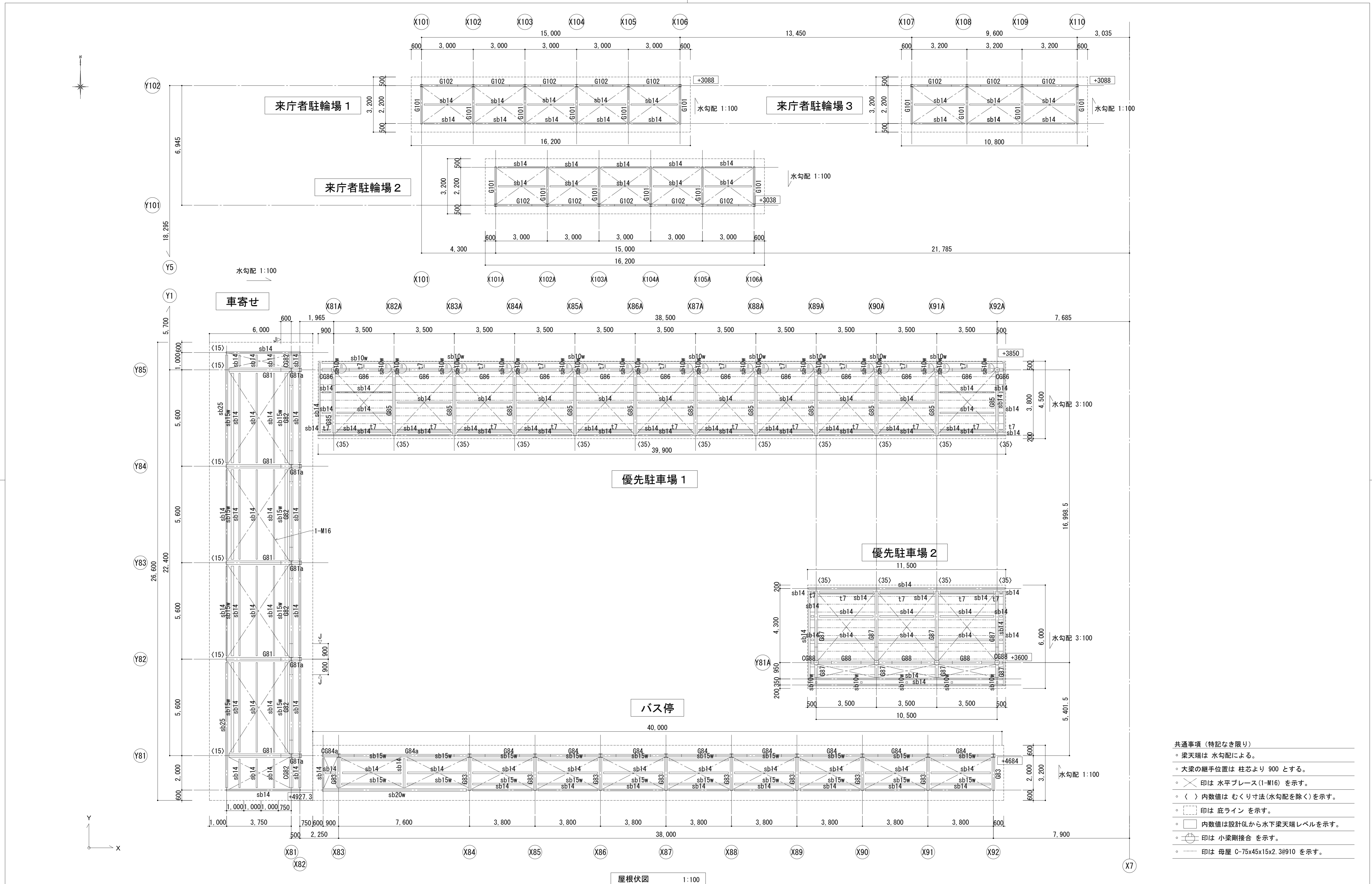
〈代表設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号  
南浦 琢磨  
〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号  
構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号  
田中 智

明石市役所新庁舎 建設工事

B 建築工事  
67 市民会館 設備置場目隠し構造図 A3 1:200  
A1 1:100  
安井建築設計事務所

最終版 2024.3.25  
見積版 2024.3.25  
最終契約版



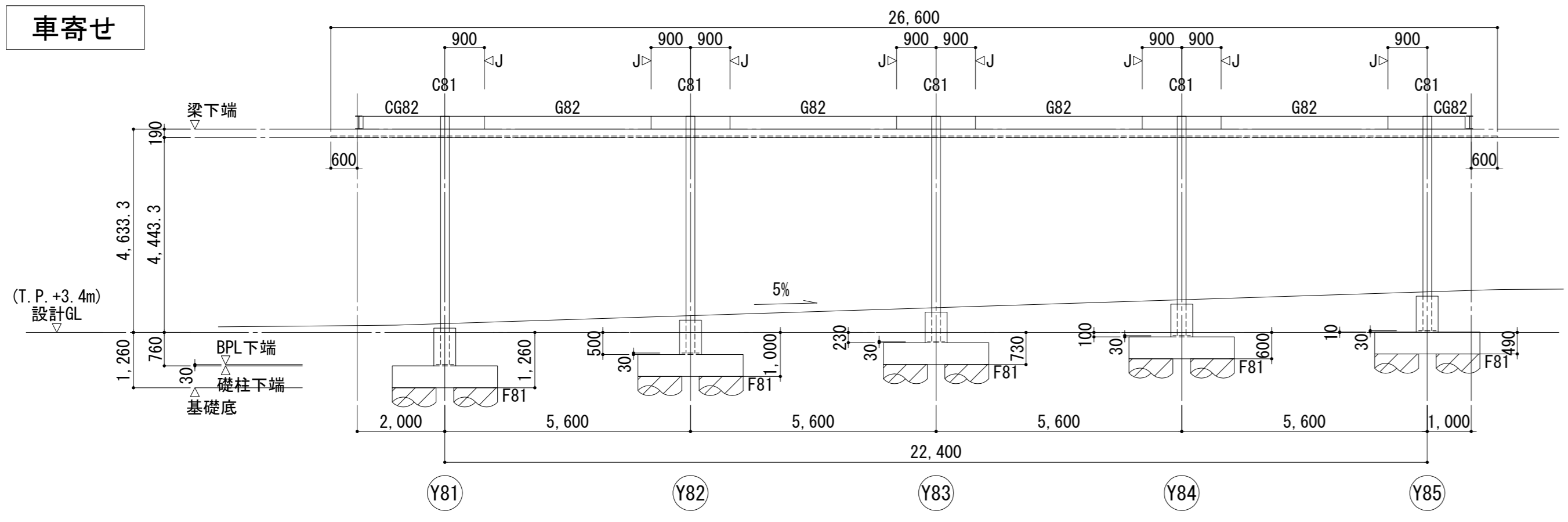


屋根伏図 1:100

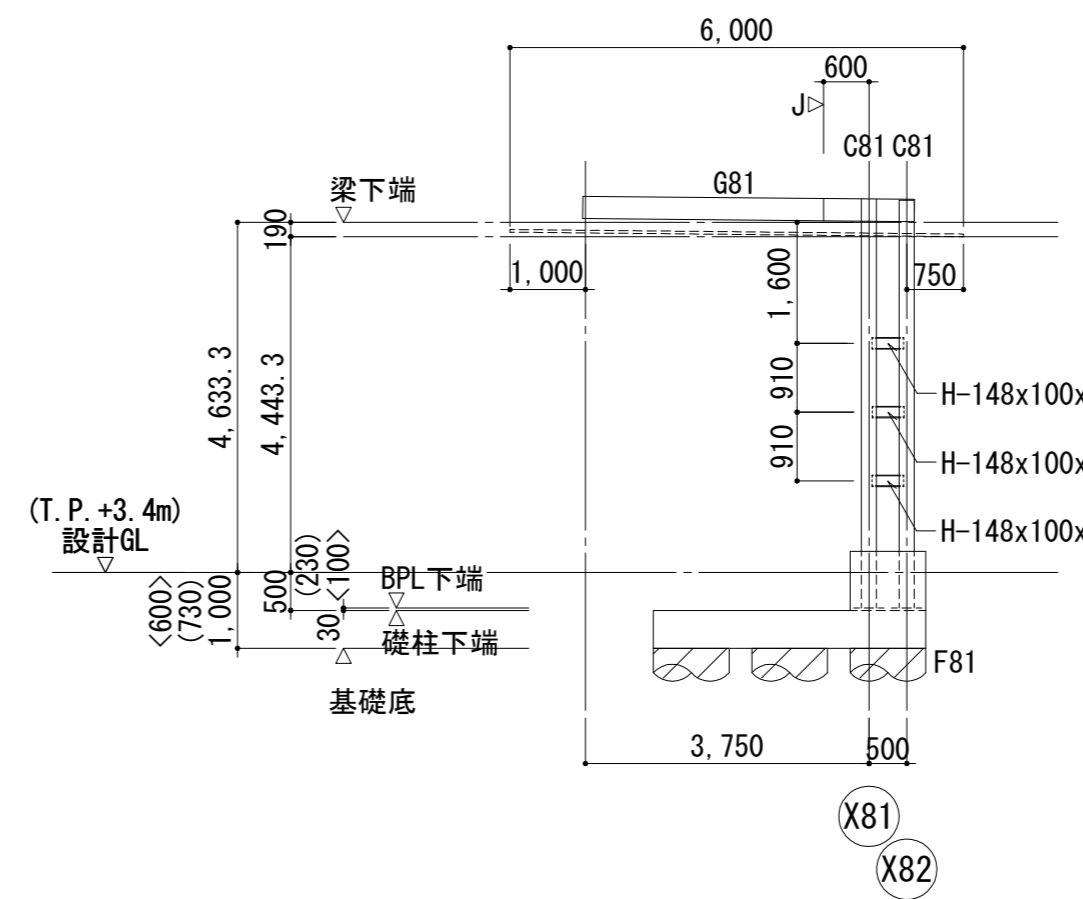
- 共通事項 (特記なき限り)
- 梁天端は 水勾配による。
  - 大梁の継手位置は 柱芯より 900 とする。
  - 印は 水平ブレース (1-M16) を示す。
  - 内数値は むくり寸法 (水勾配を除く) を示す。
  - 印は 底ライン を示す。
  - 内数値は設計GLから水下梁天端レベルを示す。
  - 印は 小梁剛接合 を示す。
  - 印は 母屋 C-75x45x15x2.3#910 を示す。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨 <構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	B 建築工事 A1 1:100 71 屋根伏図 A3 1:200 (車寄せ、バス停、優先駐車場1~2、来庁者駐輪場1~3)	最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25	最終契約版
<b>安井建築設計事務所</b>			

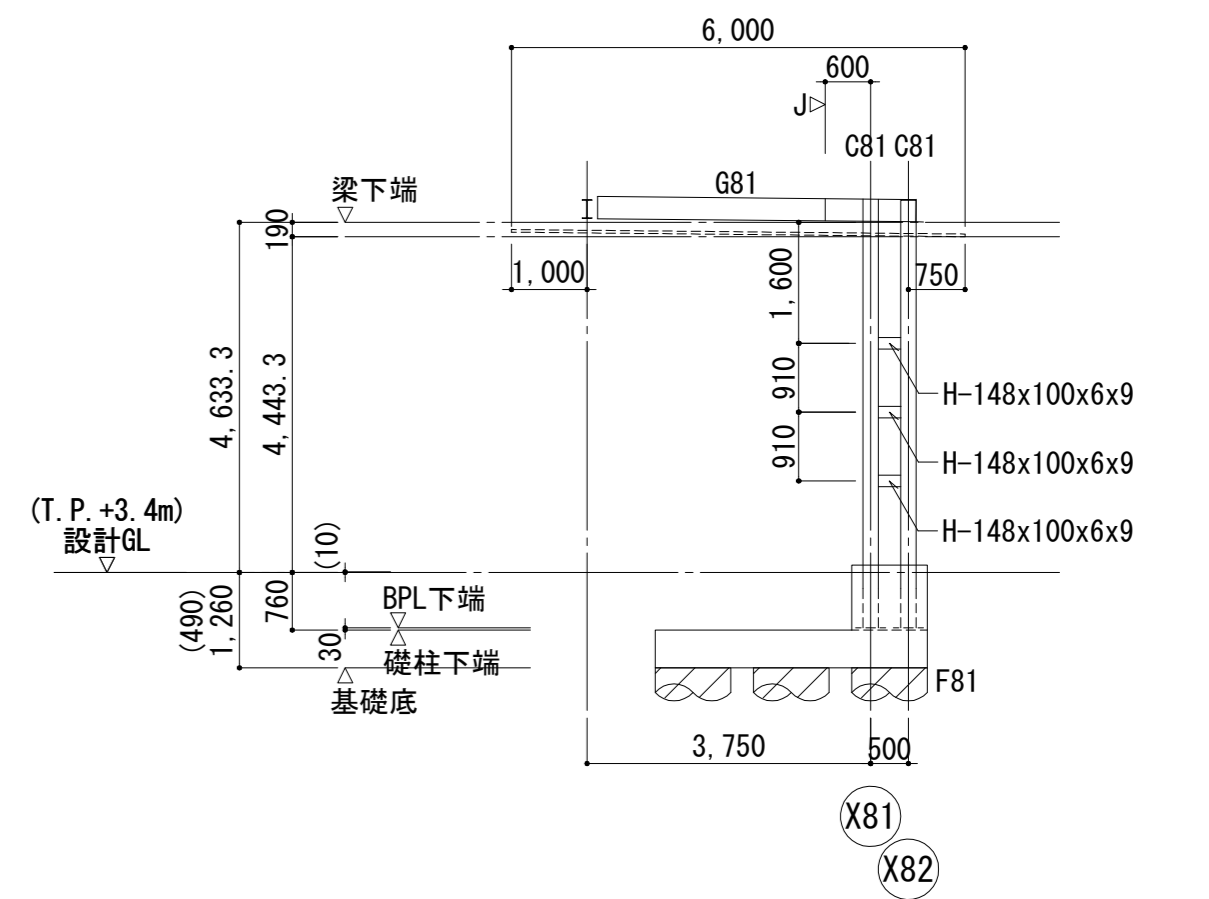
車寄せ



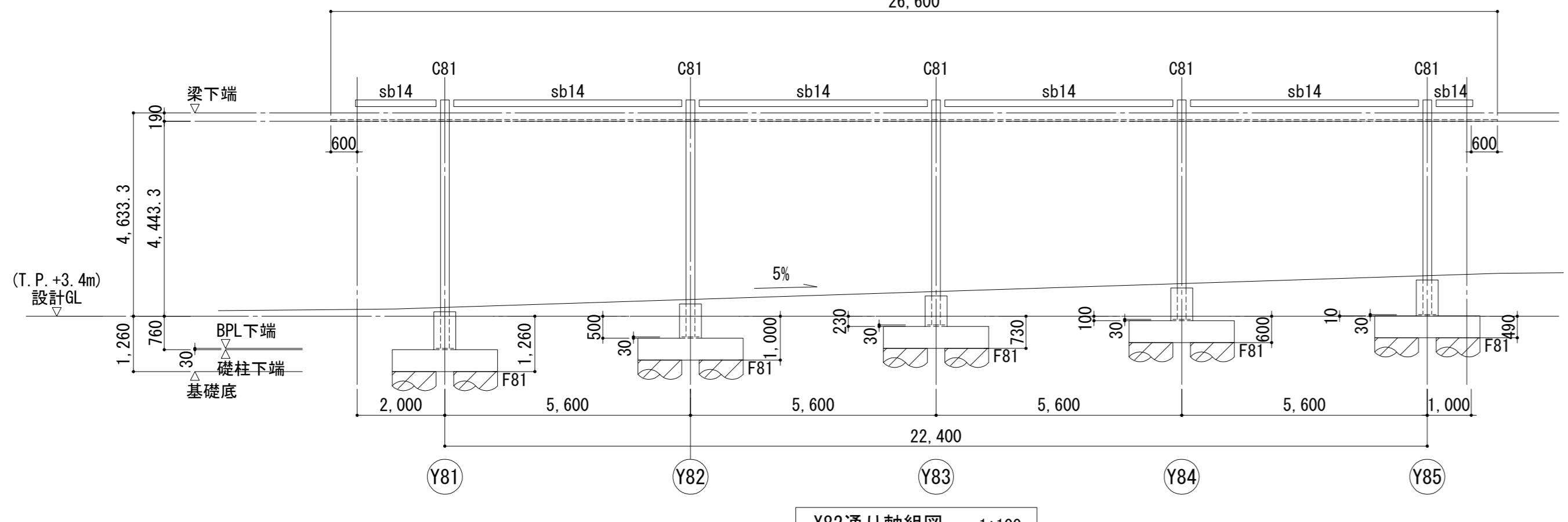
X81通り軸組図 1:100



Y82 (Y83) (Y84) 通り軸組図 1:100



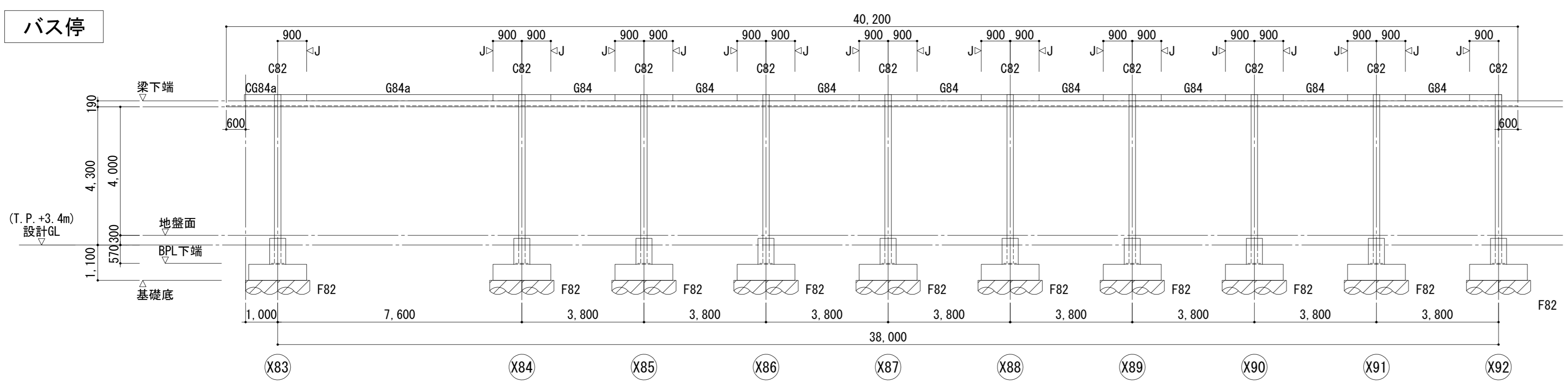
Y81 (Y85) 通り軸組図 1:100



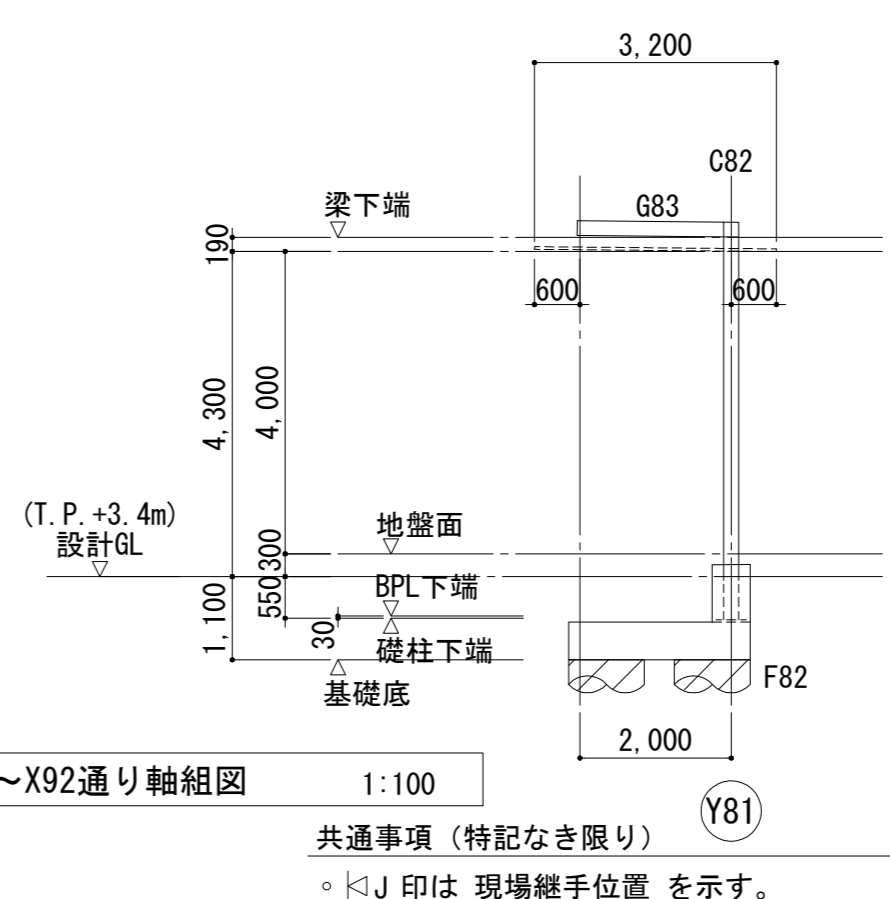
X82通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- ◁J印は 現場継手位置 を示す。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキを施す。
  - 礎柱天端は 再生クラッシュラン天端までとする。

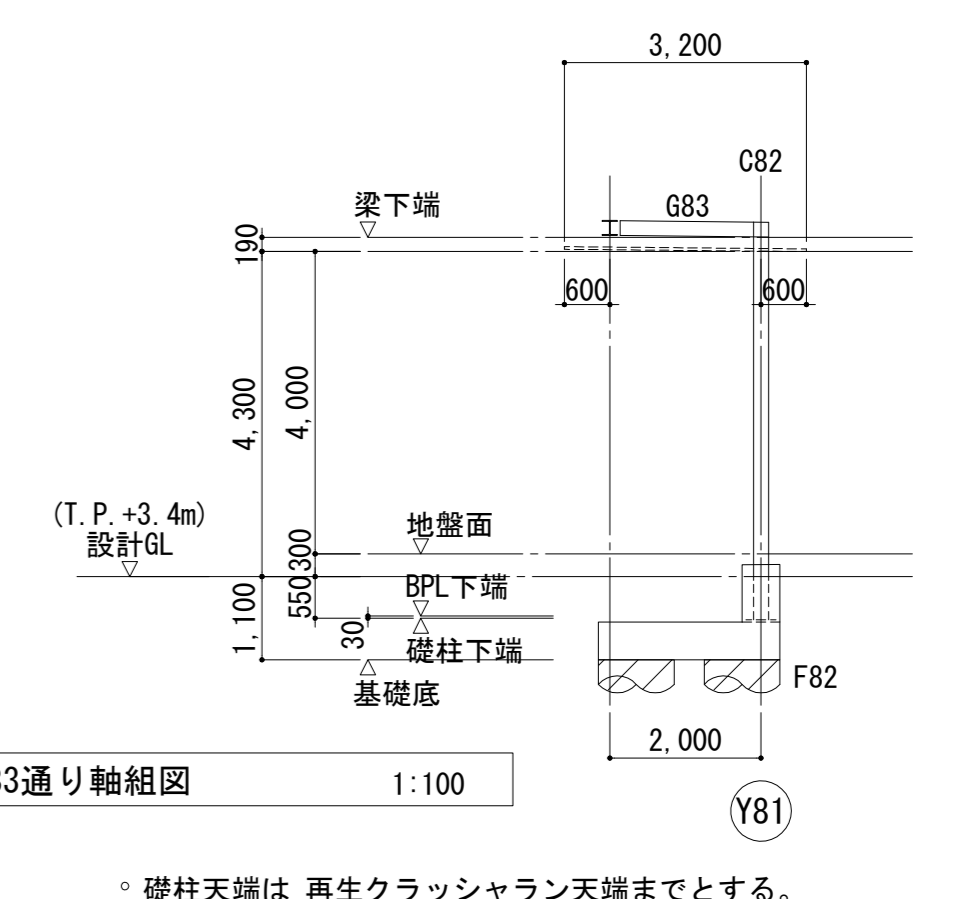
バス停



Y81通り軸組図 1:100



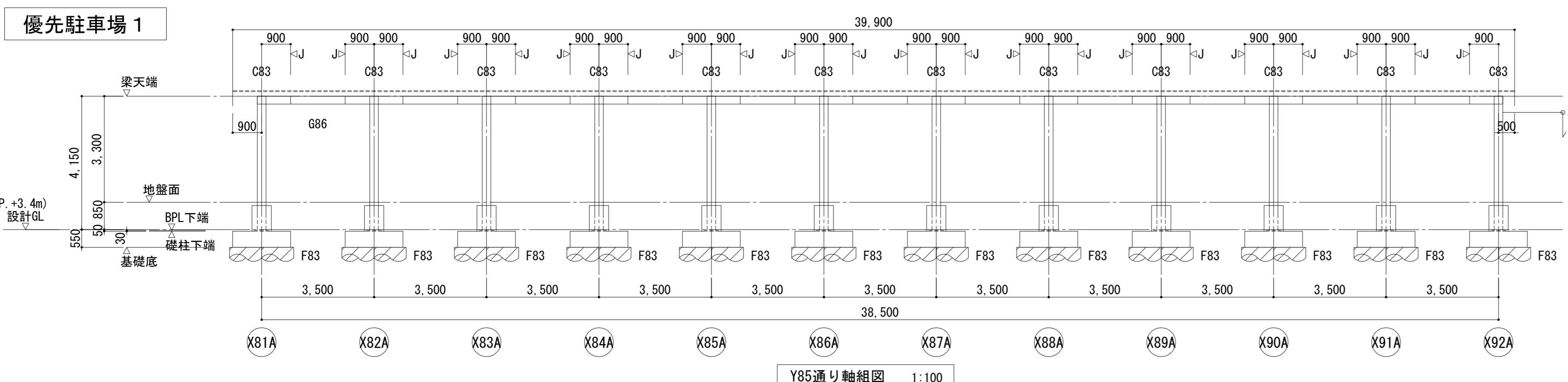
X84~X92通り軸組図 1:100



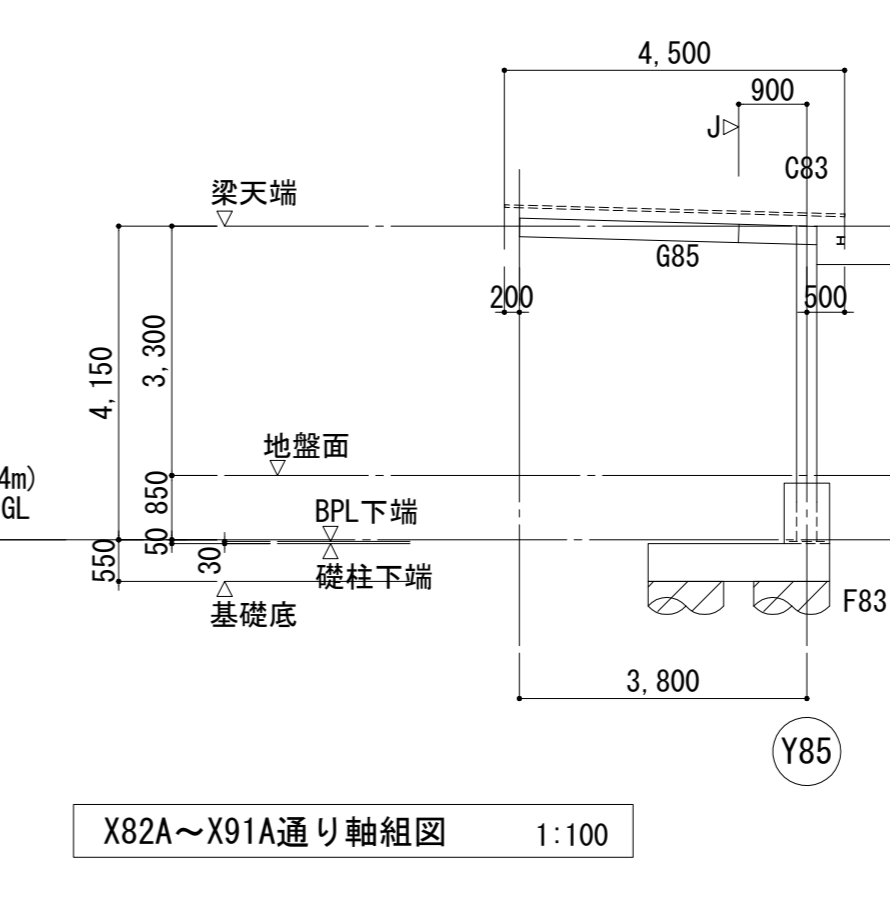
X83通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- ◁J印は 現場継手位置 を示す。
  - 礎柱天端は 再生クラッシュラン天端までとする。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキを施す。

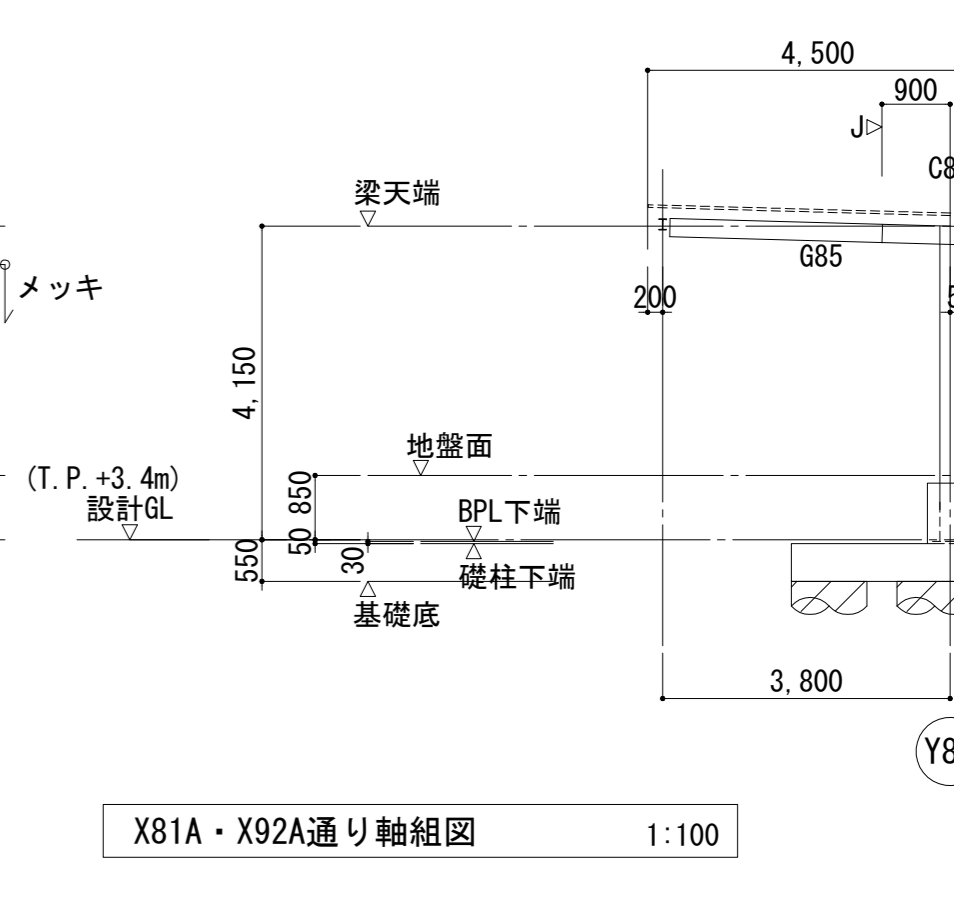
優先駐車場 1



Y85通り軸組図 1:100



X82A~X91A通り軸組図 1:100

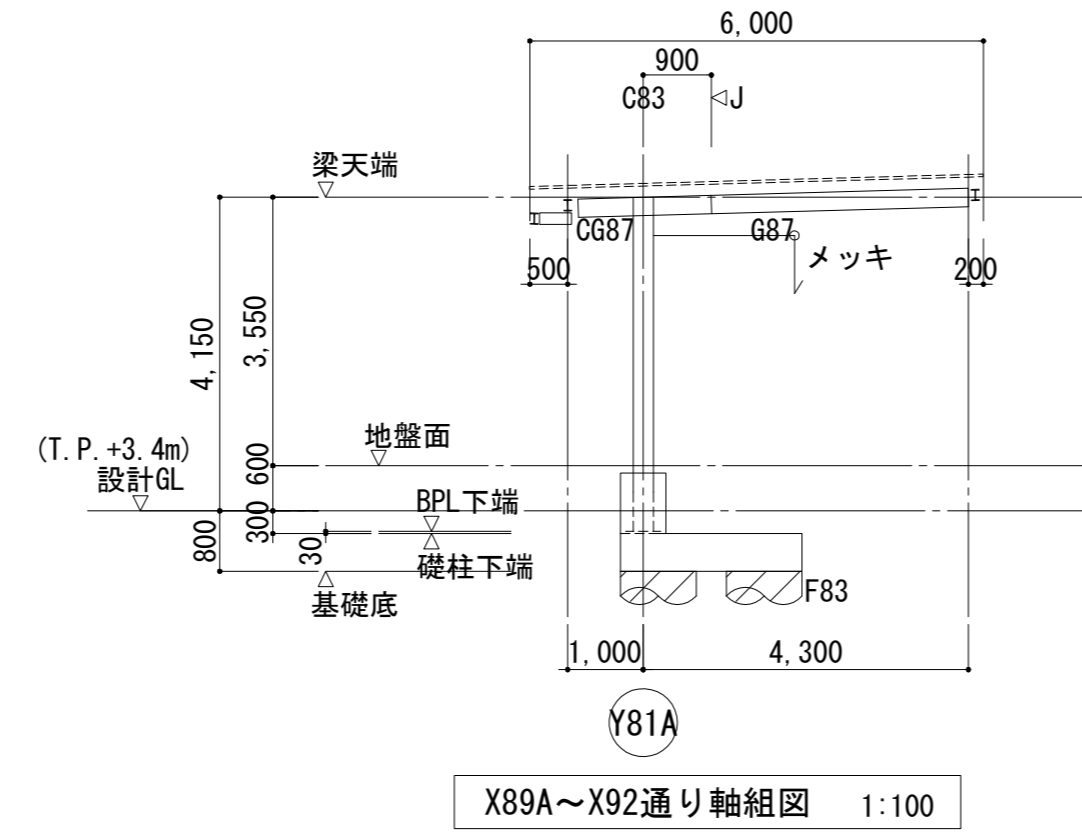
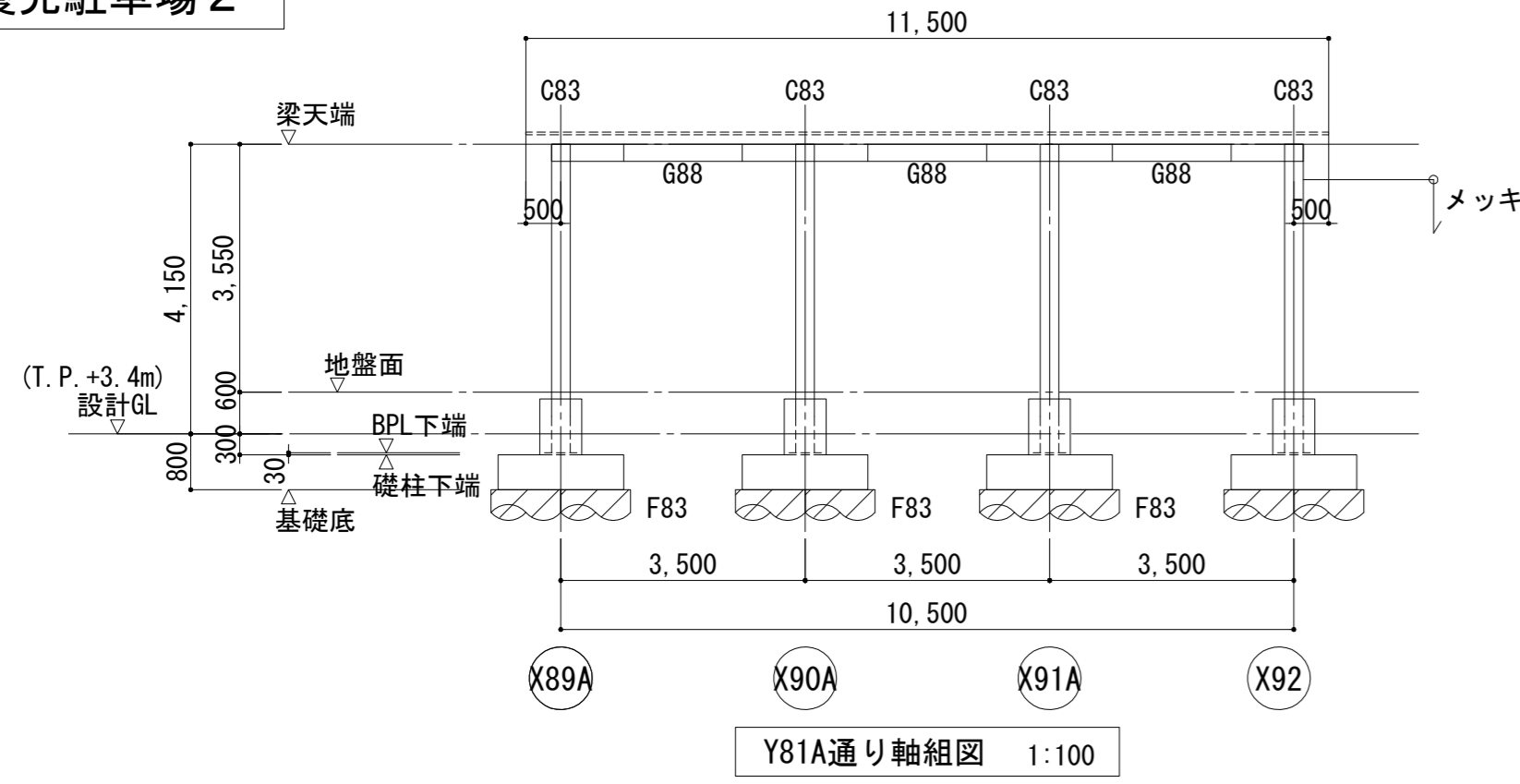


X81A-X92A通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- ◁J印は 現場継手位置 を示す。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキを施す。
  - 礎柱天端は 再生クラッシュラン天端までとする。

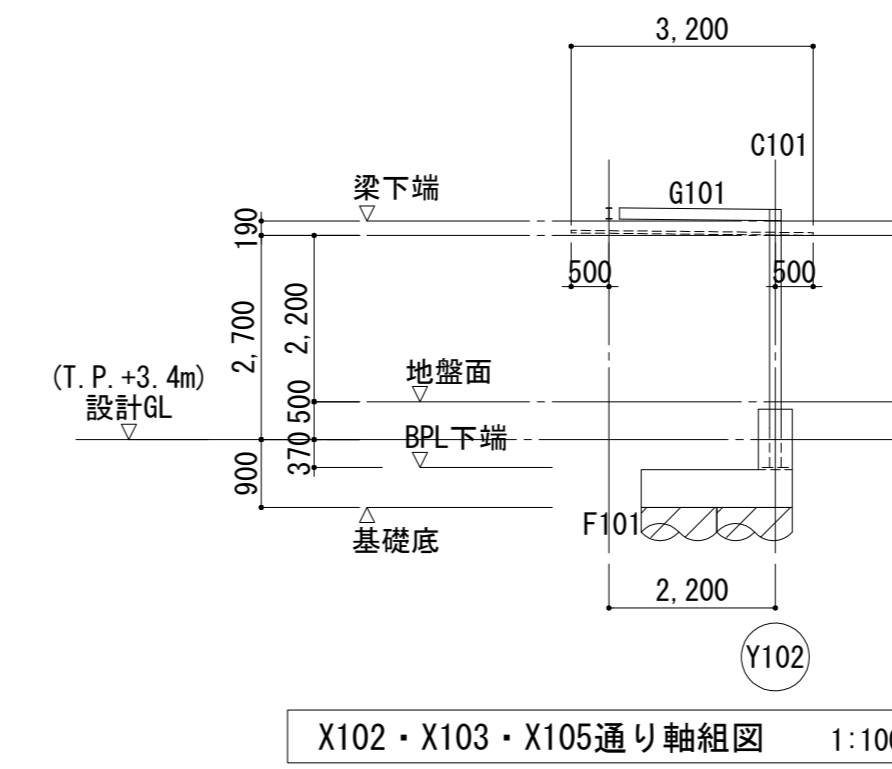
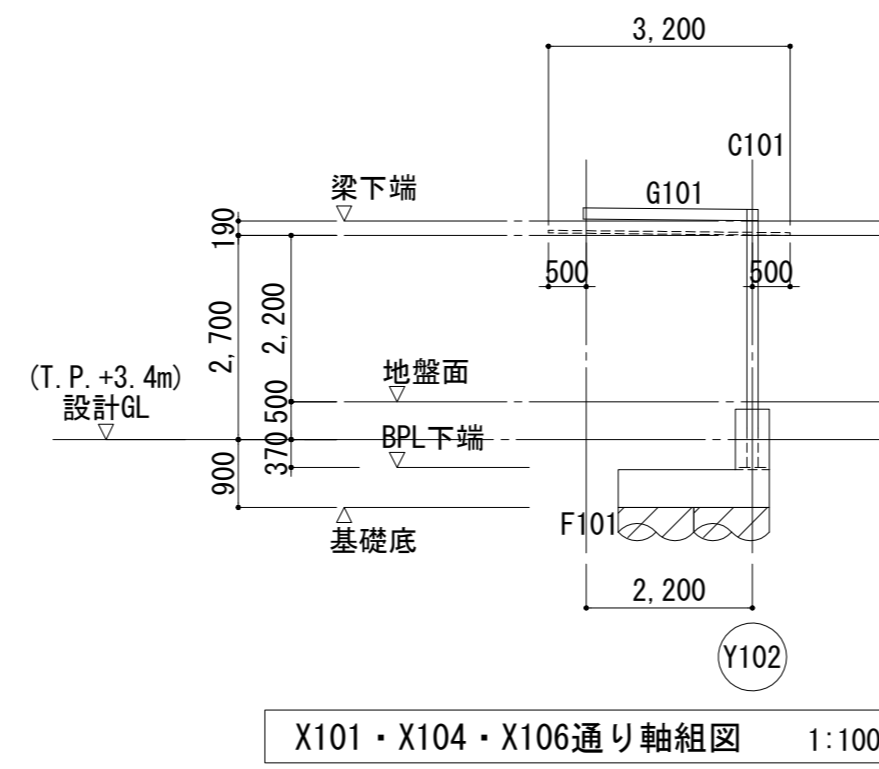
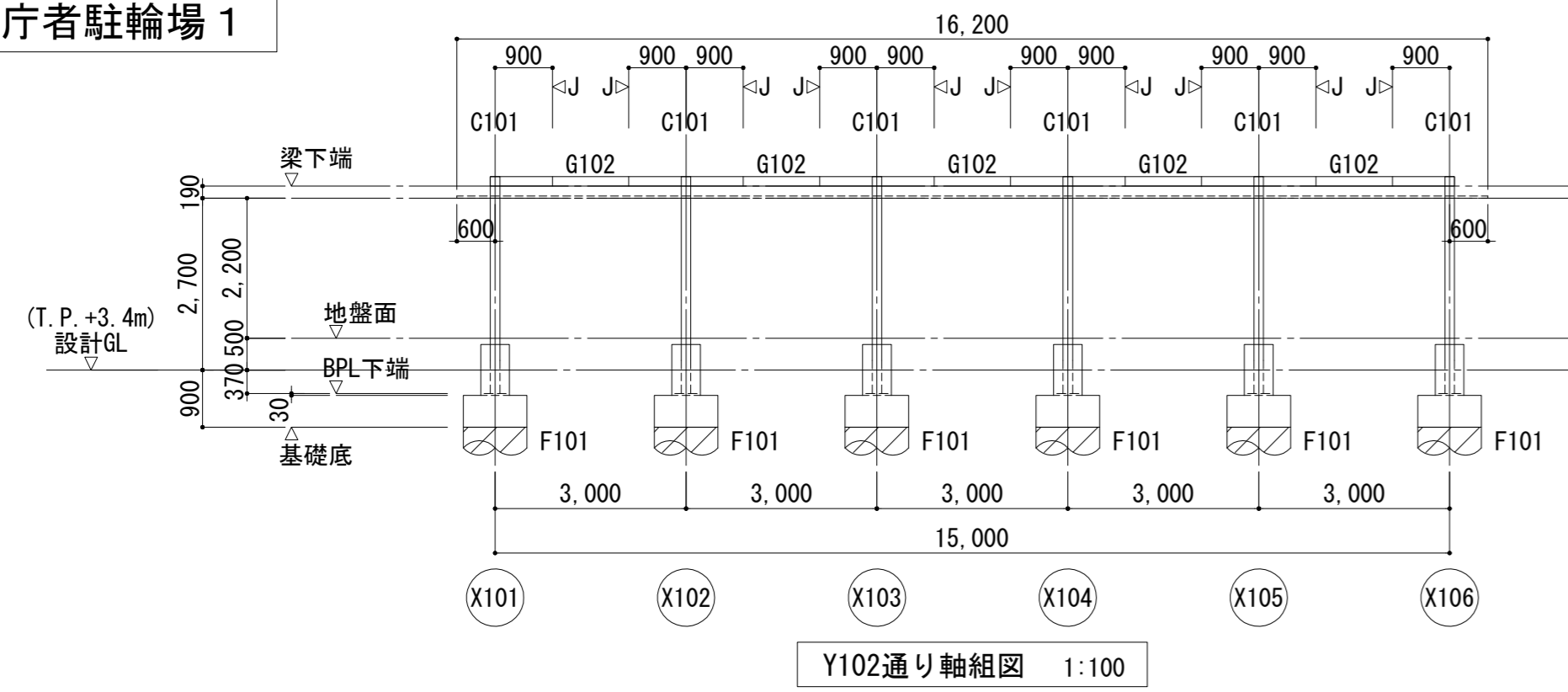
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B 建築工事	A1 1:100 A3 1:200	最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	72 (車寄せ、バス停、優先駐車場1~2、実行者駐車場1~3)	安井建築設計事務所	
		最終契約版	

優先駐車場 2



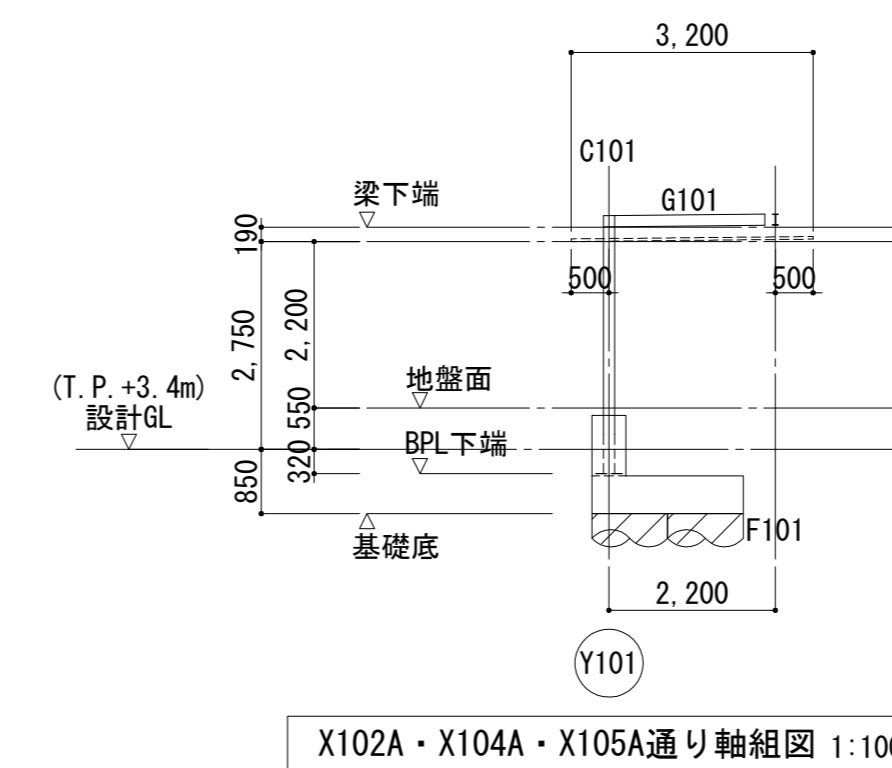
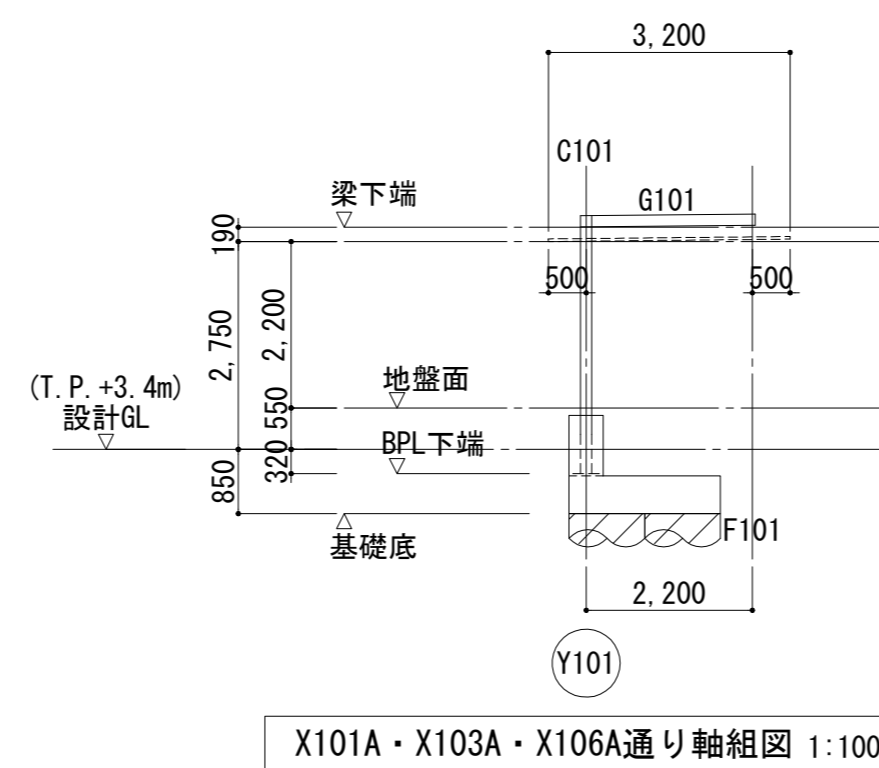
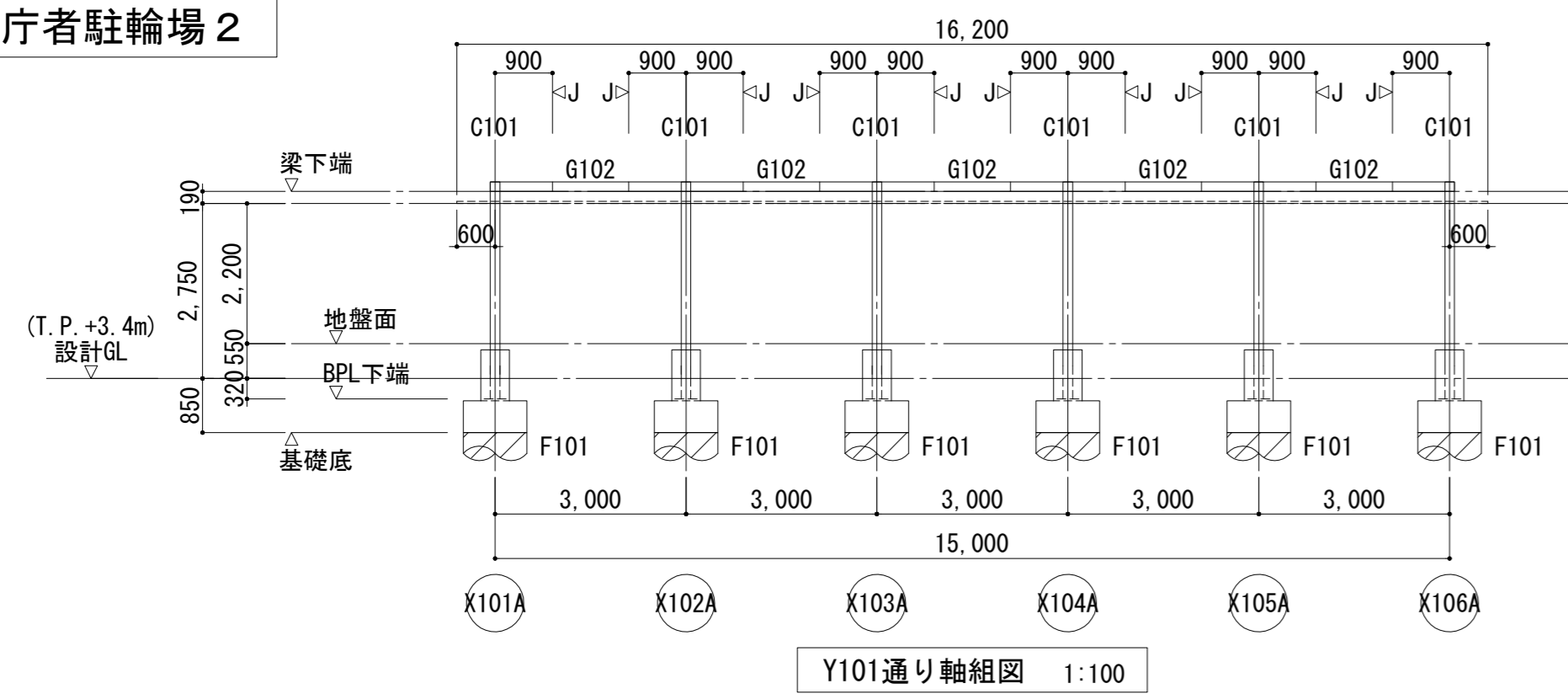
- 共通事項 (特記なき限り)
- ◀J印は 現場継手位置 を示す。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキを施す。
  - 礎柱天端は 再生クラッシュラン天端までとする。

来庁者駐輪場 1



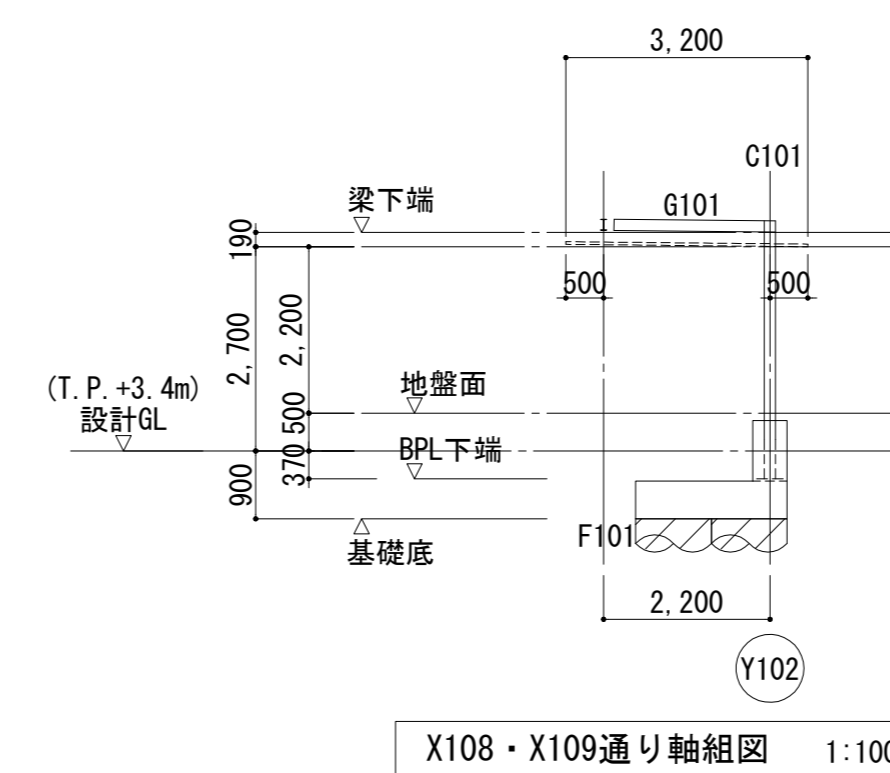
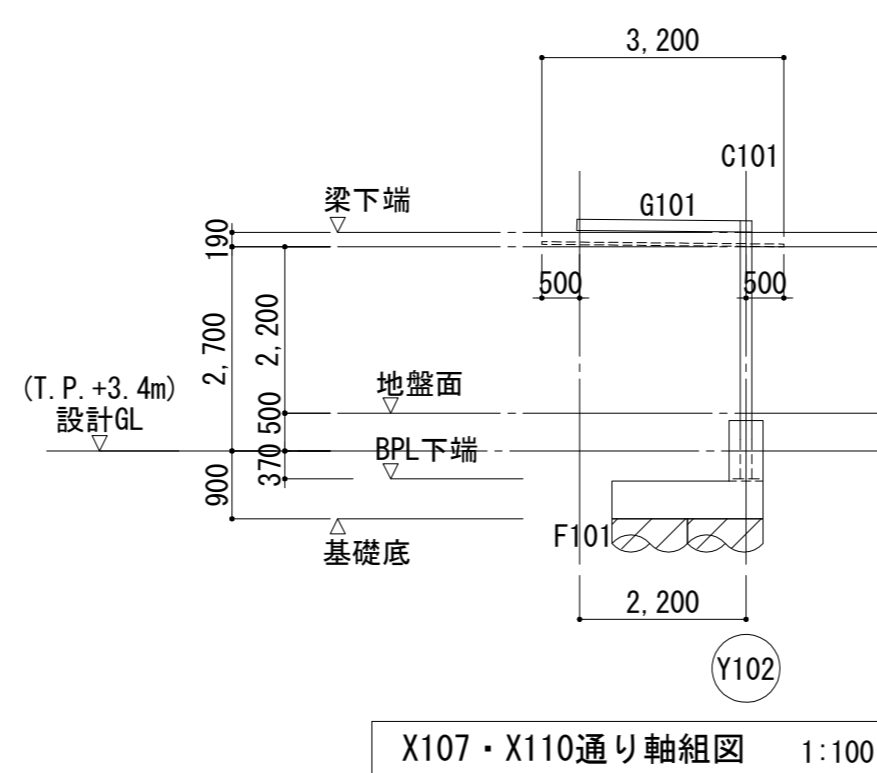
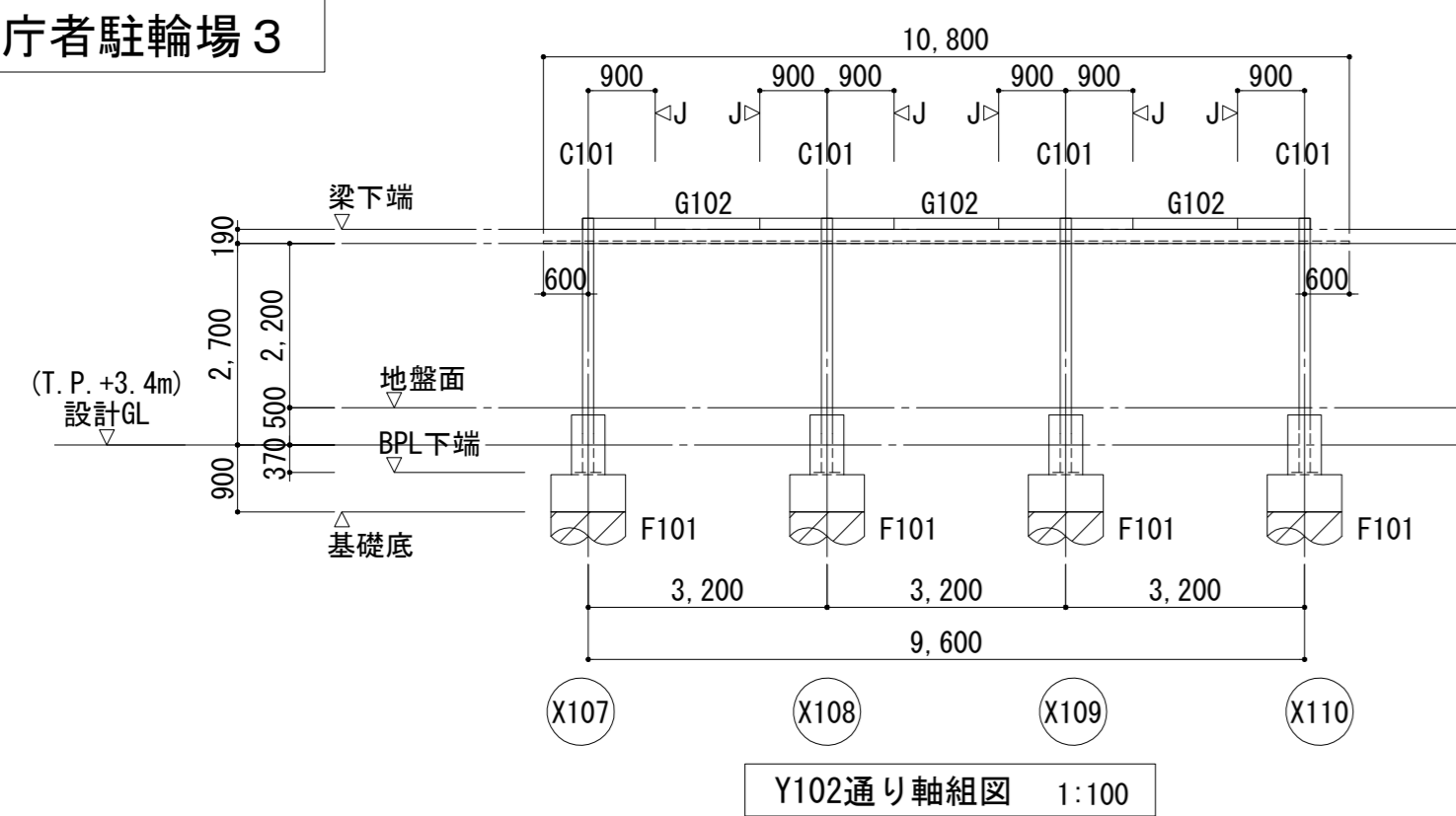
- 共通事項 (特記なき限り)
- ◀J印は 現場継手位置 を示す。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキを施す。
  - 礎柱天端は 再生クラッシュラン天端までとする。

来庁者駐輪場 2



- 共通事項 (特記なき限り)
- ◀J印は 現場継手位置 を示す。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキを施す。
  - 礎柱天端は 再生クラッシュラン天端までとする。

来庁者駐輪場 3

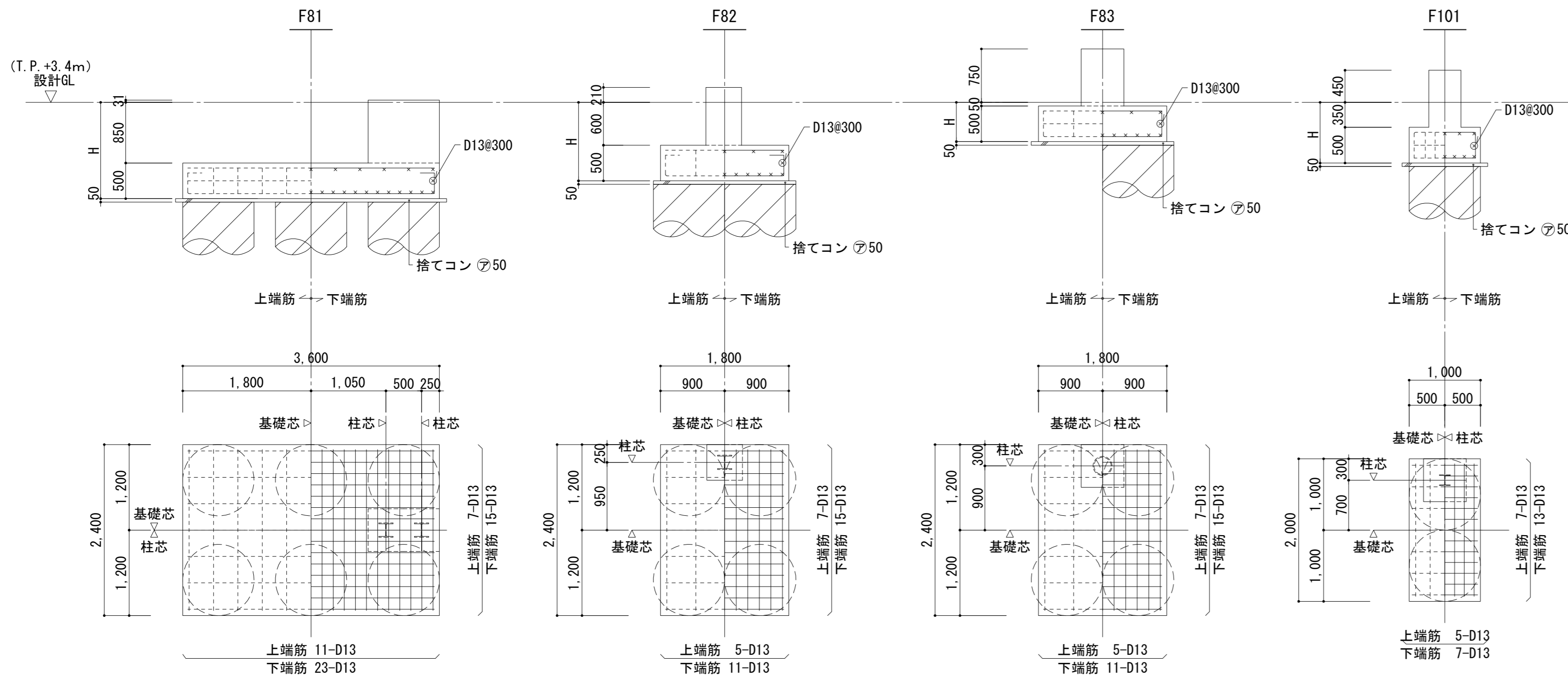


- 共通事項 (特記なき限り)
- ◀J印は 現場継手位置 を示す。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキを施す。
  - 礎柱天端は 再生クラッシュラン天端までとする。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事 A1 1:100 軸組図 (2) A3 1:200 (庫寄せ、バス停、優先駐車場1~2、来庁者駐輪場1~3)	最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	73	安井建築設計事務所	

共通事項 (特記なき限り)  
 \* 基礎深さHは基礎伏図による。  
 \* 基礎下地業は捨コンクリートφ50とする。

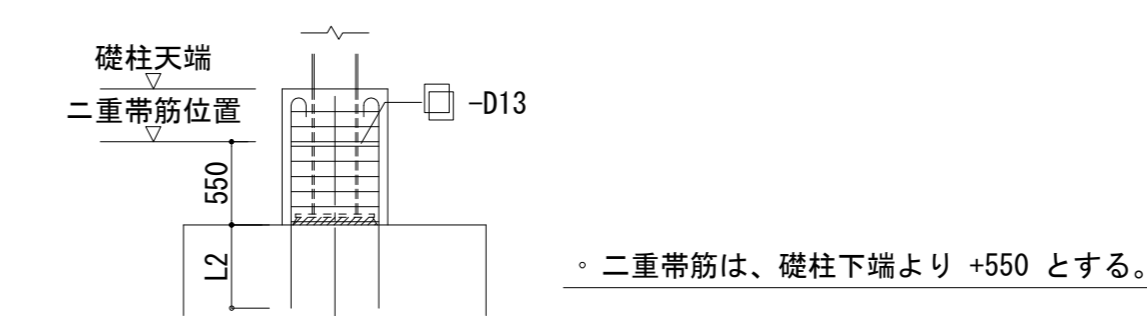
基礎リスト 1:50



共通事項 (特記なき限り)  
 \* 鉄骨材質はSN400Bとする。  
 \* 通しダイアフラム材質はSN400Cとする。

柱リスト 1:50

符号	C81	C82	C83	C101
1階	H-200x200x8x12	H-200x200x8x12	○-267.4x9.3 (STKN400)	H-150x150x7x10
備考	通しダイアフラム材質 SN490C			
柱脚形状型名	根巻き柱脚		根巻き柱脚	根巻き柱脚
スタッドコネクタ	片側3本-19φ (フランジ側)		片側3本-19φ (フランジ側)	片側3本-19φ (フランジ側)
形状				
ベースプレート	PL-22x300x400	PL-16x250x250	PL-16x400x400	PL-16x250x200
アンカーボルト	4-M20, 6-M20 (SNR400) (ℓ=20d, 二重ナット締め 定着板付き)	4-M20 (SNR400) (ℓ=20d, 二重ナット締め 定着板付き)	4-M20 (SNR400) (ℓ=20d, 二重ナット締め 定着板付き)	2-M20 (SNR400) (ℓ=20d, 二重ナット締め 定着板付き)
礎柱				
主筋	14-D19	10-D19	10-D19	8-D19
フープ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
備考				



根巻きコンクリート配筋要領図 1:50

共通事項 (特記なき限り)  
 \* 鉄骨材質はSN400Bとする。  
 \* ガセットプレート (GPL) 材質は母材と同材質とする。  
 \* 高力ボルトはS10T、メッキ部材については溶融亜鉛メッキボルト F8T (大臣認定品) とする。  
 \* 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。

大梁リスト

符号	G81		G82, CG82		G83		G84		G84a, CG84a	
R階	全断面	H-294x200x8x12 (SN490B)	全断面	H-294x200x8x12	全断面	H-194x150x6x9	全断面	H-194x150x6x9	全断面	H-200x200x8x12
備考	柱間: BH-300x200x12x16 (SN490B)									

符号	G85		G86, CG86		G87		G88, CG88		G101, G102	
R階	全断面	H-244x175x7x11	全断面	H-244x175x7x11	全断面	H-244x175x7x11	全断面	H-244x175x7x11	全断面	H-148x100x6x9
備考										

鉄骨梁継手リスト (フランジ・ウェブ)

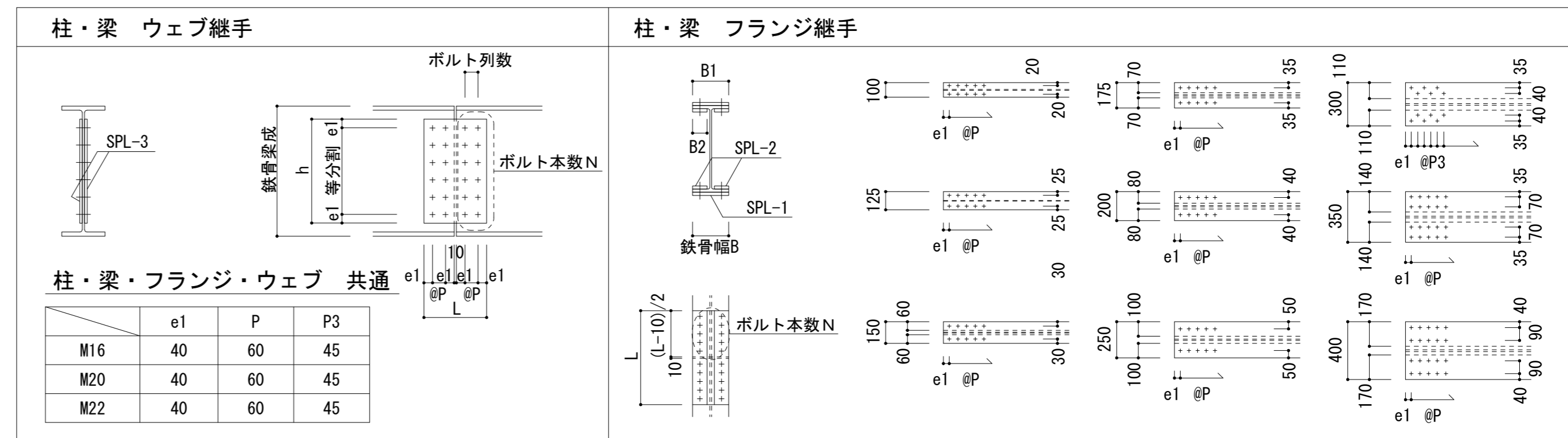
共通事項 (特記なき限り)  
 \* スプラインプレートは母材と同材質とする。  
 \* フィラープレートはSS400とする。  
 \* 高力ボルトはS10T、メッキ部材については溶融亜鉛メッキボルト F8T (大臣認定品) とする。  
 \* 継手は原則として「鉄骨構造標準接合部 SCSS-H97」による。

材質	部材メンバー (中央断面)	フランジ継手				ウェブ継手				備考						
		ボルト	SPL-1	SPL-2	L	ボルト	SPL-3	L								
SN400B	H-148x100x6x9	M16	2	6	16	100	-	-	410	M16	2	2	6	80	290	F8T
	H-194x150x6x9	M20	2	4	9	150	9	60	290	M20	2	2	6	140	290	F8T
	H-200x200x8x12	M20	2	6	9	200	9	80	410	M20	2	4	6	140	290	F8T
	H-244x175x7x11	M20	2	4	9	175	9	70	290	M20	2	4	9	140	290	F8T
SN490B	H-294x200x8x12	M20	2	6	9	200	9	80	410	M20	1	3	9	200	270	F8T
	H-294x200x8x12	M20	2	8	9	200	9	80	530	M20	2	6	9	200	290	F8T

共通事項 (特記なき限り)  
 \* 鉄骨材質はSS400とする。  
 \* ガセットプレート (GPL) 材質は母材と同材質とする。  
 \* 高力ボルトはS10T、メッキ部材については溶融亜鉛メッキボルト F8T (大臣認定品) とする。  
 \* 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。

鉄骨部材リスト

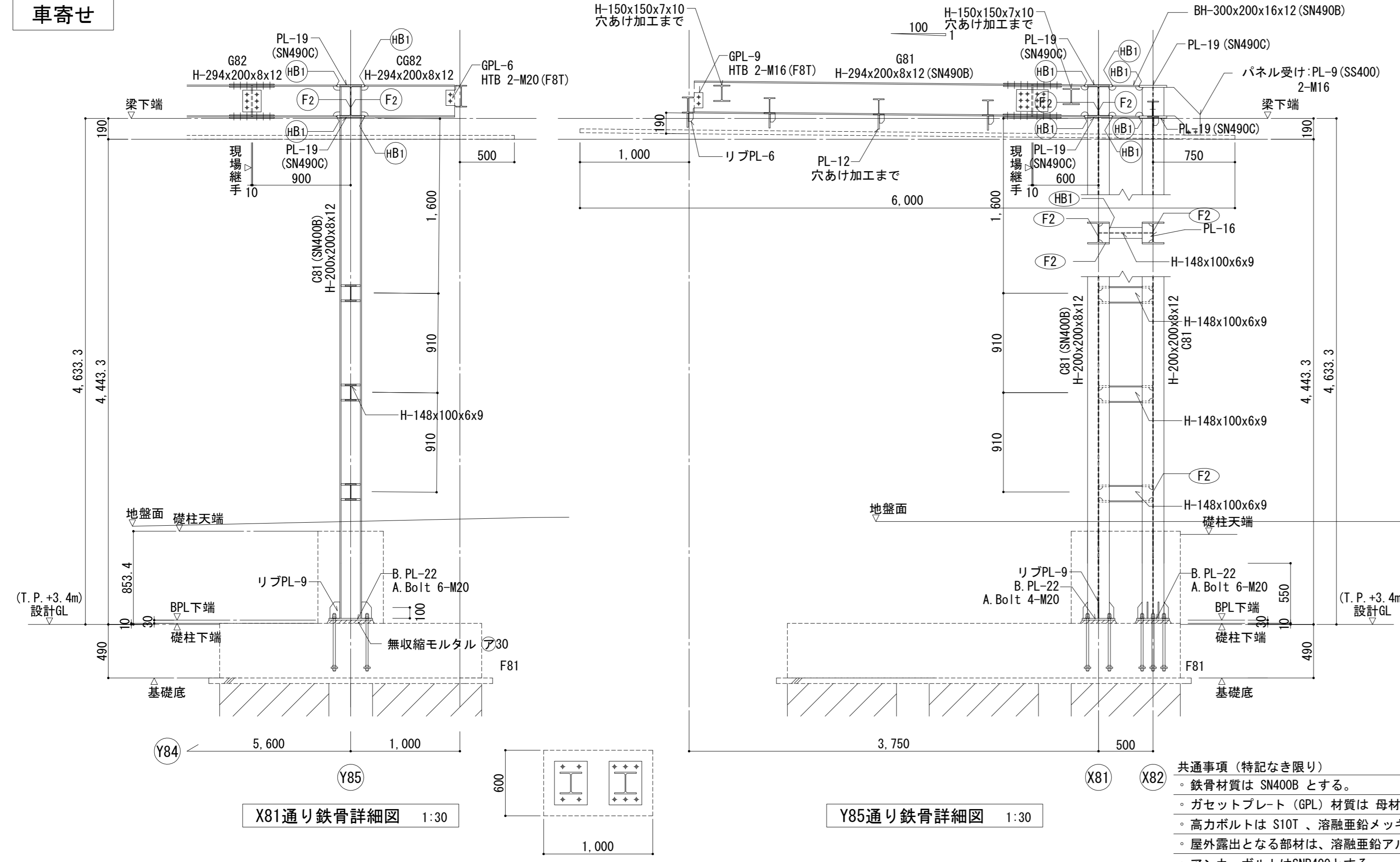
符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート (GPL)	スプラインプレート (2-SPL)	備考
sb10w	H-100x100x 6x 8	2-M16 (F8T)	PL- 6		
sb14	H-148x100x 6x 9	2-M16 (F8T)	PL- 6		
sb15w	H-150x150x 7x10	2-M20 (F8T)	PL- 9		
sb20w	H-200x200x 8x12	2-M20 (F8T)	PL- 9		
sb25	H-250x125x 6x 9	2-M20 (F8T)	PL- 9		
t7	[- 75x 40x 5x 7	2-M16 (F8T)	PL- 6		
M16	1-M16 (ターンバックル付き)	1-M16 (F8T)	PL- 6		水平ブレース



<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	<b>B</b>	<b>建築工事</b>	A1 1: 50 最終版 2024.3.25 A3 1:100 見積版 2024.3.25
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	<b>74</b>	<b>74</b>	最終契約版
<b>安井建築設計事務所</b>			



車寄せ

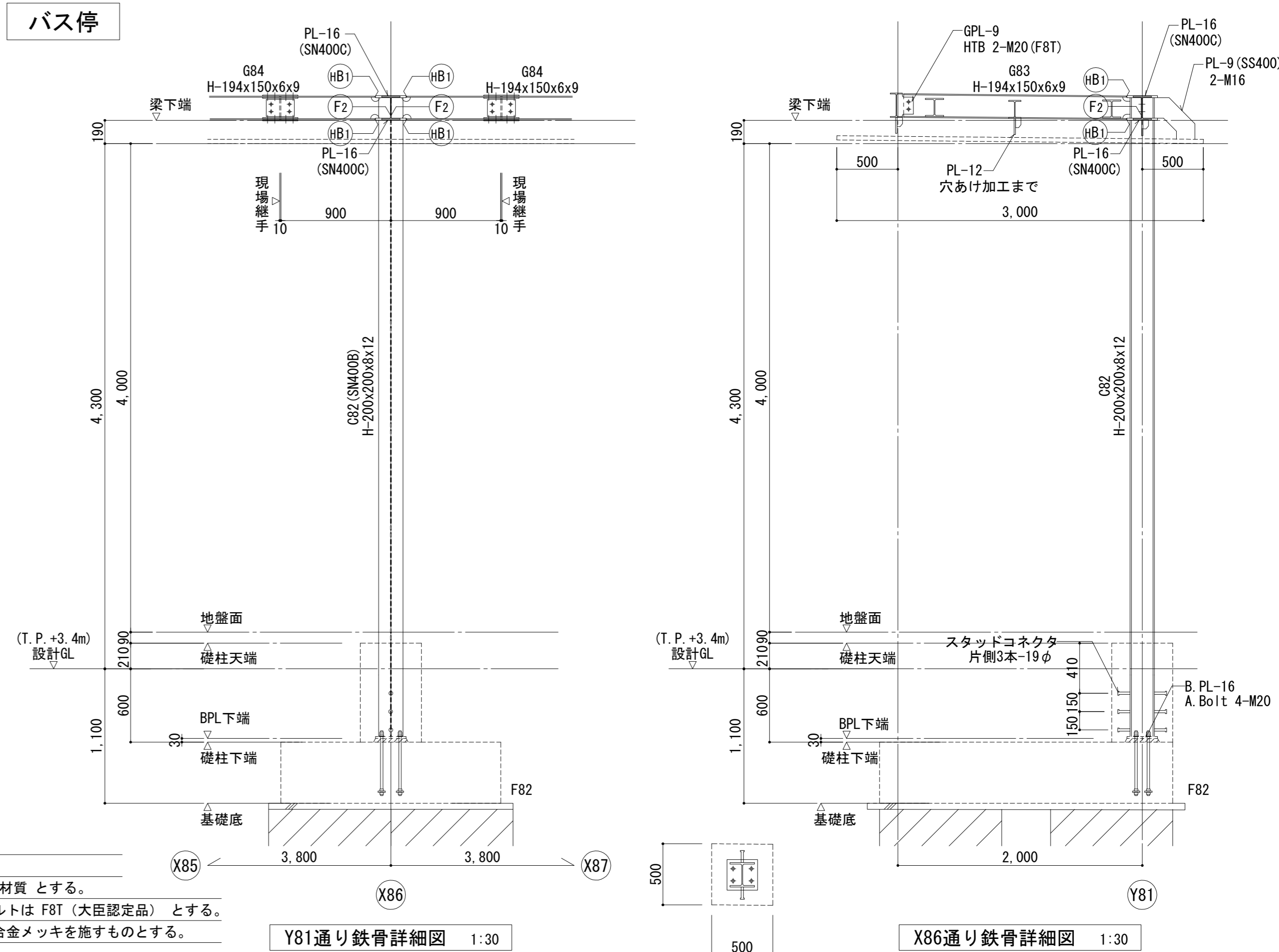


X81通り鉄骨詳細図 1:30

X85通り鉄骨詳細図 1:30

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は SN400B とする。
  - ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。
  - 高力ボルトは S10T、溶融亜鉛メッキボルトは F8T (大臣認定品) とする。
  - 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。
  - アンカーボルトは SNR400 とする。
  - 仕上げ高さは意匠図による。

バス停



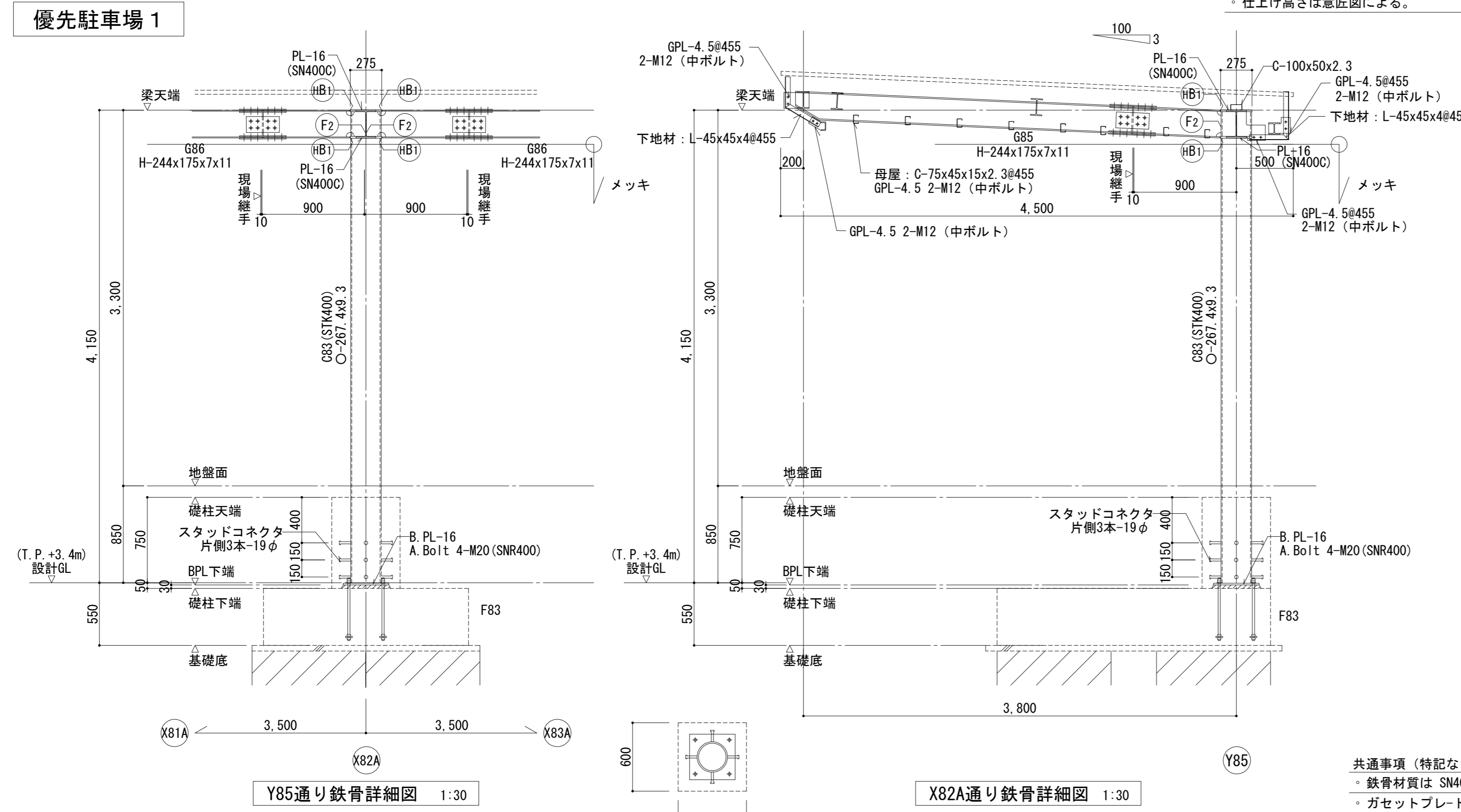
X86通り鉄骨詳細図 1:30

X87通り鉄骨詳細図 1:30

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は SN400B とする。
  - ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。
  - 仕上げ高さは意匠図による。

- 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。
- アンカーボルトは SNR400 とする。
- 高力ボルトは S10T、溶融亜鉛メッキボルトは F8T (大臣認定品) とする。

優先駐車場 1



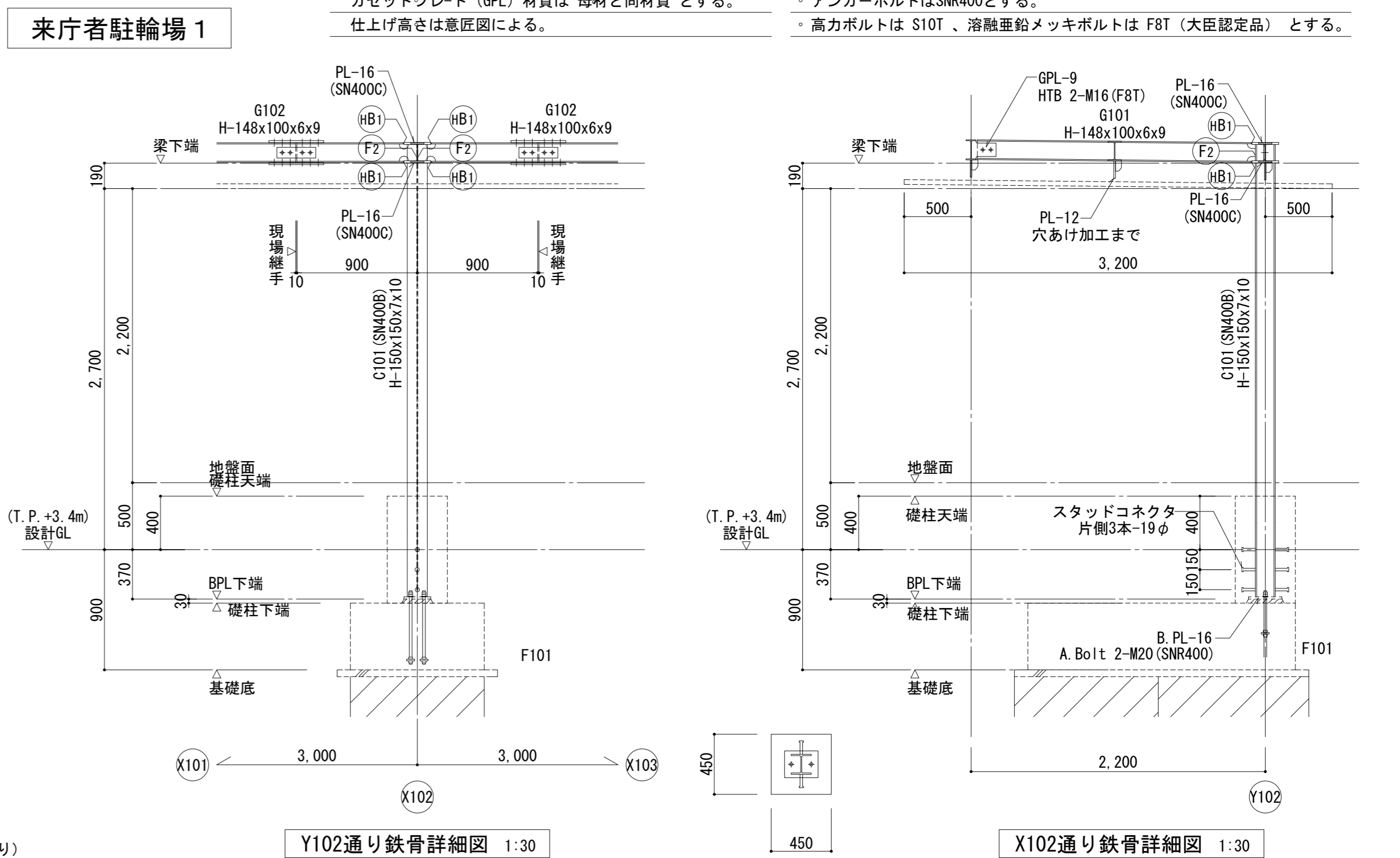
X82A通り鉄骨詳細図 1:30

X83A通り鉄骨詳細図 1:30

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は SN400B とする。
  - ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。
  - 仕上げ高さは意匠図による。

- 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。
- アンカーボルトは SNR400 とする。
- 高力ボルトは S10T、溶融亜鉛メッキボルトは F8T (大臣認定品) とする。

来庁者駐輪場 1



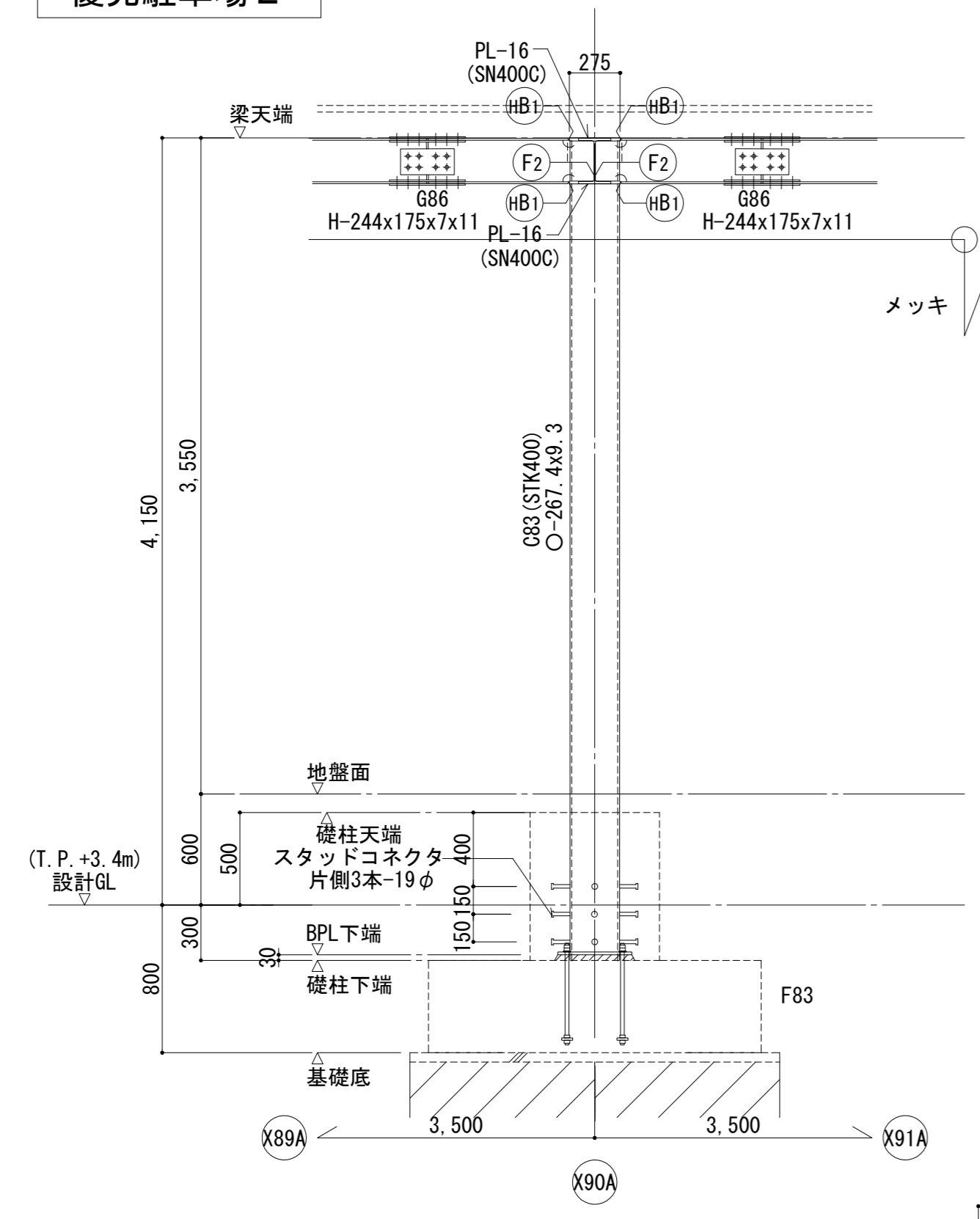
X102通り鉄骨詳細図 1:30

X103通り鉄骨詳細図 1:30

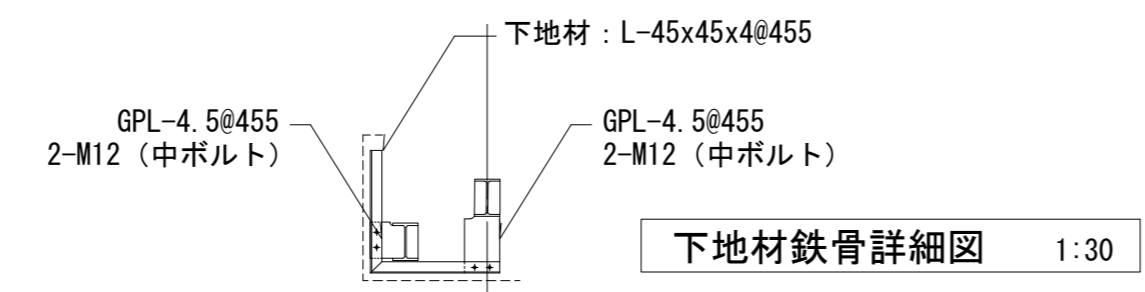
- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は SN400B とする。
  - ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。
  - 高力ボルトは S10T、溶融亜鉛メッキボルトは F8T (大臣認定品) とする。
  - 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。
  - アンカーボルトは SNR400 とする。
  - 仕上げ高さは意匠図による。

明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B 建築工事	A1 1: 30 A3 1: 60	最終版 2024.3.25
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	75 鉄骨詳細図(1) (車寄せ、バス停、優先駐車場1~2、来庁者駐輪場1~3)	見積版 2024.3.25	最終契約版

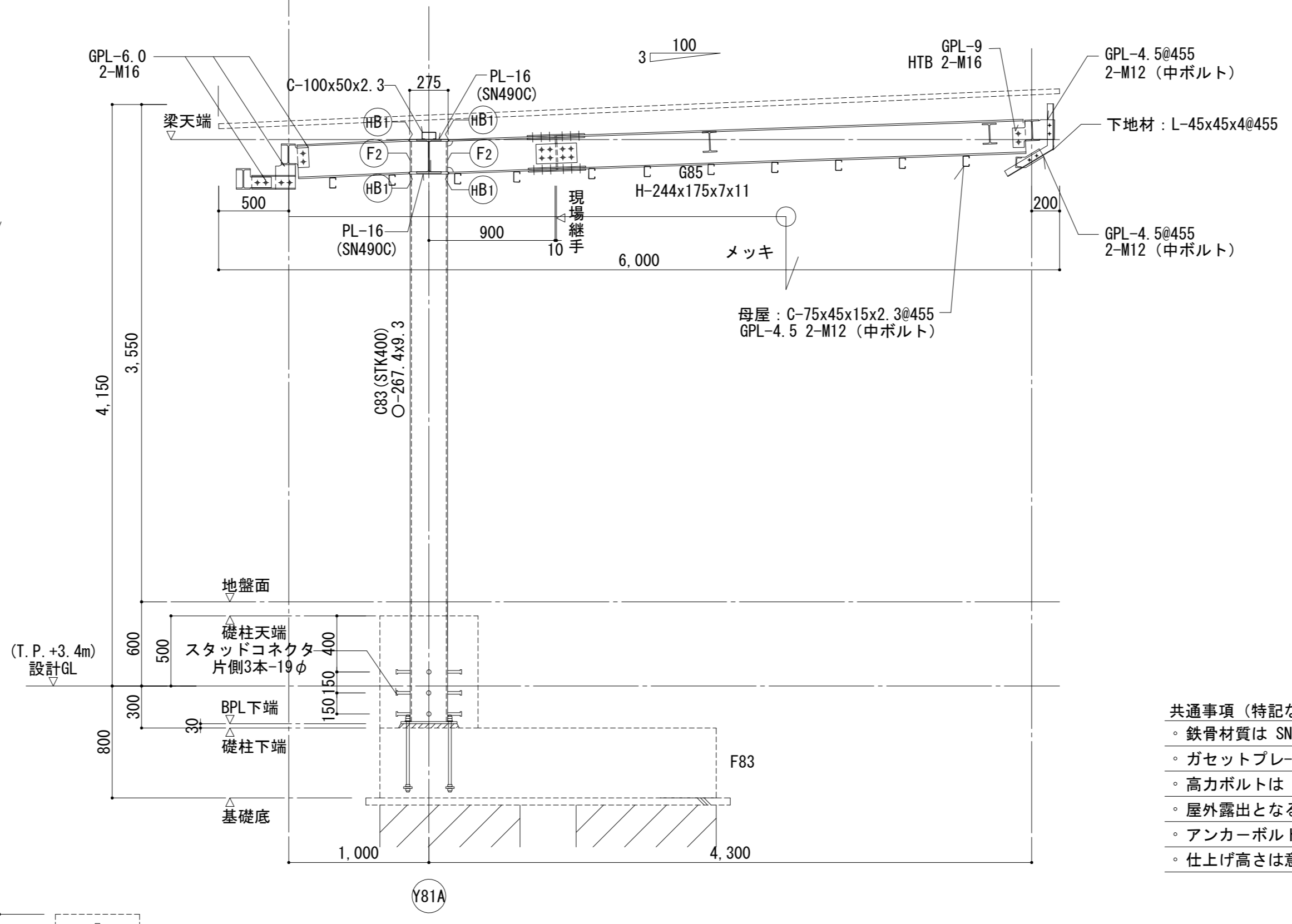
優先駐車場 2



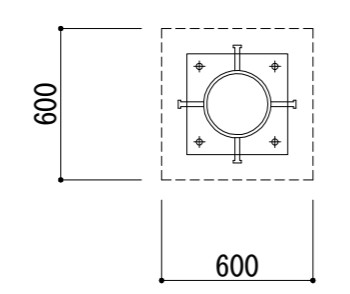
Y81A通り鉄骨詳細図 1:30



下地材鉄骨詳細図 1:30

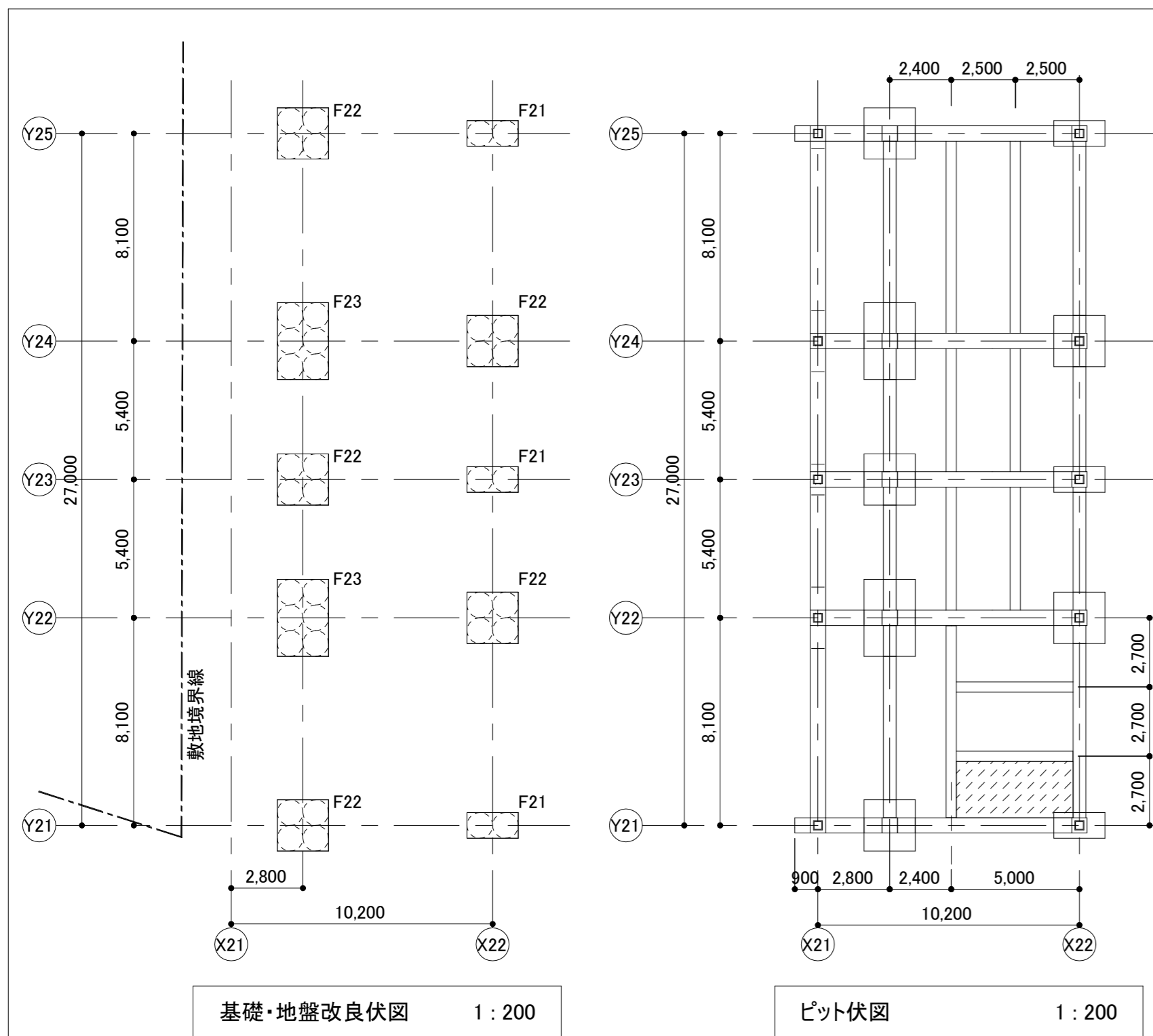


X90A通り鉄骨詳細図 1:30

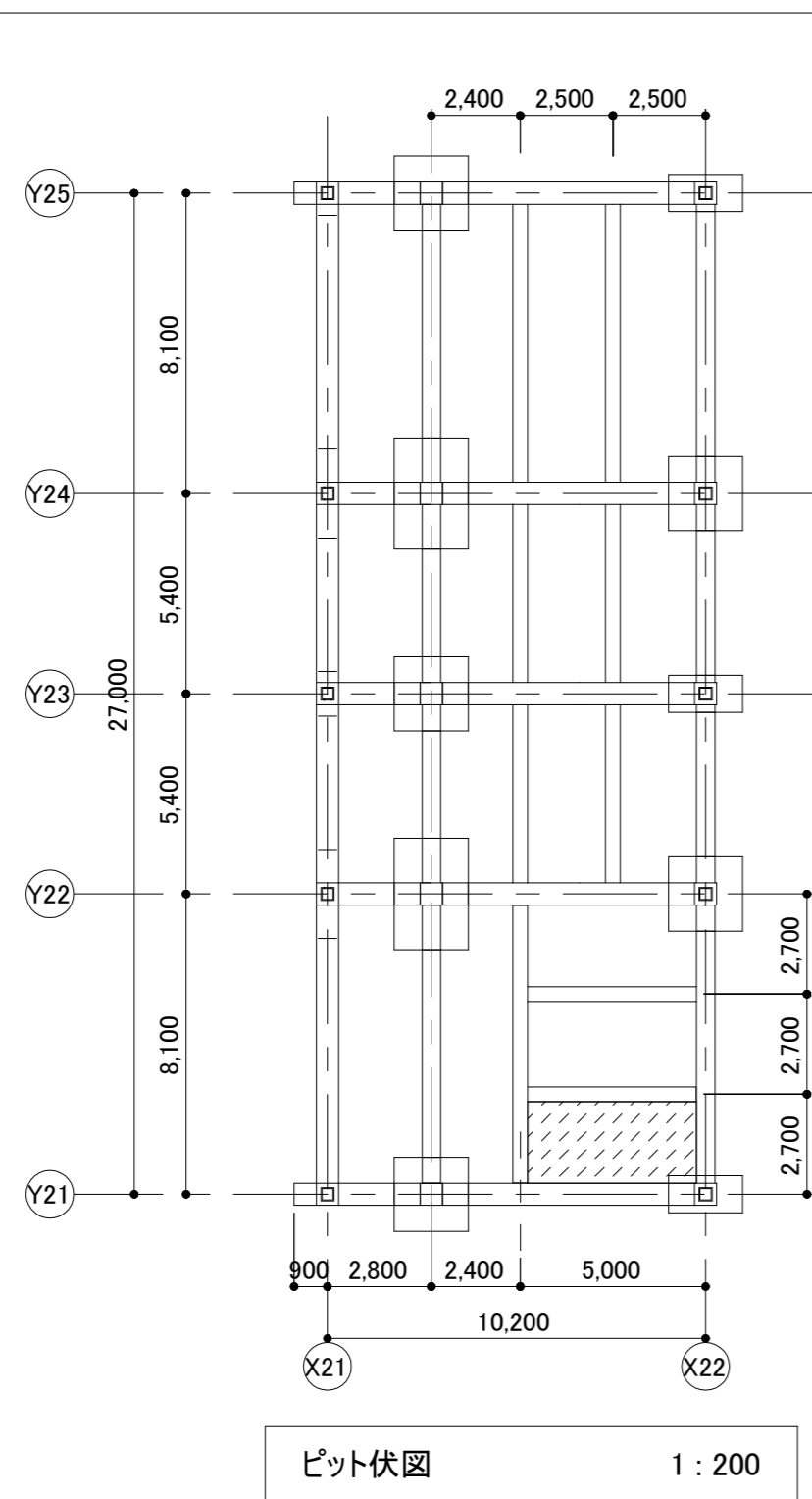


- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は SM400B とする。
  - ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。
  - 高力ボルトは S10T、溶融亜鉛メッキボルトは F8T (大臣認定品) とする。
  - 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。
  - アンカーボルトは SNR400 とする。
  - 仕上げ高さは意匠図による。

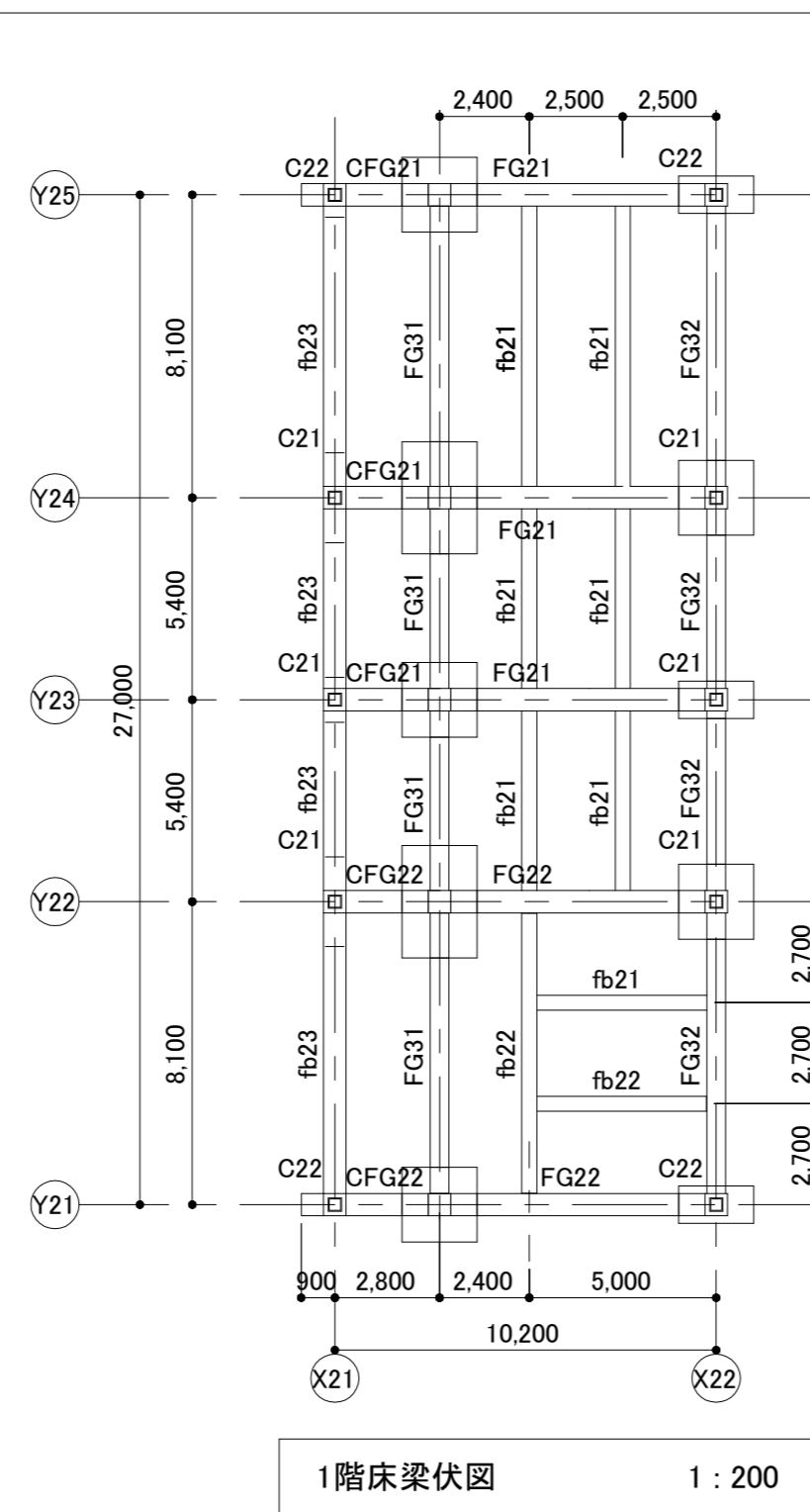
<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事	A1 1:30 A3 1:60
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	76	鉄骨詳細図(2) (車寄せ、バス停、優先駐車場1~2、乗行者駐車場1~3)	最終版 2024.3.25 見積版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



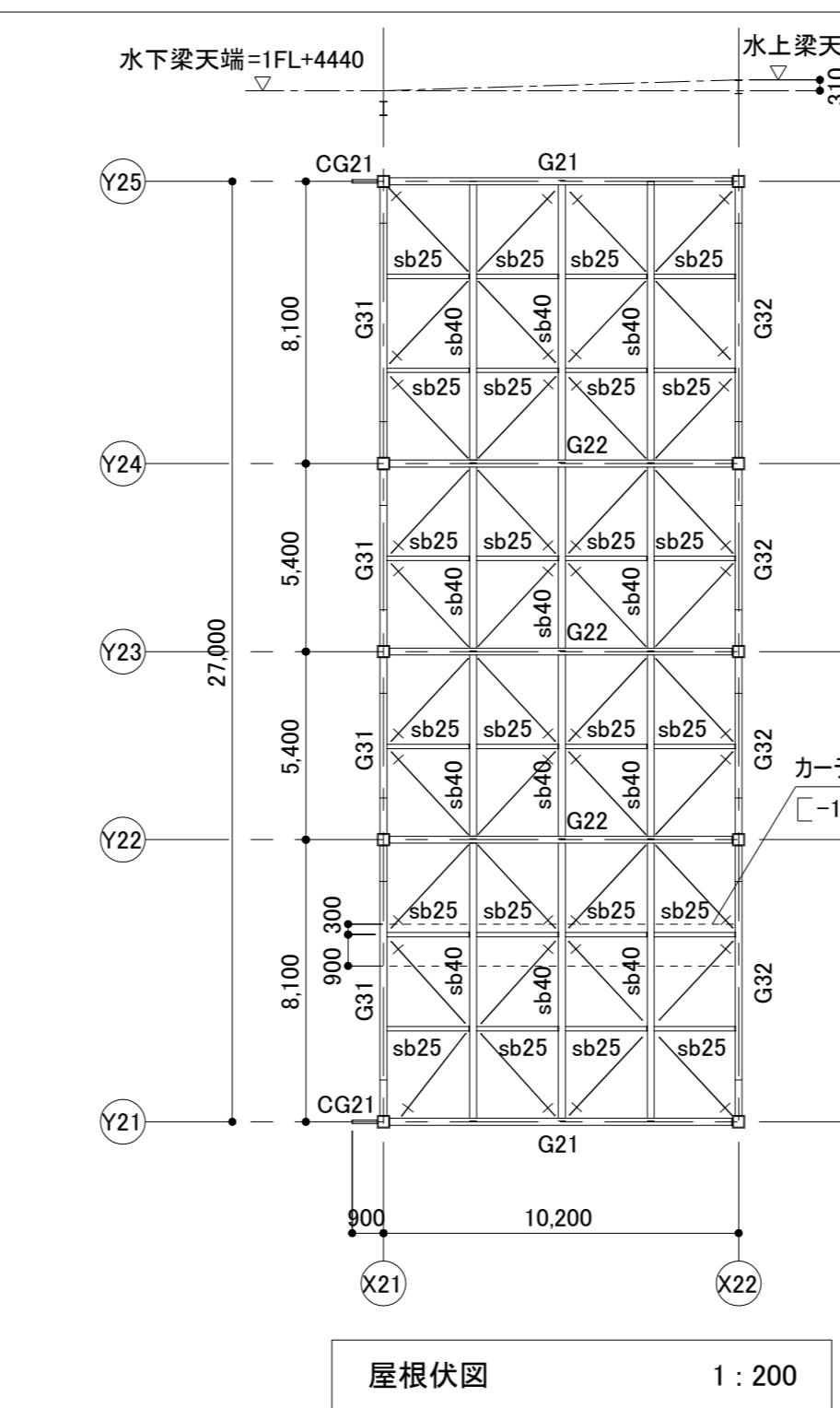
基礎・地盤改良伏図 1 : 200



ピット伏図 1 : 200



1階床梁伏図 1 : 200



屋根伏図 1 : 200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 設計GL= TP+3.50とする。
  - 基礎底は、設計GL-1600とする。
  - 支持層は、設計GL-9.31m付近の砂礫層とする。
  - 改良コラム径 1000φ、コラム設計基準強度 1400kN/m<sup>2</sup>とする。
  - 改良底レベル 設計GL-9310、改良天端レベル 設計GL-1600とする。
  - 施工地盤面～改良天端まで空堀りとする。
  - セメント系固化材を使用する場合は、六価クロムの溶出について試験を行うこと。

- 共通事項 (特記なき限り)
- 1FL= 設計GL+150とする。
  - 基礎梁符号は、1階床梁伏図による。
  - 印のピット天端は、1FL-1400とする。
  - 印は、埋戻し範囲を示す。

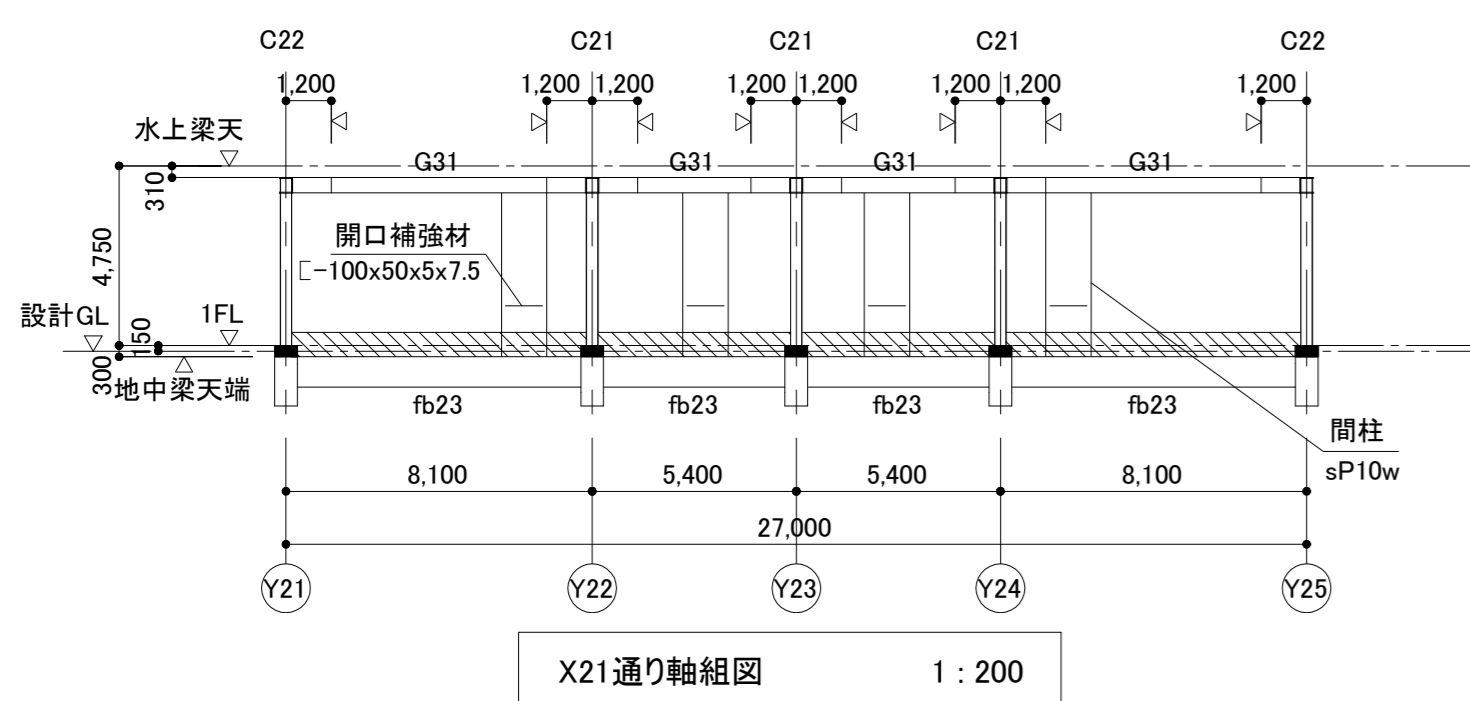
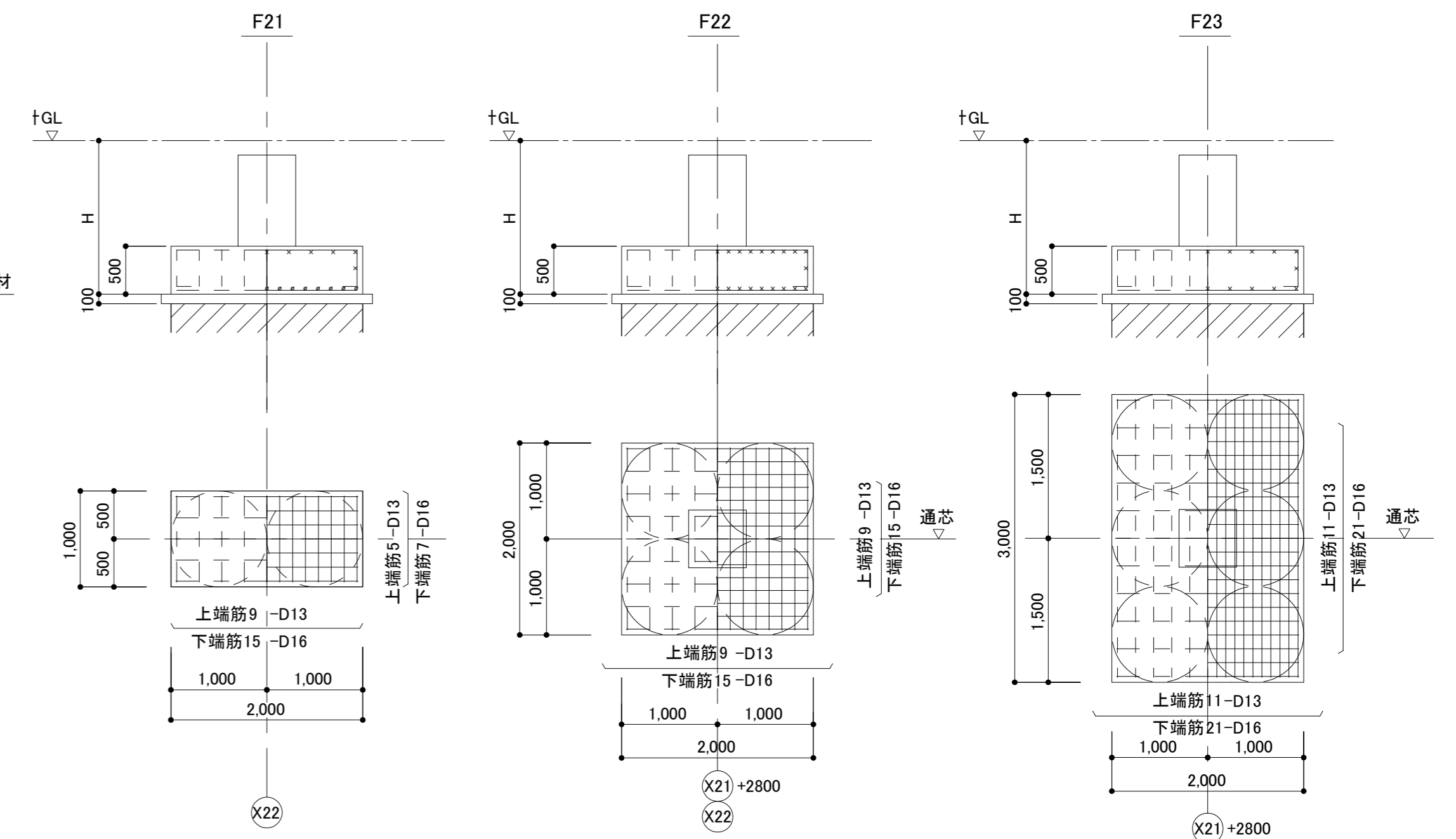
- 共通事項 (特記なき限り)
- 1FL= 設計GL+150とする。
  - スラブ符号は、S21とする。
  - スラブ天端は水勾配により、1FL-20～+80とする。
  - 大梁天端は、1FL-300とする。
  - 小梁天端は水勾配により、1FL-200～-100とする。
  - 梁天端レベルとスラブ天端レベルに差異がある場合は、梁上(下)増打ちとする。

- 共通事項 (特記なき限り)
- 水下梁天端 = 1FL+4440、水上梁天端 = 1FL+4750とする。
  - 小梁天端は 大梁天端+50とする。
  - は水平ブレース HV20 を示し、× はターンバックルを示す。

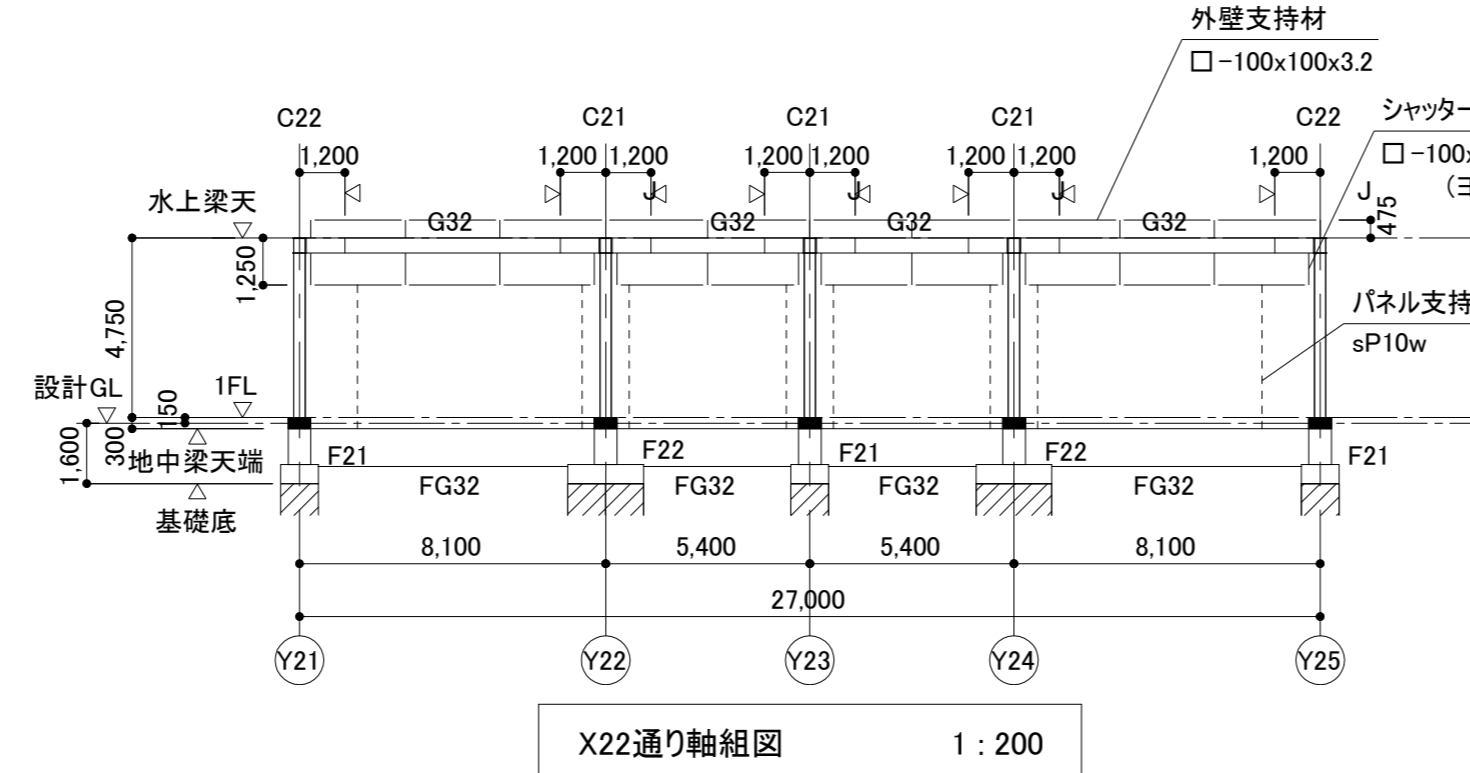
基礎リスト 1:50

共通事項 (特記なき限り)

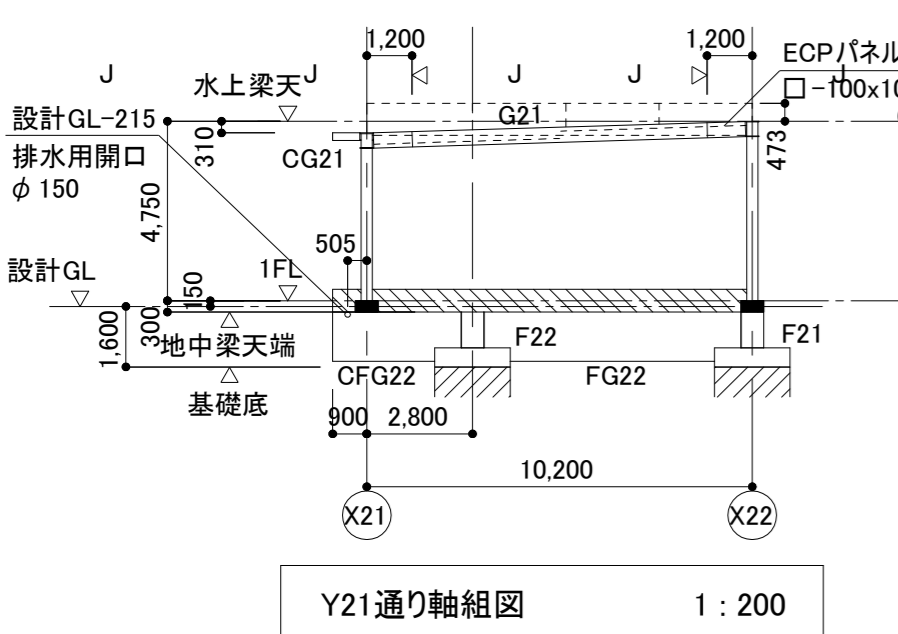
- 基礎深さは、軸組図による。
- は、地盤改良体を示す。
- 基礎下地業は、捨てコンクリート (ア)100とする。
- コンクリート打設中および打設後 5日間は、コンクリート温度を 2℃以上に保つこと。
- コンクリートの凝結および硬化が妨げられないよう適切に養生すること。
- 型枠および支柱は、所定の強度が発生するまで残置し、所定の強度は昭和 46年建設省告示第110号による。



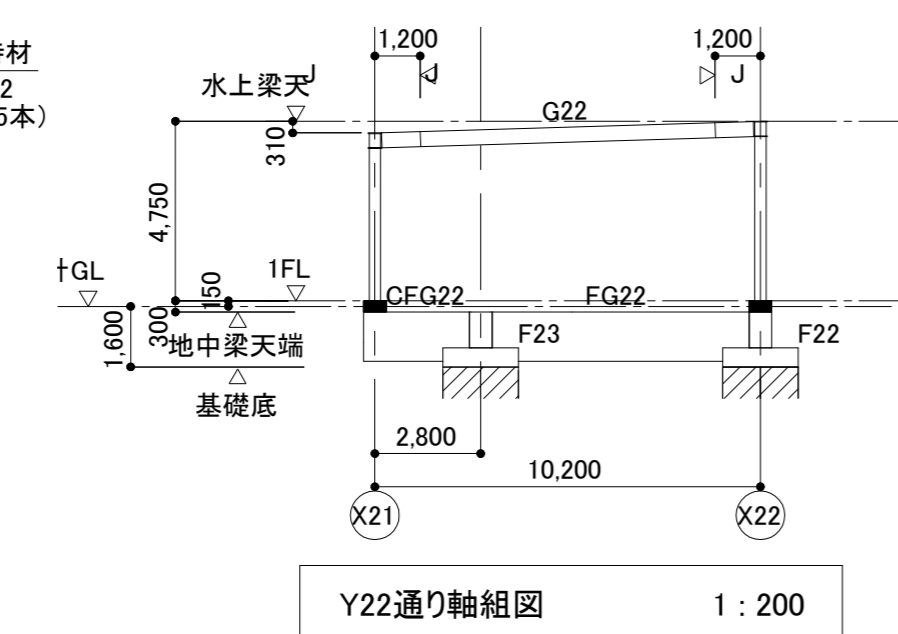
X21通り軸組図 1 : 200



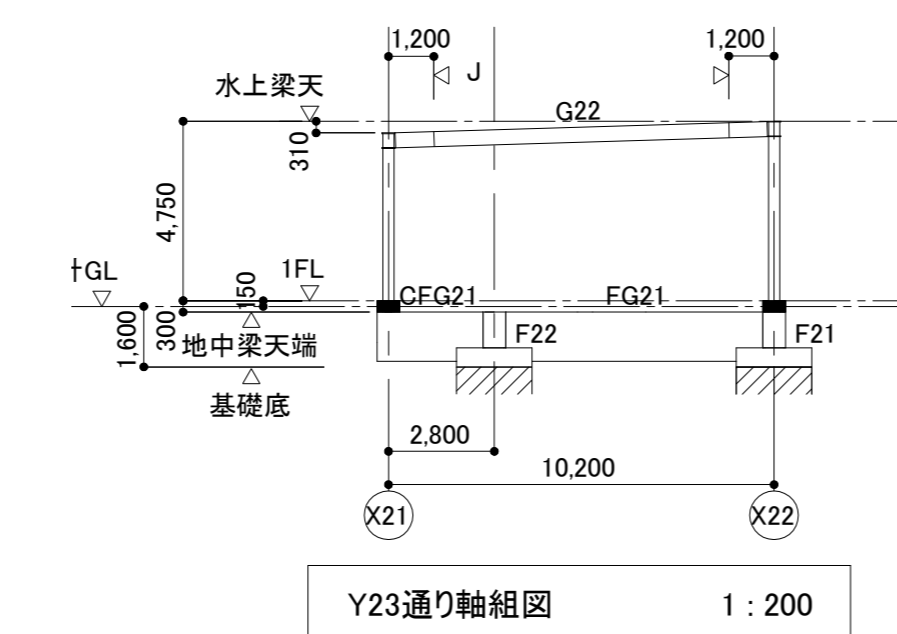
X22通り軸組図 1 : 200



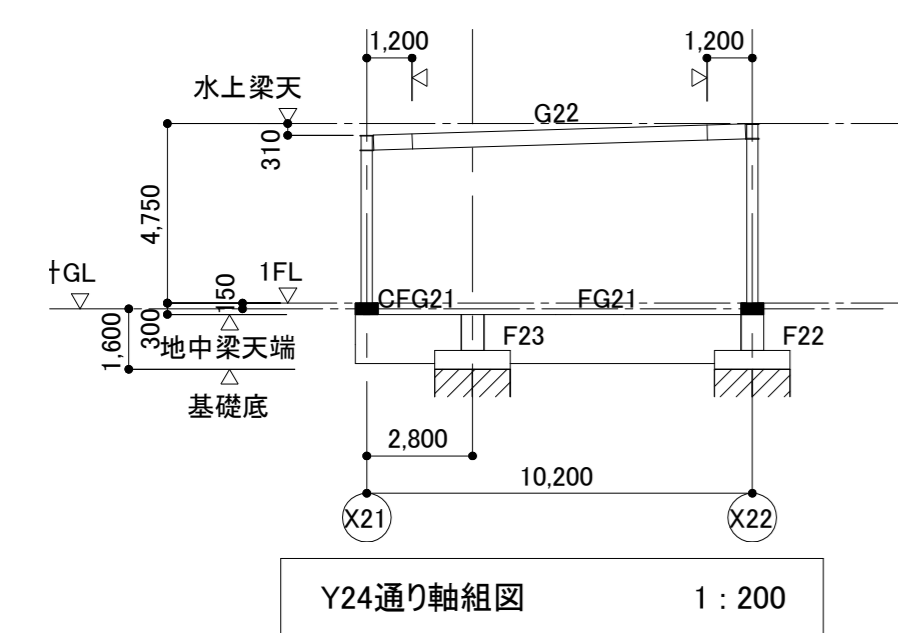
Y21通り軸組図 1 : 200



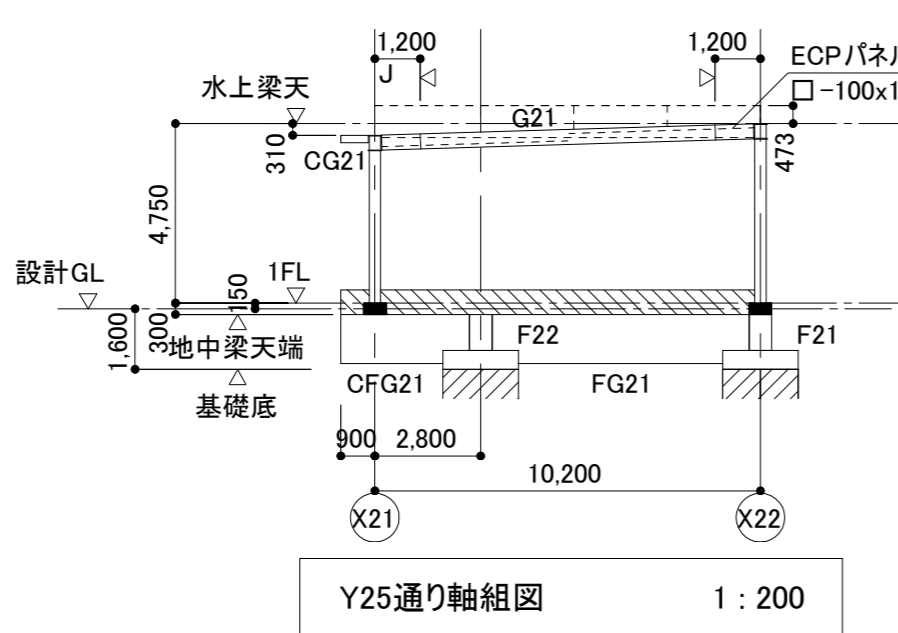
Y22通り軸組図 1 : 200



Y23通り軸組図 1 : 200



Y24通り軸組図 1 : 200



Y25通り軸組図 1 : 200

- 共通事項 (特記なき限り)
- は、腰壁 W18 とする。
  - は、根巻きコンクリート 600x600 とする。

基礎梁リスト 1:50

共通事項 (特記なき限り)

- 梁下地業は、捨てコンクリート (ア) 50、砕石 (ア) 60 とする。
- 幅止筋は、D10@1000以内 とする。
- 2段受け筋は、D16@1000以内 とする。
- コンクリート打設中および打設後 5日間は、コンクリート温度を 2℃以上に保つこと。
- コンクリートの凝結および硬化が妨げられないよう適切に養生すること。
- 型枠および支柱は、所定の強度が発生するまで残置し、所定の強度は昭和 46年建設省告示第110号による。

符号	位置	全断面	FG21				FG22				CFG21		CFG22	
			中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央	中央		
断面		1,000	1,000	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
上端筋		5-D25	5-D25	12-D25	6-D25	6-D25	12-D25	6-D25	6-D25	6-D25	12-D25	12-D25	6-D25	12-D25
下端筋		5-D25	5-D25	10-D25	12-D25	6-D25	10-D25	6-D25	6-D25	6-D25	10-D25	10-D25	6-D25	10-D25
スターラップ		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	
腹筋		6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10	

基礎小梁リスト 1:50

- 共通事項 (特記なき限り)
- 梁下地業は、捨てコンクリート (ア) 50、砕石 (ア) 60 とする。
  - 幅止筋は、D10@1000以内 とする。
  - 2段受け筋は、D16@1000以内 とする。
  - コンクリート打設中および打設後 5日間は、コンクリート温度を 2℃以上に保つこと。
  - コンクリートの凝結および硬化が妨げられないよう適切に養生すること。
  - 型枠および支柱は、所定の強度が発生するまで残置し、所定の強度は昭和 46年建設省告示第110号による。

符号	fb21	fb22	fb23
位置	全断面	全断面	全断面
断面	800	1,200	800
上端筋	8-D22	8-D22	8-D22
下端筋	8-D22	8-D22	8-D22
スターラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋			

床版リスト

- 共通事項 (特記なき限り)
- 土に接するスラブ下地業は、捨てコンクリート (ア)50、砕石 (ア)60 とする。

符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋方向)	長辺方向 (配筋方向)	備考
S21	180	上端筋	D13@150	D13@150	
		下端筋	D13@150	D13@150	
FS21	200	上端筋	D13@150	D13@150	
		下端筋	D13@150	D13@150	

壁リスト

共通事項 (特記なき限り)

- 巾止筋は、タテヨコ共 D10@1000以下 とする。

符号	壁厚	主筋		壁開口部補強筋			配列タイプ	備考
		縦筋	横筋	縦筋	横筋	斜筋		
W18	180	D10D13 @ 150	D10D13 @ 150	-	-	-	ダブル配筋	

明石市政策局 企画・調整室

明石市役所新庁舎建設工事

代表設計者 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨

構造設計者 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智

B 建築工事

77 車庫棟 伏図・軸組図・リスト A1 1:200 A3 1:400

最終版 2024.3.25

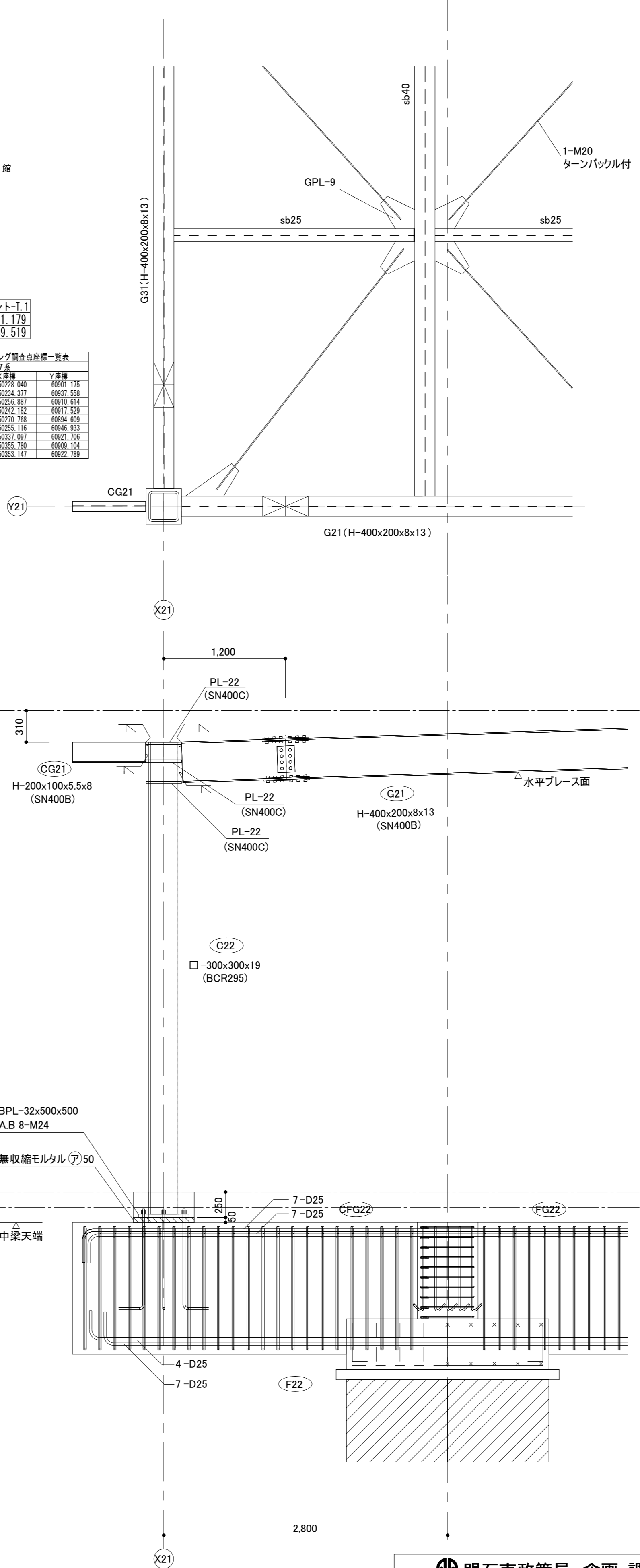
見積版 2024.3.25

最終契約版

20230220

標高	深さ	層厚	孔内水位	試料採取	土質記号	土質名	色	記号	相対湿度	液性指数	標準貫入試験	備考
(m)	(m)	(m)	(m)	(m)					(%)	(%)	(N)	
設計GL=TP+3.50m												
基礎底=設計GL-1600												
地盤改良底=設計GL-9310												

ボーリング柱状図 No.1  
 孔口標高 TP+2.55m



鉄骨詳細図 (Y21通) 1:30

柱リスト 1:50

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は、BCR295とする。
  - 通しダイアフラム材質は SN400C、内ダイアフラム材質は SN400Bとする。

符号	C21	C22
1階	□-300x300x19	□-300x300x19
柱脚形状		
ベースプレート	32x500x500	32x500x500
アンカーボルト	8-M24 (ABR400 L=35d, 二重ナット締め)	8-M24 (ABR400 L=35d, 二重ナット締め)
柱型形状		
主筋	16-D16	16-D16
フープ	□-D10@100	□-D10@100

鉄骨部材リスト

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は、SN400Aとする。
  - ガセットプレート (GPL) 材質は、母材と同材質とする。
  - 高力ボルトは、S10Tとする。

符号	部材断面	GPL	HTB	備考
sb25	H-250x125x6x9	PL-6	3-M20	
sb40	H-400x200x8x13	PL-9	4-M20	
sP10w	H-100x100x6x8	PL-6	2-M16	BPL-16x300x300(SS400)・A・BOLT 4-M16(L=25d)

大梁継手リスト

- 共通事項 (特記なき限り)
- 高力ボルトは S10T、メッキ部材については メッキボルト F8T とする。

材質	部材メンバー	フランジ継手				ウェブ継手									
		ボルト	SPL-1	SPL-2	L	ボルト	SPL-3	L							
SN400B	H-400x200x8x13	M20	2	6	9	200	9	80	410	M20	1	4	9	260	170

大梁リスト

共通事項 (特記なき限り)

- ガセットプレート (GPL) 材質は、母材と同材質とする。
- 鉄骨材質は、SN400B とする。
- 高力ボルトは、S10T とする。

符号	G21	G22	CG21			
R階	全断面	H-400x200x8x13	全断面	H-400x200x8x13	全断面	H-200x100x5.5x8

符号	G31	G32		
R階	全断面	H-400x200x8x13	全断面	H-400x200x8x13

地盤改良 (深層混合処理工法) 地業工事特記仕様書

- 工法概要
 

本事業は、スラリー状の固化材を地盤に注入しながら供回り防止装置を装着した攪はん装置を用いて原地盤と機械的に混合攪はんし、固化材の化学反応により所要の強度を有する改良体を築造するものである。
- 一般事項
 

(1) 本仕様書に特記のない事項は、公共建築工事標準仕様書 (平成 31年版) によるほか、「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針: 日本建築センター」2018年版 (以下、センター指針) による。
- 固化材の配合及び使用量
 

(1) 改良体の設計基準強度  $F_c = 1400 \text{ kN/m}^2$  以上

(2) 掘削深度 (改良+空掘長) は図示により、改良率 78.6 % 程度とする。

(3) 固化材は、セメント系固化材としメーカーの仕様によるものとする。

(4) 固化材スラリーの配合 設計用固化材添加量  $C_0 = 300 \text{ kg/m}^3$   
 設計用スラリー濃度  $W/C = 100 \%$

(5) 施工に先立ち室内配合試験計画書及び施工計画書を作成する。計画書に基づき当該地盤土を採取し、室内配合試験を行った結果により上記配合を決定する。尚、配合試験に使用する固化材は、セメント系固化材とする。

また、供試体材齢は 7日及び 28日とする。

(6) 特殊な地盤や施工実績の少ない施工機械・施工方法を使用する場合は、試験施工を行ない、その施工性の調査、改良体の強度等の確認をする。

(7) 施工について疑義が生じた場合は、直ちに監理者・設計者と協議する。
- 品質管理
 

(1) 支持層は攪はん装置の電流計の値や攪はん効率などの施工データを確認する。

(2) 本工事施工終了後にコア抜き供試体を採取し、JIS A 1216 による一軸圧縮試験 (材齢 28日) 及び六価クロム溶出試験を実施する。

① コア抜き供試体の採取方法は改良コラム 100本を1単位 (端数切り上げ) として、1単位毎に1箇所とする。

② コア抜き供試体の本数は、採取位置毎に3体とし、採取位置はコラム頭部及び想定地質毎に深さ方向のコア抜きを行なう。(地層・深度については、下表による。)

採取番号	深度	地層	備考
1	設計GL-1.6~9.2m	埋土、砂層	各深度よりまんべんなく採取する

③ 一軸圧縮強さが「センター指針」2編 6章 6.2検査方法 検査手法 A を満たす事を確認する。

(3) 六価クロム溶出試験は「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領 (案)」を適用する。

(4) コア抜き後の穴埋めは、設計基準強度以上の改良土等により行なう。
- 報告書
 

工事完了後、次の項目についてまとめ監理者に提出し、確認を受ける。

(1) 施工日、時間、混合状況及び締め固め状況

(2) 改良範囲、改良厚さ、仕上がり厚さ

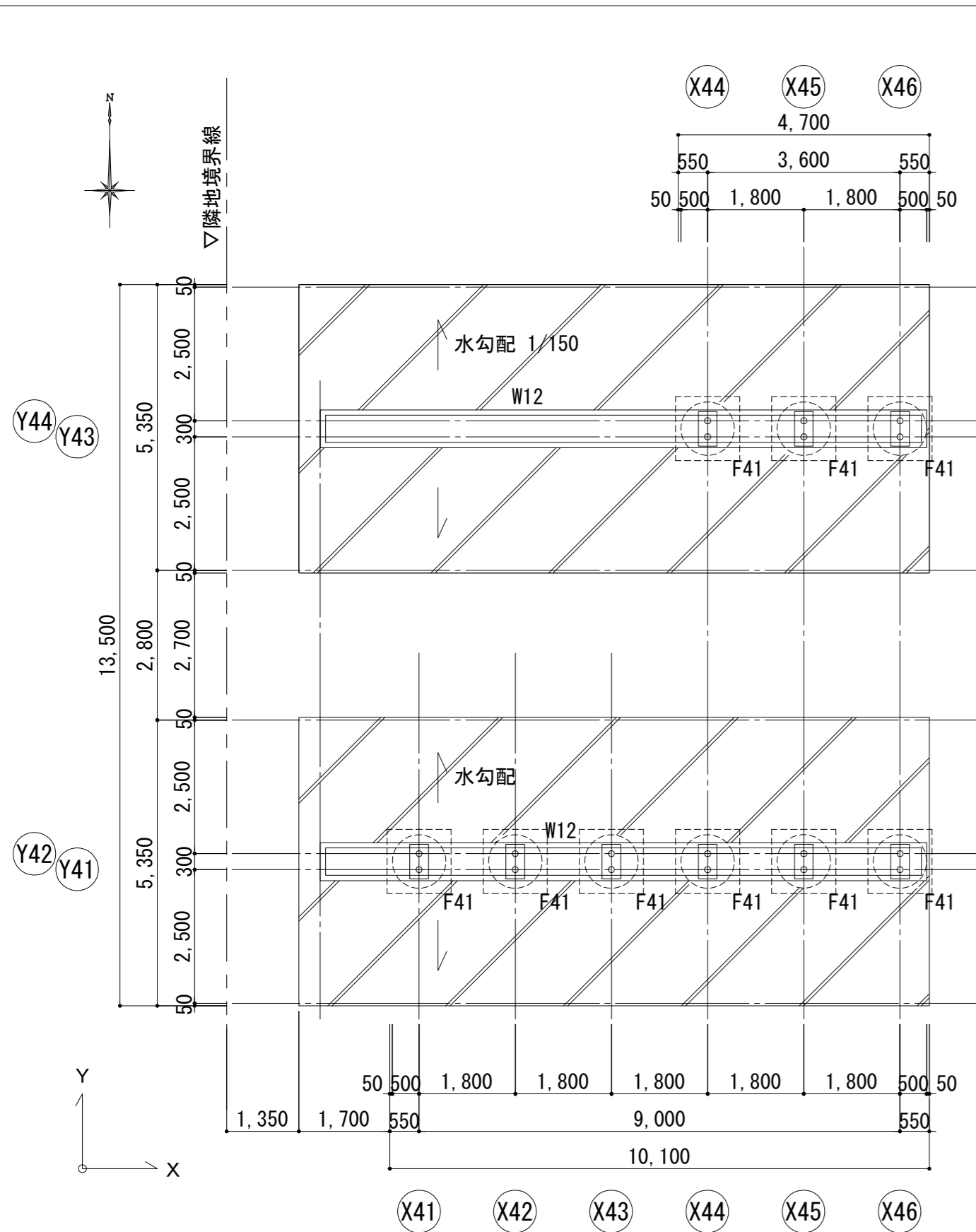
(3) 固化材の配合と固化材使用量

(4) コアの強度試験結果・支持層確認結果・六価クロム溶出試験結果

(5) 工事写真

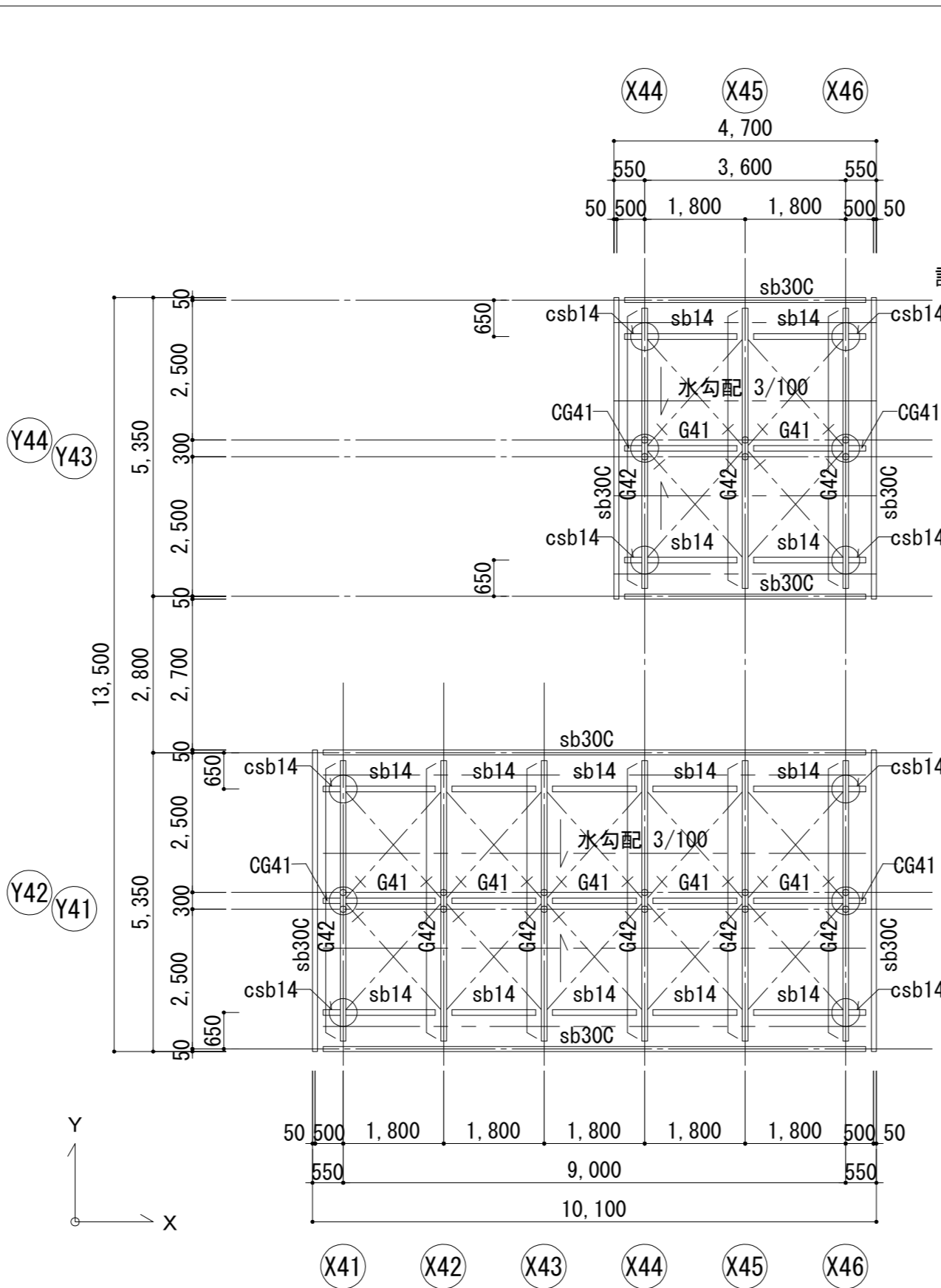
(6) その他施工報告 (監理者・設計者からの指示等)

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	<b>B</b> <b>78</b>	<b>建築工事</b> <b>車庫棟 鉄骨詳細図</b>	A1 1:30 A3 1:60
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造設計一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	<b>安井建築設計事務所</b>		最終版 見積版 最終契約版



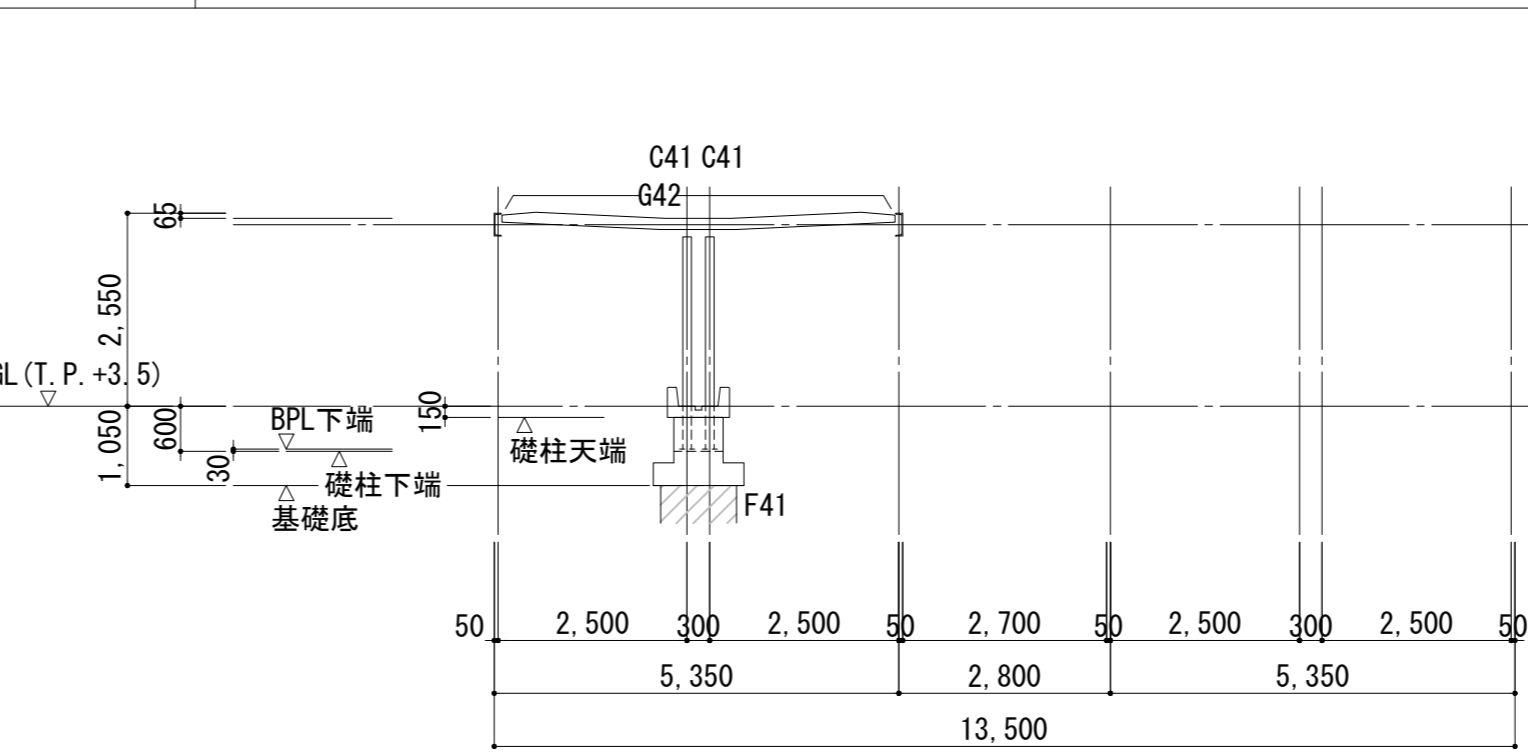
基礎伏図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 設計GL=T.P.+3.5mとする。
  - 柱芯=通り芯とする。
  - 基礎底は 設計GL-1050とする。
  - 印は 土間コンクリートを示し、スラブ天端を設計GL+150とする。
  - 柱符号は C41とする。
  - 印は地盤改良を示し、地盤改良底 = 設計GL-9320とする。



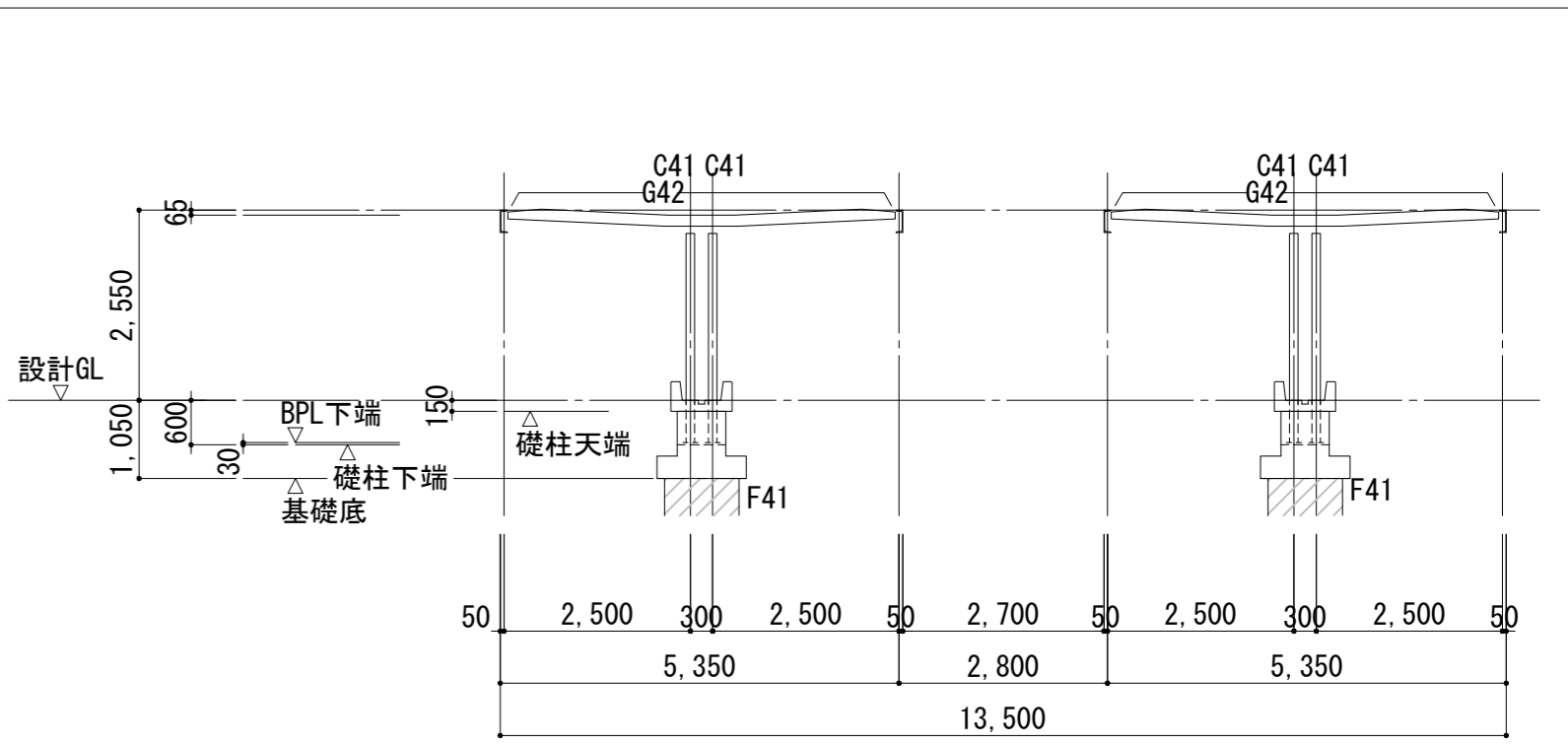
屋根伏図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 梁天端は 詳細図および水勾配による。
  - 印は 梁剛接合を示す。
  - 印は 水平ブレース (HV1)を示す。
  - は ターンバックル位置を示す。
  - は 折版受けL-50x50x5@1400を示す。
  - CG41, G42, csb14はテーバー加工とする。



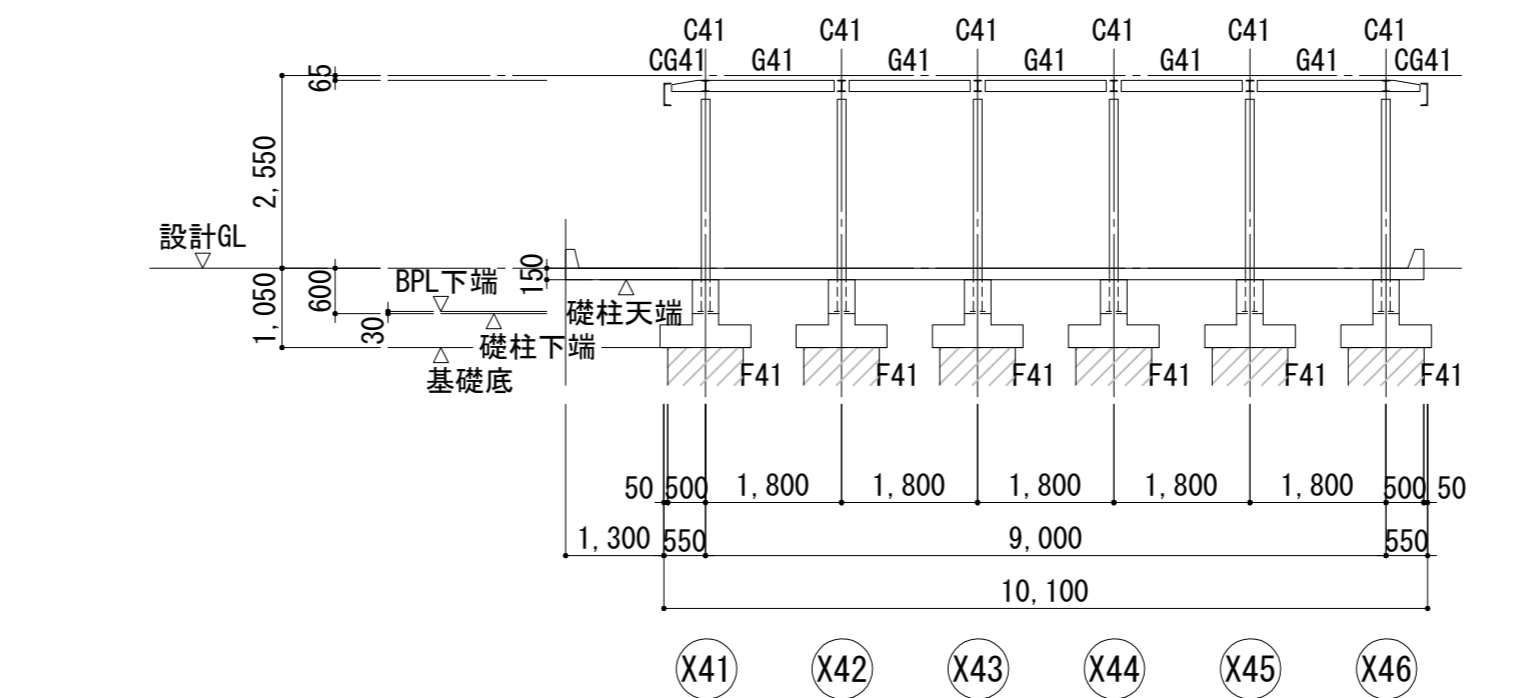
X41~X43通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-600とする。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキとする。



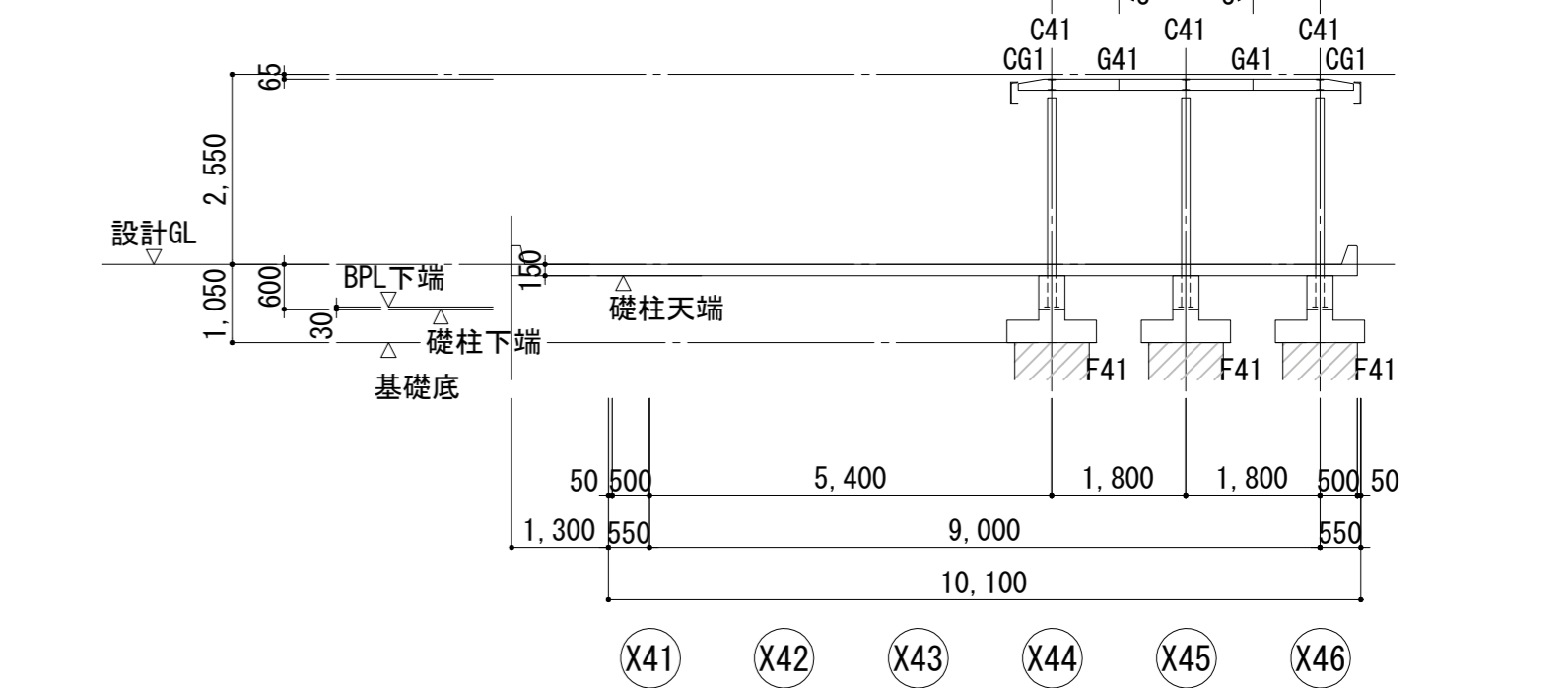
X44~X46通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-600とする。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキとする。



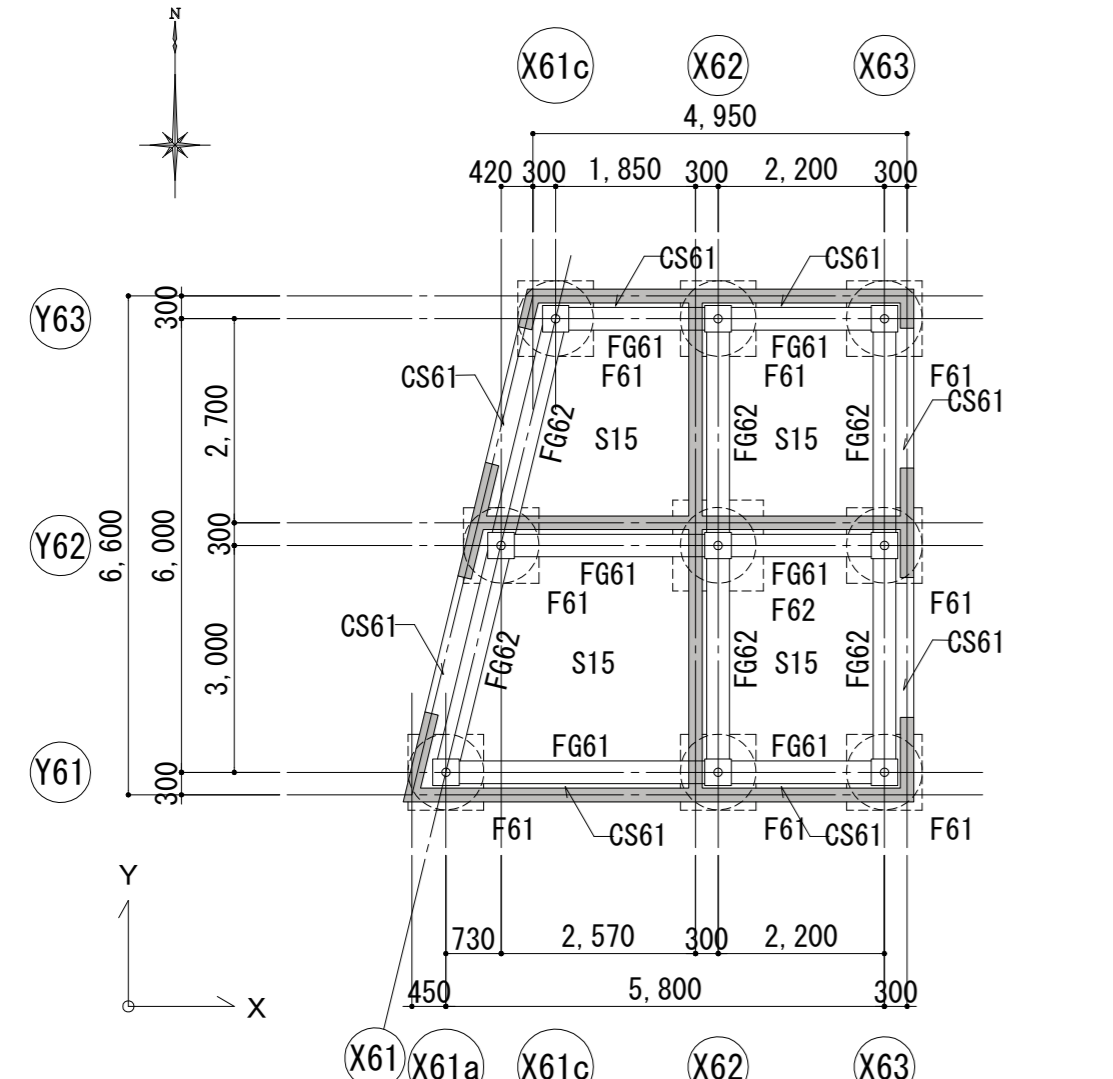
Y41・Y42通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-600とする。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキとする。



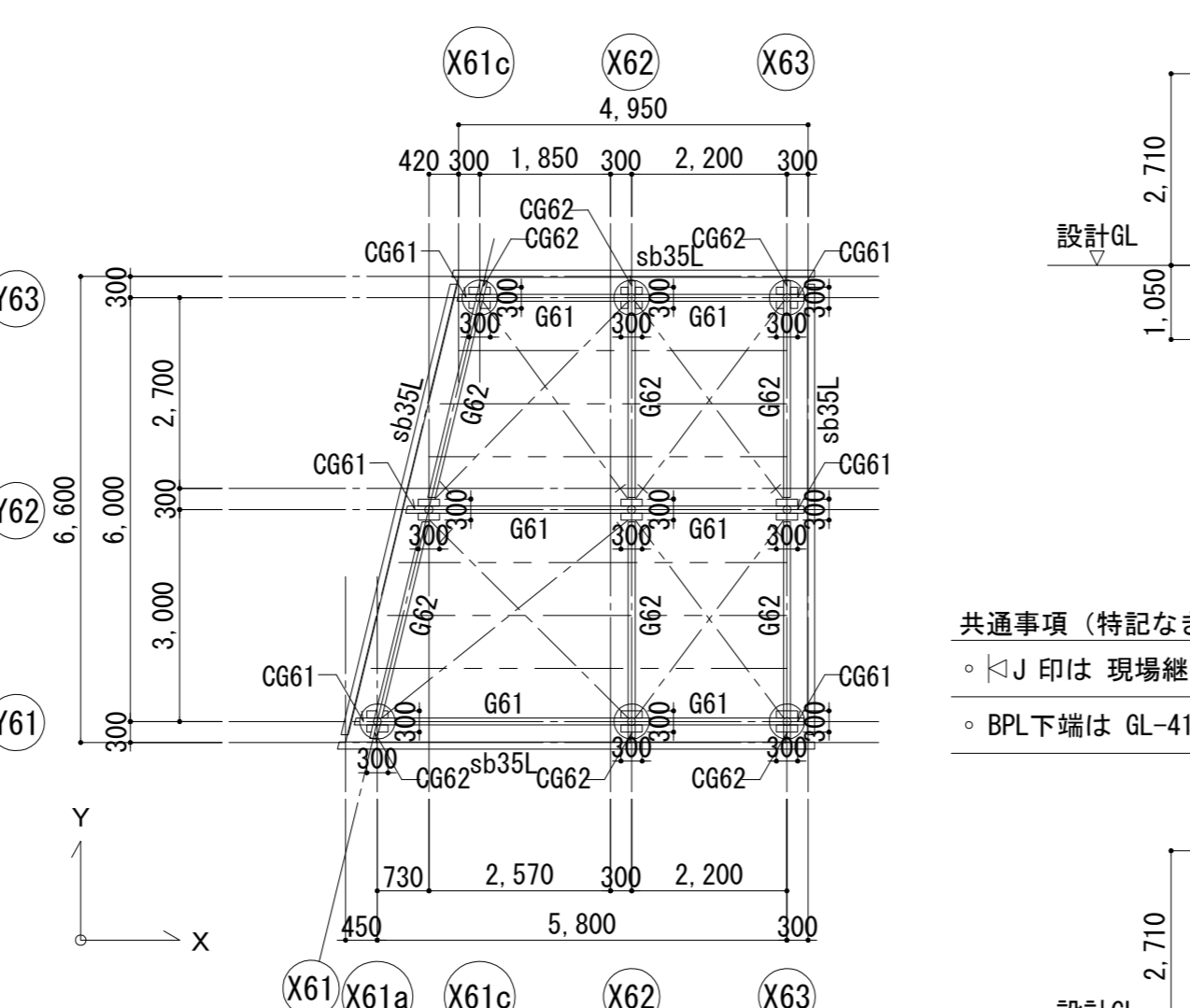
Y43・Y44通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-600とする。
  - 屋外露出部分は溶融亜鉛アルミ合金メッキとする。



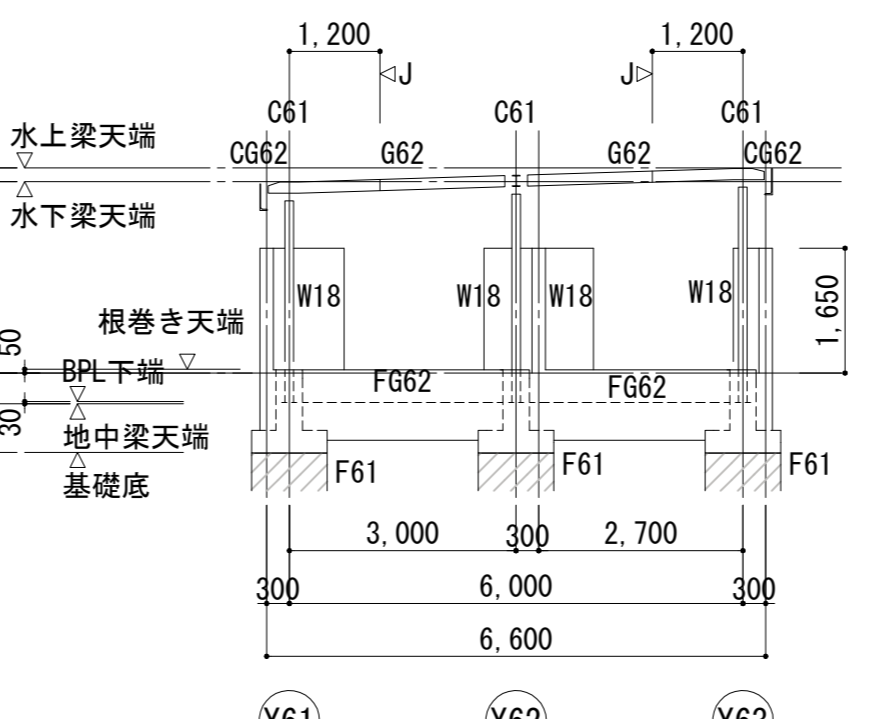
基礎伏図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 設計GL=T.P.+3.5mとする。
  - IFLは 設計GL+50とする。
  - 基礎底は 設計GL-1050とする。
  - 地中梁天端は 設計GL-410とする。
  - 地盤改良底 = 設計GL-9320とする。
  - 柱符号は C62とする。
  - 壁符号は W18とする。
  - 柱芯=通り芯とする。
  - スラブ天端は IFL±0とする。



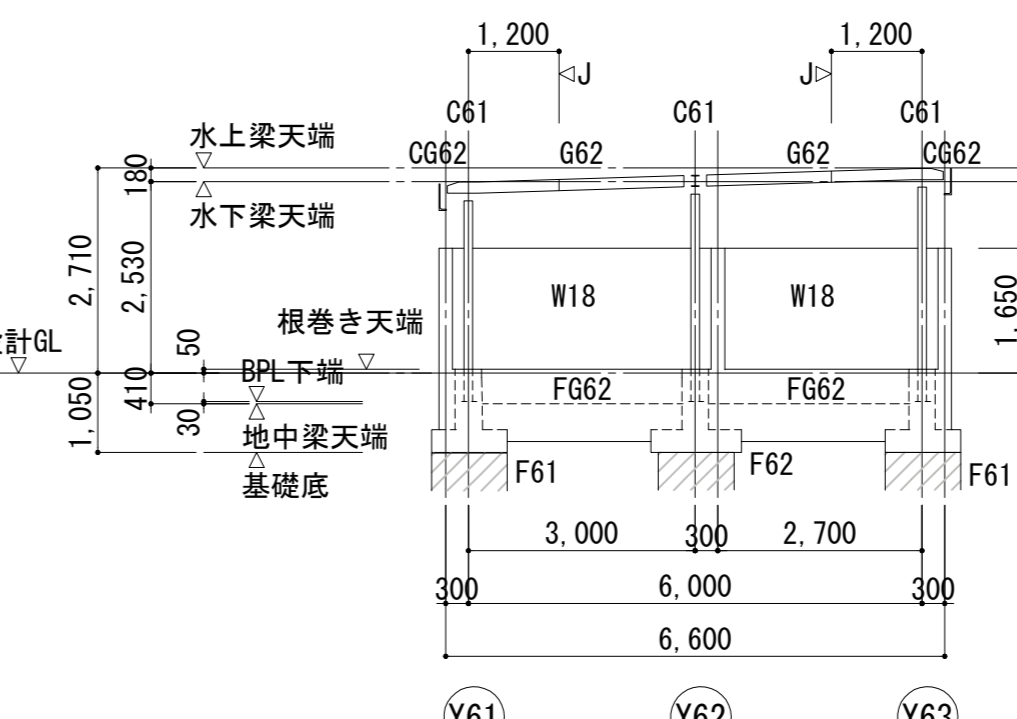
屋根伏図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 梁天端は 詳細図および水勾配による。
  - 大梁の継手位置は 柱芯より 1200とする。
  - 印は 水平ブレース (HV1)を示す。
  - は ターンバックル位置を示す。
  - は 折版受けL-100x50x5@750を示す。
  - CG61, CG62はテーバー加工とする。



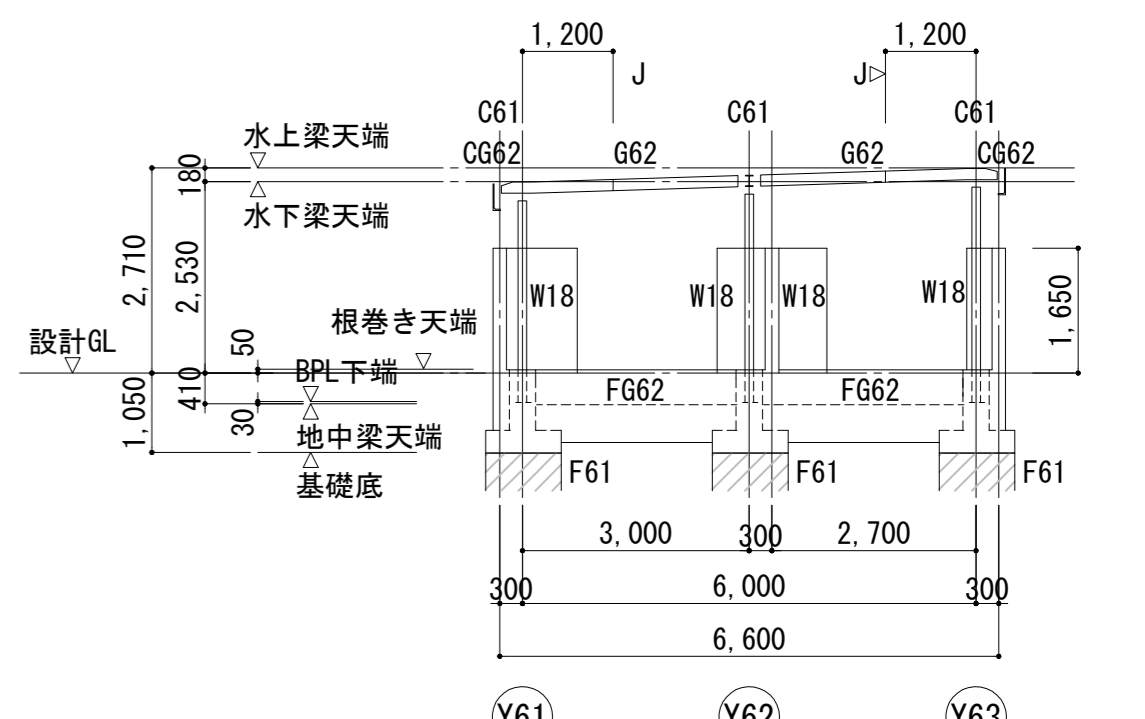
X61通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-410とする。



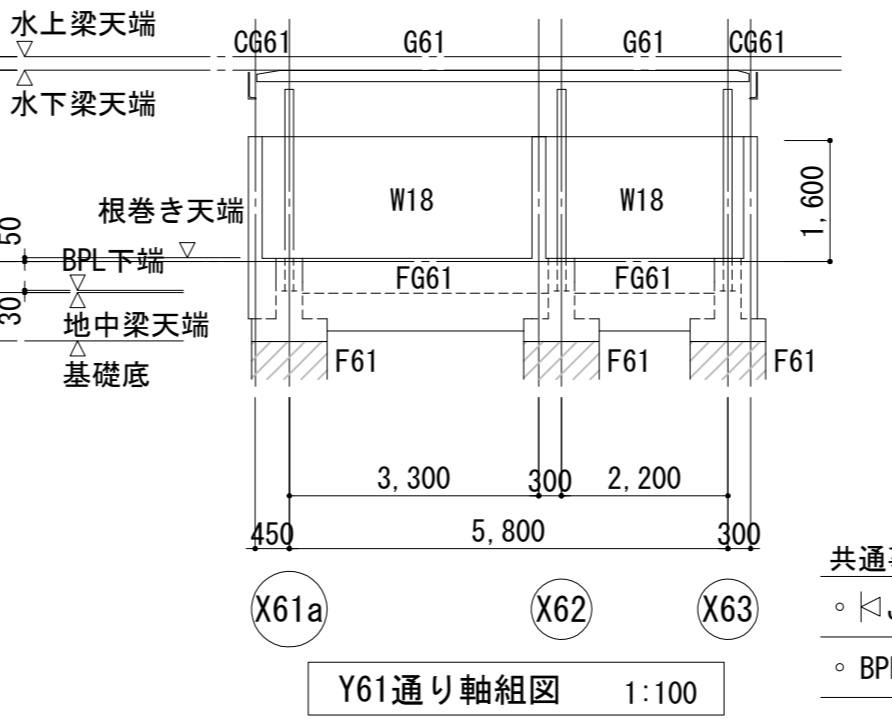
X62通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-410とする。



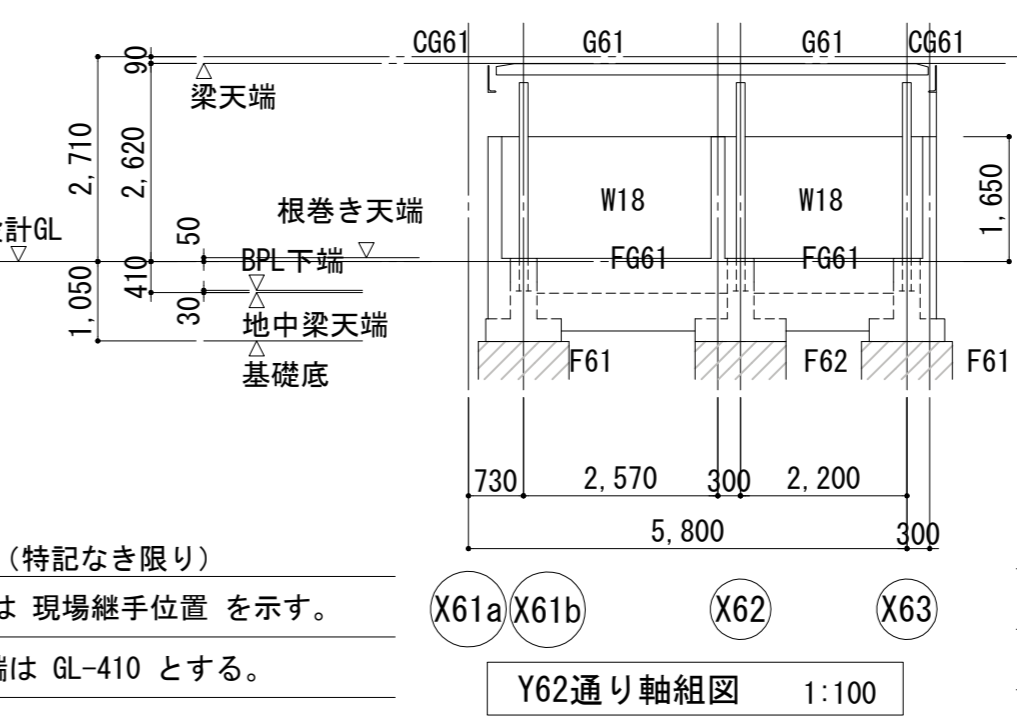
X63通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-410とする。



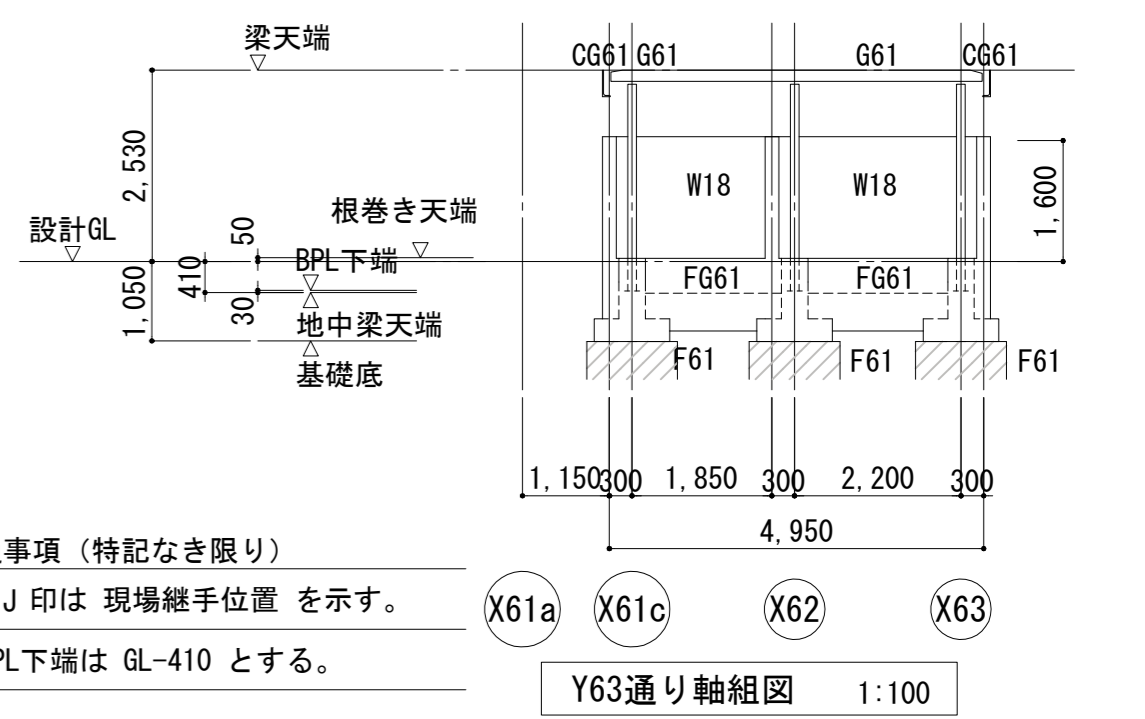
Y61通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-410とする。



Y62通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-410とする。



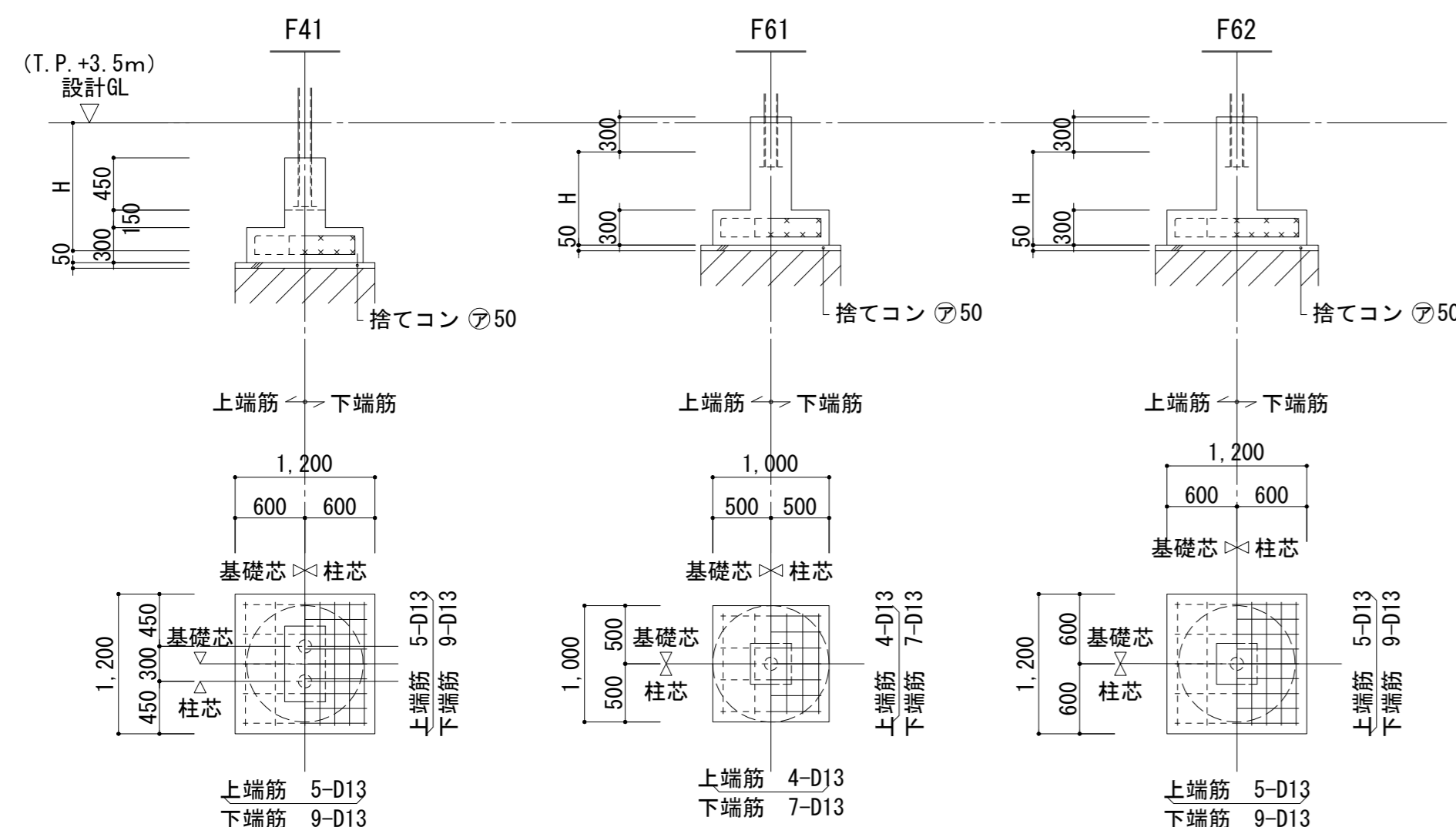
Y63通り軸組図 1:100

- 共通事項 (特記なき限り)
- 印は 現場継手位置を示す。
  - BPL下端は GL-410とする。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	B	<b>建築工事</b>	最終版 2024.3.25
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	79	伏図・軸組図 (公用・職員駐輪場、ゴミ庫)	A1 1:100 A3 1:200 見積版 2024.3.25
		<b>安井建築設計事務所</b>	最終契約版

基礎リスト 1:50

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・基礎深さHは基礎伏図による。  
 ・基礎下地業は捨コンクリート ㊦50とする。



地中梁リスト 1:50

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・梁下地業は捨コンクリート ㊦50、砕石 ㊦60とする。  
 ・FG61梁主筋は、先組鉄筋とし、FG62梁主筋は後組鉄筋とする。

符号	FG61, FG62
位置	全断面
断面	
上端筋	3-D19
下端筋	3-D19
スタラップ	□-D10@200
腹筋	-
備考	定着長さLa = 310

壁リスト 1:50

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・巾止筋は、タテヨコ共D10@1000以下とする。

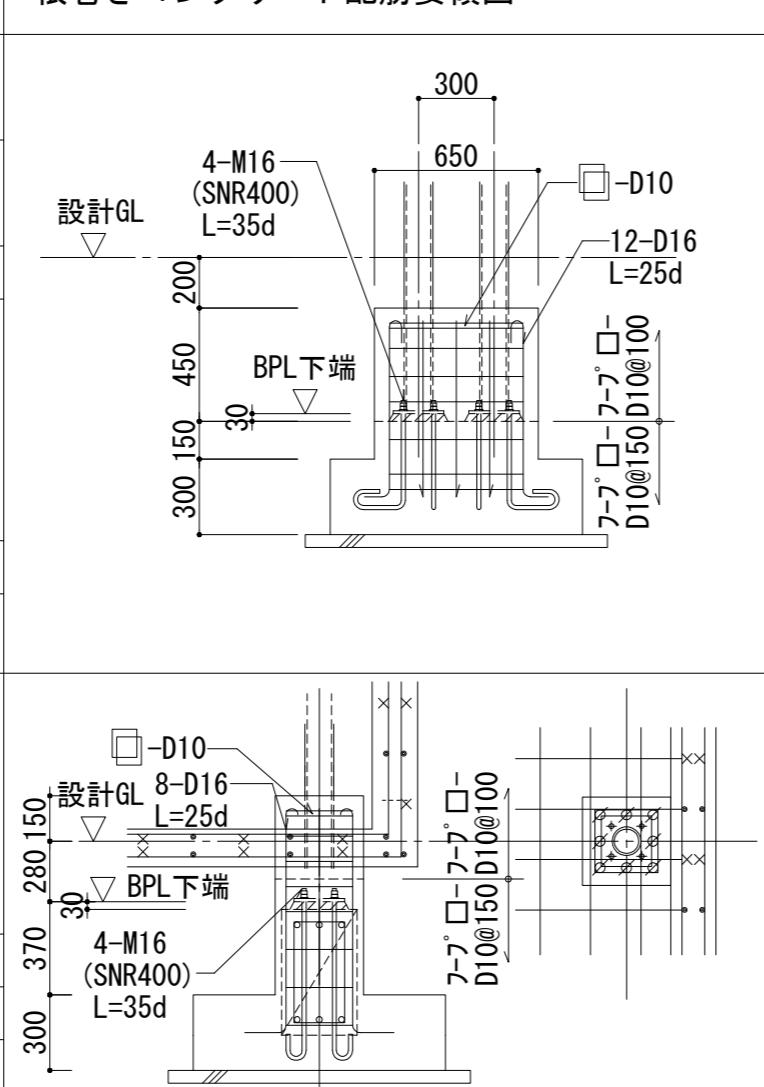
符号	W18	W12
壁厚 (mm)	180	120
断面 (鉛直断面)		
縦筋	D10・D13@200ダブル	D10@200シングル
横筋	D10・D13@200ダブル	D13@200シングル
備考		

柱リスト 1:50

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・鉄骨材質は STK400 とする。  
 ・屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。  
 ・通しダイヤフラム材質は SN400C とする。

符号	C41	C61
1階	○-114.3x6.0	○-114.3x6.0
備考		
柱脚形状型名	根巻き柱脚	根巻き柱脚
形状		
ベースプレート	PL-12x200x200 (SN400C)	PL-12x200x200 (SN400C)
アンカーボルト	4-M16 (SNR400) (ℓ=35d, 二重ナット締め)	4-M16 (SNR400) (ℓ=35d, 二重ナット締め)
礎柱		
主筋	12-D16	8-D16
フープ	□-D10@100	□-D10@100
備考		

根巻きコンクリート配筋要領図 1:30



床版リスト

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・直押え部分はスラブ天端増打 ㊦10とする。  
 ・土に接するスラブ下地業は捨コンクリート ㊦50、砕石 ㊦60とする。

符号	版厚 (mm)	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S15	150	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
CS1	150	上端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下端筋	D10・D13 @200	D10・D13 @200	

大梁リスト

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・鉄骨材質は SN400B とする。  
 ・ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。  
 ・高力ボルトは S10T、メッキ部材については 溶融亜鉛メッキボルト F8T (大臣認定品) とする。  
 ・屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。

符号	G41		G42		G61		G62		CG1, CG2, CB2	
R階	全断面	H-148x100x6x9	全断面	H-148x100x6x9	全断面	H-148x100x6x9	全断面	H-148x100x6x9	全断面	H-148x100x6x9
備考									Y62端ピン接合 GPL-6 2-M16 (F8T)	

鉄骨部材リスト

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・鉄骨材質は SN400A とする。  
 ・ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。  
 ・高力ボルトは S10T、メッキ部材については 溶融亜鉛メッキボルト F8T (大臣認定品) とする。  
 ・屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。

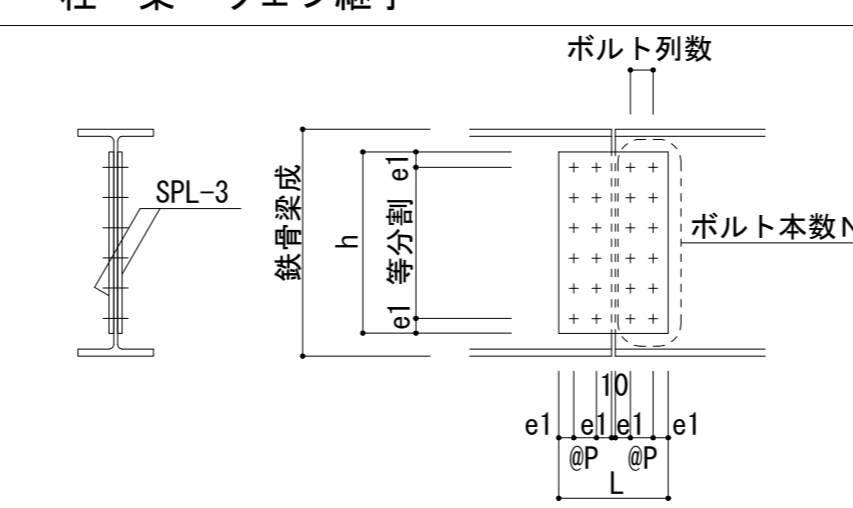
符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート (GPL)	スプライスプレート (2-SPL)	備考
sb30C	□-300x90x9x13	2-M16	PL-6		
sb35L	□-350x100x12x17	2-M16	PL-6		
sb14	H-148x100x6x9	2-M16	PL-6		
csb14	H-148x100x6x9	-	-		剛接合
HV1	1-M16 (ターンバックル付き)	1-M16	PL-9		水平ブレース

鉄骨梁継手リスト (フランジ・ウェブ)

- 共通事項（特記なき限り）  
 ・スプライスプレートは 母材と同材質 とする。  
 ・高力ボルトは S10T、メッキ部材については 溶融亜鉛メッキボルト F8T (大臣認定品) とする。  
 ・ファイラープレートは SS400 とする。  
 ・高力ボルトは S10T、メッキ部材については 溶融亜鉛メッキボルト F8T (大臣認定品) とする。  
 ・屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。

材質	部材メンバー (中央断面)	フランジ継手				ウェブ継手				備考					
		ボルト	SPL-1	SPL-2	L	ボルト	SPL-3	L							
SN400B	H-148x100x6x9	M16	2	6	16	100	-	410	M16	2	2	6	80	290	F8T

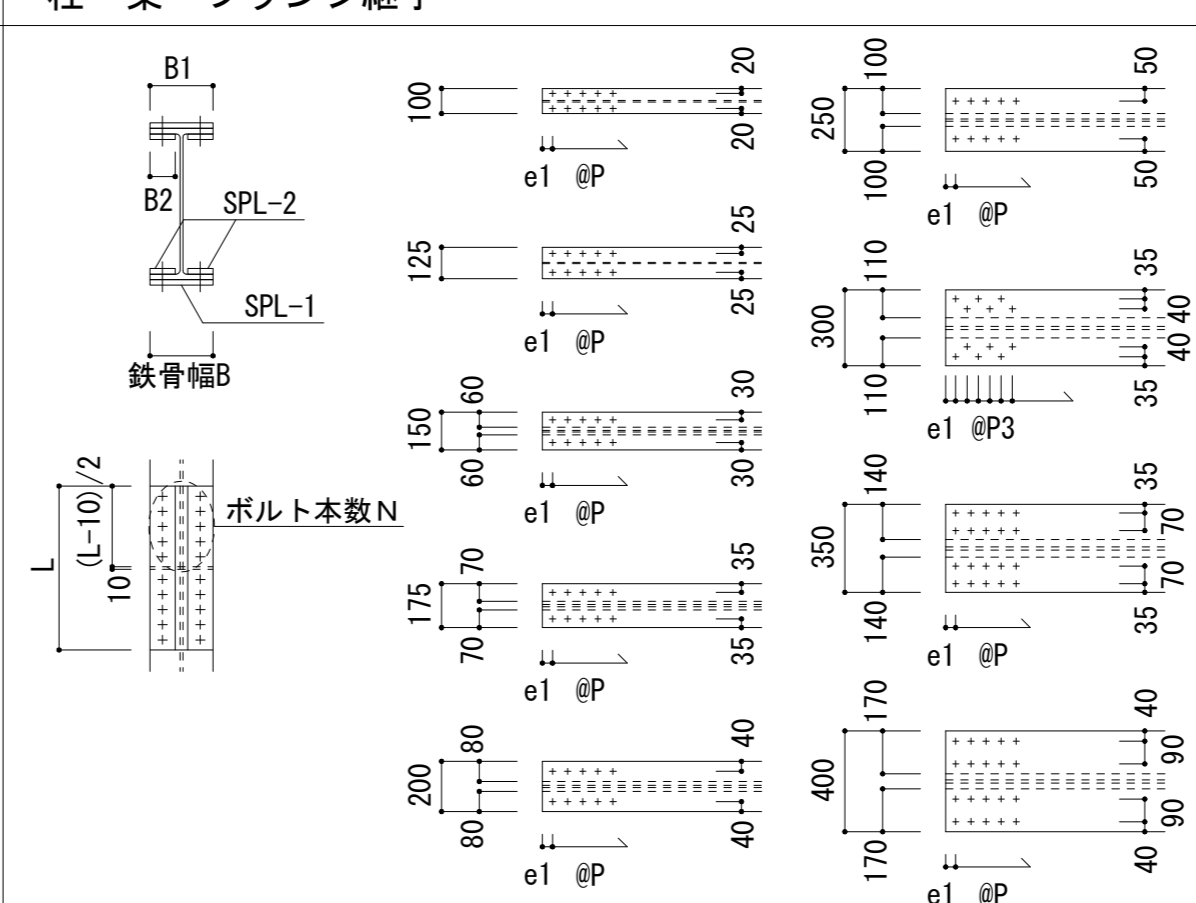
柱・梁 ウェブ継手



柱・梁・フランジ・ウェブ 共通

	e1	P	P3
M16	40	60	45
M20	40	60	45
M22	40	60	45

柱・梁 フランジ継手

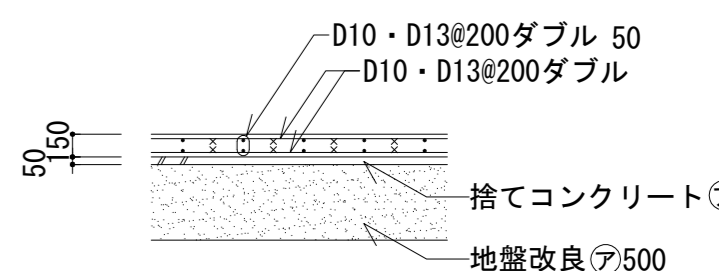


地盤改良 (深層混合処理工法)

- ・地業は車庫棟と同等の仕様とする。

土間コンクリート配筋図 1:50

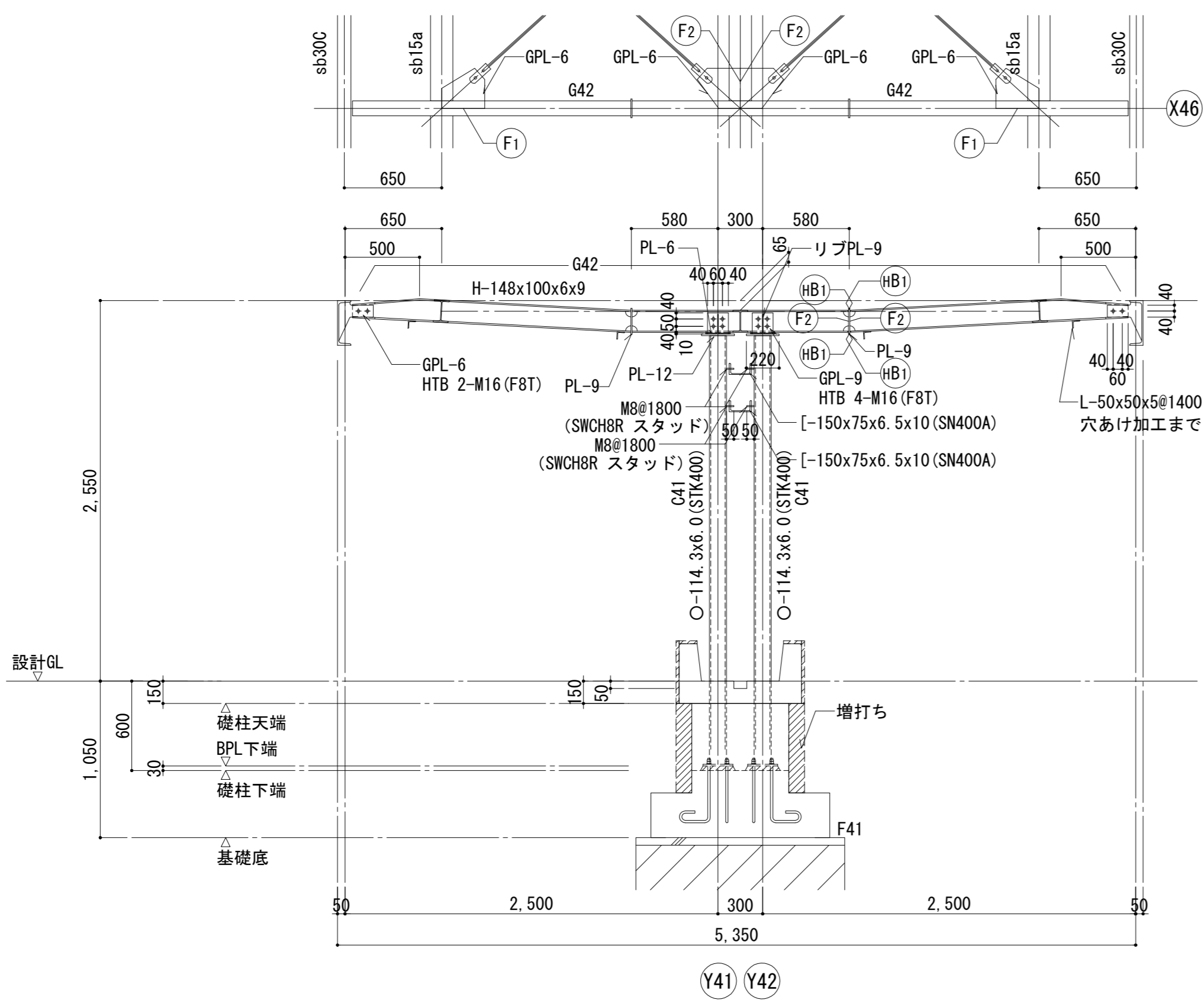
- 共通事項（特記なき限り）  
 ・Fc24 (S=15) とする。  
 ・構造スラブと接する箇所は目地 (意匠図参照) を設けること。  
 ・境界部にはズレ止め筋 D13@400 を配置する。



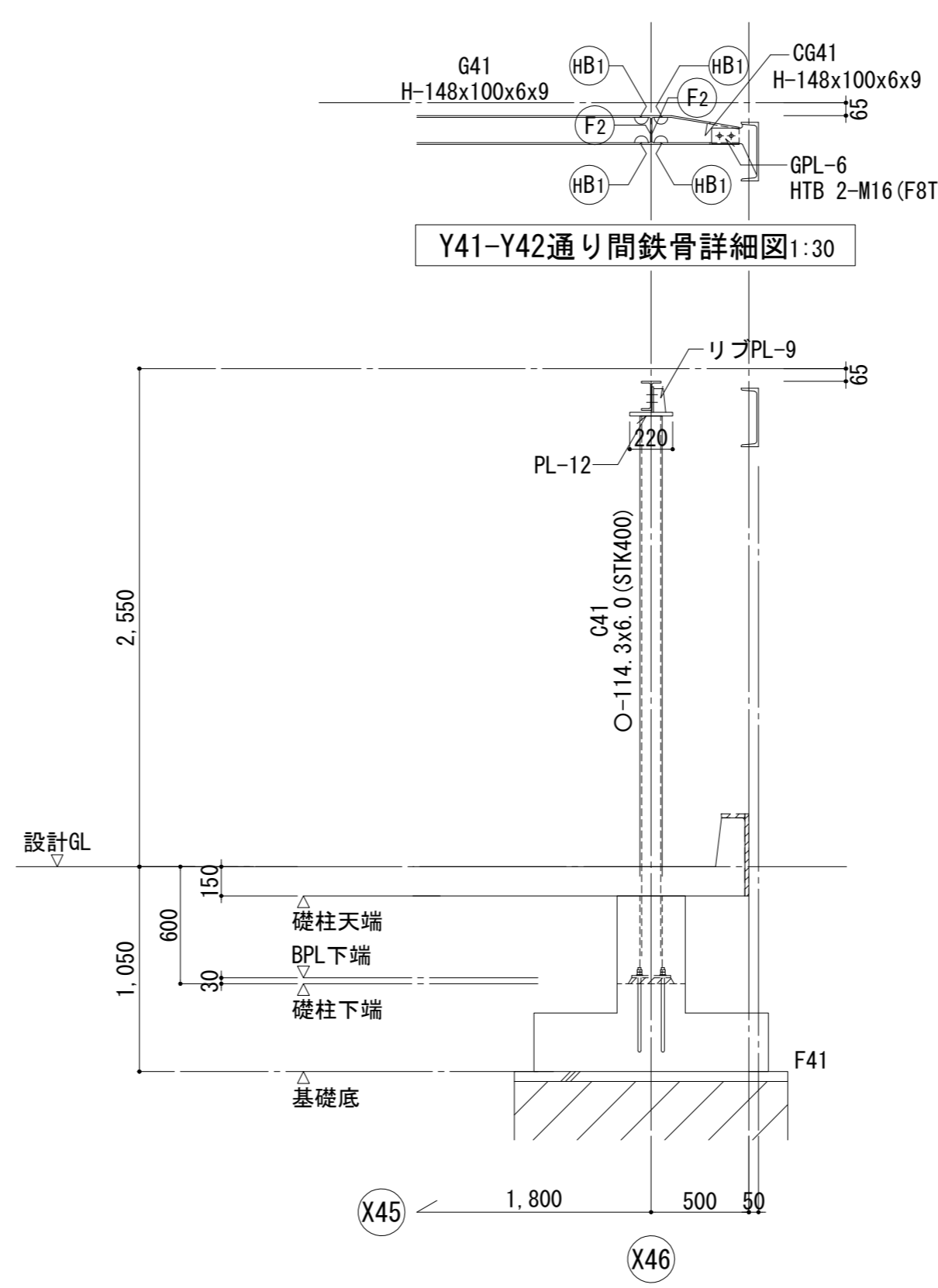
土間コンクリート下の地盤改良仕様

- ・改良強度 100kN/m<sup>2</sup>
- ・セメント系固着材混入量 60kg/m<sup>3</sup> 以上
- ・管理試験 地盤改良施工前に現位置での土質サンプルを採取し、施工前試験を実施し、予定の配合により所定の強度が発現することを確認すること。また、施工中に現場供試体を作成し、1週強度試験を行うこと。

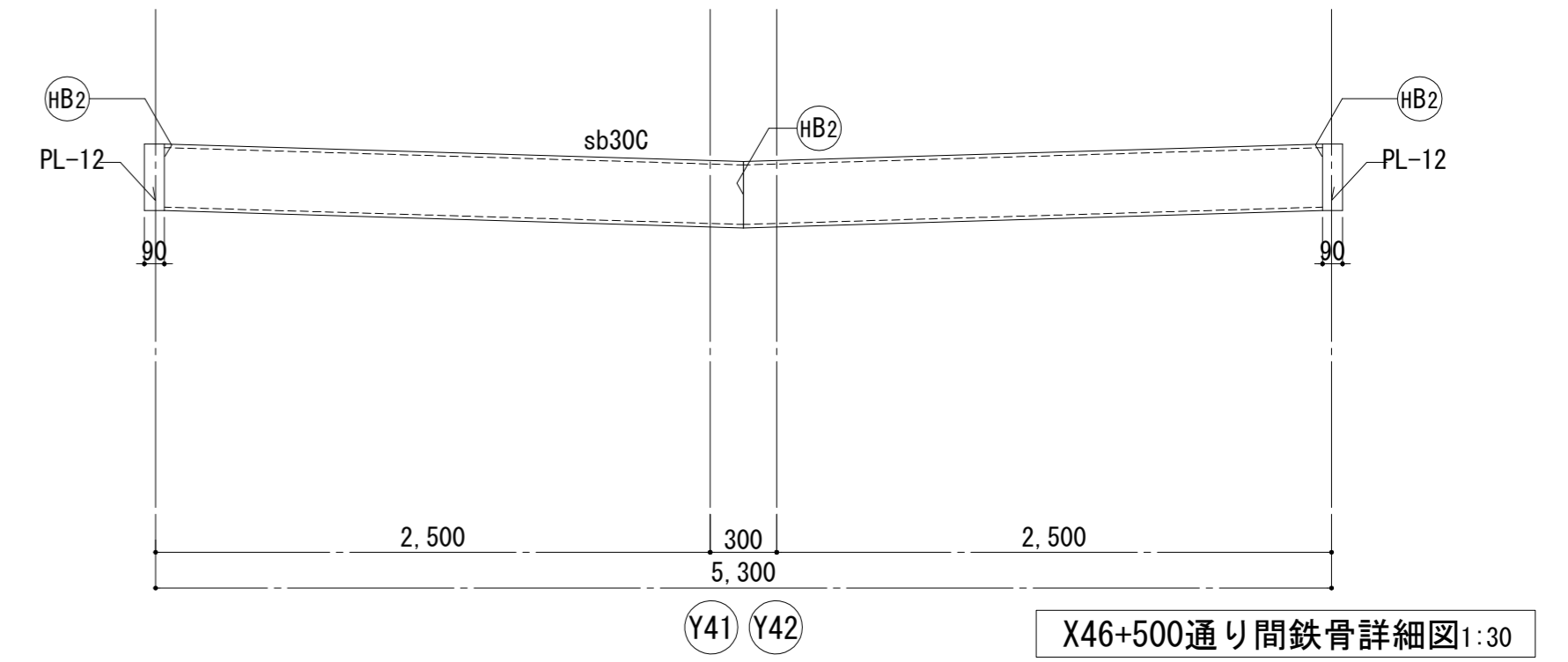
明石市政策局 企画・調整室		明石市役所新庁舎建設工事	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 南浦 琢磨	B	建築工事 (公用・職員駐輪場、ゴミ庫)	最終版 2024.3.25
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 田中 智	80	部材リスト (公用・職員駐輪場、ゴミ庫) A1 1:50 A3 1:100	最終版 2024.3.25
安井建築設計事務所			最終契約版



X46通り鉄骨詳細図 1:30

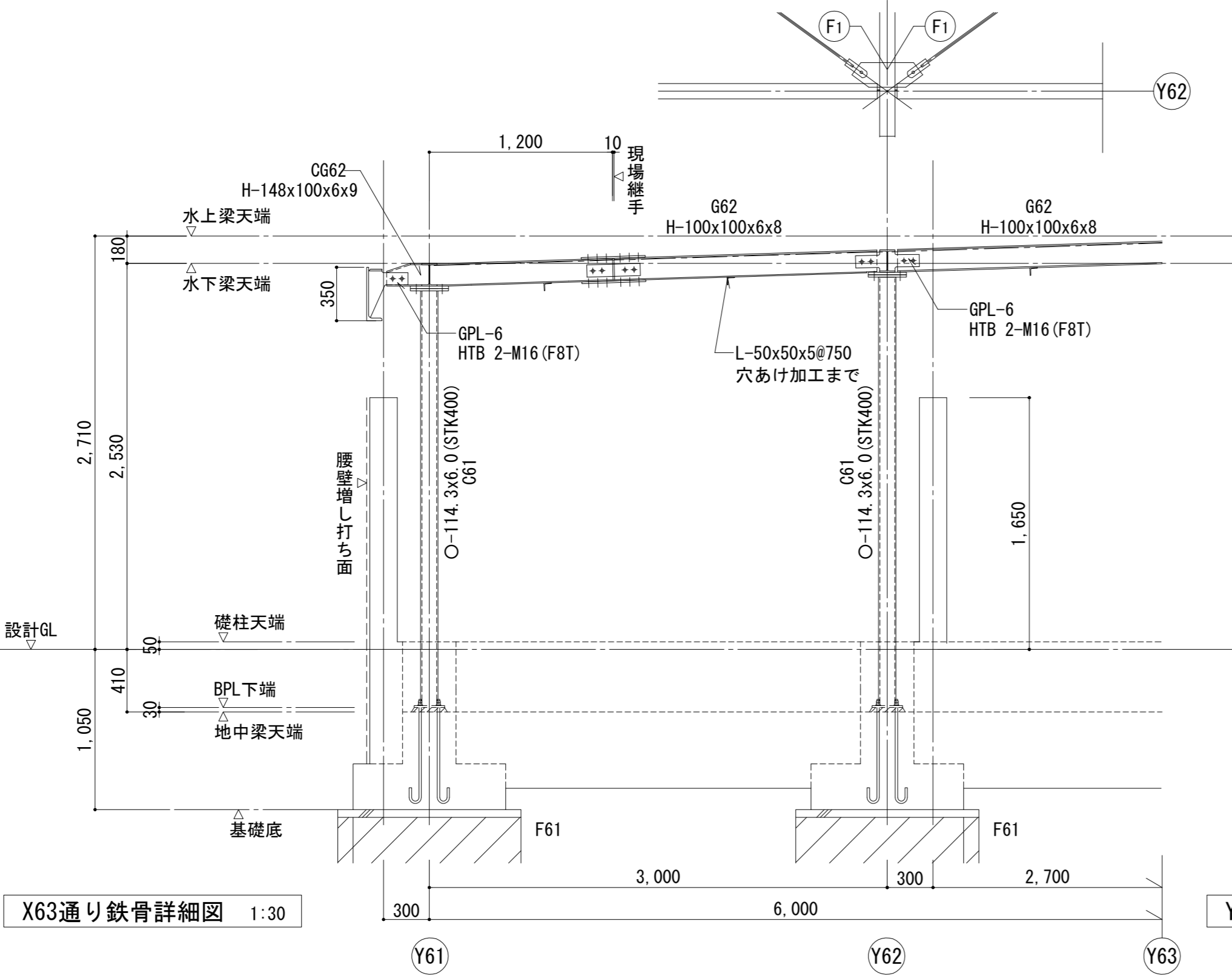


Y41通り鉄骨詳細図 1:30

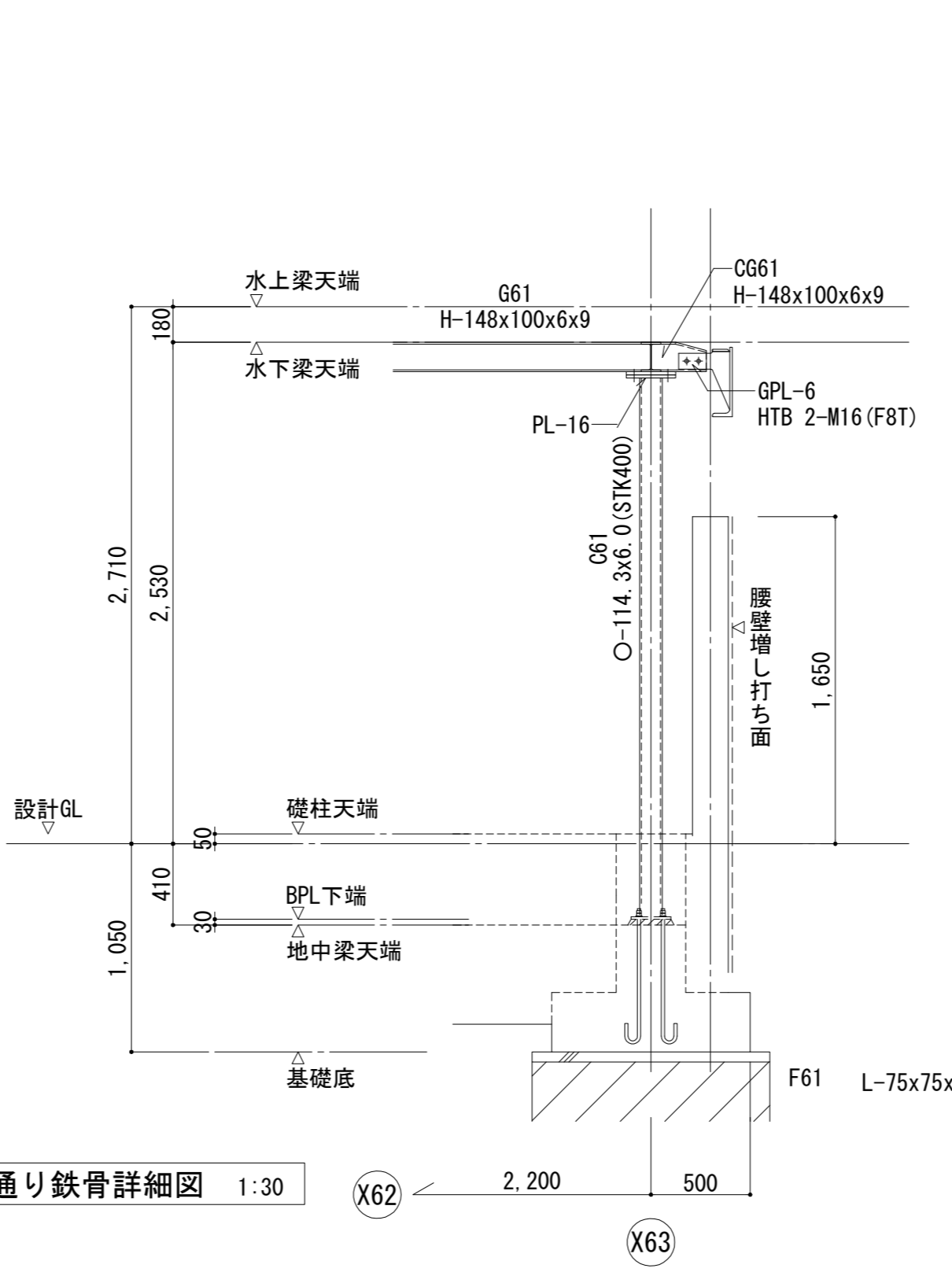


X46+500通り鉄骨詳細図 1:30

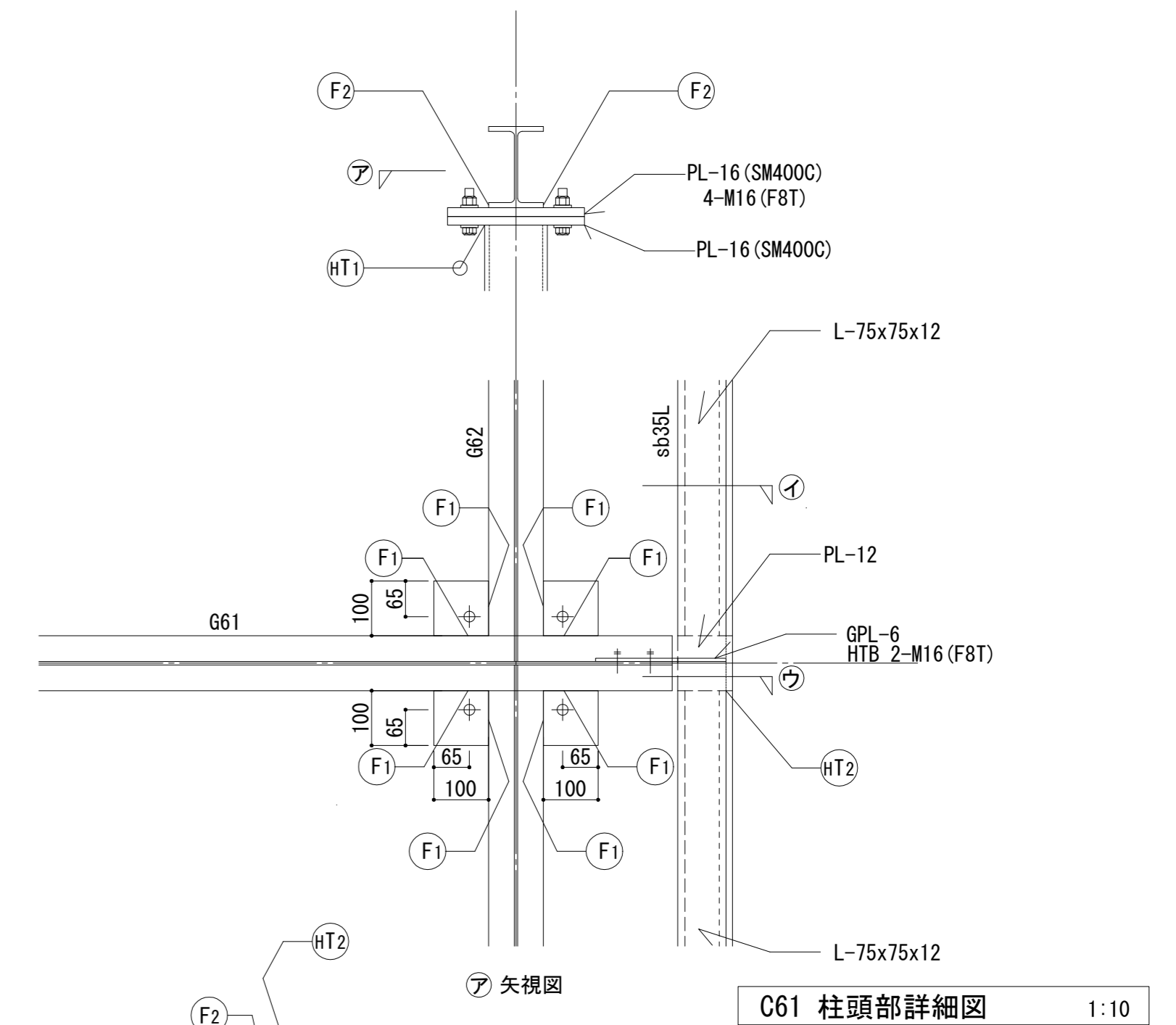
- 溶接部の余盛りはグラインダー処理により表面を平滑にすること。
  - X41-500通り間も同様の詳細とする。
- 
- C41 柱頭部詳細図 1:10
- ダイアフラムと柱はメッキ後に溶接するものとし、不メッキ処理部は溶接後常温メッキ加工を施すこと。
  - メッキ浸透部の孔については鉄骨製作要領書において協議すること。



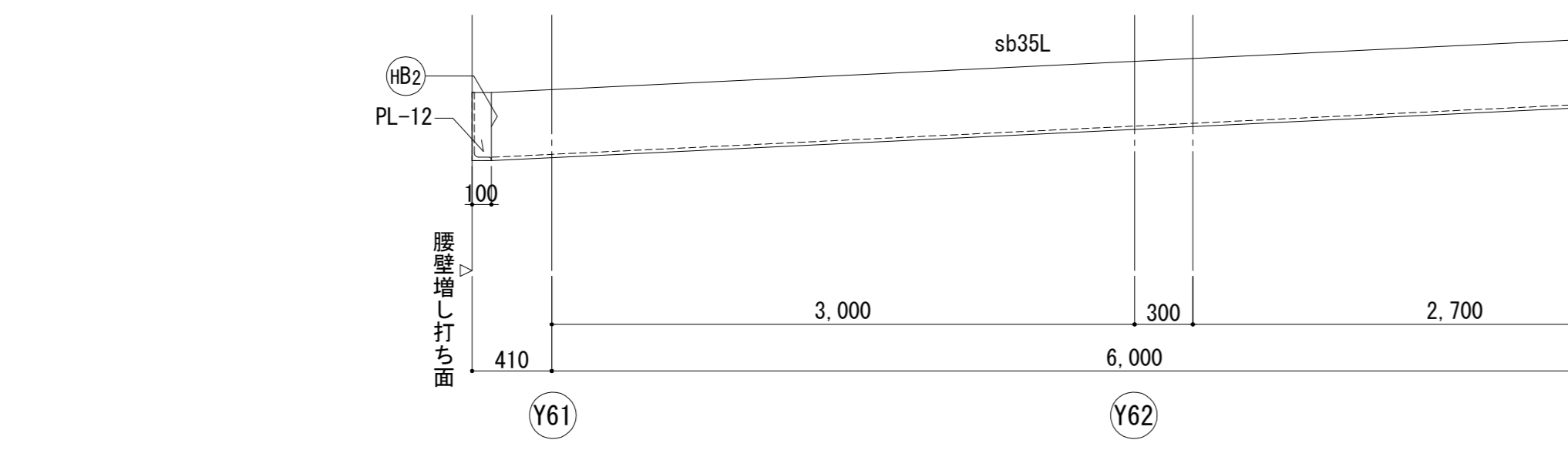
X63通り鉄骨詳細図 1:30



Y61通り鉄骨詳細図 1:30



C61 柱頭部詳細図 1:10



X63+300通り鉄骨詳細図 1:30

- 溶接部の余盛りはグラインダー処理により表面を平滑にすること。
- X61-300通り間も同様の詳細とする。

- 共通事項 (特記なき限り)
- 鉄骨材質は SN400A とする。
  - ガセットプレート (GPL) 材質は 母材と同材質 とする。
  - 高力ボルトは S10T、溶融亜鉛メッキボルトは F8T (大臣認定品) とする。
  - 屋外露出となる部材は、溶融亜鉛アルミ合金メッキを施すものとする。
  - アンカーボルト (A・B) は SNR400 とする。
  - 印は水平プレース (V1) を示す。
  - メッキ浸透部の孔については鉄骨製作要領書において協議すること。

<b>明石市政策局 企画・調整室</b>		<b>明石市役所新庁舎建設工事</b>	
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第270990号 <b>南浦 琢磨</b>	B 建築工事	最終版 2024.3.25	
<構造一級建築士> 一級建築士 国土交通大臣登録 第291941号 構造一級建築士 国土交通大臣登録 第1142号 <b>田中 智</b>	81 鉄骨詳細図 (公用・職員駐輪場、ゴミ庫)	A1 1:30 A3 1:60 最終版 2024.3.25	
<b>安井建築設計事務所</b>		最終契約版	